茨城県教育財団文化財調査報告第454集

つくば市

島名本田遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXVⅢ

上　巻

令和３年１月

茨　　城　　県
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第454集
島名本田遺跡　上巻
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第454集

つくば市

島名本田遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXVⅢ

上　巻

令和３年１月

茨　　城　　県
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は，国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として，昭和 52 年に調査課が設置されて以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度，茨城県による島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴って実施した，つくば市島名本田遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって，古墳時代から江戸時代にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡が多数確認でき，集落跡の一端が明らかになりました。本書が，歴史研究の学術資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から本書の刊行に至るまで，多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県に対して厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，御指導，御協力をいただきました関係各位に対し，心から感謝申し上げます。

令和３年 １月

公益財団法人茨城県教育財団

理 事 長　柴 原 宏 一

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，公益財団法人茨城県教育財団が平成 27・28 年度に発掘調査を実施した，茨城県つくば市島名字薬師台 1716 番地ほかに所在する島名本田遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成 27 年６月１日～ 10 月 31 日

　　平成 28 年６月１日～平成 29 年３月 31 日

整理　平成 31 年４月１日～令和 ２ 年３月 31 日，令和２年５月１日～６月 30 日

3　発掘調査は，副参事兼調査課長白田正子のもと，以下の者が担当した。

平成 27 年度

首席調査員兼班長	駒澤悦郎	平成 27 年６月１日～ 10 月 31 日
次 席 調 査 員	長洲正博	平成 27 年６月１日～ 10 月 31 日
調　　査　　員	天野早苗	平成 27 年６月１日～ ８ 月 31 日
	皆川貴之	平成 27 年９月１日～ 10 月 31 日

平成 28 年度

首席調査員兼班長	奥沢哲也	平成 28 年６月１日～平成 29 年３月 31 日
次 席 調 査 員	長洲正博	平成 28 年６月１日～平成 29 年３月 31 日
次 席 調 査 員	塙　厚宣	平成 28 年６月１日～平成 29 年３月 31 日
調　　査　　員	近江屋成陽	平成 28 年６月１日～平成 29 年３月 31 日
	大久保芳紀	平成 28 年６月１日～平成 29 年３月 31 日

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長皆川修，小林和彦のもと，以下の者が担当した。

次 席 調 査 員	江原美奈子	平成 31 年４月１日～令和２年３月 31 日，５月１日～６月 30 日
次 席 調 査 員	内堀　団	平成 31 年４月１日～令和元年５月 31 日
次 席 調 査 員	永井　敦	令和元年 12 月１日～令和２年３月 31 日
調　　査　　員	天野早苗	令和元年 11 月１日～ 11 月 30 日

5　本書の執筆分担は，下記のとおりである。

江原美奈子	第１章～第３章第２節，第３節２(1)～３(2)・(5)～(9)，第４節１・２(1)～(5)，３
内堀　団	第３章第３節３(3)
天野　早苗	第３章第３節１
永井　敦	第３章第３節４，第４節２(6)
パリノ・サーヴェイ株式会社	第３章第３節(4)

6　本書の作成にあたり，鍛冶関連遺物の化学分析，及び鍛冶関連微細遺物の分類・集計，金属製品の保存処理についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に，金属製品の保存処理については株式会社イビソク，及び保存処理のいしかわに委託した。また，石材の一部については，茨城大学名誉教授田切美智雄氏に，中・近世のかわらけについては，つくば市教育局文化財活用係広瀬季一郎氏に御指導いただいた。

7　墓坑から出土した人骨は，結城郡八千代町大字沼森 1130 番地に所在する瑠璃光寺山宝蔵院金剛寺にて供養・埋葬した。

8　本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は，茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋7,160 m，Y＝＋20,080 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお，この原点は，日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　　P－ピット　PG－ピット群　SA－柱穴列　SB－掘立柱建物跡　SD－溝跡　SE－井戸跡
SF－道路跡　SH－方形竪穴遺構　SI－竪穴建物跡　SK－土坑　SX－鍛冶工房跡・段切状遺構
TP－陥し穴

土層　　K－撹乱

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1，各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・赤彩・施釉　　炉・火床面・黒色処理　　竈部材・粘土範囲
柱痕跡・柱あたり　　須恵器　　灰釉陶器
●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　■瓦　－・－・ 硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm，cm，gで示した。なお，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構毎の通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6　竪穴建物跡の「主軸」は，炉・竈を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

7　遺物の取り上げについては，遺構を座標北を基準に，時計回りに1～4区に分割し，任意層位x（＝10cm）ごとに取り上げた。よって遺物の観察表の出土位置は，これを表記した。

8　破片資料の拓本の掲載については，縄文土器は断面の左側に外面，右側に内面を配置し，須恵器については，断面の右側に外面，左側に内面の拓本を配置している。

9　今回の報告分の遺構について，調査年度は以下のとおりである。また整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは，目次のあとに表で示した。

平成27年度

ＳＡ1・2，ＳＢ3～11，ＳＤ24～29，ＳＦ3，ＳＩ6～51，ＳＫ47～252，ＳＸ1～3，炉1・2

平成28年度

ＨＴ31，ＰＧ7・9，ＳＡ3・4，ＳＢ13～17，ＳＤ30～48，ＳＥ8・9，ＳＦ5・6，
ＳＩ52～110，ＳＫ253～468・471～487・499・501・515・519・588，ＳＸ4～11，ＵＰ2

目　　次

－　上　巻　－

序
例　言
凡　例
島名本田遺跡の概要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 3
第２章　位置と環境 …… 5
　第１節　位置と地形 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　調査の成果 …… 11
　第１節　調査の概要 …… 11
　第２節　基本層序 …… 11
　第３節　遺構と遺物 …… 12
　　１　旧石器・縄文時代の遺構と遺物 …… 12
　　⑴　陥し穴 …… 12
　　⑵　遺構外出土の縄文土器 …… 13
　　⑶　遺構外出土の旧石器・縄文時代の石器 …… 16
　　２　古墳時代の遺構と遺物 …… 21
　　⑴　竪穴建物跡 …… 21
　　⑵　土　坑 …… 104
　　⑶　遺構外出土遺物 …… 114
　　３　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 116
　　⑴　竪穴建物跡 …… 116

－　下　巻　－

　　⑵　掘立柱建物跡 …… 280
　　⑶　鍛冶工房跡 …… 308
　　⑷　鍛冶工房跡出土鉄滓の化学分析 …… 334
　　⑸　焼成遺構 …… 358
　　⑹　土　坑 …… 364
　　⑺　柱穴列 …… 377
　　⑻　ピット群 …… 381
　　⑼　遺構外出土遺物 …… 383
　　４　室町・江戸時代の遺構と遺物 …… 385
　　⑴　方形竪穴遺構 …… 385
　　⑵　地下式坑 …… 385
　　⑶　井戸跡 …… 387
　　⑷　墓　坑 …… 389
　　⑸　土　坑 …… 391

(6) 段切状遺構 …… 406
(7) 柱穴列 …… 409
(8) 溝 跡 …… 410
(9) 道路跡 …… 427
(10) 遺構外出土遺物 …… 430
第4節 総 括 …… 432
写真図版 …… PL 1 ～ PL58
抄 録
付 図

挿図目次 － 上 巻 －

第1図 島名本田遺跡調査区割図 …… 4
第2図 島名本田遺跡周辺遺跡分布図 …… 8
第3図 島名本田遺跡調査区設定図 …… 10
第4図 基本土層図 …… 11
第5図 第60号土坑実測図 …… 12
第6図 第455・456号土坑実測図 …… 13
第7図 縄文土器実測図(1) …… 13
第8図 縄文土器実測図(2) …… 14
第9図 旧石器・縄文時代の石器実測図(1) …… 16
第10図 旧石器・縄文時代の石器実測図(2) …… 17
第11図 古墳時代の遺構配置図 …… 20
第12図 第6号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 21
第13図 第9号竪穴建物跡実測図 …… 22
第14図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 23
第15図 第11号竪穴建物跡実測図 …… 24
第16図 第11号竪穴建物跡掘方実測図 …… 25
第17図 第11号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 26
第18図 第12号竪穴建物跡実測図 …… 27
第19図 第12号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 28
第20図 第12号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 29
第21図 第20・26号竪穴建物跡実測図(1) …… 30
第22図 第20・26号竪穴建物跡実測図(2) …… 31
第23図 第20号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 32
第24図 第20号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 33
第25図 第33号竪穴建物跡実測図(1) …… 34
第26図 第33号竪穴建物跡実測図(2) …… 35
第27図 第33号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 36
第28図 第34号竪穴建物跡実測図 …… 38
第29図 第34号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 39
第30図 第35号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 41
第31図 第36号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 42
第32図 第38号竪穴建物跡実測図 …… 43
第33図 第42号竪穴建物跡実測図(1) …… 44
第34図 第42号竪穴建物跡実測図(2) …… 45
第35図 第42号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 46
第36図 第45・46号竪穴建物跡実測図(1) …… 48
第37図 第45・46号竪穴建物跡実測図(2) …… 49
第38図 第45号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 50
第39図 第46号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 51
第40図 第49号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 52
第41図 第53・54号竪穴建物跡実測図 …… 54
第42図 第53号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 55
第43図 第54号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 55
第44図 第55号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 56
第45図 第57号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 57
第46図 第58号竪穴建物跡実測図 …… 58
第47図 第58号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 59
第48図 第59号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 60
第49図 第60号竪穴建物跡実測図 …… 62
第50図 第60号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 63
第51図 第63号竪穴建物跡実測図 …… 64
第52図 第63号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 65
第53図 第64号竪穴建物跡実測図 …… 66
第54図 第64号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 67
第55図 第66号竪穴建物跡・第358号土坑実測図 …… 68
第56図 第66号竪穴建物跡・第358号土坑・出土遺物実測図 …… 69
第57図 第67号竪穴建物跡実測図 …… 71
第58図 第67号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 72
第59図 第68号竪穴建物跡実測図 …… 73
第60図 第68号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 74
第61図 第69号竪穴建物跡実測図 …… 74
第62図 第70号竪穴建物跡実測図 …… 75
第63図 第72号竪穴建物跡実測図 …… 76
第64図 第72号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 77
第65図 第77号竪穴建物跡実測図 …… 79
第66図 第77号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 80
第67図 第78号竪穴建物跡実測図 …… 82
第68図 第78号竪穴建物跡掘方・出土遺物実測図 …… 83
第69図 第78号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 84
第70図 第79号竪穴建物跡実測図 …… 85
第71図 第79号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 86
第72図 第80号竪穴建物跡実測図 …… 88
第73図 第80号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 89
第74図 第81号竪穴建物跡実測図 …… 90
第75図 第81号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 91
第76図 第82号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 93
第77図 第85号竪穴建物跡実測図 …… 94
第78図 第85号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 95
第79図 第86号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 96
第80図 第104号竪穴建物跡実測図 …… 98

第 81 図　第 105 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 99
第 82 図　第 107 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 100
第 83 図　第 107 号竪穴建物跡実測図 …… 101
第 84 図　第 108 号竪穴建物跡実測図 …… 102
第 85 図　第 108 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 103
第 86 図　第 90 号土坑・出土遺物実測図 …… 104
第 87 図　第 118 号土坑実測図 …… 105
第 88 図　第 118 号土坑出土遺物実測図 …… 105
第 89 図　第 133 号土坑・出土遺物実測図 …… 106
第 90 図　第 133 号土坑出土遺物実測図 …… 107
第 91 図　第 190 号土坑・出土遺物実測図 …… 108
第 92 図　第 307・308 号土坑・第 308 号土坑出土遺物実測図 …… 109
第 93 図　第 453・454 号土坑・第 453 号土坑出土遺物実測図 …… 110
第 94 図　古墳時代の土坑実測図(1) …… 110
第 95 図　古墳時代の土坑実測図(2) …… 111
第 96 図　古墳時代の土坑・出土遺物実測図 …… 112
第 97 図　古墳時代の土坑出土遺物実測図 …… 113
第 98 図　遺構外出土遺物実測図 …… 114
第 99 図　奈良・平安時代の遺構配置図 …… 115
第 100 図　第 7 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 116
第 101 図　第 8 号竪穴建物跡実測図 …… 117
第 102 図　第 8 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 118
第 103 図　第 10 号竪穴建物跡実測図 …… 119
第 104 図　第 10 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 120
第 105 図　第 13 号竪穴建物跡実測図 …… 122
第 106 図　第 13 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 123
第 107 図　第 13 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 124
第 108 図　第 14 A・B 号竪穴建物跡実測図(1) …… 126
第 109 図　第 14 A・B 号竪穴建物跡実測図(2) …… 127
第 110 図　第 14 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 128
第 111 図　第 14 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 129
第 112 図　第 15 号竪穴建物跡実測図 …… 131
第 113 図　第 15 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 132
第 114 図　第 16 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 133
第 115 図　第 17 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 134
第 116 図　第 18 号竪穴建物跡実測図 …… 136
第 117 図　第 18 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 137
第 118 図　第 19 号竪穴建物跡実測図 …… 138
第 119 図　第 21 号竪穴建物跡実測図 …… 139
第 120 図　第 21 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 140
第 121 図　第 22 号竪穴建物跡実測図 …… 141
第 122 図　第 22 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 142
第 123 図　第 23 号竪穴建物跡実測図(1) …… 144
第 124 図　第 23 号竪穴建物跡実測図(2) …… 145
第 125 図　第 23 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 146
第 126 図　第 23 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 147
第 127 図　第 24 号竪穴建物跡実測図(1) …… 148
第 128 図　第 24 号竪穴建物跡実測図(2) …… 149
第 129 図　第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 151
第 130 図　第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 152
第 131 図　第 25 号竪穴建物跡実測図 …… 154
第 132 図　第 25 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 155
第 133 図　第 25 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 156
第 134 図　第 26 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 158
第 135 図　第 27 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 159
第 136 図　第 27 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 160
第 137 図　第 28 号竪穴建物跡実測図 …… 161
第 138 図　第 28 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 162
第 139 図　第 29 号竪穴建物跡実測図 …… 163
第 140 図　第 29 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 164
第 141 図　第 30 号竪穴建物跡実測図 …… 165
第 142 図　第 30 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 166
第 143 図　第 31 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 167
第 144 図　第 32 号竪穴建物跡実測図 …… 168
第 145 図　第 32 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 169
第 146 図　第 37 号竪穴建物跡実測図 …… 170
第 147 図　第 37 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 171
第 148 図　第 39 号竪穴建物跡・第 221 号土坑実測図 … 173
第 149 図　第 39 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 174
第 150 図　第 39 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 175
第 151 図　第 40 号竪穴建物跡実測図 …… 177
第 152 図　第 40 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 178
第 153 図　第 41 号竪穴建物跡実測図 …… 180
第 154 図　第 41 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 181
第 155 図　第 41 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 182
第 156 図　第 43 号竪穴建物跡実測図 …… 184
第 157 図　第 43 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 185
第 158 図　第 44 号竪穴建物跡実測図(1) …… 186
第 159 図　第 44 号竪穴建物跡実測図(2) …… 187
第 160 図　第 44 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 188
第 161 図　第 44 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 189
第 162 図　第 47 号竪穴建物跡実測図 …… 191
第 163 図　第 47 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 192
第 164 図　第 48 号竪穴建物跡実測図 …… 193
第 165 図　第 48 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 194
第 166 図　第 51 号竪穴建物跡実測図 …… 195
第 167 図　第 52 号竪穴建物跡実測図 …… 196
第 168 図　第 52 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 197
第 169 図　第 56 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 198
第 170 図　第 61 号竪穴建物跡実測図 …… 199
第 171 図　第 61 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 200
第 172 図　第 62 号竪穴建物跡実測図 …… 202
第 173 図　第 62 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 203
第 174 図　第 65 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 205
第 175 図　第 71 号竪穴建物跡実測図(1) …… 206
第 176 図　第 71 号竪穴建物跡実測図(2) …… 207
第 177 図　第 71 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 208
第 178 図　第 71 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 209
第 179 図　第 73 号竪穴建物跡実測図 …… 211
第 180 図　第 73 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 212
第 181 図　第 74 号竪穴建物跡実測図(1) …… 214
第 182 図　第 74 号竪穴建物跡実測図(2) …… 215
第 183 図　第 74 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 216
第 184 図　第 74 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 217
第 185 図　第 75 号竪穴建物跡実測図 …… 219
第 186 図　第 75 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 220
第 187 図　第 76 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 222
第 188 図　第 83A 号竪穴建物跡実測図(1) …… 224

第 189 図　第 83A 号竪穴建物跡実測図(2) …… 225
第 190 図　第 83B 号竪穴建物跡実測図 …… 226
第 191 図　第 83 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 227
第 192 図　第 87 号竪穴建物跡実測図 …… 228
第 193 図　第 87 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 229
第 194 図　第 88 号竪穴建物跡実測図(1) …… 230
第 195 図　第 88 号竪穴建物跡実測図(2) …… 231
第 196 図　第 88 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 232
第 197 図　第 89 号竪穴建物跡実測図 …… 233
第 198 図　第 89 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 234
第 199 図　第 90 号竪穴建物跡実測図 …… 235
第 200 図　第 90 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 236
第 201 図　第 91 号竪穴建物跡実測図 …… 238
第 202 図　第 91 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 239
第 203 図　第 92 号竪穴建物跡実測図 …… 240
第 204 図　第 92 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 241
第 205 図　第 93 号竪穴建物跡実測図 …… 242
第 206 図　第 93 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 243
第 207 図　第 94 号竪穴建物跡実測図 …… 244
第 208 図　第 94 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 245
第 209 図　第 95 号竪穴建物跡実測図 …… 246
第 210 図　第 95 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 248
第 211 図　第 95 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 249
第 212 図　第 96 号竪穴建物跡実測図 …… 250
第 213 図　第 96 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 251
第 214 図　第 96 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 252
第 215 図　第 97 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 254
第 216 図　第 98 号竪穴建物跡実測図(1) …… 256
第 217 図　第 98 号竪穴建物跡実測図(2) …… 257
第 218 図　第 98 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 258
第 219 図　第 99 号竪穴建物跡実測図 …… 259
第 220 図　第 99 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 260
第 221 図　第 100 号竪穴建物跡実測図 …… 261
第 222 図　第 100 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 261
第 223 図　第 101 号竪穴建物跡実測図(1) …… 262
第 224 図　第 101 号竪穴建物跡実測図(2) …… 263
第 225 図　第 101 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 264
第 226 図　第 101 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 265
第 227 図　第 102 号竪穴建物跡実測図 …… 266
第 228 図　第 102 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 267
第 229 図　第 102 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 268
第 230 図　第 103 号竪穴建物跡実測図(1) …… 270
第 231 図　第 103 号竪穴建物跡実測図(2) …… 271
第 232 図　第 103 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 272
第 233 図　第 103 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 273
第 234 図　第 106 号竪穴建物跡・第 501 号土坑実測図 …… 275
第 235 図　第 106 号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 276
第 236 図　第 110 号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 277

挿表目次 － 上　巻 －

表 1　島名本田遺跡周辺遺跡一覧表 …… 9
表 2　縄文時代の陥し穴一覧表 …… 13
表 3　遺構外出土縄文土器観察表(1) …… 14
表 4　遺構外出土縄文土器観察表(2) …… 15
表 5　遺構外出土縄文土器型式別出土地点集計表 …… 15
表 6　旧石器・縄文時代の石器観察表(1) …… 17
表 7　旧石器・縄文時代の石器観察表(2) …… 18
表 8　旧石器・縄文時代の石器観察表(3) …… 19
表 9　第 6 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 21
表 10　第 9 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 23
表 11　第 11 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 25
表 12　第 12 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 29
表 13　第 20 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 33
表 14　第 33 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 37
表 15　第 34 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 40
表 16　第 35 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 40
表 17　第 36 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 43
表 18　第 42 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 47
表 19　第 45 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 50
表 20　第 46 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 51
表 21　第 49 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 53
表 22　第 53 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 55
表 23　第 54 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 55
表 24　第 55 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 56
表 25　第 57 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 58
表 26　第 58 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 59
表 27　第 59 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 61
表 28　第 60 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 61
表 29　第 60 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 62
表 30　第 60 号竪穴建物跡出土遺物観察表(3) …… 63
表 31　第 63 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 65
表 32　第 64 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 67
表 33　第 66 号竪穴建物跡・第 358 号土坑出土遺物観察表 70
表 34　第 67 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 72
表 35　第 68 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 74
表 36　第 72 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 77
表 37　第 77 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 78
表 38　第 77 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 81
表 39　第 78 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 84
表 40　第 79 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 87
表 41　第 80 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 87
表 42　第 80 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 89
表 43　第 81 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 92
表 44　第 82 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 94
表 45　第 85 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 95
表 46　第 86 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 97
表 47　第 105 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 99
表 48　第 105 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 100
表 49　第 107 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 100
表 50　第 108 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 103
表 51　古墳時代の竪穴建物跡一覧表 …… 103
表 52　第 90 号土坑出土遺物観察表 …… 105
表 53　第 118 号土坑出土遺物観察表 …… 105
表 54　第 133 号土坑出土遺物観察表(1) …… 106
表 55　第 133 号土坑出土遺物観察表(2) …… 107
表 56　第 190 号土坑出土遺物観察表 …… 108

表 57　第 308 号土坑出土遺物観察表 …… 109
表 58　第 453 号土坑出土遺物観察表 …… 110
表 59　古墳時代の土坑出土遺物観察表 …… 113
表 60　古墳時代の土坑一覧表(1) …… 113
表 61　古墳時代の土坑一覧表(2) …… 114
表 62　遺構外出土遺物観察表 …… 114
表 63　第 7 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 116
表 64　第 8 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 118
表 65　第 10 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 121
表 66　第 13 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 122
表 67　第 13 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 124
表 68　第 13 号竪穴建物跡出土遺物観察表(3) …… 125
表 69　第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 128
表 70　第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 129
表 71　第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表(3) …… 130
表 72　第 15 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 133
表 73　第 16 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 134
表 74　第 17 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 135
表 75　第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 136
表 76　第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 137
表 77　第 21 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 140
表 78　第 22 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 143
表 79　第 23 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 145
表 80　第 23 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 147
表 81　第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 150
表 82　第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 153
表 83　第 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 156
表 84　第 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 157
表 85　第 26 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 158
表 86　第 27 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 161
表 87　第 28 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 162
表 88　第 29 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 164
表 89　第 30 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 166
表 90　第 31 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 168
表 91　第 32 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 169
表 92　第 32 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 170
表 93　第 37 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 172
表 94　第 39 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 175
表 95　第 39 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 176
表 96　第 40 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 176
表 97　第 40 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 177
表 98　第 40 号竪穴建物跡出土遺物観察表(3) …… 179
表 99　第 41 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 182
表 100　第 41 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 183
表 101　第 43 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 185
表 102　第 43 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 186
表 103　第 44 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 189
表 104　第 44 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 190
表 105　第 47 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 192
表 106　第 48 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 194
表 107　第 52 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 196
表 108　第 56 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 198
表 109　第 61 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 201
表 110　第 62 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 204
表 111　第 65 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 204
表 112　第 65 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 205
表 113　第 71 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 209
表 114　第 71 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 210
表 115　第 73 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 210
表 116　第 73 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 212
表 117　第 73 号竪穴建物跡出土遺物観察表(3) …… 213
表 118　第 74 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 217
表 119　第 74 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 218
表 120　第 75 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 221
表 121　第 76 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 223
表 122　第 83 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 225
表 123　第 83 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 226
表 124　第 83 号竪穴建物跡出土遺物観察表(3) …… 227
表 125　第 83 号竪穴建物跡出土遺物観察表(4) …… 228
表 126　第 87 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 229
表 127　第 88 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 232
表 128　第 88 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 233
表 129　第 89 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 235
表 130　第 90 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 237
表 131　第 91 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 238
表 132　第 92 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 241
表 133　第 92 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 242
表 134　第 93 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 243
表 135　第 94 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 245
表 136　第 95 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 247
表 137　第 95 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 249
表 138　第 95 号竪穴建物跡出土遺物観察表(3) …… 250
表 139　第 96 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 253
表 140　第 97 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 254
表 141　第 97 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 255
表 142　第 98 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 255
表 143　第 98 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 258
表 144　第 98 号竪穴建物跡出土遺物観察表(3) …… 259
表 145　第 99 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 260
表 146　第 100 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 261
表 147　第 100 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 262
表 148　第 101 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 264
表 149　第 101 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 265
表 150　第 101 号竪穴建物跡出土遺物観察表(3) …… 266
表 151　第 102 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 268
表 152　第 102 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 269
表 153　第 103 号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 271
表 154　第 103 号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 273
表 155　第 103 号竪穴建物跡出土遺物観察表(3) …… 274
表 156　第 106 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 276
表 157　第 110 号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 277
表 158　奈良・平安時代の竪穴建物跡一覧表(1) …… 277
表 159　奈良・平安時代の竪穴建物跡一覧表(2) …… 278

島名本田遺跡遺構名変更表

旧遺構		新遺構	
ＳＩ	50	欠	
	84	欠	
ＳＫ	60	（陥し穴）	
	78	欠	
	89	欠	
	95	ＳＩ９	Ｐ７
	96	欠	
	99	欠	
	134	ＳＢ12	Ｐ１
	137	ＳＩ13	貯蔵穴
	138	（焼成遺構）	
	140	ＳＢ11	Ｐ８
	152	ＳＢ７	Ｐ17
	155	ＳＢ11	Ｐ７
	157	ＳＢ５	Ｐ８
	158	ＳＢ５	Ｐ９
	159	ＳＢ12	Ｐ２
	160	ＳＢ12	Ｐ７
	163	欠	
	167	欠	
	168	ＳＢ７	Ｐ16
	169	ＳＢ７	Ｐ15
	170	ＳＢ７	Ｐ12
	171	ＳＢ７	Ｐ13
	172	ＳＢ７	Ｐ20
	173	ＳＢ７	Ｐ21
	174	ＳＢ７	Ｐ19
	175	ＳＢ７	Ｐ18
	176	ＳＢ７	Ｐ７
	180	ＳＢ６	Ｐ11
	181	ＳＢ11	Ｐ５
	182	ＳＢ11	Ｐ５
	183	ＳＢ11	Ｐ６
	188	ＳＢ12	Ｐ３
	191	ＳＢ７	Ｐ14
	206	ＳＢ６	Ｐ15
	213	ＳＩ22	Ｐ６
	214	ＳＩ22	Ｐ７
	215	ＳＩ22	Ｐ８
	216	ＳＢ６	Ｐ14
	219	欠	
	220	欠	
	224	欠	
	225	ＳＩ21	Ｐ５
	227	欠	
	229	ＳＢ６	Ｐ８
	231	ＳＩ31	Ｐ１
	233	欠	
	234	ＳＩ33	Ｐ６

旧遺構		新遺構	
ＳＫ	236	ＳＢ９	Ｐ10
	237	ＳＩ42	Ｐ５
	238	ＳＩ42	Ｐ６
	239	ＳＩ42	Ｐ７
	245	（火葬墓）	
	246	ＳＩ45	Ｐ３
	247	ＳＩ45	Ｐ４
	248	ＳＩ45	Ｐ５
	249	ＳＩ45	Ｐ７
	250	ＳＩ46	Ｐ４
	251	ＳＩ45	Ｐ６
	255	（火葬墓）	
	264	（火葬墓）	
	266	ＳＡ８	Ｐ３
	277	ＳＡ８	Ｐ２
	284	ＨＴ	31
	299	ＳＩ61	Ｐ10
	301	ＳＩ61	Ｐ７
	302	ＳＩ61	Ｐ８
	304	ＳＩ61	Ｐ９
	315	欠	
	320	ＳＩ59	Ｐ４
	321	ＳＩ59	Ｐ３
	330	ＳＡ８	Ｐ１
	331	ＳＩ63	Ｐ７
	335	ＳＩ68	Ｐ２
	339	（焼成遺構）	
	340	ＳＤ	48
	341	ＳＢ６	Ｐ12
	342	ＳＢ６	Ｐ13
	343	ＳＢ６	Ｐ10
	344	ＳＢ13	Ｐ12
	347	ＳＢ13	Ｐ１
	348	ＳＢ13	Ｐ２
	349	ＳＢ13	Ｐ３
	350	ＳＢ13	Ｐ６
	356	（焼成遺構）	
	359	ＳＢ14	Ｐ９
	361	ＳＩ81	貯蔵穴
	364	欠	
	365	欠	
	383	ＳＢ16	Ｐ９
	385	ＳＢ14	Ｐ10
	393	ＳＩ71	Ｐ６
	394	ＳＢ14	Ｐ２
	396	ＳＩ62	Ｐ６
	398	ＳＩ77	Ｐ７
	401	ＳＢ14	Ｐ４

旧遺構		新遺構	
ＳＫ	403	ＳＢ14	Ｐ11
	406	ＳＢ16	Ｐ７
	409	欠	
	422	ＳＢ９	Ｐ７
	423	ＳＩ104	Ｐ４
	424	ＳＢ９	Ｐ６
	431	ＳＢ９	Ｐ９
	432	ＳＢ９	Ｐ８
	447	欠	
	456	（陥し穴）	
	471	（焼成遺構）	
	473	（焼成遺構）	
	474	（焼成遺構）	
	478	（焼成遺構）	
	481	ＳＩ104	Ｐ６
	482	ＳＩ104	Ｐ５
	515	ＳＩ98	Ｐ16
ＰＧ７	Ｐ13	ＳＢ14	Ｐ12
ＳＡ２	Ｐ３	ＳＢ５	Ｐ10
ＳＢ10	Ｐ７	ＳＢ11	Ｐ１
ＳＢ10	Ｐ８	ＳＢ11	Ｐ２
ＳＢ10	Ｐ３	ＳＢ11	Ｐ３
ＳＢ10	Ｐ４	ＳＢ11	Ｐ４
ＳＢ10	Ｐ６	ＳＢ11	Ｐ12
ＳＢ10	Ｐ５	ＳＢ11	Ｐ13
ＳＢ10	Ｐ１	ＳＢ11	Ｐ14
ＳＢ10	Ｐ２	ＳＢ11	Ｐ15
ＳＢ15	Ｐ６	ＳＢ14	Ｐ11
ＳＢ６	Ｐ10	ＳＢ12	Ｐ９
ＳＢ６	Ｐ８	ＳＢ12	Ｐ８
ＳＢ６	Ｐ10	ＳＢ12	Ｐ９
ＳＢ６	Ｐ８	ＳＢ12	Ｐ８
ＳＢ９	Ｐ８	ＳＢ11	Ｐ９
ＳＢ９	Ｐ10	ＳＢ11	Ｐ10
ＳＢ９	Ｐ10	ＳＢ11	Ｐ11
ＳＢ９	Ｐ５	ＳＢ11	Ｐ16
ＳＢ９	Ｐ６	ＳＢ11	Ｐ17
ＳＢ９	Ｐ７	ＳＢ11	Ｐ18
ＳＸ１		第１号鍛冶工房跡	
ＳＸ２		第２号鍛冶工房跡	
ＳＸ３		第３号鍛冶工房跡	
ＳＸ４		第１号段切状遺構	
ＳＸ５		第４号鍛冶工房跡	
ＳＸ６		第５号鍛冶工房跡	
ＳＸ７		HT31	
ＳＸ８		第６号鍛冶工房跡	
ＳＸ９		第７号鍛冶工房跡	
ＳＸ11		第８号鍛冶工房跡	

※カッコ内は遺構名の変更はなし

島名本田遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

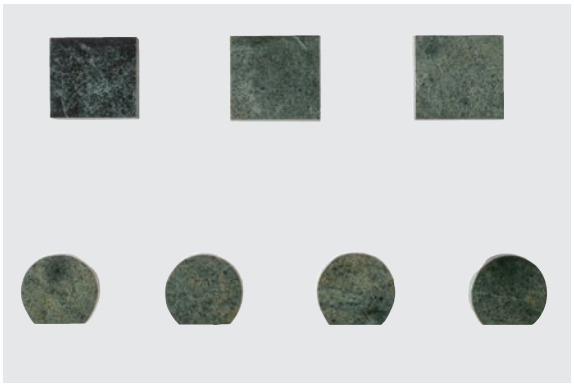
島名本田遺跡は，つくば市の南西部，谷田川右岸の標高 20 ～ 24 mの台地上に位置しています。島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴い，遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため，公益財団法人茨城県教育財団が平成 27・28 年度に 11,852㎡の発掘調査を行いました。

調査の内容

今回の調査では，縄文時代の陥し穴２基，古墳時代の竪穴建物跡 41 棟，土坑 33 基，奈良・平安時代の竪穴建物跡 61 棟，掘立柱建物跡 14 棟，鍛冶工房跡８棟，焼成遺構８基，土坑 158 基，室町時代の方形竪穴遺構１棟，地下式坑１基，井戸跡２基，江戸時代の墓坑３基，段切状遺構１か所のほか，室町時代から江戸時代にかけての土坑や溝跡，道路跡などが確認できました。

調査区遠景（右側の台地上が島名熊の山遺跡）

奈良時代の竪穴建物跡から出土した中空円面硯



平安時代の竪穴建物跡から出土した腰帯具

鍛冶工房跡の調査状況（手前：鍛冶炉）

鍛冶工房跡から出土した遺物

調査の成果

調査の結果，古墳時代中期から平安時代の集落跡と，室町時代の屋敷跡の一部が確認できました。奈良時代の竪穴建物跡からは「中空円面硯」が，平安時代の竪穴建物跡からは，蛇紋岩製の腰帯具（丸鞆４点，巡方３点）などが出土しています。また，10 世紀前葉から 11 世紀の土器焼成遺構からは，多量の焼土とともに未使用の土師器の坏や小皿が出土しました。特筆されるのは奈良・平安時代にかけての鍛冶工房跡を８基確認したことです。繰り返し作り替えられた鍛冶炉や作業用の土坑からは，多量の鉄滓や鍛造剝片，粒状滓，鞴の羽口などが出土しており，精錬鍛冶と鍛錬鍛冶を操業していたことがわかりました。当遺跡は相当量の鉄素材を生産し，嶋名郷の中心地である島名熊の山遺跡やその周辺の集落へ供給する役目を担う，嶋名郷の発展を鉄生産で支えたムラであることが想定されます。

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

平成6年8月18日，茨城県知事は，茨城県教育委員会教育長あてに島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成6年9月19日から27日にかけて現地踏査を実施し，平成26年11月13日，14日及び12月3日，平成27年11月10日，11日及び12月25日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成27年2月6日及び平成28年1月29日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県土浦土木事務所長あてに事業地内に島名本田遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成27年2月10日及び平成28年1月29日，茨城県土浦土木事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成27年2月16日及び平成28年2月3日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県土浦土木事務所長あてに，現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，工事着手前に発掘調査を実施するように通知した。

平成27年2月18日及び平成28年2月15日，茨城県土浦土木事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成27年2月23日及び平成28年2月17日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県土浦土木事務所長あてに島名本田遺跡について，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は，茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成27年6月1日から10月31日，及び平成28年6月1日から平成29年3月31日まで，それぞれ発掘調査を実施した。

第2節　調　査　経　過

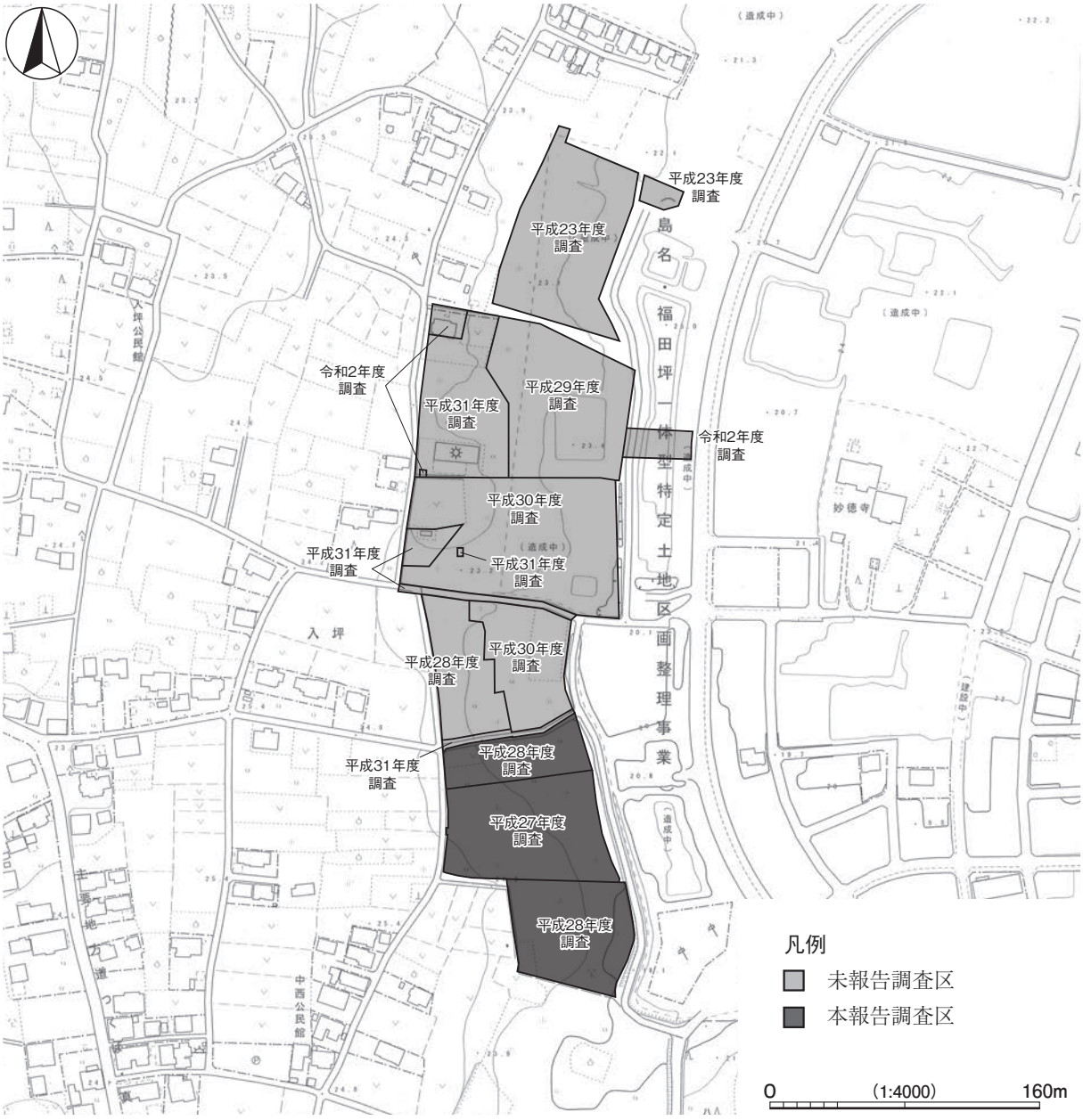
島名本田遺跡の調査は，平成27年6月1日から10月31日までの5か月間と，平成28年6月1日から平成29年3月31日の10か月間にわたって実施した。以下，その概要を表で記載する。

平成27年度

工程＼期間	6　月	7　月	8　月	9　月	10　月
調査準備 表土除去 遺構確認					
遺構調査					
遺物洗浄 注記 写真整理					
撤収					

平成 28 年度

工程＼期間	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認										
遺構調査										
遺物洗浄 注記 写真整理										
撤収										



第 1 図　島名本田遺跡調査区割図

第2章　位　置　と　環　境

第1節　位　置　と　地　形

島名本田遺跡は，茨城県つくば市島名字薬師台1716番地ほかに所在している。

つくば市は筑波山を北端に，その南東へ延びる標高20～25ｍほどの平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ，東を霞ヶ浦へ流入する桜川，西は利根川に合流する小貝川によって区切られている。両河川の間には，東から花室川，蓮沼川，小野川，谷田川，西谷田川などの中小河川が北から南に向かって流れているため，台地は複雑に開析され，谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は，貝化石を含む海成層の成田層を基盤として，さらにその上に黄褐色砂や黄褐色荒砂層である竜ケ崎層，さらに灰白色の粘土層である常総粘土層，そして表土下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積し，最上部は腐植土層となっている[1)]。

つくば市南西部の島名地区は，谷田川と西谷田川によって開析された，狭長な台地上の中央部に位置している。当遺跡は谷田川から延びた谷津に面した標高13～24ｍの台地上に立地し，遺跡の範囲は南北約500ｍ，東西約250ｍである。今回報告する調査区は，遺跡の南部に位置し，標高20～21ｍの台地斜面部から標高約24ｍの台地上にかけて位置している。今回の調査区の北東部と南東部には，谷田川から延びた谷津が入り込み，中央部付近は遺構空白域となっている。

第2節　歴　史　的　環　境

島名本田遺跡周辺の小貝川，西谷田川，谷田川，蓮沼川流域の台地には，縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは，主に谷田川と西谷田川流域の遺跡について概観する。

旧石器時代は，平北田遺跡[2)]〈35〉，下河原崎谷中台遺跡[3)]〈71〉，元宮本前山遺跡[4)]〈73〉で石器集中地点が確認され，下総編年Ⅱｂ～Ⅱｃ期のナイフ形石器や角錐状石器，掻器，槍先形尖頭器をはじめ，石核や剥片などが出土している。また，島名前野東遺跡[5)]〈７〉，島名一町田遺跡[6)]〈９〉，島名境松遺跡〈10〉，島名ツバタ遺跡[7)]〈16〉でナイフ形石器や尖頭器，サイドスクレイパー，面野井北ノ前遺跡[8)]で荒屋型彫器，島名熊の山遺跡〈２〉でナイフ形石器や尖頭器，細石刃石核などが採集されている[9)]。

縄文時代では，元宮本前山遺跡で早期後半の炉穴，下河原崎谷中台遺跡で早期後半の炉穴や，後期前半堀之内１式～晩期前葉安行３ｂ式期の建物跡，後期中葉加曽利Ｂ式～安行３ｂ式期の土坑，島名ツバタ遺跡で陥し穴と中期阿玉台Ⅳ式～加曽利ＥⅠ式期の建物跡やフラスコ状土坑，島名境松遺跡で中期加曽利ＥⅢ式～堀之内１式期を中心とした建物跡や円筒状土坑などがそれぞれ確認されている。これらの遺跡は河川を望む台地の縁辺部に立地し，特に早期の集落が西谷田川左岸に集中する様子がうかがえる。

弥生時代の遺跡は，島名熊の山遺跡で埋没谷周辺から後期後半の土器片が採集されている程度で，当地域では少ない。ただし出土した土器片には籾痕が認められ[10)]，当地域の稲作を考える上で興味深い。

古墳時代前期になると，谷田川沿いに小規模な集落が点在するようになる。島名一町田遺跡では，南関東系の土器を伴う初期の集落が出現し，島名熊の山遺跡や島名前野遺跡[11)]〈６〉では４世紀中頃の集落跡，島名前野東遺跡では集落に付随した形で４世紀中～後葉の方形周溝墓３基が確認されている。また，面野井古墳群[12)]

〈27〉では，方形周溝墓４基と円墳１基が確認され，特に第２号方形周溝墓からは，方台部に木棺直葬の埋葬施設が確認され，副葬品として石製の勾玉と管玉，ガラス製の玉類が出土し，県内でも貴重な調査事例である。

中期になると，集落が西谷田川沿いにも広がりを見せ，前述した遺跡に加えて島名ツバタ遺跡や谷田部漆遺跡〈50〉，上萱丸古屋敷遺跡[13]〈51〉，真瀬三度山遺跡〈52〉などで集落跡が確認されている。特に，元宮本前山遺跡では滑石製模造品の製作跡が確認され，下河原崎谷中台遺跡では県内初の琴柱形石製品の出土が注目される。これらの集落は，台地縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており，その立地や経営には，台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く考えられる。

後期になると，６世紀後半以降，台地全体に集落域が拡大していく様子が確認できる。当遺跡でも７世紀以降，竪穴建物跡等が増加し，周辺でも島名熊の山遺跡，島名八幡前遺跡[14]〈３〉，島名前野遺跡，島名前野東遺跡，平北田遺跡などの集落が継続して営まれている。また，当該期は古墳が急増し，島名熊の山遺跡南東部の台地先端部で径約 19 ｍと約８ｍの円墳２基が確認されている。他に島名前野古墳〈８〉，島名榎内古墳群〈13〉，島名榎内西古墳群〈14〉，島名関ノ台古墳群〈18〉，面野井古墳群，下河原崎高山古墳群〈69〉などがあり，いずれも径 10 ～ 20 ｍの小円墳を主とした構成からなる地域的な群集墳の在り方を示している。島名関ノ台古墳群は，全長約 40 ｍの前方後円墳と円墳 27 基が存在したと言われ，被葬者は島名地区の盟主的存在であった可能性が高い。また近年調査された下河原崎高山古墳群の５号墳は，７世紀初頭の墳長 38 ｍの前方後円墳で，未盗掘の箱式石棺からは 21 体以上の遺骨と直刀・銅鋺などが出土している[15]。

奈良時代になると，島名地区は急速に集落の再編が進んでいる。その背景には，律令国家の成立と国郡里制の整備が考えられ，当地区は河内郡嶋名郷に編入される。島名熊の山遺跡や島名八幡前遺跡の集落は，大型建物とそれに付随する掘立柱建物が中心で，島名熊の山遺跡では中央部にＬ字状に掘立柱建物群が配置され，郷関連の官衙的施設の可能性も指摘されている[16]。一方，７世紀に一旦集落が途絶えていた島名前野遺跡や島名前野東遺跡では，８世紀中頃に再び集落が形成され，空閑地となっていた土地が律令体制の進展と共に再開発の適地となったためと考えられる。しかし，これらの遺跡以外に島名地区では集落が認められなくなり，当遺跡周辺だけに集落が集中する現象が認められる。

平安時代の遺跡数はさらに減少し，現在集落として明確に捉えられるのは当遺跡と島名熊の山遺跡，島名八幡前遺跡のみである。大規模な集落を残し，８世紀以来の集落が消滅していく状況は，律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。これらの遺跡では，鍛冶生産や紡績などの手工業関連の遺構・遺物が確認でき，９世紀以降の集落の継続性を考えたとき，極めて示唆的である。島名八幡前遺跡では８世紀前葉から鍛冶工房跡が確認でき，島名熊の山遺跡では９世紀代の鍛冶工房跡１基が調査されている。また関ノ台南Ｂ遺跡〈21〉でも９世紀中頃の工房跡が確認されており[17]，当遺跡を中心に当地域で大規模な鍛冶生産が行われていた様子が伺える。９世紀の集落再編も 10 世紀を迎えると新たな展開を示し，当遺跡や島名八幡前遺跡の集落は終焉を迎えている。島名熊の山遺跡はそれ以降も存続し，11 世紀まで断続的に営まれている。その後の集落の様相は不明瞭であるが，墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡[18]や小銅仏[19]が出土しており，在地領主層ないし地方武士団の台頭が検討されている。

平安時代末期には，島名地区周辺は八条院領として立荘された田中荘に組み込まれ，鎌倉時代以降に田中荘は小田氏の支配下となる。当該期の周辺の遺跡は，平出氏の居城と伝えられる面野井城跡〈26〉や島名前野東遺跡がある。島名前野東遺跡では，方一町に巡る堀に囲まれた方形居館が確認され，島名地区一帯を治めていた有力者の居宅と考えられる。島名八幡前遺跡では，14 世紀代の地下式坑が確認されている。永仁五年（1297）には，当遺跡の東方に妙徳寺が開山し，島名熊の山遺跡では梵鐘の乳や鰐口などの鋳型片が出土した鋳造土坑

が確認されている[20]。また,15 世紀後半から 17 世紀前半にかけての墓域が確認され,妙徳寺との関連がうかがえる。妙徳寺の周辺では幅５ｍ,深さ２ｍの薬研堀が確認され,寺域周辺は防御施設としての機能も果たしていたことが明らかとなっている[21]。当遺跡で確認できた中世以降の遺構群とも有機的な関係が予測される。

※　本章は，既刊の茨城県教育財団文化財調査報告第 437 集ほかを参照し，加筆した。文中の〈　〉内の番号は,第２図及び表１の当該番号と同じである。

註

１）日本の地質「関東地方」編集委員会『日本の地質３　関東地方』共立出版　1986 年 10 月

２）舟橋理『平北田遺跡　一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 336 集　2011 年３月

３）ａ　高野裕璽『下河原崎谷中台遺跡・島名ツバタ遺跡　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書３』茨城県教育財団文化財調査報告第 282 集　2007 年３月

ｂ　齋藤真弥『下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書４』茨城県教育財団文化財調査報告第 292 集　2008 年３月

４）高野裕璽『元宮本前山遺跡　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書２』茨城県教育財団文化財調査報告第 265 集　2006 年３月

５）ａ　寺門千勝・田原康司・梅澤貴司『島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ』茨城県教育財団文化財調査報告第 191 集　2002 年３月

ｂ　飯泉達司『島名前野東遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ』茨城県教育財団文化財調査報告第 215 集　2004 年３月

ｃ　小松﨑和治『島名境松遺跡・島名前野東遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』茨城県教育財団文化財調査報告第 281 集　2007 年３月

６）鹿島直樹『島名一町田遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 230 集　2004 年３月

７）ａ　佐野正『科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　ツバタ遺跡・高山古墳群』茨城県教育財団文化財調査報告第 22 集　1983 年３月

ｂ　皆川修『島名ツバタ遺跡　上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書１』茨城県教育財団文化財調査報告第 203 集　2003 年３月

８）鹿島直樹『島名関ノ台南Ｂ遺跡・面野井北ノ前遺跡　常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書２』茨城県教育財団文化財調査報告第 231 集　2004 年３月

９）酒井雄一・渡邊浩美・齋藤貴史・清水哲『島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ』茨城県教育財団文化財調査報告第 280 集　2007 年３月

10）稲田義弘・飯泉達司『島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ』茨城県教育財団文化財調査報告第 214 集　2004 年３月

11）稲田義弘『島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ　島名前野遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 175 集　2001 年３月

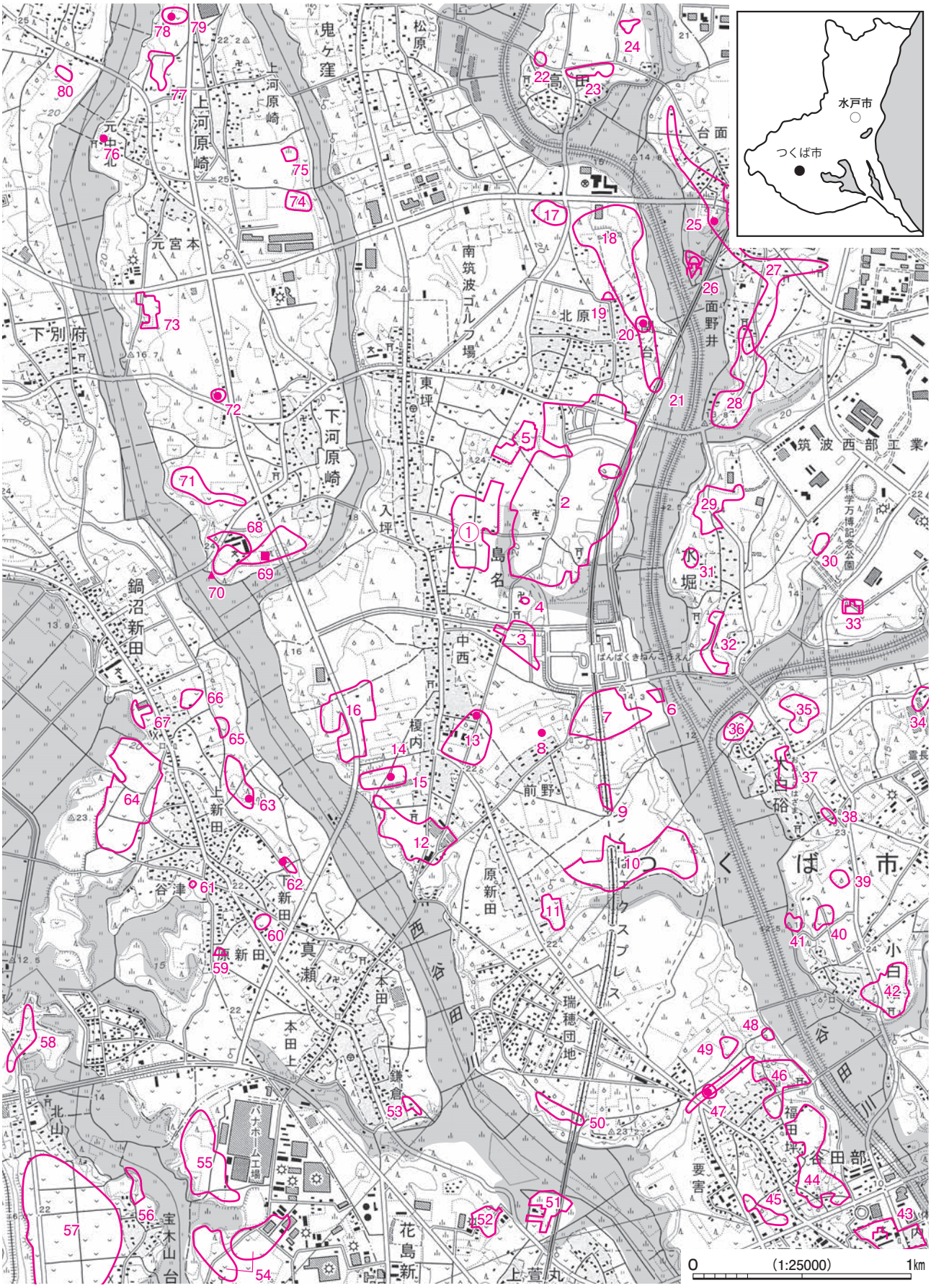
12）小林和彦『面野井古墳群　都市計画道路新都市中央通りバイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 391 集　2014 年３月

13）白田正子『(仮称）萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　三度山遺跡・古屋敷遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 132 集　1998 年３月

14）ａ　青木仁昌『島名八幡前遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』茨城県教育財団文化財調査報告第 201 集　2003 年３月

ｂ　菊池直哉『島名八幡前遺跡　都市計画道路島名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 283 集　2007 年３月

15）内堀団「下河原崎高山古墳群」『埋蔵文化財年報 36　平成 28 年度』茨城県教育財団　2017 年８月



第２図　島名本田遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1「谷田部」）

表１　島名本田遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	島名本田遺跡		○		○	○	○	○
2	島名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	○
3	島名八幡前遺跡				○	○	○	○
4	島名薬師遺跡				○			
5	島名中代遺跡		○		○	○	○	○
6	島名前野遺跡		○		○	○	○	○
7	島名前野東遺跡	○	○		○	○	○	○
8	島名前野古墳				○			
9	島名一町田遺跡	○	○		○		○	○
10	島名境松遺跡	○	○		○			
11	島名タカドロ遺跡		○		○			
12	島名榎内南遺跡	○			○	○		
13	島名榎内古墳群				○			
14	島名榎内西古墳群				○			
15	島名榎内遺跡				○			
16	島名ツバタ遺跡	○	○		○		○	○
17	島名関ノ台遺跡				○			
18	島名関ノ台古墳群				○			
19	島名関ノ台塚						○	○
20	島名関ノ台南A遺跡				○	○		
21	島名関ノ台南B遺跡	○	○			○		○
22	高田和田台遺跡				○			
23	高田遺跡					○		○
24	高田原山遺跡				○	○		
25	面野井西ノ台塚						○	○
26	面野井城跡						○	
27	面野井古墳群				○			
28	面野井南遺跡				○	○	○	○
29	水堀下道遺跡				○	○		
30	水堀遺跡				○			
31	水堀屋敷添遺跡		○		○			
32	水堀道後前遺跡					○		
33	大和田氏屋敷跡						○	○
34	柳橋遺跡				○			○
35	平北田遺跡	○	○		○	○	○	○
36	平後遺跡				○		○	○
37	大白硲西ノ裏遺跡				○			
38	大白硲桜下遺跡				○			
39	大白硲民部山遺跡				○			
40	小白硲民部山遺跡				○			

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
41	小白硲水表遺跡				○			
42	小白硲海道端遺跡		○				○	○
43	谷田部城跡						○	○
44	谷田部福田前遺跡		○		○	○		
45	谷田部漆出口遺跡		○		○		○	○
46	谷田部福田遺跡		○		○			
47	谷田部大堀遺跡						○	○
48	谷田部山合遺跡		○				○	○
49	谷田部陣馬遺跡		○		○			
50	谷田部漆遺跡		○		○	○		
51	上萱丸古屋敷遺跡				○		○	○
52	真瀬三度山遺跡		○		○			○
53	真瀬戸崎遺跡				○		○	○
54	二本松遺跡		○					
55	西山遺跡		○				○	○
56	苗代山遺跡		○					
57	上郷北遺跡					○		
58	田倉遺跡		○					
59	真瀬西原遺跡						○	○
60	真瀬中畑遺跡		○		○			○
61	真瀬新田谷津遺跡		○					
62	真瀬新田古墳群				○			
63	真瀬堀附南遺跡		○		○			
64	真瀬山田遺跡		○		○	○		
65	真瀬堀附北遺跡				○			
66	鍋沼新田長峰遺跡		○		○			
67	真瀬山田北遺跡		○		○			
68	下河原崎高山遺跡			○				
69	下河原崎高山古墳群				○			
70	下河原崎高山窯跡				○			
71	下河原崎谷中台遺跡	○	○		○	○		
72	下河原崎古墳群				○			
73	元宮本前山遺跡	○	○		○			
74	元中北東藤四郎遺跡				○			
75	元中北鹿島明神古墳				○			
76	上河原崎前山遺跡				○			
77	上河原崎本田遺跡				○	○		○
78	上河原崎小山台古墳				○			
79	上河原崎八幡脇遺跡				○			
80	中別府宮前遺跡				○			○

16）稲田義弘『島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』茨城県教育財団文化財調査報告第 190 集　2002 年３月

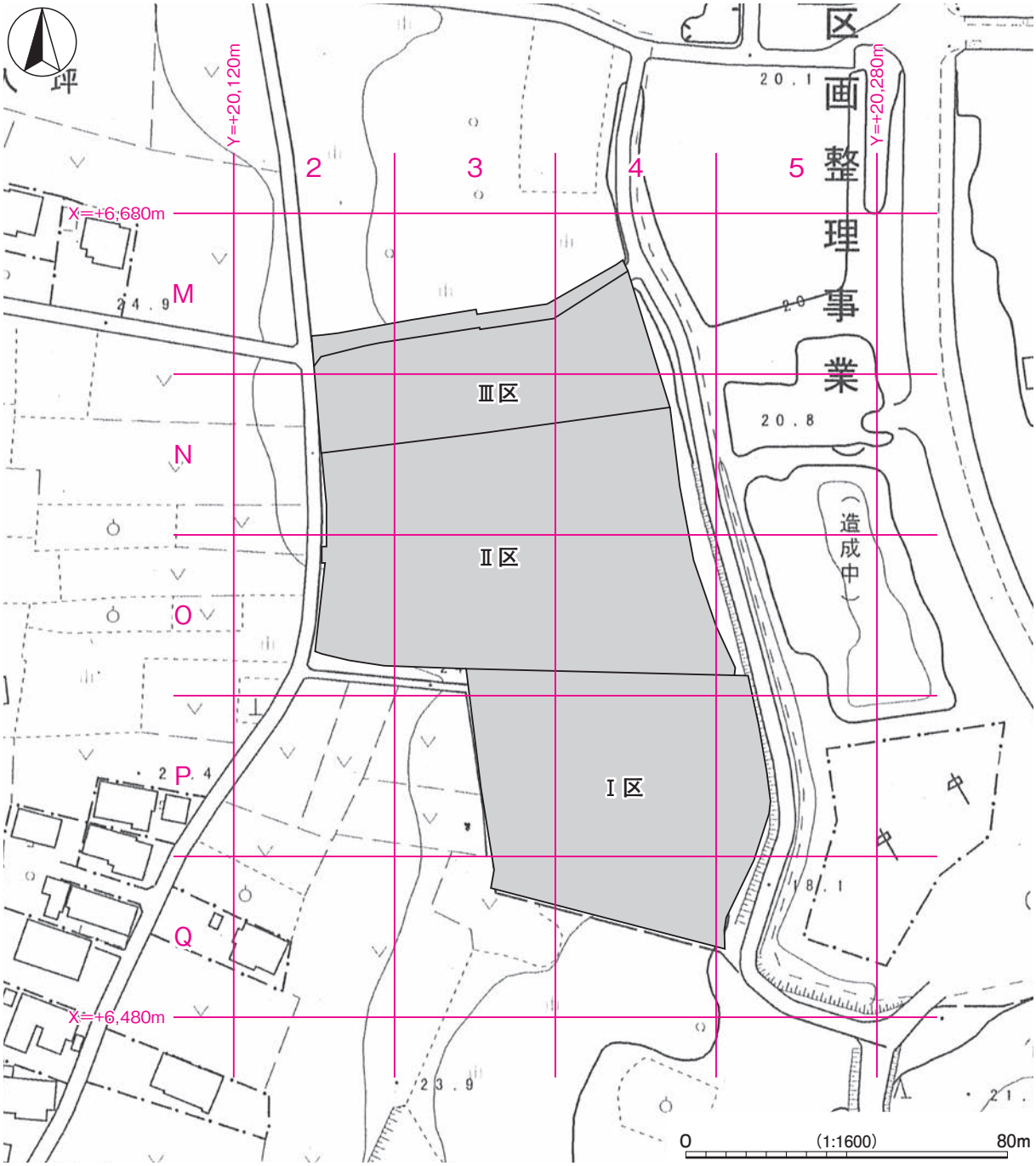
17）註８に同じ

18）新井聡・川村満博『（仮称）島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　島名熊の山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 120 集　1997 年３月

19）吉原作平・原信田正夫『（仮称）島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　島名熊の山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 149 集　1999 年３月

20）註９に同じ

21）兼子博史・坂本勝彦・田中万里子・櫻井二郎『島名熊の山遺跡　島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXL』茨城県教育財団文化財調査報告第 390 集　2014 年３月



第３図　島名本田遺跡調査区設定図（つくば市都市計画図 2,500 分の１から作成）

第3章　調　査　の　成　果

第1節　調　査　の　概　要

島名本田遺跡は，つくば市の南西部に位置し，谷田川右岸の標高 20 ～ 24 ｍの台地上に立地している。当遺跡は平成 23 年度から平成 31 年度までに，断続的に６次の調査が行われており，今回報告する調査区は，遺跡の南部に位置する平成 27 年度に調査したⅡ区と，平成 28 年度に調査したⅠ・Ⅲ区である。調査面積はⅠ区 3,841㎡，Ⅱ区 5,773㎡，Ⅲ区 2,238㎡で，調査前の現況は畑地である。

調査の結果，竪穴建物跡 102 棟（古墳時代 41・奈良・平安時代 61），掘立柱建物跡 14 棟（奈良・平安時代），方形竪穴遺構１棟（室町・江戸時代），鍛冶工房跡８棟（奈良・平安時代），焼成遺構８基（奈良・平安時代），陥し穴２基（縄文時代），地下式坑１基（室町時代），井戸跡２基（室町時代），墓坑３基（室町・江戸時代），土坑 332 基（古墳時代 33・奈良・平安時代 158・室町・江戸時代 141），溝跡 25 条（室町・江戸時代），段切状遺構１か所（江戸時代），道路跡３条（室町・江戸時代），柱穴列６条（奈良・平安時代４，江戸時代２），ピット群２か所（奈良・平安時代）を確認した。

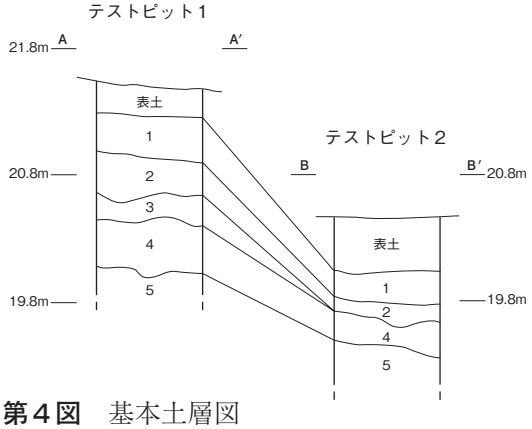
遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20cm）に 211 箱出土している。主な遺物は，土師器（坏･椀･高台付坏･小皿・坩・高坏・鉢・壺・甕・甑），須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・高盤・瓶類・鉢・捏鉢・円面硯・中空円面硯・短頸壺・甕・甑），灰釉陶器（皿・瓶類），土師質土器（小皿・内耳鍋・擂鉢・火鉢・蓋ヵ），陶器（小坏・碗・皿・おろし皿・擂鉢・壺・花瓶），磁器（碗・皿），土製品（土玉・土錘・支脚・紡錘車・羽口・置き竈・鋳型・芥子面），石器・石製品（ナイフ形石器・有舌尖頭器・スクレイパー・石核・剥片・石鏃・打製石斧・砥石・紡錘車・腰帯具・勾玉・石製模造品），金属製品（刀子・鉄鏃・鎌・手鎌・鉄斧・鋤先・紡錘車・釘・閂・馬具・小札・火打金・腰帯具・小札）などである。

第2節　基　本　層　序

調査Ⅱ区の北部，台地斜面部のＮ３e5 区（テストピット１）と，調査Ⅲ区の北部中央，台地斜面部のＭ３h9 区（テストピット２）に設定した。

第１層は，黒褐色を呈する層で，ローム粒子がわずかに含まれている。粘性は普通で，締まりは弱く，層厚は 20 ～ 30cm である。第２層は，暗褐色を呈する層で，ローム粒子がわずかに含まれている。粘性は普通で，締まりは弱く，層厚は 10 ～ 40cm である。第３層は，明黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとも普通で，層厚は 20 ～ 25cm である。第４層は，にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く，層厚は 15 ～ 45cm である。第５層は，にぶい黄褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりとも強い。下層が未掘のため，本来の層厚は不明である。

遺構は，第１層上面で中世以降の遺構を，第２層中及び第３層上面で縄文時代から古代の遺構を確認した。



第４図　基本土層図

第３節　遺 構 と 遺 物

1　旧石器・縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，縄文時代の陥し穴２基を確認した。いずれも台地斜面部に構築され，第 456 号土坑は北東から入り込む埋没谷の黒色土中での確認である。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　陥し穴

第 60 号土坑（第５図　PL28）

位置　調査Ⅱ区東部のＯ４a7 区，標高 20.5 ｍの台地斜面部に位置している。

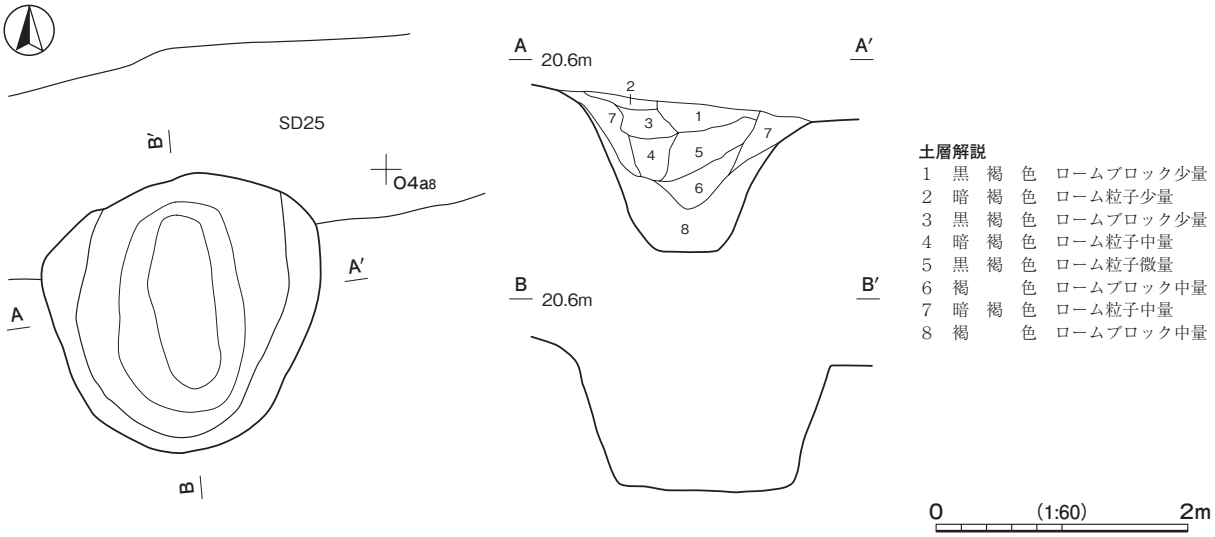
重複関係　第 25 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　径 2.20 ｍほどの不整円形である。深さは 116cm で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土　８層に分層できる。下半はロームブロックが多く含まれる層で埋め戻されている。上半部はピット状に掘り返されたような堆積状況を示している。

遺物出土状況　土師器片１点（甕類），土師質土器片１点（器種不明）が出土しているが，いずれも小片のため，図示できない。

所見　本跡から縄文時代の遺物は出土していないものの，形状から陥し穴と推定できる。後述するように，今回の調査区からは早期前半から後期の土器が散在しているが，本跡の詳細な時期は不明である。



第５図　第 60 号土坑実測図

第 456 号土坑（第６図）

位置　調査Ⅲ区中央部のＮ３b8 区，標高 21 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 455 号土坑に掘り込まれている。

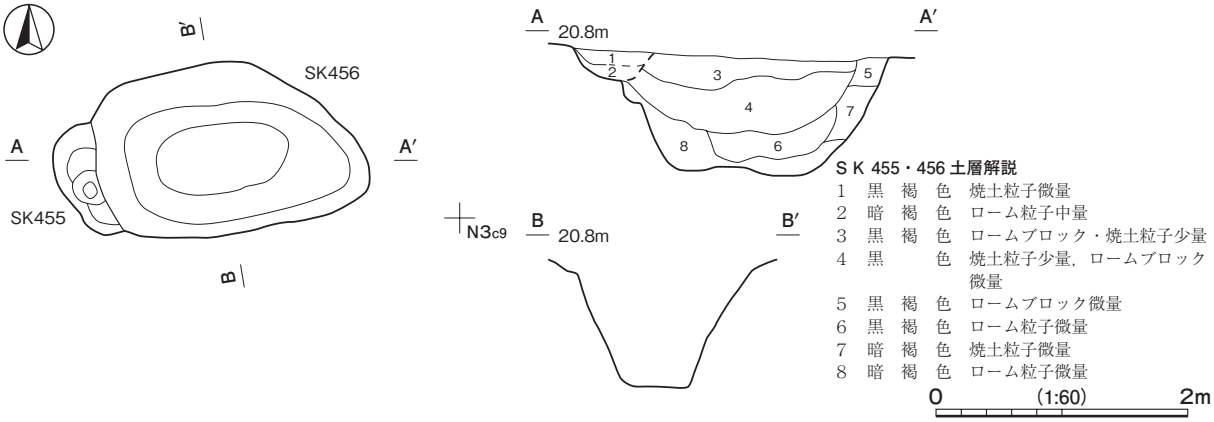
規模と形状　長径 2.22 ｍ，短径 1.41 ｍの不整楕円形で，長径方向はＮ－ 81 °－ Ｅである。深さは 91cm で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土　６層に分層できる。掘り返されたような堆積状況から，人為堆積である。

遺物出土状況　土師器片３点（甕類）が出土しているが，第 455 号土坑に帰属するものが流れ込んだものと考

えられる。

所見　本跡から縄文時代の遺物は出土していないものの，形状から陥し穴と推定できる。後述するように，今回の調査区からは早期前半から後期の土器が散在しているが，本跡の詳細な時期は不明である。



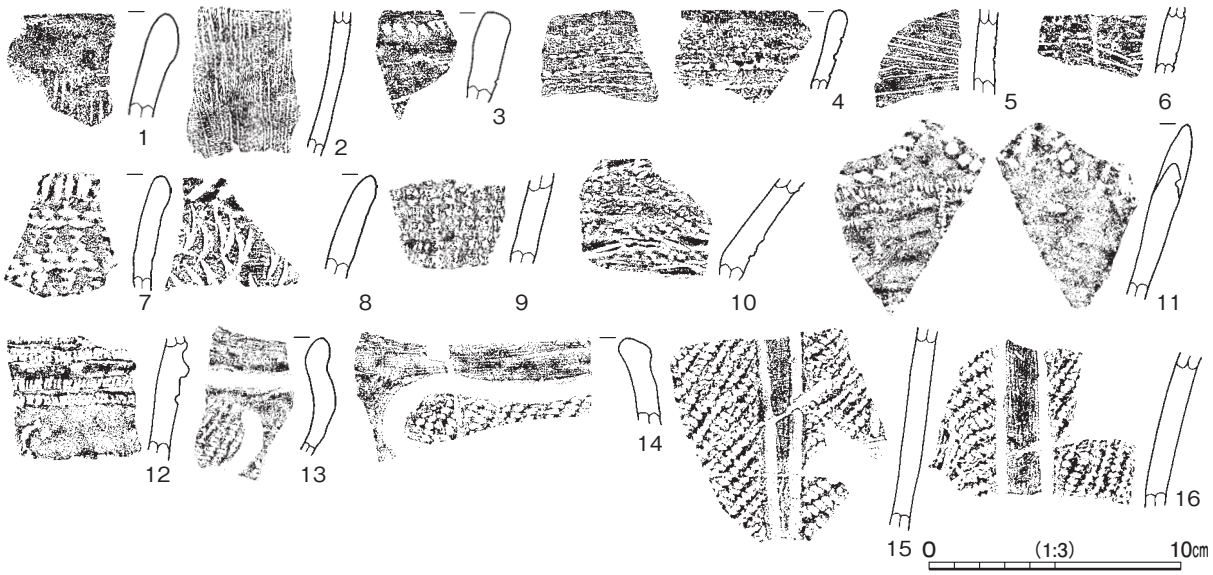
第６図　第 455・456 号土坑実測図

表２　縄文時代の陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
60	O 4 a7	－	不整円形	2.20 × 2.19	116	平坦	外傾	人為	土師器１，土師質土器１	本跡→ SD25
456	N 3 b8	N－81°－E	不整楕円形	2.22 × 1.41	91	平坦	外傾	人為	土師器３	本跡→ SK455

(2)　遺構外出土の縄文土器　（第７・８図）

ここでは遺構確認時や当時代以降の遺構内から出土した縄文土器や石器について報告する。縄文土器は，今回報告の調査区全域から 184 点出土している。特にまとまるような地点はなく，遺物包含層も確認できなかった。ただし陥し穴と考えられる土坑が存在すること，縄文土器の一定量の出土が認められることなどから，本来的にはある程度の遺構が存在し，古墳時代以降の多数の遺構の構築の際に破壊されたものと考えられる。出土している縄文土器の時期は早期前半から後期前葉までで，特に後期初頭から前葉にかけてが多いようである。以下に主な遺物について図と観察表を，時期別の出土位置については表で提示する。



第７図　縄文土器実測図（１）

第８図　縄文土器実測図（２）

表３　遺構外出土縄文土器観察表（１）（第７・８図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	時　期
1	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	口縁部に肥厚する無文帯　撚糸文Ｒ施文	Ｏ２c0	稲荷台式 PL58
2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	胴部片　撚糸文Ｒ施文	Ｏ５j1	稲荷台式 PL58
3	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	角頭状の口唇部にキザミ	地点不明	田戸下層式ヵ PL58
4	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	押し引き文　５・６と同一	地点不明	浮島Ⅱ式 PL58
5	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	斜行沈線文→横位沈線　４・６と同一	地点不明	浮島Ⅱ式 PL58
6	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	上端に押し引き文　下位に横位沈線と斜行沈線　４・５と同一	地点不明	浮島Ⅱ式
7	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	貝殻腹縁による連続波状文	Ｐ３e0	浮島Ⅱ式 PL58
8	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	貝殻腹縁による連続波状文	Ｐ３e8	浮島Ⅱ式 PL58
9	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	貝殻腹縁文ヵ	地点不明	浮島Ⅱ式 PL58
10	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	RL 縄文→浮線文	Ｐ３e7	諸磯ｂ式 PL58
11	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	口縁部外・内面竹管状工具による刺突文　体部細い棒状工具による刺突文	Ｏ３h1	中期初頭ヵ PL58
12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	隆帯脇にキャタピラ文	Ｎ４i2	勝坂Ⅲ式 PL58
13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	LR 縄文→沈線文	地点不明	加曽利ＥⅢ式 PL58
14	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	LR 縄文→沈線文	Ｐ４i7	加曽利ＥⅢ式 PL58
15	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	RL 縄文→沈線間磨き　16 と同一ヵ	地点不明	加曽利ＥⅡ式 PL58
16	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	RL 縄文→沈線間磨き　15 と同一ヵ	Ｐ４g6	加曽利ＥⅡ式 PL58
17	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口縁部に無文帯　LR 縄文	地点不明	加曽利ＥⅣ式 PL58
18	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	微隆起文貼付→ LR 縄文	Ｏ３h5	加曽利ＥⅣ式 PL58
19	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	無節Ｒ縄文施文	地点不明	中期後半 PL58
20	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	櫛歯状工具による条線文	Ｍ４h1	中期末～ 後期初頭
21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	LR 縄文→沈線文	地点不明	加曽利ＥⅠ式 PL58

表４　遺構外出土縄文土器観察表（２）（第８図）

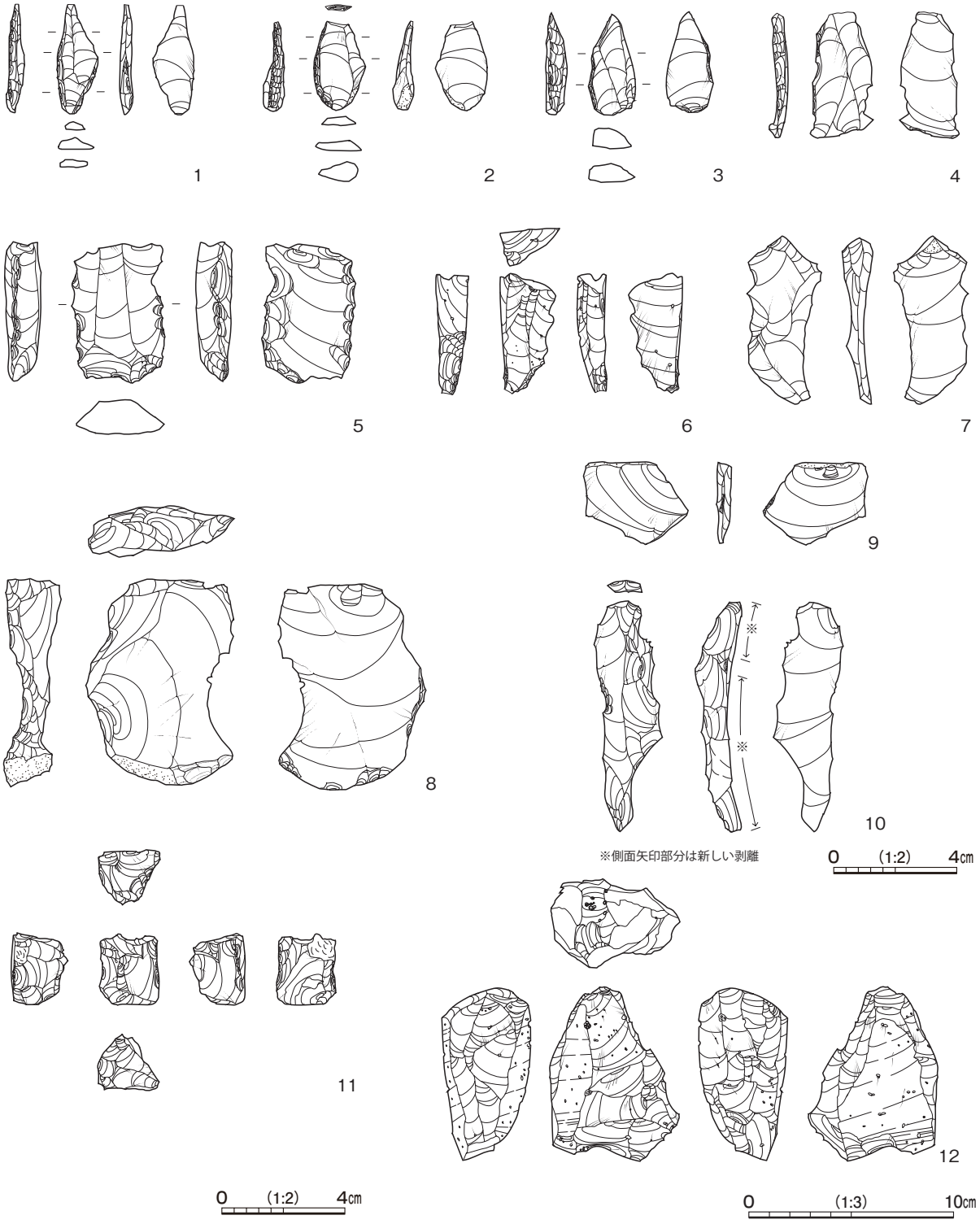
番号	種　別	器種	胎　　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	時　期
22	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	沈線による懸垂文	Ｎ３a5	後期前半
23	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	LR 縄文→懸垂文	地点不明	堀之内１式 PL58
24	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	沈線間刺突文	Ｏ３h3	称名寺Ⅱ式 PL58
25	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	沈線施文後磨き	地点不明	堀之内１式
26	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	LR 縄文充填	地点不明	称名寺Ⅰ式 PL58
27	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	櫛歯状工具による条線文充填	地点不明	称名寺Ⅱ式 PL58
28	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	両耳壺　橋状把手	Ｐ３b0	後期初頭
29	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	LR 縄文→沈線文	Ｐ５e2	堀之内１式 PL58
30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	刻みを有する隆帯貼付	Ｐ３h0	堀之内１式 PL58
31	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	格子目文	地点不明	後期前半
32	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	櫛歯状工具による短い条線文充填	Ｎ４b2	称名寺Ⅱ式
33	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	RL 縄文→沈線文	Ｐ４b0	加曽利Ｂ１式 PL58

表５　遺構外出土縄文土器型式別出土地点集計表

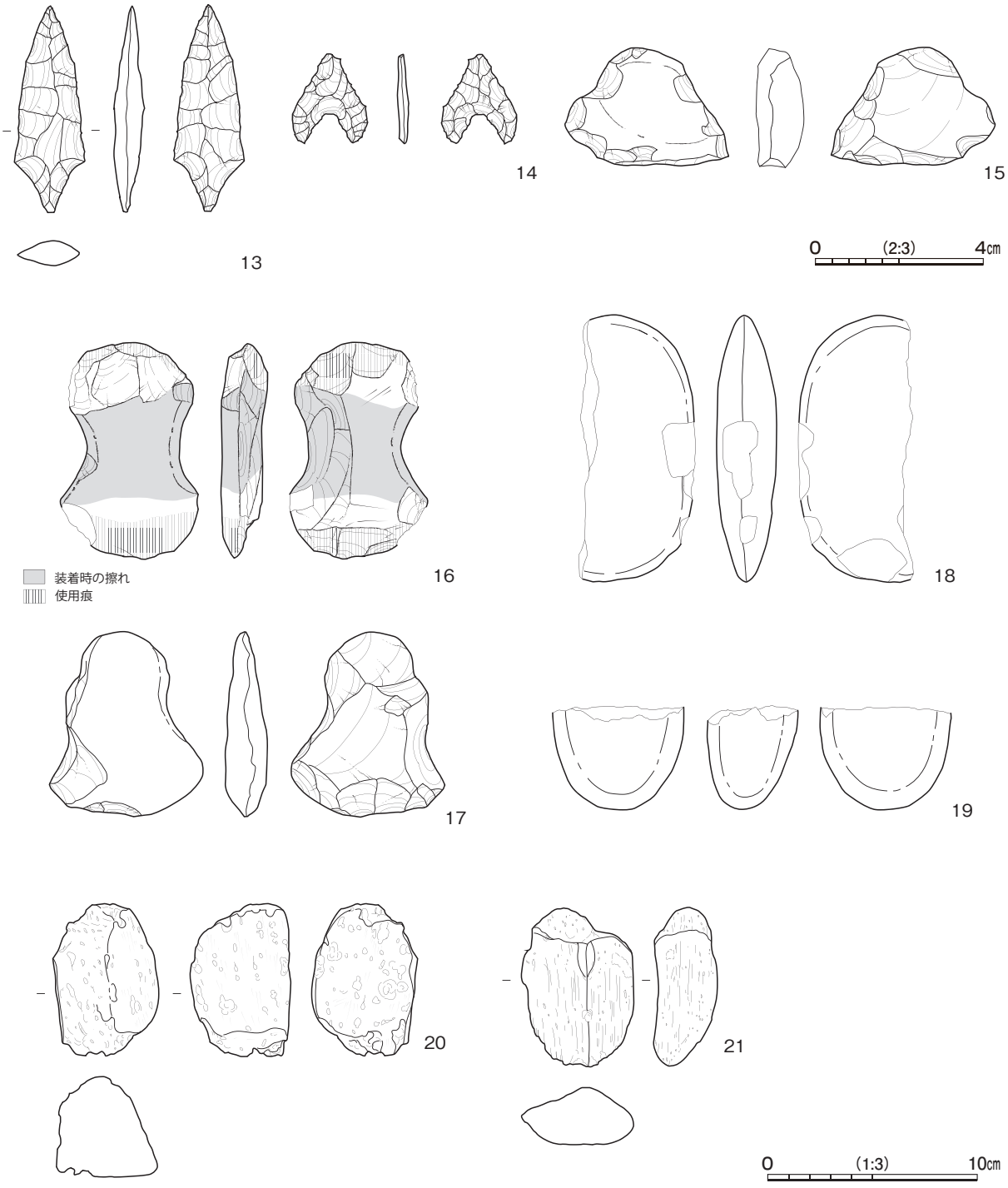
	早期 撚糸文系	早期 沈線文系	早期 条痕文系	前期 羽状縄文系	諸磯式	浮島式	勝坂・阿玉台式系	加曽利ＥⅠ・Ⅱ式	加曽利ＥⅢ・Ⅳ式	中期	称名寺Ⅰ式	称名寺Ⅱ式	堀之内１式	後期前葉	加曽利Ｂ１式	後期中葉	不明	合計
M3h9	1											1		2				4
M4g2										1								1
M4h1											1			8				9
N2b3												1						1
N2f7														2				2
N2g9														1				1
N2h7														1				1
N3a5									2	2			1	4				9
N3b4														1				1
N3b8										1				1				2
N3b9								1										1
N3c7												1						1
N3g1									1									1
N3h1			1	1														2
N3i5						1												1
N3j0										1								1
N3j2											1							1
N4b2												1		1				2
N4i2	1						1											2
O2a7													1					1
O3e1											1							1
O3g7											1	1		1				3
O3h1														1			2	3
O3h3												2						2
O3h5									1									1
O3h9														1				1
O4d3	2																	2
O4f3														1				1
O4j6														1				1
O5j1	1																	1
P3a8														4				4
P3b0											1	1		1				3
P3b6												1						1
P3c0											1			1				2
P3c8												2		3				5
P3c9																	1	1
P3e0						2						1						3
P3e7					2													2
P3e8						1												1
P3h0						1							1					2
P4b0															1			1
P4b6											1							1
P4c2											1			1				2
P4d0	1												1					2
P4e0			1															1
P4e1			1					1		1								3
P4e4									1	1								2
P4f6															1	1		2
P4g6								2						1				3
P4i7									1									1
P5d3													2					2
P5e2										1			1			1		3
Q4c7										1								1
地点不明	2	2	1			6	1	7	5	1	5	10	8	27			1	76
合計	8	2	4	1	2	11	2	11	11	10	13	22	15	64	2	2	4	184

⑶　遺構外出土の旧石器・縄文時代の石器

当時代の石器 97 点を竪穴建物跡などの遺構内及び調査区内の表面採集として確認した。以下 1 ～ 12（旧石器時代），13 ～ 21（縄文時代）については実測図及び一覧表を，22 ～ 97（旧石器・縄文時代）の剥片類は一覧表のみを掲載する。



第９図　旧石器・縄文時代の石器実測図（１）



第 10 図　旧石器・縄文時代の石器実測図（2）

表6　旧石器・縄文時代の石器観察表（1）（第9図）

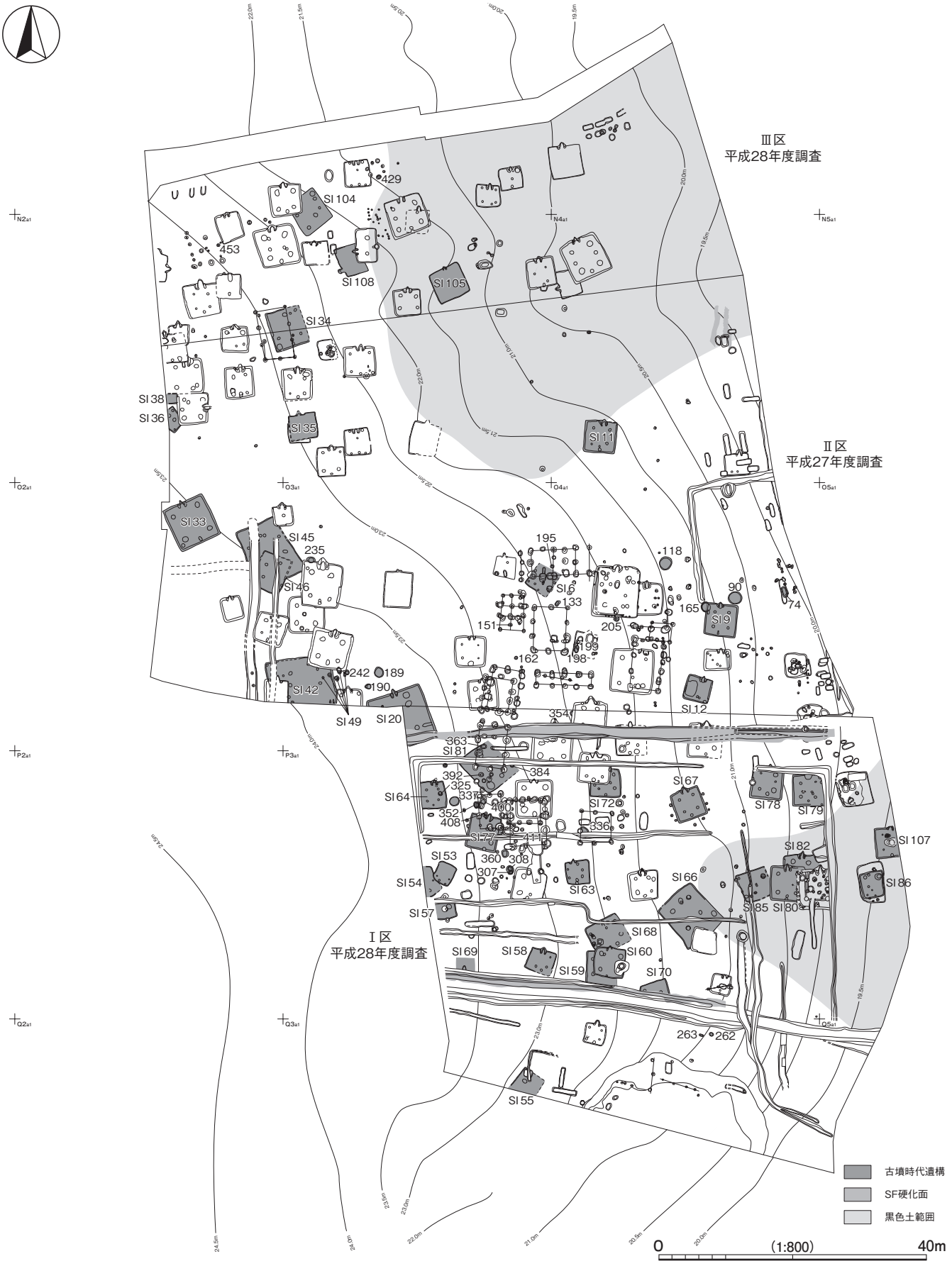
番号	器　種	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重量	材　質	特　徴	出土地点	出土遺構	備考
1	ナイフ形石器	36.00	14.00	4.00	1.82	玉髄	側縁部調整	O2c0	SI45	PL58
2	ナイフ形石器	29.00	17.00	7.00	2.67	瑪瑙	側縁部調整　先端部折れ	P2i7 ～ Q4a3	SD32	PL58
3	ナイフ形石器	33.00	16.00	7.00	4.00	瑪瑙	縦長剥片　右側縁部に調整剥離	O2d9 ～ O2h9	SD28	
4	サイドスクレイパー	41.00	20.00	6.00	4.40	玉髄	縦長剥片　右側縁部に二次加工	O2d9 ～ O2h9	SD28	
5	スクレイパー	46.00	30.00	12.00	19.95	頁岩	両面の側縁部に連続する調整剥離	P3e0	SI61	PL58

表７　旧石器・縄文時代の石器観察表（２）（第９・10図）

番号	器　種	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量	材　　質	特　　徴	出土地点	出土遺構	備考
6	剥片	39.00	18.00	10.00	6.69	黒曜石（高原山）	縦長剥片　打面部折れ	O4c5	SK118	
7	剥片	55.00	19.00	9.00	8.05	瑪瑙	縦長剥片　一部自然面を残す　端部折れ	O3g2	SI41	
8	剥片	67.00	48.00	17.00	41.95	瑪瑙	横長剥片　自然面を一部残す　左側縁部に剥離	O3g2	SI41	
9	剥片	27.00	35.00	5.00	3.84	グリーンタフ	剥離打面　レキ面打面　玉造り関連か	P3h8 ～ Q4e1	SD40	
10	剥片	75.00	23.00	15.00	14.34	瑪瑙	縦長剥片　右側縁部に調整痕	O2d9 ～ O2h9	SD28	
11	石核	23.00	20.00	18.00	8.94	瑪瑙	角柱状の小形な石核	N2e6	SI40	
12	石核	85.06	63.23	43.13	209.38	黒曜石（高原山）	剥片素材　剥離面風化	－	HS-1	
13	有舌尖頭器	49.20	17.30	7.20	4.26	黒色ガラス質安山岩	両面調整　全面風化	P4b5	HD	PL58
14	石鏃	21.11	18.02	3.00	0.79	黒曜石（信州産カ）	凹基無茎鏃　両面押圧剥離	O4h6	SI12	PL58
15	楔カ	38.00	28.25	10.03	12.76	チャート	未製品カ	P5c2	HD	PL58
16	打製石斧	101.00	62.00	22.00	174.23	デイサイト	分銅形　両面剥離調整・研磨	P2i7 ～ Q4a3	SD32	PL58
17	打製石斧	87.00	74.00	20.00	120.18	硬砂岩	分銅形　剥離調整　自然面を残す	－	HD	PL58
18	磨石	126.00	(55.00)	28.00	(212.26)	安山岩	全面研磨痕　左部欠損	Q3b5 ～ Q3e8	SX4	PL58
19	磨石	(49.03)	(62.00)	(43.44)	(158.98)	安山岩	全面研磨痕　下部欠損	P5e2	HD	PL58
20	磨石	72.10	50.00	47.20	47.84	軽石	全面研磨痕	－	HD	PL58
21	磨石	74.06	53.08	30.00	29.54	軽石	全面研磨痕	O4e4	SI15	
22	微細剥離のある剥片	16.41	8.33	4.26	0.57	黒曜石（高原山）	縦長剥片　端部折れ	N4i2	SI11	
23	剥片	34.49	18.94	6.53	3.68	黒曜石（高原山）	縦長剥片　ガジリ	O4d3	SI14	
24	剥片	20.76	25.60	4.85	2.49	黒色ガラス質安山岩	横長剥片　上部に自然面を残す　全面風化　風化度弱	O4d3	SI14	
25	剥片	34.16	19.38	4.97	2.81	チャート	縦長剥片	O4d3	SI14	
26	砕片	28.51	17.67	8.62	3.93	黒曜石（高原山）	砕片	O4d3	SI14	
27	微細剥離のある剥片	22.07	17.37	4.16	1.66	黒曜石（高原山）	右側～端部に微細剥離	O4e4	SI15	
28	剥片	25.15	12.84	11.24	3.24	黒曜石（高原山）	自然面を残す　下部折れ	O4e4	SI15	
29	剥片	15.63	17.46	3.94	0.87	黒曜石（高原山）	端部欠損	O4e4	SI15	
30	砕片	24.52	16.28	7.11	2.39	黒曜石（高原山）	顆粒多量	N3f3	SI22	
31	剥片	16.29	17.59	5.70	1.87	黒曜石（高原山）	下部折れ	N3f3	SI22	
32	剥片	16.17	13.88	2.80	0.45	黒曜石（高原山）	垂直折れ　調整剥片	O3h3	SI27	
33	剥片	37.14	19.87	3.00	2.31	瑪瑙	縦長剥片	O3h3	SI27	
34	剥片	30.86	25.74	3.17	1.68	瑪瑙	打点部側折れ	O3i2	SI28	
35	剥片	20.84	10.72	6.40	1.39	黒曜石（高原山カ）	剥片折れ	O2h0	SI29	
36	微細剥離のある剥片	23.63	17.61	6.94	2.05	玉髄	エンド側に微細剥離痕	O2a7	SI33	
37	剥片	22.22	23.22	3.22	1.63	瑪瑙	打点部側折れ	O3g2	SI41	
38	剥片	53.49	30.52	15.41	21.53	玉髄	縦長剥片　断面三角形　裏面両側縁部に連続する剥離調整　40と同一母岩	O2c0	SI45	
39	剥片	57.95	34.12	6.94	10.76	凝灰岩	横長剥片　縁辺部に剥離調整	O2c0	SI45	
40	剥片	49.68	26.62	11.17	14.19	玉髄	縦長剥片　断面三角形　裏面左側縁部に連続する剥離調整　38と同一母岩	O2c0	SI45	
41	剥片	29.52	13.92	4.66	1.79	黒曜石（高原山）	剥離調整　蝶番剥離	P4e1	SI62	
42	剥片	16.76	11.01	2.67	0.53	黒曜石（高原山）	縦長剥片　端部欠損　細石刃カ	P3b6	SI64	
43	剥片	37.54	24.19	7.62	5.35	黒色ガラス質安山岩	横長剥片　自然面を残す　全面風化	P3b0	SI71	
44	砕片	37.02	20.05	11.86	6.12	硬砂岩	自然面残る	P3b0	SI71	
45	剥片	40.56	27.57	13.71	11.81	黒色ガラス質安山岩	横長剥片　自然面を残す　全面風化　剥離面打面	P3b0	SI71	
46	剥片	58.36	18.59	12.67	12.81	黒色ガラス質安山岩	縦長剥片　自然面を残す	P3b0	SI71	
47	剥片	36.99	45.94	6.95	8.67	黒色ガラス質安山岩	横長剥片	P3b0	SI71	
48	剥片	20.55	18.21	5.37	2.04	チャート	裏面右側縁部に剥離痕	P4a2	SI73	
49	剥片	22.06	14.75	2.68	0.81	黒曜石（高原山）	端部折れ	O3j0	SI74	
50	剥片	25.73	17.85	6.55	2.24	黒曜石（高原山）	縦長剥片　打点部折れ	N2a0	SI98	
51	剥片	19.93	18.81	6.79	2.40	黒曜石（高原山）	垂直折れ	N4b2	SI103	

表８　旧石器・縄文時代の石器観察表（３）

番号	器　種	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量	材　　質	特　　徴	出土地点	出土遺構	備考
52	剥片	31.97	21.09	4.55	3.10	黒曜石（高原山）	背面レキ面　折れ	O4f4	SB4	
53	剥片	23.56	15.79	6.39	1.97	黒曜石（高原山）	縦長剥片　端部欠損	O4f4	SB4	
54	剥片	45.39	21.11	8.94	5.96	瑪瑙	縦長剥片	O3h8.h9	SB6	
55	剥片	31.32	20.01	12.03	4.73	黒色ガラス質安山岩	自然面を残す	O3h8.h9	SB12	
56	剥片	38.76	17.08	8.44	3.68	黒曜石（高原山）	縦長剥片	O3h8.h9	SB12	
57	剥片	37.31	29.50	11.10	9.27	デイサイト	自然面を残す	O2i8 ～ P2a8	SB13	
58	剥片	18.93	17.17	5.42	1.74	黒曜石（高原山）	左側縁部に微細剥離痕	O4e5	SK123	
59	剥片	35.91	20.26	10.67	6.27	黒曜石（高原山）	縦長剥片	N4e7	SK148	
60	砕片	19.59	12.49	3.05	0.80	チャート	自然面を残す　小礫	P2i7 ～ Q4a3	SD32	
61	剥片	27.20	24.45	6.78	4.88	チャート	自然面を残す　左側摂理折れ	P2i7 ～ Q4a3	SD32	
62	剥片	23.29	11.86	4.87	1.42	黒曜石（高原山）	縦長剥片　端部欠損	P3b8 ～ P4j1	SD39	
63	剥片	17.46	11.62	2.79	0.44	黒曜石（高原山）	縦長剥片　端部欠損	P3h3	SE8	
64	剥片	22.48	18.75	6.85	2.58	黒曜石（高原山）	両極剥離　楔形石器カ	O2j5 ～ O4j1	SF6	
65	剥片	18.94	15.34	6.03	1.20	黒曜石（高原山）	矩形	O2j5 ～ O4j1	SF6	
66	剥片	15.67	14.30	2.84	0.64	黒曜石（高原山）	調整剥片　ポイントフレイクカ	O2j5 ～ O4j1	SF6	
67	剥片	50.27	58.55	15.07	45.32	黒色ガラス質安山岩	自然面を残す　側縁部に新しい欠	－	HD	
68	剥片	43.21	29.28	6.96	10.94	黒色ガラス質安山岩	縦長剥片　自然面を残す	－	HD	
69	剥片	45.18	29.75	14.75	16.70	瑪瑙	自然面を残す	－	HD	
70	剥片	52.65	44.41	13.31	21.70	黒色ガラス質安山岩	礫面打面	－	HD	
71	剥片	33.84	13.53	8.08	2.84	黒曜石（高原山）	縦長剥片	－	HD	
72	剥片	23.71	20.89	4.52	1.97	黒曜石（高原山）	打点・末端折れ	P4b5	HD	
73	剥片	27.22	20.11	7.07	1.92	黒曜石（高原山）	剥離面打面　端部欠損	－	HD	
74	剥片	35.37	28.43	6.03	4.93	黒曜石（高原山）	打面調整剥片カ	O4b5	HD	
75	砕片	13.95	10.89	3.94	0.54	黒曜石（高原山）	砕片	N4i2	HD	
76	剥片	26.27	22.65	9.34	5.57	黒曜石（高原山）	打点部欠け	－	HD	
77	剥片	40.26	31.30	9.71	11.84	黒曜石（高原山）	縦長剥片　端部欠損	O2i8 ～ P2a8	HD	
78	砕片	41.56	25.16	18.31	12.99	黒色ガラス質安山岩	自然面を残す	O3g7	HD	
79	剥片	25.12	19.76	3.94	1.47	黒曜石（高原山）	打面調整剥片	N4i2	HD	
80	剥片	38.20	41.81	9.71	11.03	流紋岩	表面縁辺部に自然面を残す	－	HD	
81	剥片	41.24	16.84	4.62	3.51	チャート	縦長剥片	P5c2	HD	
82	剥片	27.38	19.24	7.11	3.53	石英	打面調整剥片	P5e2	HD	
83	剥片	26.64	17.87	9.79	2.57	黒曜石（高原山）	縦長剥片	－	HS	
84	剥片	20.58	19.30	10.47	2.02	黒曜石（高原山）	上部折れ　縦長剥片	－	HS	
85	剥片	16.67	9.52	4.83	0.76	黒曜石（高原山）	調整剥片	－	HS	
86	剥片	14.73	13.64	6.89	0.92	黒曜石（高原山）	調整剥片	－	HS	
87	剥片	24.01	10.56	2.97	0.81	黒曜石（高原山）	縦長剥片　左側縁部に微細剥離痕	－	HS	
88	剥片	15.84	15.57	6.83	1.18	黒曜石（高原山）	裏面に自然面を残す　調整剥片	－	HS	
89	剥片	20.46	12.53	2.46	0.57	チャート	調整剥片	－	HS	
90	剥片	38.68	20.81	4.22	3.38	頁岩	縁辺部欠け	－	HS	
91	石核	22.60	20.66	13.28	7.82	石英	角柱形の小石核状　火打石カ	N2g9	SI25	
92	石核	27.74	17.29	10.66	5.05	黒曜石	角錐状の小形な石核	O3g2	SI41	
93	石核	26.11	21.57	14.28	10.91	チャート	多方向からの剥離　角柱状の小形な石核	P3b0	SI71	
94	砕片	55.54	41.44	20.21	28.98	黒色ガラス質安山岩	自然面を残す	O3h8.h9	SB12	
95	石核	38.95	33.74	16.54	19.40	黒曜石（高原山）	剥離面打面からの矩形剥片剥離	－	HD	
96	石核	51.96	28.85	15.99	18.77	黒曜石（高原山）	打点側折れ	O4b5	HD	
97	剥片	53.05	50.96	14.70	41.60	砂岩	自然面を残す	O3j0	SI74	



第 11 図　古墳時代の遺構配置図（S = 1 ：800）

2　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡 41 棟，土坑 33 基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第６号竪穴建物跡（第 12 図）

位置　調査Ⅱ区中央部のＯ３d0 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 11 号掘立柱建物，第 192・197 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　確認面直下が床面であったことから，壁は南西コーナー部で確認できたのみである。ピットや炉の位置から，東西軸は 3.90 ｍ，南北軸は 3.60 ｍほどの方形と推定され，南北軸方向はＮ－ 32 °－Ｅである。壁は高さ８cm で，ほぼ直立している。

床　平坦で，炉の前面が踏み固められている。

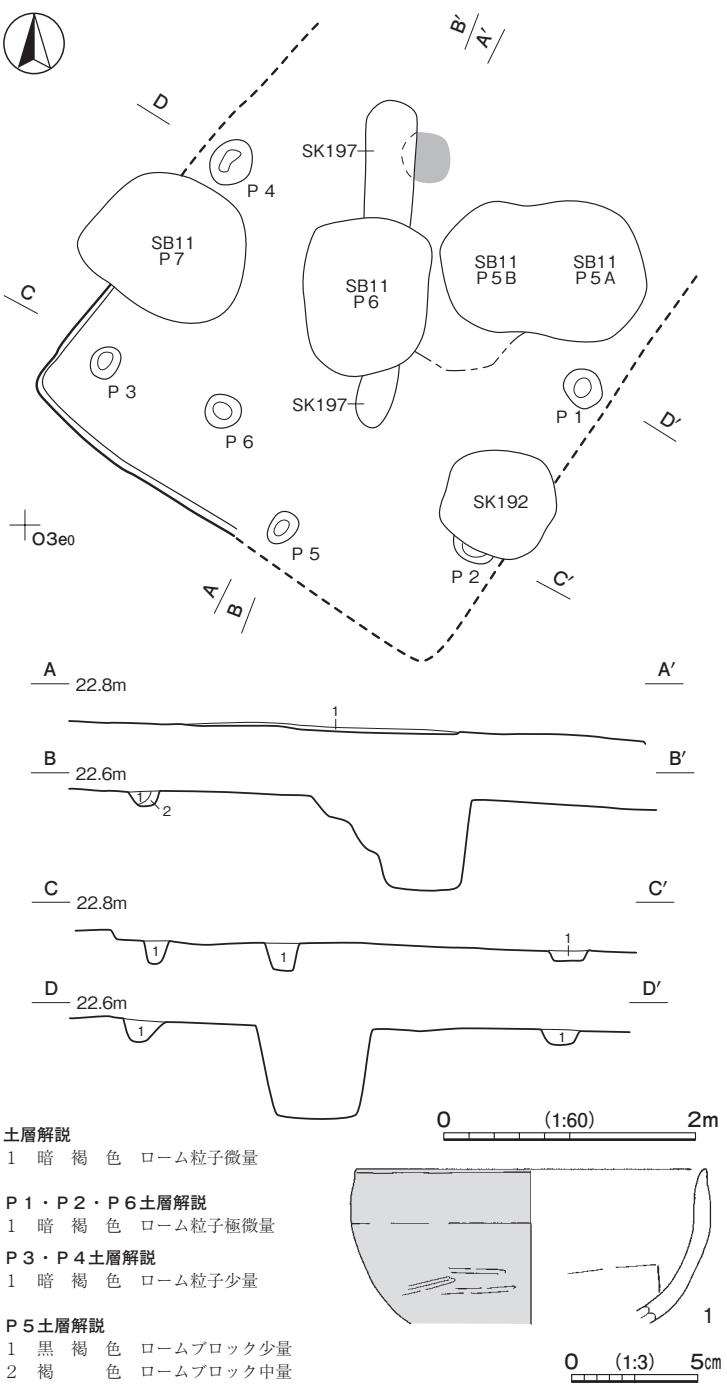
炉　削平のため，北部やや西寄り付近に火床面が確認できたのみである。

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は，深さ 10 ～ 22cm と浅いが，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 12cm で，規模と配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ 22cm である。

覆土　床面直上の一部の層が確認できたのみで，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片 35 点（坏５，椀３，高坏７，壺・甕類 20）のほか，須恵器片１点（蓋）が出土している。遺物は全体的に少ない。１は２区の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉に比定できる。



第 12 図　第６号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表９　第６号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 12 図）

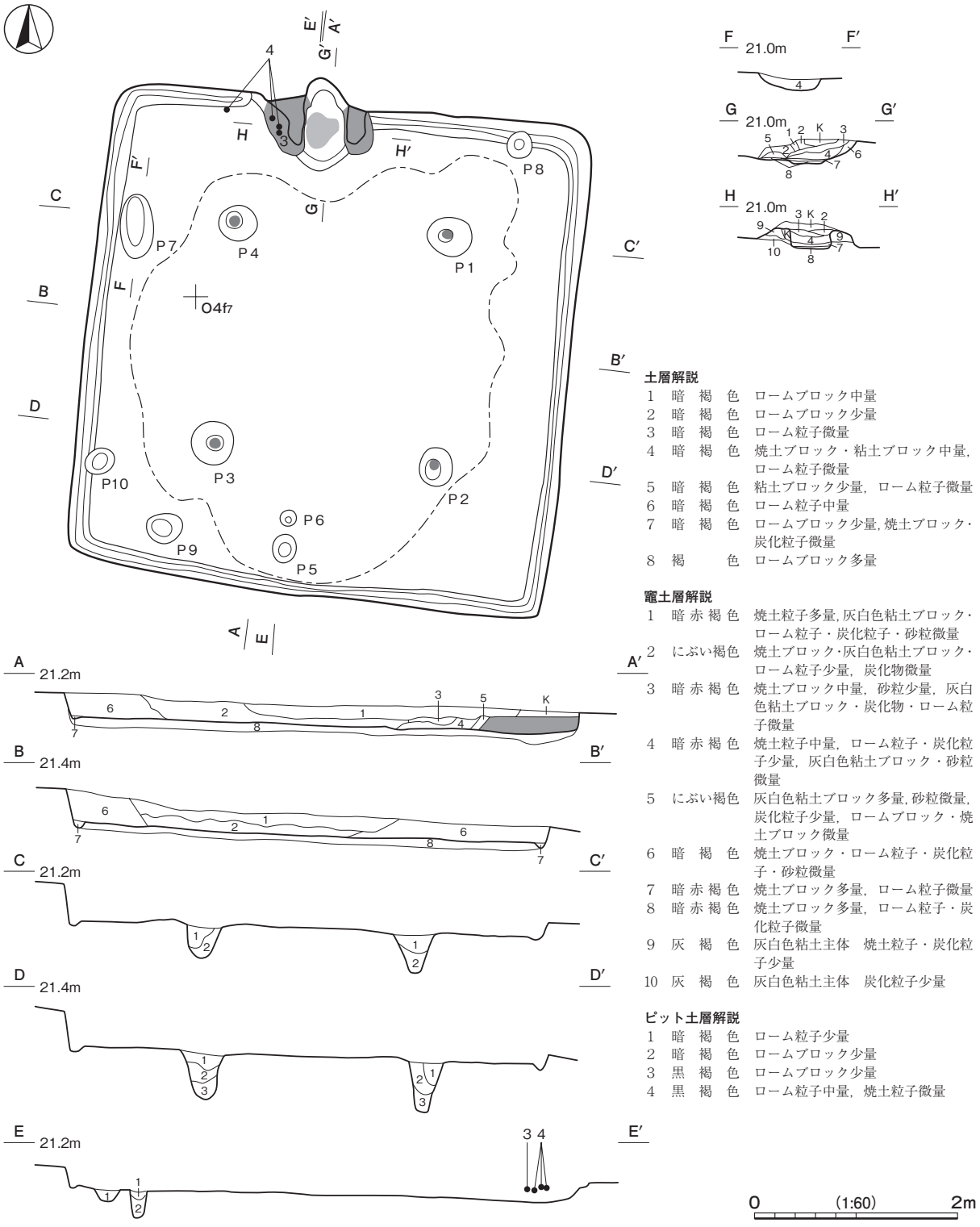
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	椀	［13.8］	(6.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ　体部外面一部ヘラ磨き　赤彩内面ヘラナデ	２区覆土中	20%

第９号竪穴建物跡（第 13・14 図　PL３）

位置　調査Ⅱ区東部のＯ４e7 区，標高 21.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 165 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 4.85 ｍ，短軸 4.77 ｍの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁は高さ 11 ～ 27cm で，直立している。



第 13 図　第９号竪穴建物跡実測図

床　平坦な貼床で，ロームブロックを多量に含む第８層を埋土して構築されている。中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

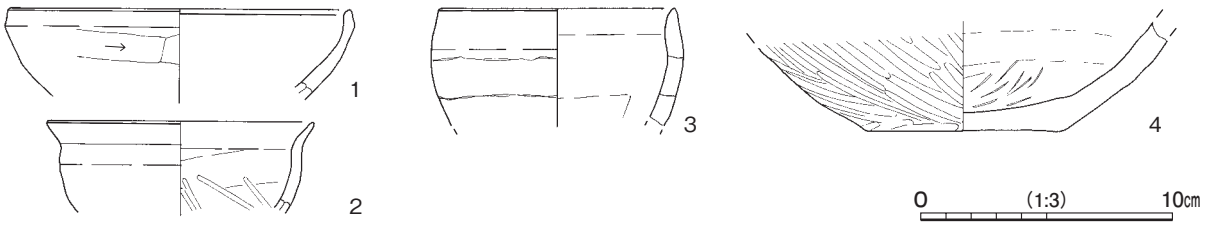
竈　北壁やや西寄りに付設されている。付設部分を 10cm ほど楕円形に掘りくぼめ，ロームブロックを含む褐色土を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 75cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外に 30cm 掘り込まれ，緩やかに外傾している。袖部は灰白色粘土主体の第９・10 層を積み上げて構築されている。第７・８層は燃焼部の堆積土で，床面から５～ 10cm 掘りくぼめられている。

ピット　10 か所。Ｐ１～Ｐ４は，深さ 35 ～ 52cm で，規模と配置から主柱穴である。底面に柱の当たりを確認した。Ｐ５・Ｐ６は深さ 10cm・30cm で，規模と配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ８～Ｐ 10 は，掘方の調査時に確認できたもので，Ｐ８は深さ 12cm，Ｐ９は深さ 10cm，Ｐ 10 は深さ９cm といずれも浅く，掘方の一部と考えられる。

覆土　７層に分層できる。ロームブロックを含む暗褐色土を主体とした層がレンズ状に堆積していることから，自然堆積である。粘土ブロックや焼土粒子を含む第４・５層は，竈の構築に関わる堆積土である。

遺物出土状況　土師器片 114 点（坏 20，椀５．高坏２，甕・壺類 87），須恵器片４点（壺１，鉢・甕類２，甑１）が出土している。遺物は北部（１・４区）の覆土上層からの出土が多い。１は北西部（４区）の覆土上層から，４は竈左袖近くの覆土下層から出土している。小片のため図化していないが，土師器の坏で，内面に細かい放射状のヘラ磨きが施されるものが４点ほど出土している。３は竈左袖付近の覆土下層から出土しているが，時期的にやや遡る可能性がある。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉から７世紀前葉に比定できる。



第 14 図　第９号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 10　第９号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 14 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	[13.4]	(3.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　破断面を砥石に転用	４区上層	10%
2	土師器	椀	[10.4]	(3.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ナデ　内面ヘラ磨き	４区下層	10% PL48
3	土師器	椀	[9.2]	(4.6)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ナデ　輪積み痕明瞭　内面ヘラナデ	２区上層	10%
4	土師器	甕	－	(4.3)	7.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部ヘラ磨き	４区下層	10%

第 11 号竪穴建物跡（第 15 ～ 17 図　PL３）

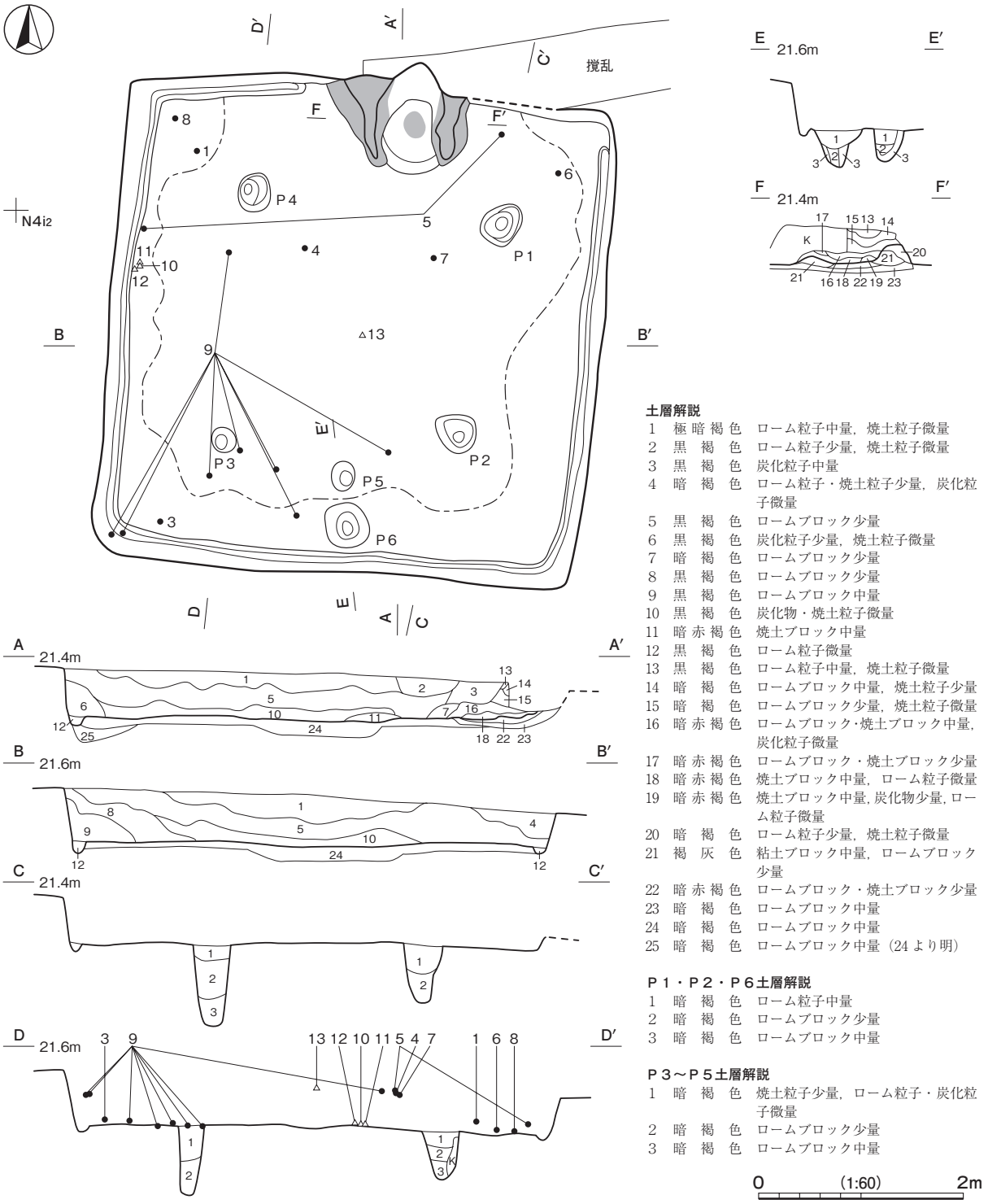
位置　調査Ⅱ区東部のＮ４i2 区，標高 21.5 ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　一辺 4.85 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｅである。壁は高さ 26 ～ 58cm で，直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，貼床はロームブロックをやや多く含む第 24・25 層を埋土して構築されている。掘方はコーナー部と中央部が不整形の土坑状に深く掘り込まれている。床面は壁際を除き，竈周辺から出入口部まで踏み固められている。北壁竈東側を除き壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘りくぼめ，ロームブロックをやや多く含む暗褐色土

を埋土して構築されているが，掘方の位置は実際の付設位置よりやや西側にずれており，煙道部の壁外への掘り込みの軸線とも不整合となっている。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部は壁外に 25cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第 16 ～ 22 層が竈に関連する堆積土で，竈の上部は削平により消失し，下部のみが残存している。袖部は灰白色粘土主体の第 21 層を積み上げて構築されている。第 18・22 層は燃焼部の堆積土で，床面から 10cm ほど掘りくぼめられている。第 23 層は掘方への埋土である。



土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量
9　黒　褐　色　ロームブロック中量
10　黒　褐　色　炭化物・焼土粒子微量
11　暗赤褐色　焼土ブロック中量
12　黒　褐　色　ローム粒子微量
13　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
16　暗赤褐色　ロームブロック･焼土ブロック中量，炭化粒子微量
17　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
18　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
19　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子微量
20　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
21　褐　灰　色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量
22　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
23　暗　褐　色　ロームブロック中量
24　暗　褐　色　ロームブロック中量
25　暗　褐　色　ロームブロック中量（24 より明）

Ｐ１・Ｐ２・Ｐ６土層解説

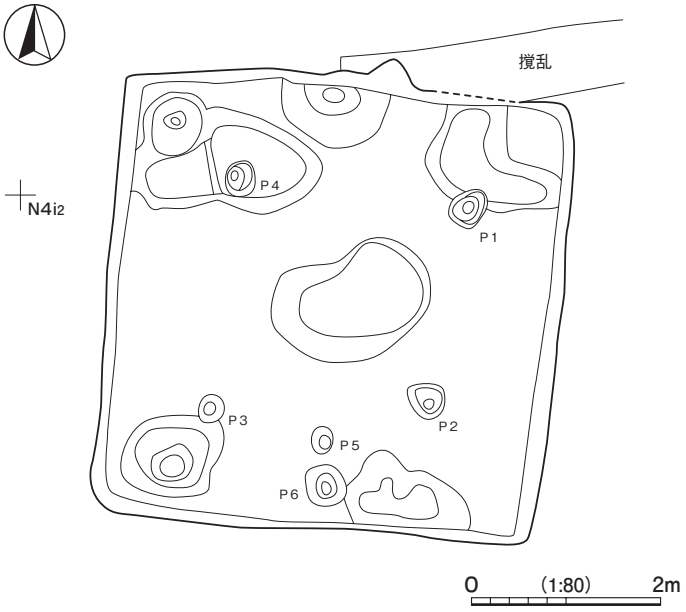
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

Ｐ３～Ｐ５土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

0　(1:60)　2m

第 15 図　第 11 号竪穴建物跡実測図



第 16 図　第 11 号竪穴建物跡掘方実測図

ピット　6 か所。Ｐ１～Ｐ４は，深さ 46 ～ 78cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６は深さ 32cm・38cm で，規模と配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　15 層に分層できる。ロームブロックを含む黒褐色土主体の層がレンズ状に堆積していることから，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 276 点（坏 46，甕類 230），須恵器片 13 点（坏１，高台付坏１，蓋５，壺類２，鉢・甕類４），土製品１点（支脚$_{カ}$），鉄製品４点（刀子１，閂$_{カ}$２，腰帯具１），鍛冶関連遺物（鉄滓 25.79 ｇ，鉄塊系遺物 23.11 ｇ），焼成粘土塊 169.4 ｇのほか，混入した縄文土器２点，剥片１点（黒曜石）が出土している。遺物は覆土上層から出土するものが多く，特に北西部（４区）に集中している。土師器が主体で，須恵器はわずかに出土するのみである。そのうち，東海系の須恵器壺が１点出土している。３・６・８・９は床面から出土している。８は北西コーナー部から破片で出土したが，ほぼ１個体に復元することができたので，本来はこの位置に置かれていたものと考えられる。12 は西壁際の床面から出土している。10 は閂と推定したが，全体は不明である。11 は 10 と同一地点から出土したことから 10 の一部と考えられるが，やや幅が狭いことなどから，別の製品，例えば鉄鏃の軸部分である可能性もある。

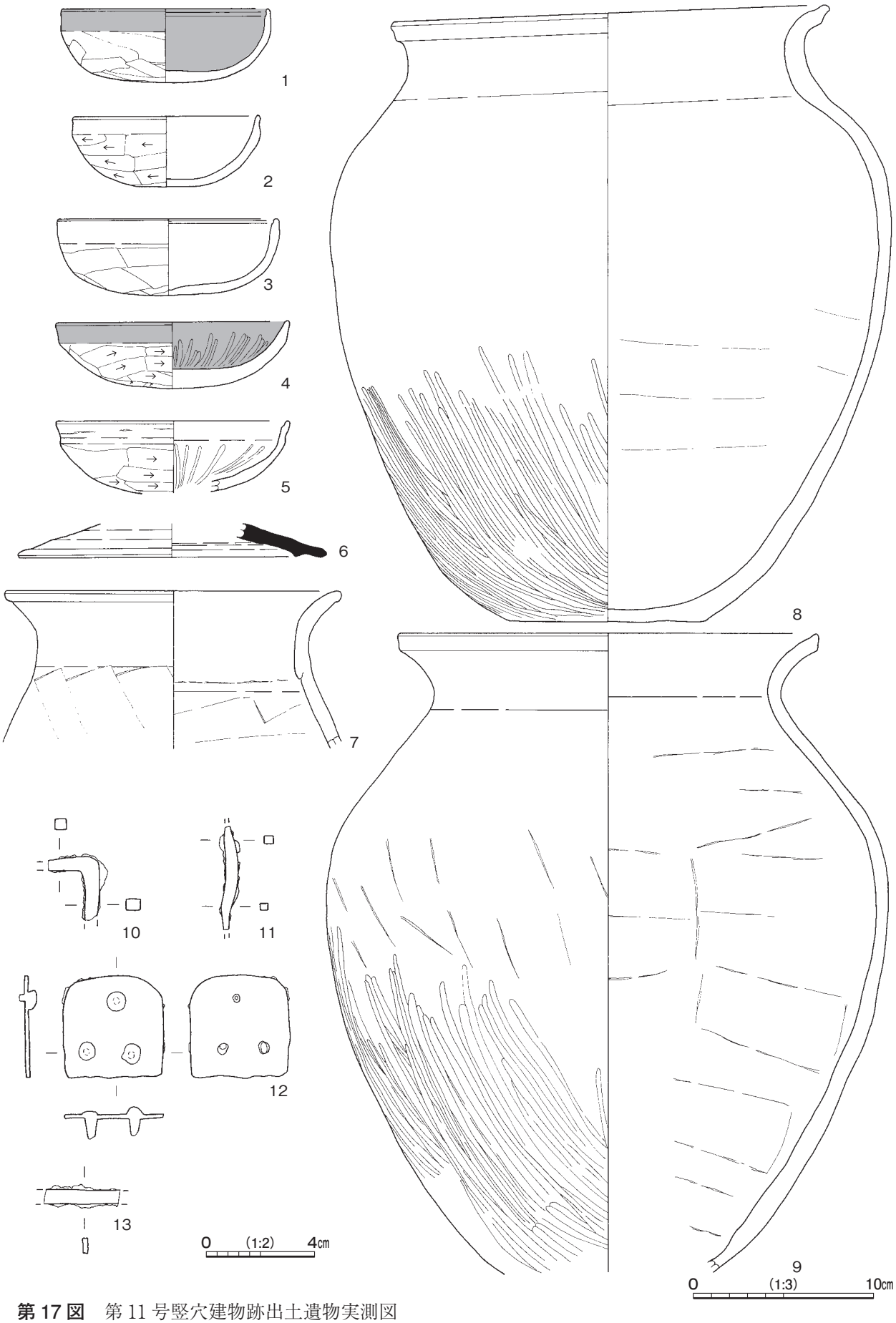
所見　時期は，出土土器から７世紀後葉に比定できる。

表 11　第 11 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 17 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	11.4	4.0	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　口縁部に沈線状の調整　外面口縁部・内面黒色処理	４区下層	100% PL32
2	土師器	坏	［10.2］	3.8	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ヘラナデ	２区３ｘ	40%
3	土師器	坏	［12.0］	4.2	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面口縁部横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ヘラナデ　口縁部に沈線状の調整　内面黒色処理$_{カ}$	３区床面 １区３ｘ	50%
4	土師器	坏	［12.8］	3.6	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　外面黒色処理　体部外面ヘラ削り　内面放射状の磨き　黒色処理	４区上層	50% PL32
5	土師器	坏	12.8	(3.9)	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面放射状の磨き	１区下層 ４区上層	50% PL32
6	須恵器	蓋	［17.2］	(1.8)	－	長石・雲母	灰白	普通	ロクロ成形	１区床面	15%新治窯
7	土師器	甕	［18.4］	(8.7)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	１区上層	10%
8	土師器	甕	23.8	34.0	10.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ナデ　下半部ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部ヘラ磨き	４区床面	90% PL32
9	土師器	甕	23.0	(35.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ナデ　下半部ヘラ磨き　内面ヘラナデ	３区床面 ４区上層	30% PL32

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
10	閂$_{カ}$	(2.3)	(1.9)	0.4	3.12	鉄	直角に屈曲する　断面は方形～長方形状	４区床面	PL53
11	閂$_{カ}$	(3.8)	0.6	0.3	2.28	鉄	10 と接点無し　閂の一部，あるいは鉄鏃の軸部$_{カ}$	４区床面	PL53
12	腰帯具	3.7	3.8	0.2	8.07	鉄	鉈尾　上位が丸みをおびる方形　鋲３か所で先端部は欠損	４区床面	PL53
13	刀子	(2.3)	0.6	0.2	1.57	鉄	茎部分　両端欠損	２区上層	PL53

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
14	支脚	－	－	(2.3)	42.38	長石	にぶい橙	底面が残存　推定径 4.0cm 前後　外面指頭ナデ調整	４区１ｘ	観察表のみ



第 17 図　第 11 号竪穴建物跡出土遺物実測図

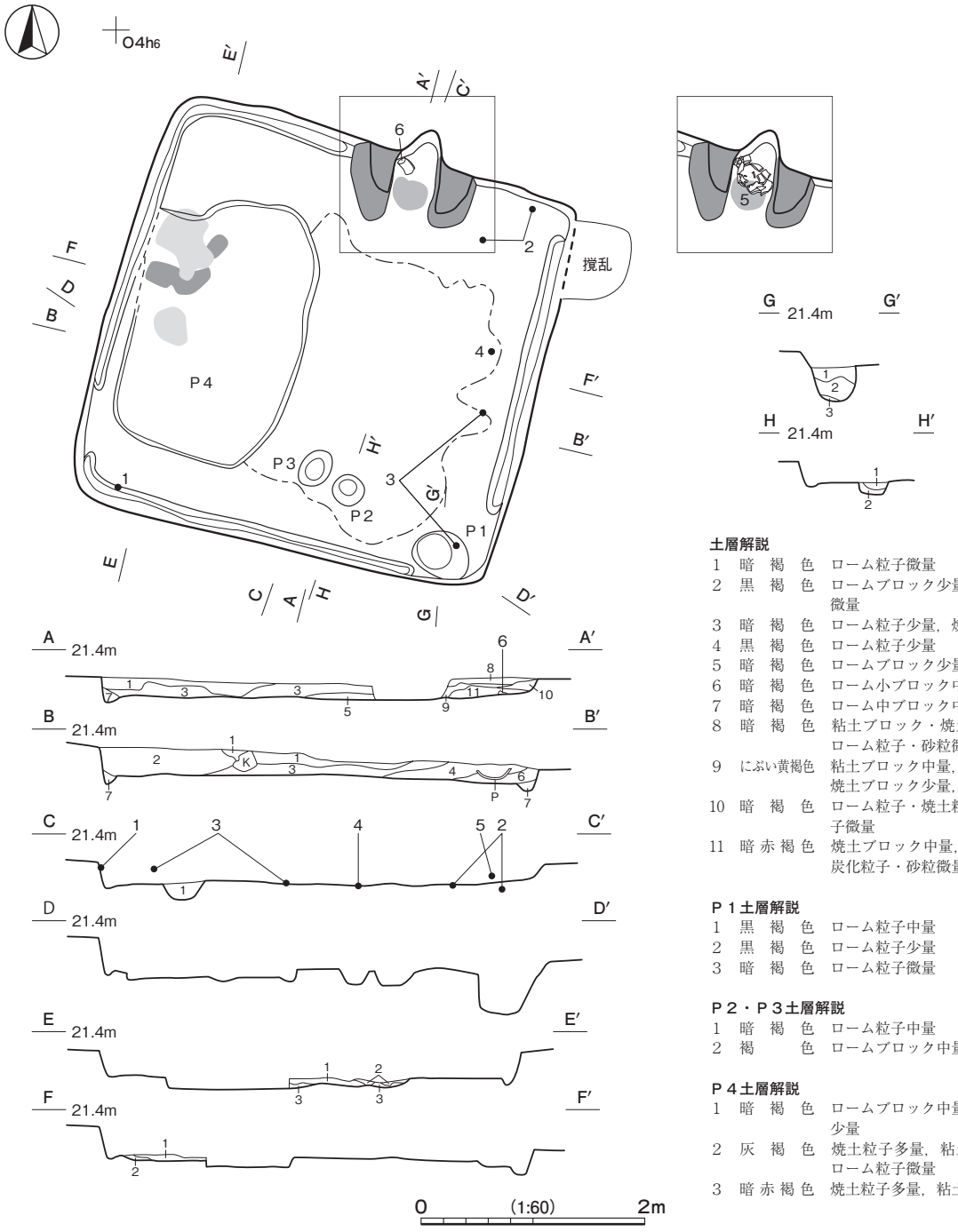
第 12 号竪穴建物跡（第 18 ～ 20 図　PL 4 ）

位置　調査Ⅱ区南東部のＯ 4 h6 区，標高 21.5 ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 3.88 ｍ，短軸 3.72 ｍの方形で，主軸方向はＮ － 17 ° － Ｅである。壁は高さ 21cm で，直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北東コーナー部，南東コーナー部及び西壁の一部を除き，壁溝が巡っている。

竈　北壁やや東寄りに付設されている。上部が削平されているため，床面から上位 20cm ほどが残存しているのみである。規模は焚口部から煙道部まで 95cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外に 30cm ほど掘



土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ローム小ブロック中量
7　暗　褐　色　ローム中ブロック中量
8　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土ブロック少量，ローム粒子・砂粒微量
9　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量，砂粒微量
10　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
11　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子・砂粒微量

Ｐ１土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量

Ｐ２・Ｐ３土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ロームブロック中量

Ｐ４土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
2　灰　褐　色　焼土粒子多量，粘土ブロック中量，ローム粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，粘土ブロック中量

第 18 図　第 12 号竪穴建物跡実測図

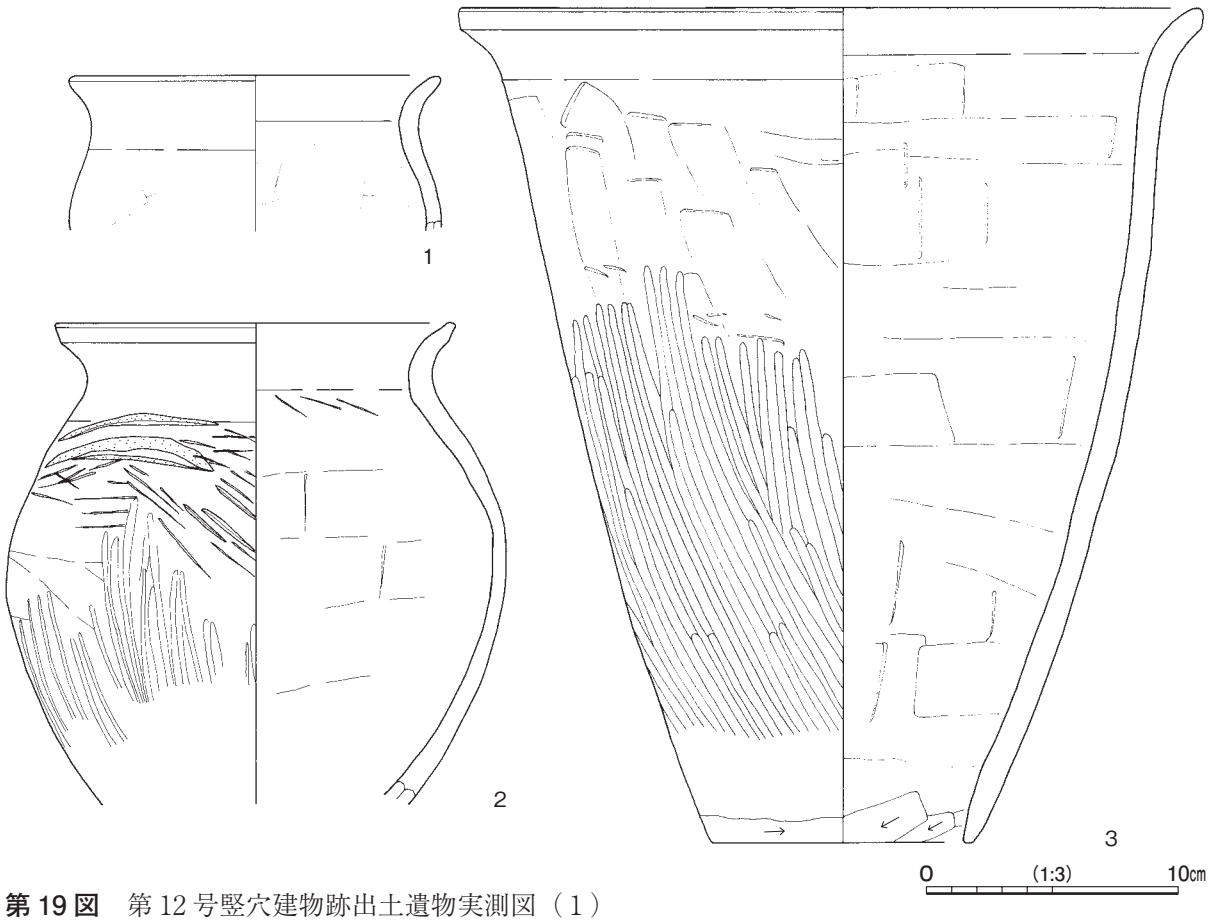
り込まれ，直立している。第８～ 11 層が竈に関連する堆積土で，袖部は灰白色粘土主体の層を直方体状に積み上げて構築されている。火床面上から土製支脚が，その上位から土師器甕が横位で出土している。

ピット　３か所。Ｐ２・Ｐ３は，深さ 14cm･15cm で，規模と配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１は長径 52cm，短径 40cm，深さ 34cm である。Ｐ４は長径 2.40 m，短径 1.54 mの楕円形で，床面からの深さは 10cm ほどで，硬化面を掘り込んでいるようにも見える。この北西部で，60 × 50cm，厚さ 10cm 程度，及び 35 × 30cm，厚さ 10cm 程度の焼土ブロック２か所と，80 × 30cm，厚さ５～８cm 程度の粘土ブロック１か所が確認できた。調査時にはこれらを竈構築材の一部と捉え，別の１棟の建物跡の重複を想定したが，覆土や床面等にその痕跡を捉えることはできなかった。ピットの覆土中にも焼土ブロックや粘土ブロックがやや多く含まれているが，底面が焼成により赤変硬化するような部分は見られなかった。ほかに遺物等の出土はなく，性格は不明であるが，何らかの作業に伴なう施設の可能性もある。

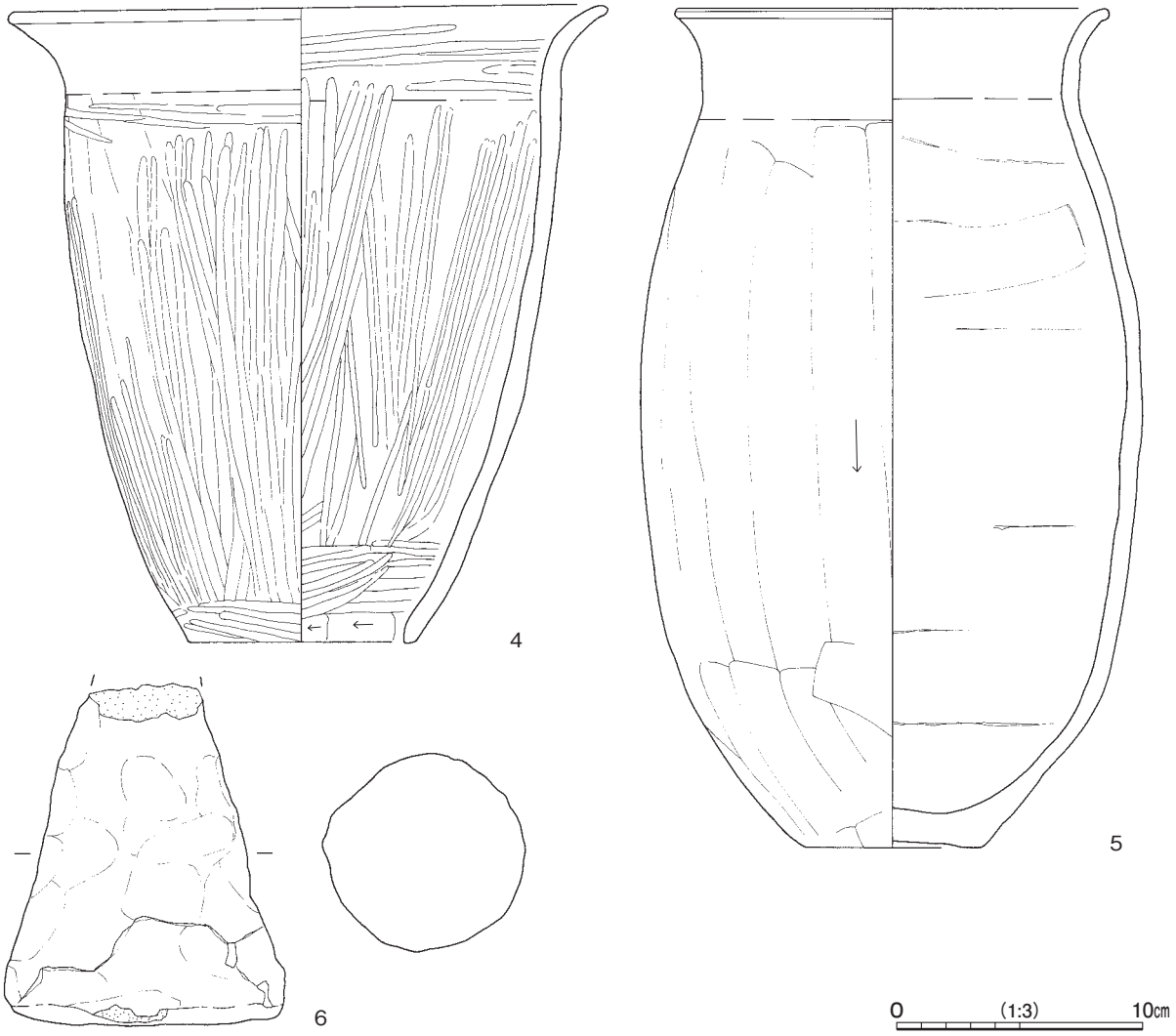
覆土　７層に分層できる。ローム粒子を少量含む暗褐色土を主体とした層がレンズ状に堆積していることから，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 154 点（坏･椀類 15，高坏１，壺･甕類 136，甑２），須恵器片５点（坏１，蓋１，鉢･甕類３），土製品１点（支脚），鍛冶関連遺物（椀状滓 152.34 ｇ，鉄滓 96.89 ｇ）のほか，石鏃１点（黒曜石），陶器片１点（鉢）が出土している。３・４は東部の床面から横位で出土している。２は北東コーナー部の床面から出土している。体部上位に金属の工具痕が多数あり，縦１cm, 横６cm の幅の貫通孔の断面は研磨されている。砥石として再利用したものと考えられる。５は約２分の１が残存するもので，竈の火床面上から横位で出土している。形状や覆土から搬入品と考えられる。その下から６の支脚が出土した。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉から中葉に比定できる。



第 19 図　第 12 号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）



第 20 図　第 12 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

表 12　第 12 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 19・20 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	甕	［14.6］	（6.1）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	３区上層	10%
2	土師器	甕	［15.8］	（18.9）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き　上半に研ぎ痕　破断面研磨　内面ヘラナデ	１区床面	60% PL32
3	土師器	甑	［29.2］	33.0	10.2	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半部ヘラ磨き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ　下端部ヘラ削り	２区床面	80% PL32
4	土師器	甑	24.0	25.8	9.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　内面横位のナデ後ヘラ磨き　体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き　内面ヘラ磨き　下端部ヘラ削り	１区床面	95% PL32
5	土師器	甕	［17.4］	33.9	7.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ　底部木葉痕	竈火床面	65% PL32

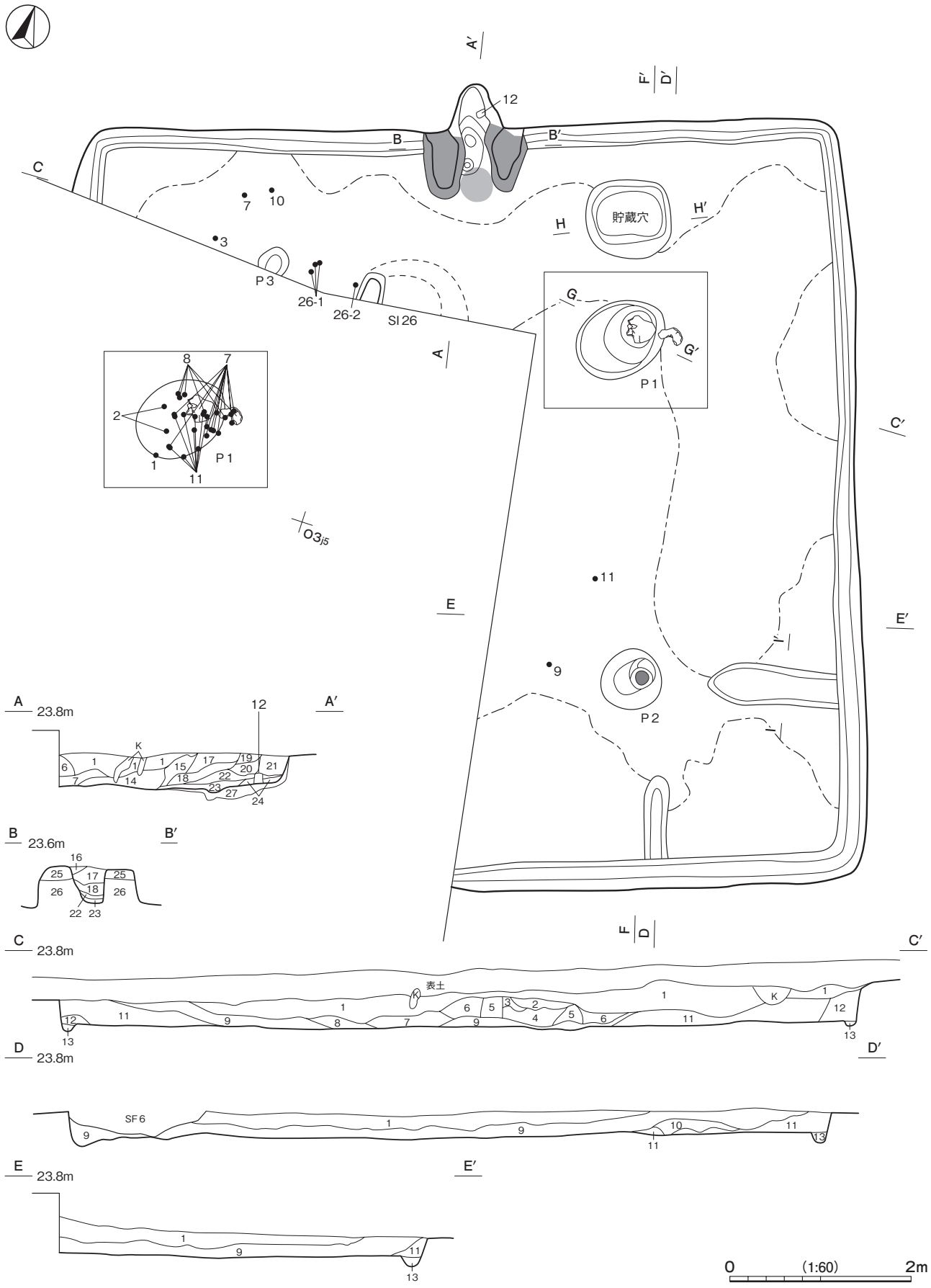
番号	器 種	最小径	最大径	高さ	重量	材 質	色 調	特 徴	出土位置	備 考
6	支脚	（4.6）	11.4	（13.8）	925	長石	にぶい褐	外面指頭による整形	竈火床面	PL47

第 20 号竪穴建物跡（第 21 ～ 24 図　PL５）

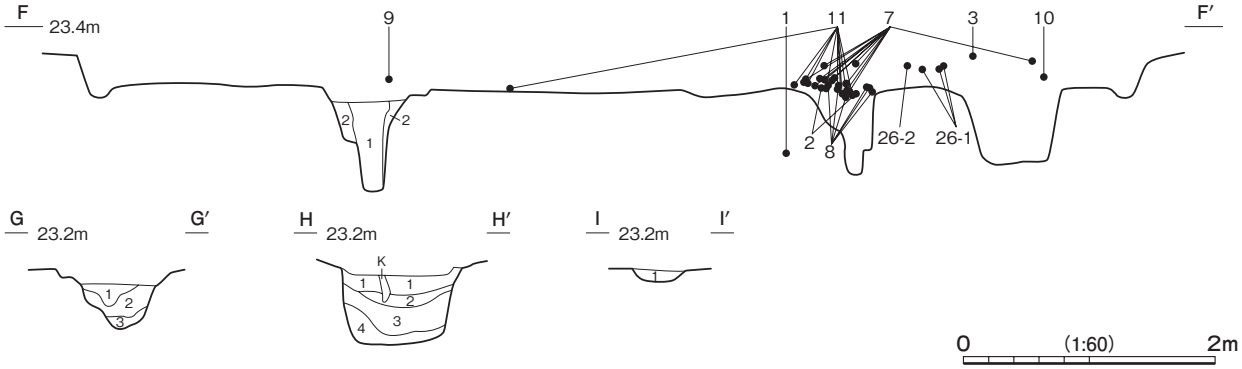
位置　調査Ⅱ区南部の O 3h5 区，標高 24 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 26 号竪穴建物，第 26 号溝，第６号道路に掘り込まれている。

規模と形状　南西部が調査区域外であるが，長軸 8.45 ｍ，短軸 8.42 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 18 °－ Ｗである。壁は高さ 25 ～ 32cm で，直立している。



第 21 図　第 20・26 号竪穴建物跡実測図（1）



土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　粘土ブロック中量
3　暗赤褐色　粘土ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土ブロック多量，粘土ブロック少量
5　灰　褐　色　粘土主体
6　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子中量，ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック微量
10　暗　褐　色　ローム粒子少量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
12　黒　褐　色　ローム粒子微量
13　褐　　色　ロームブロック中量
14　灰　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
16　暗　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
17　褐　　色　粘土主体
18　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土ブロック中量
19　暗　褐　色　粘土ブロック多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
20　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
21　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
22　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
23　褐　灰　色　灰主体　焼土ブロック中量
24　褐　　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
25　暗　褐　色　粘土ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子微量
26　灰　褐　色　粘土主体
27　褐　　色　掘方覆土

Ｐ１土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

Ｐ２土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　明　褐　色　ロームブロック多量

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック中量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック中量
3　褐　　色　ローム中ブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

間仕切り溝土層解説

1　褐　　色　ロームブロック多量

第 22 図　第 20・26 号竪穴建物跡実測図（２）

床　ほぼ平坦で，中央部を除く壁際が帯状に踏み固められている。確認できる範囲で，壁溝が全周している。南東コーナー部に幅 25 ～ 46cm，深さ５cm の間仕切り溝２条を確認した。

竈　北壁のほぼ中央部付近に付設されている。付設する部分を楕円形状に掘り込み，褐色土の第 27 層で埋土して構築している。規模は焚口部から煙道部まで 130cm で，燃焼部幅は 45cm である。煙道部は壁外に 55cm ほど掘り込まれ，外傾している。竈に関連する土層は第 14 ～ 26 層で，袖部は粘土主体の第 25・26 層を積み上げて構築されている。第 23 層は燃焼部の堆積土で，床面から５cm ほど掘りくぼめられた火床部には，灰が厚く堆積している。壁外の煙道部上に支脚が残存している。

ピット　３か所。Ｐ１は深さ 65cm，Ｐ２は深さ 85cm で，規模や形状から主柱穴である。Ｐ３は深さ 10cm で補助的な柱穴の可能性がある。

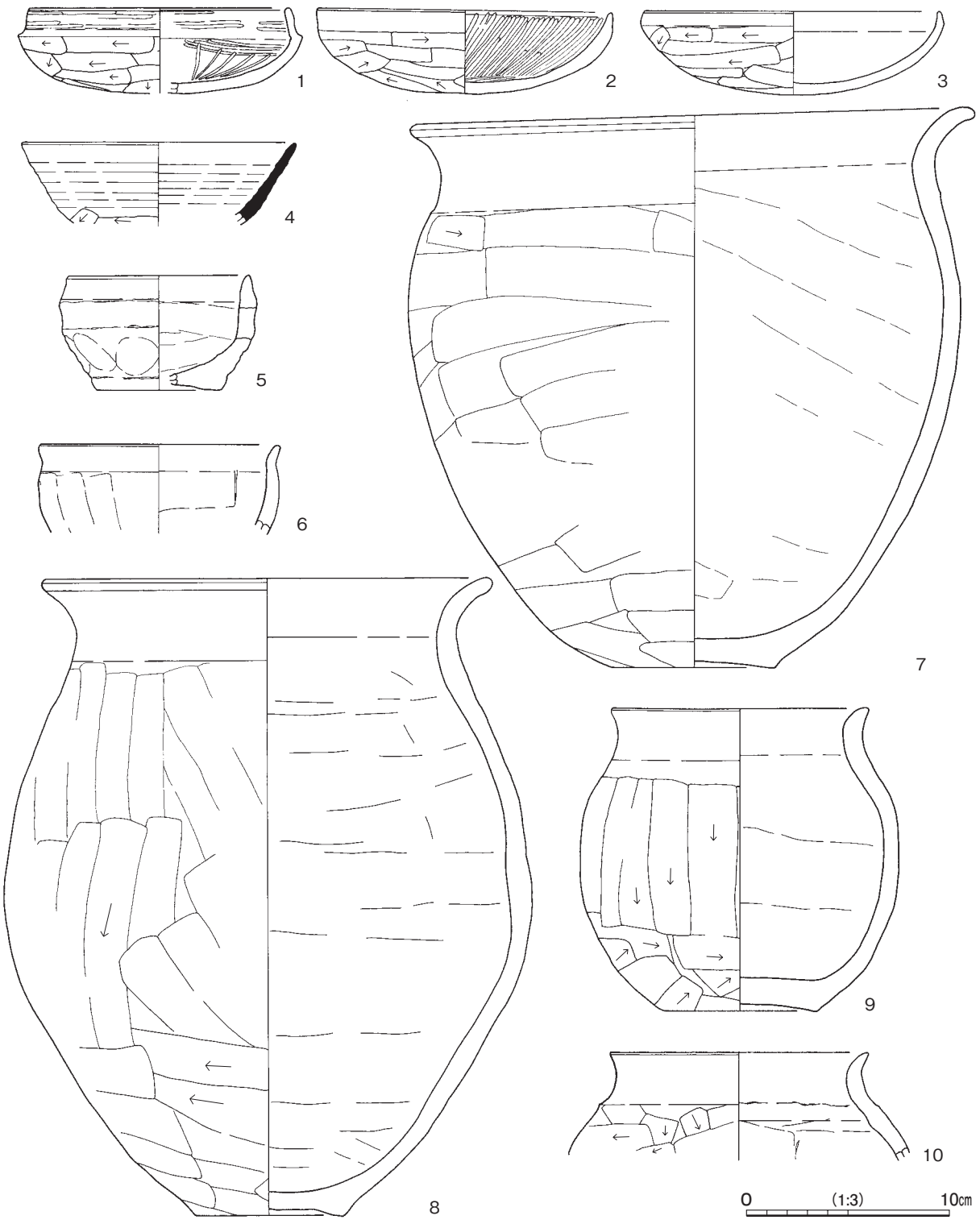
貯蔵穴　北東コーナー部に付設されている。長軸 97cm，短軸 87cm の隅丸長方形で，深さは 62cm である。底面は平坦で，壁は直立している。下層にロームブロックがレンズ状に堆積している。

覆土　第７～ 13 層の７層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第１～６層は重複する第 26 号竪穴建物跡の覆土である。

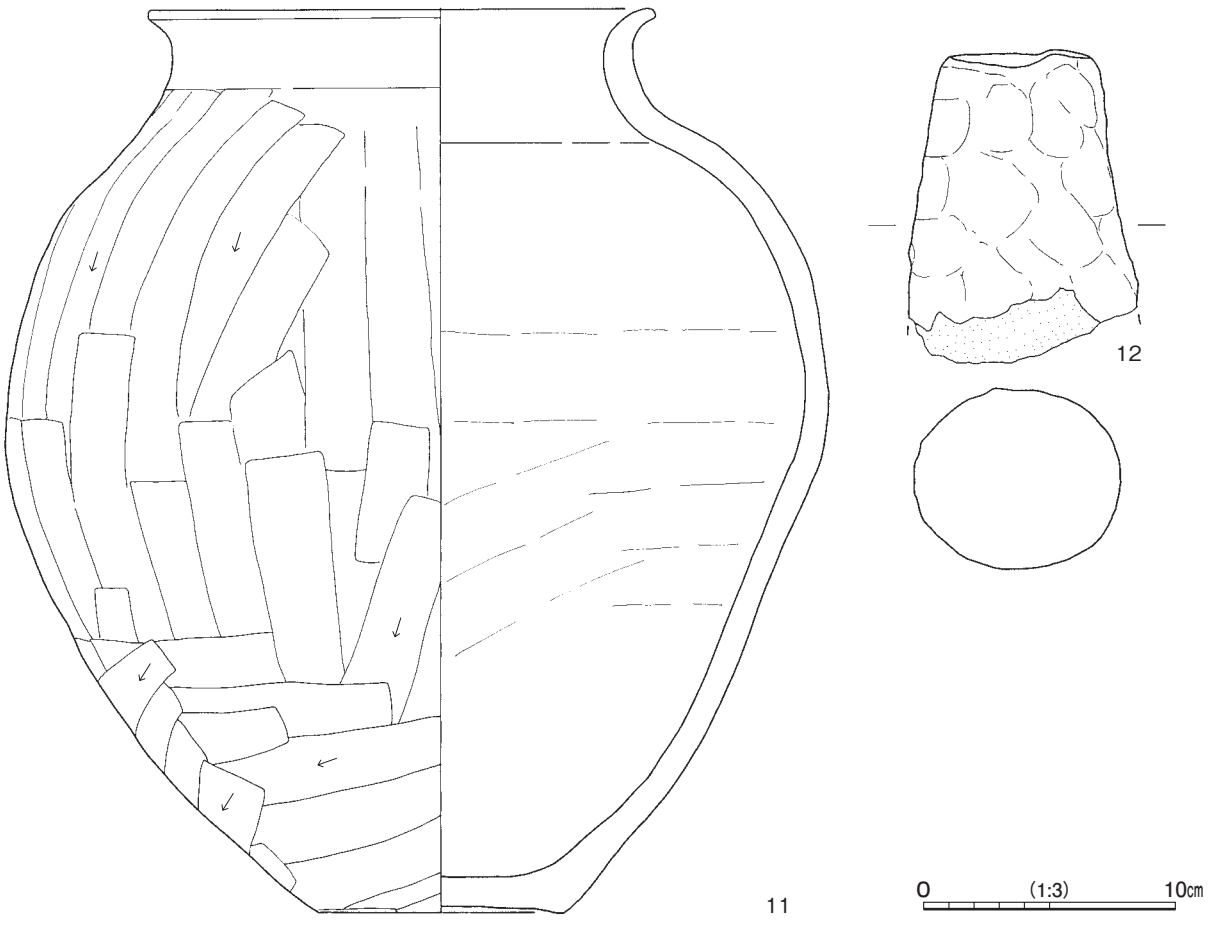
遺物出土状況　土師器片 580 点（坏 54，椀４，高坏 14，鉢４，甕･甑類 503，器種不明１），須恵器片６点（坏３，壺１，甕類２），土製品１点（支脚），鍛冶関連遺物（羽口１，鉄塊系遺物 8.73 ｇ，鉄滓 171.23 ｇ），焼成粘土塊 59.90 ｇのほか，縄文土器片１点が出土している。遺物は全体からまんべんなく出土しているが，特に南東

部と北西部から多く出土している。１・５・６はＰ１の覆土中から出土している。２・７・８・11はＰ１の上位で床面とほぼ同じ高さから出土しており，７・８は逆位で並んで位置している。Ｐ１の埋没後置かれたものと考えられる。７と11は南東部と北西部の覆土下層から出土した破片とも接合している。４の須恵器坏は，明らかに時期差のあるもので，おそらく本跡と重複する第26号竪穴建物跡に帰属するものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉に比定できる。



第23図　第20号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）



第 24 図　第 20 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

表 13　第 20 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 23・24 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［12.6］	4.2	－	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ後ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り　内底面放射状の磨き　上半部横位の磨き	Ｐ１下層	40% PL33
2	土師器	坏	［14.4］	4.1	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面放射状の磨き	１区床面	20%
3	土師器	坏	14.5	4.1	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　焼成時の火ぶくれ明瞭	４区上層	70% PL33
4	須恵器	坏	［13.4］	（4.0）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　酸化焔焼成	覆土中	20%新治窯
5	土師器	椀	［8.8］	5.6	（6.0）	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面指頭ナデ　内面ヘラナデ　底部はヘラ削り？	Ｐ１覆土中	30%
6	土師器	椀	［11.6］	（4.3）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	Ｐ１覆土中	15% PL48
7	土師器	甕	26.8	27.5	8.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ヘラ削り	１区床面 ４区上層	50% PL34
8	土師器	甕	［21.8］	31.3	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部上げ底状でヘラ削り	１区床面	40% PL48
9	土師器	小型甕	［12.6］	14.8	7.4	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ヘラ削り	２区下層	70% PL33
10	土師器	甕	［12.6］	（5.3）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	４区床面	10%
11	土師器	甕	19.7	35.8	9.6	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ヘラ削り	１区床面	50% PL34

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
12	支脚	5.8	（9.0）	（12.4）	647.5	長石	にぶい橙	頭部平坦　下端部欠損　外面指頭による成形	竈煙道部	
13	羽口	－	－	－	24.70	長石・細礫	にぶい橙	表面が還元していることから先端部付近の破片　推定径 6.2cm	覆土中	観察表のみ

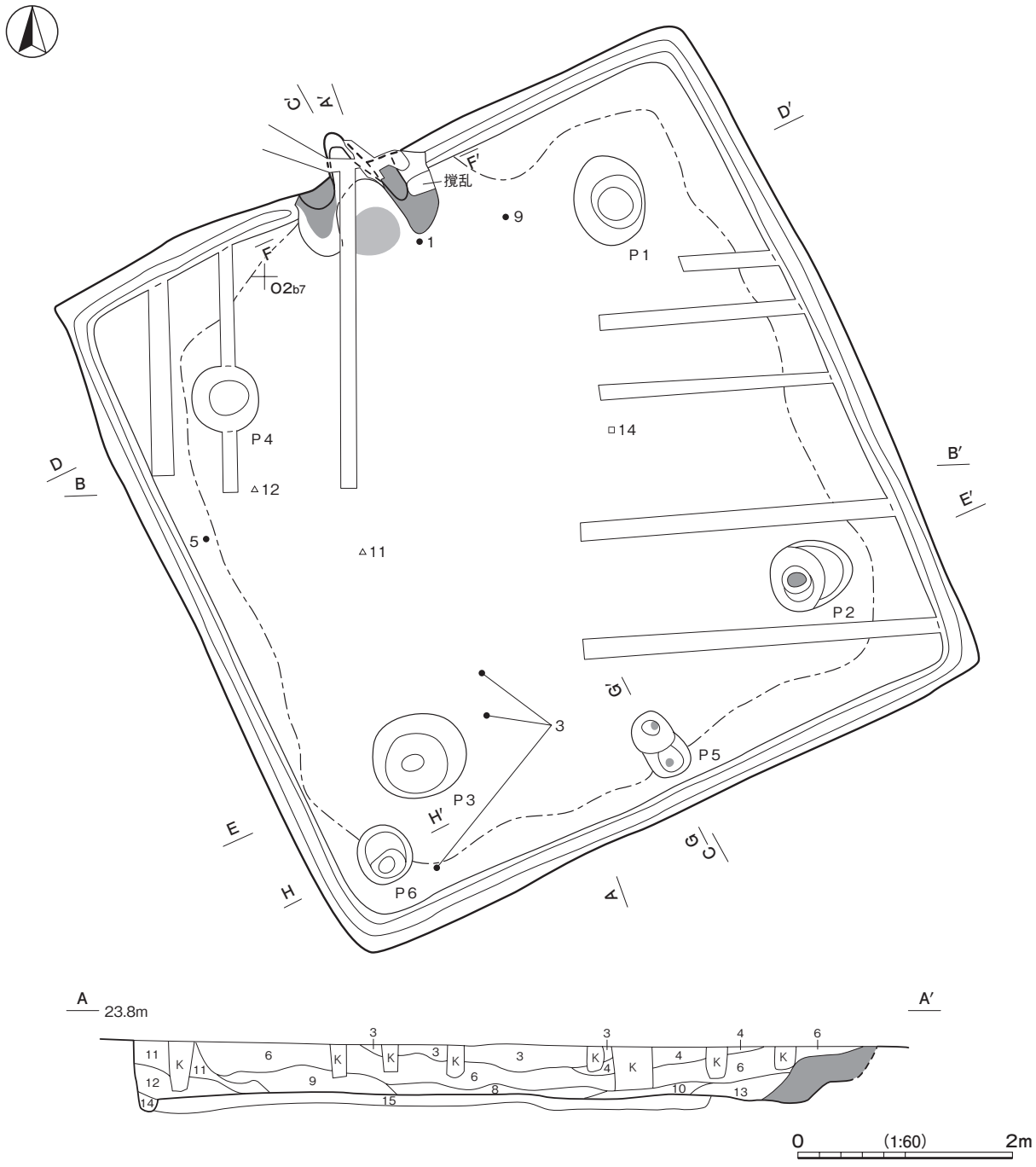
第 33 号竪穴建物跡（第 25 ～ 27 図　PL 9）

位置　調査Ⅱ区西部のＯ２a7 区，標高 24 ｍの台地平坦部に位置している。

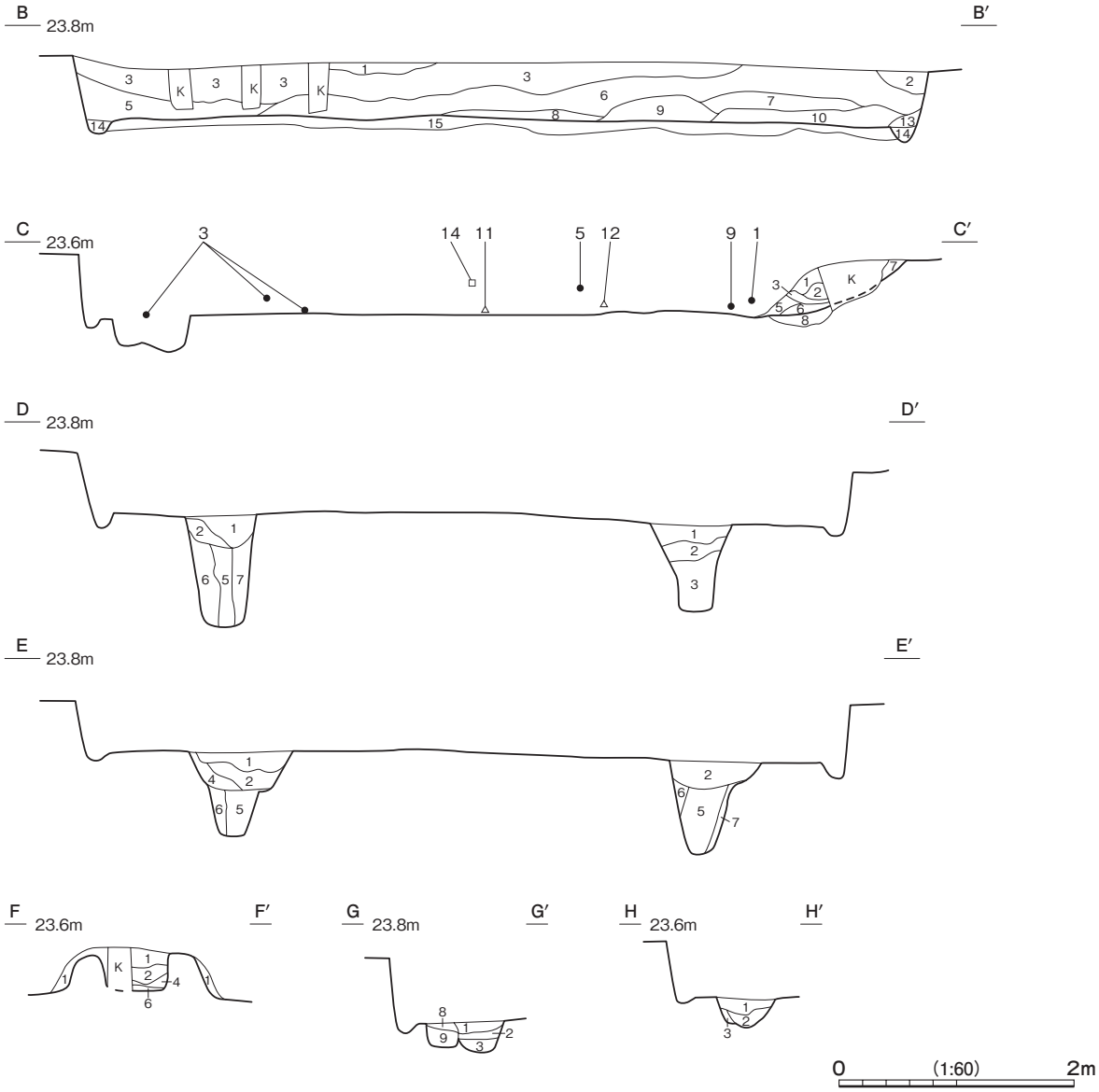
規模と形状　長軸 6.66 ｍ，短軸 6.60 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 25 °－ Ｗである。壁は高さ 48cm で，直立している。

床　平坦な貼床で，壁際を除き踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で，燃焼部幅は 60cm である。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第１～４層が天井部の崩落土で，袖部は粘土主体の灰褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変硬化している。



第 25 図　第 33 号竪穴建物跡実測図（１）



土層解説

1　灰　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量
9　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
10　褐　　色　ロームブロック中量
11　黒　褐　色　ロームブロック微量
12　暗　褐　色　ロームブロック中量
13　黒　褐　色　ロームブロック微量
14　褐　　色　ロームブロック中量
15　掘方覆土

竈土層解説

1　暗　褐　色　粘土ブロック多量，焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
2　灰　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量
3　褐　灰　色　粘土ブロック多量，炭化物少量，ローム粒子微量
4　灰　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子少量
5　暗　褐　色　粘土ブロック多量，焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　掘方覆土

Ｐ１～Ｐ５土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
9　黒　褐　色　ローム粒子微量

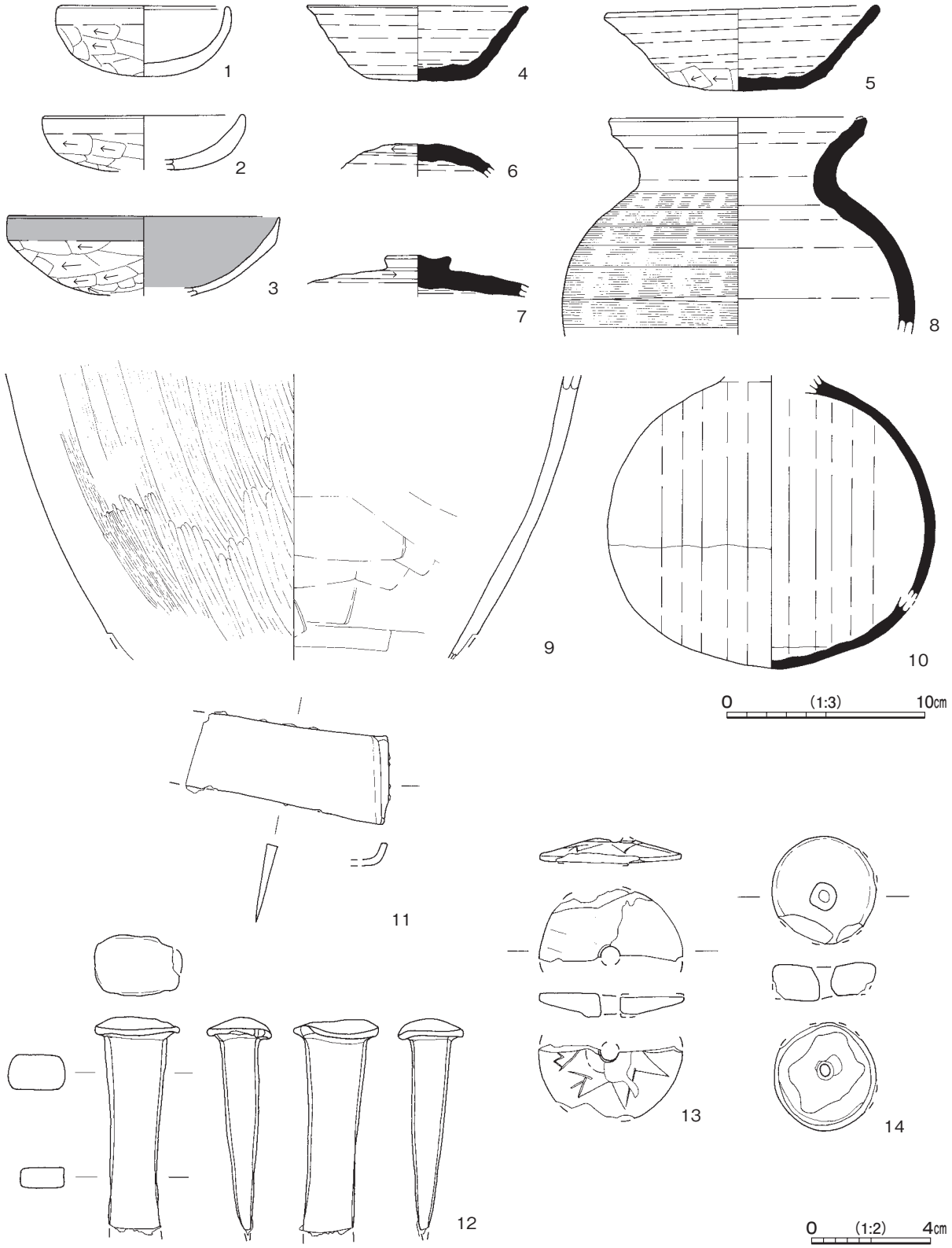
Ｐ６土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第 26 図　第 33 号竪穴建物跡実測図（2）

ピット　6か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ70～95cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ２の底面に柱の当たりを確認した。Ｐ５は深さ33cmで，配置から出入口施設に伴うピットである。底面に柱の当たりを確認した。Ｐ６は深さは25cmで，南西コーナー部に位置している。上屋を保持する補助的な柱穴の可能性がある。

覆土　14層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第15層は掘方への埋土である。



第27図　第33号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 510 点（坏 80，椀 7，高坏 18，壺 5，甕・甑類 400），須恵器片 39 点（坏 11，蓋 6，壺 2，鉢・甕・甑類 20），土製品 1 点（紡錘車），石器 2 点（紡錘車，砥石），金属製品 3 点（鎌，釘$_{カ}$，不明），鍛冶関連遺物（羽口 1，鍛 1，椀状滓 890.0 g，鉄塊系遺物 19.4 g，鉄滓 280.6 g）のほか，縄文土器片 1 点，剥片 1 点（チャート），磁器片 4 点（椀 2，皿 2），金属製品 1 点（煙管）が出土している。3 は床面からの出土で，図化し得なかった小片も同時期のものが多い。覆土中から鍛や比較的多くの鍛冶関連遺物が出土していることから，これらは周辺の鍛冶関連遺構から本跡廃絶後の窪地に廃棄されたものと考えられる。4・5 も時期的に下るので，鍛冶関連遺物とともに廃棄された可能性もある。

所見　時期は，出土土器から 7 世紀後葉に比定できる。

表 14　第 33 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 27 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	［8.4］	3.5	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	1区下層	40%
2	土師器	坏	［10.0］	2.7	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	4区1ｘ	20%
3	土師器	坏	［13.5］	(3.9)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面ナデ　黒色処理	3区床面	70% PL36
4	須恵器	坏	［11.0］	3.7	5.8	長石	黄灰	普通	ロクロ成形　底部回転ヘラ切り後ナデ	2区床面	50%在地$_{カ}$
5	須恵器	坏	13.5	4.2	6.5	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	4区下層	90%新治窯 PL36
6	須恵器	蓋	－	(1.6)	－	長石・石英	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り	3区床面	20%在地$_{カ}$
7	須恵器	蓋	－	(2.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	3区3ｘ	20%新治窯
8	須恵器	甕	［12.6］	(10.8)	－	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	外面カキ目　内面ロクロナデ	2区3ｘ	40%在地$_{カ}$
9	土師器	甕	－	(14.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	1区下層	20%
10	須恵器	フラスコ瓶	－	(14.6)	－	緻密	灰白	良好	外面に自然釉	1・3区下層	20%東海系$_{カ}$ PL49

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	鎌	(6.8)	3.1	0.2 ～ 0.3	24.16	鉄	刃部先端欠損	4区床面	PL53
12	鍛	(7.4)	2.9	2.2	74.67	鉄	先端部の一部が欠損するもののほぼ完形　上面敲打により丸みを帯びる	4区下層	PL53
15	釘$_{カ}$	(2.9)	1.1	0.6	3.10	鉄	頭部～軸部　先端部は欠損　断面 0.6cm の方形　頭部径 1.1cm	1区2ｘ	観察表のみ
16	不明	(2.2)	0.7	0.3	1.70	鉄	断面長方形　やや湾曲する	4区2ｘ	観察表のみ
17	煙管	(6.2)	0.7	0.7	13.84	銅	吸口部分　片側が押し潰されている	3区下層	観察表のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	紡錘車	径（4.8）	－	0.85	10.09	黒色片岩	裏面に線刻による鋸歯文施文	1区2ｘ	PL53
18	砥石	(4.6)	(1.6)	(1.6)	12.2	凝灰岩	砥面 1 面のみ確認	2区1ｘ	観察表のみ

番号	器種	最小径	最大径	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	紡錘車	3.5	3.6	1.25	15.5	長石・雲母	灰	須恵器蓋の摘み部分の転用　孔径 0.4cm	1区上層	PL53
19	羽口	径（4.3）	－	長さ (7.0)	55.51	長石・石英	にぶい橙	孔径（2.4）cm　器面一部還元	3区3ｘ	観察表のみ

第 34 号竪穴建物跡（第 28・29 図　PL 9）

位置　調査Ⅱ区北西部のＮ 3e1 区，標高 23 mの台地平坦部に位置している。

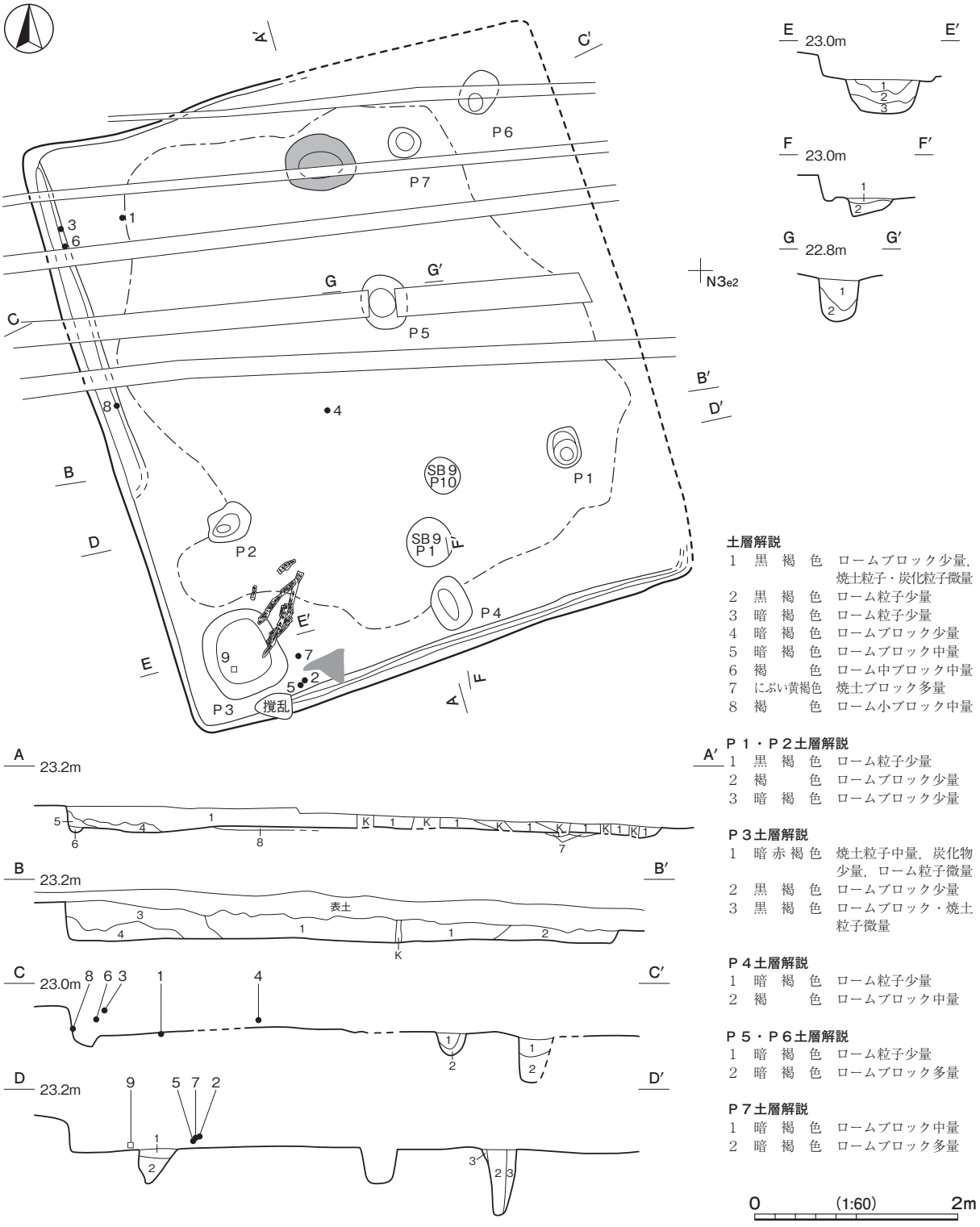
重複関係　第 9 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　東壁が削平のため確認できなかったが，長軸 5.88 m，短軸は 5.30 mと推定される。長方形で，長軸方向はＮ－ 17°－ Ｗである。壁は高さ 13 ～ 30cm で，直立している。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。第 8 層は掘方への埋土であるが，部分的に確認されているに過ぎない。写真では南東コーナー部にピット状のシミが確認でき，コーナー部から壁際が掘りくぼめられる形状の掘方の可能性がある。南西コーナー部を除く西壁から南壁に壁溝が巡っている。

炉　北部中央に位置している。長径 70cm，短径 55cm の楕円形で，床面から約 5 cm ほど掘りくぼめられた底面は赤変している。第 7 層が炉の堆積土である。

ピット　7 か所。P 1・P 2・P 6 は深さ 35 ～ 64cm で，規模と配置から主柱穴である。P 4 は深さ 20cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。P 3 は深さが 33cm で，底面が平坦であること，形状及び配置から，貯蔵穴と考えられる。ピットの覆土中に焼土や炭化物を含まないこと，貯蔵穴の覆土も上面の堆積土にのみ焼



土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ローム中ブロック中量
7　にぶい黄褐色　焼土ブロック多量
8　褐　　色　ローム小ブロック中量

P 1・P 2 土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

P 3 土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化物少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

P 4 土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

P 5・P 6 土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量

P 7 土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量

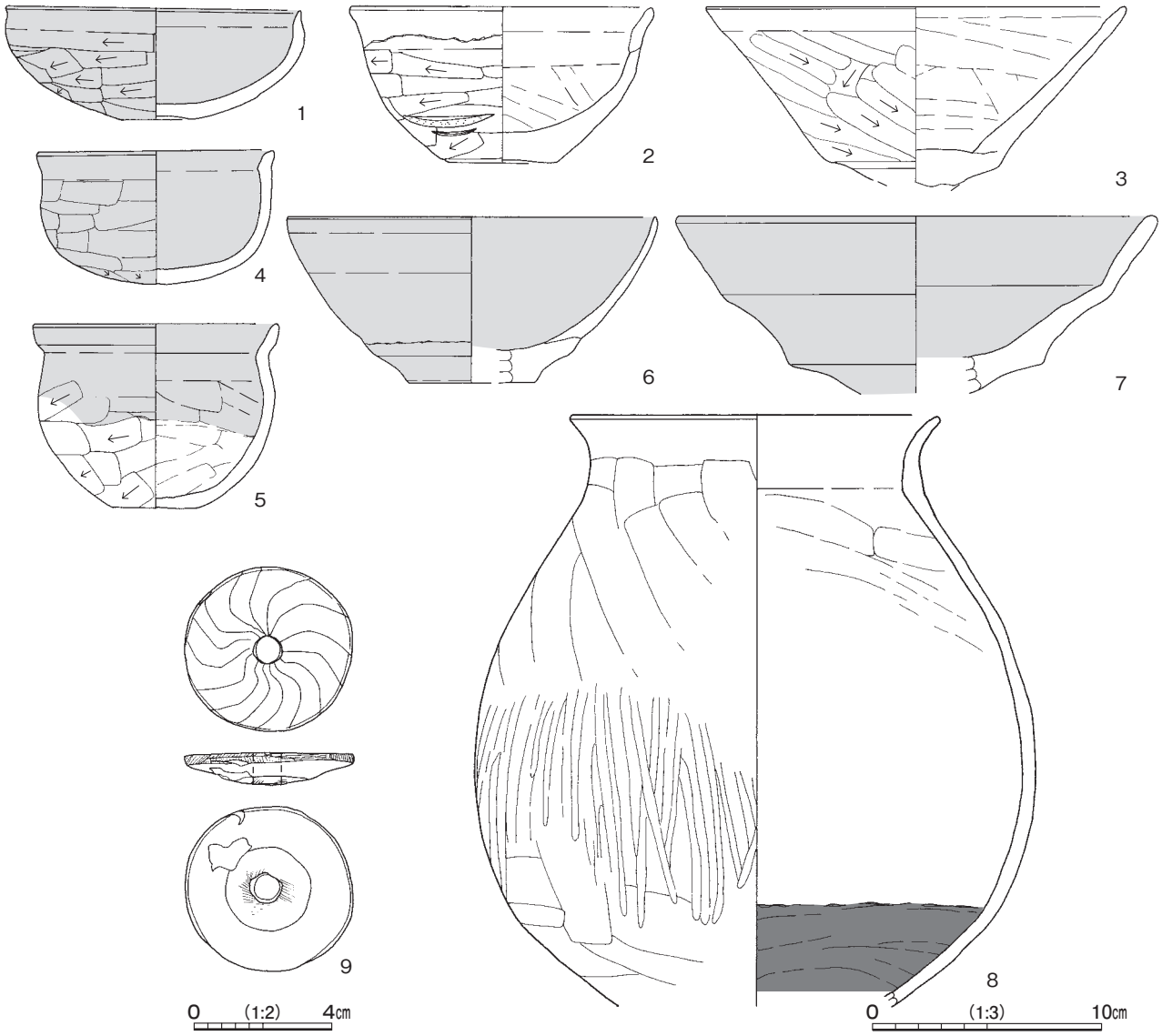
第 28 図　第 34 号竪穴建物跡実測図

土と炭化物が含まれていることから，これらの施設が埋没し，建物が埋まりきらない段階で，焼土や炭化材が堆積したものと考えられる。

覆土　６層に分層できる。レンズ状の堆積状況から基本的には自然堆積であるが，南西コーナー部から炭化材と焼土ブロックが，床面の 10cm ほど上位で出土している。覆土中に焼土ブロックや炭化物をほとんど含んでおらず，床面の焼成も見られないことから，埋没の過程で廃棄されたものと考えられる。

遺物出土状況　土師器片 348 点（坏 20，椀 25，蓋１，坩９，高坏 27，壺・甕・甑類 266），須恵器片 16 点（坏４，高台付坏１，蓋１，壺１，鉢・甕・甑類９），石製品１点（紡錘車），焼成粘土塊 1.4 ｇのほか，近世の瓦片が１点出土している。１は北西コーナー部の床面から，２・５・７は南西コーナー部の下層からそれぞれ出土している。図化したものはほとんどが床面，または床面に近い覆土下層から出土しているが，３・６は北西壁際の覆土上層から逆位で出土している。しかし，これらに大きな時間差は確認できない。貯蔵穴の覆土上層から赤彩された土師器の坏が出土しているが，小片で図化できなかった。９の紡錘車は，炭化材や焼土などとともに貯蔵穴の上位から出土しており，貯蔵穴が埋没したあと廃棄されたと考えられる。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉に比定できる。



第 29 図　第 34 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 15　第 34 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 29 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	12.1	4.9	3.2	長石・石英・雲母・細礫	赤	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　一部磨き状　底部上げ底　ヘラ削り　外・内面赤彩	4 区床面	90% PL36
2	土師器	椀	［13.1］	6.8	4.5	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　煤付着　底部ナデ　体部下半部に金属痕砥石として利用。	3 区下層	90% PL36
3	土師器	高坏	18.2	（7.8）	－	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ヘラナデ	4 区上層	50% PL36
4	土師器	椀	10.1	5.8	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外・内面赤彩	3 区下層	80% PL36
5	土師器	椀	［10.8］	7.9	3.8	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　外・内面赤彩　底部ヘラ削り	3 区下層	50%
6	土師器	椀	［15.9］	7.1	［5.5］	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ　赤彩　底部ヘラ削り	4 区上層	50%
7	土師器	高坏	20.6	（7.7）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	坏部外・内面ナデ　赤彩	3 区下層	50% PL36
8	土師器	甕	［16.0］	（25.8）	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラナデ　下端部に煤付着	4 区下層	20%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
9	紡錘車	径 4.9	－	0.9	26.29	粘板岩	上面に風車状の線刻	3 区床面	100% PL53

第 35 号竪穴建物跡（第 30 図　PL10）

位置　調査Ⅱ区北西部の N 3h1 区，標高 23 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 17 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.12 m，短軸 3.81 mの方形で，主軸方向はN － 4° － W である。北壁の東部が 20cm ほど北へ張り出している。壁は高さ 15cm で，外傾している。

床　平坦で，竈前面から北東コーナー部にかけて踏み固められている。

竈　北壁やや西寄りに付設されているが，火床面と煙道部の掘方を確認したのみである。煙道部は壁外に 70cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第 8 ～ 13 層が竈に関連する堆積土で，火床部は床面から 5 cm ほど掘りくぼめられている。

覆土　7 層に分層できる。上面が削平されているため不明瞭な部分が多いが，一部にレンズ状の堆積がみられることから，自然堆積である。

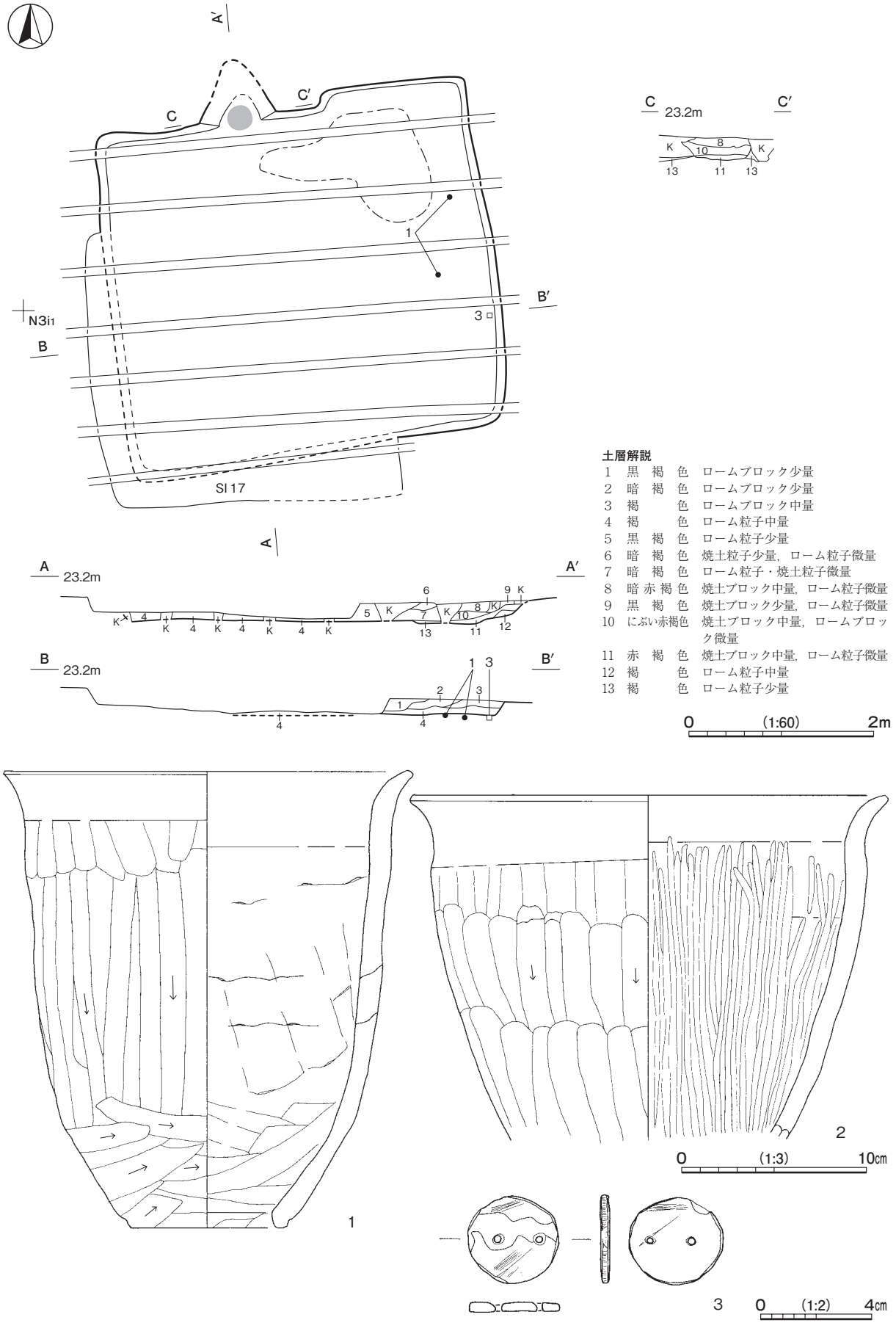
遺物出土状況　土師器片 52 点（坏・椀類 5，甕・甑類 47），須恵器片 4 点（坏 1，高台付坏 1，甕・甑類 2）が出土している。遺物は全体的に少ない。1 は北東部の床面から，3 は南東部の壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。

表 16　第 35 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 30 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	甑	［21.5］	24.5	［8.4］	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　下端ヘラ削り	1 区床面	40%
2	土師器	甑	［25.7］	（18.6）	－	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	1 区床面	30%

番号	器　種	径	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
3	石製模造品	3.2 ～ 3.3	－	0.25	6.13	緑色片岩	有孔円板　両面・側縁研磨　一方向からの穿孔	2 区床面	PL52



第 30 図　第 35 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 36 号竪穴建物跡（第 31 図）

位置　調査Ⅱ区北西部のＮ２h6 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 37 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　東部が第 37 号竪穴建物に掘り込まれ，西部は調査区域外に延びていることから，長軸 3.00 ｍ，短軸 2.50 ｍの長方形と推定され，主軸方向はＮ－ 40 °－ Ｗである。壁は高さ 16cm で，外傾している。

床　平坦で，炉の周辺が踏み固められている。

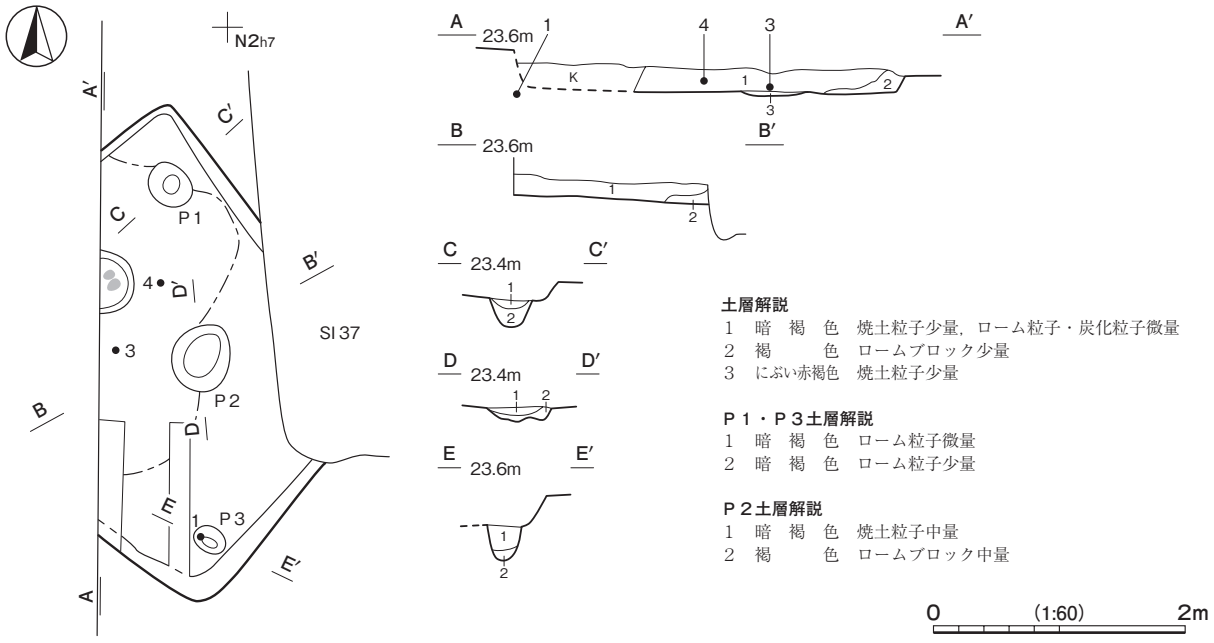
炉　北部ほぼ中央に位置している。西部が調査区域外に延びていることから，長径は 49cm で，短径は 21cm しか確認できなかった。楕円形と推定され，床面から約５cm ほど掘りくぼんだ底面は赤変している。第３層が炉の堆積土である。

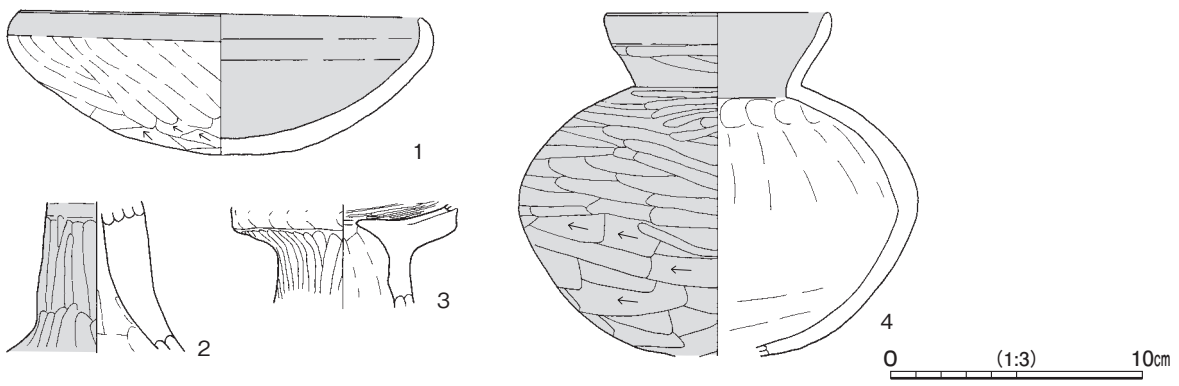
ピット　３か所。Ｐ１は深さ 22cm，Ｐ３は深さ 28cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ２は深さ 15cm で底面に凹凸がある。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 74 点（坏・椀類 12，坩５，高坏 18，甕・壺類 39），須恵器片２点（坏，甕）が出土している。遺物は全体的に少ない。１はＰ３上層から，３・４は炉の周辺の床面及び覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉に比定できる。





第 31 図　第 36 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 17　第 36 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 31 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［15.8］	5.7	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　赤彩　体部外面ヘラナデ　内面ナデ　赤彩	Ｐ３上層	95% PL36
2	土師器	高坏	－	（5.9）	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き　赤彩　内面ナデ	１区１ｘ	30%
3	土師器	高坏	－	（4.1）	－	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	坏部外面指頭ナデ　内面ヘラ磨き　脚部外面ヘラ磨き　内面指頭ナデ	３区床面	30%
4	土師器	坩	［8.6］	（13.5）	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　頸部～体部外面上半ヘラ磨き　下半ヘラ削り　赤彩　頸部内面横位のナデ　赤彩　体部ヘラナデ	１区下層	80% PL36

第 38 号竪穴建物跡（第 32 図）

位置　調査Ⅱ区北西部のＮ２g6 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 37・39 号竪穴建物跡の西側に，壁の一部と硬化面が確認できたことから，竪穴建物跡とした。第 39 号竪穴建物に掘り込まれている。第 37 号竪穴建物跡とは，堆積状況での確認はできなかったが，残存状況から本跡が掘り込まれていると推測される。

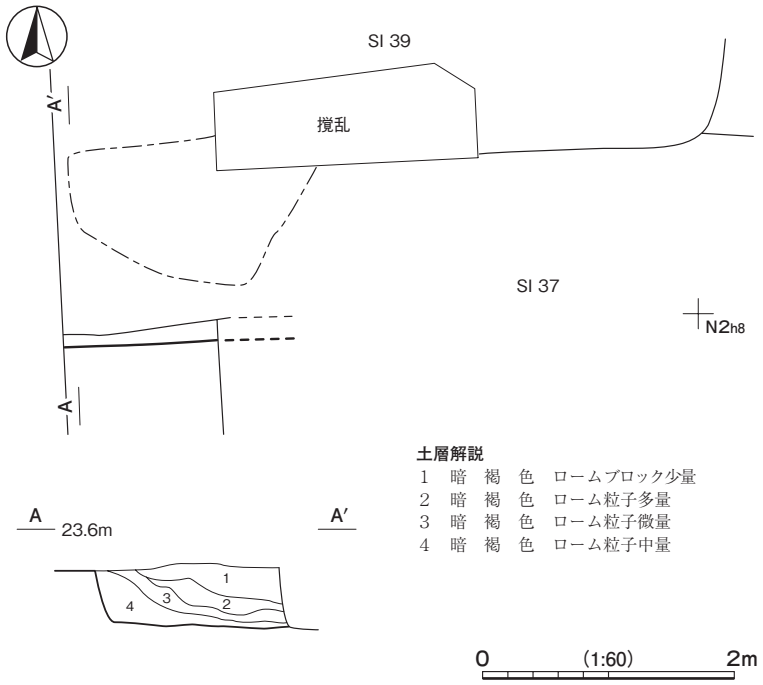
規模と形状　重複及び西側が調査区域外に延びていることから，東西 2.0 ｍ，南北 1.7 ｍしか確認できなかった。南壁の方向はＮ－ 87°－Ｅである。壁は高さ 42cm で，外傾している。

床　確認できた範囲では平坦で，壁際を除き踏み固められている。

覆土　４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片３点（甕類），灰釉陶器片１点（瓶類）が出土しているのみである。灰釉陶器は小片で図化できなかったが，混入と考えられる。

所見　時期は，重複関係から８世紀前葉以前と考えられる。



第 32 図　第 38 号竪穴建物跡実測図

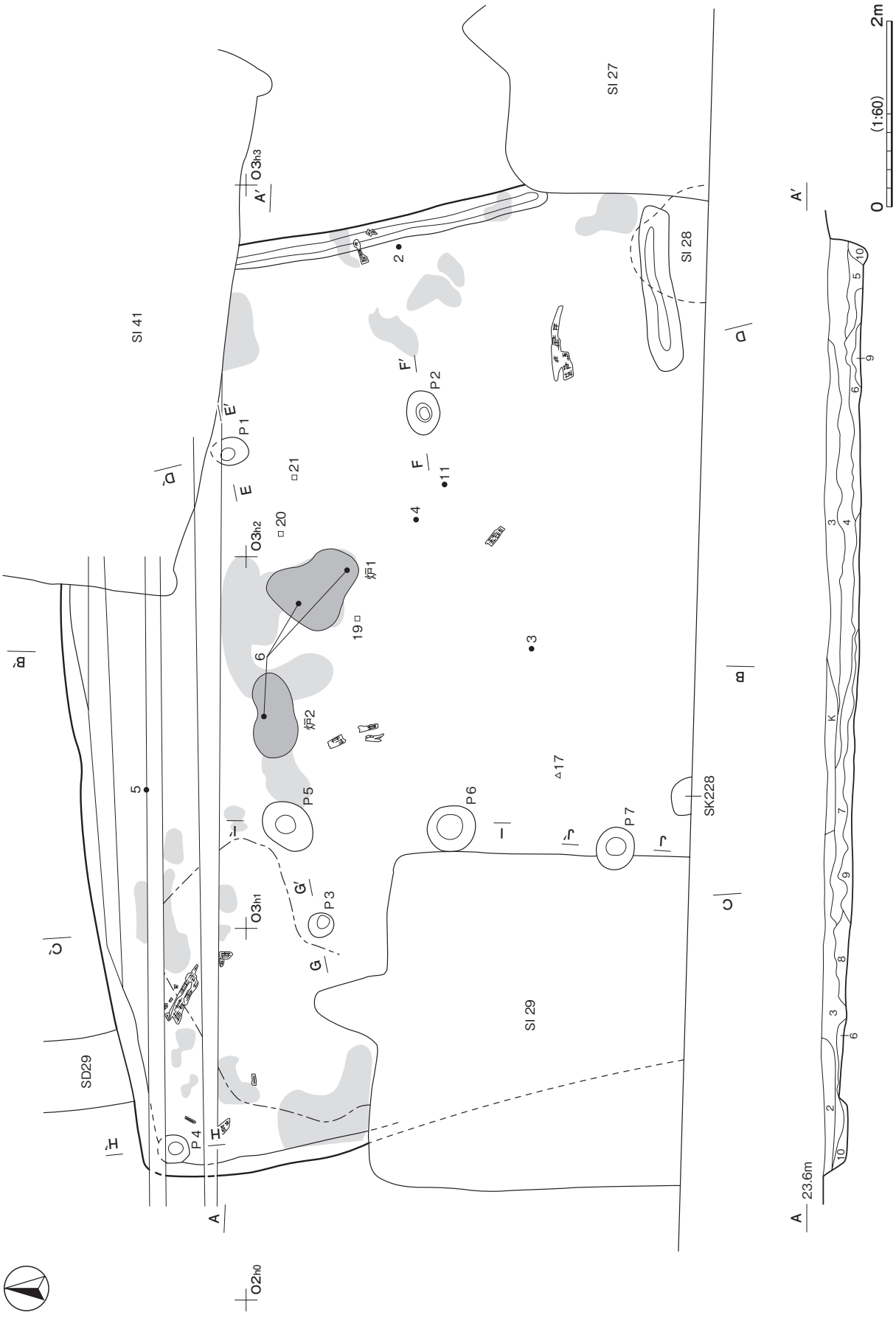
第 42 号竪穴建物跡（第 33 ～ 35 図　PL11）

位置　調査Ⅱ区南西部のＯ３h1 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

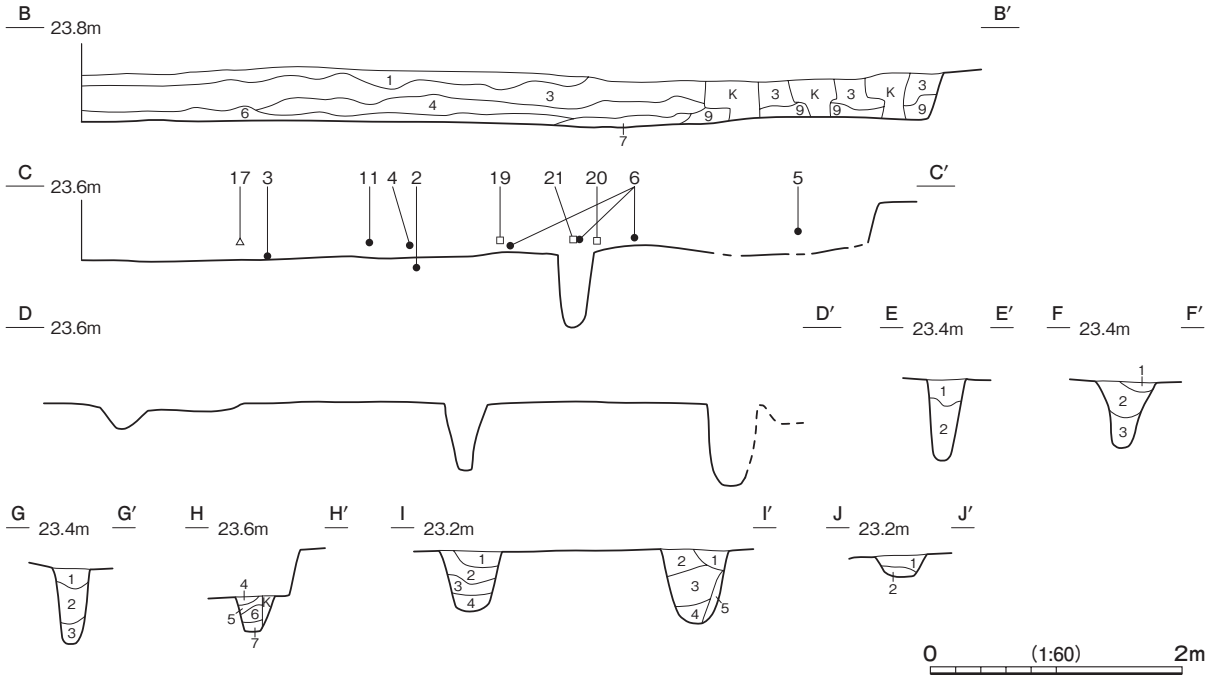
重複関係　第 49 号竪穴建物跡を掘り込み，第 27 ～ 29・41 号竪穴建物，第 228 号土坑，第 29 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区域外に延びているため，東西軸は 9.88 ｍで，南北軸は 6.85 ｍしか確認できなかった。方形あるいは長方形と推定され，南北軸方向はＮ－ 13°－Ｗである。壁は高さ 35 ～ 42cm で，外傾している。

床　平坦で，北西コーナー部が踏み固められている。東壁の一部に壁溝が巡っている。南東部に幅 35cm，深さ 13cm の間仕切り溝が付設されている。



第 33 図　第 42 号竪穴建物跡実測図（1）



土層解説
1 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
4 黒 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子微量
5 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
6 褐 色 ロームブロック中量
7 暗赤褐色 焼土ブロック多量，ローム粒子微量
8 暗 褐 色 ロームブロック中量
9 暗赤褐色 焼土ブロック多量
10 暗 褐 色 ロームブロック少量

Ｐ１～Ｐ４土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 褐 色 ロームブロック中量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量
5 褐 色 ロームブロック中量
6 暗 褐 色 ロームブロック少量
7 暗 褐 色 ローム粒子微量

Ｐ５土層解説
1 褐 色 ロームブロック微量
2 黒 褐 色 ローム粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量
4 黒 褐 色 ロームブロック少量
5 褐 色 ロームブロック中量

Ｐ６土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量
4 褐 色 ロームブロック中量

Ｐ７土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 黒 褐 色 ロームブロック微量

第 34 図　第 42 号竪穴建物跡実測図（２）

炉　北側中央部に２か所の火床面を確認した。炉１は長径 100cm，短径 75cm の不整楕円形，炉２は長径 90cm，短径 48cm の楕円形である。

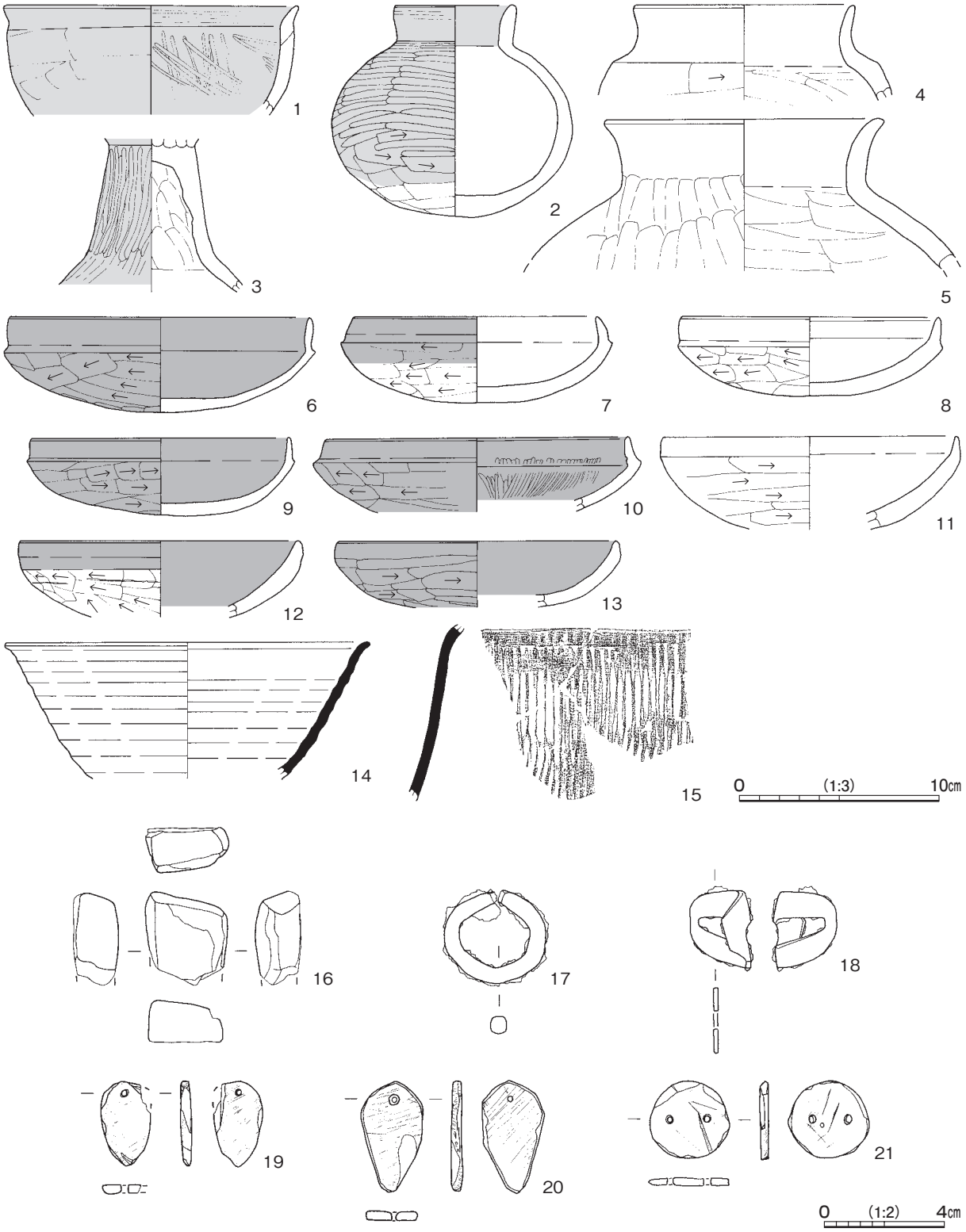
ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ３・Ｐ６は深さ 48 ～ 65cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４・Ｐ５・Ｐ７は深さ 30cm・60cm・18cm で，位置的に上屋を保持する補助的な柱穴の可能性がある。

覆土　10 層に分層できる。床面上の第７・９層に焼土ブロックを多量に含む暗赤褐色土が堆積しており，焼失建物の可能性が高い。第６層はロームブロックをやや多く含む褐色土で，焼失時または直後に埋め戻されたものと考えられる。第６～ 10 層の堆積後に，第１～５層がレンズ状に自然堆積している。

遺物出土状況　土師器片 1,169 点（坏 315，高台付坏３，椀・鉢 25，高坏 24，壺・甕・甑類 802），須恵器片 33 点（坏 14，蓋３，鉢･甕･甑類 16），石器･石製品４点（砥石１，石製模造品３），金属製品３点（釘，切羽，円環状），鍛冶関連遺物（羽口１，椀状滓 335.8 ｇ，鉄塊系遺物 79.9 ｇ，鉄滓 177.9 ｇ），焼成粘土塊 66.4 ｇのほか，縄文土器片２点，金属製品１点（煙管）が出土している。土器は５世紀後半から９世紀代のものまで，幅広い時期のものが含まれているが，出土位置から２～５が本跡に帰属するものと考えられる。２は東壁際の床面から逆位で出土している。６は炉の上面から出土した複数片が接合したものであるが，７～ 13 とともに時期的に新しい様相が見られることから，本跡の埋没過程で廃棄されたものと考えられる。14・15 は，本来的には重複する第 29 号竪穴建物跡あるいは第 41 号竪穴建物跡に帰属するものと考えられる。18 の切羽は意

図的に曲げられている可能性がある。19 ～ 21 は北東部の床面付近から出土しており，本跡に伴う可能性もあるが，６と位置的にも近く，６以下の土器とともに廃棄された可能性もある。また，４区の床面付近から，25 × 15cm，厚さ５cm ほどの被熱した雲母片岩が出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉に比定できる。



第 35 図　第 42 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 18　第 42 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 35 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	椀	［14.4］	(5.4)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　内面ヘラ磨き　体部外面ヘラナデ　内面ヘラ磨き　あばた状に剥離　外・内面赤彩	２区２ｘ ３区３ｘ	30% PL37
2	土師器	壺	5.6	10.5	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面ヘラ磨き　内面ナデ　体部ヘラ磨き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ　外面・内面口縁部赤彩	１区床面	100% PL37
3	土師器	高坏	－	(8.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ヘラ磨き　赤彩　内面指頭によるナデ	３区床面	30%
4	土師器	甕	［10.8］	(4.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	１区床面	20%
5	土師器	甕	［13.8］	(7.5)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	４区中層	10%
6	土師器	坏	14.9	4.7	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ナデ 外・内面黒色処理	炉上面	70% PL37
7	土師器	坏	［12.0］	4.3	－	長石・石英	灰褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ 口縁部から体部上半に黒色処理	２区１ｘ	40%
8	土師器	坏	［12.6］	3.9	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ナデ	２区２ｘ ３区３ｘ	40%
9	土師器	坏	［12.8］	3.9	－	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ 外・内面黒色処理	４区１ｘ	80%
10	土師器	坏	［15.0］	(3.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き　外・内面黒色処理	２・３区２ｘ	20% PL37
11	土師器	坏	［13.6］	(4.6)	－	長石・石英	赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ナデ 外・内面黒色処理カ	１区下層	30%
12	土師器	坏	［13.6］	(3.8)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部ヘラ削り　内面ナデ　黒色処理	２・３区２ｘ	40%
13	土師器	坏	［13.7］	(3.3)	－	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ 外・内面黒色処理	２区２ｘ	30%
14	須恵器	坏	［18.0］	(6.8)	－	長石・針状鉱物	黄灰	普通	ロクロナデ　口縁部と内面に自然釉	３区３ｘ	20% 新治窯
15	須恵器	鉢	－	(8.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面縦位の平行叩き　内面ヘラナデ	３区３ｘ	10%新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
16	砥石	(3.1)	2.8	1.5	17.02	泥岩	砥面４面	２区１ｘ	
19	石製模造品	2.8	1.7	0.4	2.38	緑色片岩	剣形　一方向からの穿孔　孔径 0.2cm	１区下層	PL52
20	石製模造品	3.7	2.1	0.4	4.42	雲母片岩	剣形　一方向からの穿孔　孔径 0.3cm	１区下層	PL52
21	石製模造品	径 2.6 ～ 2.7	－	0.3	3.12	緑色片岩	有孔円板　一方向からの穿孔　孔径 0.2cm　裏面に未貫通の孔あり	１区下層	PL52
22	砥石	(4.8)	(3.9)	1.5	40.80	泥岩	砥面１面のみ　被熱	２区３ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
17	円環状	径 3.1 ～ 3.3	－	0.6	11.36	鉄	一部空隙がある　断面は隅丸方形に近い円形	３区下層	PL54
18	切羽	2.6	2.1	0.2	3.79	鉄	２つに折り曲げられる	２区１ｘ	PL54
23	釘	(4.0)	－	0.6	5.28	鉄	先端部付近　断面長方形　端部が曲がっている	１区下層	観察表のみ

番号	器　種	最小径	最大径	長さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
24	羽口	－	－	(4.8)	28.02	長石	橙	被熱で発泡化　一部ガラス状	２区２ｘ	観察表のみ

第 45 号竪穴建物跡（第 36 ～ 38 図　PL12）

位置　調査Ⅱ区南西部のＯ２c0 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 31・44・46 号竪穴建物，第 28・29 号溝に掘り込まれている。

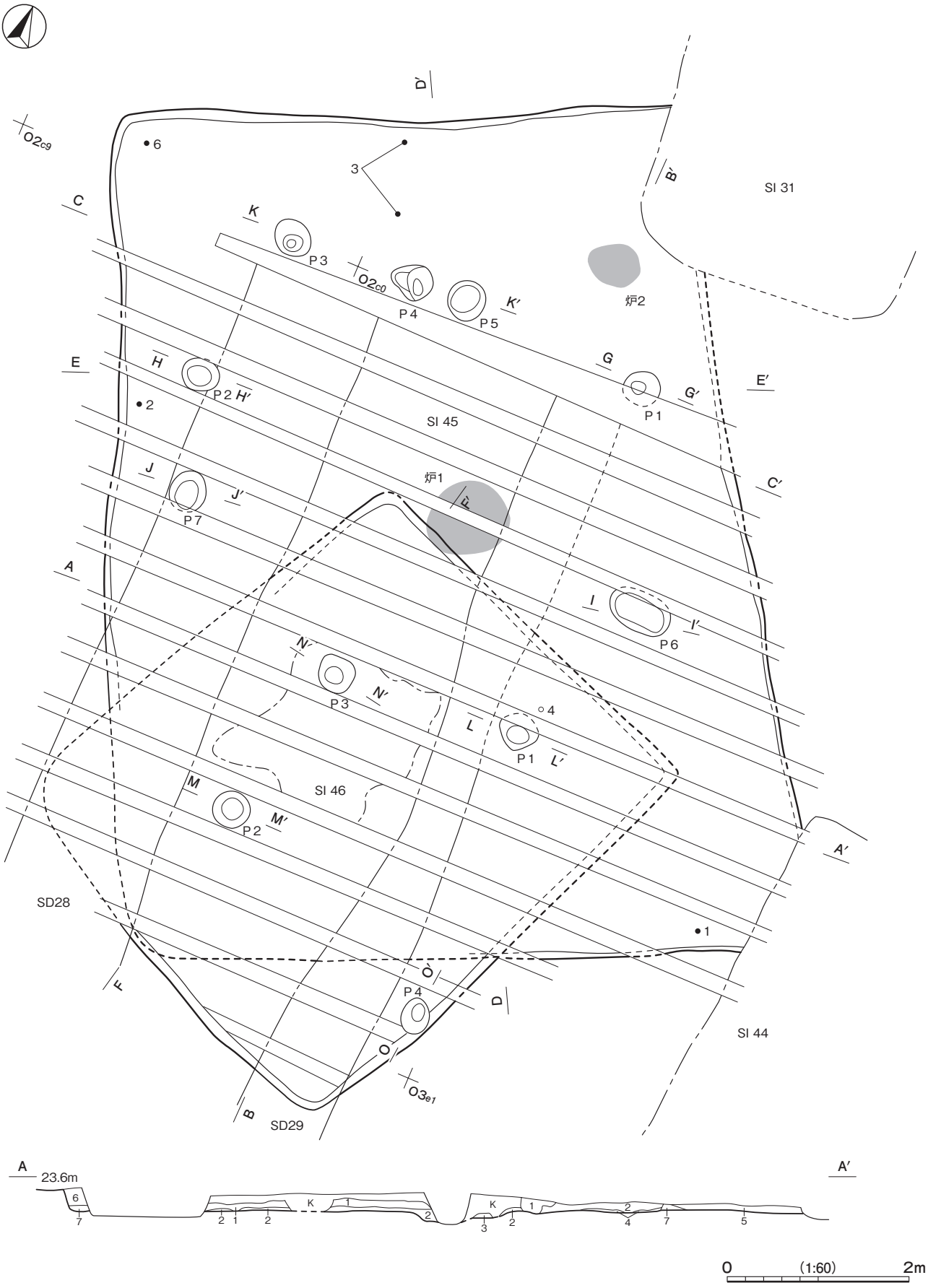
規模と形状　長軸 9.20 ｍ，短軸 7.03 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－ 26 °－Ｗである。壁は高さ 15 ～ 25cm で，外傾している。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。

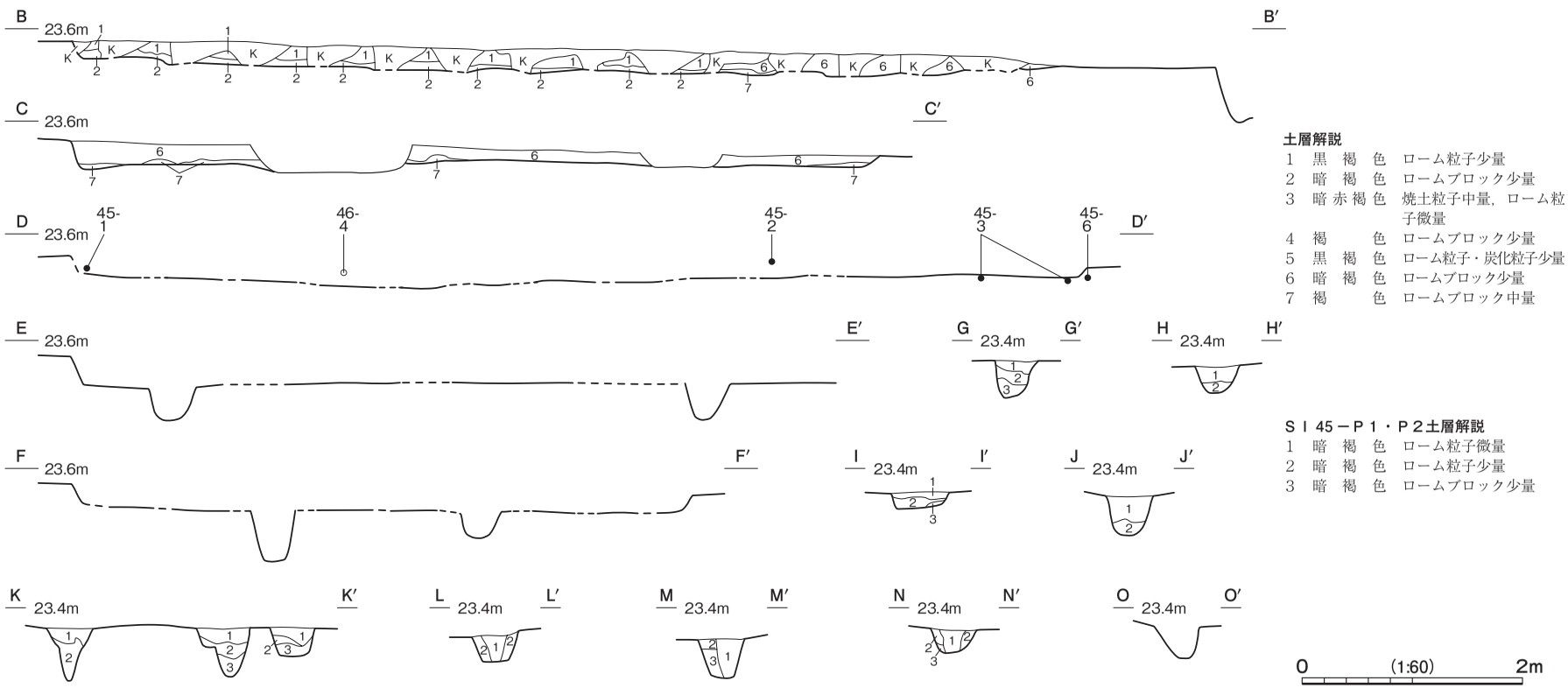
炉　中央部と北東コーナー付近に地床炉を確認した。炉１は長径 90cm，短径 78cm の楕円形，炉２は長径 60cm，短径 48cm の楕円形である。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ７は深さが 24 ～ 48cm で，不規則な配置であるが，規模から上屋を保持する柱穴の可能性がある。Ｐ６は深さ 15cm で，覆土中に骨片が多く含まれており，形状も他のピットとは異なっている。性格は不明である。

覆土　第５～７層の３層に分層できる。堆積が薄く不明瞭な部分があるが，水平の堆積状況から，自然堆積である。



第 36 図　第 45・46 号竪穴建物跡実測図（1）



土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック中量

ＳＩ45－Ｐ１・Ｐ２土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

ＳＩ45－Ｐ３土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

ＳＩ45－Ｐ４土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子多量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

ＳＩ45－Ｐ５土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

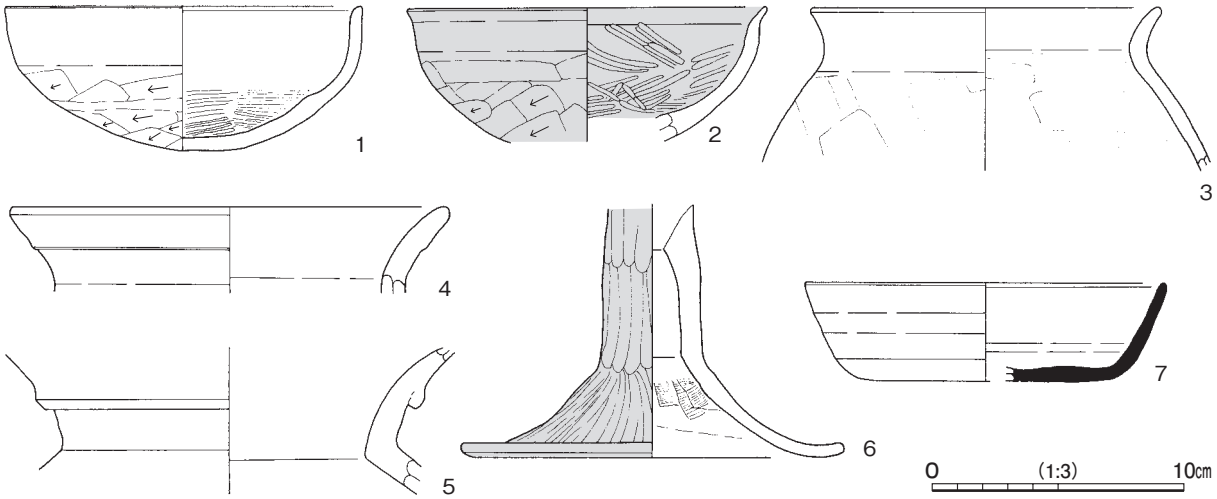
ＳＩ45－Ｐ６土層解説
1　暗　褐　色　焼土ブロック中量，骨片少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　骨片多量，ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量

ＳＩ46－Ｐ１～Ｐ３土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

ＳＩ45－Ｐ７土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片 229 点（坏４，椀４，高坏 10，壺・甕類 211），須恵器片 18 点（坏３，蓋３，鉢・甕・甑類 12），金属製品１点（釘），鍛冶関連遺物（羽口１，椀状滓 547.7 ｇ，鉄塊系遺物 12.9 ｇ，鉄滓 5.9 ｇ）のほか，ナイフ形石器１点（玉髄），剥片１点（玉髄），陶器片２点（碗），瓦質土器片１点（鉢カ），瓦片１点が出土している。覆土が薄いため遺物は少ない。１は南東コーナー部の床面から，３は北部の床面から，４は南東コーナー部の覆土中からそれぞれ出土している。３の周囲には他にも甕や壺の破片が多数出土しているが，復元するには至らなかった。２は第 46 号竪穴建物跡の覆土中から出土した破片と接合している。７は明らかに後出する土器であり，重複する第 31 号竪穴建物跡，或いは第 44 号竪穴建物跡に帰属する可能性が高い。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉に比定できる。



第 38 図　第 45 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 19　第 45 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 38 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［14.0］	5.7	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き　摩滅著しい　赤彩カ	２区床面	70% PL37
2	土師器	椀	［14.0］	(5.2)	－	長石・石英・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面上半ヘラナデ　下半ヘラ削り　赤彩　内面ヘラ磨き　赤彩	４区下層	20% PL37
3	土師器	甕	［13.6］	(6.5)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	４区床面	10% PL38
4	土師器	壺	［17.2］	(3.4)	－	長石・石英	橙	普通	外・内面ナデ	２区覆土中	５％
5	土師器	壺	－	(5.7)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ	２区覆土中	５％
6	土師器	高坏	－	(9.9)	［15.0］	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外面ヘラ磨き　赤彩　内面ナデ　一部にハケ目残存	４区床面	20% PL38
7	須恵器	坏	［14.2］	3.9	［10.2］	長石・石英・雲母・細礫	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土上層	40%新治窯

番号	器　種	最小径	最大径	長さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
8	羽口	－	－	(5.0)	37.01	長石・雲母	にぶい橙	被熱により炭化した部分あり　外面ヘラ削りによる成形	覆土上層	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
9	釘	(4.2)	－	0.3	2.22	鉄	上下端部が屈曲　断面方形	４区床面	観察表のみ

第 46 号竪穴建物跡（第 36・37・39 図）

位置　調査Ⅱ区南西部のＯ２d0 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 45 号竪穴建物跡を掘り込み，第 28・29 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　重複のため南西コーナー部と北東コーナー部を捉えることができなかったが，残存する部分から

推測すると，長軸 5.50 m，短軸 4.70 mの長方形で，長軸方向はＮ－ 25゜－Ｅである。残存する部分の壁は高さ 15 ～ 18cm で，外傾している。

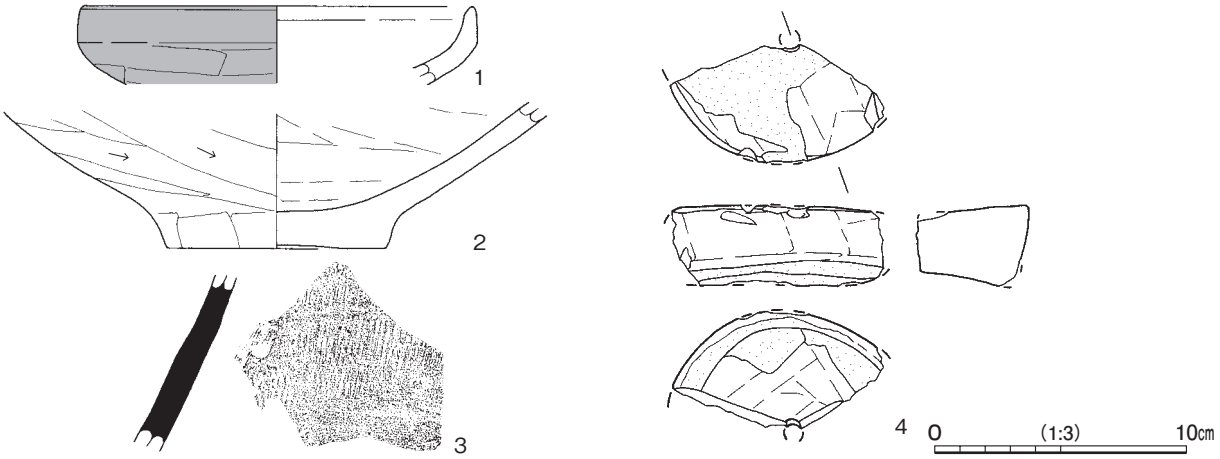
床　平坦で，中央部の狭い範囲が踏み固められている。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 20 ～ 48cm で，やや不規則な配置ではあるが，主柱穴となる可能性がある。Ｐ４は深さ 28cm で，東壁際に位置している。第 45・46 号竪穴建物の床面はほぼ同じ高さで確認されており，本跡のＰ２は，位置的に第 45 号竪穴建物跡の主柱穴となる可能性もある。

覆土　第１～４層の４層に分層できる。堆積が薄く不明瞭であるが，水平の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 108 点（坏 12，椀６，高坏５，壺･甕･甑類 84，不明１），須恵器片 21 点（坏９，瓶類１，鉢･甕･甑類 11），土製品１点（紡錘車），鍛冶関連遺物（椀状滓 997.1 ｇ）のほか，陶器片３点（碗，擂鉢，瓶類）が出土している。覆土が薄いため遺物は少なく，また小片のため，時期判断可能なものは限られている。１はＰ１の覆土中から出土している。４は中央に貫通孔がある土製の紡錘車であるが，側面から裏面にかけて帯状に剥離しており，土器の底部などを転用し，削り調整で形状や器面を整えて再利用した可能性もある。３は明らかに後出する土器で，近接する第 31 号竪穴建物跡，或いは第 44 号竪穴建物跡に帰属する可能性が高い。

所見　時期は，出土土器と，重複のため不明瞭ではあるが，竈を伴わないことなどから，５世紀後葉と考えられる。重複する第 45 号竪穴建物跡の所見とも矛盾しない。



第 39 図　第 46 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 20　第 46 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 39 図）

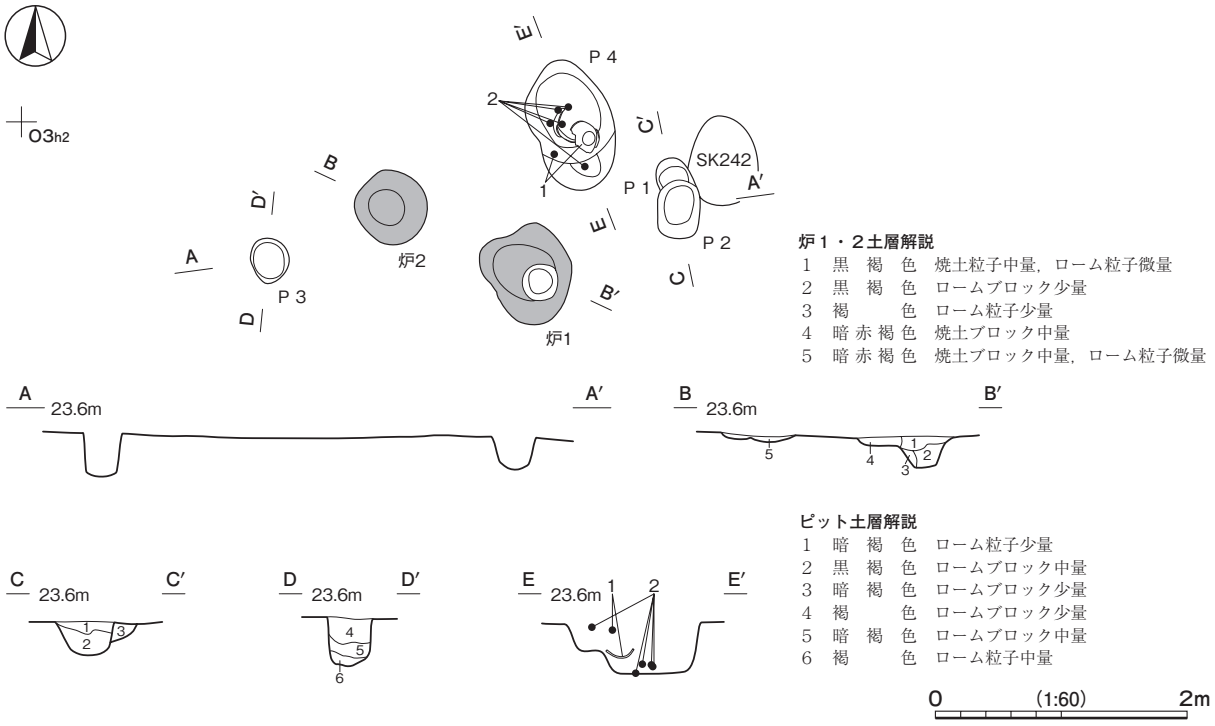
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［15.4］	(3.0)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　摩滅著しい　外面黒色処理	Ｐ１覆土中	５％
2	土師器	甕	－	(5.8)	8.6	長石・石英	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ヘラ削り	覆土中	20%
3	須恵器	甕又は鉢	－	(6.9)	－	長石・石英	灰褐	普通	外面縦位の平行叩き　内面当て具痕	２区１ｘ	５％

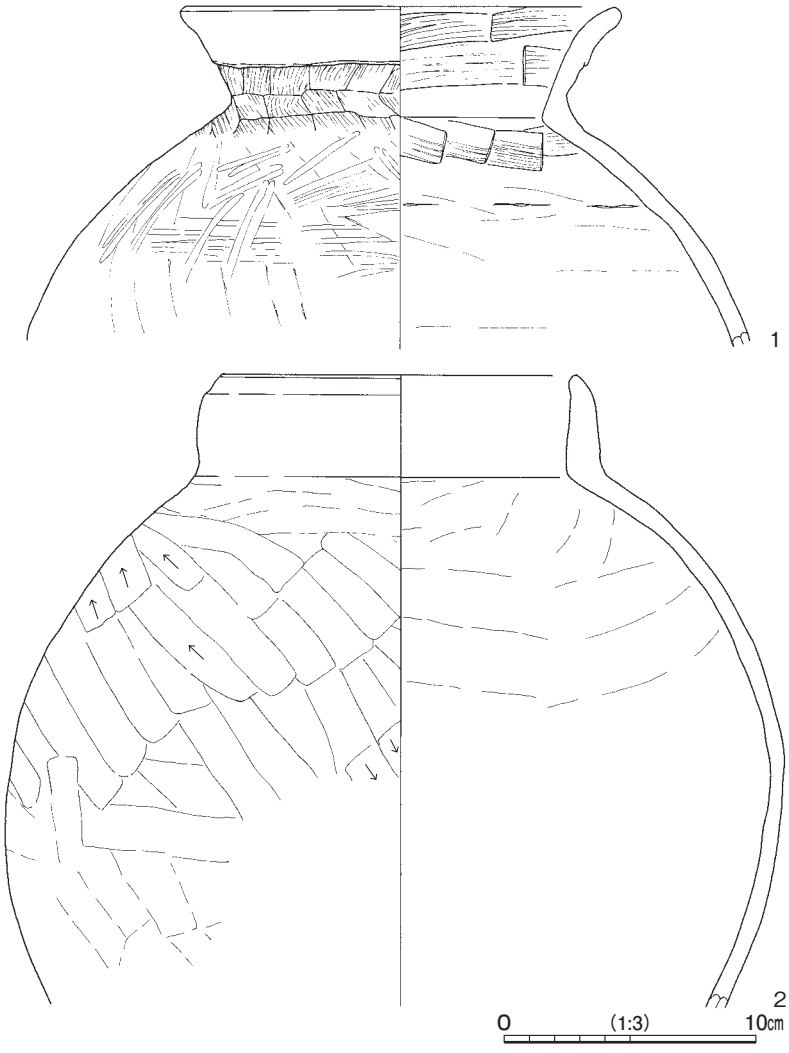
番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
4	紡錘車	－	(8.3)	3.2	121.39	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	削りに近いナデ成形　下部の剥離痕の上側に沈線状の強いナデ　土器底部の転用。	１区下層	

第 49 号竪穴建物跡（第 40 図）

位置　調査Ⅱ区南西部のＯ３h2 区，標高 23.5 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　遺構の残存状況から，第 27・41・42 号竪穴建物に掘り込まれている。第 242 号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。





第 40 図　第 49 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

規模と形状　壁や硬化面が捉えられなかったが，炉跡と考えられる焼土跡とそれを囲むピットが確認できたことから，建物跡とした。規模や形状は不明である。

床　西部はほぼ平坦である。

炉　２か所。炉１は長径 80cm，短径 74cm の不整円形の地床炉で，床面から 12cm ほど掘りくぼめられ，東部がピットに掘り込まれている。炉２は径 58cm の円形の地床炉で，床面から 10cm ほど掘りくぼめられている。

ピット　４か所。Ｐ２・Ｐ３は深さが 28cm，36cm とやや浅いが，形状から柱穴と考えられる。Ｐ４の覆土中位から底面で，土師器の甕２個体が逆位で出土しており，貯蔵穴の可能性もある。

遺物出土状況　土師器片 36 点（坏１，高坏３，壺・甕類 32），須恵器片１点（甕）が出土している。覆土・掘方とも確認できなかったことから，帰属する出土遺物はほとんどなく，Ｐ４から出土したものに限られている。１・２ともＰ４の底面付近から逆位で出土している。１は二重口縁の壺で，頸部外面と口縁部内面にハケ目調整を残している。２の甕は口縁部が内彎気味に直立するやや特異な形状である。

所見　時期は，出土土器から５世紀前葉に比定できる。

表 21　第 49 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 40 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	壺	17.0	(13.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　内面ハケ目調整　頸部外面ハケ目調整　体部外面ナデ後ヘラ磨き　内面ヘラナデ	Ｐ４底面	40%
2	土師器	甕	14.0	(24.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　中位ヘラ削り　内面ヘラナデ	Ｐ４底面	40% PL38

第 53 号竪穴建物跡（第 41・42 図　PL12）

位置　調査Ｉ区西部のＰ３e7 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 54 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.23 ｍ，短軸 2.82 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－ 29 °－Ｅである。壁は高さ 13cm で，外傾している。

床　やや凹凸があり，壁際を除き踏み固められている。特に中央部は硬化が顕著である。

ピット　４か所。Ｐ１・Ｐ４はいずれも深さが 15cm とやや浅いが，位置から主柱穴の可能性がある。Ｐ３は深さ 12cm で，位置から出入口施設に伴うピットの可能性がある。

覆土　第１～７層の７層に分層できる。第２・３・６層は焼土を多く含む層で，不整合な堆積状況から人為堆積である。第 10 層はピットの覆土である。

遺物出土状況　土師器片 50 点（椀１，坩１，高坏 15，壺・甕類 33），須恵器片３点（坏２，鉢・甕・甑類１），灰釉陶器片１点（瓶類），金属製品１点（手鎌），鍛冶関連遺物（鉄滓 21.5 ｇ）のほか，縄文土器片２点が出土している。遺物は５世紀代から９世紀代のものまで出土している。１・２は中央部の床面から，３は北西部の床面から，４は北東部の床面からそれぞれ出土している。１の坩は体部上半部にハケ目調整を残している。床面全体に焼土ブロックや炭化物が分布し，特に中央部には炭化材が残存している。鉄滓はＰ１の覆土中から出土している。

所見　覆土の堆積状況や，床面からの焼土や炭化材の出土状況から，焼失建物である。時期は，出土土器から５世紀前葉に比定できる。

第 54 号竪穴建物跡（第 41・43 図　PL12・13）

位置　調査Ｉ区西部のＰ３e6 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

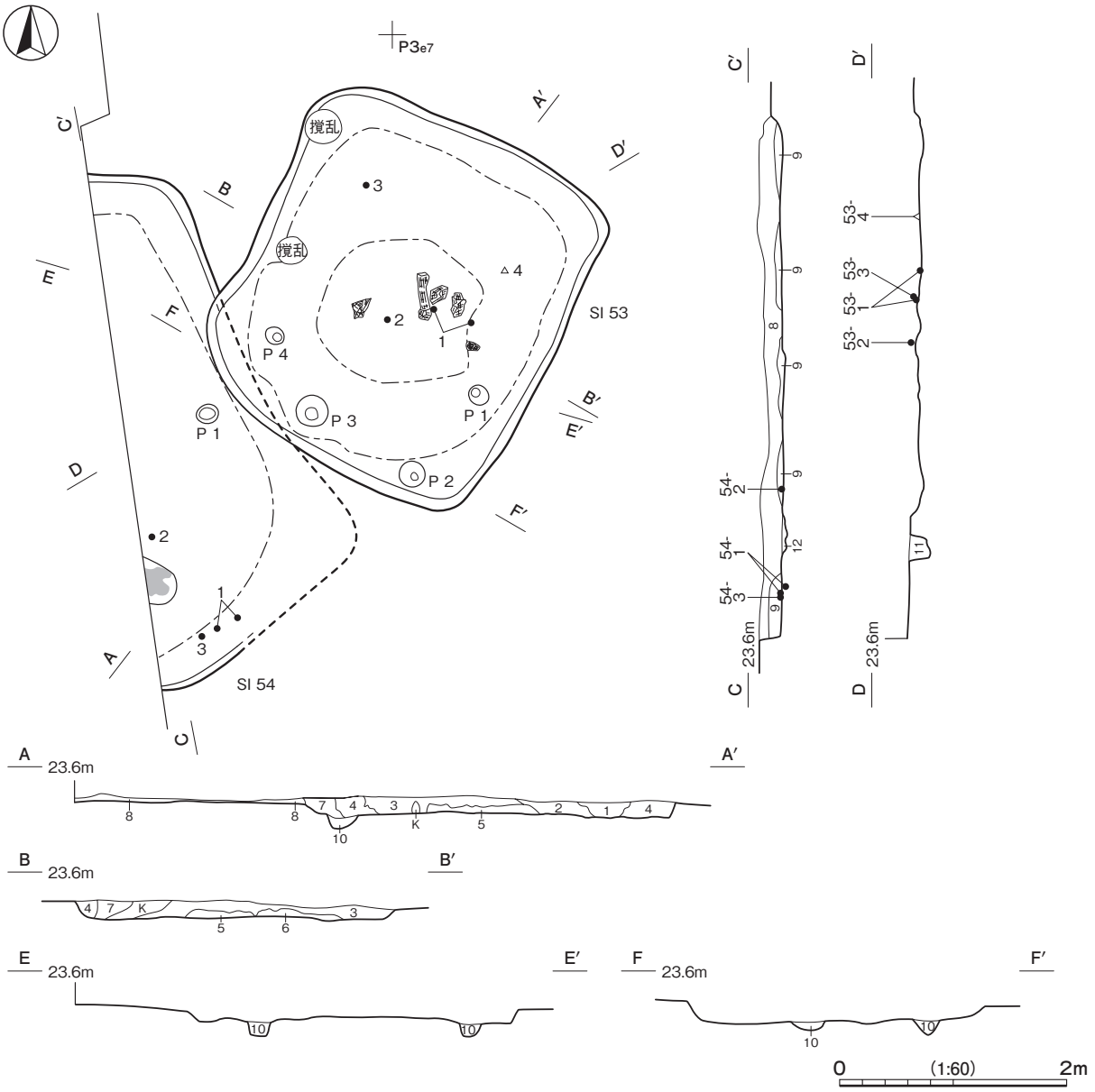
重複関係　第 53 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　西部が調査区域外に延びているため，長軸は 4.55 ｍ，短軸は 1.0 ｍしか確認できなかった。やや不整な隅丸長方形と推定され，主軸方向はＮ－ 21 °－Ｗである。壁は高さ 22cm で，外傾している。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

炉　南部のやや西寄りに位置している。西部が調査区域外に延びているため，長径 40cm，短径 34cm しか確認できなかった。楕円形の地床炉と推定され，５cm ほど掘りくぼんだ底面は，赤変している。

ピット　Ｐ１は深さが 18cm とやや浅く，位置もやや不規則である。



土層解説

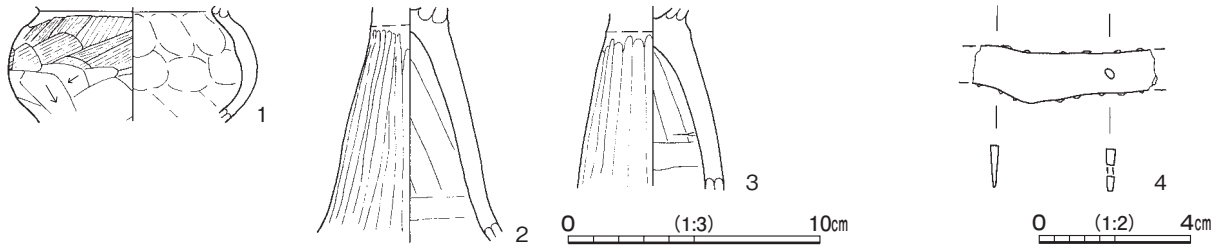
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
5　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量
7　暗　褐　色　炭化物・焼土粒子少量，ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ローム粒子微量
11　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
12　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

第 41 図　第 53・54 号竪穴建物跡実測図

覆土　第８・９層の２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。第 11 層はＰ１の覆土，第 12 層は炉の堆積土である。

遺物出土状況　土師器片 29 点（坏２，坩５，高坏３，壺・甕類 19），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 83.8 ｇ）が出土している。掘削範囲が狭いことと覆土が薄いことから，本跡に帰属する遺物は少ない。１～３は南部の床面から，それぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉に比定できる。遺物では第 53 号竪穴建物跡出土遺物の方が時期が遡り，調査時の所見と逆転している。両建物跡は一部分の重複であること，また覆土が薄かったことから土層の新旧関係が捉えにくかった可能性が考えられることから，本跡が第 53 号竪穴建物跡を掘り込んでいると改めたい。

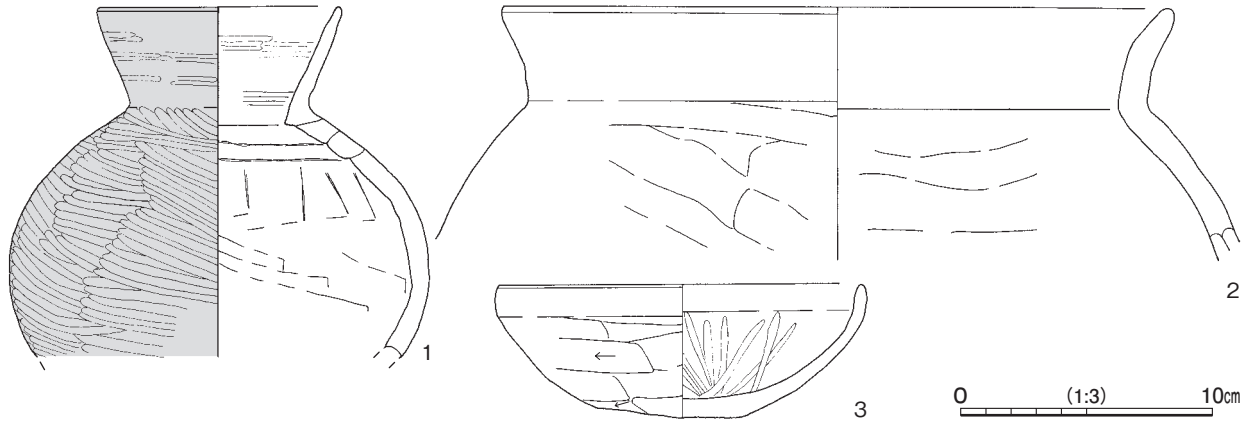


第 42 図　第 53 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 22　第 53 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 42 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坩	−	(4.5)	−	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面上半ハケ目調整　下半ヘラ削り　内面指頭ナデ	1区床面	20%
2	土師器	高坏	−	(9.2)	−	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ヘラ磨き　内面ヘラ削り　下端部ヘラナデ	3区床面	20%
3	土師器	高坏	−	(7.1)	−	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ヘラ磨き　内面ヘラ削り	4区床面	20%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
4	手鎌	(4.8)	1.1 ～ 1.4	0.2	4.38	鉄	刀身部　刃部の断面は二等辺三角形　目釘孔 1 か所貫通	1区床面	PL54



第 43 図　第 54 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 23　第 54 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 43 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坩	[9.4]	(13.8)	−	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ　一部磨き状　体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ　外面赤彩	2区床面	40% PL38
2	土師器	甕	[26.4]	(9.9)	−	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	2区床面	10%
3	土師器	坏	[14.2]	5.2	−	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ヘラ磨き	2区床面	60%

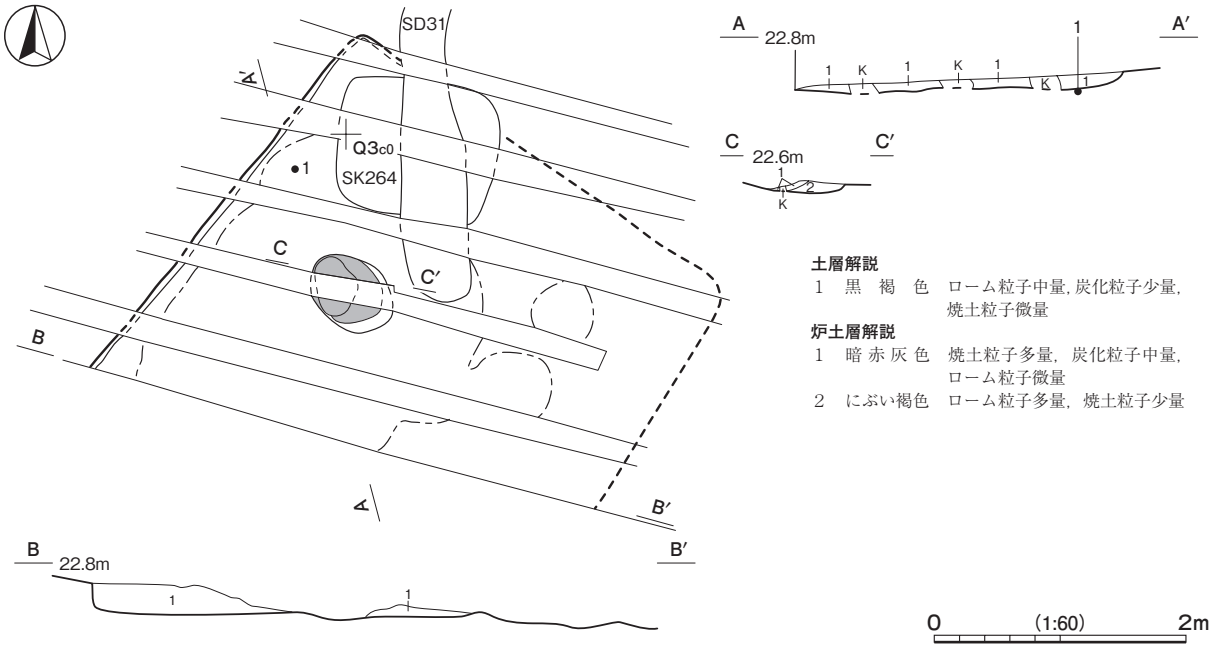
第 55 号竪穴建物跡（第 44 図）

位置　調査Ⅰ区南部のＱ３c0 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 264 号土坑，第 31 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区域外に延びており，また削平により東部の壁が確認できなかったことから，南北軸は 3.23 ｍしか確認できなかった。東西軸は３ｍ程の範囲で覆土が確認できた。南北軸方向はＮ − 38 ° − Ｅである。壁は高さ 15cm で，外傾している。

床　やや凹凸があり，西部が踏み固められている。



第 44 図　第 55 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

炉　中央部からやや西寄りに位置している。長径 75cm, 短径 53cm の楕円形の地床炉である。床面から 10cm ほどくぼんだ底面は，赤変している。

覆土　単一層。覆土の残存が悪く, 堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片 15 点（坩 1，高坏 1，壺・甕類 13），須恵器片 2 点（鉢・甕・甑類，不明）のほか，土師質土器片 1 点（小皿）が出土している。覆土の残存が悪かったため, 遺物は非常に少なく, 時期判断可能なものも限られている。1 は北東壁近くの床面から出土している。

所見　時期は，1 の甕の底部がやや突出している傾向があることや，竈構築以前の竪穴建物跡であること，また遺構の主軸方向などから，5 世紀中葉から後葉と考えられる。

表 24　第 55 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	壺	−	(6.6)	8.0	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き　内面ヘラナデ　器面あばた状に剥離　底部ナデ	1 区床面	30% PL38

第 57 号竪穴建物跡（第 45 図　PL13）

位置　調査 I 区西部の P 3f7 区，標高 23.5 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 274・275・290 号土坑，第 36 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北部が第 36 号溝に掘り込まれ，西部が調査区域外に延びているため，東西軸 2.93 m，南北軸は 2.34 mしか確認できなかった。隅丸長方形と推定され，南北軸方向はN − 10 ° − Wである。壁は高さ 8 cm で，外傾している。

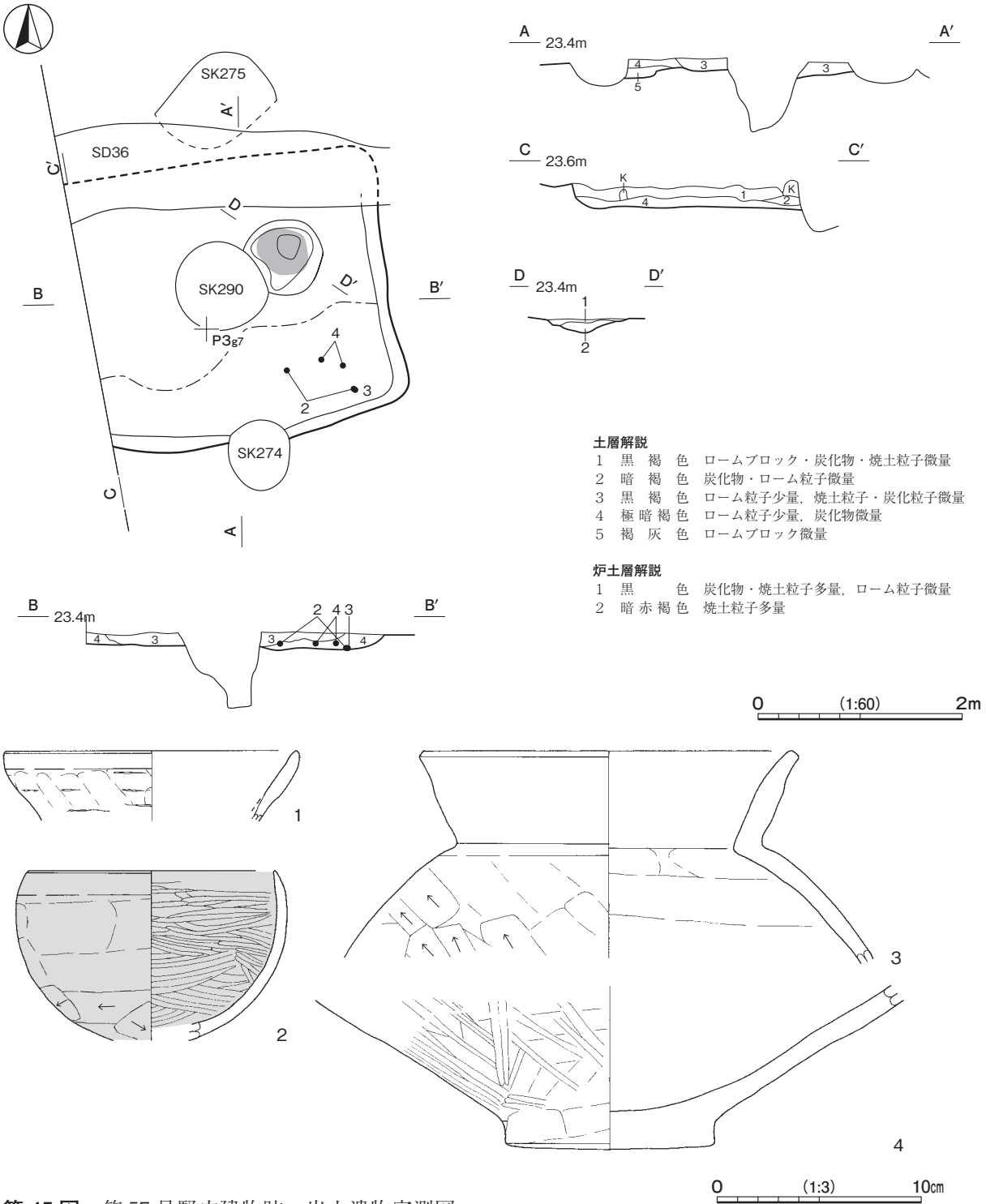
床　やや凹凸があり，南壁際を除き踏み固められている。

炉　中央部からやや東寄りに位置している。径 75cm ほどの円形と推定され，床面を 15cm ほど掘りくぼめている。

覆土　５層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。調査区壁で遺構の掘り込み面が捉えられ，本来の壁の高さは 25cm 程度である。

遺物出土状況　土師器片 182 点（坏６，椀８，坩５，高坏２，壺・甕類 161），須恵器片１点（鉢・甕・甑類）が出土している。中央部付近の床面近くから，破片ではあるが土器が集中して出土している。２～４は南東コーナー部の床面から出土している。小片のため図化しなかったが，炉の上面から，二段口縁の壺の口縁部が出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉に比定できる。



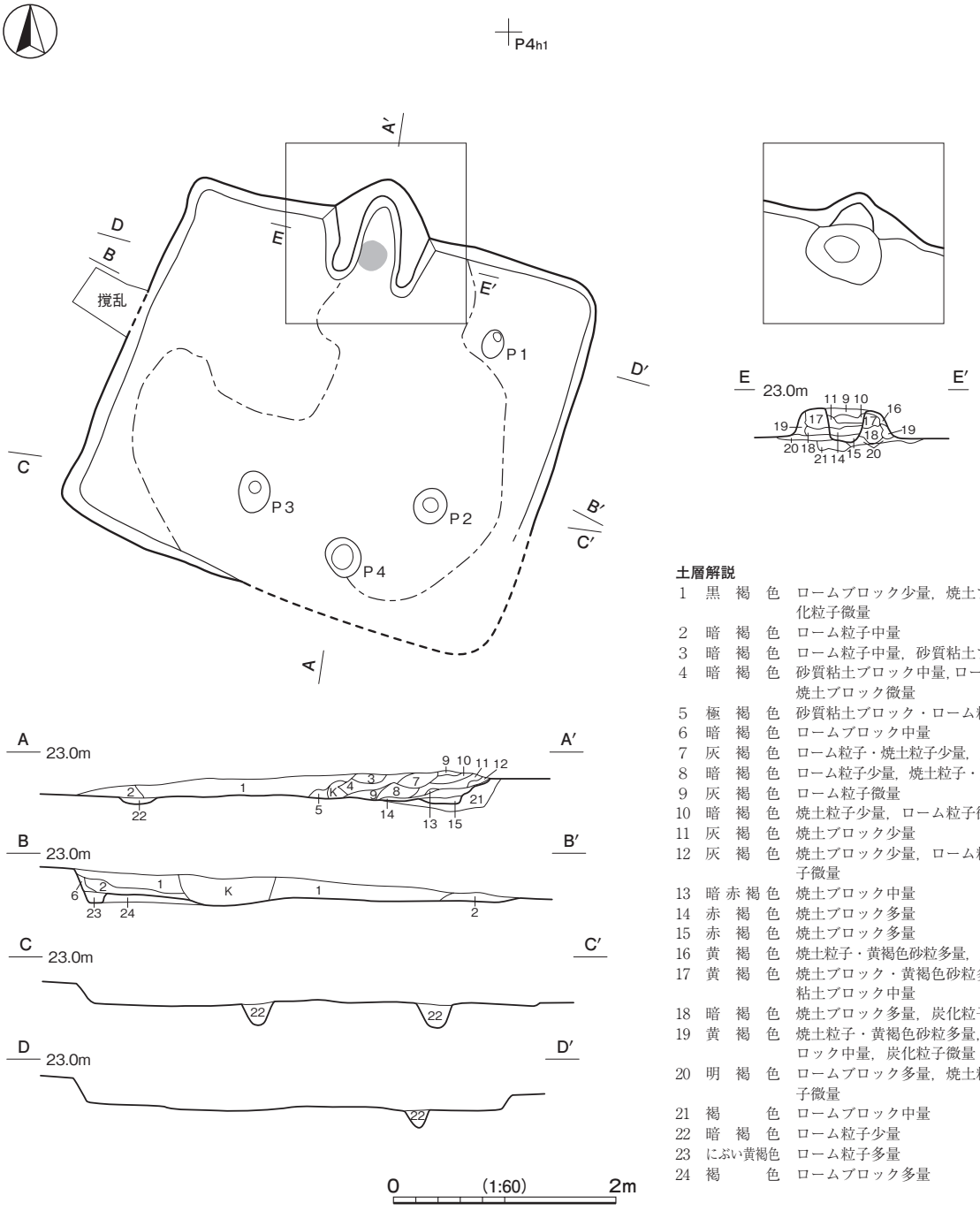
第 45 図　第 57 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 25　第 57 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 45 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	壺ヵ	［14.4］	(3.3)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外・内面ナデ　二次焼成ヵ	1区1ｘ	20%
2	土師器	椀	［11.9］	(8.2)	－	長石・石英・細礫	赤	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ナデ　下端部ヘラ削り　内面ヘラ磨き　赤彩	2区床面	40% PL38
3	土師器	甕	［18.0］	(10.3)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	2区床面	20% PL38
4	土師器	壺	－	(8.0)	［10.2］	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面摩滅　あばた状に剥離　底面ナデ	2区床面	20%

第 58 号竪穴建物跡（第 46・47 図　PL13）

位置　調査Ⅰ区南部のＰ 3h0 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。



土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，砂質粘土ブロック微量
4　暗　褐　色　砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
5　極　褐　色　砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　灰　褐　色　ローム粒子微量
10　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
11　灰　褐　色　焼土ブロック少量
12　灰　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
13　暗赤褐色　焼土ブロック中量
14　赤　褐　色　焼土ブロック多量
15　赤　褐　色　焼土ブロック多量
16　黄　褐　色　焼土粒子・黄褐色砂粒多量，炭化粒子微量
17　黄　褐　色　焼土ブロック・黄褐色砂粒多量，灰白色粘土ブロック中量
18　暗　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
19　黄　褐　色　焼土粒子・黄褐色砂粒多量，砂質粘土ブロック中量，炭化粒子微量
20　明　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
21　褐　　色　ロームブロック中量
22　暗　褐　色　ローム粒子少量
23　にぶい黄褐色　ローム粒子多量
24　褐　　色　ロームブロック多量

第 46 図　第 58 号竪穴建物跡実測図

規模と形状　長軸 3.98 m，短軸 3.47 mの長方形で，主軸方向はＮ－ 17゜－Ｅである。壁は高さ３～ 20cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦な貼床で，東西壁際を除き踏み固められている。

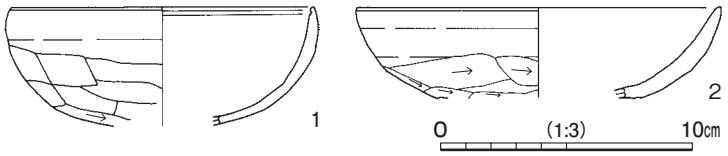
竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，ロームブロックを多く含む第 21 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 100cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第３～５・７～ 20 層が竈に関連する堆積土で，袖部は基部に第 20 層の明褐色土を，その上に黄褐色砂粒や灰白色粘土ブロックを多く含む第 16 ～ 19 層を積み上げて構築されている。第 13 ～ 15 層は燃焼部の堆積土で，火床面は床面から 10cm ほど掘りくぼめられている。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 15 ～ 24cm で，配置から主柱穴である。Ｐ４は深さ 12cm で，配置から出入口施設に伴うピットの可能性がある。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第 23 層は壁溝の堆積土，第 24 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 74 点（坏２，高坏４，壺・甕類 68），須恵器片９点（坏２，高台付坏１，蓋１，鉢・甕・甑類５），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 53.5 ｇ，鉄滓 4.4 ｇ），焼成粘土塊 18.9 ｇのほか，縄文土器片１点が出土している。遺物は小片が多く，時期判断できるものは少ない。１は南東部の覆土上層から，２は北西部の覆土上層から，それぞれ出土している。１の口縁部内面には，沈線が一条巡っている。

所見　時期は，出土土器から７世紀中葉に比定できる。



第 47 図　第 58 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 26　第 58 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 47 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［12.0］	（4.6）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ナデ　口縁部に沈線	２区１ｘ	30%
2	土師器	坏	［14.4］	（3.5）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ナデ	４区１ｘ	40% PL38

第 59 号竪穴建物跡（第 48・49 図　PL14）

位置　調査Ｉ区中央部のＰ４h2 区，標高 22.5 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 60 号竪穴建物，第 37 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北部から東部が第 60 号竪穴建物に，南部が第 37 号溝に掘り込まれているため，南北軸は 4.75 m，東西軸は約４mしか確認できなかった。方形または長方形と推定され，南北軸方向はＮ－２゜－Ｅである。壁は高さ５～ 14cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦で，西壁のみ壁溝が巡っている。

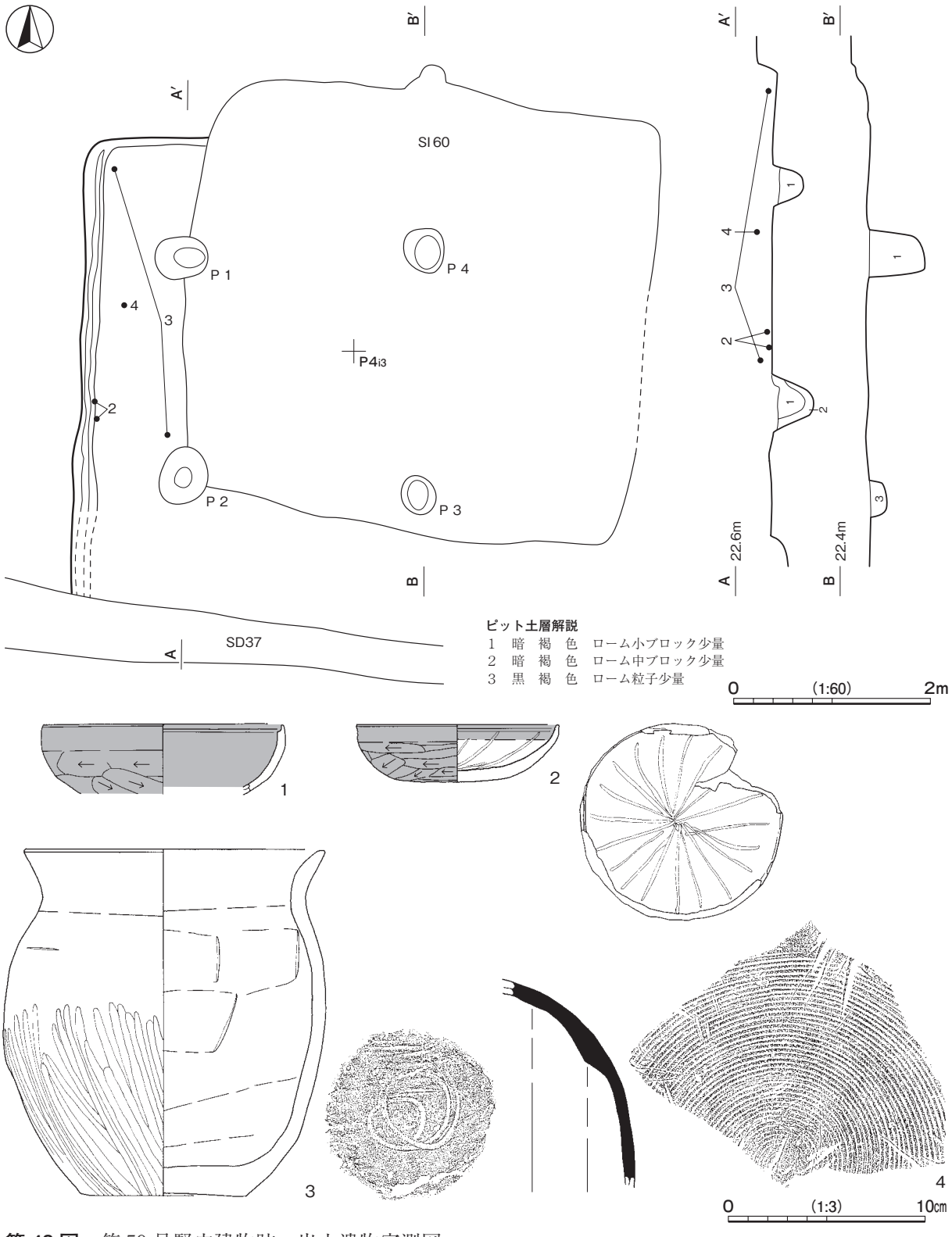
ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 20 ～ 58cm と差があるが，配置から主柱穴である。

覆土　第 16 層と壁溝埋土の第 17 層に分層できる（第 49 図参照）。第 16 層はロームブロックを多量に含む灰黄褐色土で，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 101 点（坏 19，高坏３，壺・甕類 79），須恵器片１点（提瓶）が出土している。重複で掘り込まれているため，覆土は部分的で，本跡に帰属する遺物は少ない。２は西壁際の床面から出土してい

る。ほぼ完形で，口縁部内面に沈線が一条巡っており，内面には放射状の磨きが施されている。１も口縁部内面に沈線が巡っている。３は北西コーナー付近の床面近くと，北西部の覆土中の破片が接合したもので，ほぼ完形に復元できたものである。底面に沈線で渦巻き状の文様が描かれている。４の須恵器の提瓶は，胴部の破片で，カキ目調整が施されている。産地は肉眼での観察であるが，在地産と考えられる。

所見　時期は，出土土器から７世紀後葉に比定できる。



第 48 図　第 59 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 27　第 59 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 48 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［12.2］	（3.5）	－	長石	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ナデ　口縁部に沈線　外・内面黒色処理	4 区覆土中	20%
2	土師器	坏	［10.2］	2.9	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面放射状の磨き　口縁部一部摩滅　外面・内面口縁部黒色処理	4 区床面	95% PL38
3	土師器	甕	14.9	17.4	8.4	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面上半ヘラナデ　下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部ヘラ磨き　沈線文あり	4 区下層	80% PL38
4	須恵器	提瓶	－	（10.7）	－	長石・石英	灰黄	普通	ロクロ成形　外面カキ目	4 区下層	20%在地$_{カ}$ PL49

第 60 号竪穴建物跡（第 49・50 図　PL14）

位置　調査Ⅰ区中央部のＰ 4 h3 区，標高 22.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 59・68 号竪穴建物跡を掘り込み，第８号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.70 ｍ，短軸 4.50 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 10 °－Ｅである。壁は高さ８～ 12cm で，外傾している。

床　平坦な貼床で，壁際を除き踏み固められている。北壁東部と東壁北部を除き壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。袖部の残存状態がよくないことから，火床面等から推定される規模は，焚口部から煙道部まで 85cm で，燃焼部幅は 40cm ほどである。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ，ほぼ直立している。第３・５～ 13・15 層が竈に関連する堆積土である。第 11 層が袖部で，基底部付近が残るのみである。第３・８層が砂質粘土ブロックを含む土で，天井部の崩落土の可能性がある。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。第 15 層は掘方への埋土である。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 28 ～ 35cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４は深さ 15cm で，配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ５は径は小さめであるが深さ 48cm と深く，上屋を支える補助的な柱穴と考えられる。

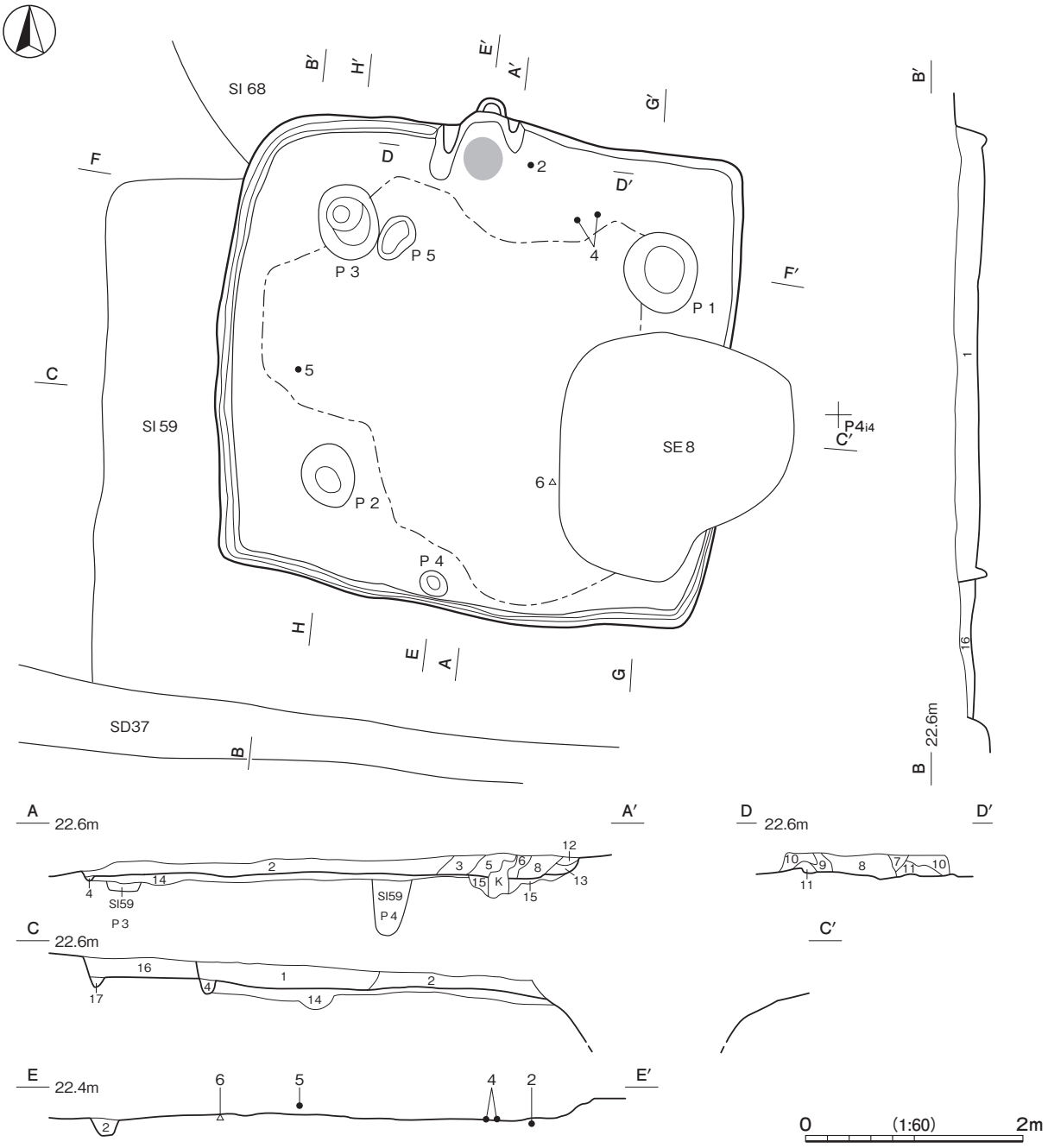
覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第 14 層は掘方への埋土，第 16・17 層は第 59 号竪穴建物跡の覆土である。

遺物出土状況　土師器片 422 点（坏 46，高坏１，壺・甕・甑類 375），須恵器片 31 点（坏 20，蓋８，壺１，鉢・甕・甑類２），土製品１点（支脚$_{カ}$），金属製品１点（腰帯具），焼成粘土塊 19.1 ｇが出土している。１は重複する第 59 号竪穴建物跡のＰ２の覆土中から出土した破片と接合した。２は竈付近の床面から出土したもので，１・２の口縁部内面には，一条の沈線が巡っている。４はやや胴長の土師器甕で，竈前面の床面から出土している。６は銅製の鋲具と考えられるもので，南東部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀後葉に比定できる。出土土器からは重複する第 59 号竪穴建物跡と大きな時間差を読み取ることができない。両建物跡の主軸方向もほぼ同じで，第 59 号竪穴建物跡はロームブロックを多量に含む灰黄褐色土で埋め戻されていることから，比較的短期間のうちに，第 59 号竪穴建物から第 60 号竪穴建物への建て替えが行われたものと推測される。

表 28　第 60 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 50 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［11.5］	（3.7）	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面放射状の磨き　黒色処理$_{カ}$	覆土中	20% PL49
2	土師器	坏	［14.0］	4.2	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ナデ　口縁部に沈線	1 区床面	30% PL38
3	須恵器	壺	－	（4.1）	－	長石　緻密	灰	普通	外面上端に波状文$_{カ}$　ロクロ成形	竈覆土中	20%
4	土師器	甕	－	（24.1）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外面上半部ヘラナデ　下半部ヘラ磨き　内面ヘラナデ	1 区床面	30%
5	須恵器	鉢	－	（17.5）	［24.6］	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	外面斜位～横位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ	3 区下層	20%新治窯



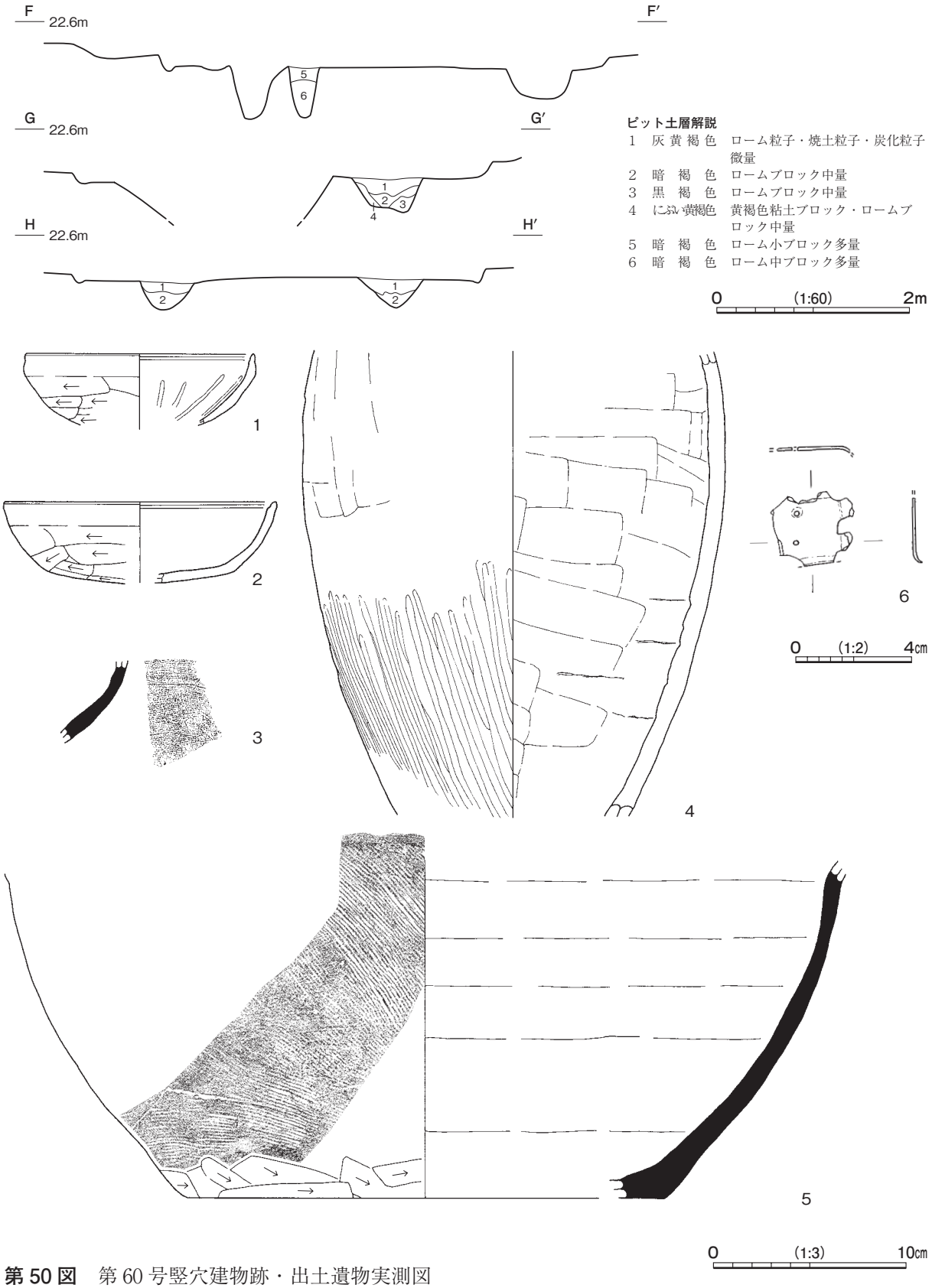
土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 黒 褐 色 炭化物・焼土粒子少量，ローム粒子微量
3 暗赤褐色 黄褐色粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量
5 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
7 暗赤褐色 焼土粒子中量，砂質粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
8 褐 灰 色 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
9 暗赤褐色 焼土粒子中量，炭化物・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
10 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
11 暗 褐 色 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
12 黒 褐 色 焼土ブロック少量，ローム粒子微量
13 極暗褐色 ローム粒子少量，炭化物・砂質粘土ブロック微量
14 暗 褐 色 ロームブロック多量
15 褐 色 ロームブロック多量
16 灰黄褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
17 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 49 図　第 60 号竪穴建物跡実測図

表 29　第 60 号竪穴建物跡出土遺物観察表（2）

番号	器 種	最小径	最大径	長さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
7	支脚ヵ	－	－	(2.7)	36.33	長石	橙	表面一部分のみ　一部弧状を呈することから支脚と判断	3区覆土中	観察表のみ



第 50 図　第 60 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 30　第 60 号竪穴建物跡出土遺物観察表（３）（第 50 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
6	鈸具	(2.6)	(2.9)	0.1	3.21	銅	側縁と下端が内側に緩く屈曲　側縁部に抉りあり　貫通孔２孔　一方向からの穿孔	２区床面	PL57

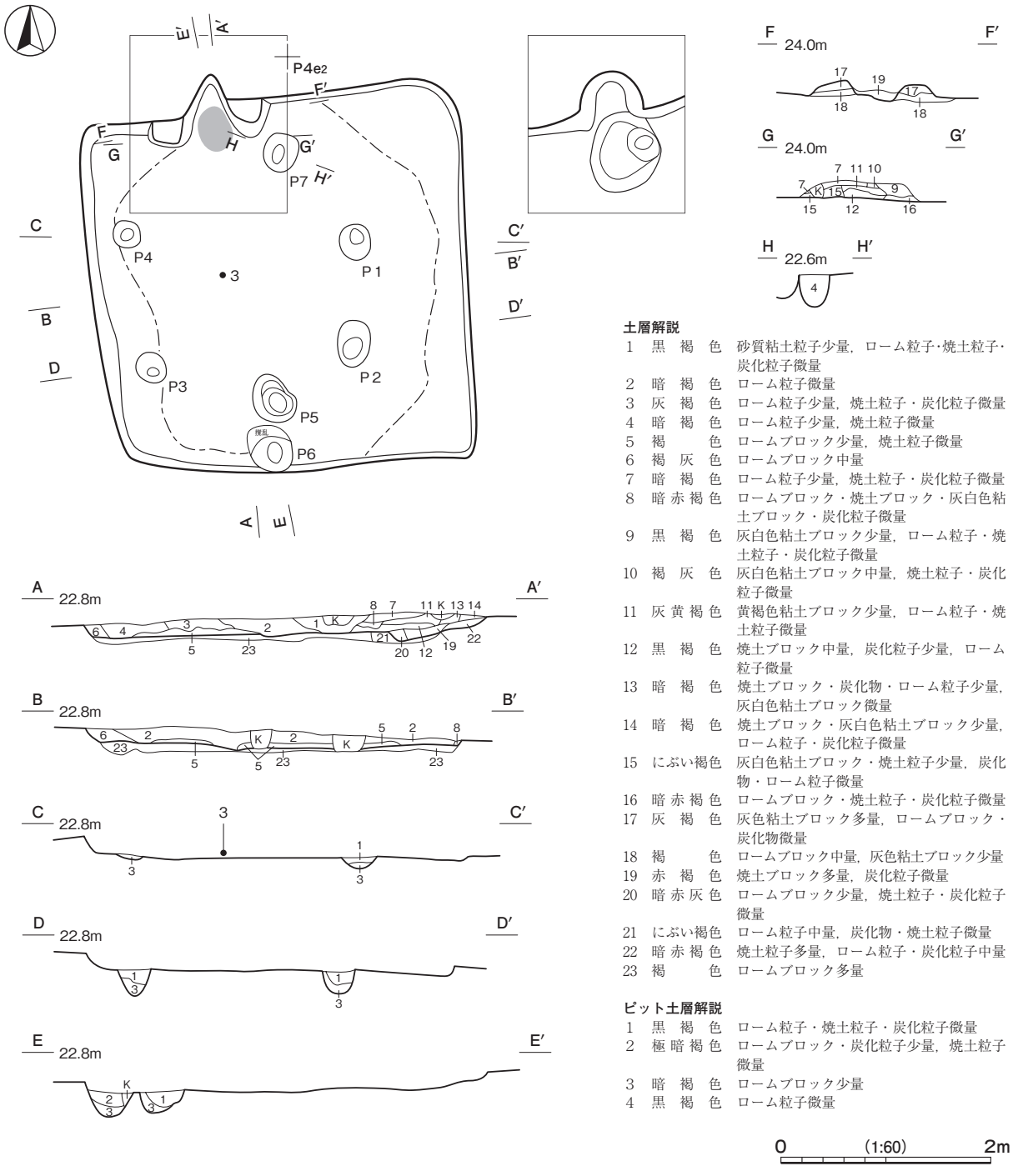
第 63 号竪穴建物跡（第 51・52 図　PL14）

位置　調査Ｉ区中央部のＰ４e1 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　一辺 3.57 ｍの方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｗである。壁は高さ６～ 13cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦な貼床で，東西壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部やや西寄りに付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，ローム粒子をやや多く含む第 21 層を埋土して構築されている。袖部の遺存状態が悪く，火床面等から推定される規模は，焚口部から煙道部まで約 80cm で，燃焼部幅は 40cm ほどである。煙道部は壁外に 45cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾して



土層解説

1	黒　褐　色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子･焼土粒子･炭化粒子微量
2	暗　褐　色	ローム粒子微量
3	灰　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
5	褐　　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
6	褐　灰　色	ロームブロック中量
7	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗 赤 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・灰白色粘土ブロック・炭化粒子微量
9	黒　褐　色	灰白色粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10	褐　灰　色	灰白色粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11	灰 黄 褐 色	黄褐色粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
12	黒　褐　色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
13	暗　褐　色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量，灰白色粘土ブロック微量
14	暗　褐　色	焼土ブロック・灰白色粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
15	にぶい褐色	灰白色粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
16	暗 赤 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
17	灰　褐　色	灰色粘土ブロック多量，ロームブロック・炭化物微量
18	褐　　色	ロームブロック中量，灰色粘土ブロック少量
19	赤　褐　色	焼土ブロック多量，炭化粒子微量
20	暗 赤 灰 色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
21	にぶい褐色	ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子微量
22	暗 赤 褐 色	焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子中量
23	褐　　色	ロームブロック多量

ピット土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	極 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	暗　褐　色	ロームブロック少量
4	黒　褐　色	ローム粒子微量

第 51 図　第 63 号竪穴建物跡実測図

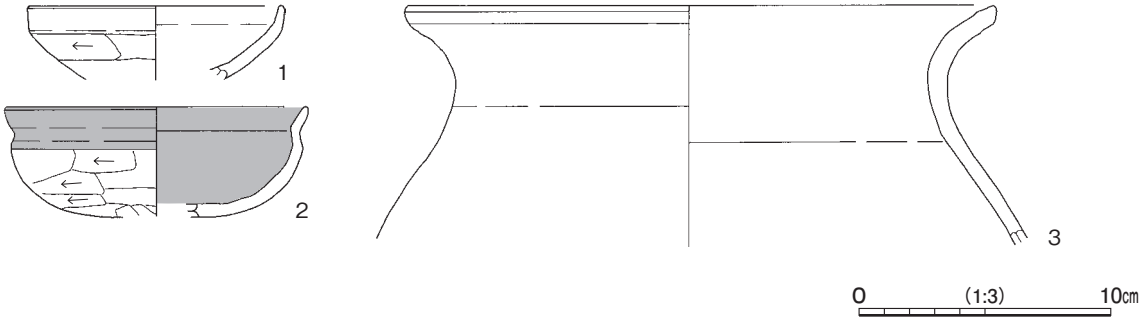
いる。第７～20・22層が竈に関連する堆積土で，第19・20層が火床部の堆積土である。火床面は床面から10cmほど掘りくぼめられている。袖部は遺存状態が悪く，壁付近の基底部に近い部分が低く残存しているのみである。ローム粒子を多く含む第18層に，灰色粘土ブロックを多く含む第17層を積み上げて構築されている。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ５～25cmと浅いが，配置から主柱穴である。Ｐ５・Ｐ６はいずれも深さ22cmで，配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７は深さ30cmで不規則な位置にあり，補助的な柱穴と考えられる。

覆土　６層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第23層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片86点（坏９，高坏２，壺･甕･甑類74，器種不明１），須恵器片２点（瓶類１，鉢･甕･甑類１），鍛冶関連遺物（鉄滓8.7ｇ）のほか，縄文土器片１点が出土している。遺物は少量で，小片が多い。３は中央付近の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀中葉に比定できる。



第52図　第63号竪穴建物跡出土遺物実測図

表31　第63号竪穴建物跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［10.0］	(3.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	掘方４区	５％
2	土師器	坏	［11.8］	4.3	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面ナデ　黒色処理	竈覆土中	20％
3	土師器	甕	［23.0］	(9.5)	－	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ナデ	４区床面	５％

第64号竪穴建物跡（第53・54図　PL14・15）

位置　調査Ⅰ区北西部のＰ３b6区，標高23.5ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第325号土坑を掘り込み，第362号土坑，第39号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西部が重複のため，南北軸4.13ｍで，東西軸は3.95ｍしか確認できなかった。方形と推定され，主軸方向はＮ－９°－Ｗである。壁は高さ28～31cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，東西壁際を除き踏み固められている。

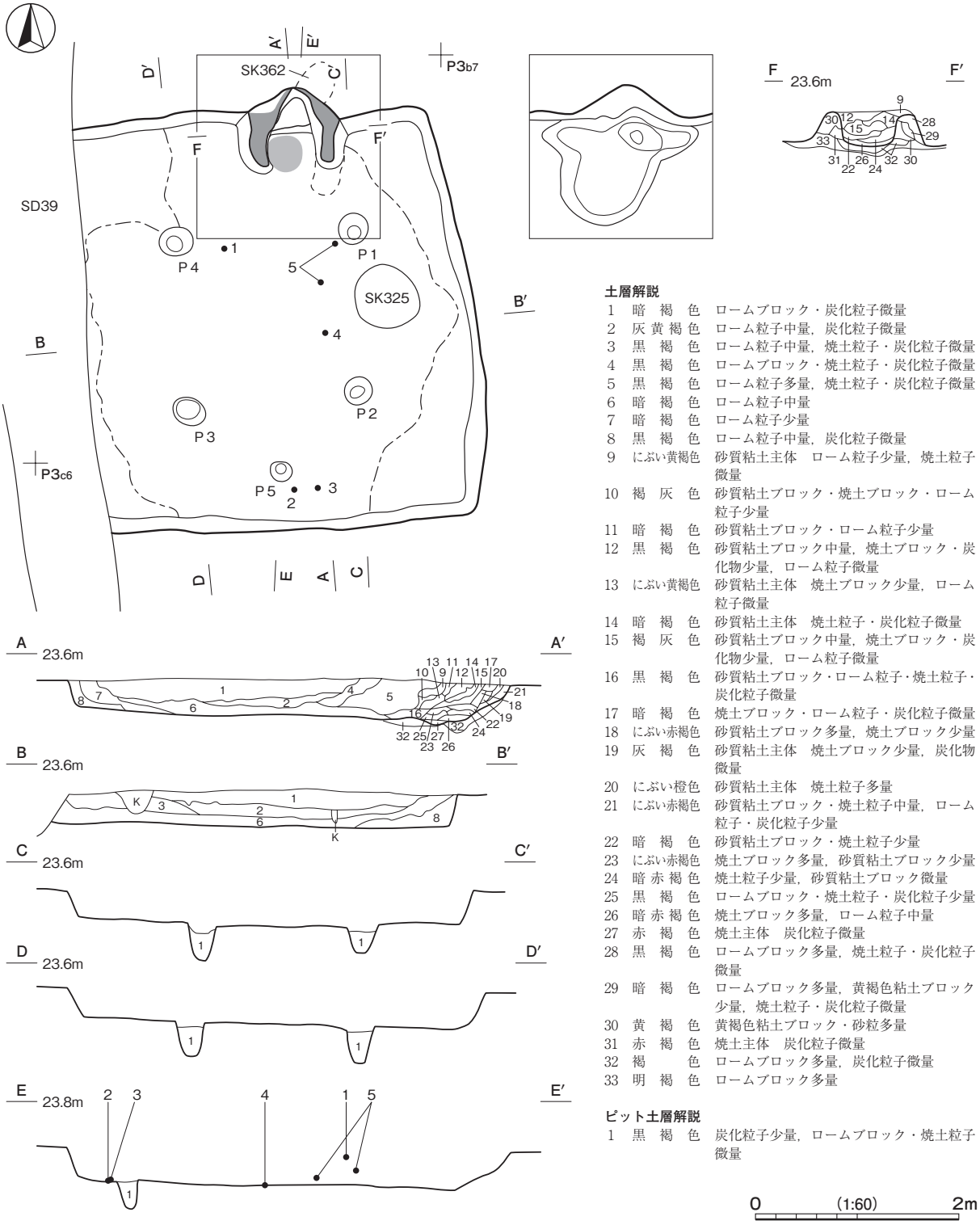
竈　北壁中央部やや東寄りに付設されている。付設部分を不整な楕円形に掘り込み，ロームブロックを多く含む第32・33層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで80cmで，燃焼部幅は45cmである。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ，外傾している。第９～31層が竈に関連する堆積土で，第23・26・27層が燃焼部および火床部の堆積土である。火床面は床面から５cmほど掘りくぼめられている。第28～31層が袖部で，黄褐色粘土主体の第30層に，ロームブロックを含む褐色土を積み上げて構築されている。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ34～50cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ28cmで，配

置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　８層に分層できる。第２・３・５・６・８層にローム粒子をやや多く含むものの，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 119 点（坏 13，椀３，高坏６，壺･甕類 97），須恵器片１点（坏），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 43.0 ｇ）のほか，縄文土器片１点，剥片１点（黒曜石）が出土している。遺物は覆土の残りの割には少量で，小片が多い。２～４が南東部の床面から，それぞれ出土している。



土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	灰 黄 褐 色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
3	黒　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒　褐　色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗　褐　色	ローム粒子中量
7	暗　褐　色	ローム粒子少量
8	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
9	にぶい黄褐色	砂質粘土主体　ローム粒子少量，焼土粒子微量
10	褐　灰　色	砂質粘土ブロック・焼土ブロック・ローム粒子少量
11	暗　褐　色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
12	黒　褐　色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
13	にぶい黄褐色	砂質粘土主体　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
14	暗　褐　色	砂質粘土主体　焼土粒子・炭化粒子微量
15	褐　灰　色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
16	黒　褐　色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
17	暗　褐　色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
18	にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
19	灰　褐　色	砂質粘土主体　焼土ブロック少量，炭化物微量
20	にぶい橙色	砂質粘土主体　焼土粒子多量
21	にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
22	暗　褐　色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
23	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック少量
24	暗 赤 褐 色	焼土粒子少量，砂質粘土ブロック微量
25	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
26	暗 赤 褐 色	焼土ブロック多量，ローム粒子中量
27	赤　褐　色	焼土主体　炭化粒子微量
28	黒　褐　色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
29	暗　褐　色	ロームブロック多量，黄褐色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
30	黄　褐　色	黄褐色粘土ブロック・砂粒多量
31	赤　褐　色	焼土主体　炭化粒子微量
32	褐　　色	ロームブロック多量，炭化粒子微量
33	明　褐　色	ロームブロック多量

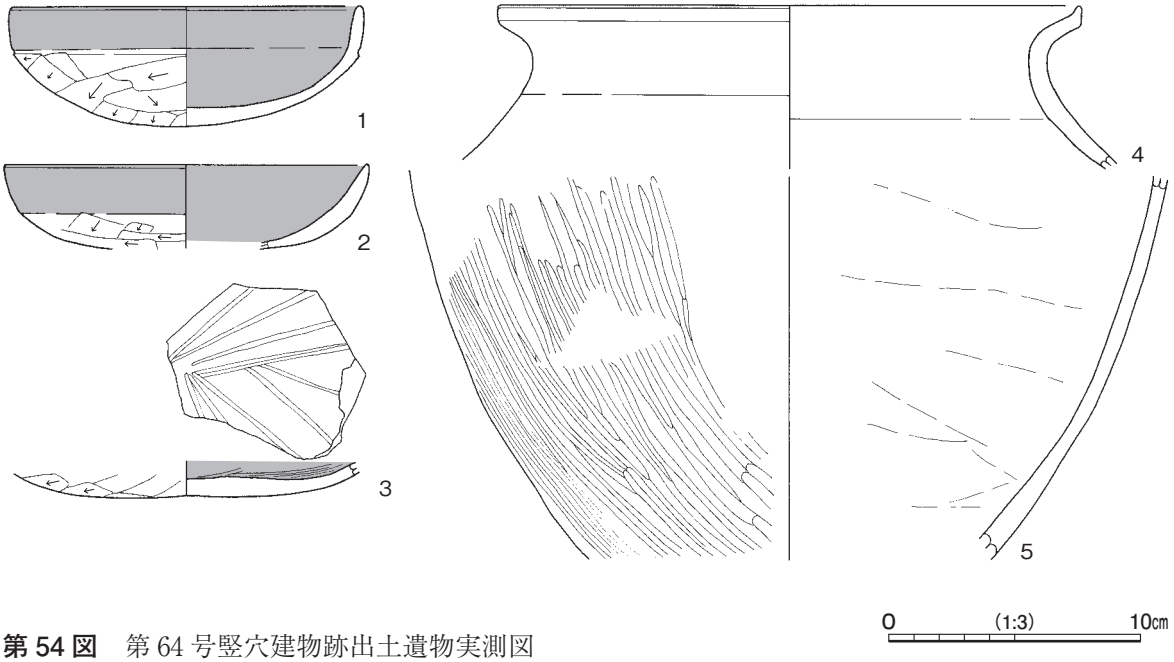
ピット土層解説

1	黒　褐　色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量

0　(1:60)　2m

第 53 図　第 64 号竪穴建物跡実測図

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉から中葉に比定できる。



第 54 図　第 64 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 32　第 64 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 54 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	[13.6]	4.8	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　黒色処理	４区上層	50%　PL38
2	土師器	坏	[14.4]	(3.3)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　黒色処理	２区床面	20%
3	土師器	坏	－	(1.4)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面放射状の磨き　黒色処理	２区床面	20%
4	土師器	甕	[23.0]	(6.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ナデ	２区床面	10%　PL50
5	土師器	甕	－	(15.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	１区下層	20%　PL50

第 66 号竪穴建物跡（第 55・56 図　PL15）

位置　調査Ｉ区中央部のＰ４f6 区，標高 22 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 65 号竪穴建物，第 358 号土坑，第 36 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南東部が調査区内に入り込む埋没谷の黒色土が確認面となるため，壁をとらえることができなかった。確認できた部分で長軸 7.42 ｍ，短軸 6.58 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－ 37 °－Ｗである。壁は高さ 15 ～ 20cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦であるが，傾斜に沿って東部に向かって下がっている。東壁際を除き踏み固められている。

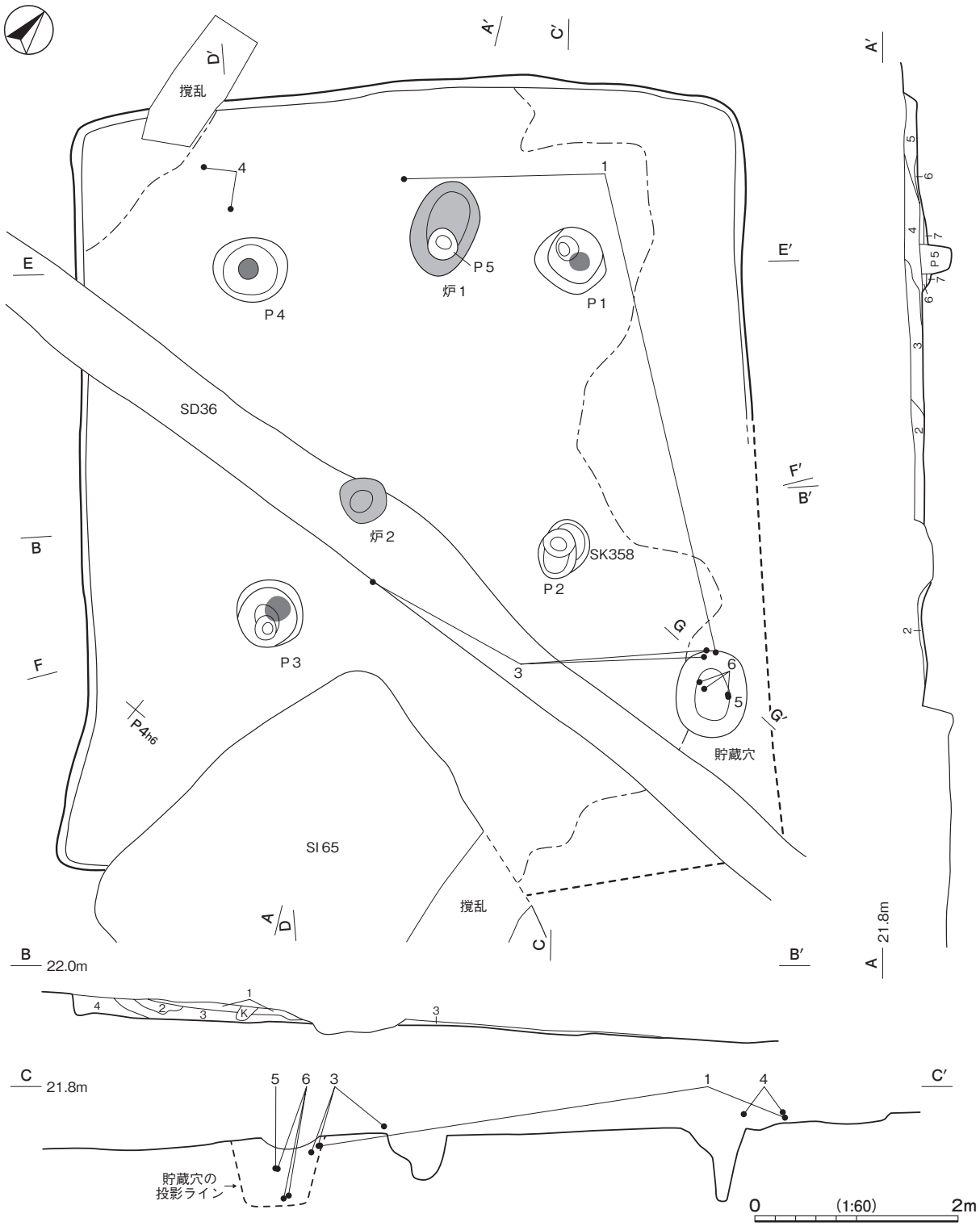
炉　２か所。炉１は北部中央で，Ｐ１とＰ４の中間部分に位置している。長径 96cm，短径 60cm の楕円形の地床炉で，底面はすり鉢状で赤変硬化している。炉２は中央部に位置しており，上部を第 36 号溝に掘り込まれている。径 45cm の円形の地床炉で，底面はすり鉢状で赤変硬化している。

貯蔵穴　南東コーナー部付近に付設されている。長径 85cm，短径 69cm の楕円形で，深さは 55cm である。底面はやや凹凸があり，壁は直立している。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 45 ～ 82cm で，規模と位置から主柱穴である。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４の底面には柱の当たりが確認できた。Ｐ５は深さ 64cm で，炉１を掘り込んでいる。Ｐ２の第１・２層は第 358 号土坑の覆土である。

覆土　5層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれており，埋め戻されている。第6・7層は炉1の堆積土である。

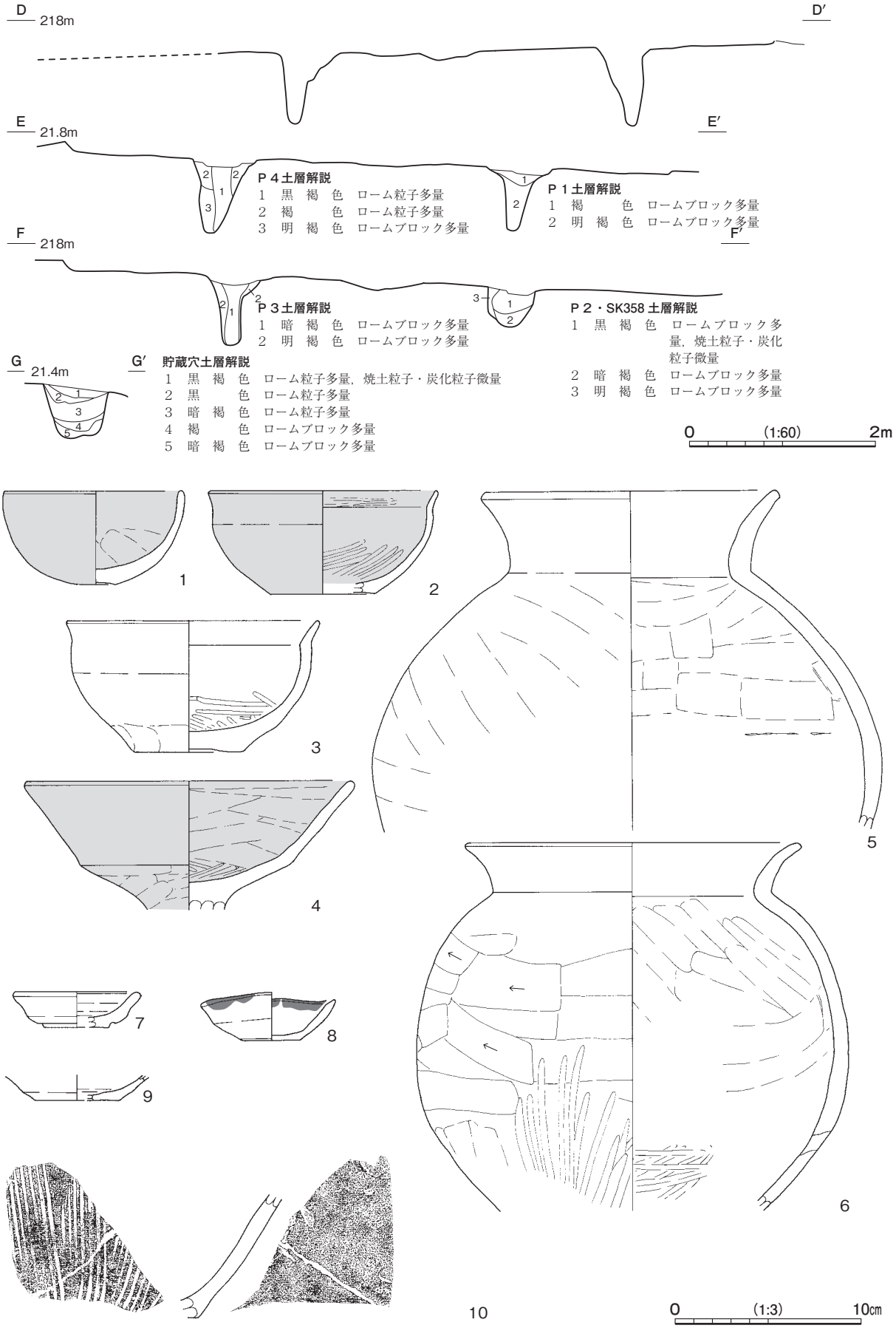
遺物出土状況　土師器片148点（椀21，高坏17，壺･甕･甑類109，不明1），須恵器片1点（坏），石器1点（砥



土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　明　褐　色　ローム小ブロック多量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量
5　明　褐　色　ローム中ブロック多量
6　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
7　明　褐　色　焼土ブロック多量

第55図　第66号竪穴建物跡・第358号土坑実測図



第 56 図　第 66 号竪穴建物跡・第 358 号土坑・出土遺物実測図

石），金属製品１点（手鎌カ），焼成粘土塊 29.3 ｇのほか，縄文土器片２点が出土している。遺物は極めて多いわけではないが，北西部付近と貯蔵穴周辺からややまとまって出土している。３は貯蔵穴の上面から正位で出土した。６は貯蔵穴の覆土中層から逆位で出土している。７～ 10 はＰ２を掘り込んでいる第 358 号土坑の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉に比定できる。

表 33　第 66 号竪穴建物跡・第 358 号土坑出土遺物観察表（第 56 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	椀	［9.5］	5.0	2.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ　赤彩　上げ底	１区床面 ２区床面	80% PL38
2	土師器	椀	［12.0］	5.5	［5.6］	長石・石英	赤	普通	外面ナデ　赤彩　内面ナデ　一部磨き状　赤彩　上げ底	４区１ｘ	20% PL50
3	土師器	椀	13.5	7.0	5.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ナデ　下端部指頭ナデ　内面ナデ　内底面ヘラ磨き	２区床面 貯蔵穴上層	80% PL39
4	土師器	高坏	17.5	（6.9）	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面ナデ　赤彩　内面ナデ　内底面ヘラ磨き　赤彩	４区下層	60% PL39
5	土師器	甕	15.6	（18.1）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	貯蔵穴中層	30% PL39
6	土師器	甕	［17.4］	（19.7）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　下半部ヘラ磨き　内面ヘラナデ　内底面ヘラ磨き　底部が別造りで積み上げて成形される	貯蔵穴下層	30% PL50
7	土師質土器	小皿	［6.6］	1.9	［3.4］	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	SK358 覆土	20%
8	土師質土器	小皿	7.0	2.6	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り　口縁部外・内面に煤付着	SK358 覆土	100% PL46
9	土師質土器	小皿	－	（1.3）	［4.4］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	SK358 覆土	40%
10	土師質土器	擂鉢	－	（6.6）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ　内面７条１単位の刷り目	SK358 覆土	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
11	砥石	（2.6 9	2.8	0.7 ～ 1.7	13.75	泥岩	砥面３面　被熱	４区１ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
12	手鎌カ	（2.6）	2.2	0.3 ～ 0.4	4.46	鉄	一側面が弧状に残存カ　刃部の形成弱い	４区１ｘ	観察表のみ

第 67 号竪穴建物跡（第 57・58 図　PL15）

位置　調査Ｉ区北部のＰ４b6 区，標高 21.5 ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 4.61 ｍ，短軸 4.57 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 19°－Ｗである。壁は高さ 13 ～ 22cm で，直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，東西壁際を除き踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を不整な楕円形に掘り込み，ロームブロックを多く含む第 29・30 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，段を有して立ち上がっている。第９～ 28 層が竈に関連する堆積土で，第 17 ～ 23 層が燃焼部および火床部の堆積土である。第 19・22 層は灰層で，床面から５cm ほど掘りくぼめられた火床面上に厚く堆積している。第 24 ～ 28 層が袖部で，砂質粘土ブロックを含む暗褐色土に砂質粘土主体の第 24 ～ 26 層を積み上げて構築されている。

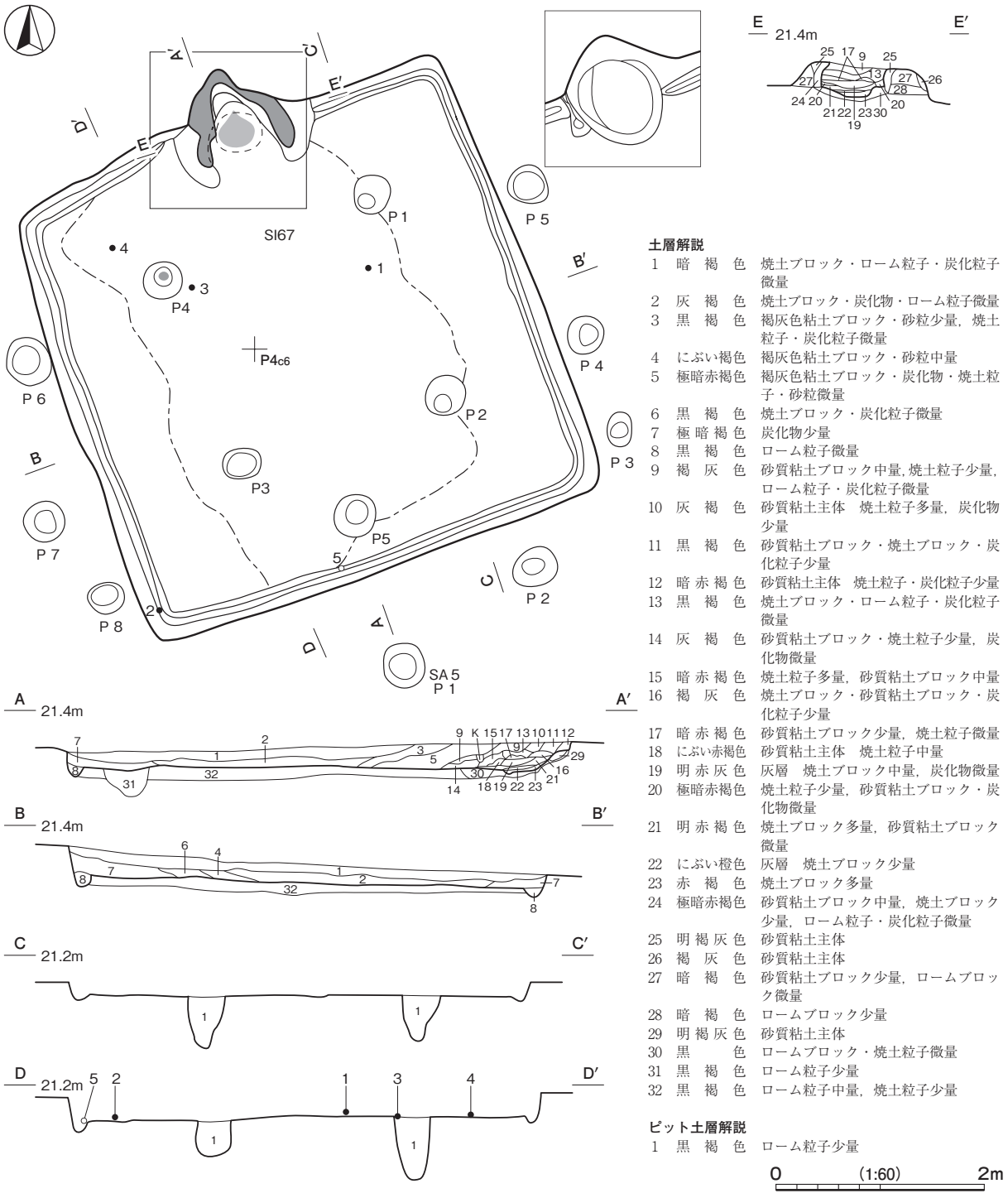
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 33 ～ 60cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４の底面に，柱の当たりが確認できた。Ｐ５は深さ 25cm で，配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　８層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第 32 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 76 点（坏 13，椀４，高坏１，壺・甕・甑類 58），須恵器片９点（坏６，蓋１，円面硯カ１，甕１），土製品１点（支脚），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 15.7 ｇ），焼成粘土塊 8.5 ｇのほか，縄文土器

片１点が出土している。出土遺物は少なく，小片が多い。４は北西コーナー付近の床面から，大きく２つに分割した状態で出土した。２・３も床面から出土しているが，やや時期が下がるもので，混入と考えられる。また竈の東部とＰ３・Ｐ４の間の床面上に，径 30cm ほどの炭化物の分布が見られる。

所見　出土土器はやや時期幅があり，また坏類で時期判断が可能なものがないことなどから，４の甑から６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。遺構の主軸方向は，６世紀後葉の第 20 号竪穴建物跡とほぼ同じであることから，本跡の時期は６世紀後葉と捉えておきたい。本跡の周囲に第５号柱穴列としたピットが巡っており，垂木抜き取り痕などの本跡に関連するピットと考えることもできる。



土層解説

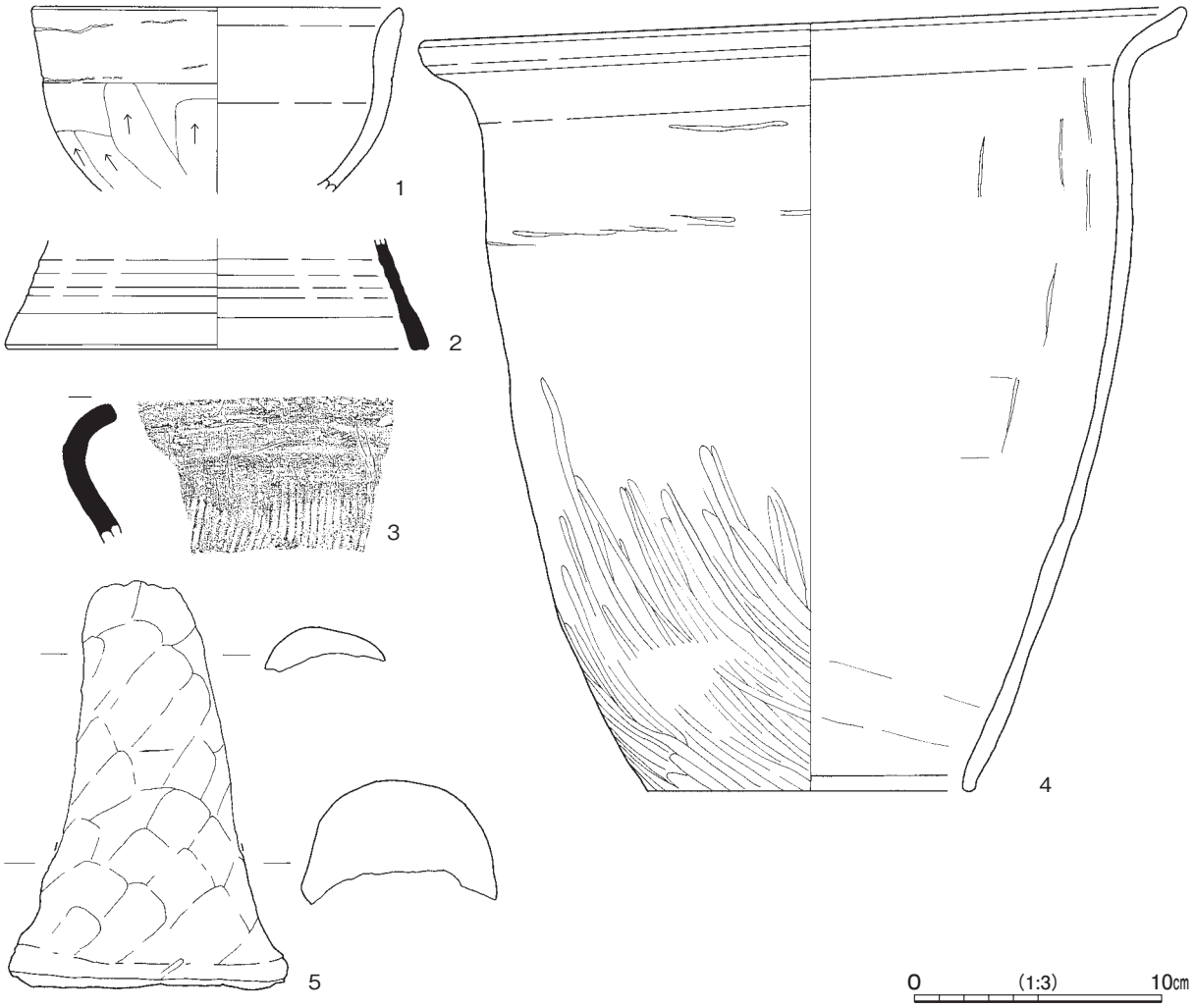
1	暗	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2	灰	褐	色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
3	黒	褐	色	褐灰色粘土ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	にぶい褐色			褐灰色粘土ブロック・砂粒中量
5	極暗赤褐色			褐灰色粘土ブロック・炭化物・焼土粒子・砂粒微量
6	黒	褐	色	焼土ブロック・炭化粒子微量
7	極暗褐色			炭化物少量
8	黒	褐	色	ローム粒子微量
9	褐	灰	色	砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
10	灰	褐	色	砂質粘土主体　焼土粒子多量，炭化物少量
11	黒	褐	色	砂質粘土ブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
12	暗赤褐色			砂質粘土主体　焼土粒子・炭化粒子少量
13	黒	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
14	灰	褐	色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
15	暗赤褐色			焼土粒子多量，砂質粘土ブロック中量
16	褐	灰	色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
17	暗赤褐色			砂質粘土ブロック少量，焼土粒子微量
18	にぶい赤褐色			砂質粘土主体　焼土粒子中量
19	明赤灰色			灰層　焼土ブロック中量，炭化物微量
20	極暗赤褐色			焼土粒子少量，砂質粘土ブロック・炭化物微量
21	明赤褐色			焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック微量
22	にぶい橙色			灰層　焼土ブロック少量
23	赤	褐	色	焼土ブロック多量
24	極暗赤褐色			砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
25	明褐灰色			砂質粘土主体
26	褐	灰	色	砂質粘土主体
27	暗	褐	色	砂質粘土ブロック少量，ロームブロック微量
28	暗	褐	色	ロームブロック少量
29	明褐灰色			砂質粘土主体
30	黒		色	ロームブロック・焼土粒子微量
31	黒	褐	色	ローム粒子少量
32	黒	褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子少量

ピット土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子少量

0　(1:60)　2m

第 57 図　第 67 号竪穴建物跡実測図



第 58 図　第 67 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 34　第 67 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 58 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	椀	［14.6］	(7.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	1 区床面	20%
2	須恵器	円面硯カ	－	(4.5)	［17.0］	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	普通	脚部　ロクロナデ	3 区床面	5 %在地カ
3	須恵器	甕	－	(5.5)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	外面縦位の平行叩き　内面ナデ	4 区床面	5 %新治窯
4	土師器	甑	30.5	31.6	13.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ	4 区床面	90% PL39

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
5	支脚	(3.0)	(11.2)	(16.4)	570	長石	にぶい黄橙	表面に細かい傷あり　木葉痕カ	3 区床面	PL47

第 68 号竪穴建物跡（第 59・60 図）

位置　調査Ⅰ区中央部のＰ 4 g2 区，標高 22.5 mの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 60 号竪穴建物，第 4 号鍛冶関連遺構，第 36 号溝に掘り込まれている。

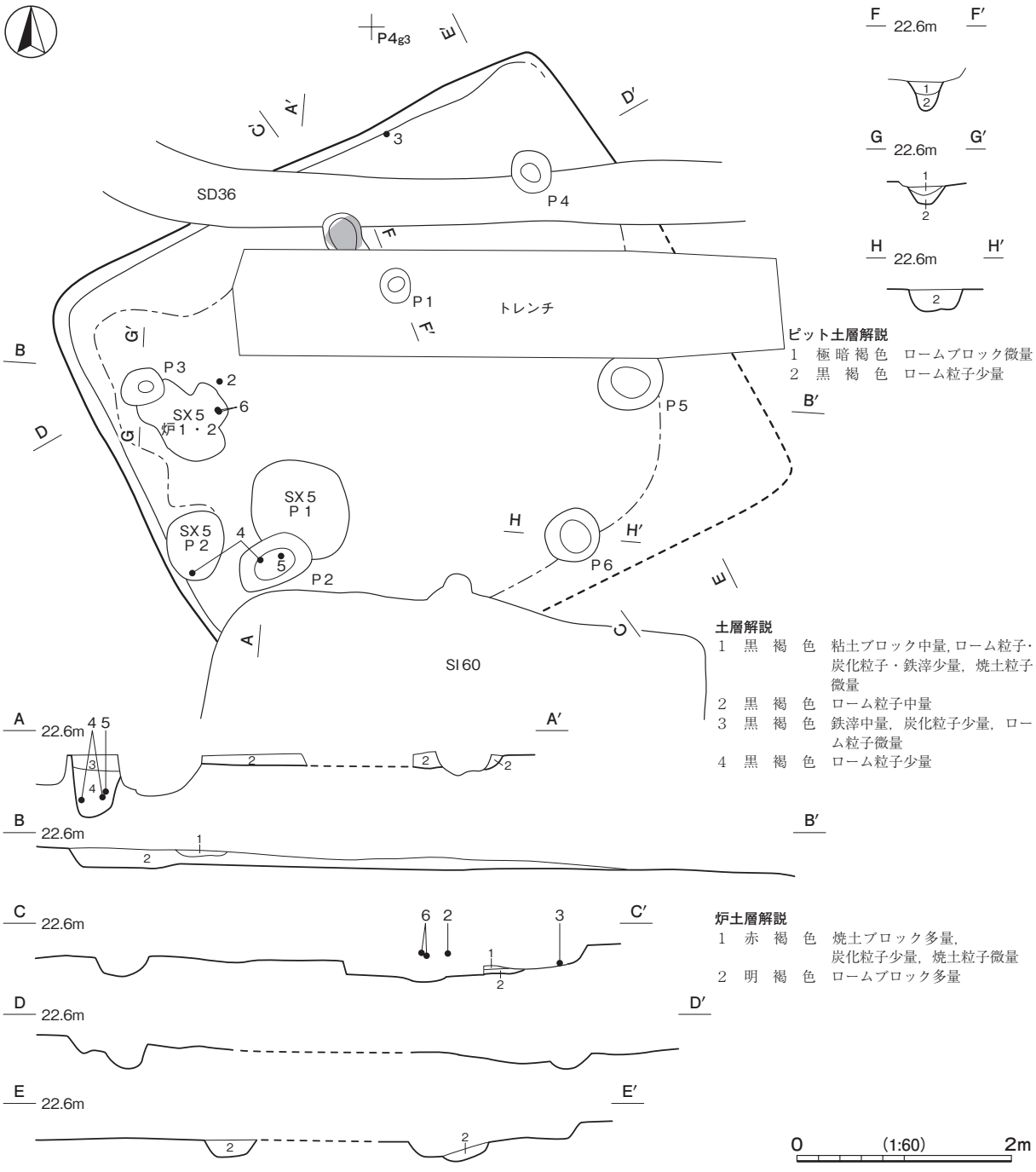
規模と形状　南東部が削平のため，東西軸 5.38 m，南北軸はピットと硬化面の範囲から約 4.6 mまでしか確認できなかった。方形あるいは長方形と推定され，南北軸方向はＮ－ 29゜－Ｗである。壁は高さ 16 ～ 18cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き踏み固められている。

炉　北部のＰ３・Ｐ４の中間あたりに位置している。南部がトレンチにより削平されているため，東西径40cm，南北径は30cmしか確認できなかった。底面はすり鉢状で赤変硬化している。

ピット　６か所。Ｐ２～Ｐ５は深さ18～48cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ６は深さ22cmで，位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１は深さ40cmと深いが，炉の近くの不規則な位置にある。内部施設に伴うピットの可能性もある。

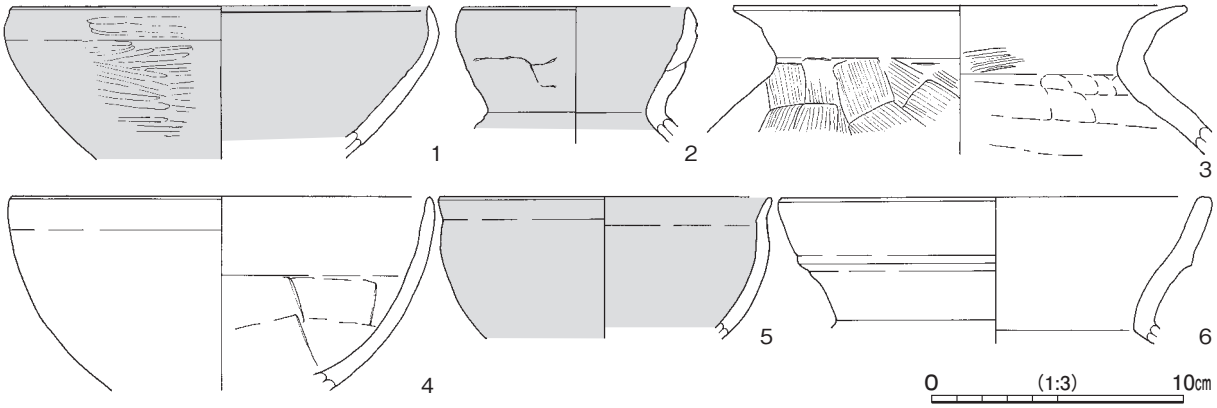
覆土　２層に分層できる。第１層は鉄滓を含み，重複する第４号鍛冶工房に帰属する可能性がある。第３・４層はＰ２の覆土で，第３層の鉄滓は重複する第４号鍛冶工房からの流れ込みの可能性が高い。



第59図　第68号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 53 点（坏２，椀４，坩１，高坏３，壺・甕・甑類 39，不明４），須恵器片１点（坏），鍛冶関連遺物（鉄滓 15.5 ｇ）のほか，土師質土器片１点（小皿）が出土している。遺物は削平を受けていることもあり，少ない。４・５はＰ２の覆土中層から，２・３・６は北東コーナー付近及び北西コーナー付近の床面から，それぞれ出土している。土師質土器の小皿は，重複する第 36 号溝跡に帰属するものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉に比定できる。



第 60 図　第 68 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 35　第 68 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 60 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	椀	［16.4］	（6.0）	－	長石・石英・細礫	赤褐	普通	外面ヘラ磨き　内面ナデ　あばた状に剥離　外・内面赤彩	４区ｘ	20%
2	土師器	坩	［9.0］	（5.3）	－	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面ナデ　赤彩	４区床面	10%
3	土師器	甕	［17.8］	（5.8）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ハケ目調整　内面ヘラナデ	１区床面	10% PL50
4	土師器	椀	［16.6］	（7.6）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ナデ	Ｐ２中層	30%
5	土師器	椀	［13.0］	（5.6）	－	長石・石英	赤褐	普通	外・内面ナデ　赤彩	Ｐ２中層	20%
6	土師器	壺	［17.0］	（5.7）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	４区床面	10% PL50

第 69 号竪穴建物跡（第 61 図）

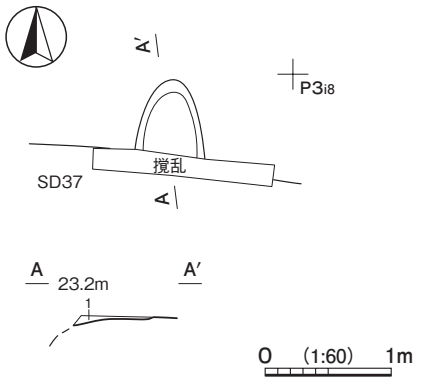
位置　調査Ｉ区南西部のＰ３i7 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 32・33・37 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　第 37 号溝の北側に，覆土に粘土ブロックや焼土粒子が含まれる楕円形の掘り込みが確認でき，竈の煙道部と判断した。しかし南部は約５ｍにわたり複数の溝に掘り込まれているため，壁等が確認できず，規模や形状は不明である。

竈　煙道部と考えられる掘り込みが確認できたのみである。北部に向かって，緩やかに外傾している。

遺物出土状況　土師器片４点（坏１，壺・甕・甑類３）が出土している。遺物は少量でかつ小片で，図化できなかった。



土層解説
1　暗赤褐色　砂質粘土ブロック･焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

第 61 図　第 69 号竪穴建物跡実測図

所見　時期は，出土土器からは判断できない。須恵器片が出土していないことや，周辺で確認されている竪穴建物跡の規模及び主軸方向が近似するものは７世紀代に多いことなどから，古墳時代後期と捉えておきたい。

第 70 号竪穴建物跡（第 62 図　PL15）

位置　調査Ⅰ区南部のＰ 4 i4 区，標高 22.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 32・33・37 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南部が重複のため，東西軸 4.22 ｍで，南北軸は 2.55 ｍしか確認できなかった。方形あるいは長方形と推定され，南北軸方向はＮ－ 17 °－Ｗである。壁は高さ８cm で，外傾している。

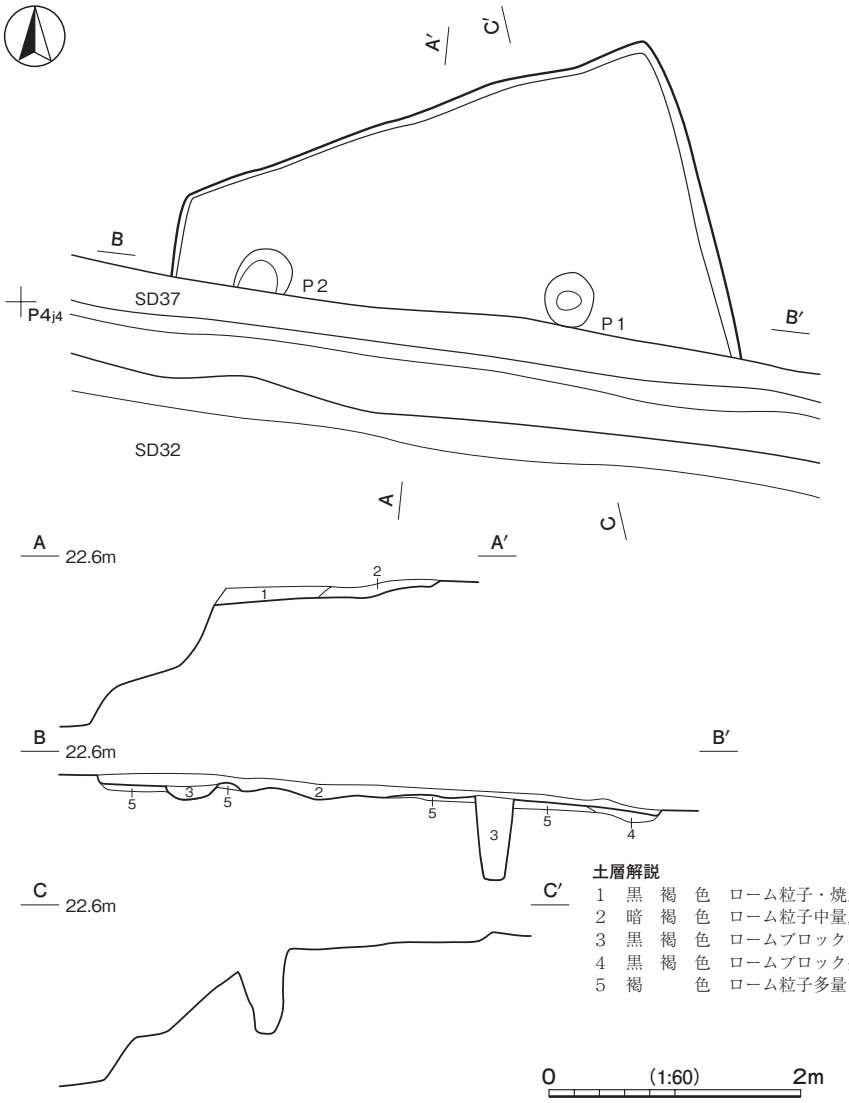
床　やや凹凸がある貼床で，傾斜に沿って南部及び東部に向かって下がっている。

ピット　２か所。Ｐ１は深さ 68cm で，規模から主柱穴の可能性が高い。Ｐ２は深さ 12cm と浅いが，配置から主柱穴と考えられる。

覆土　２層に分層できる。第２層はローム粒子をやや多く含み，遺存状態がが悪く不明瞭な部分があるものの，埋め戻された可能性がある。第３層はピットの覆土，第４・５層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片１点（甕類）が出土しているのみである。小片で図化できなかった。

所見　時期は，出土土器からは判断できないが，竈を伴わない可能性が高いこと，規模や主軸方向などから，５世紀代と捉えておきたい。



第 62 図　第 70 号竪穴建物跡実測図

第 72 号竪穴建物跡（第 63・64 図　PL15）

位置　調査Ⅰ区北部のＰ 4 b3 区，標高 22.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 73 号竪穴建物，第 357 号土坑に掘り込まれている。

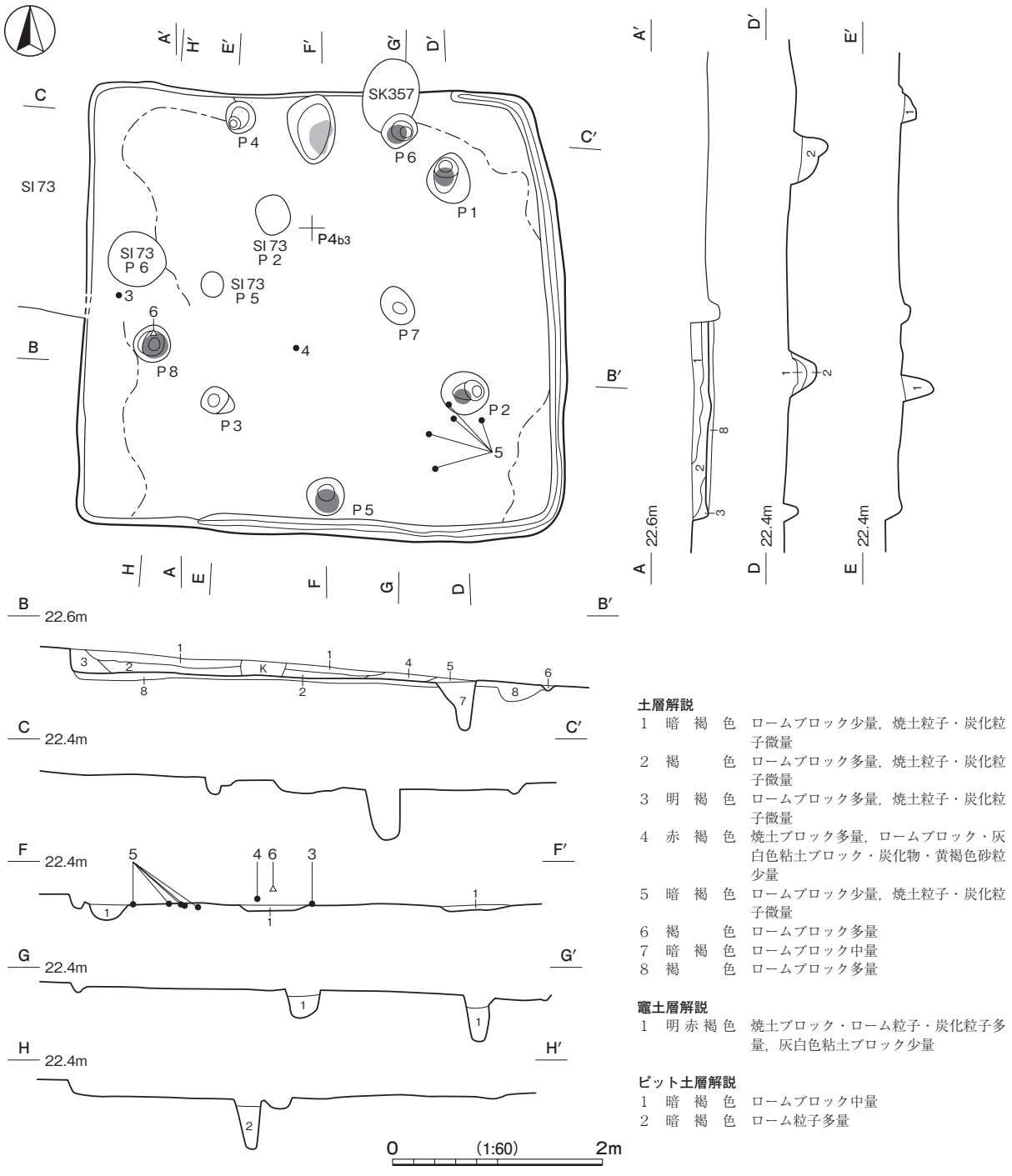
規模と形状　長軸 4.56 ｍ，短軸 4.27 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。壁は高さ 24cm で，直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，東西壁際を除く中央部が踏み固められている。北壁東部，東壁，南壁に壁溝が巡っている。平面図にはないが，中央部がピット状に一段下がっている。

竈　重複のため上位は削平されており，北壁中央部付近に火床部と考えられる焼土跡が確認できたのみである。掘方は長径 68cm，短径 42cm の楕円形で，床面を５cm ほど掘りくぼめている。

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ３・Ｐ８は深さが 34cm・30cm・50cm・50cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 18cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ４・Ｐ６は深さ 16cm・46cm で，竈の左右に位置しており，竈袖部の芯材を据えるピットなどの可能性もあるが，Ｐ６は深く，底面には柱の当たりがある。ほかにＰ１・Ｐ２・Ｐ５・Ｐ８の底面にも，柱の当たりが確認できた。Ｐ７は深さ 28cm で，不規則な位置にある。

覆土　６層に分層できる。第２・３層にロームブロックが多量に含まれていること，第４層に粘土ブロックや



土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　明　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック・灰白色粘土ブロック・炭化物・黄褐色砂粒少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック多量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　褐　　色　ロームブロック多量

竈土層解説

1　明赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子多量，灰白色粘土ブロック少量

ピット土層解説

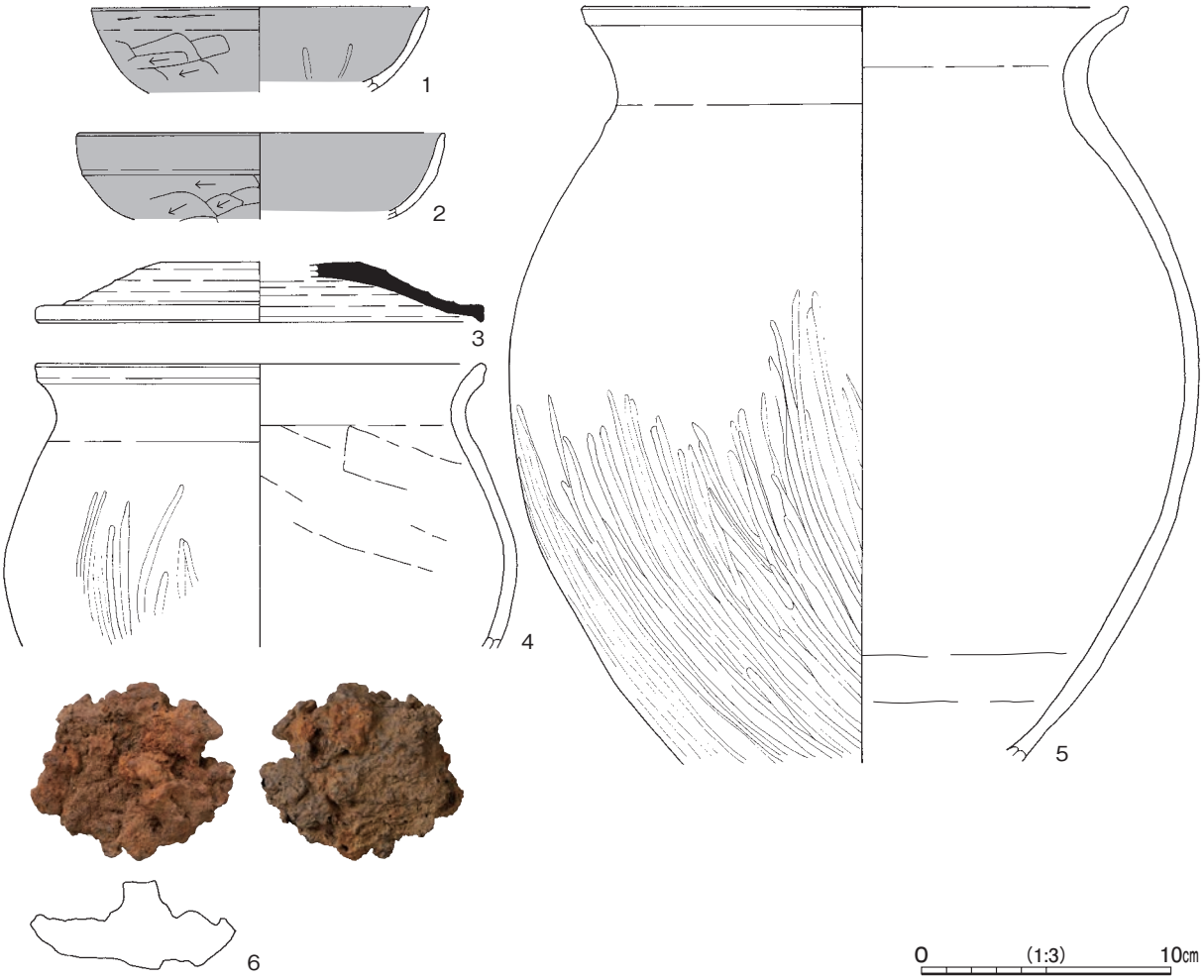
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量

第 63 図　第 72 号竪穴建物跡実測図

焼土がブロック状に含まれていることなどから，埋め戻されている。第７層はＰ２の覆土，第８層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 157 点（坏 22，椀１，高坏１，壺･甕･甑類 133），須恵器片 18 点（坏 12，高台付坏１，蓋１，鉢・甕甑類４），灰釉陶器片２点（瓶類），鍛冶関連遺物（椀状滓 186.69 ｇ），焼成粘土塊 59.9 ｇが出土している。覆土が薄いこともあり，遺物は少ない。５が南東コーナー付近のＰ２周辺の床面から出土している。３は南西部の床面から出土しているが，やや時期が下がる様相を呈していることから，灰釉陶器も含めて混入と考えられる。

所見　時期は，出土土器から７世紀後葉に比定できる。



第 64 図　第 72 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 36　第 72 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 64 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［13.4］	（3.4）	－	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面放射状のヘラ磨き　外・内面黒色処理	１区１ｘ	20%
2	土師器	坏	［14.4］	（3.4）	－	細礫	にぶい褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理	３区１ｘ	20%
3	須恵器	蓋	［17.4］	（2.4）	－	長石・石英	灰褐	普通	天井部回転ヘラ削り　酸化焔焼成	４区床面	30%新治窯
4	土師器	甕	［17.8］	（11.3）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	３区下層	20%
5	土師器	甕	［21.4］	（30.2）	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	２区床面	50% PL39

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
6	椀状滓	7.9	8.1	3.4	186.69	鉄	若干の磁着あり	３区上層	

第 77 号竪穴建物跡（第 65・66 図　PL16・17）

位置　調査Ⅰ区北西部のＰ３c8 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 408･411 号土坑を掘り込み，第 16 号掘立柱建物，第 38 号溝に掘り込まれている。第 410 号土坑，第７号ピット群のＰ６とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長軸 5.22 m，短軸は 4.56 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｅである。壁は高さ 14 ～ 40cm で，直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除く中央部が踏み固められている。北東コーナー部を除き壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，粘土ブロックを含む第 14 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第５～ 13 層が竈に関連する堆積土で，第８～ 11 層は燃焼部の堆積土である。火床面は床面から５cm ほど掘りくぼめられ，土製支脚が据えられている。第 12 ～ 14 層が袖の構築土で，基底部に粘土ブロックを含む暗褐色土を置き，白色粘土ブロックを多く含む第 12・13 層を積み上げて構築している。

ピット　７か所。Ｐ１・Ｐ２は深さが 50cm・53cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３・Ｐ４は配置は適当であるが，どちらも深さが 10cm と浅い。Ｐ６は深さ 24cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ５・Ｐ７は深さが 12cm・24cm で，不規則な位置にある。

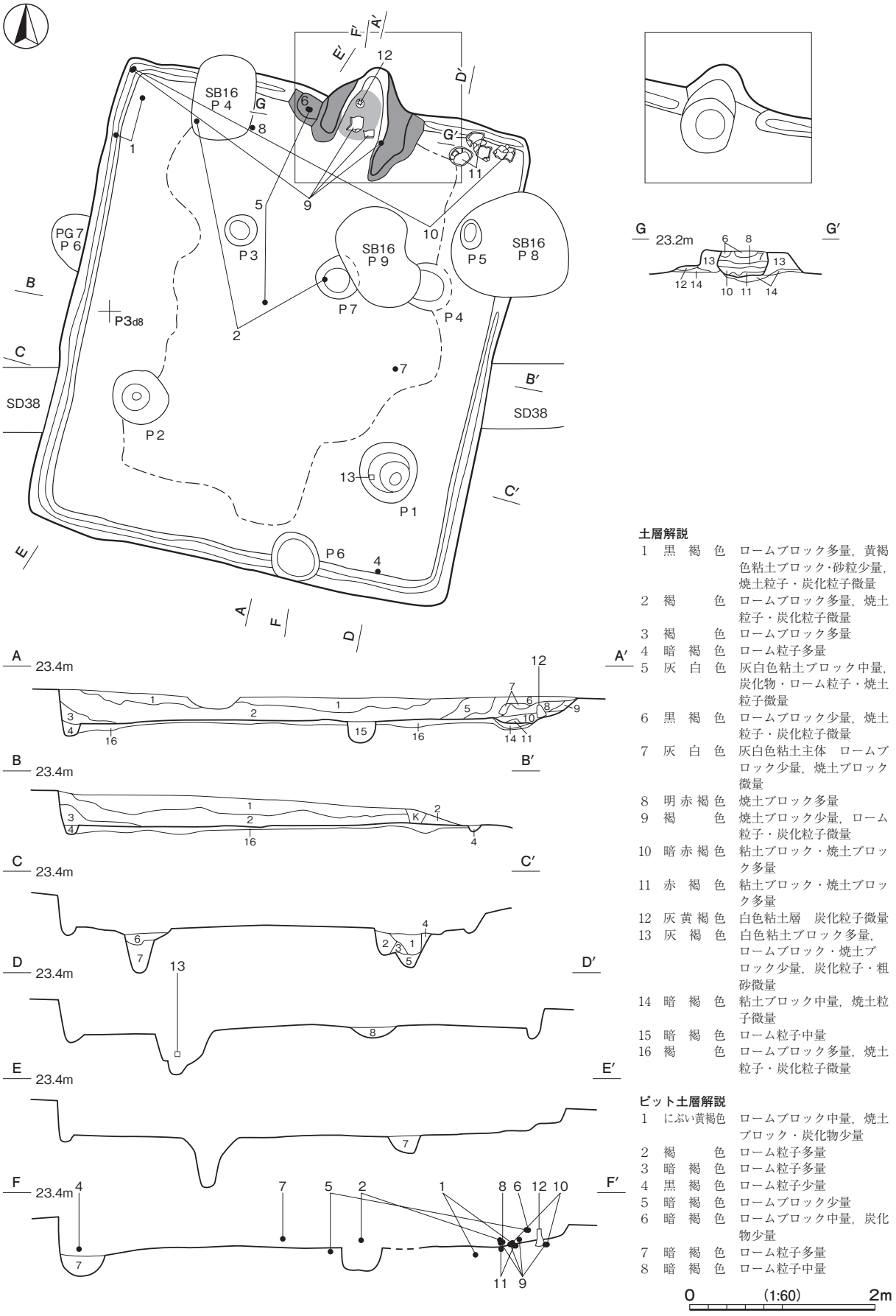
覆土　４層に分層できる。各層にローム粒子を多く含むが，レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 270 点（坏 46，椀２，坩８，高坏 11，壺･甕･甑類 203），須恵器片 13 点（坏８，鉢･甕･甑類５），土製品１点（支脚），石製品１点（石製模造品），金属製品１点（飾り金具$_{カ}$），鍛冶関連遺物（羽口１，椀状滓 307.1 ｇ，鉄塊系遺物 45.5 ｇ，鉄滓 63.4 ｇ）のほか，縄文土器片２点，陶器片２点（碗，皿）が出土している。遺物は特に西部の３・４区の覆土中から多く出土している。北東コーナー部の床面から 10・11 が出土している。11 は大きく上下２つに分割しており，下半部は正位で出土している。９は竈の燃焼部と北西コーナー部の床面から出土した。竈の燃焼部には 12 の支脚が残されている。そのほか図化した土器も，床面及び床面に近い覆土下層から出土したもので，１・３の口縁部内面には沈線が巡っている。６は内面に細かい放射状の暗文が施されている。７・13 は明らかに時期が遡るもので，流れ込みと考えられる。８の須恵器坏もやや時期が下がるもので，或いは重複する第 16 号掘立柱建物跡に帰属する可能性もある。

所見　時期は，出土土器から７世紀中葉から後葉に比定できる。

表 37　第 77 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 66 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	10.2	3.9	－	長石・細礫	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部ヘラ削り　内面ナデ　黒色処理　口縁部に沈線	４区壁溝床面	70% PL40
2	土師器	坏	［12.8］	（5.0）	－	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　摩滅顕著内面ナデ	４区下層	40%
3	土師器	坏	［11.0］	3.2	－	長石	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部ヘラ削り　内面ナデ　黒色処理　口縁部に沈線	３区２ｘ ４区２ｘ 壁溝	40%
4	土師器	坏	［14.5］	（3.7）	－	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面放射状の磨き　黒色処理	２区床面	30%
5	土師器	坏	［15.0］	5.5	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ黒色処理	４区床面	70% PL40
6	土師器	坏	［12.1］	3.0	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面指頭ナデ　内面暗文黒色処理	竈西側中層	80% PL40
7	土師器	椀	－	（5.9）	－	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面上半ナデ　下半ヘラ削り　内面磨き　外・内面赤彩	２区下層	20%
8	須恵器	坏	11.6	3.6	6.8	長石・石英	黄灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部ヘラ切り後多方向のヘラ削り	４区床面	50%新治窯 PL40
9	土師器	甕	［23.0］	（33.5）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ磨き　内面頸部の一部にヘラ磨き　体部ヘラナデ	竈火床面	30% PL40
10	土師器	甕	－	（21.0）	［8.5］	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部ヘラ磨き	北東コーナー部床面	30%



土層解説

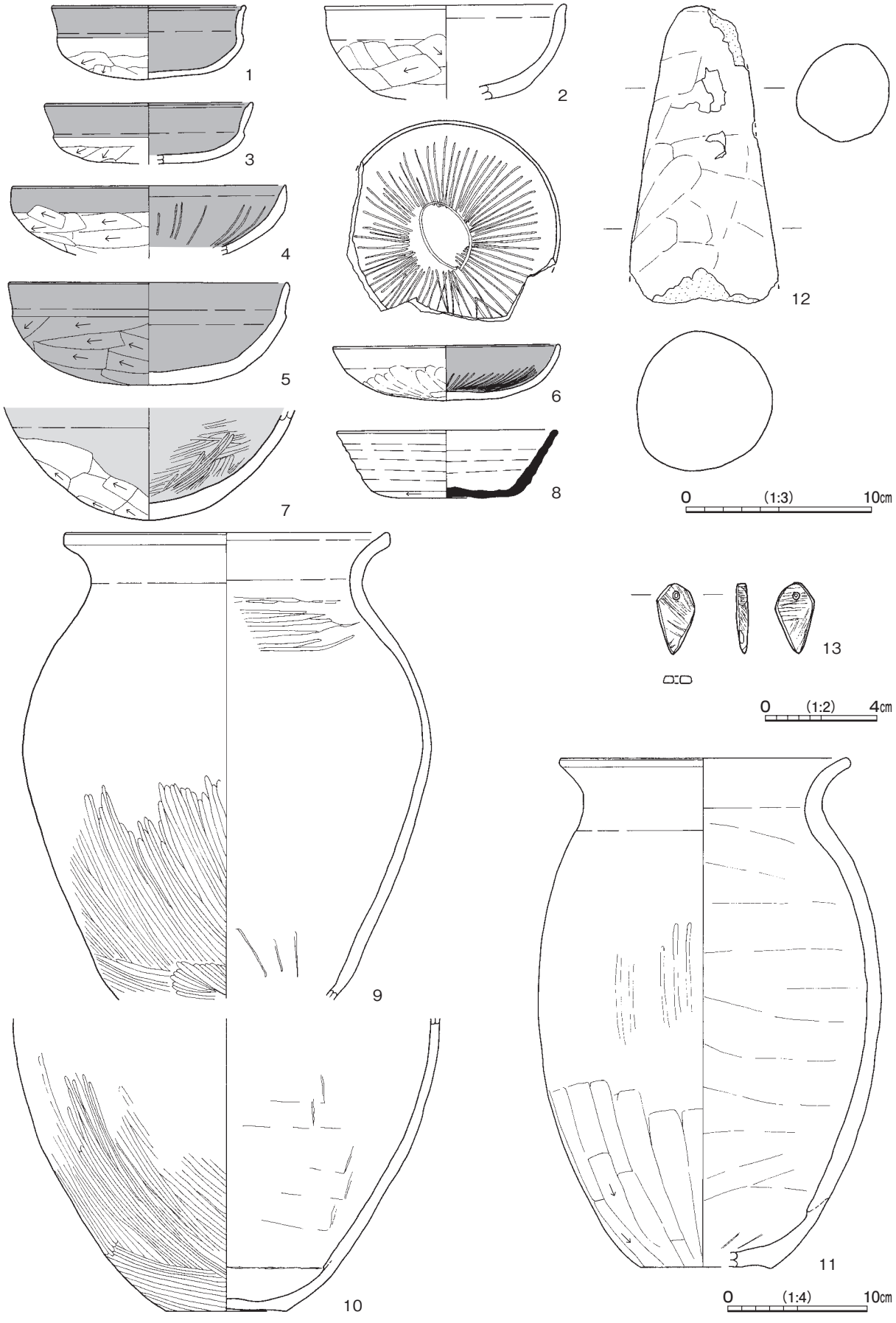
1	黒	褐	色	ロームブロック多量，黄褐色粘土ブロック･砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐		色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐		色	ロームブロック多量
4	暗	褐	色	ローム粒子多量
5	灰	白	色	灰白色粘土ブロック中量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
6	黒	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	灰	白	色	灰白色粘土主体　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
8	明赤褐		色	焼土ブロック多量
9	褐		色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
10	暗赤褐		色	粘土ブロック・焼土ブロック多量
11	赤	褐	色	粘土ブロック・焼土ブロック多量
12	灰黄褐		色	白色粘土層　炭化粒子微量
13	灰	褐	色	白色粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子・粗砂微量
14	暗	褐	色	粘土ブロック中量，焼土粒子微量
15	暗	褐	色	ローム粒子中量
16	褐		色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット土層解説

1	にぶい黄褐		色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
2	褐		色	ローム粒子多量
3	暗	褐	色	ローム粒子多量
4	黒	褐	色	ローム粒子少量
5	暗	褐	色	ロームブロック少量
6	暗	褐	色	ロームブロック中量，炭化物少量
7	暗	褐	色	ローム粒子多量
8	暗	褐	色	ローム粒子中量

0　(1:60)　2m

第 65 図　第 77 号竪穴建物跡実測図



第 66 図　第 77 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 38　第 77 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 66 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
11	土師器	甕	［20.4］	36.3	［9.4］	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面上半ヘラ磨き　表面に粘土付着のため不明瞭　下半ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部別造りの痕跡明瞭　底部木葉痕	北東コーナー部床面	70% PL40

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
12	支脚	(3.4)	(7.4)	(15.9)	627.8	長石	にぶい褐	頭部残存　指頭及びヘラによるナデ成形	竈火床面	PL47
14	羽口	－	－	(2.0)	8.74	長石	赤褐	表面の一部のみ残存　ガラス化	４区１ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
13	石製模造品	2.0	1.4	0.4	1.78	緑色片岩	剣形　片面穿孔　孔径 0.2cm	Ｐ１中層	PL52

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
15	飾り金具カ	5.0	1.6	0.85	13.03	鉄	両端傘釘状　軸部断面方形　後世のものか	３区下層	観察表のみ

第 78 号竪穴建物跡（第 67 ～ 69 図　PL17）

位置　調査Ｉ区北東部のＰ４b8 区，標高 20.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 356 号土坑（焼成遺構），第 39・41 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　掘方の調査時に本跡の内側をめぐる壁溝が確認されたことから，拡張を伴う建て替えと判断した。拡張後の規模は長軸 5.00 ｍ，短軸は 4.73 ｍの方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｅである。壁は高さ 25 ～ 34cm で，外傾している。拡張前の建物跡は，壁溝の位置から判断すると，一辺 4.0 ｍの方形と推定され，主軸方向は拡張後の建物跡と同じである。

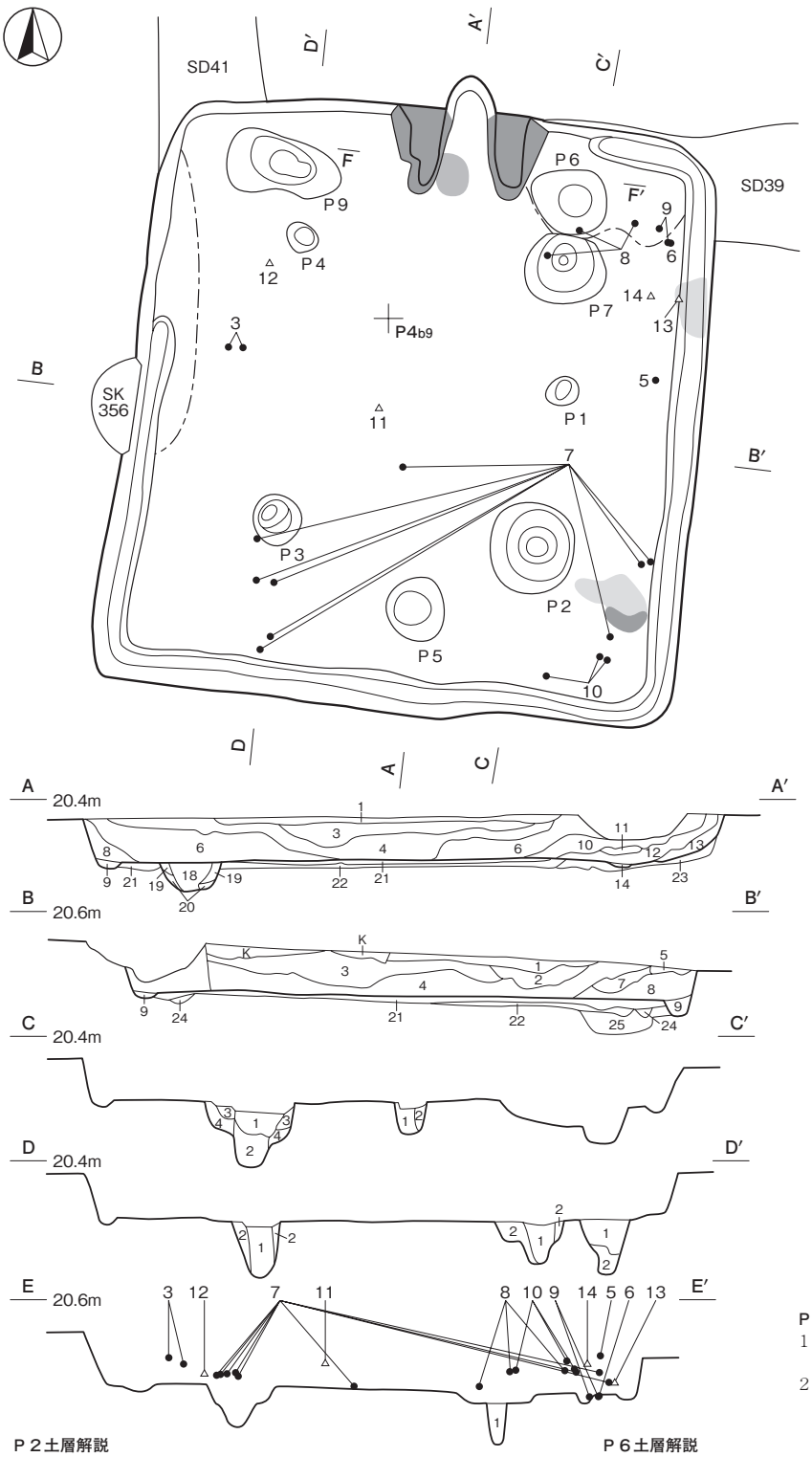
床　ほぼ平坦な貼床で，拡張後の床面は粘土ブロックを含む第 21・22 層で埋土して構築されている。壁際の一部を除き，ほぼ全面が踏み固められている。東壁・南壁・西壁南部に壁溝が巡っている。掘方の調査時にＰ３から西壁に向かって幅 25cm，深さ５cm の間仕切り溝が確認できた。

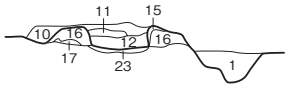
竈　北壁中央部に付設されている。竈の調査では作り替えの痕跡は確認できなかった。付設部分を楕円形に掘り込み，粘土ブロックを含む第 23 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 100cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は拡張後の壁外に 30cm ほど掘り込まれ，外傾している。拡張前の南壁からはおよそ 70cm である。第 10 ～ 17 層が竈に関連する堆積土で，第 11・12 層は天井部の崩落土，第 13 層は煙道部の堆積土である。第 16・17 層が袖部の堆積土で，壁際が一段高く掘り残され，その上に灰褐色粘土を多く含む土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。

ピット　９か所。Ｐ２～Ｐ４・Ｐ７は深さが 34 ～ 60cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ６・Ｐ９は深さがそれぞれ 32cm，45cm であり，拡張時に北側にピットを立て替えた可能性が高い。Ｐ５は深さ 28cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ１は深さ 30cm で，Ｐ２・Ｐ７のほぼ中央に位置する。Ｐ８は掘方調査時に確認できたピットである。深さは 20cm で，拡張前の壁溝を掘り込んでいる。

覆土　拡張後の建物跡の覆土は，９層に分層できる。ロームブロックや焼土，炭化物を含む層が，不自然に堆積していることから，埋め戻されている。第５・７層は焼土ブロック，灰白色粘土ブロックが多く含まれる層で，投げ込まれているように堆積している。第 21・22 層は掘方への埋土で，粘土ブロックを含む土が，版築状につき固められている。第 24 層は拡張前の壁溝の覆土である。

遺物出土状況　土師器片 218 点（坏 31，高台付椀３，壺・甕・甑類 183，不明１），須恵器片 16 点（坏 10，鉢・甕・甑類６），灰釉陶器片１点（瓶類），金属製品５点（刀子２，鉄鏃２，鎌１），鍛冶関連遺物（鉄滓 99.4 ｇ），





土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 炭化物多量，焼土ブロック少量
3 明 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 赤 褐 色 焼土ブロック多量，炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7 灰 白 色 灰白色粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 褐 色 ロームブロック多量
10 黒 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
11 褐 灰 色 焼土ブロック多量，粘土ブロック中量
12 灰 褐 色 炭化物・焼土粒子中量，粘土ブロック少量
13 褐 色 ロームブロック・焼土粒子多量，炭化粒子微量
14 暗赤褐色 焼土粒子多量
15 黒 褐 色 焼土粒子中量，ローム粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
16 褐 灰 色 粘土ブロック多量，ロームブロック中量，焼土ブロック少量
17 褐 灰 色 粘土ブロック多量，炭化粒子少量
18 黒 褐 色 ローム粒子多量，灰白色粘土ブロック少量
19 暗 褐 色 ロームブロック多量
20 明 褐 色 ロームブロック多量
21 暗 褐 色 粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子微量
22 明 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量
23 暗 褐 色 ロームブロック中量
24 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量
25 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

P１土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐 色 ロームブロック多量

0 (1:60) 2m

P２土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色 ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量
4 明 褐 色 ロームブロック多量

P３土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 明 褐 色 ロームブロック多量

P４土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 明 褐 色 ロームブロック多量

P６土層解説

1 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子中量，粘土ブロック少量

P７土層解説

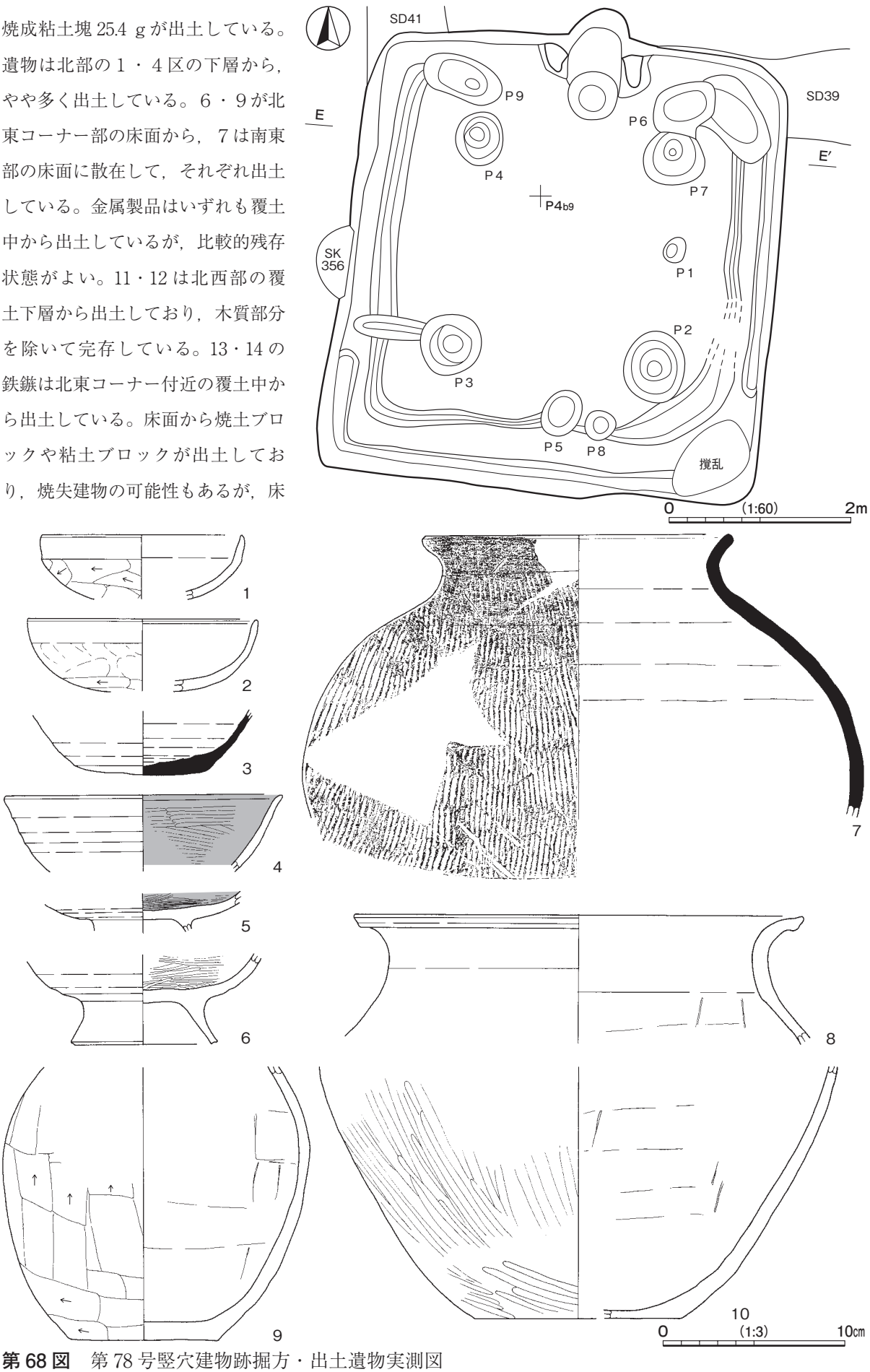
1 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子多量

P９土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子多量，焼土粒子中量，灰白色粘土ブロック少量
2 明 褐 色 ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 67 図　第 78 号竪穴建物跡実測図

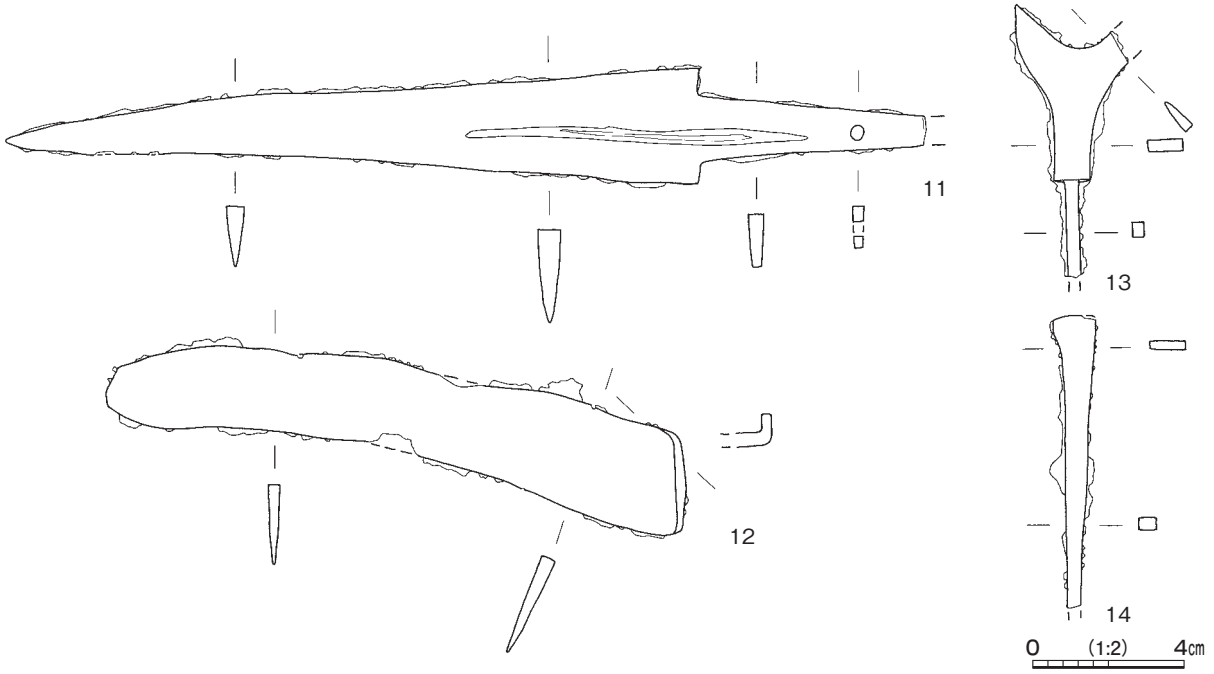
焼成粘土塊 25.4 g が出土している。遺物は北部の１・４区の下層から，やや多く出土している。６・９が北東コーナー部の床面から，７は南東部の床面に散在して，それぞれ出土している。金属製品はいずれも覆土中から出土しているが，比較的残存状態がよい。11・12 は北西部の覆土下層から出土しており，木質部分を除いて完存している。13・14 の鉄鏃は北東コーナー付近の覆土中から出土している。床面から焼土ブロックや粘土ブロックが出土しており，焼失建物の可能性もあるが，床



第 68 図　第 78 号竪穴建物跡掘方・出土遺物実測図

面や覆土中の焼土ブロックの出土状況から埋没時に投げ込まれたものと考えられる。

所見　出土土器は7世紀後葉に比定できるものと，4～6の10世紀中葉の，大きく2時期がある。本跡は拡張を伴う竪穴建物であるが，拡張前後の2時期と捉えるにはやや時間差がありすぎる。遺物はいずれも残存率は高くないが，その中でも比較的残りが良く，床面や覆土下層から出土している7～9や，建物跡の規模や主軸方向などから，時期は7世紀後葉と捉えておきたい。本跡は焼成遺構である第356号土坑に掘り込まれており，第356号土坑からは10世紀中葉の遺物が多量に出土していることから，4～6は本来的にはこの焼成遺構に伴うもので，流れ込みの可能性が高い。



第69図　第78号竪穴建物跡出土遺物実測図

表39　第78号竪穴建物跡出土遺物観察表（第68・69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.8	(3.4)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	1区1ｘ	30% PL40
2	土師器	坏	[12.4]	(3.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面指頭ナデ　下端ヘラ削り　内面ナデ　口縁部に沈線	4区1ｘ	20%
3	須恵器	坏	－	(3.5)	7.5	長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ　内面に自然釉付着	4区下層	30%堀之内窯〃
4	土師器	椀	[15.0]	(4.2)	－	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ　内面ヘラ磨き　口縁部摩滅　黒色処理	1区1ｘ	10%
5	土師器	高台付椀	－	(2.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ　内面ヘラ磨き　黒色処理	1区上層	30%
6	土師器	高台付椀	－	(5.0)	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	1区床面	50%
7	須恵器	甕	16.7	(15.6)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き　内面ナデ	2・3区床面	40%新治窯
8	土師器	甕	[24.4]	(7.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ナデ	1区下層	20% PL40
9	土師器	小型甕	－	(15.0)	8.1	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ナデ	1区床面	30%
10	土師器	甕	－	(13.8)	[11.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部ヘラ磨き〃	2区上層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	刀子	24.4	3.1	0.3～0.6	108.23	鉄	表面に浅い樋あり	3区下層	PL54
12	鎌	15.3	3.0	0.3～0.4	49.72	鉄	刃部ほぼ残存	4区下層	PL54
13	鉄鏃	(7.2)	(3.0)	0.3～0.4	16.46	鉄	鏃身部～茎部分　雁股形	1区下層	PL54
14	鉄鏃	(7.8)	0.4～1.1	0.3	11.20	鉄	鏃身部～茎部分　先端に行くほど厚さ減　方頭形	1区上層	PL54
15	刀子	(2.9)	1.0	0.2～0.4	2.77	鉄	刀身部　断面三角形	4区上層	観察表のみ

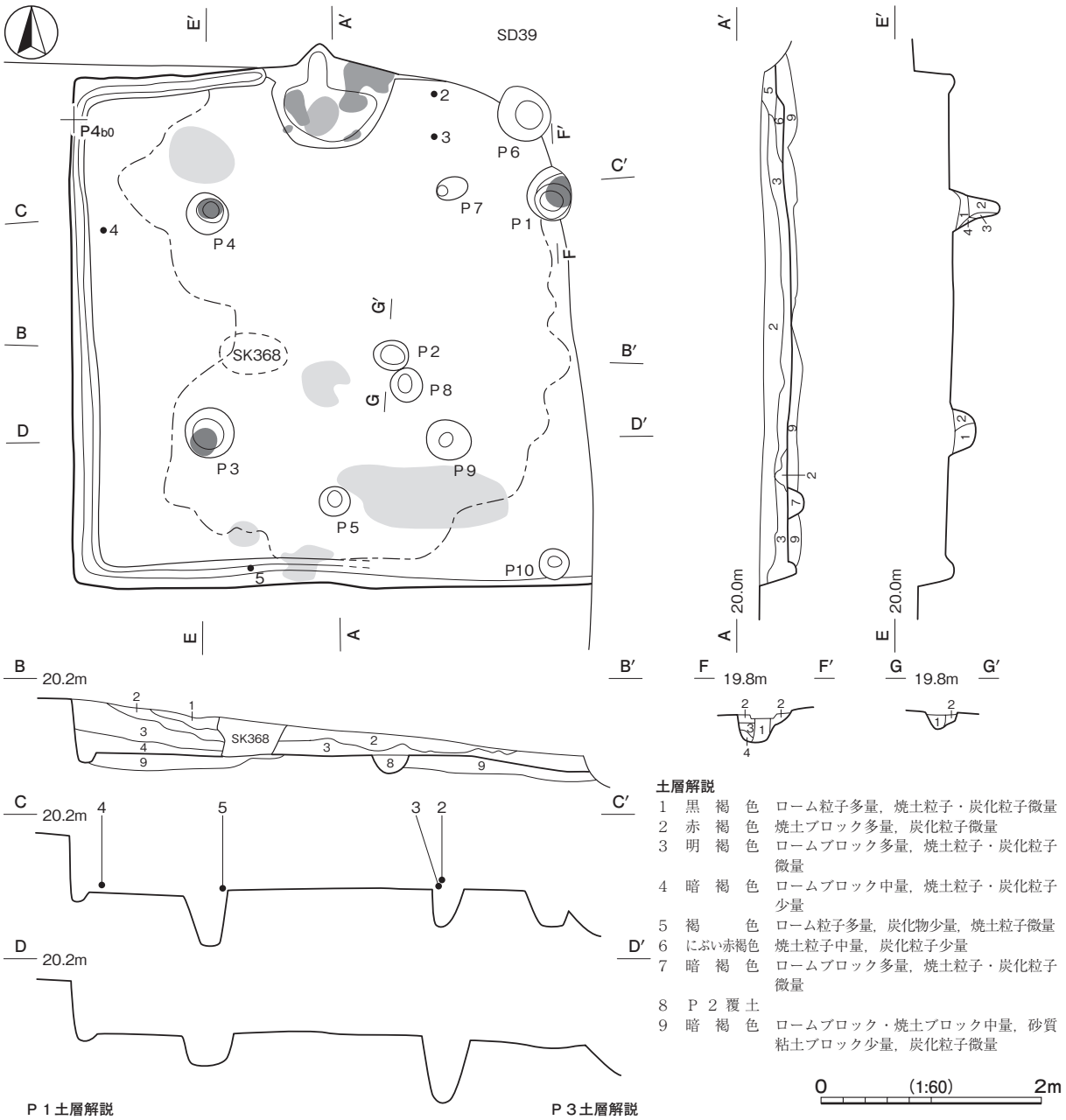
第 79 号竪穴建物跡（第 70・71 図　PL17）

位置　調査Ⅰ区北東部のＰ 4 b0 区，標高 20 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 368 号土坑，第 39 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北部から東部が重複のため，規模は南北軸 4.65 ｍで，東西軸は 4.52 ｍしか確認できなかった。方形と推定され，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁は高さ 26 ～ 48cm で，直立している。

床　やや凹凸のある貼床で，東西壁際を除き踏み固められている。北壁西部・西壁・南壁西部に壁溝が巡っている。



土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
3　明　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，炭化物少量，焼土粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　Ｐ２覆土
9　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量

0　(1:60)　2m

Ｐ１土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黄　褐　色　ロームブロック多量
4　褐　　色　ローム粒子多量

Ｐ２土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量

Ｐ３土層解説
1　明　褐　色　ロームブロック多量
2　黄　褐　色　ロームブロック多量

Ｐ４土層解説
1　赤　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック多量，炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　黄　褐　色　ロームブロック多量

第 70 図　第 79 号竪穴建物跡実測図

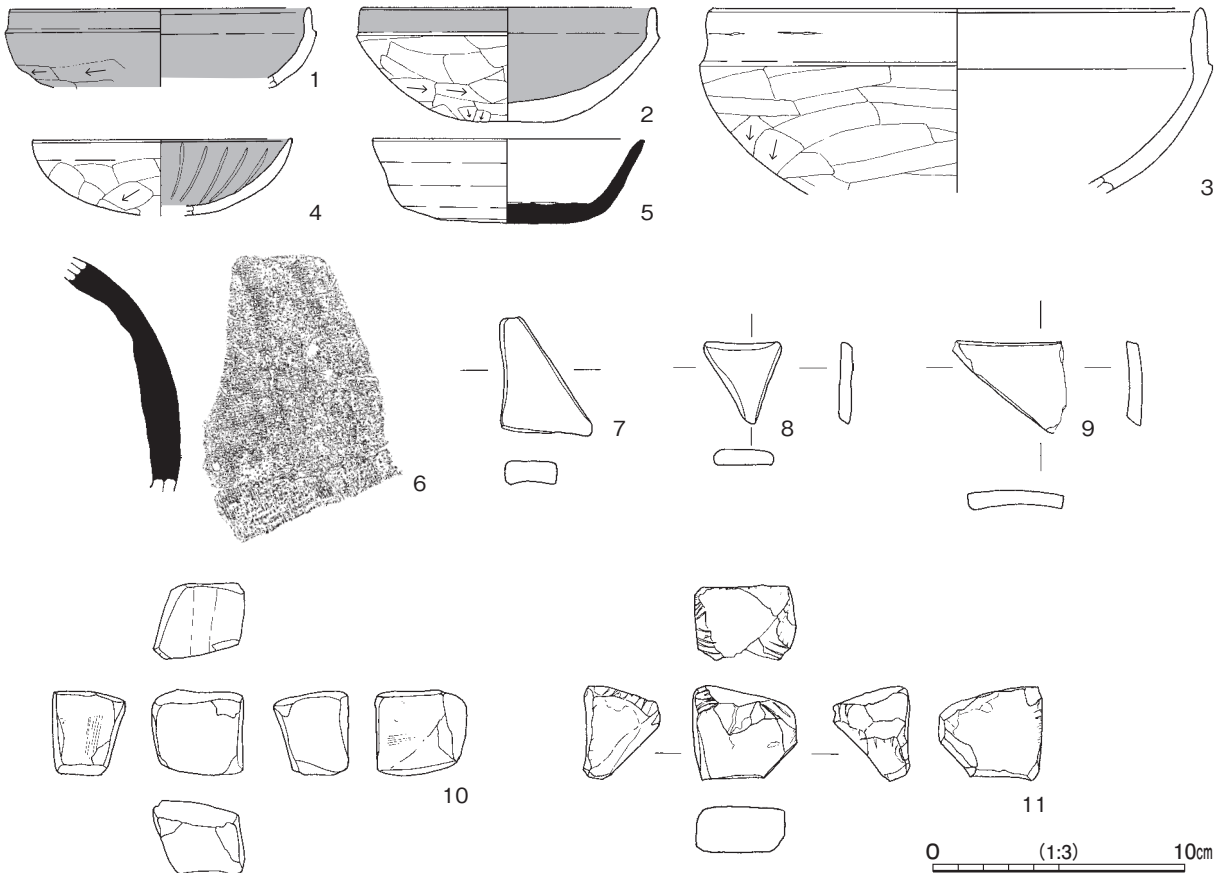
竈　北壁中央部付近に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，第９層を埋土して構築されている。崩落が著しく，火床面と煙道部の一部，及び構築材の一部しか確認できなかった。煙道部は壁外に 20cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第５・６層が竈に関連する堆積土で，第６層は燃焼部の堆積土である。

ピット　10 か所。Ｐ３・Ｐ４・Ｐ７・Ｐ９は深さが 25 ～ 60cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３・Ｐ４の底面には，柱の当たりが確認できた。Ｐ５は深さが 32cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ１・Ｐ６・Ｐ 10 は，深さがそれぞれ 26cm・19cm・７cm で，Ｐ 10 は南壁際に，Ｐ１・Ｐ６もおそらく壁際に配置されていると考えられる。Ｐ１の底面には，柱の当たりが確認できた。Ｐ２・Ｐ８は深さ 15cm・５cm と浅く，不規則な位置にある。

覆土　４層に分層できる。第１・３層にはローム粒子やロームブロックが，第２層には焼土ブロックが多く含まれていることから，埋め戻されている。第８層はＰ２の覆土，第９層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 140 点（坏 43，椀１，高坏１，壺・甕・甑類 94，不明１），須恵器片４点（坏２，蓋１，横瓶１），灰釉陶器片１点（瓶類），土製品３点（土師器甕転用砥石），石器２点（砥石），焼成粘土塊 52.0ｇのほか，縄文土器片１点が出土している。出土する土器は５世紀代から９世紀代までの幅広い時期のものが含まれており，小片が多い。４は北西部の床面から，残りの良い５は南壁際の床面近くから，それぞれ出土している。５は胎土から堀之内窯産と推定される。６の横瓶は恐らく東海系で，破断面が研磨されており，砥石に転用されている。また７～９も，土師器の甕の体部破片の破断面が研磨されており，砥石に転用したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から７世紀後葉に比定できる。床面上に厚さ 10cm 前後の焼土がブロック状に５か所ほど確認でき，焼失建物と考えられる。



第 71 図　第 79 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 40　第 79 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 71 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［11.8］	(3.1)	－	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理	2区1ｘ	10%
2	土師器	坏	［11.4］	4.5	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　口縁部外・内面黒色処理	1区下層	50% PL40
3	土師器	椀	19.7	(7.3)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	1区床面	30% PL40
4	土師器	坏	10.2	3.0	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面放射状の磨き　黒色処理	4区床面	50% PL40
5	須恵器	坏	10.7	3.3	8.1	長石・石英	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後一方向のヘラ削り	3区床面	80%堀之内窯ヵ PL40
6	須恵器	横瓶	－	(9.3)	－	長石・赤色粒子	灰オリーブ	良好	ロクロナデ　外面平行叩きヵ　自然釉付着　破断面研磨　砥石に再利用	2区1ｘ 3区1ｘ	10%東海系 PL50
7	土師器	転用砥石	－	(4.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	甕体部片の二側縁を研磨	4区1ｘ	PL50
8	土師器	転用砥石	－	3.2	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	甕体部片の三側縁を研磨	4区1ｘ	PL50
9	土師器	転用砥石	－	(3.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	甕体部片の二側縁を研磨	4区ｘ	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
10	砥石	3.3	2.6	2.9	47.29	凝灰岩	砥面6面　上面が溝状に窪む	2区1ｘ	
11	砥石	3.7	4.1	3.0	50.26	凝灰岩	砥石6面　上面に刃物痕	2区1ｘ	

第 80 号竪穴建物跡（第 72・73 図　PL17）

位置　調査Ⅰ区東部のＰ 4e9 区，標高 20.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 82・85 号竪穴建物跡を掘り込み，第 83 Ａ号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　東部が重複のため，規模は南北軸 5.23 ｍで，東西軸は約 4 ｍしか確認できなかった。方形と推定され，主軸方向はＮ－3°－Ｅである。壁は高さ 28 ～ 35cm で，直立している。

床　やや凹凸のある貼床で，壁際を除き踏み固められている。北壁東部を除き壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，第 15 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ，段を有して立ち上がっている。第７～ 14 層が竈に関連する堆積土で，第８～ 10 層は天井部の崩落土，第 11 ～ 14 層が袖部の構築土である。袖部は灰白色粘土ブロックが主体の灰褐色土に灰白色粘土ブロックを含む褐灰土を積み上げて構築している。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。

ピット　６か所。Ｐ１は重複のため，一部が残存するのみである。Ｐ１～Ｐ４は深さが 45 ～ 62cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３・Ｐ４には，柱痕が明瞭に確認できる。Ｐ５・Ｐ６は深さが 16cm・26cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。

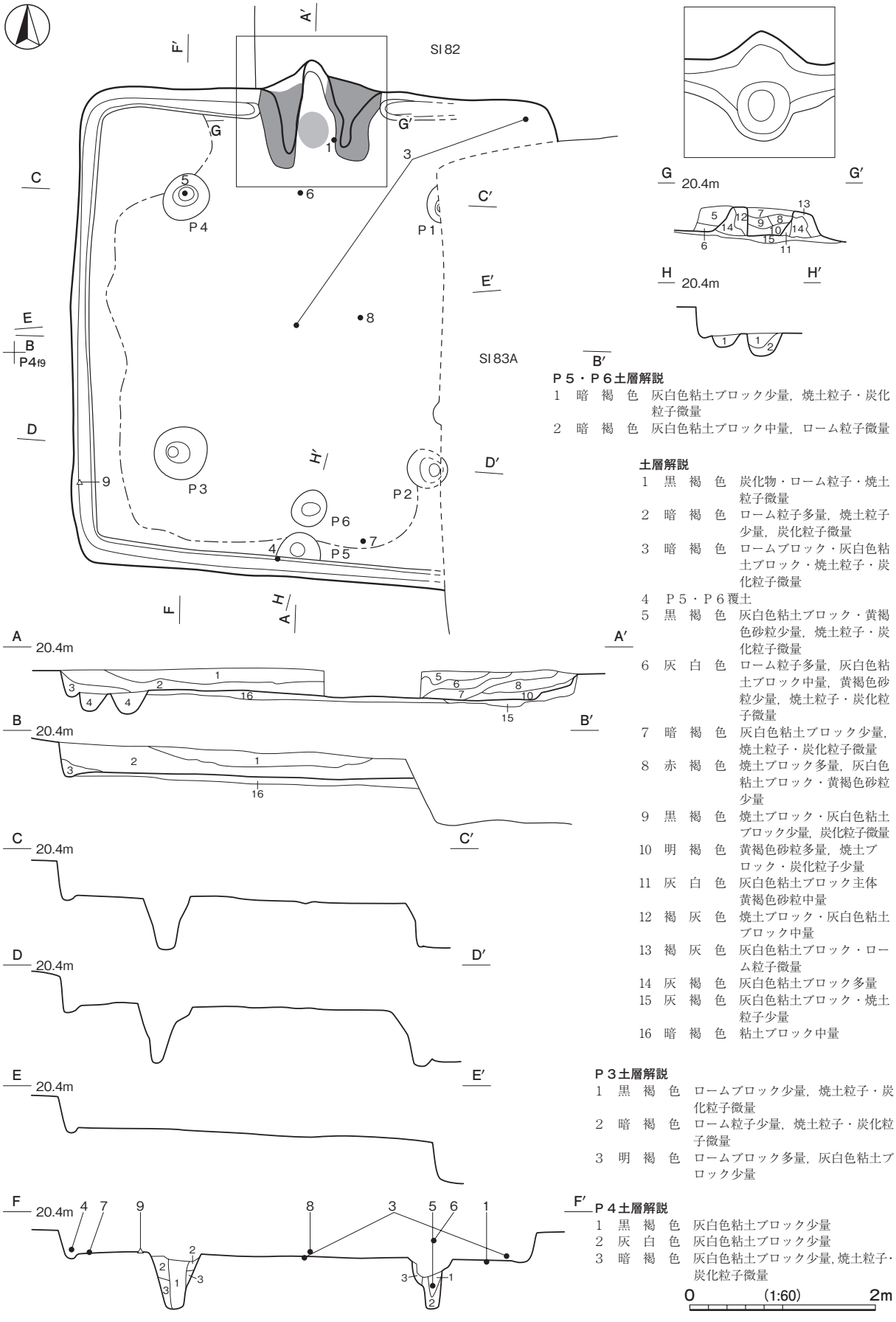
覆土　５層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第 16 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 153 点（坏 35，高坏４，壺・甕・甑類 114），須恵器片４点（坏３，鉢・甕・甑類１），灰釉陶器片１点（瓶類），金属製品１点（鉄鏃），焼成粘土塊 33.7 ｇが出土している。１は竈の燃焼部から，３は北東部の床面から，４・７は南壁際の床面から，９は西壁際の床面から，それぞれ出土している。８の高坏は時期が遡るもので，流れ込みと考えられる。

所見　時期は，出土土器から７世紀後葉に比定できる。

表 41　第 80 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 73 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［7.0］	3.7	－	長石	灰褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	竈燃焼部	50%
2	土師器	坏	［11.8］	(3.0)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　黒色処理	3区2ｘ	30%



P５・P６土層解説

1　暗　褐　色　灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　灰白色粘土ブロック中量，ローム粒子微量

土層解説

1　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・灰白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　P５・P６覆土
5　黒　褐　色　灰白色粘土ブロック・黄褐色砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　灰　白　色　ローム粒子多量，灰白色粘土ブロック中量，黄褐色砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　赤　褐　色　焼土ブロック多量，灰白色粘土ブロック・黄褐色砂粒少量
9　黒　褐　色　焼土ブロック・灰白色粘土ブロック少量，炭化粒子微量
10　明　褐　色　黄褐色砂粒多量，焼土ブロック・炭化粒子少量
11　灰　白　色　灰白色粘土ブロック主体　黄褐色砂粒中量
12　褐　灰　色　焼土ブロック・灰白色粘土ブロック中量
13　褐　灰　色　灰白色粘土ブロック・ローム粒子微量
14　灰　褐　色　灰白色粘土ブロック多量
15　灰　褐　色　灰白色粘土ブロック・焼土粒子少量
16　暗　褐　色　粘土ブロック中量

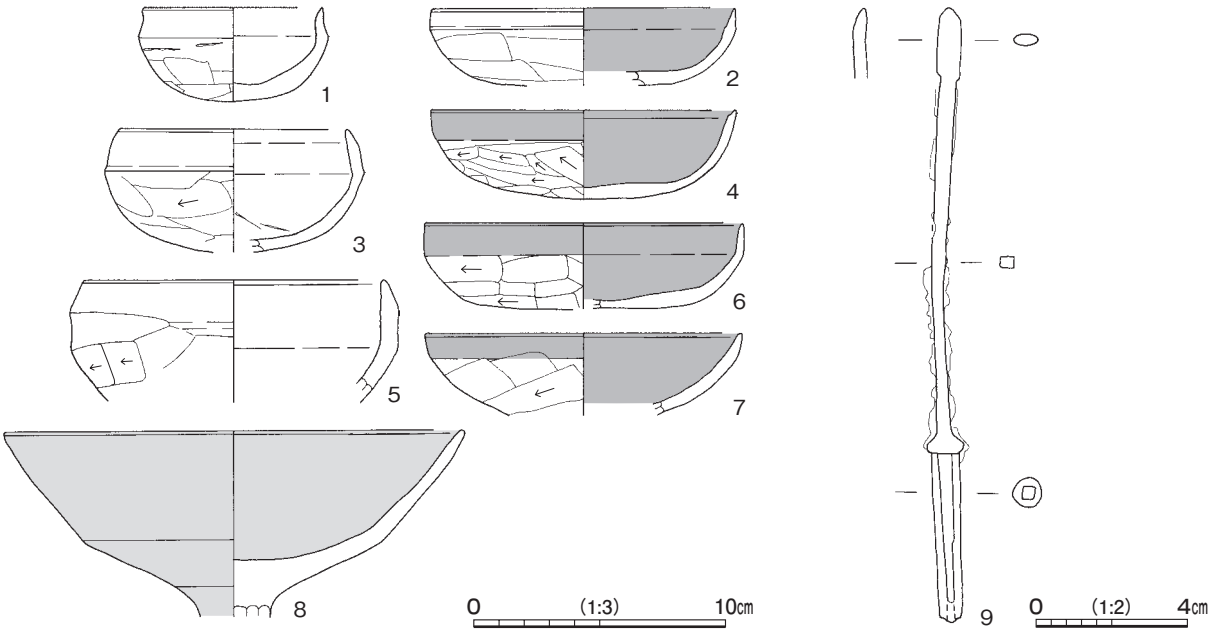
P３土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　明　褐　色　ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量

P４土層解説

1　黒　褐　色　灰白色粘土ブロック少量
2　灰　白　色　灰白色粘土ブロック少量
3　暗　褐　色　灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 72 図　第 80 号竪穴建物跡実測図



第 73 図　第 80 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 42　第 80 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 73 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
3	土師器	坏	［9.0］	（4.8）	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理ヵ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	１区床面	40% PL40
4	土師器	坏	12.0	3.4	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面ナデ　黒色処理　口縁部に沈線	３区床面	95% PL40
5	土師器	坏	［11.8］	（4.7）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	Ｐ４中層	20%
6	土師器	坏	［12.6］	3.6	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面ナデ　黒色処理	４区上層	30%
7	土師器	坏	［12.4］	（3.2）	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面ナデ　黒色処理	２区床面	20%
8	土師器	高坏	［18.0］	（7.8）	－	長石・石英・雲母	赤	普通	外・内面ナデ　赤彩	１区下層	25%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
9	鉄鏃	16.2	0.9	0.3 ～ 0.8	10.86	鉄	鏃身部～茎部分　鏃身部前端が反る　茎部の樹皮残存	３区床面	PL54

第 81 号竪穴建物跡（第 74・75 図　PL17）

位置　調査Ｉ区北西部のＰ３a8 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

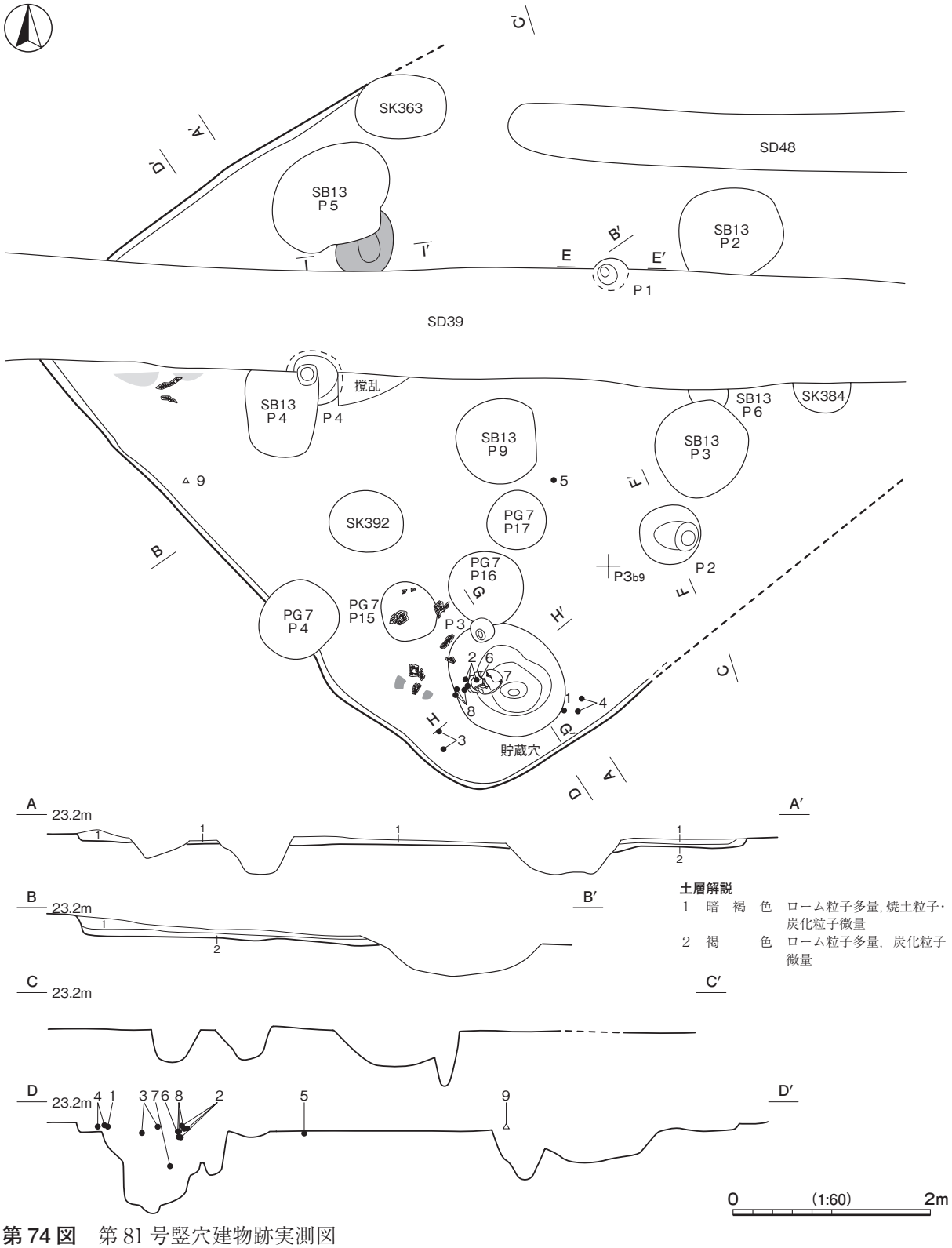
重複関係　第 13 号掘立柱建物，第 39・48 号溝，第７号ピット群のＰ４に掘り込まれている。第 363・384・392・407 号土坑，第７号ピット群Ｐ 15 ～Ｐ 17 とも重複しているが，堆積状況からの新旧関係は不明である。炭化材が第７号ピット群のＰ 15 の上位から出土していることから，Ｐ 15 は本跡より古いものと考えられる。

規模と形状　東部が削平されているため，規模は南北軸 6.75 ｍで，東西軸は約５ｍしか確認できなかった。方形あるいは長方形と推定され，南北軸方向はＮ－ 42°－Ｗである。壁は高さ８cm で，外傾している。

床　やや凹凸があり，傾斜に沿って南部及び東部がやや下がっている。

炉　Ｐ２に対峙する北西部に位置している。楕円形の地床炉と推定されるが，重複により東西径 55cm，南北径は 30cm しか確認できなかった。火床面は赤変している。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置している。長径 1.25 ｍ，短径 1.07 ｍの楕円形で，深さは 72cm である。壁は漏斗状で，底面は中央部がピット状に下がっている。覆土中層から土師器の甕が出土している。

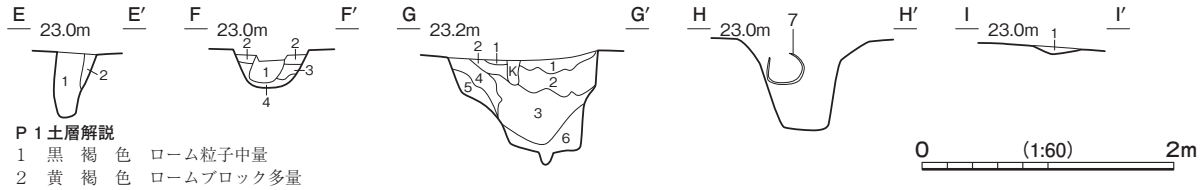


第 74 図　第 81 号竪穴建物跡実測図

ピット　4 か所。P 1・P 3・P 4 は深さが 45 ～ 56cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 2 は深さが 33cm で, 配置から出入口施設に伴うピットである。本跡と重複している第 384 号土坑は, 深さが 44cm のピット状であることや位置などから, 本跡の主柱穴となる可能性もある。

覆土　2 層に分層できる。覆土の遺存状態が悪く, 堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片 122 点（坏 12, 椀 2, 坩 10, 高坏 6, 壺・甕・甑類 91, 不明 1）, 須恵器片 11 点（坏 2,

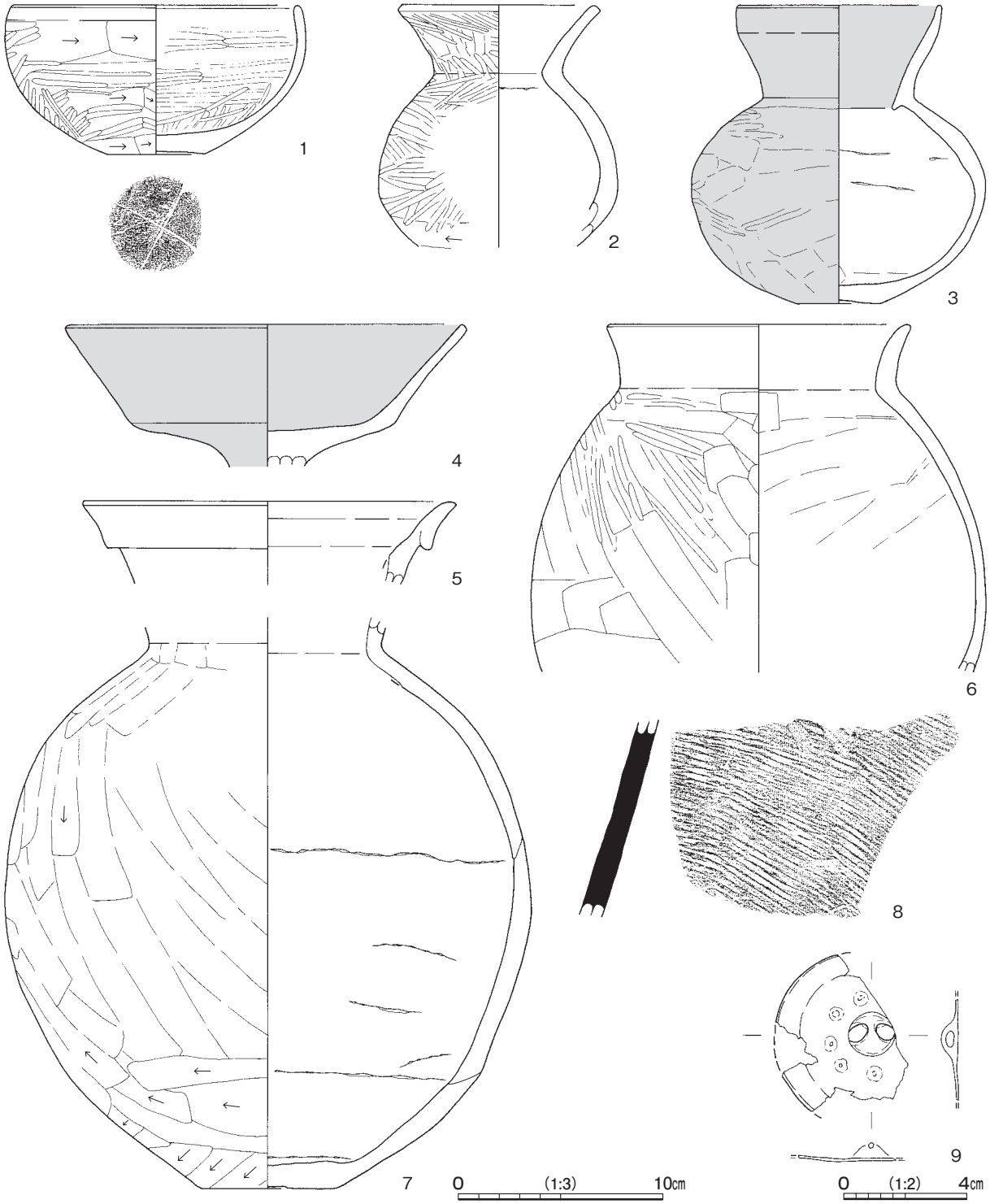


P１土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黄　褐　色　ロームブロック多量

P２土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量
4　明　褐　色　ロームブロック多量

貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　炭化粒子多量，ロームブロック中量，焼土粒子微量



第 75 図　第 81 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

蓋１，鉢・甕・甑類８），金属製品１点（小型仿製鏡）のほか，縄文土器片３点，陶器片１点（甕）が出土している。遺物は南西コーナー部の貯蔵穴周辺で多く出土しており，３は西壁付近から横位で，１と４は南壁付近から正位で出土している。６と７は貯蔵穴の中層から，２個体が入れ子になるように横位で出土した。９は小型の仿製鏡で，西壁際の床面から鏡面を上にして出土している。８は明らかに後出する時期のもので，重複する第 13 号掘立柱建物に帰属する可能性もある。

所見　南西コーナー部を中心に床面に焼土ブロックや粘土，炭化材などが分布していることから，焼失建物の可能性があるが，覆土の状態からは判断できない。時期は，出土土器から５世紀中葉に比定できる。

表 43　第 81 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 75 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	椀	［13.8］	7.2	4.7	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面削り後ヘラ磨き　内面ナデ後ヘラ磨き　底部削り　ヘラ記号「×」	貯蔵穴周辺	40%
2	土師器	坩	9.4	（11.7）	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面ヘラ磨き　体部下端ヘラ削り　内面ナデ	３区 x 貯蔵穴	30%
3	土師器	坩	［9.7］	［14.4］	3.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面ナデ　体部外面ナデ一部磨き状　内面ナデ外面・口縁部内面赤彩	３区床面	60% PL40
4	土師器	高坏	18.9	（6.8）	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ　赤彩	貯蔵穴周辺	40% PL40
5	土師器	壺	［18.0］	（4.0）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	３区床面	20%
6	土師器	甕	［14.4］	（16.4）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り一部ヘラ磨き　内面ナデ	３区 x 貯蔵穴	30% PL40
7	土師器	甕	－	（27.8）	6.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面上半部ヘラナデ　下半部ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ナデ　大きく３段の積み上げで形成	貯蔵穴中層	70%
8	須恵器	甕	－	（9.5）	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面横位の平行叩き　内面ヘラナデ	貯蔵穴上層	５％新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
9	小型仿製鏡	（5.6）	（4.3）	0.1	8.51	銅	珠文鏡　凹凸ほとんどなく断面薄い	４区床面	PL57

第 82 号竪穴建物跡（第 76 図　PL18）

位置　調査Ｉ区北東部のＰ４e0 区，標高 20.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 80・83 Ａ号竪穴建物，第 31 号方形竪穴遺構，第 39 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　重複のため，規模は東西軸が 6.68 m，南北軸は約４ｍしか確認できなかった。方形あるいは長方形と推定され，南北軸方向はＮ－０°である。壁は高さ 30cm で，外傾している。

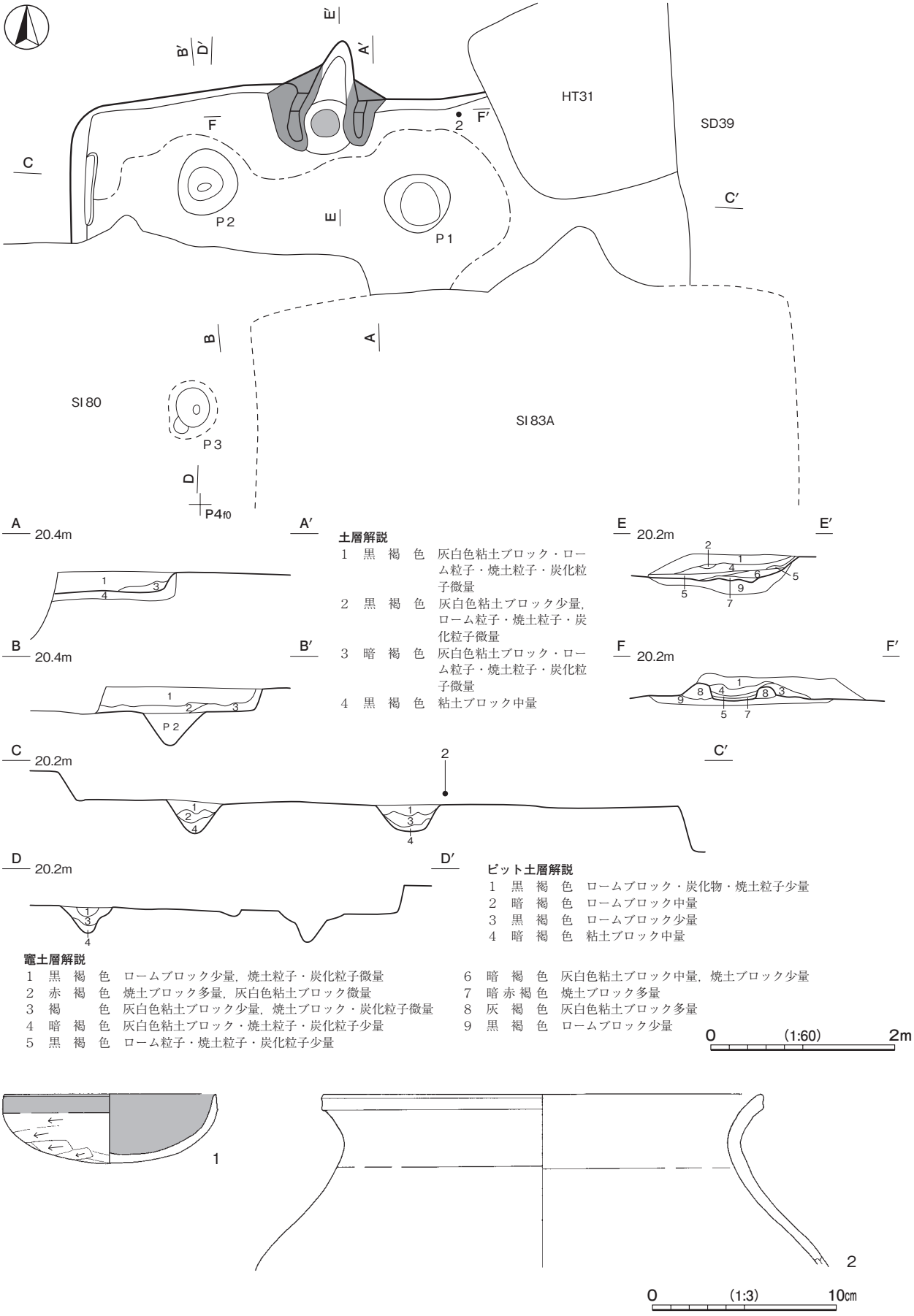
床　ほぼ平坦な貼床で，竈前面から西側にかけて踏み固められている。西壁の一部に壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部付近に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，ロームブロックを含む第９層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 120cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外に 60cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第４・６層は天井部の崩落土，第７層は燃焼部の堆積土である。第８層が袖部で，灰白色粘土が主体の灰褐色土を積み上げて構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さが 30 ～ 35cm で，規模と配置から主柱穴である。

覆土　３層に分層できる。部分的ではあるが，レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第４層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 113 点（坏 31，高坏２，壺･甕類 80），須恵器片８点（坏４，高台付坏１，瓶類１，鉢･甕・甑類２），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 102.1 ｇ）のほか，縄文土器片２点が出土している。南部の大部分が掘り込まれているため，本跡に帰属する遺物は少なく，かつ小片が多い。２は北壁際の覆土下層から出土している。



第 76 図　第 82 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

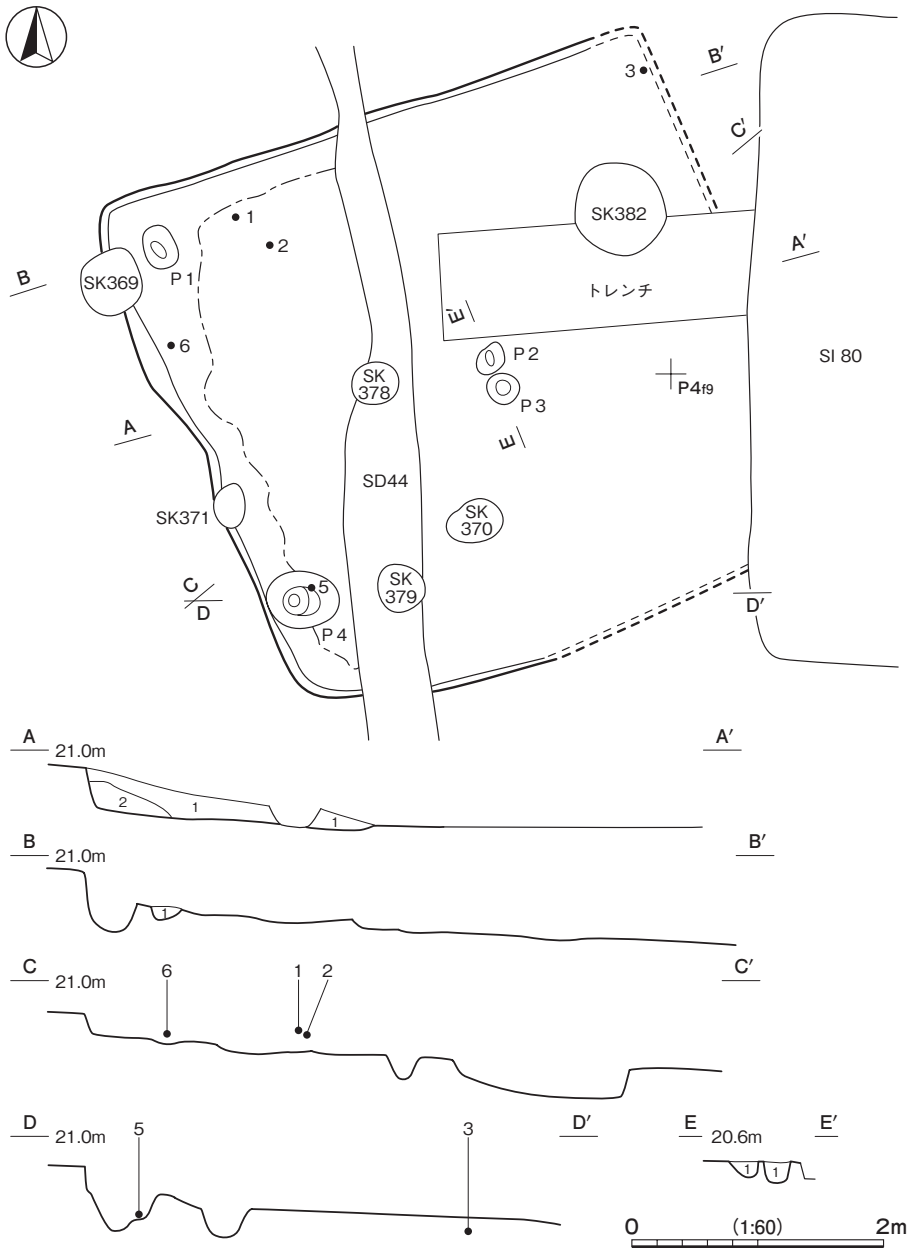
所見　時期は，出土土器及び重複する第80号竪穴建物が7世紀後葉であることなどから，7世紀中葉に比定できる。

表44　第82号竪穴建物跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	［11.4］	3.7	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り 内面ナデ　黒色処理	4区2ｘ	50%
2	土師器	甕	［23.6］	(9.4)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ナデ	1区下層	5％

第85号竪穴建物跡（第77・78図　PL18）

位置　調査Ⅰ区北東部のＰ4e8区，標高21ｍの台地斜面部に位置している。



土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック多量

ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子多量

第77図　第85号竪穴建物跡実測図

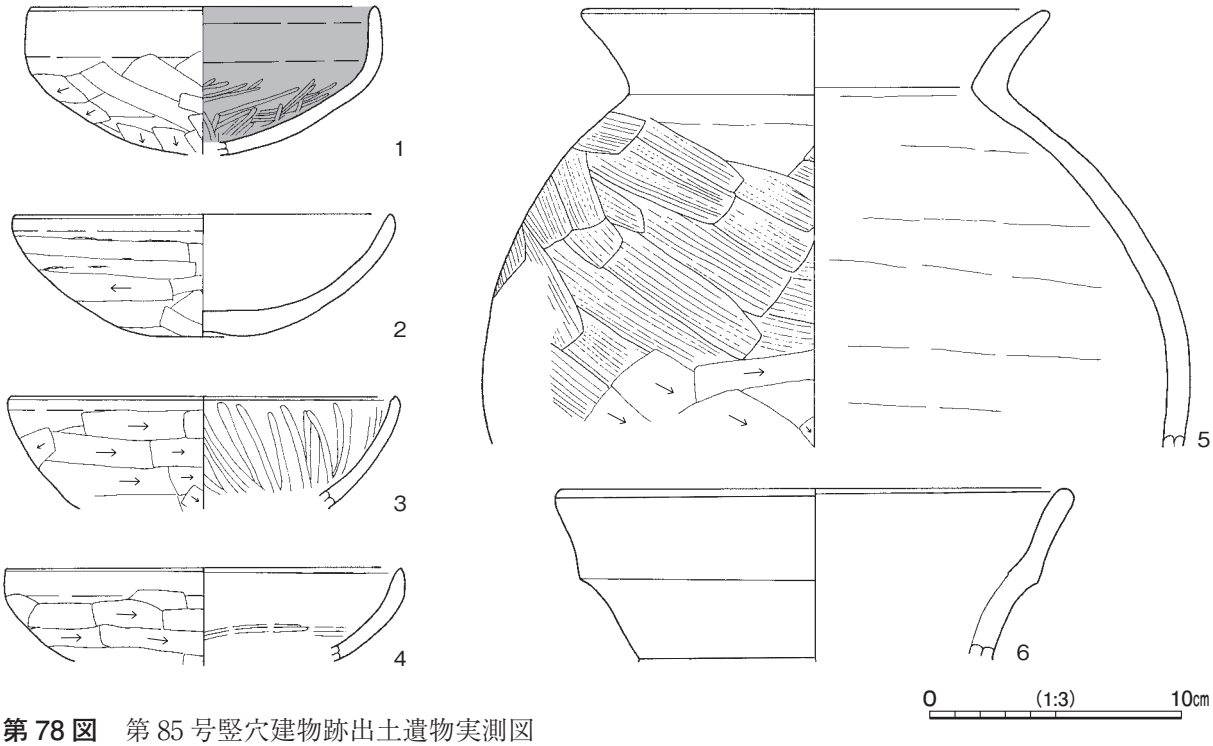
重複関係　第80号竪穴建物，第44号溝に掘り込まれている。第369～371・378・379・382号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　東部が削平のため，規模は南北軸4.55ｍ，東西軸は約4.5ｍしか確認できなかった。方形と推定され，南北軸方向はＮ－24°－Ｗである。壁は高さ18cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，西部が踏み固められている。

ピット　4か所。Ｐ1・Ｐ4は深さが12cm・30cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ2・Ｐ3は床面のほぼ中央部に位置し，深さが18cm・14cmと浅く，性格は不明である。

覆土　2層に分層できる。部分的ではあるが，ロームブロックが多量に含まれていることから，埋め戻されている。



第 78 図　第 85 号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 50 点（坏 13，高坏４，壺・甕類 33），須恵器片３点（蓋１，鉢・甕・甑類２），石器１点（砥石），鍛冶関連遺物（鉄滓 26.7 ｇ）が出土している。堆積が薄いため，遺物は少ない。１・２は北西コーナー部の覆土下層から，６は北西コーナー部の床面から，それぞれ出土している。５は約２分の１が残存する土師器の甕で，Ｐ４の底面から横位で出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉に比定できる。

表 45　第 85 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 78 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	[13.4]	(5.8)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面口縁部横位のナデ　体部ヘラ磨き　黒色処理	４区下層	40% PL41
2	土師器	坏	[14.6]	4.6	－	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	４区下層	30%
3	土師器	坏	[15.2]	(4.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面放射状のヘラ磨き	１区下層	20%
4	土師器	坏	[15.6]	(3.6)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ一部磨き状	１区 x	20%
5	土師器	甕	18.1	(17.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面上半ハケ目調整下半ヘラ削り　内面ヘラナデ	Ｐ４底面	50% PL41
6	土師器	壺	20.0	(6.8)	－	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	４区床面	30%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
7	砥石	(3.6)	(3.0)	1.0	9.63	凝灰岩	砥面一面　表裏面とも剥離	２区 x	観察表のみ

第 86 号竪穴建物跡（第 79 図　PL18・19）

位置　調査Ｉ区北東部のＰ５e2 区，標高 19 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第６号鍛冶工房に掘り込まれている。

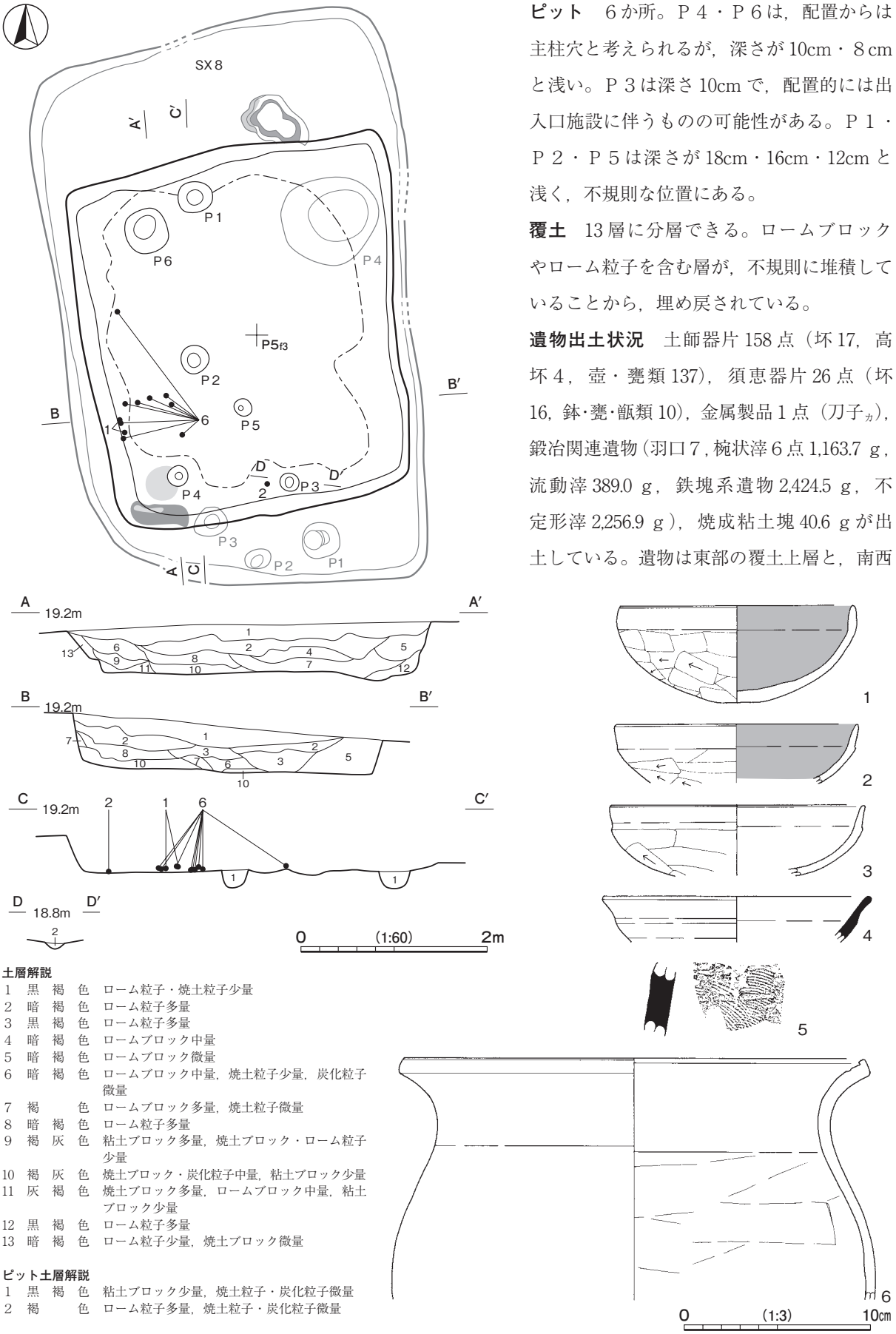
規模と形状　長軸 3.97 ｍ，短軸は 3.37 ｍの長方形で，南北軸方向はＮ－７°－Ｗである。壁は高さ 32 ～ 57cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦で，壁際を除く中央部が踏み固められている。

ピット　6か所。P4・P6は，配置からは主柱穴と考えられるが，深さが10cm・8cmと浅い。P3は深さ10cmで，配置的には出入口施設に伴うものの可能性がある。P1・P2・P5は深さが18cm・16cm・12cmと浅く，不規則な位置にある。

覆土　13層に分層できる。ロームブロックやローム粒子を含む層が，不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片158点（坏17，高坏4，壺・甕類137），須恵器片26点（坏16，鉢･甕･甑類10），金属製品1点（刀子カ），鍛冶関連遺物（羽口7，椀状滓6点1,163.7 g，流動滓389.0 g，鉄塊系遺物2,424.5 g，不定形滓2,256.9 g），焼成粘土塊40.6 gが出土している。遺物は東部の覆土上層と，南西



土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量
3　黒　褐　色　ローム粒子多量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量
9　褐　灰　色　粘土ブロック多量，焼土ブロック・ローム粒子少量
10　褐　灰　色　焼土ブロック・炭化粒子中量，粘土ブロック少量
11　灰　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック中量，粘土ブロック少量
12　黒　褐　色　ローム粒子多量
13　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量

ピット土層解説

1　黒　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

第79図　第86号竪穴建物跡・出土遺物実測図

部の覆土下層から床面にかけてまとまって出土している。１・６は南西コーナー部の床面から，２は南壁際の床面からそれぞれ出土した。椀状滓などの鍛冶関連遺物は，特に北東部の覆土中から多く出土している。本跡は上面を第６号鍛冶工房に掘り込まれているため，本跡で出土した羽口や鉄滓などの鍛冶関連遺物は，第６号鍛冶工房に帰属するものと考えられる。南西コーナー部の壁から床面にかけて，焼土と粘土がブロック状に堆積している。

所見　本跡は９世紀中葉の第６号鍛冶工房と入れ子のように重複している遺構であるが，本跡を先に調査してしまったために，堆積状況での新旧関係は捉えられていない。本跡の時期は，出土土器から７世紀後葉に比定できるが，竈が確認されておらず，同時期の建物跡と比べて形状が異なっている。第６号鍛冶工房跡とは長方形の掘方の形状や長軸方向が同じであること，また本跡の床面でも第６号鍛冶工房の炉跡が確認されていることなどから，本跡は第６号鍛冶工房跡の一部である可能性もある。

表 46　第 86 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 79 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［12.4］	5.1	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　黒色処理	３区床面	65% PL41
2	土師器	坏	［12.8］	（3.2）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　黒色処理，内面ナデ　黒色処理	２区床面 ２区２ｘ	10%
3	土師器	坏	［13.4］	（3.7）	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	２区４ｘ ３区４ｘ	10%
4	須恵器	坏	［14.2］	（2.4）	－	長石	灰	良好	ロクロナデ　外・内面に自然釉	１区３ｘ	10%新治窯
5	須恵器	鉢	－	（3.4）	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面同心円状叩き　内面ナデ	１区３ｘ	５%新治窯
6	土師器	甕	［24.6］	（12.9）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ナデ	３区床面 ４区床面 ３区４ｘ	20% PL41

番号	器　種	最小径	最大径	残存長	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
7	羽口	－	－	（5.5）	67.83	長石	橙	先端に近い部分　還元　中央孔確認　残存幅 5.2cm	４区上層	観察表のみ
8	羽口	－	－	（5.0）	103.94	長石	にぶい橙	先端に近い部分　還元　中央孔確認　残存幅 7.2cm	１区上層	観察表のみ
9	羽口	－	－	（3.5） （3.7）	34.53	長石	にぶい橙	２点に分割　表面の一部のみ確認　部分的に発泡化	１区３ｘ	観察表のみ
10	羽口	－	－	（4.7）	68.67	長石	橙	表面の一部のみ確認　他細片４点あり	１区４ｘ	観察表のみ
11	羽口	－	－	（3.9）	15.70	長石	黄橙	表面の一部のみ確認	１区２ｘ	観察表のみ
12	羽口	－	－	（2.5）	13.68	長石	橙	表面の一部のみ確認　還元　他に小片２点あり	１区３ｘ	観察表のみ
13	羽口	－	－	7.0 以上	274.03	長石	にぶい橙	12 点に分離　接合はしないが同一，内４点に中央孔確認　１点は先端部で，ガラス化	１区２ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
14	不明	（3.3）	1.0	0.2 ～ 0.7	6.9	鉄	刀子状だが刃部の形成が見られない	１区４ｘ	観察表のみ

第 104 号竪穴建物跡（第 80 図）

位置　調査Ⅲ区西部のＭ３j2 区，標高 22 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 88 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　重複と削平のため，西壁の一部しか捉えることができなかった。火床面とピットの位置から，規模はおよそ５～６ｍの方形と推定される。南北軸方向はＮ－ 33 °－Ｗである。

床面　ほぼ平坦で，東部に向かって傾斜している。火床面の南部が踏み固められている。

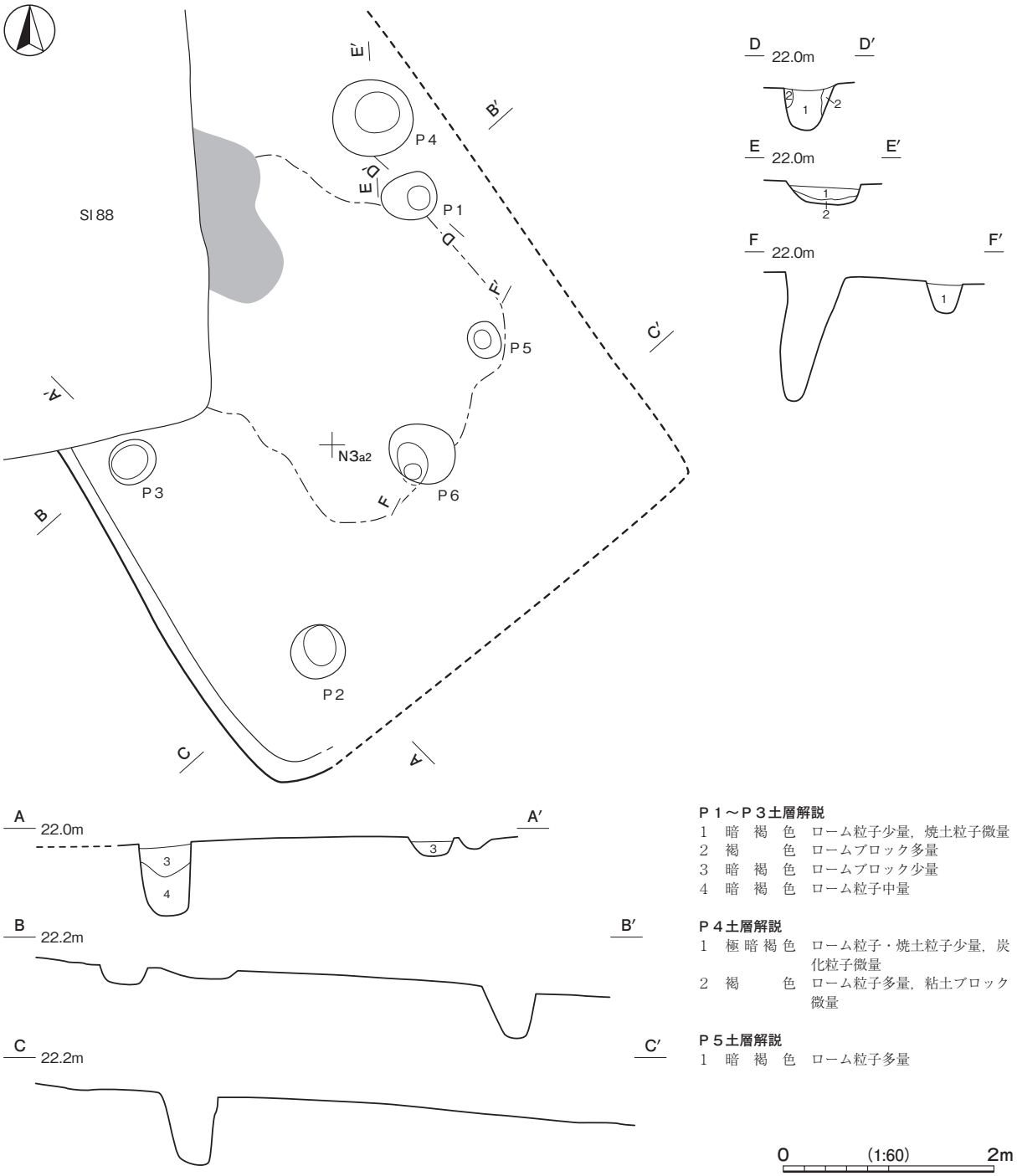
炉　第 88 号竪穴建物と重複するあたりに長径 170cm の火床面が確認できた。竈の火床面とも考えられるが，粘土が残存していなかったことからこれを炉の火床部と推定すると，ピットの位置などから，およそ北部中央に付設されると考えられる。

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ３・Ｐ５・Ｐ６は深さ 18 ～ 120cm で，深さにばらつきがあるものの，配置から主

柱穴である。Ｐ４は径 76cm の円形で，深さは 23cm と浅いものの，位置から貯蔵穴の可能性がある。

遺物出土状況　土師器片 10 点（坏７，椀１，甕類２），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 53.2 ｇ，鉄滓 14.0 ｇ）が出土している。覆土が確認できなかったため，ピットの覆土中から出土した遺物のみである。いずれも細片で，図化できなかった。

所見　遺物からの時期判断は困難である。重複関係と遺構の形状，規模などから，５世紀代と考えられる。



第 80 図　第 104 号竪穴建物跡実測図

第 105 号竪穴建物跡（第 81 図）

位置　調査Ⅲ区中央部のＮ３c7 区，標高 21 ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 4.95 m，短軸 4.80 mの隅丸方形で，主軸方向はN－24°－Wである。壁は高さ３～ 30cm で，外傾している。

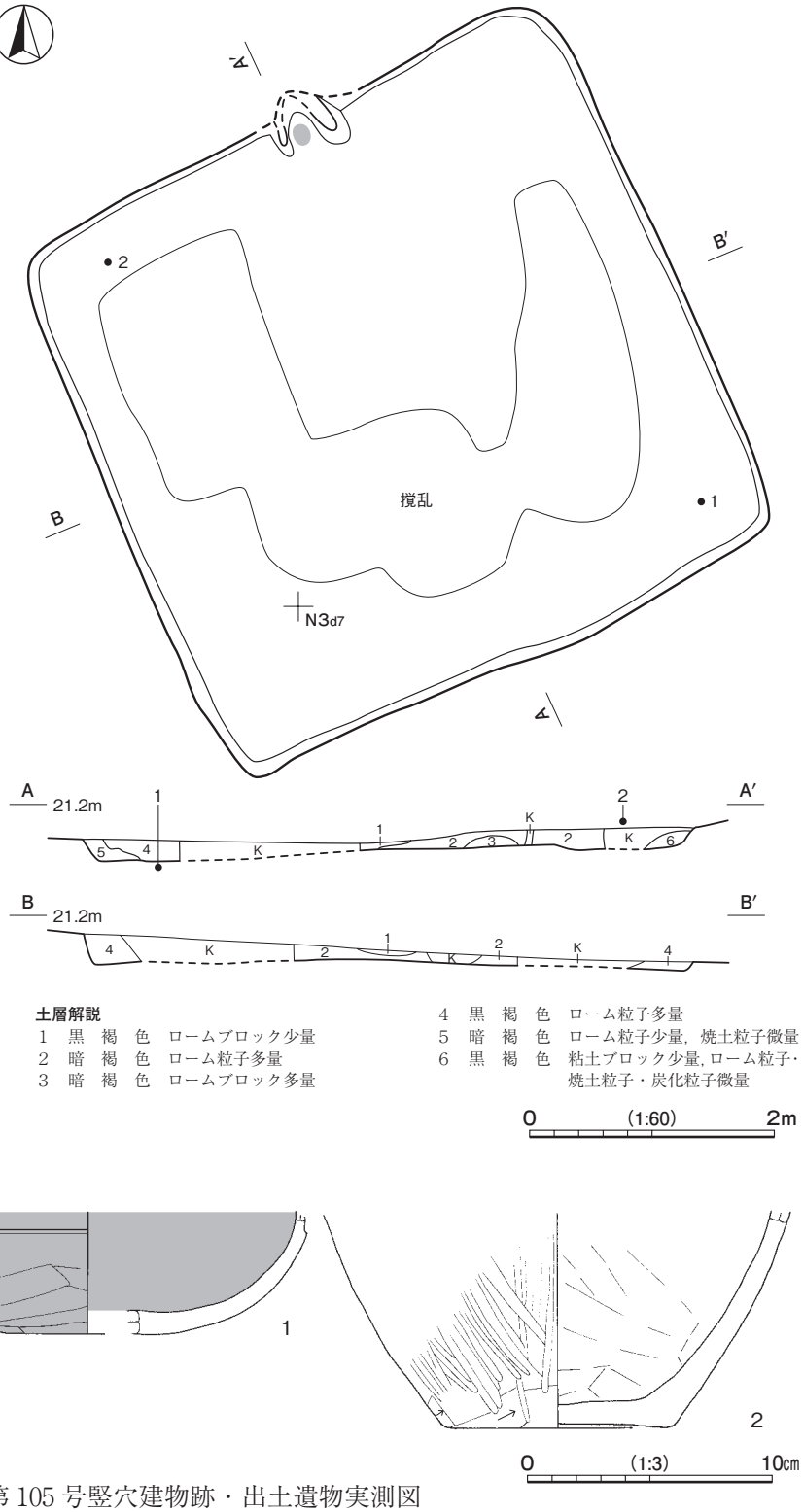
床面　ほぼ平坦で，南側に向かって傾斜している。

竈　北壁中央部に付設されている。削平のため，煙道部付近については明確に捉えることができなかった。また，袖部等についても基部の白色粘土の一部が確認できたのみである。断面や火床面の位置から推測できる規模は，焚口部から煙道部まで 60cm で，燃焼部幅は 30cm である。第６層が煙道部の堆積土で，火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変硬化している。

覆土　５層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 15 点（坏４，坩２，高坏２，甕類７），須恵器片１点（坏），鍛冶関連遺物（羽口１，鉄滓 8.0 ｇ）が出土している。堆積が薄く，撹乱も受けているため遺物は少ない。１は南東コーナー部の床面から，２は北西コーナー部の覆土上層から，それぞれ出土している。

所見　時期判断の可能な遺物が少なく，不明瞭な部分があるが，出土土器と遺構の規模や形状，主軸方向から，７世紀代と考えらえる。



第 81 図　第 105 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 47　第 105 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 81 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	－	(5.0)	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理	２区床面	30%
2	土師器	甕	－	(9.8)	9.0	長石・石英・針状鉱物	明赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	４区上層	10%

表 48　第 105 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
3	羽口	－	－	(2.8)	9.52	長石	橙	先端に近い部分　表面の一部のみ確認	２区１ｘ	観察表のみ

第 107 号竪穴建物跡（第 82・83 図）

位置　調査Ｉ区北東部のＰ５d3 区，標高 18.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第８号鍛冶工房（SX11）に掘り込まれている。

規模と形状　東部が調査区域外に延びているため，南北軸 4.52 ｍで，東西軸は 3.30 ｍしか確認できなかった。方形と推定され，主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁は高さ 23cm で，直立している。

床面　ほぼ平坦で，出入口部付近を除き，壁溝が全周している。

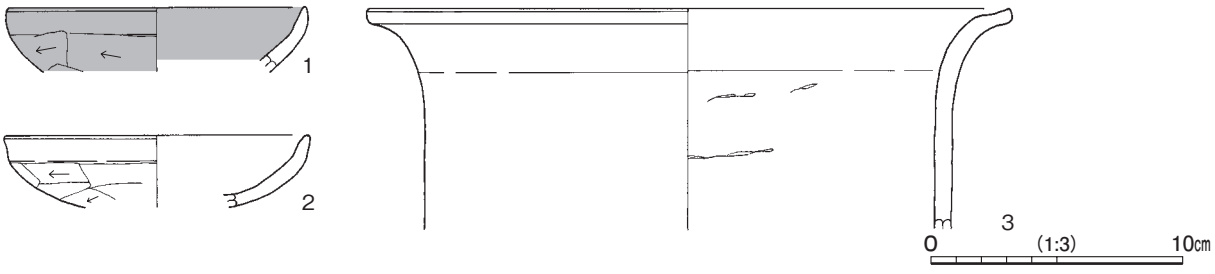
竈　北壁中央部付近に付設されていたと推定される。付設部分を楕円形に掘り込み，第 12・13 層を埋土して構築されている。上部が削平され，煙道部は掘方しか確認できなかった。また袖部は先端が残存していないが，火床面から推定される焚口部から煙道部までの規模は 80cm で，燃焼部幅は 50cm である。第４～６・８・９層が天井部の崩落土，第 11 層が火床部の堆積土である。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。袖部は粘土ブロックを含む褐色土を積み上げて構築されている。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 67 ～ 70cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ４は深さ 70cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。

覆土　７層に分層できる。下層の第４・５・７層は，ロームブロックを多く含んでおり，埋め戻されている。第１・２層は本跡埋没後の堆積土，第 11 層は本跡掘削前の堆積土である。

遺物出土状況　土師器片 86 点（坏 10，甕類 76），須恵器片５点（坏１，瓶類４），土製品１点（支脚$_{カ}$），焼成粘土塊 10.4 ｇのほか，縄文土器片３点が出土している。遺物は全体的に少なく，時期判断可能な遺物も限られている。３は竈の火床面上から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉から中葉に比定できる。

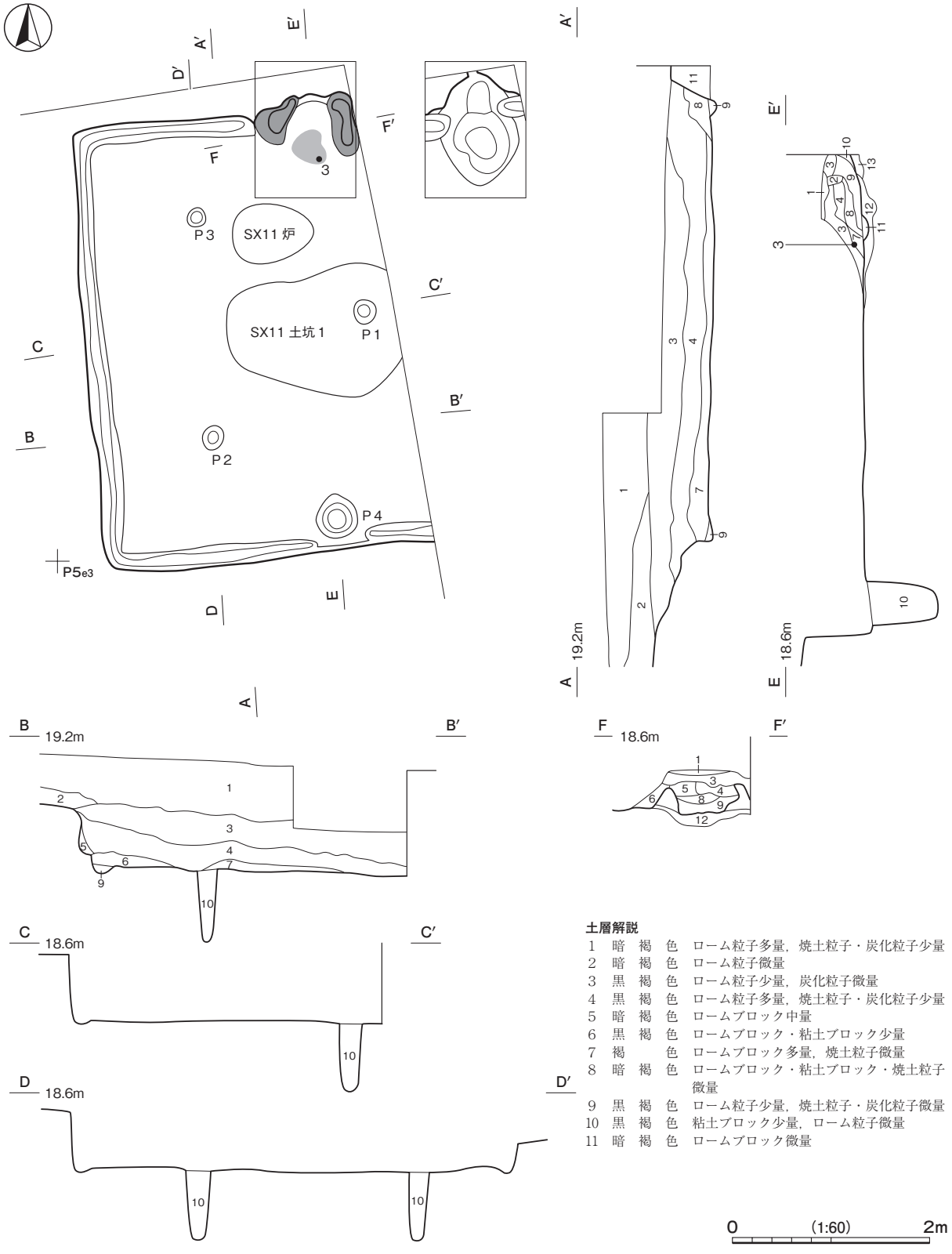


第 82 図　第 107 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 49　第 107 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 82 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	[11.8]	(2.5)	－	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理	１区ｘ	10%
2	土師器	坏	[11.9]	(2.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	４区ｘ	20%
3	土師器	甕	[25.4]	(8.7)	－	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈火床面	10%

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
4	支脚$_{カ}$	－	－	(1.8)	16.77	長石	橙	表面の一部のみ確認　ナデ整形	１区ｘ	観察表のみ



土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ロームブロック中量
6 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
7 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子微量
8 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
9 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒 褐 色 粘土ブロック少量，ローム粒子微量
11 暗 褐 色 ロームブロック微量

竈土層解説

1 暗 褐 色 粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 灰 褐 色 粘土ブロック多量
3 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4 灰 褐 色 粘土ブロック多量，焼土粒子微量
5 灰 褐 色 粘土ブロック多量，焼土粒子少量
6 暗 褐 色 ロームブロック少量，粘土ブロック微量
7 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
8 灰 褐 色 白色粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 褐 灰 色 ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
10 暗 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
11 暗赤褐色 焼土ブロック多量
12 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子微量
13 褐 色 ロームブロック多量

第 83 図 第 107 号竪穴建物跡実測図

第 108 号竪穴建物跡（第 84・85 図）

位置　調査Ⅲ区中央部のＮ３b3 区，標高 22.0 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 106 号竪穴建物に掘り込まれている。第 519 号土坑とも重複するが，新旧関係は不明である。

規模と形状　重複のため，南北軸 4.53 ｍで，東西軸は 3.62 ｍしか確認できなかった。方形あるいは長方形と推定され，主軸方向はＮ－ 107 °－Ｗである。壁は高さ６～ 18cm で，外傾している。

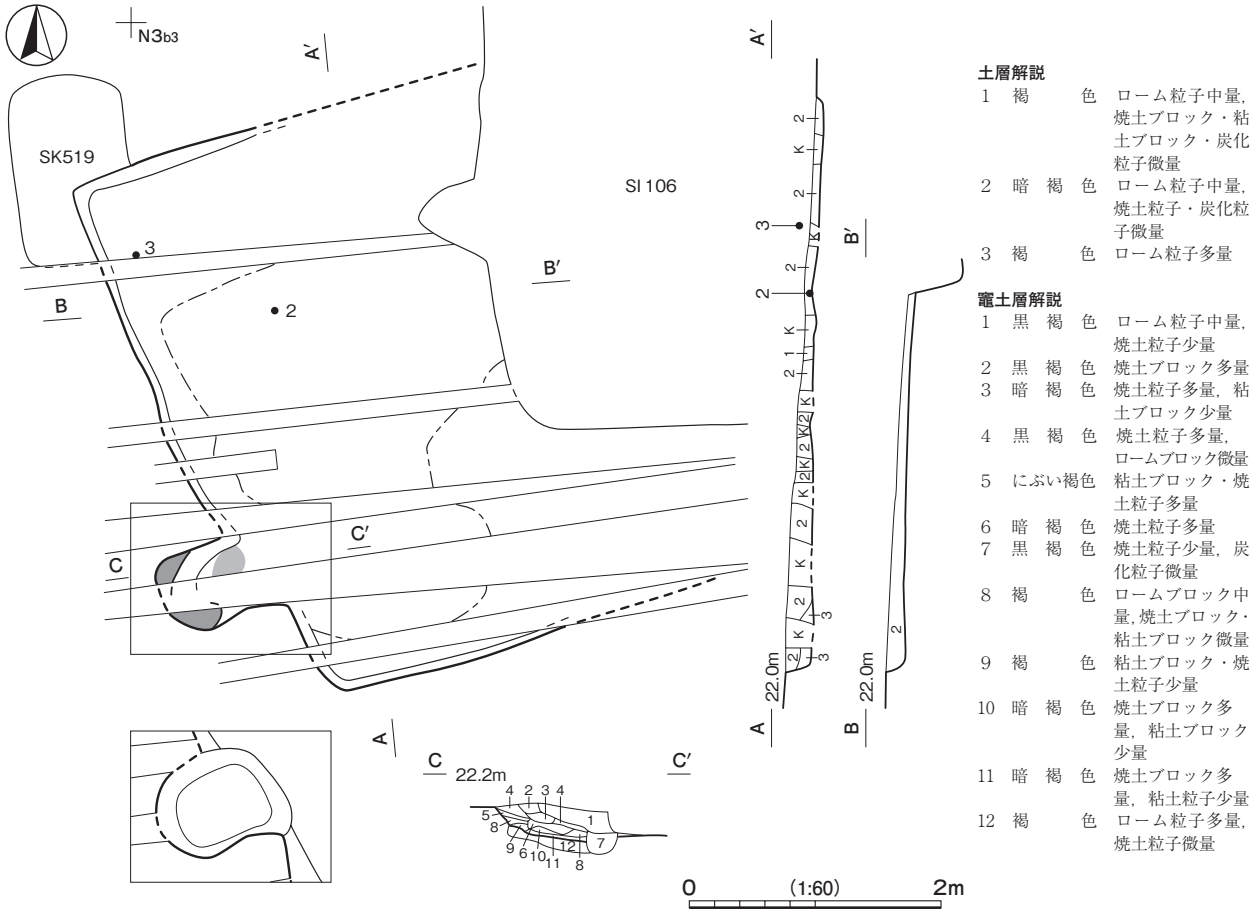
床面　ほぼ平坦で，竈前面から中央部が踏み固められている。

竈　西壁南寄りに付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，第 12 層を埋土して構築されている。崩落及び撹乱が著しく，袖部は残存していない。掘方と火床面から推定される焚口部から煙道部までの規模は約 80cm で，燃焼部幅は 40cm 前後である。煙道部は壁外に 70cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第１～４層が天井部の崩落土，第５・６・10・11 層が燃焼部の堆積土である。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。

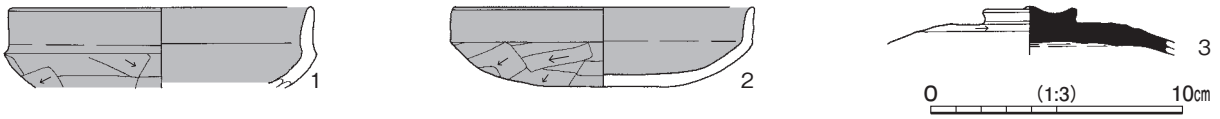
覆土　３層に分層できる。いずれの層もローム粒子を多く含み，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 50 点（坏５，高坏２，甕・甑類 43），須恵器片５点（蓋４，甕類１），石器２点（砥石），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 20.3 ｇ，鉄滓 50.2 ｇ）が出土している。遺物は全体的に少なく，時期判断可能なものも限られている。２は北西部の床面から出土している。３は北東コーナー部の上層から出土したものである。後出する時期のもので，重複する第 106 号竪穴建物に帰属するものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から７世紀前葉から中葉に比定できる。



第 84 図　第 108 号竪穴建物跡実測図



第 85 図　第 108 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 50　第 108 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 85 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[12.0]	(3.1)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理	4区x	10%
2	土師器	坏	11.8	3.1	5.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理	4区床面	95% PL43
3	須恵器	蓋	－	(1.9)	－	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	4区上層	10%新治窯

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
4	砥石	(5.8)	(3.5)	(3.0)	(72.91)	凝灰岩	砥面一面のみ　他は剥離	3区x	観察表のみ
5	砥石	2.5	1.8	1.7	8.15	凝灰岩	不整形　全面砥面	2区x	観察表のみ

表 51　古墳時代の竪穴建物跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規 模 長軸×短軸（m）	壁 高（cm）	床面	壁溝	内 部 施 設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	時 期	備 考（旧→新）
6	O３d0	N－32°－E	[方形]	[3.90 × 3.60]	8	平坦	－	4	1	1	炉	－	－	5世紀後葉	本跡→SB11, SK192･197
9	O４e7	N－ 5°－E	方　形	4.85 × 4.77	11～27	平坦	全周	4	2	4	北壁	－	自然	6世紀後葉～7世紀前葉	SK165→本跡
11	N４i2	N－ 8°－E	方　形	4.85 × 4.85	26～58	平坦	ほぼ全周	4	2	－	北壁	－	自然	7世紀後葉	
12	O４h6	N－17°－E	方　形	3.88 × 3.72	21	平坦	ほぼ全周	－	2	1	北壁	－	自然	7世紀前葉～中葉	工房の可能性あり
20	O３h5	N－18°－W	方　形	8.45 × 8.42	25～32	平坦	全周	2	－	1	北壁	1	自然	6世紀後葉	本跡→SI26, SD26, SF６
33	O２a7	N－25°－W	方　形	6.66 × 6.60	48	平坦	全周	4	1	1	北壁	－	自然	7世紀後葉	
34	N３e1	N－17°－W	長方形	5.88 × [5.30]	13～30	平坦	一部	3	1	3	炉	－	自然	5世紀後葉	本跡→SB９
35	N３h1	N－ 4°－W	方　形	4.12 × 3.81	15	平坦	－	－	－	－	北壁	－	自然	6世紀後葉	本跡→SI17
36	N２h6	N－40°－W	[長方形]	[3.00 × 2.50]	16	平坦	－	2	－	1	炉	－	自然	5世紀後葉	本跡→SI37
38	N２g6	－	－	(2.00 × 1.70)	42	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	8世紀前葉以前	本跡→SI37→SI39
42	O３h1	N－13°－W	[長方形]	9.88 ×(6.85)	35～42	平坦	一部	4	－	3	炉２	－	人為自然	5世紀後葉	SI49→本跡→SI27～29･41, SK228･, SD29　焼失建物
45	O２c0	N－26°－W	長方形	9.20 × 7.03	15～25	平坦	－	－	－	7	炉２	－	自然	5世紀中葉	本跡→SI31･44･46, SD28･29
46	O２d0	N－25°－E	[長方形]	[5.50 × 4.70]	15～18	平坦	－	－	－	4	－	－	自然	5世紀後葉	SI45→本跡→SD28･29
49	O３h2	－	－	－	－	－	－	－	－	4	炉２	－	－	5世紀前葉	本跡→SI27･41･42　SK242と新旧不明　P４は貯蔵穴カ
53	P３e7	N－29°－E	長方形	3.23 × 2.82	13	凹凸	－	2	1	1	－	－	人為	5世紀前葉	本跡→SI54　焼失建物
54	P３e6	N－21°－W	[隅丸長方形]	(4.55 × 1.00)	22	平坦	－	－	－	1	炉	－	自然	5世紀後葉	SI53→本跡
55	Q３c0	N－38°－E	[長方形]	(3.23 × 3.00)	15	凹凸	－	－	－	－	炉	－	－	5世紀中葉～後葉	本跡→SK264･SD31
57	P３f7	N－10°－W	[隅丸長方形]	(2.93 × 2.34)	25	凹凸	－	－	－	－	炉	－	自然	5世紀中葉	本跡→SK274･275･290, SD36
58	P３h0	N－17°－E	長方形	3.98 × 3.47	3～20	平坦	－	3	1	－	北壁	－	自然	7世紀中葉	
59	P４h2	N－ 2°－E	[長方形]	(4.75 × 4.0)	5～14	平坦	西部	4	－	－	－	－	人為	7世紀後葉	本跡→SI60, SD37
60	P４h3	N－10°－E	隅丸方形	4.70 × 4.50	8～12	平坦	ほぼ全周	3	1	1	北壁	－	自然	7世紀後葉	SI59･68→本跡→SE８
63	P４e1	N－ 9°－W	方　形	3.57 × 3.57	6～13	平坦	－	4	2	1	北壁	－	自然	7世紀中葉	
64	P３b6	N－ 9°－W	[方形]	4.13 ×(3.95)	28～31	平坦	－	4	1	－	北壁	－	自然	7世紀前葉～中葉	SK325→本跡→SK362,SD39
66	P４f6	N－37°－W	長方形	7.42 × 6.58	15～20	平坦	－	4	－	1	炉２	1	人為	5世紀中葉	本跡→SI65, SK358, SD36
67	P４b6	N－19°－W	方　形	4.61 × 4.57	13～22	平坦	全周	4	1	－	北壁	－	自然	6世紀後葉	SA５と関連するカ
68	P４g2	N－29°－W	[長方形]	5.38 ×(4.60)	16～18	平坦	－	4	1	1	炉	－	－	5世紀中葉	本跡→SI60, SX５, SD36
69	P３i7	－	－	－ × －	－	－	－	－	－	－	煙道のみ	－	－	7世紀代	本跡→SD32･33･37
70	P４i4	N－17°－W	[長方形]	4.22 ×(2.55)	8	凹凸	－	2	－	－	－	－	人為	5世紀代	本跡→SD32･33･37
72	P４b3	N－ 2°－W	隅丸方形	4.56 × 4.27	24	平坦	東部	4	1	3	北壁	－	人為	7世紀後葉	本跡→SI73, SK357
77	P３c8	N－ 9°－E	長方形	5.22 × 4.56	14～40	平坦	ほぼ全周	4	1	2	北壁	－	自然	7世紀中葉～後葉	SK408･411→本跡→SB16P４･８･９, SD38　SK410･PG７P６との新旧不明
78	P４b8	N－ 9°－E	方　形	5.00 × 4.73	25～34	平坦	ほぼ全周	6	1	2	北壁	－	人為	7世紀後葉	本跡→SK356, SD39･41　拡張あり
79	P４b0	N－ 3°－W	[方形]	4.65 ×(4.52)	26～48	凹凸	西部半周	4	1	5	北壁	－	人為	7世紀後葉	本跡→SK368, SD39
80	P４e9	N－ 3°－E	[方形]	5.23 ×(4.00)	28～35	凹凸	ほぼ全周	4	2	－	北壁	－	自然	7世紀後葉	SI82･85→本跡→SI83A
81	P３a8	N－42°－W	[長方形]	6.75 ×(5.00)	8	凹凸	－	3	1	－	炉	1	－	5世紀中葉	焼失建物　小型仿製鏡出土　本跡→SB13, SD39･48, PG7P4　SK363･384･392･407, PG7P15～17との新旧不明
82	P４e0	N－ 0°	[長方形]	(6.68 × 4.00)	30	平坦	一部	3	－	－	北壁	－	自然	7世紀中葉	本跡→SI80･83A, HT31, SD39
85	P４e8	N－24°－W	[方形]	4.55 × [4.50]	18	平坦	－	2	－	2	－	－	人為	5世紀後葉	本跡→SI80, SD44　SK369～371･378･379･382との新旧不明
86	P５e2	N－ 7°－W	長方形	3.97 × 3.37	32～57	平坦	－	2	1	3	－	－	人為	7世紀後葉	本跡→SX８　SX８の一部の可能性あり
104	M３j2	N－33°－W	[方形]	[6.00 × 5.00]	－	平坦	－	5	－	－	炉	－	－	5世紀代	本跡→SI88　P4は貯蔵穴カ
105	N３c7	N－24°－W	隅丸方形	4.95 × 4.80	3～30	平坦	－	－	－	－	北壁	－	自然	7世紀代	
107	P５d3	N－ 4°－W	[方形]	4.52 ×(3.30)	23	平坦	全周	3	1	－	北壁	－	人為	7世紀前葉～中葉	本跡→SX11
108	N３b3	N－107°－W	[長方形]	4.53 ×(3.62)	6～18	平坦	－	－	－	－	西壁	－	人為	7世紀前葉～中葉	本跡→SI106　SK519との新旧不明

⑵　土坑

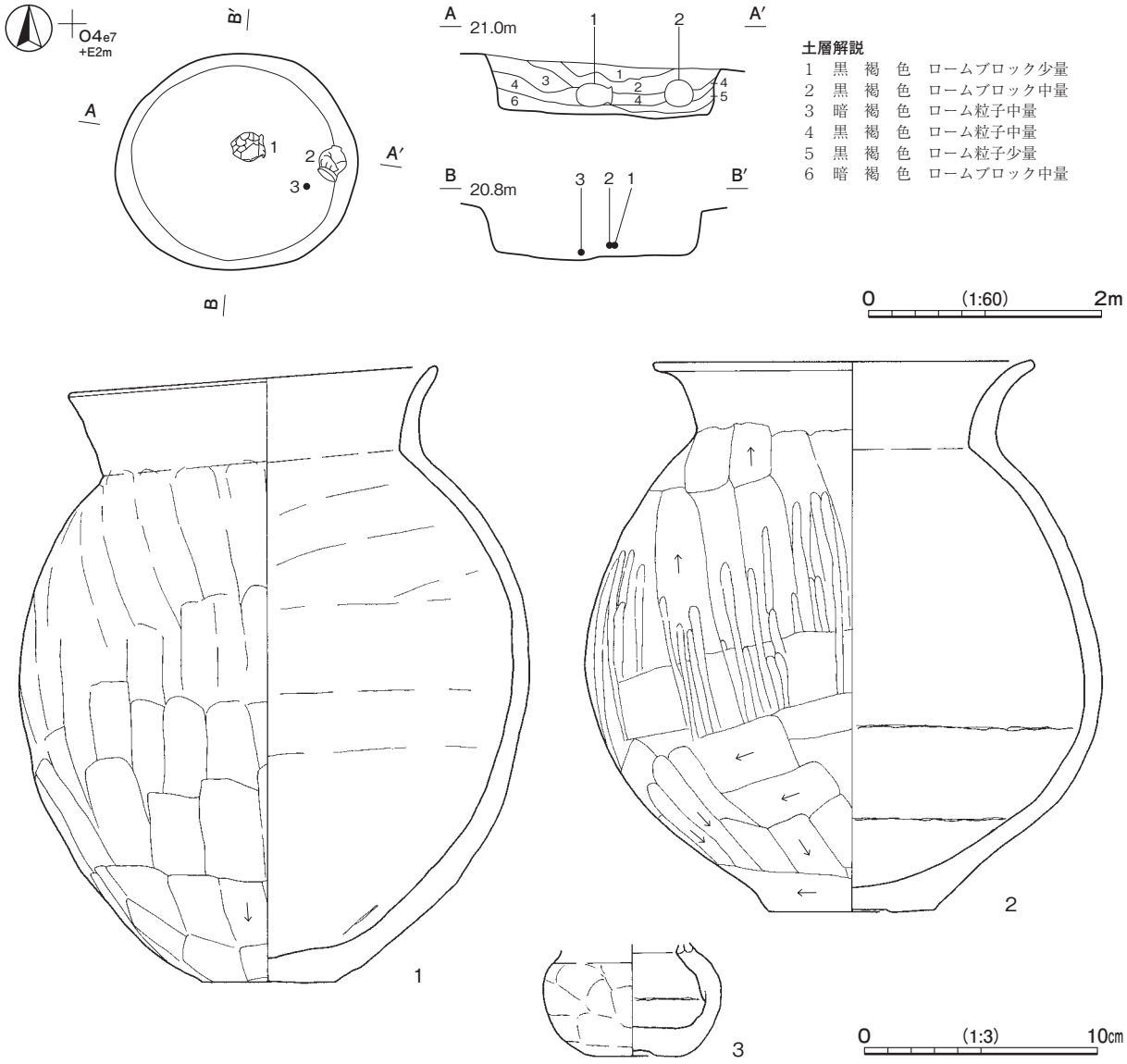
当時代の土坑は33基を確認した。ただし，当遺跡はいくつかの時期が複合する遺跡であることから，年代の異なる遺物が混在した状態で出土するものが多く，遺物のみからの時期判断は困難である。また同一面での確認のため，確認面での判断も不可能である。よって，出土遺物と土坑の形状や堆積状況，重複関係，遺構の位置などから時期判断を行った。以下，主な土坑について取り上げて記述し，ほかは実測図と計測表を掲載する。

第90号土坑（第86図　PL28）

位置　調査Ⅱ区東部のＯ４e7区，標高21ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長径2.03ｍ，短径2.00ｍの円形である。深さは33cmで，壁は直立している。底面は南～東部がやや下がっているものの，おおむね平坦である。

覆土　６層に分層できる。ロームブロックやローム粒子がやや多く含まれる層が堆積することから，埋め戻されている。



第86図　第90号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 21 点（椀２, 坩２, 高坏２, 壺･甕類 15）が出土している。底面の 10cm ほど上位から，１・２の土師器甕が横位で，３の小型坩が正位で出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉に比定できる。

表 52　第 90 号土坑出土遺物観察表（第 86 図）

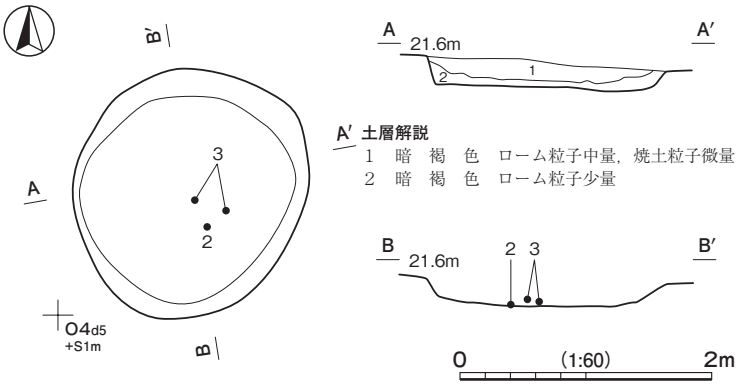
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	甕	15.4	26.4	5.6	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半ヘラ削り　底部ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部下層	80% PL45
2	土師器	甕	16.0	23.6	7.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　上半部削り後粗い磨き　内面ヘラナデ　底部ヘラ削り	東部下層	80% PL45
3	土師器	小型坩	－	(4.8)	4.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外・内面・底部ナデ	東部下層	60% PL44

第 118 号土坑（第 87・88 図　PL29）

位置　調査Ⅱ区東部のＯ 4c5 区，標高 21.5 ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長径 2.00 m，短径 1.85 m の楕円形で，長径方向はＮ－ 50°－Ｅである。深さは 21cm で，壁は外傾している。底面は平坦である。

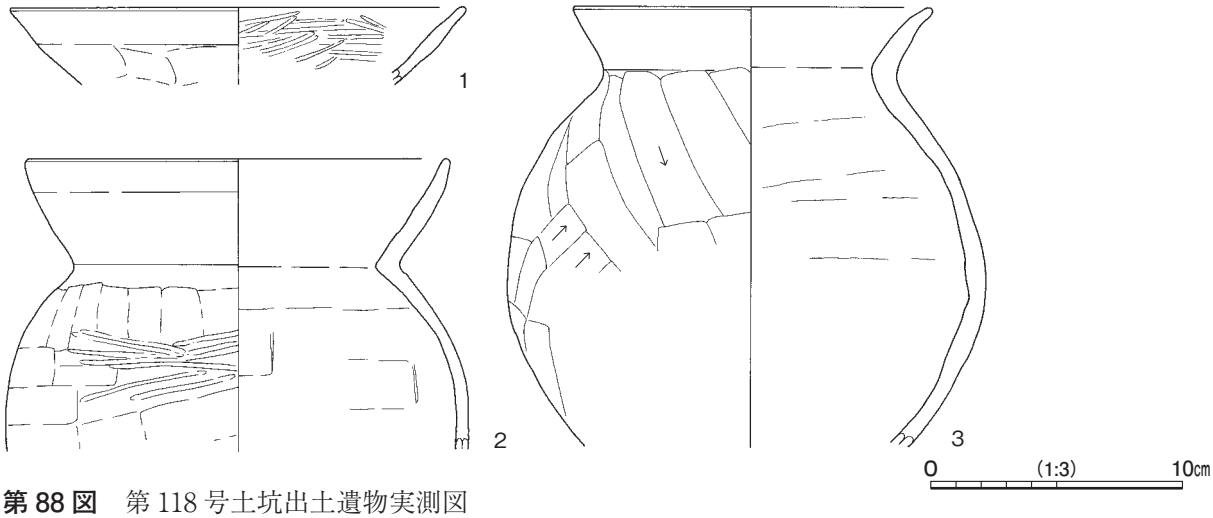
覆土　２層に分層できる。第１層にローム粒子がやや多く含まれる暗褐色土が堆積することから，埋め戻されている。



第 87 図　第 118 号土坑実測図

遺物出土状況　土師器片 58 点（坏２, 椀４, 坩４, 高坏１, 壺･甕類 47），剥片１点（黒曜石）が出土している。中央部の底面から３の土師器甕が逆位で，その南側の底面から２の土師器坩が正位で出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉に比定できる。前述した第 90 号土坑と位置が近く，形状や遺物の出土状況なども類似している。



第 88 図　第 118 号土坑出土遺物実測図

表 53　第 118 号土坑出土遺物観察表（第 88 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	高坏	[18.0]	(3.0)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ナデ　内面ヘラ磨き	覆土中	5％
2	土師器	坩	16.7	(11.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ後粗い磨き　内面ヘラナデ	南東部底面	40% PL45
3	土師器	甕	[14.0]	(17.3)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部底面	50% PL45

第 133 号土坑（第 89・90 図　PL29）

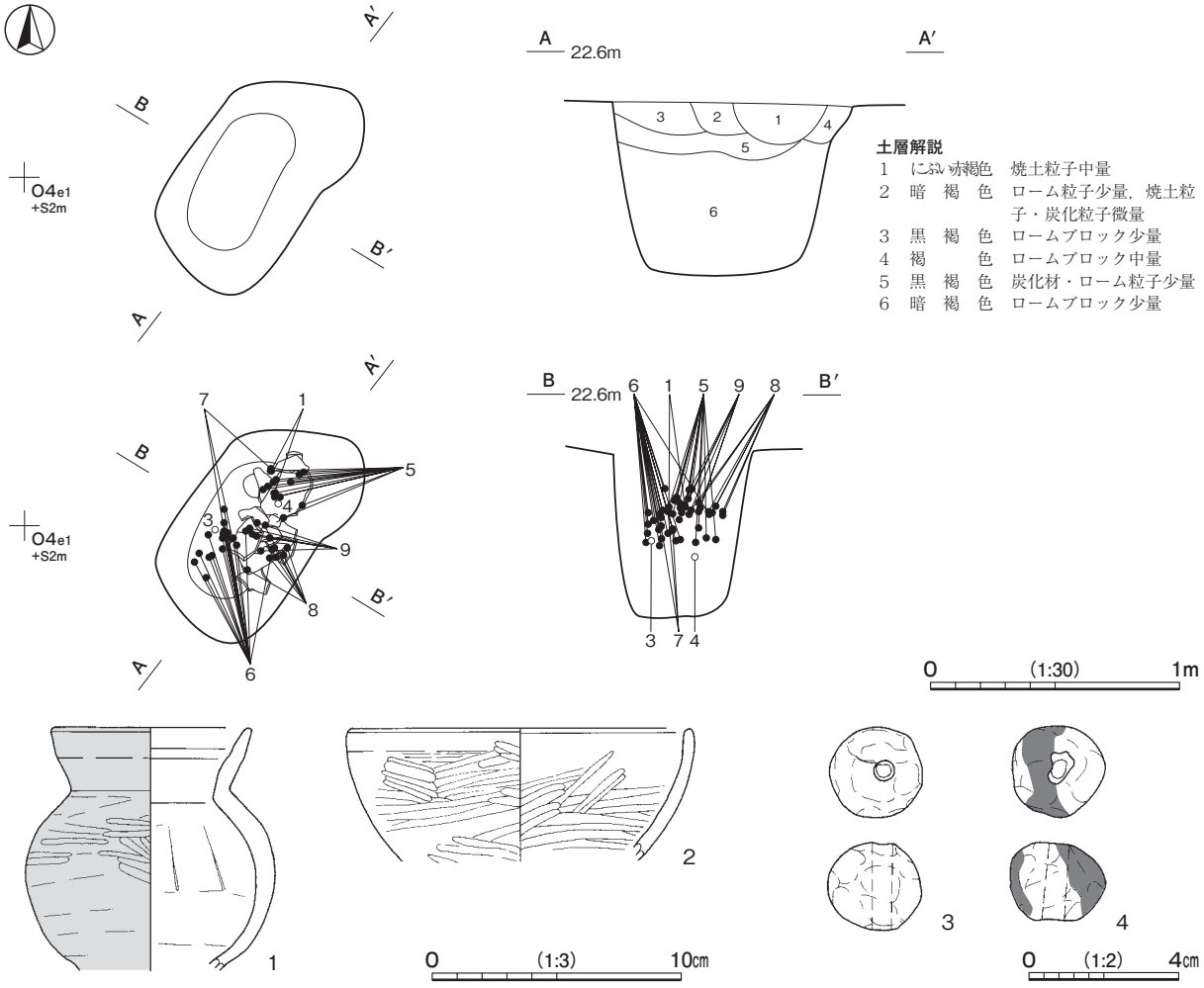
位置　調査Ⅱ区東部のＯ 4e1 区，標高 22.5 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 0.96 m，短径 0.54 mの不整楕円形で，長径方向はＮ－ 32°－Ｅである。深さは 67cm で，壁は直立している。底面は平坦である。

覆土　６層に分層できる。厚く堆積した暗褐色土の第６層上に，ロームブロックや焼土粒子を含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 110 点（坏３，椀１，坩９，高坏９，壺･甕類 88），土製品２点（土玉）が出土している。第６層の上面から，土師器の甕５個体と坩１個体の破片，及び土玉２点がまとまって出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀前葉に比定できる。

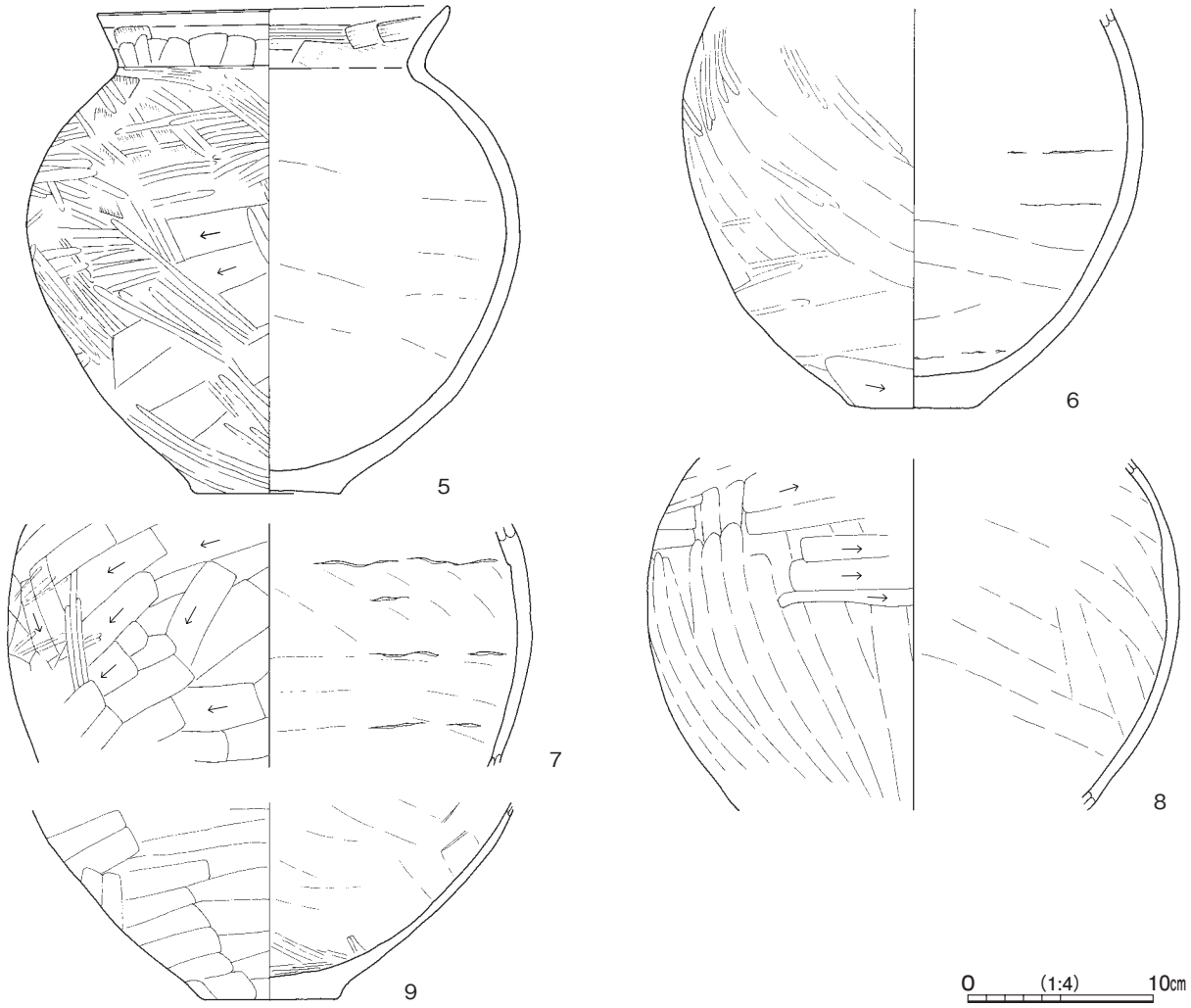


第 89 図　第 133 号土坑・出土遺物実測図

表 54　第 133 号土坑出土遺物観察表（１）（第 89 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坩	［8.0］	（9.7）	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ナデ後ヘラ磨き　内面ヘラナデ　外面赤彩	北部中層	40%　PL45
2	土師器	椀	［13.9］	（5.3）	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ磨き　内面ヘラ磨き	覆土中	20%

番号	器　種	径	孔径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
3	土玉	2.4	0.5	－	11.90	長石・石英	浅黄橙	表面指頭ナデ	西部中層	
4	土玉	2.45～2.5	0.6	－	11.18	長石・石英	にぶい黄橙	表面指頭ナデ　煤付着	北部中層	



第 90 図　第 133 号土坑出土遺物実測図

表 55　第 133 号土坑出土遺物観察表（２）（第 90 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
5	土師器	甕	18.8	26.4	7.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後ヘラ削り　内面ハケ目調整 体部外面上半ハケ目調整後ヘラ磨き　下半ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部ナデ	北部中層	95% PL45
6	土師器	甕	－	(21.7)	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ　一部ヘラ磨き　下端部ヘラ削り 内面ヘラナデ　底部ナデ	南部中層	60% PL45
7	土師器	甕	－	(13.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り　中位付近一部ヘラ磨き　内面ヘラナデ	中央部中層	20%
8	土師器	甕	－	(18.9)	－	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ　中位付近横位のヘラ削り　内面ヘラナデ	中央部中層	30%
9	土師器	甕	－	(10.6)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　内底面一部磨き状 底部ナデ	中央部中層	20%

第 190 号土坑（第 91 図）

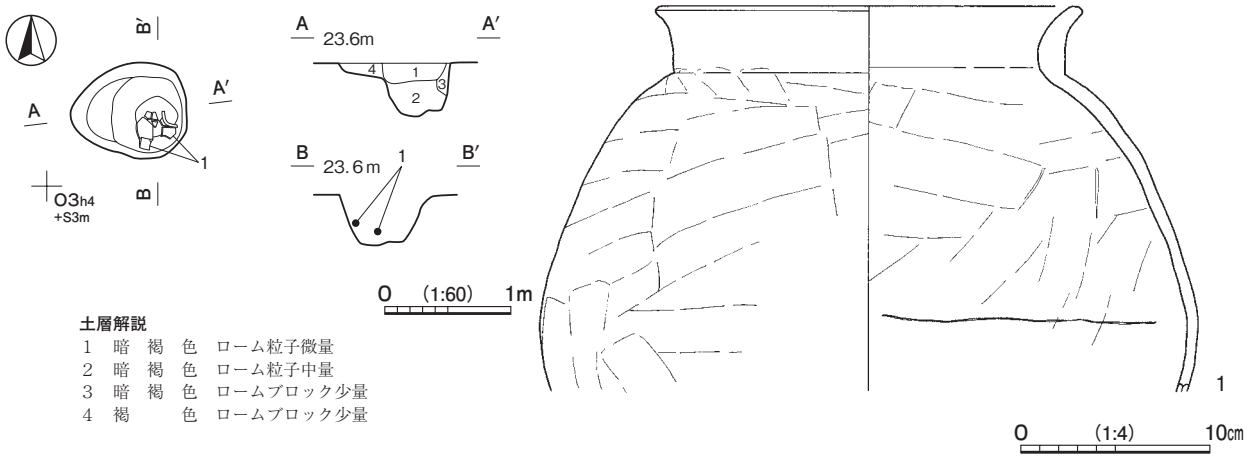
位置　調査Ⅱ区西部のＯ３h4 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 0.92 ｍ，短径 0.75 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 83°－Ｅである。深さは 39cm で，壁は直立している。底面は東部が一段深くなっている。

覆土　４層に分層できる。ローム粒子をやや多く含む暗褐色土で埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 36 点（坏４，壺・甕類 32）が出土している。底面の約 10cm ほど上位から，１の土師器甕が，大きく２つの破片で出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉に比定できる。



第 91 図　第 190 号土坑・出土遺物実測図

表 56　第 190 号土坑出土遺物観察表（第 91 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	甕	［21.8］	(20.3)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	東部下層	30%

第 307 号土坑（第 92 図）

位置　調査Ｉ区西部のＰ３e9 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 308 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　重複のため，東西径は 0.88 ｍで，南北径は 0.53 ｍしか確認できなかった。不整な円形で，深さは 43cm である。壁は直立し，底面は平坦であるが，北側に向かって下がっている。

覆土　第 12・13 層の２層に分層できる。ローム粒子がやや多く含まれる灰褐色土で埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片７点（坏１，高坏１，壺・甕類４，不明１），須恵器片２点（蓋，鉢・甕類），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 17.3 ｇ，鉄滓 15.9 ｇ）が出土している。いずれも小片で図示できなかった。

所見　出土土器からの時期判断は困難であるが，５世紀中葉に比定できる第 308 号土坑に掘り込まれていることから，時期は５世紀中葉以前と捉えられる。

第 308 号土坑（第 92 図）

位置　調査Ｉ区西部のＰ３e9 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 307 号土坑を掘り込んでいる。

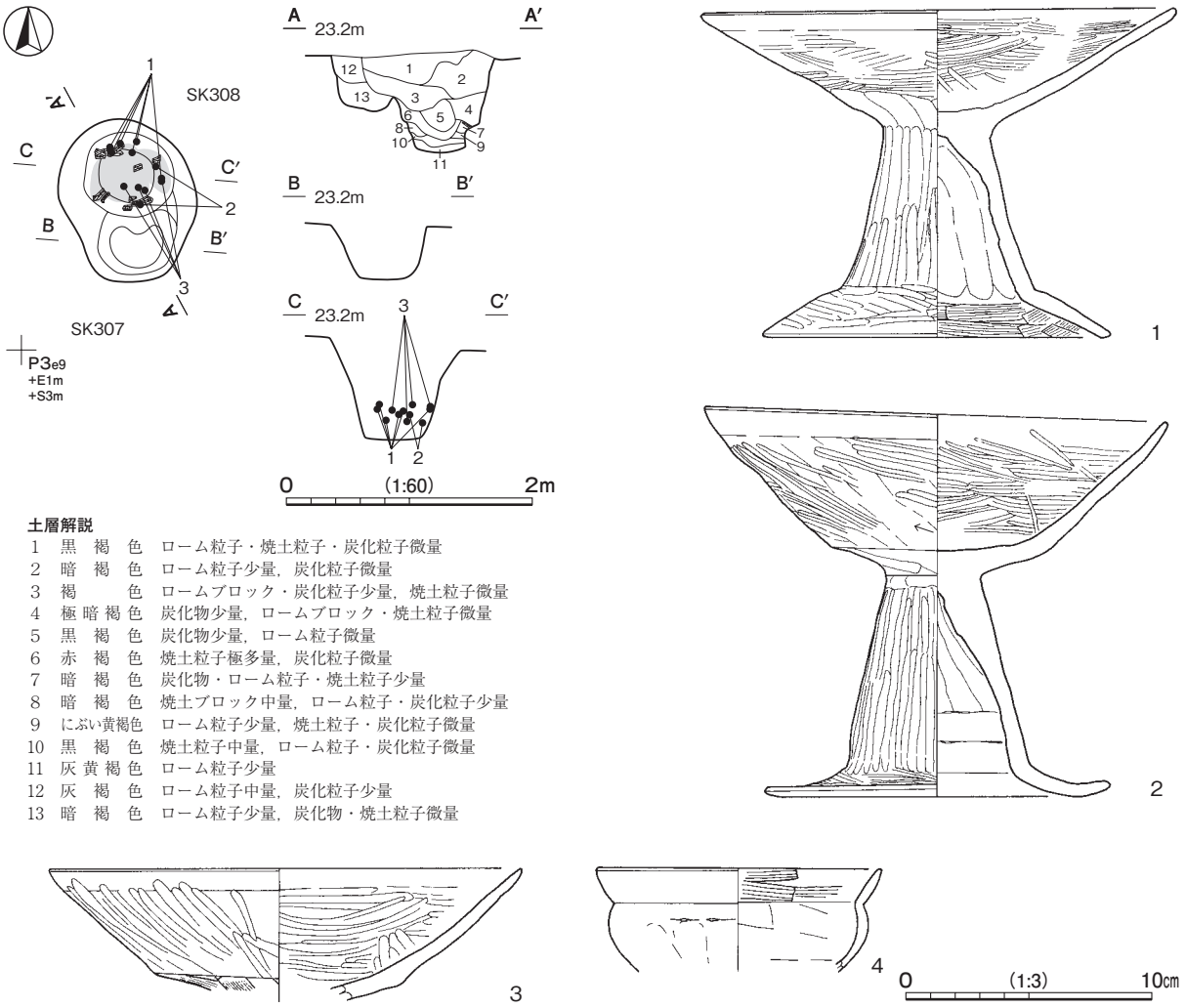
規模と形状　重複のため，東西径は 1.08 ｍで，南北径は 0.83 ｍしか確認できなかった。円形で，深さは 75cm である。壁は直立し，底面は平坦であるが，中央部がピット状に下がっている。

覆土　11 層に分層できる。中層の第６・８・10 層が焼土粒子が多く含まれる層で，不整合な堆積状況から埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 38 点（坩５，高坏 16，壺･甕類５，不明 12），須恵器片１点（坏），鍛冶関連遺物（羽口１，鉄塊系遺物 2.3 ｇ），焼成粘土塊 2.1 ｇのほか，陶器片１点（甕）が出土している。覆土下層から，焼土や炭化材とともに１～３の土師器の高坏が，ばらばらに割れた状態で出土している。２は二次焼成を受けている。須恵器片や鍛冶関連遺物は，流れ込みと考えられる。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉に比定できる。出土状況から，焼失建物の不要物を廃棄したものと考

えられる。



土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
3 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4 極暗褐色 炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
5 黒 褐 色 炭化物少量，ローム粒子微量
6 赤 褐 色 焼土粒子極多量，炭化粒子微量
7 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
8 暗 褐 色 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
9 にぶい黄褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒 褐 色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
11 灰黄褐色 ローム粒子少量
12 灰 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
13 暗 褐 色 ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量

第 92 図 第 307・308 号土坑・308 号土坑出土遺物実測図

表 57 第 308 号土坑出土遺物観察表（第 92 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	高坏	19.0	13.4	［14.0］	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ 坏部外・内面ヘラ磨き 脚部外面削り後ヘラ磨き 内面ヘラナデ ハケ目調整	覆土下層	60% PL45
2	土師器	高坏	18.5	15.8	13.8	長石・石英・細礫	赤橙	普通	口縁部外面横位のナデ 坏部外・内面ヘラ磨き 脚部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 二次焼成	覆土下層	90% PL45
3	土師器	高坏	19.1	(5.3)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横位のナデ 坏部外・内面ヘラ磨き 坏部下半削り 一部ハケ目調整残る	覆土下層	30%
4	土師器	椀	［11.4］	(6.2)	－	長石・石英		普通	外面ナデ 口縁部内面ハケ目調整 体部ヘラナデ	覆土中	5 %

番号	器 種	最小径	最大径	高さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
5	羽口	－	－	－	6.77	長石・細礫	褐灰	先端部の一部のみ ガラス化	覆土中	観察表のみ

第 453 号土坑（第 93 図 PL29）

位置 調査Ⅲ区北西部のＮ２b8 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

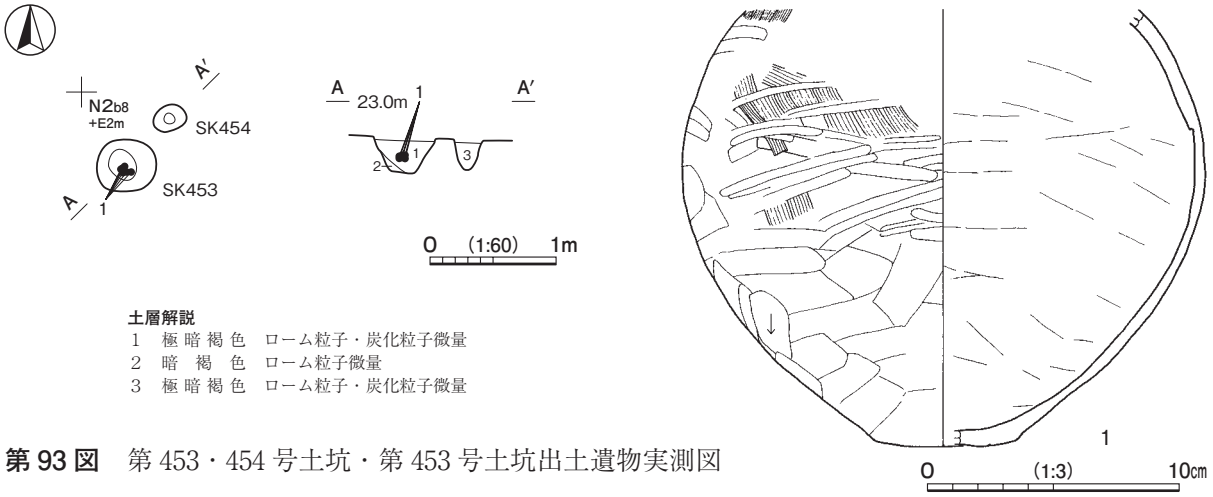
規模と形状 長径 0.46 ｍ，短径 0.41 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 81°－Ｗである。深さは 29cm で，壁は外傾している。底面は皿状である。

覆土 ２層に分層できる。遺物の出土状況などから，暗褐色土で埋め戻されていると考えられる。

遺物出土状況 土師器片 34 点（坩１，高坏３，壺・甕類 30），須恵器片１点（不明）が出土している。覆土

中層から，１の土師器の甕や，図化しなかったが土師器の高坏の脚部などが，破片の状態で出土している。須恵器片は後世の流れ込みと考えられる。

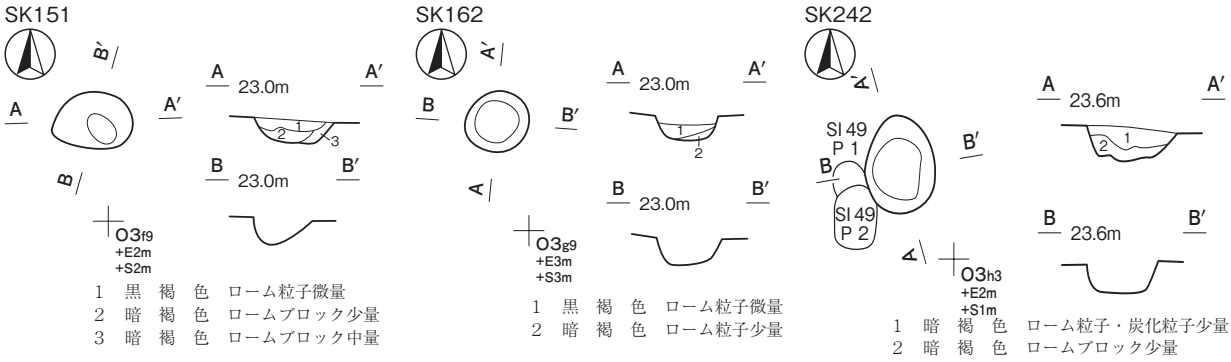
所見　時期は，出土土器から５世紀前葉に比定できる。

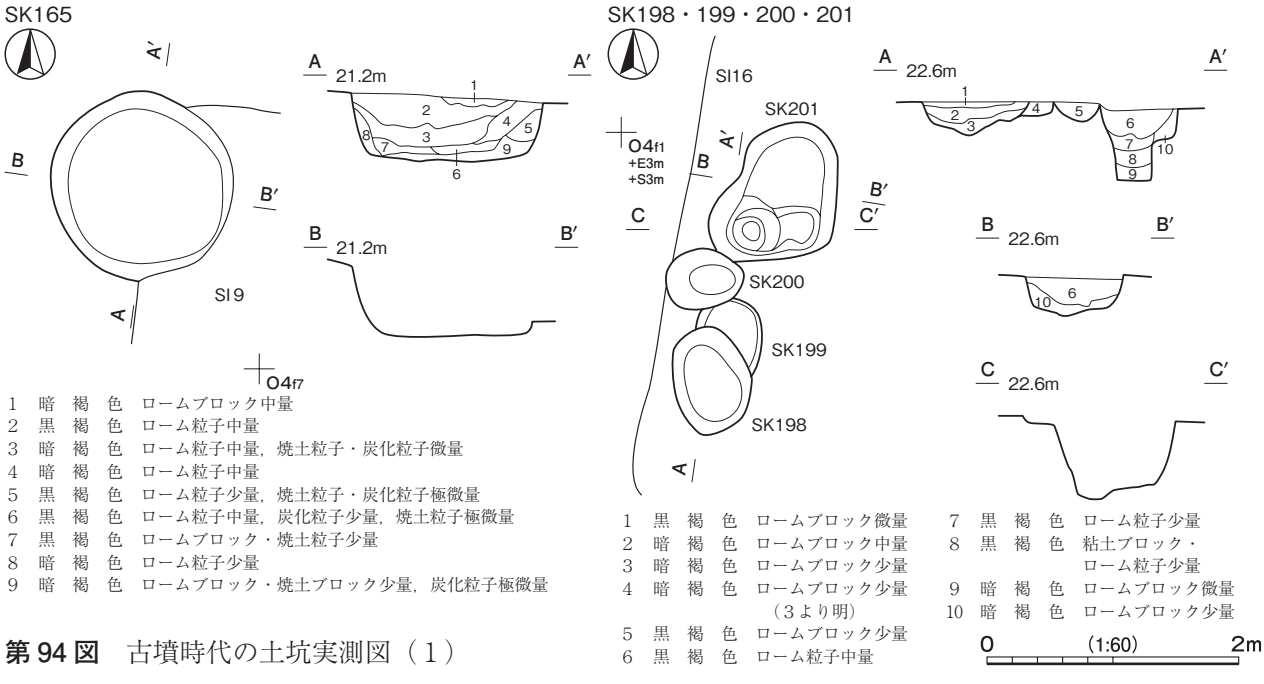


第 93 図　第 453・454 号土坑・第 453 号土坑出土遺物実測図

表 58　第 453 号土坑出土遺物観察表（第 93 図）

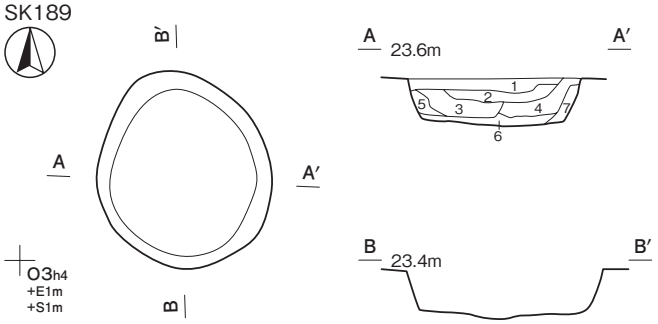
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	甕	－	(23.1)	[7.5]	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面上半ハケ目調整後粗いヘラ磨き　下半ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ヘラ削り	覆土中層	20% PL51





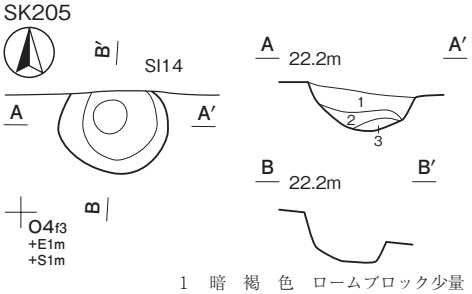
第 94 図　古墳時代の土坑実測図（１）

SK189



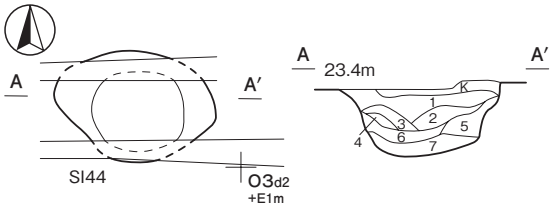
1 黒 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐 色 ロームブロック中量
4 暗 褐 色 ロームブロック中量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量（5より暗）
7 暗 褐 色 ロームブロック中量（4より明）

SK205



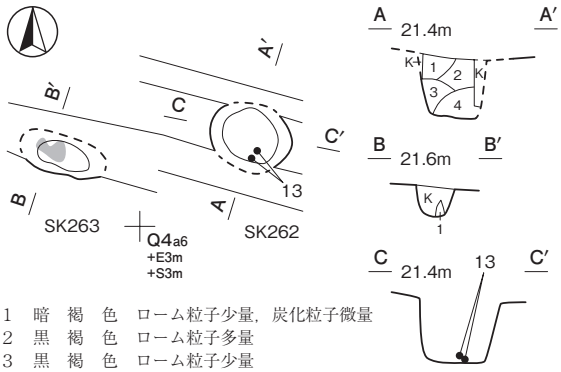
1 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 褐 色 ロームブロック中量

SK235



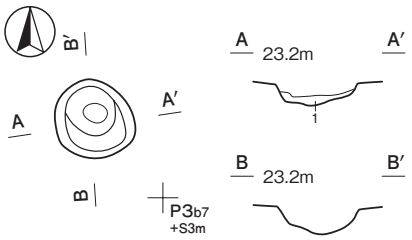
1 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量
4 褐 色 ロームブロック中量
5 褐 色 ロームブロック少量
6 暗 褐 色 ロームブロック中量
7 暗 褐 色 ローム粒子微量

SK262・263



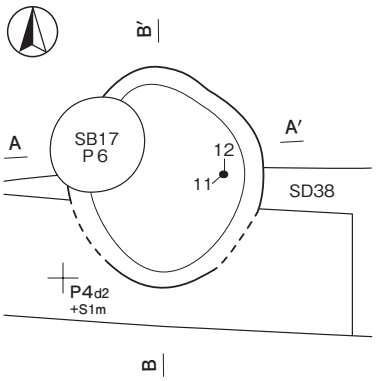
1 暗 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子多量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

SK325



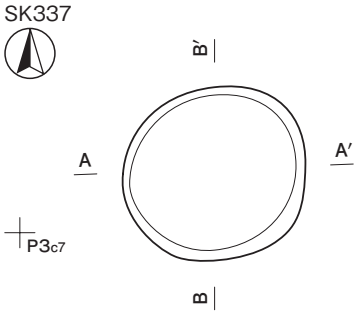
1 極暗褐色 ロームブロック少量

SK336



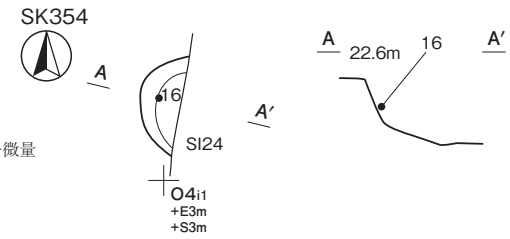
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量

SK337

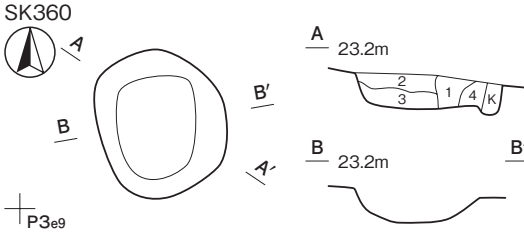


1 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量
3 褐 色 ローム粒子多量

SK354

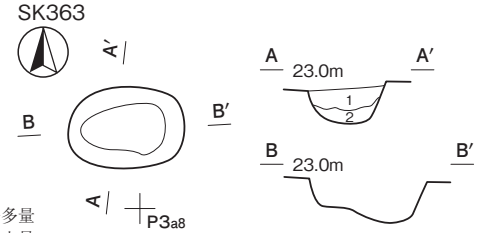


SK360



1 暗 褐 色 ローム粒子多量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ロームブロック多量
4 褐 色 ロームブロック中量

SK363

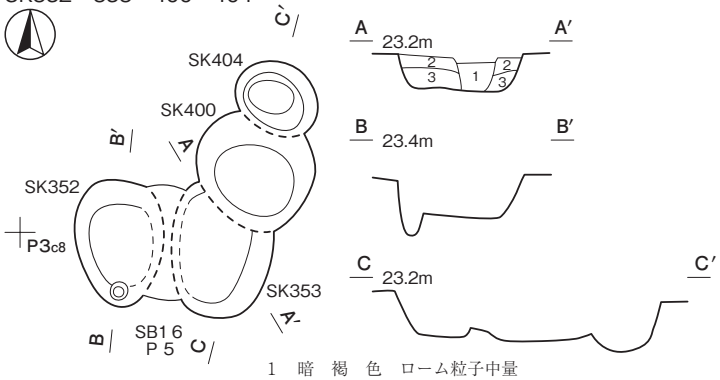


1 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2 明 褐 色 ロームブロック多量

第 95 図　古墳時代の土坑実測図（2）

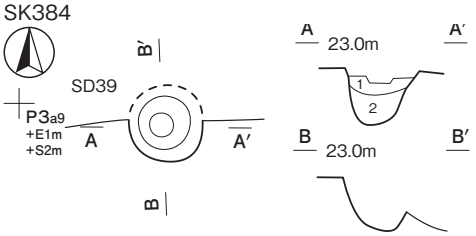
0 (1:60) 2m

SK352・353・400・404



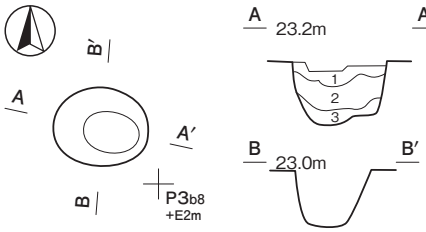
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子少量

SK384



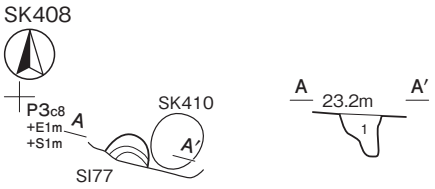
1 黒 褐 色 ロームブロック中量，炭化材・焼土粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化材少量

SK392



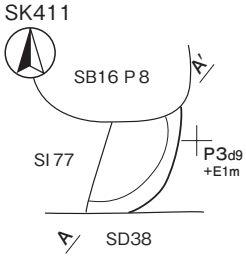
1 黒 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量

SK408



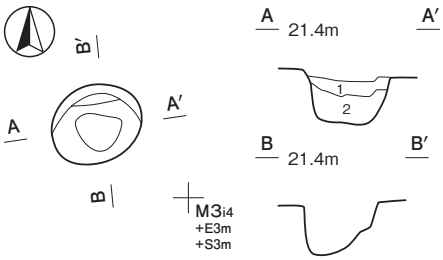
1 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

SK411



1 褐 色 シルト質 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

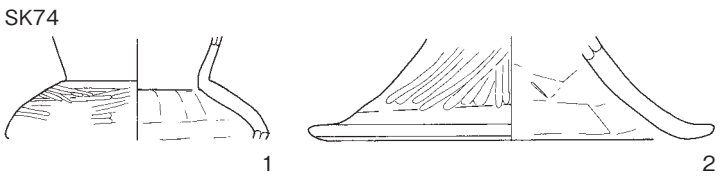
SK429



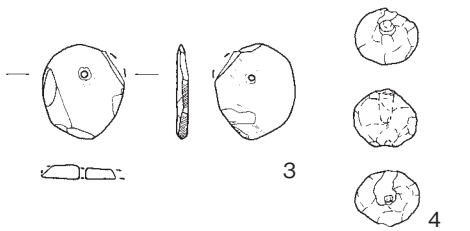
1 極暗褐色 粘土ブロック，焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量

0 (1:60) 2m

SK74



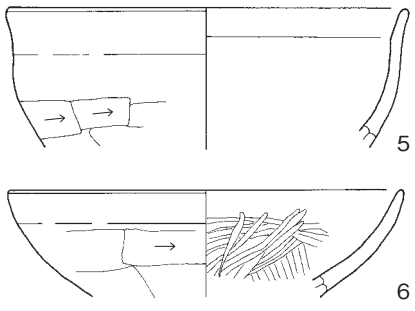
1 2



3 4

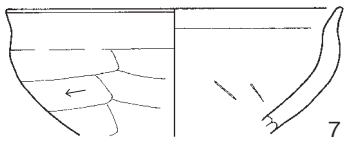
0 (1:2) 4cm

SK165

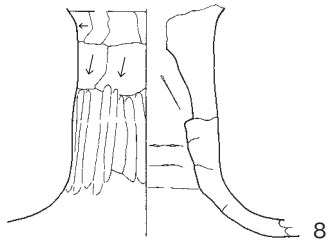


5 6

SK205

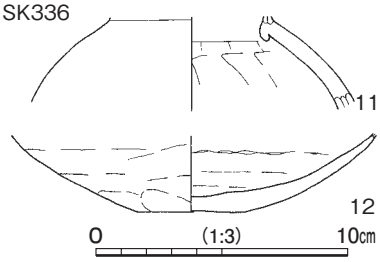


7



8

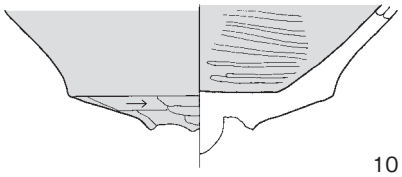
SK336



11 12

SK235

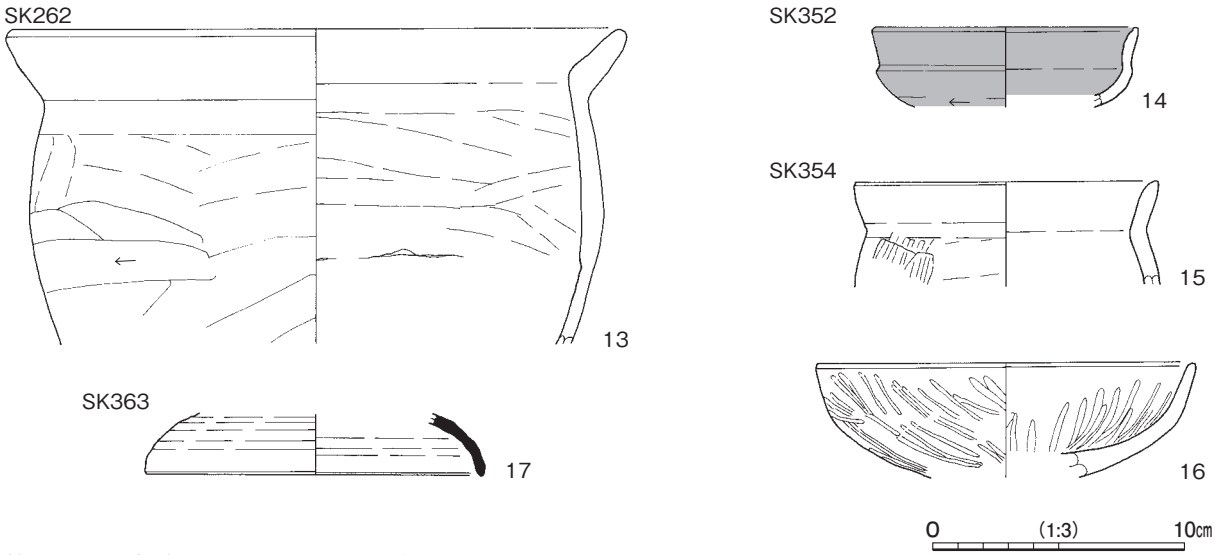
9



10

0 (1:3) 10cm

第 96 図　古墳時代の土坑・出土遺物実測図



第 97 図　古墳時代の土坑出土遺物実測図

表 59　古墳時代の土坑出土遺物観察表（第 96・97 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坩	－	(3.8)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	SK74	10%
2	土師器	高坏	－	(4.0)	［16.0］	長石・石英	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き　下端部横位のナデ　内面ヘラナデ	SK74	5 %
5	土師器	椀	［15.8］	(5.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面下半ヘラ削り　内面ナデ	SK165	10%
6	土師器	坏	［15.4］	(4.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面ヘラ磨き	SK165	10%
7	土師器	椀	［13.0］	(5.0)	－	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	SK205	5 %
8	土師器	高坏	－	(9.0)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面上半ヘラ削り　下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ	SK205	10%
9	土師器	椀	－	(6.6)	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ後一部ヘラ磨き　下端部ヘラ削り　内面ナデ　外・内面赤彩	SK235	60%
10	土師器	高坏	－	(5.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	坏部外面ナデ　下端部ヘラ削り　内面ヘラ磨き　内底面あばた状に剥離　外・内面赤彩	SK235	20%
11	土師器	坩	－	(2.7)	－	長石・石英	橙	普通	体部外・内面ナデ	SK336	5 %
12	土師器	坩	－	(3.0)	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外・内面ナデ　底部ヘラ削り	SK336	5 %
13	土師器	甕	［24.6］	(12.5)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部ヘラナデ後ヘラ削り　内面ヘラナデ	SK262	10%
14	土師器	坏	［10.4］	(3.1)	－	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理	SK352	5 %
15	土師器	椀	［11.8］	(4.1)	－	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ナデ　一部ハケ目残る　内面ナデ	SK354	5 %
16	土師器	坏	［14.8］	(4.5)	－	長石・石英	橙	普通	外面粗いヘラ磨き　内面放射状のヘラ磨き	SK354	30%
17	須恵器	蓋	［13.2］	(2.4)	－	長石・石英・黒色湧出物	灰黄	良好	ロクロナデ	SK363	5 %在地ヵ

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
3	石製模造品	2.5	2.2	0.3	2.67	緑色片岩	円板　単孔	SK74	PL52

番号	器 種	径	孔径	高さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
4	土玉	1.5 ～ 1.6	0.3	－	3.42	長石	にぶい橙	表面指頭ナデ　中央孔未貫通	SK74	

表 60　古墳時代の土坑一覧表（1）（第 94 ～ 96 図）

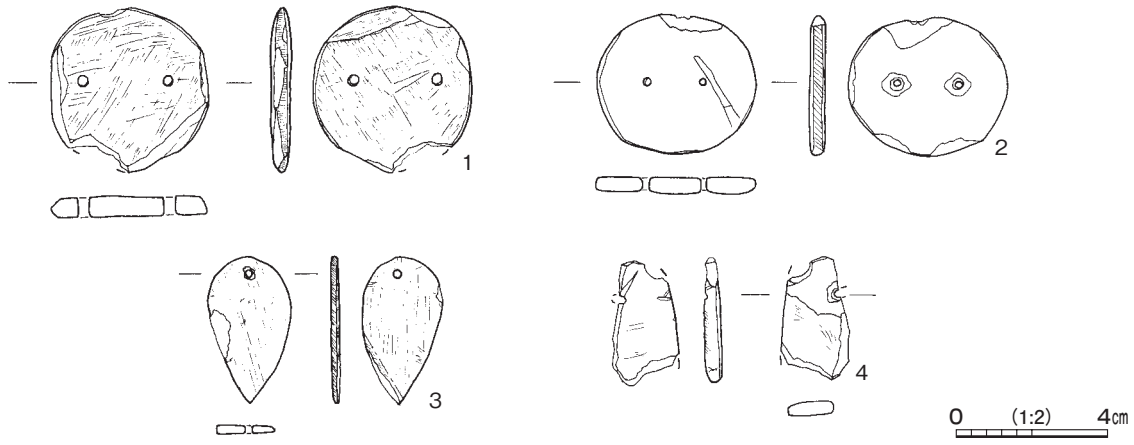
番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考（旧→新）
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
74	O 4 e9	N － 16° － W	長方形	1.63 × 0.68	20	平坦	緩斜	－	土師器片 18，土玉 1，石製模造品 1	5 世紀中葉 第 326 図
90	O 4 e7	－	円形	2.03 × 2.00	33	平坦	ほぼ直立	人為	土師器片 21	5 世紀中葉
118	O 4 c5	N － 50° － E	楕円形	2.00 × 1.85	21	平坦	外傾緩斜	人為	土師器片 58，剥片 1（黒曜石）	5 世紀中葉
133	O 4 e1	N － 32° － E	不整長方形	0.96 × 0.54	67	平坦	ほぼ直立	人為	土師器片 110，土玉 2	5 世紀前葉
151	O 3 f9	N － 80° － W	楕円形	0.60 × 0.45	23	皿状	外傾	自然	土師器片 6	5 世紀代ヵ SB 7 重複新旧不明
162	O 3 g9	－	円形	0.38 × 0.36	22	皿状	外傾	自然	土師器片 14，鉄塊系遺物 10.3 g	5 世紀代ヵ
165	O 4 e6	－	円形	1.48 × 1.45	51	平坦	外傾	人為	土師器片 11	本跡→ SI 9 5 世紀中葉

表 61　古墳時代の土坑一覧表（２）（第 94 ～ 96 図）

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考（旧→新）
189	O 3 h4	N － 14° － W	楕円形	1.58 × 1.38	38	平坦	外傾	人為	－	
190	O 3 h4	N － 83° － E	楕円形	0.92 × 0.75	39	凹凸	直立	人為	土師器片 36	５世紀後葉
195	O 4 d1	－	円形	0.54 × 0.54	13	平坦	緩斜	自然	土師器片 2	５世紀代ヵ 第 250 図
198	O 4 g1	N － 22° － W	楕円形	0.83 × 0.62	26	皿状	外傾	自然	土師器片 10	５世紀代ヵ SK199 →本跡
199	O 4 g1	－	不定形	0.52 × 0.33	15	皿状	ほぼ直立	自然	土師器片 7	５世紀代ヵ 本跡→ SK198
205	O 4 f3	－	［楕円形］	0.84 ×（0.64）	30	皿状	緩斜	自然	土師器片 13，縄文土器片 2	本跡→ SI14 ５世紀後葉
235	O 3 e2	N － 82° － W	楕円形	1.30 × 0.87	54	皿状	外傾	人為	土師器片 50	本跡→ SI44 ５世紀後葉
242	O 3 h3	N － 2 ° － W	楕円形	0.72 × 0.55	22	平坦	外傾	自然	土師器片 5	SI49 P 2 ・ 3 重複
262	Q 4 a6	N － 14° － E	［楕円形］	0.66 ×［0.54］	48	平坦	ほぼ直立	人為	土師器片 1	
263	Q 4 a6	N － 17° － E	［楕円形］	［0.70］× 0.29	22	平坦	ほぼ直立	－	土師器片 2	
307	P 3 e9	－	不定形	（0.88）×（0.53）	43	平坦	直立	人為	土師器片 7，須恵器片 2，鉄塊系遺物 17.3 g，鉄滓 15.9 g	５世紀中葉以前 本跡→ SK308
308	P 3 e9	－	［円形］	1.08 ×（0.83）	75	平坦	ほぼ直立	人為	土師器片 38，須恵器片 1，陶器片 1，羽口 1，鉄塊系遺物 2.3 g，焼成粘土塊 2.1 g	５世紀中葉 SK307 →本跡
325	P 3 b6	－	円形	0.64 × 0.61	23	平坦	緩斜	自然	－	本跡→ SI64
336	P 4 c2	N － 3 ° － W	楕円形	1.74 ×［1.57］	17	平坦	外傾	自然	土師器片 40	本跡→ SB17P 6，SD38
337	P 3 b7	－	円形	1.50 × 1.42	15	凹凸	緩斜	人為	土師器片 11	
352	P 3 c8	N － 5 ° － W	楕円形	1.01 ×［0.67］	30	平坦	外傾	－	土師器片 13，須恵器片 9，鉄塊系遺物 10.7 g	本跡→ SB16P 5 ６世紀中葉
354	O 4 i1	－	［楕円形］	0.76 ×（0.35）	－	傾斜	外傾	－	土師器片 30	５世紀後葉ヵ 本跡→ SI24
360	P 3 d9	N － 6 ° － W	楕円形	1.17 × 0.99	30	皿状	外傾 緩斜	人為	土師器片 11	７世紀代ヵ
363	O 3 j8	N － 92° － W	楕円形	0.93 × 0.52	32	皿状	外傾	人為	須恵器片 1	本跡→ SF 6 SI81，SB13 との新旧不明
384	P 3 a9	－	［円形］	［0.60］× 0.58	44	皿状	外傾	人為	－	本跡→ SD39 SI81との新旧不明
392	P 3 a8	N － 78° － W	楕円形	0.76 × 0.64	45	平坦	外傾	人為	土師器片 12	SI81 新旧不明 ７世紀中葉ヵ
400	P 3 b8	N － 53° － W	［楕円形］	0.96 × 0.87	34	平坦	外傾	－	土師器片 4，須恵器片 1，鉄塊系遺物 13.1 g，鉄滓 4.4 g	SK404,SK353 新旧不明 ７世紀代ヵ
408	P 3 c8	N － 23° － E	［楕円形］	0.34 ×（0.23）	32	皿状	外傾 直立	自然	－	本跡→ SI77
411	P 3 d9	－	－	－ × －	13	凹凸	緩斜	自然	土師器片 1	本跡→ SI77・SB16・SD38
429	M 3 i4	N － 58° － E	楕円形	0.76 × 0.60	38	皿状	ほぼ直立	自然	土師器片 10	５世紀中～後葉
453	N 2 b8	N － 81° － W	楕円形	0.46 × 0.41	29	皿状	外傾	人為	土師器片 34，須恵器片 1	５世紀前葉

（3）　遺構外出土遺物

ここでは遺構確認時や当時代以降の遺構内から出土した遺物のうち主なものについて，図と観察表で報告する。



第 98 図　遺構外出土遺物実測図

表 62　遺構外出土遺物観察表（第 98 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	石製模造品	4.2 ～ 4.4	－	0.5	16.79	緑色片岩	有孔円板　孔径 0.3cm	表土	PL52
2	石製模造品	3.7 ～ 4.2	－	0.4	11.80	粘板岩	有孔円板　孔径 0.2cm　裏面孔周囲剥離	表土	PL52
3	石製模造品	3.9	2.2	0.2	3.17	緑色片岩	剣形　孔径 0.2cm	表土	PL52
4	石製模造品	（3.3）	［1.8］	0.5	4.19	緑色片岩	有孔円板ヵ	表土	

第 99 図　奈良・平安時代の遺構配置図（S = 1 : 800）

3　奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡 61 棟，掘立柱建物跡 14 棟，鍛冶工房跡８棟，焼成遺構８基，土坑 158 基，柱穴列４条，ピット群２か所を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第７号竪穴建物跡（第 100 図　PL３）

位置　調査Ⅱ区中央部の O 3d9 区，標高 23 mの台地平坦部に位置している。

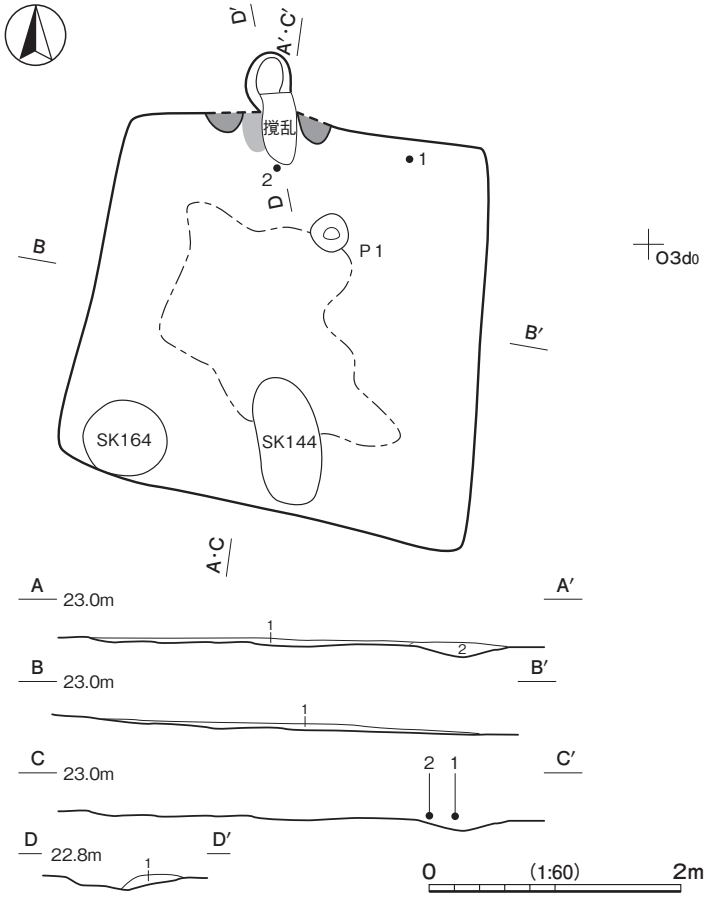
重複関係　第 144・164 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺 3.10 mの方形で，主軸方向はN－ 11゜－ Eである。確認面直下が床面であったことから，壁はほとんど確認できなかった。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁やや西寄り付近に付設されているが，撹乱のため，袖の一部と煙道部の掘方，火床面の一部が確認できたのみである。煙道部は壁外に 50cm ほど掘り込まれている。

ピット　Ｐ１は深さ 24cm と浅く，配置からも上屋を保持する主柱穴の可能性は低いと考えられる。



土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量

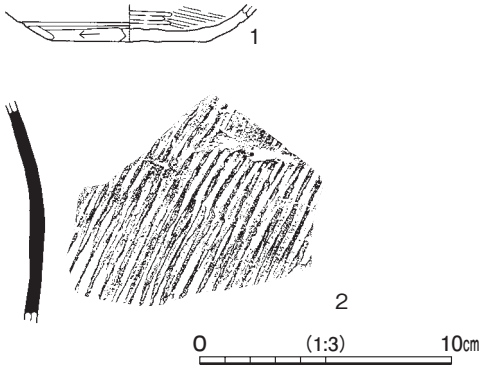
竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量

覆土　残存部が薄いことから，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片 22 点(坏８，椀２，甕類 12)，須恵器片７点（甕・鉢類６，甑１）が出土している。覆土が薄いこともあり，遺物は少ない。１・２とも北東部（１区）の床面からそれぞれ出土している。２は縦位の平行叩きにより整形された須恵器の甕で，焼成は良好であるが，酸化焔焼成で橙色をしている。

所見　時期は，出土土器から９世紀中～後葉に比定できる。



第 100 図　第７号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 63　第７号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 100 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	－	(1.4)	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ成形　体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　底部多方向のヘラ削り	１区床面	30%
2	須恵器	甕	－	(8.7)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縦位の平行叩き　内面ヘラナデ　酸化焔焼成	１区床面	５％新治窯

第８号竪穴建物跡（第 101・102 図　PL３）

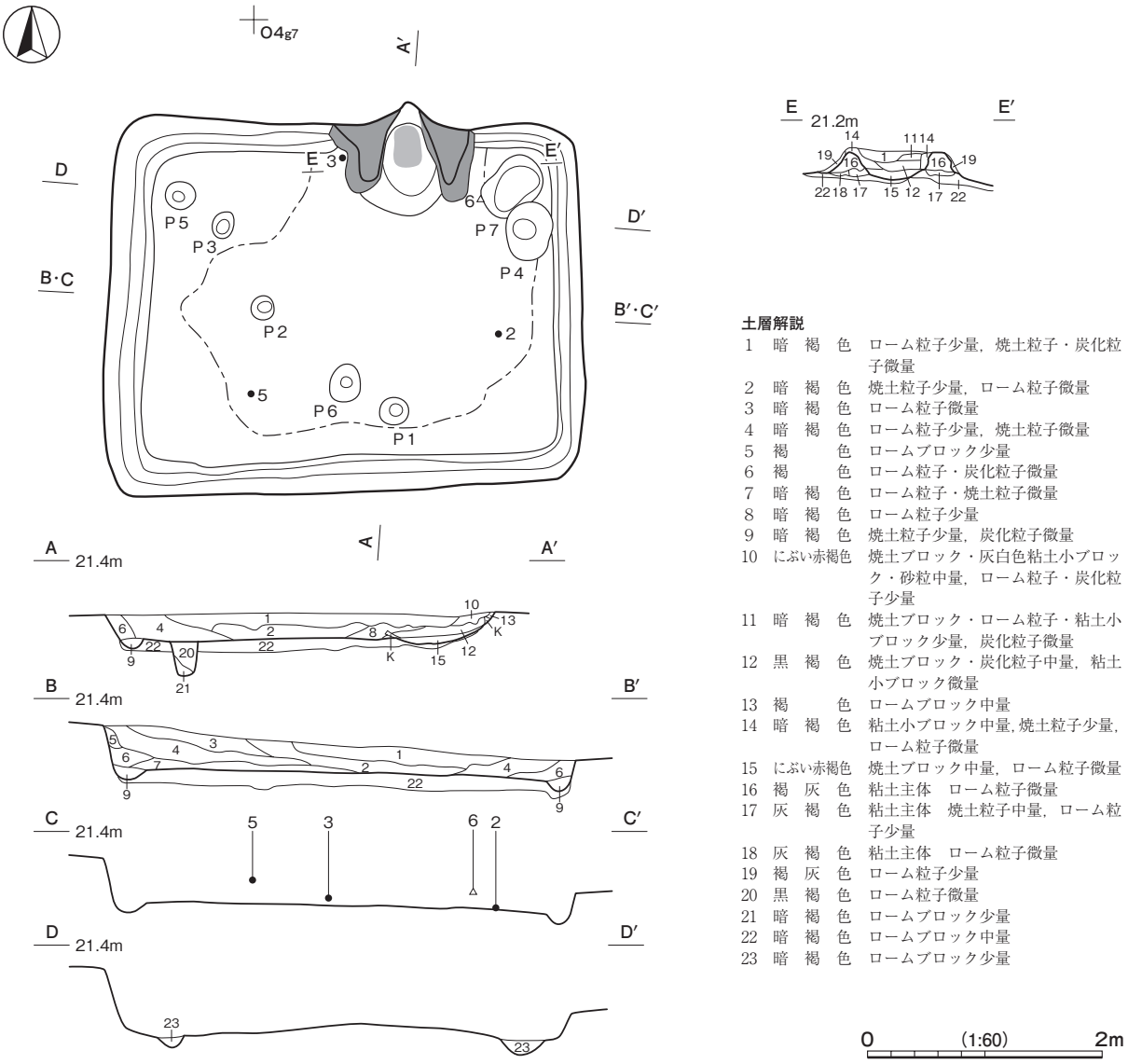
位置　調査Ⅱ区東部の O 4g7 区，標高 21.5 mの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 4.02 m，短軸 3.12 mの隅丸長方形で，主軸方向はN－1°－Eである。壁は高さ 18 ～ 38cm で，直立している。

床　平坦な貼床で，ロームブロックを含む第 22 層を埋土して構築されている。竈の前面から中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁やや東寄りに付設されている。付設部分を５～ 20cm ほど楕円形に掘りくぼめ，ロームブロックを含む第 22 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 85cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外に 20cm 掘り込まれ，緩やかに外傾している。第 10 ～ 19 層が竈に関連する層で，袖部は粘土主体の第 16 ～ 18 層を積み上げて構築されている。第 15 層は燃焼部の覆土で，床面から５～ 10cm ほど掘りくぼめられている。

ピット　７か所。Ｐ１は深さ 28cm で，規模と配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ２・Ｐ３は深さが９cm・８cm と浅く，性格は不明である。Ｐ４～Ｐ７は掘方の調査時に確認できたピットである。深さはＰ４



土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量
9　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　にぶい赤褐色　焼土ブロック・灰白色粘土小ブロック・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量
11　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量，炭化粒子微量
12　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子中量，粘土小ブロック微量
13　褐　　色　ロームブロック中量
14　暗　褐　色　粘土小ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
15　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
16　褐　灰　色　粘土主体　ローム粒子微量
17　灰　褐　色　粘土主体　焼土粒子中量，ローム粒子少量
18　灰　褐　色　粘土主体　ローム粒子微量
19　褐　灰　色　ローム粒子少量
20　黒　褐　色　ローム粒子微量
21　暗　褐　色　ロームブロック少量
22　暗　褐　色　ロームブロック中量
23　暗　褐　色　ロームブロック少量

0　(1:60)　2m

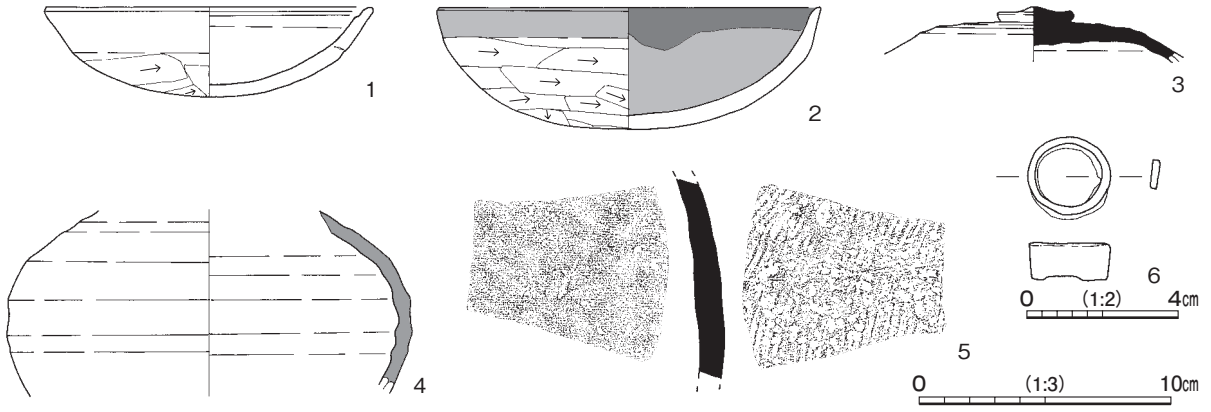
第 101 図　第８号竪穴建物跡実測図

が 12cm，Ｐ５が７cm，Ｐ６が 25cm，Ｐ７が 10cm といずれも浅く，掘方の一部の可能性がある。

覆土　９層に分層できる。ローム粒子を含む暗褐色土を主体とした層がレンズ状に堆積していることから，自然堆積である。第 20・21 層はＰ１の覆土，第 23 層はＰ４・Ｐ５の覆土である。

遺物出土状況　土師器片 72 点（坏 14，高坏１，甕類 57），須恵器片９点（坏５，蓋２，壺１，甕１），金属製品１点（責金具），土製品１点（支脚）が出土している。覆土が比較的良好に残存しているにもかかわらず，出土遺物は少ない。西部からの出土が多く，２は南東部（２区）の，３は竈左袖付近の床面から出土している。４の灰釉陶器はやや時期が下るもので，混入と考えられる。６は竈右袖脇の覆土中層から出土したもので，形状から責金具と考えられる。下位がやや窄まるリング状で，素材鉄の継ぎ目等は確認できなかった。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。



第 102 図　第８号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 64　第８号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 102 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.8]	3.5	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　口縁部直下に沈線状の調整　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	４区上層	20%
2	土師器	坏	15.0	4.8	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　黒色処理　煤付着　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	２区床面	100% PL32
3	須恵器	蓋	－	(2.2)	－	長石・石英・細礫	灰	良好	外面天井部回転ヘラ削り	竈脇　床面	40%新治窯 PL32
4	灰釉陶器	長頸壺	－	(7.3)	－	長石・黒色粒子	褐灰	緻密	体部外面に灰釉	２区下層	10%東海系 PL48
5	須恵器	甕	－	(7.9)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面平行叩き　内面当て具痕	３区中層	５%新治窯

番号	器種	径	高さ	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	責金具	2.0 ～ 2.1	1.0	0.2	4.73	鉄	下方が狭まる　鉄板の継ぎ目は確認できず	１区中層	PL53

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
7	支脚	－	－	(5.1)	42.38	長石	にぶい橙	径は約１／６が残存するのみ　外面ナデ調整	４区２x	観察表のみ

第 10 号竪穴建物跡（第 103・104 図　PL３）

位置　調査Ⅱ区東部のＮ４j7 区，標高 20.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 47・48・55・62 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.72 ｍ，短軸 3.23 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－６°－Ｅである。壁は高さ 15 ～ 33cm で，直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，コーナー部を除き踏み固められている。貼床はロームブロックをやや多く含む第 17 層を埋土して構築されている。掘方は北東・南東コーナー部が土坑状に掘り込まれている。北壁及び東壁北部を除き壁溝が巡っている。

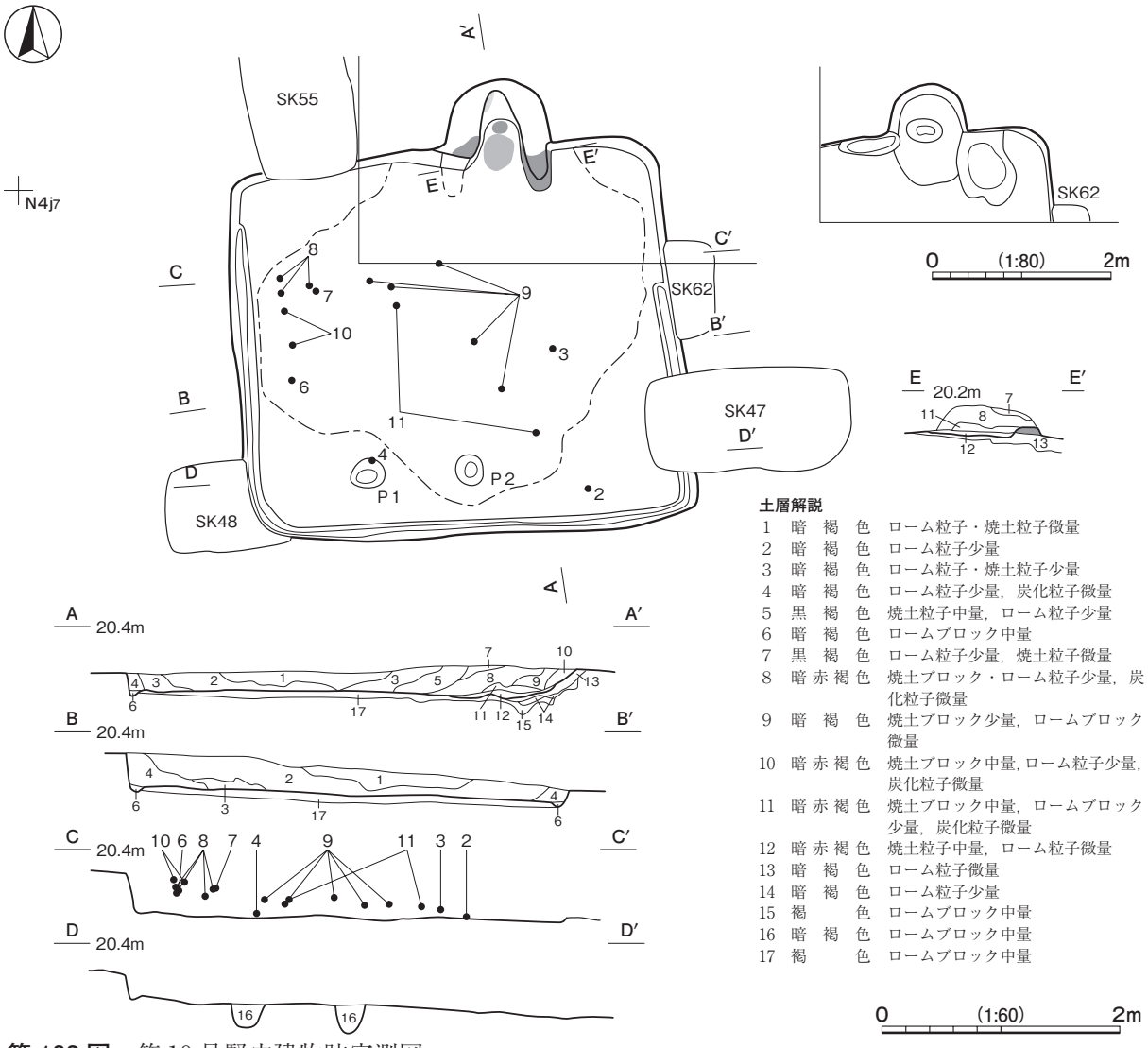
竈　北壁やや東寄りに付設されているが，左袖部はほとんど確認できなかった。付設部分を楕円形に掘りくぼめ，ロームブロックを含む褐色土や暗褐色土を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで100cm で，燃焼部の幅は 35cm である。煙道部は壁外に 45cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第７～ 15 層が竈に関連する堆積土である。袖部は灰白色粘土主体の層を積み上げて構築されている。第 11・12 層は燃焼部の堆積土で，床面から 10cm ほど掘りくぼめられている。火床面の北側に，灰の堆積を確認した。第 13 ～ 15 層は，掘方への埋土である。

ピット　２か所。Ｐ２は深さ 24cm で，規模と配置から出入口施設に伴うピットである。

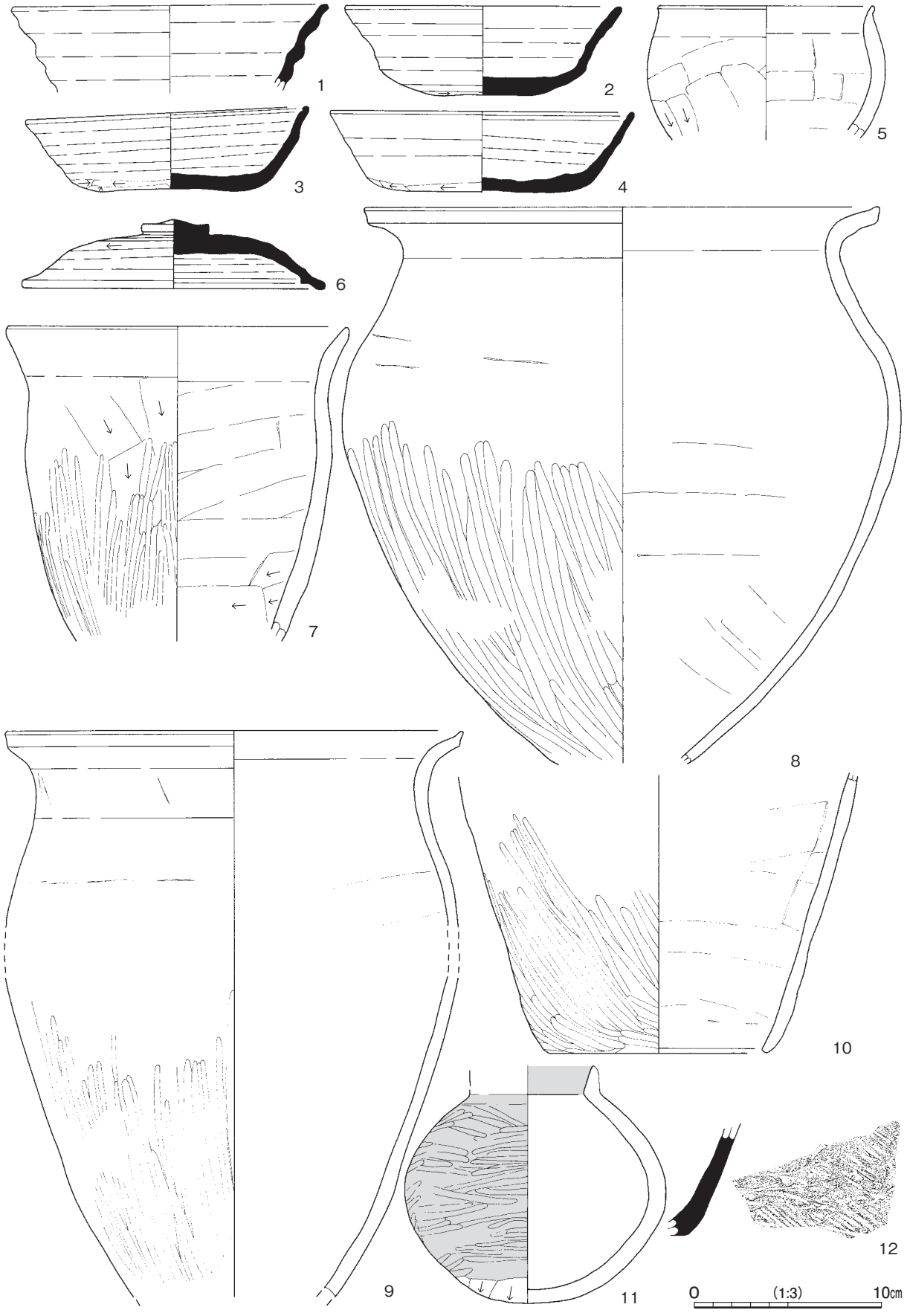
覆土　６層に分層できる。ローム粒子を含む暗褐色土を主体とした層がレンズ状に堆積していることから，自然堆積である。第 16 層はＰ１・Ｐ２の覆土である。

遺物出土状況　土師器片 130 点（坏７，椀１，坩･壺類５，甕類 115，甑２），須恵器片８点（坏５，蓋２，鉢･甕類１），鍛冶関連遺物（椀状滓 85.11 ｇ）が出土している。遺物は北西部（４区）の下層からの出土が多く，２～４は床面から，６～ 10・12 は覆土上～中層付近から出土している。11 はほぼ完形で出土しているが，明らかに時期が遡るものである。周囲に当期の遺構は確認できなかったが，何らかの生活痕跡から流れ込んだものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。



第 103 図　第 10 号竪穴建物跡実測図



第 104 図　第 10 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 65　第 10 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 104 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	［16.6］	（4.5）	－	長石・石英・雲母	灰	良好	ロクロ成形	２区１ｘ	５％新治窯 PL48
2	須恵器	坏	［14.6］	4.7	7.1	長石・石英・雲母	褐灰	良好	底部回転ヘラ削り	２区床面	40％新治窯
3	須恵器	坏	14.8	4.4	7.8	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　口縁部内面に沈線状の調整	２区床面	95％新治窯 PL32
4	須恵器	坏	16.0	4.2	9.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　口縁部内面に沈線状の調整	３区床面	98％新治窯 PL32
5	土師器	椀	［11.4］	（7.0）	－	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ後下半ヘラ削り　内面ヘラナデ	３区１ｘ	20％
6	須恵器	蓋	［16.1］	3.6	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面天井部回転ヘラ削り	３区上層	80％新治窯 PL32
7	土師器	甑	［18.0］	（16.0）	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り後体部下半をヘラ磨き　内面ヘラナデ　下端近くヘラ削り	４区上層	30％ PL48
8	土師器	甕	［27.4］	（29.5）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ	４区上層	40％ PL32
9	土師器	甕	24.0	（25.6）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ	２・４区中層	40％
10	土師器	甑	－	（14.8）	［11.5］	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	４区上層	20％
11	土師器	坩	－	（12.6）	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	頸部外・内面ナデ　体部外面ヘラ磨き　赤彩　内面ヘラナデ	２・４区中層	85％
12	須恵器	甕又は鉢	－	（5.9）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	外面斜位の平行叩き　内面ヘラナデ	２区２ｘ	５％新治窯

第 13 号竪穴建物跡（第 105 ～ 107 図）

位置　調査Ⅱ区南東部のＯ４g3 区，標高 22 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 128・193 号土坑とも床面で確認したことから，これらを掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 6.75 ｍ，短軸 6.37 ｍの方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁は高さ 12 ～ 23cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き竈前面から中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。大きく壊されているため，右袖部分しか確認できなかった。第 16 ～ 26 層が竈に関連する堆積土で，砂質粘土が含まれる土が不規則に堆積している。袖部は砂質粘土を積み上げて構築されている。煙道部は，壁外への掘り込みは短く，外傾している。

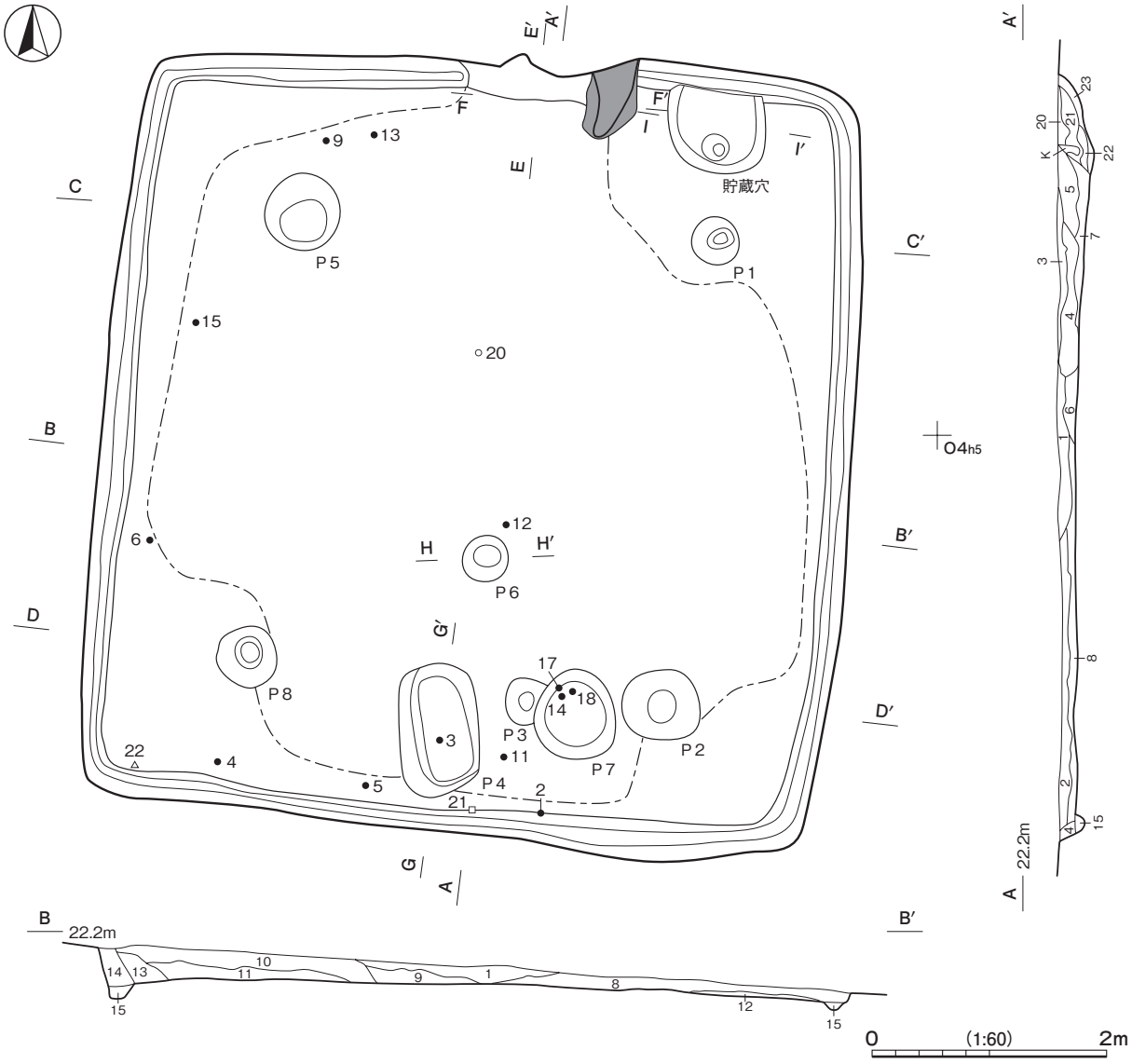
ピット　８か所。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ５・Ｐ８は，深さが 43 ～ 62cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３・Ｐ７は，深さがそれぞれ 30cm・32cm で，規模と配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ４は長径 114cm，短径 68cm，深さ 43cm で，配置からは出入口施設に伴うピットの可能性があるが，規模がやや大きいことなどから，本跡と重複する土坑の可能性もある。Ｐ６は深さ 14cm で，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部で，北壁に接している。長径 85cm，短径 70cm の楕円形で，深さは 30cm である。底面は南に向かって傾斜しており，南部に浅いピット状の落ち込みがある。

覆土　15 層に分層できる。竈前面付近が不整合であり，建物が自然に埋没したあと別の遺構が掘り込まれた可能性がある。

遺物出土状況　土師器片 850 点（坏 162，高台付坏１，高坏１，甕類 677，小皿８，不明１），須恵器片 127 点（坏 79，蓋 17，瓶類１，鉢・甕・甑類 27，不明３），土製品２点（支脚），石器１点（砥石），鉄製品１点（刀子），鍛冶関連遺物（鉄滓 269.46 ｇ，鉄塊系遺物 40.96 ｇ）が出土している。遺物は西部（３・４区）から多く出土している。５・６・９・12 が床面から出土している。17・18 も床面からの出土であるが，16 ～ 19 は明らかに後出する時期の土器で，埋没に時間差が考えられる。14 は器面調整と上位の透かし孔から，置き竈の一部と考えたが全容は不明である。また図化していないが，貯蔵穴の底面から須恵器坏底部が出土している。鉄塊系遺物の中には，刀子や鉄鏃の茎の一部と想定されるものもあり，素材に再利用した鉄製品が鉄滓とともに廃棄されたと考えられる。

所見　埋没時期は，出土土器から８世紀前葉で，10 世紀後葉の未確認の遺構に掘り込まれたものと考えられる。



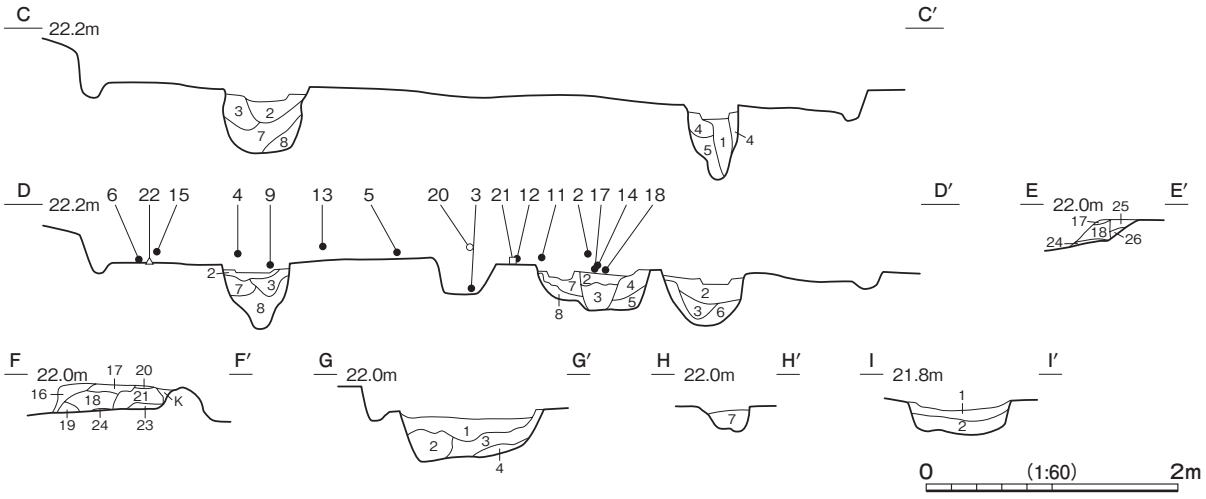
土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 砂粒少量，焼土粒子微量
4 暗 褐 色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗 褐 色 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
6 黒 褐 色 炭化粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
7 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量
8 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
9 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化物微量
12 褐 色 ロームブロック中量
13 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
14 暗 褐 色 ロームブロック中量
15 暗 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
16 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
17 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土微量
18 暗 褐 色 砂質粘土少量，粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
19 暗 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・砂質粘土微量
20 にぶい黄褐色 砂質粘土小ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
21 にぶい黄褐色 砂質粘土小ブロック中量，焼土ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
22 暗 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土小ブロック微量
23 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土微量
24 暗 褐 色 ロームブロック少量，砂質粘土小ブロック・焼土粒子微量
25 暗 赤 褐 色 焼土ブロック中量，炭化粒子微量
26 暗 褐 色 焼土ブロック・砂質粘土小ブロック少量，ローム粒子微量

第 105 図　第 13 号竪穴建物跡実測図

表 66　第 13 号竪穴建物跡出土遺物観察表（1）（第 106 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坏	［12.4］	2.7	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　内面ヘラ磨き　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き	1区1ｘ	15%
2	土師器	坏	［12.4］	(4.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　内面ナデ　口縁部の摩滅明瞭　体部外面ヘラ削り　外・内面黒色処理	2区下層	50% PL32



P１～P３・P５～P８土層解説

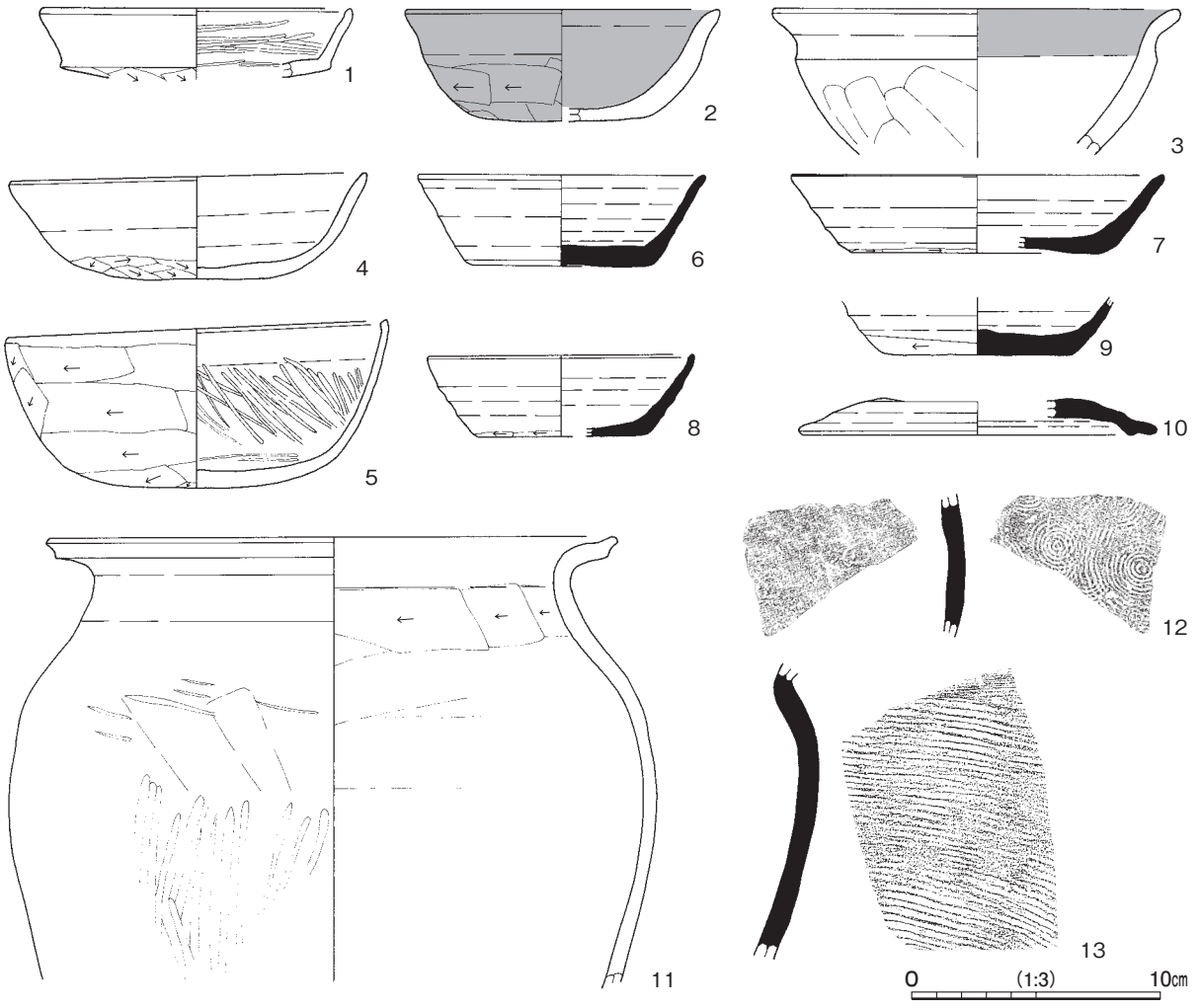
1　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック少量

P４土層解説

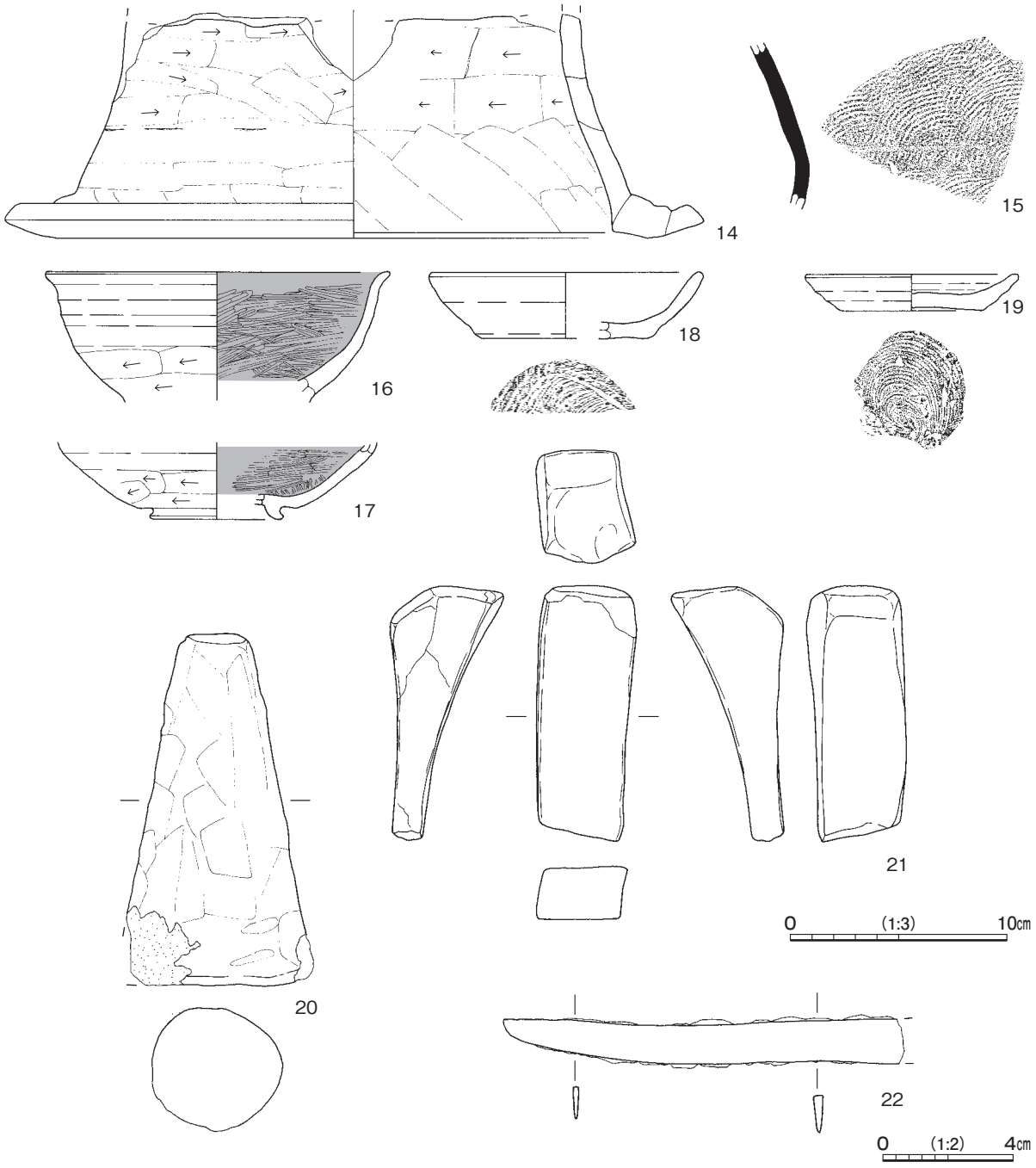
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量・炭化粒子微量



第 106 図　第 13 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 107 図　第 13 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 67　第 13 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 106 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
3	土師器	坏	［16.2］	(5.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　内面黒色処理カ　体部外・内面ナデ	Ｐ４底面	15%
4	土師器	坏	14.2	4.2	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　煤付着　内面黒色処理　体部外面下端から底部ヘラ削り　内面ナデ	３区下層	80% PL32
5	土師器	坏	15.1	6.6	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位のナデ　外面口縁部から底部ヘラ削り　内面ヘラ磨き　内底面ナデ	３区床面	95% PL33
6	須恵器	坏	［11.4］	3.6	7.6	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端から底部回転ヘラ削り	３区床面	50%新治窯
7	須恵器	坏	［14.8］	3.1	［10.2］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り　酸化焔焼成	２・３区１ｘ	20%新治窯
8	須恵器	坏	［10.6］	3.2	［7.0］	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ削りカ	Ｐ２・Ｐ４	25%新治窯
9	須恵器	坏	－	(2.4)	7.6	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端から底部回転ヘラ削り	４区床面	50%新治窯

表 68　第 13 号竪穴建物跡出土遺物観察表（３）（第 106・107 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
10	須恵器	蓋	［14.4］	（1.4）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り	竈覆土中	20%新治窯
11	土師器	甕	［22.4］	（18.0）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　頸部内面ヘラ削り　体部外面ヘラナデ　下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ	２区下層	20% PL48
12	須恵器	甕	－	（5.7）	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面同心円文叩き　内面当て具痕	２区床面	５%新治窯
13	須恵器	甕	－	（11.7）	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面平行叩き　内面当て具痕　ナデ	４区中層	５%新治窯
14	土師器	置き竈	－	（10.3）	［32.2］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り後ナデ　内面ヘラ削り後ヘラナデ	２区下層	20% PL33
15	須恵器	甕	－	（7.5）	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	外面同心円文叩き　内面ナデ	４区下層	５%新治窯
16	土師器	高台付椀	［15.8］	（5.9）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理	１ｘ	15%
17	土師器	高台付椀	－	（3.5）	［6.0］	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理	２区床面	20%新治窯
18	土師器	小皿	［12.2］	3.0	［8.4］	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ロクロ成形　底部回転糸切り	２区床面	40%
19	土師器	小皿	［9.6］	1.7	6.4	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロ成形　底部回転糸切り	１ｘ	50%

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
20	支脚	2.7	（8.5）	16.1	773	長石・石英	にぶい橙	外面ヘラ状工具によるナデ整形	１区上層	PL47
23	支脚	－	－	（4.7）	19.92	長石・石英・小礫	橙	外面焼成による黒斑	１区１ｘ	観察表のみ
24	支脚	－	－	（5.4）	127.55	長石	明赤褐	外面指頭による整形	４区１ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
21	砥石	11.6	4.6	5.2	238.27	凝灰岩	砥面４面　上面のワレ面も砥面に使用	２区床面	PL48

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
22	刀子	（12.3）	1.3	0.2 ～ 0.3	11.91	鉄	刃部先端から，茎に近い部分で欠損したものか　平棟・平造り	３区床面	PL53

第 14 Ａ・Ｂ号竪穴建物跡（第 108 ～ 111 図　PL４）

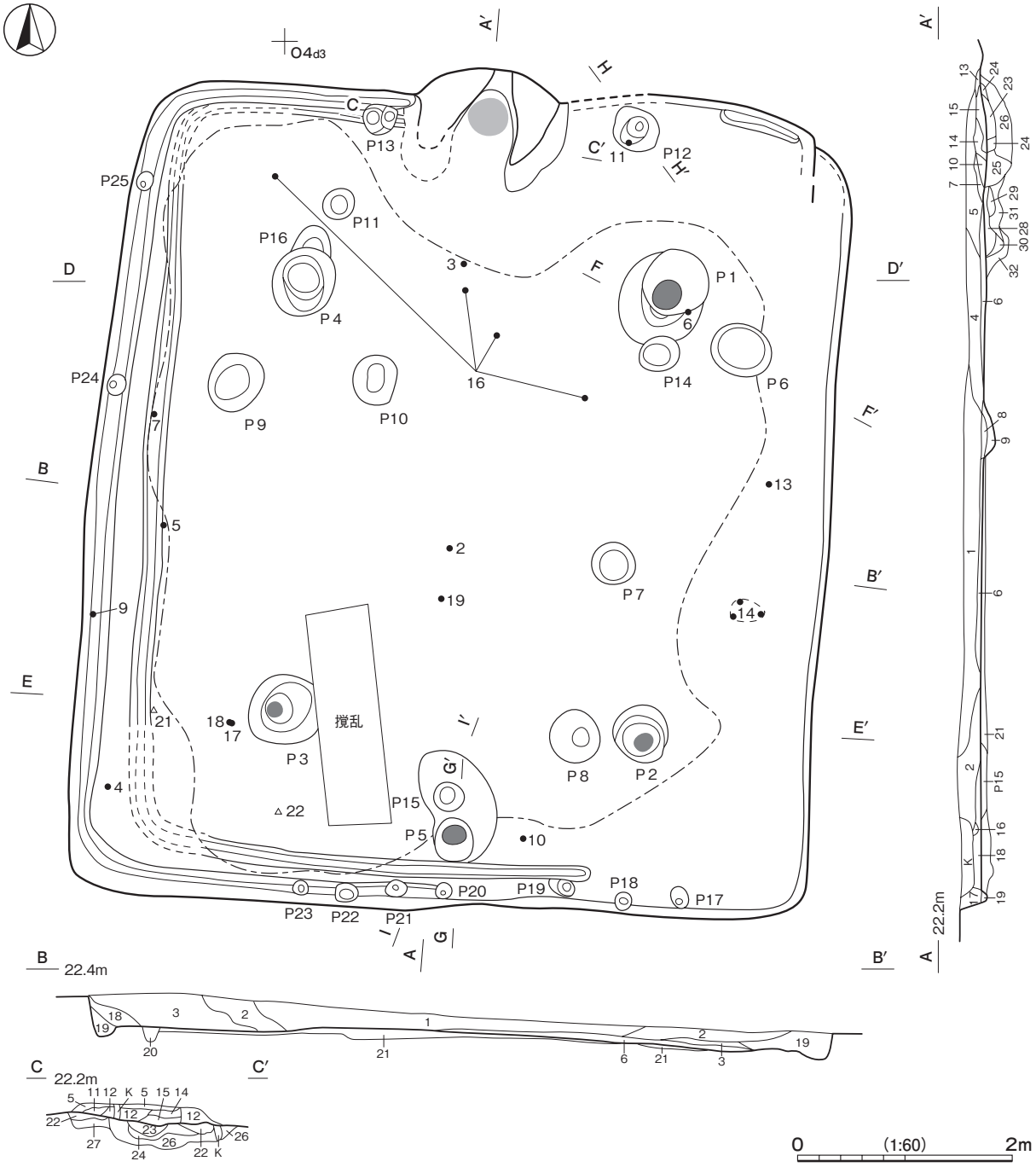
位置　調査Ⅱ区東部のＯ４d3 区，標高 22.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 15 号竪穴建物跡，第 204 号土坑を掘り込んでいる。第 141･142･184 号土坑とも重複しているが，床面で確認したことから，これらを掘り込んでいると考えられる。第 141・184 号土坑は径が約 60cm のピット状の掘り込みであることから，本跡の柱穴の可能性もある。第 226 号土坑との新旧は不明である。

規模と形状　掘方調査で，西壁から南壁の内側に別の壁溝が確認できたことや，竈の作り替えが確認できたことなどから，拡張を伴う建て替えと判断した。拡張後の第 14 Ａ号建物跡は，長軸 7.54 ｍ，短軸 6.90 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｅである。壁は高さ 17 ～ 25cm で，外傾している。拡張前の第 14 Ｂ号建物跡は，北壁を第 14A 号建物跡と共有し，東壁は一部しか確認できなかった。長軸 7.15 ｍ，短軸 6.05 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。

床　平坦な貼床で，第 14 Ａ号建物跡は第 14 Ｂ号建物跡の床面上に第 21 層を５～ 10cm 程度埋土して床面としている。掘方はコーナー部が楕円状に，東側が溝状に掘りくぼめられている。壁際を除いた中央部が踏み固められている。第 14 Ａ・Ｂ号建物跡とも，東壁を除き壁溝が巡っている。第 14 Ａ号建物跡では，西壁及び南壁の壁溝中及び壁際に，径 20cm，深さ８～ 38cm の小ピットが９か所確認できた。

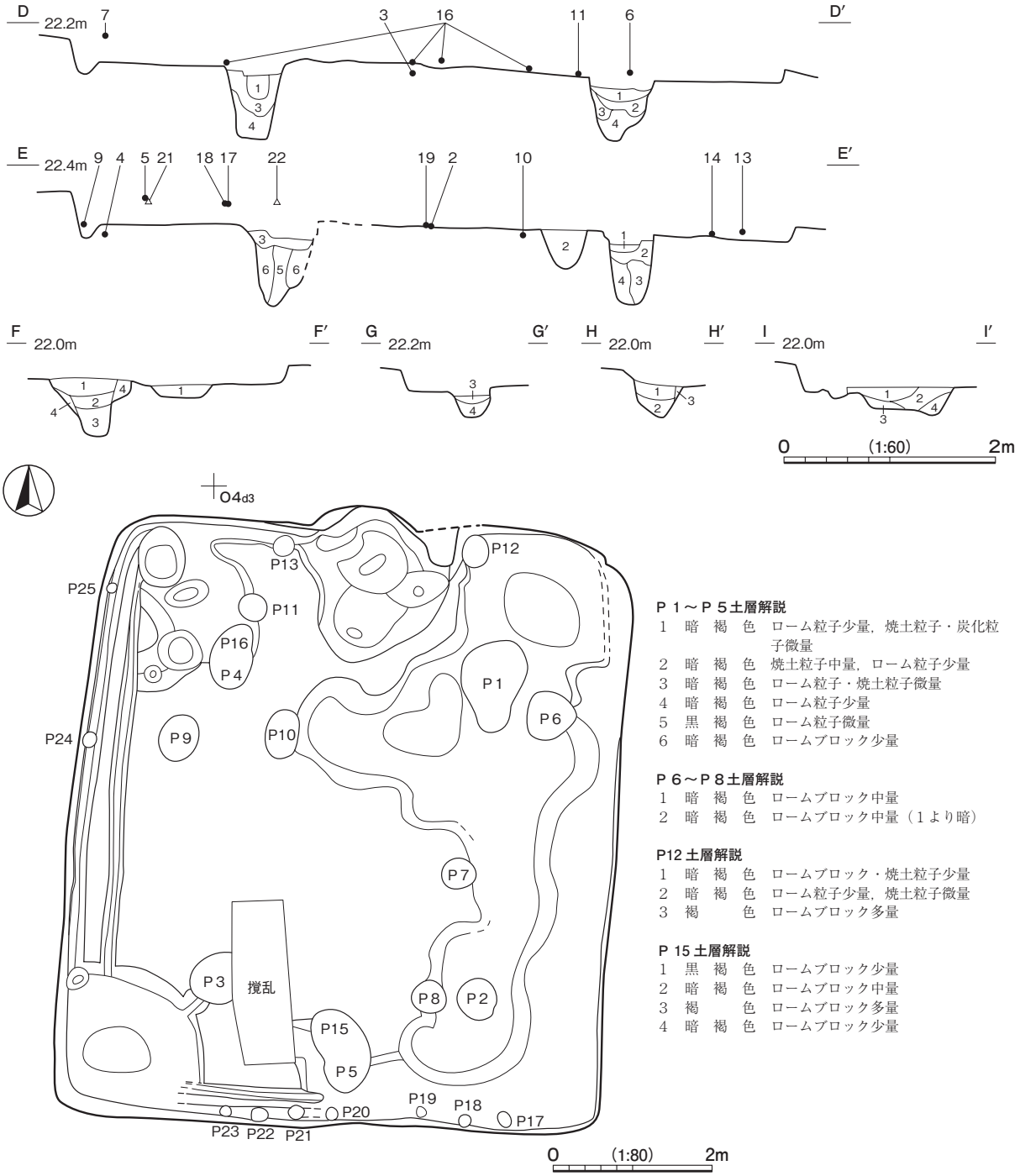
竈　北壁中央部に付設されている。第 28 ～ 32 層が第 14 Ｂ号建物跡の竈に伴う掘方への埋土，第 23 ～ 26 層が第 14 Ａ号建物跡に伴う掘方への埋土で，拡張するにあたり作り替えている。それぞれ楕円形に深さ 20cm ほど掘り込み，焼土ブロックを含む赤褐色土や，ロームブロックを多く含む褐色土で埋土して構築している。第 11 ～ 15・22 ～ 32 層が竈に関連する堆積土で，上部の崩壊が著しく，袖部も右袖の一部が確認できたのみである。推定される規模は，焚口部から煙道部まで 115cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部は壁外に



土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
3 暗 褐 色 焼土粒子中量，ローム粒子微量
4 暗 褐 色 粘土ブロック中量，焼土粒子少量
5 暗 褐 色 焼土粒子中量，ローム粒子少量
6 暗 褐 色 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量
7 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
8 暗赤褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
9 灰 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子微量
10 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・砂質粘土ブロック・砂粒微量
11 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12 暗 褐 色 焼土粒子少量，砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
13 暗 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
14 暗 褐 色 焼土粒子中量，ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，砂粒微量
15 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・砂粒微量
16 褐 色 ロームブロック少量
17 暗 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
18 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
19 暗 褐 色 ローム粒子微量
20 褐 色 ロームブロック少量
21 褐 色 ロームブロック多量
22 灰 褐 色 焼土ブロック・炭化物少量
23 明赤褐色 焼土ブロック多量
24 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量
25 極暗赤褐色 焼土ブロック多量，ロームブロック少量
26 極暗赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子少量
27 褐 色 ロームブロック少量
28 暗赤褐色 焼土ブロック多量
29 明赤褐色 焼土ブロック多量
30 暗 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子微量
31 褐 色 ロームブロック中量
32 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量

第 108 図　第 14 A・B 号竪穴建物跡実測図（1）



第 109 図　第 14 A・B 号竪穴建物跡実測図（2）

25cm ほど掘り込まれているが，上部の削平のため，立ち上がりはほとんど捉えることができなかった。

ピット　16 か所。P 1 ～ P 4 は，深さが 60 ～ 80cm で，規模と配置から第 14 A 号建物跡の主柱穴である。P 1 ～ P 3 の底面に，柱の当たりを確認した。P 8 は深さ 52cm，P 1 と重複している P 14 は深さ 78cm，P 4 と重複している P 16 は深さ 50cm で，規模と配置から，第 14 B 号建物跡の主柱穴の可能性がある。P 5・P 15 は深さ 30cm・28cm で，規模と配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 5 の底面には，柱の当たりが確認できた。P 12・P 13 は深さ 41cm・28cm で，竈の両側に位置しており，竈の施設に関わるピットの可能性がある。そのほか P 6 は深さ 18cm，P 7 は深さ 10cm，P 9 は 28cm，P 10 は 22cm，P 11 は 26cm と，小形で浅いピットが存在するが，性格は不明である。P 3・P 4 の中間にある第 141 号土坑は深さ

が 64cm で，形状や大きさがＰ３・Ｐ４などの主柱穴と類似しており，本跡に伴う可能性もある。

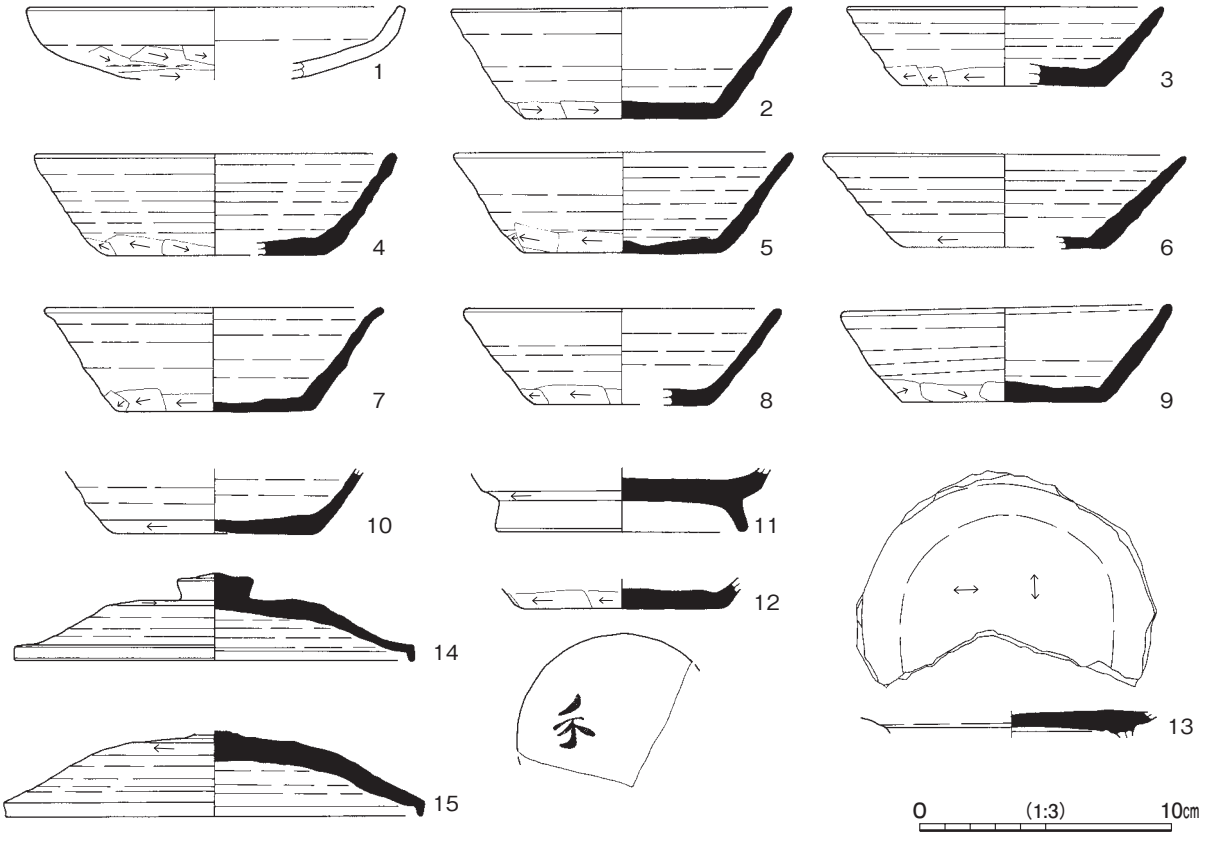
覆土　第１～ 10 層，第 16 ～ 20 層の 15 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 676 点（坏 57，高坏６，壺･甕類 608，甑５），須恵器片 242 点（坏 160，高台付坏３，蓋 33，鉢･甕･甑類 46），石器１点（砥石），鉄製品９点（刀子２，刀子$_{カ}$１，鉄鏃１，鎌１，釘１，釘$_{カ}$１，楔$_{カ}$１，不明１），鍛冶関連遺物（羽口４，椀状滓 55.07 ｇ，鉄塊系遺物 7.25 ｇ，鉄滓 33.11 ｇ），焼成粘土塊 143.64 ｇのほか，剥片３点，陶器片１点（鉢），磁器片１点（碗）が出土している。遺物は北東部及び南西部（１・３区）からの出土が多く，２・３・６・11・14・16・19 は床面から，４・10 は掘方から出土しているが，大きな時間差は読み取れない。13 は須恵器の高台付坏の内底面が研磨されており，硯として転用された可能性がある。12 の須恵器の底部には，墨書「禾」が描かれている。また本跡からは，鉄滓や鉄塊系遺物，羽口などの鍛冶関連遺物の出土があり，焼成粘土塊も多く出土している点が特徴的である。建物廃絶後の窪地に廃棄されたものと考えられる。

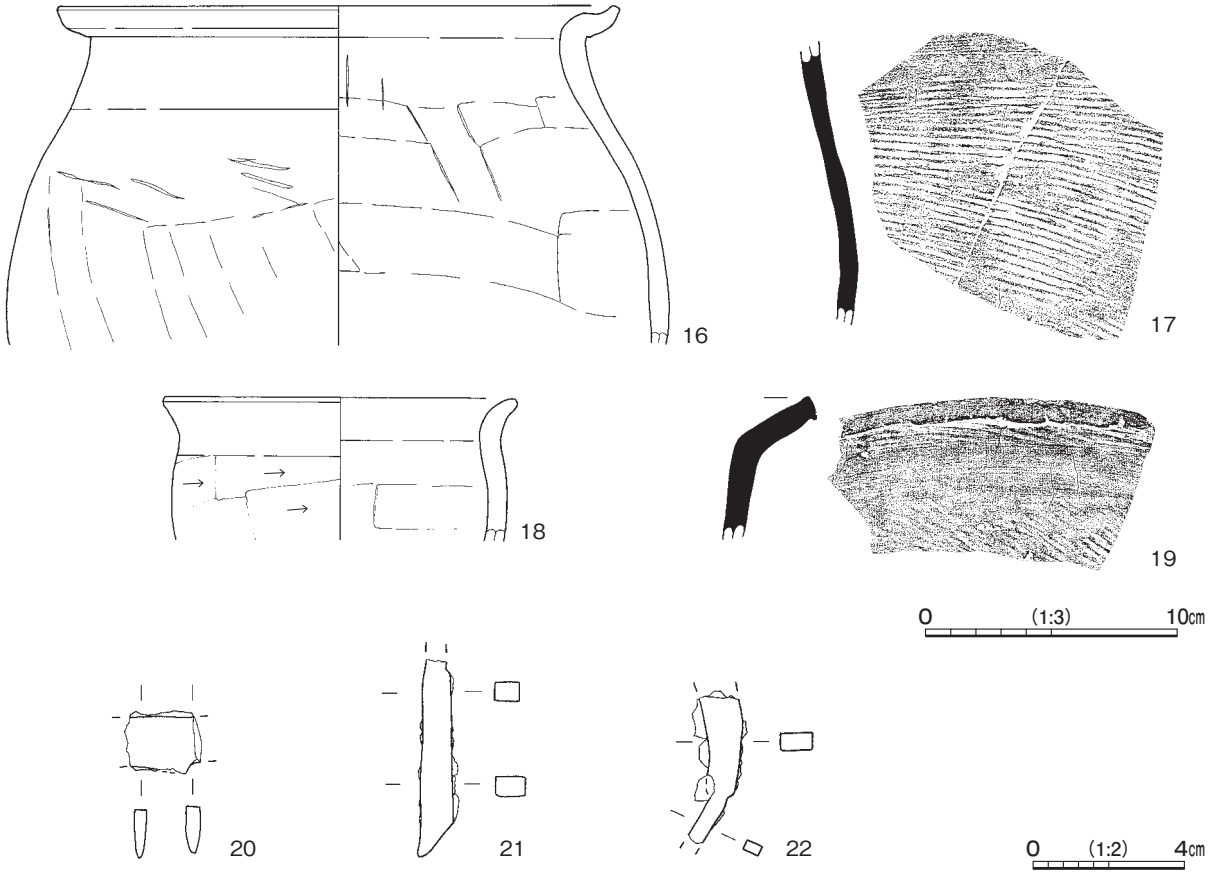
所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。出土した土器に大きな時間差が確認できないことから，比較的短期間に建て替えがなされたものと考えられる。

表 69　第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 110 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［14.5］	(2.9)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面横位のナデ	２区１ｘ	10%
2	須恵器	坏	［13.4］	4.3	7.8	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区床面	30%新治窯
3	須恵器	坏	［12.4］	3.1	［8.0］	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	竈前床面	30%新治窯
4	須恵器	坏	［14.0］	4.0	［8.6］	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区掘方	35%新治窯 PL33



第 110 図　第 14 号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）



第 111 図　第 14 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

表 70　第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 110・111 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
5	須恵器	坏	［13.4］	3.9	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	摩滅著しい　体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区上層	40％新治窯
6	須恵器	坏	［14.2］	3.7	［8.0］	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部多方向のヘラ削り$_{カ}$	１区床面	20％新治窯
7	須恵器	坏	［13.0］	4.1	［7.8］	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	４区上層	30％新治窯 PL33
8	須恵器	坏	［12.4］	3.8	［7.0］	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	４区１ｘ	35％新治窯 PL33
9	須恵器	坏	12.7	3.8	8.0	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区壁溝内	90％新治窯 PL33
10	須恵器	坏	－	（2.5）	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	２区掘方	30％新治窯
11	須恵器	高台付坏	－	（2.5）	9.6	長石・石英・雲母・細礫	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後高台貼付け	１区床面	20％新治窯
12	須恵器	坏	－	（1.2）	［8.2］	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　墨書「禾」	１区１ｘ	15％新治窯
13	須恵器	高台付坏	－	（1.1）	－	長石・石英・雲母・	褐灰	良好	内底面研磨　硯に転用$_{カ}$	１区下層	30％新治窯
14	須恵器	蓋	15.8	3.4	－	長石・石英・黒色湧出物	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	２区床面	65％新治窯 PL33
15	須恵器	蓋	［16.4］	（3.3）	－	長石・石英・雲母	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り	１区１ｘ ４区２ｘ	20％新治窯
16	土師器	甕	［22.0］	（13.3）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面縦位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ	４区竈前床面	30％ PL33
17	須恵器	甕	－	（11.2）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	外面横位の平行叩き　内面当て具痕	３区上層	５％新治窯
18	土師器	甕	［13.8］	（5.6）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	３区上層	10％ PL48
19	須恵器	鉢	－	（5.6）	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き　内面ヘラナデ	３区床面	５％新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
23	砥石	（3.6）	3.0	（1.7）	19.19	凝灰岩	砥面１面のみ確認　他は欠損	２区１ｘ	観察表のみ

表 71　第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表（３）（第 111 図）

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
24	羽口	－	－	(4.4)	64.61	長石・石英	明赤褐	体部片　外径約 6.0cm　孔径約 2.0cm	２区下層	観察表のみ
25	羽口	－	－	(2.0)	7.47	長石・石英	青黒	先端に近い部分か　表面ガラス化	３区２ｘ	観察表のみ
26	羽口	－	－	(3.5)	7.82	長石・石英	青黒	先端に近い部分か　表面ガラス化	４区１ｘ	観察表のみ
27	羽口	－	－	(4.3)	36.83	長石・石英	橙	体部片　孔径約 3.0cm	４区１ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
20	刀子	(2.0)	(1.5)	0.3 ～ 0.4	3.37	鉄	刃部から茎にかかる部分　平棟・平造り	１区１ｘ	
21	不明	(5.2)	0.8	0.5	6.02	鉄	断面長方形　切り出し形の先端部	３区上層	PL53
22	鉄鏃	(4.0)	0.4 ～ 1.0	0.3 ～ 0.5	5.66	鉄	篦被～茎部分カ　断面は長方形　茎部分で屈曲	３区上層	PL53
28	鎌	(5.0)	(2.6)	0.1 ～ 0.5	15.38	鉄	刃部	３区床面	観察表のみ
29	鑿カ	(4.1)	2.8	0.6 ～ 0.9	28.88	鉄	断面長方形	掘方ｘ	観察表のみ
30	刀子	(3.1)	0.8 ～ 1.6	0.1 ～ 0.6	13.09	鉄	刃部	４区１ｘ	観察表のみ
31	刀子カ	(3.9)	(1.5)	0.4	16.91	鉄	刃部カ　断面三角形状	３区床面	観察表のみ
32	釘	(4.2)	0.3 ～ 0.5	0.4 ～ 1.0	5.28	鉄	頭部から軸部　先端部欠損　断面方形	３区１ｘ	観察表のみ
33	釘カ	(2.3)	0.55	0.2 ～ 0.4	3.95	鉄	断面長方形	３区中層	観察表のみ

第 15 号竪穴建物跡（第 112・113 図　PL４）

位置　調査Ⅱ区東部のＯ４e4 区，標高 22 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 14 号竪穴建物に掘り込まれている。第 226 号土坑との新旧は不明である。

規模と形状　長軸 5.13 m，短軸 4.93 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁は高さ 18 ～ 28cm で，直立している。

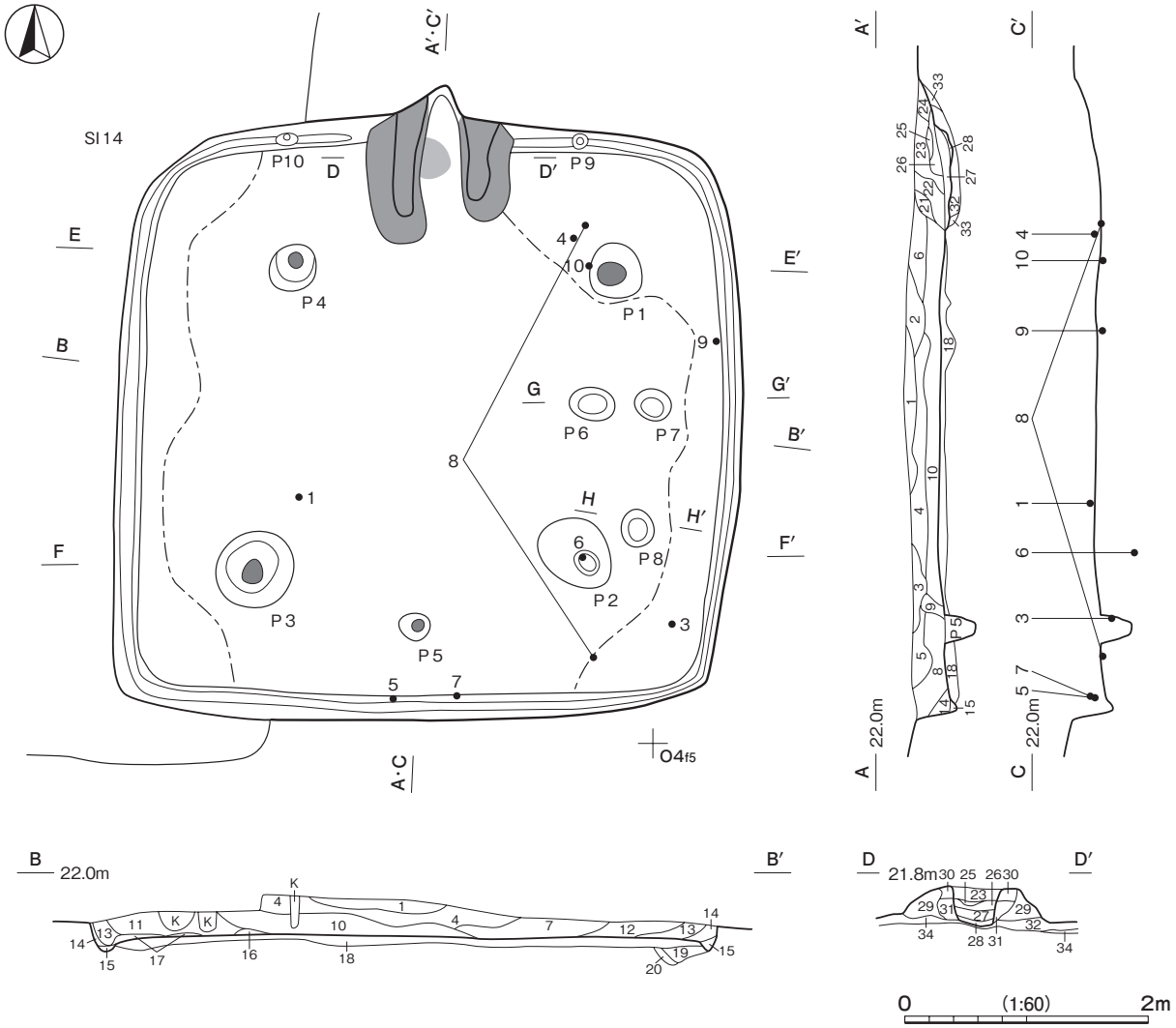
床　平坦な貼床で，東西両壁側を除き，踏み固められている。掘方は，コーナー部と東壁から南壁側が溝状に掘りくぼめられている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。第 21 ～ 34 層が竈に関連する堆積土である。付設する部分を楕円形状に掘り込み，ロームブロックを含む暗褐色土を主体とした第 32 ～ 34 層で埋土して構築している。規模は焚口部から煙道部まで 130cm で，燃焼部幅は 35cm である。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。袖部は粘土主体の第 29 層と粘土ブロックを含む暗褐色土主体の第 30・31 層を積み上げて構築されている。第 26 ～ 28 層は燃焼部の堆積土で，床面から５～ 25cm ほど掘りくぼめられている。

ピット　10 か所。Ｐ１～Ｐ４は，深さが 30 ～ 53cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４の底面に，柱の当たりを確認した。Ｐ５は深さ 25cm で，規模と配置から出入口施設に伴うピットで，底面に柱の当たりを確認した。北壁の壁溝内で確認できたＰ９・Ｐ 10 は，径 15cm，深さ９cm と小形で，壁溝に関連する施設に伴うか，あるいは竈の両脇に位置することから，竈に関連する施設に伴うピットの可能性がある。そのほかＰ６は深さ７cm，Ｐ７は深さ５cm，Ｐ８は深さ 10cm で，性格は不明である。

覆土　17 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第 18 ～ 20 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 296 点（坏 31，高台付坏１，高坏２，壺２，甕・甑類 260），須恵器片 10 点（坏４，蓋４，鉢・甕・甑類２），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 184 ｇ），焼成粘土塊 22.61 ｇのほか，剥片２点（黒曜石），軽石製品１点が出土している。遺物は各区各層から均一に出土しているが，時期決定可能で図化できるものは，東部（１・２区）に多いようである。１～５は土師器の坏で，２・３・４・５は口縁部外面及び内面に黒色処理が施されている。１・２は他と比較すると時期がやや遡るもので，混入の可能性が高い。５の内面は粗い放



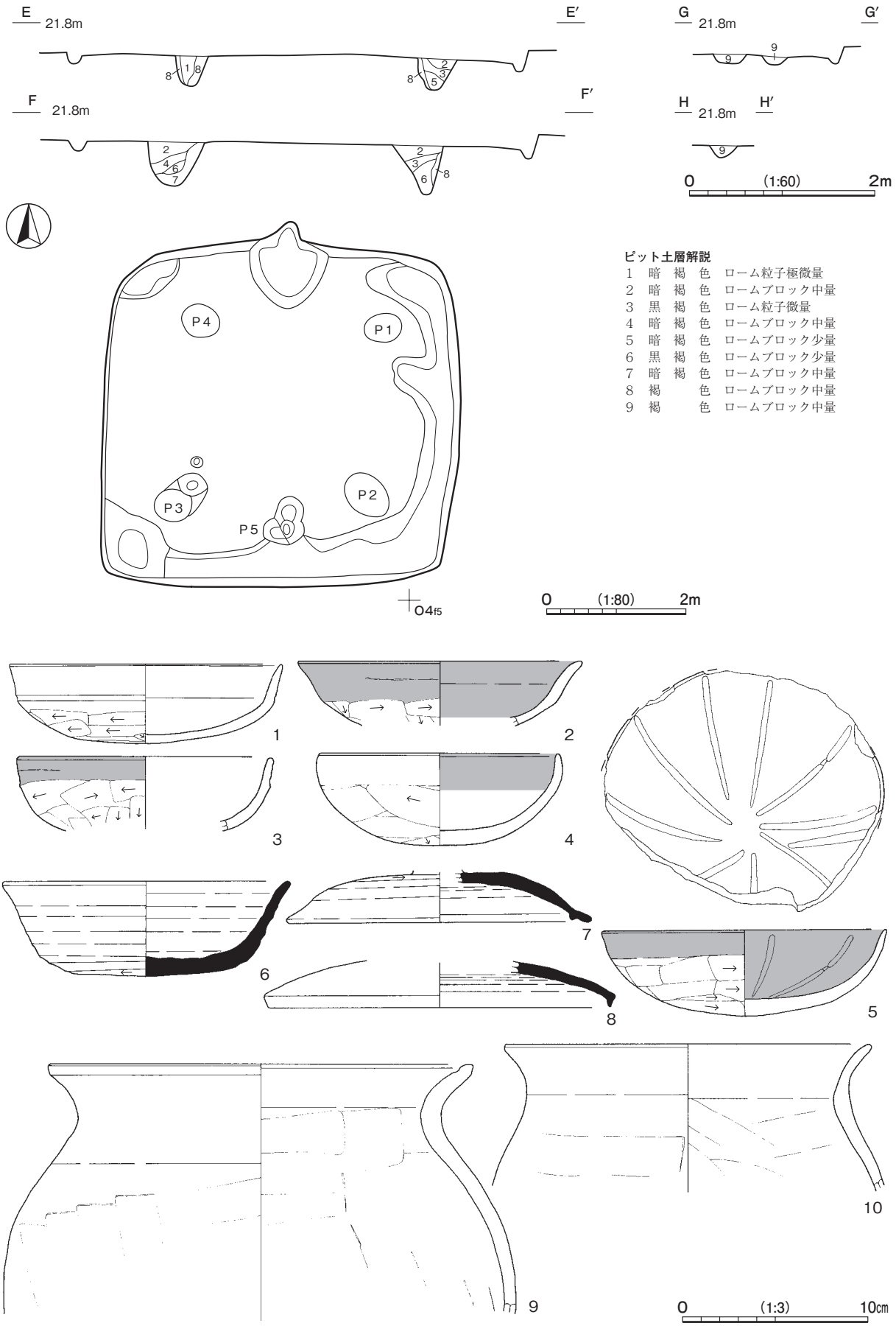
土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子少量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
5 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子極微量
6 暗 褐 色 ロームブロック少量
7 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子極微量
8 黒 褐 色 ローム粒子微量
9 暗 褐 色 ロームブロック中量
10 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子極微量
11 黒 褐 色 ロームブロック微量
12 暗 褐 色 ローム粒子微量
13 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子極微量
14 黒 褐 色 ローム粒子微量
15 暗 褐 色 ロームブロック微量
16 黒 褐 色 ロームブロック少量
17 褐 色 ロームブロック多量
18 褐 色 ロームブロック中量
19 暗 褐 色 ロームブロック少量
20 にぶい褐色 ロームブロック少量
21 灰 褐 色 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
22 暗 褐 色 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
23 褐 色 粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
24 暗赤褐色 焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，ローム粒子微量
25 灰 褐 色 ロームブロック微量
26 暗赤褐色 焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，ローム粒子微量
27 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
28 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
29 褐 色 粘土ブロック多量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
30 暗 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
31 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量，粘土ブロック・ローム粒子微量
32 褐 色 ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
33 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
34 褐 色 ローム粒子少量

第 112 図　第 15 号竪穴建物跡実測図

射状の磨き調整がなされている。６は底部が丸みをおびる須恵器の坏で，Ｐ２の覆土中層から正位で出土した。８はかえりのない須恵器の蓋で，外面に自然釉がみられる。東海系の搬入品である。

所見　時期は，出土土器から７世紀後葉から８世紀前葉と考えられる。Ｐ２～Ｐ４は柱痕がなく，Ｐ２の覆土中から６が出土していることから，建物の廃絶時に柱を抜き取られたものと考えられる。



第 113 図　第 15 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 72　第 15 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 113 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	14.5	4.2	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	３区床面	90% PL33
2	土師器	坏	［15.2］	(3.4)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面横位のナデ　黒色処理　体部ヘラ削り　内面横位のナデ	２区１・２ｘ	20%
3	土師器	坏	［13.4］	(3.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　外面黒色処理　体部ヘラ削り　内面横位のナデ	２区掘方	25%
4	土師器	坏	［12.8］	4.9	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部ヘラ削り　内面横位のナデ　口縁部に黒色処理	１区床面	30%
5	土師器	坏	［15.2］	4.6	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り　内面粗い放射状の磨き　黒色処理	３区床面	60% PL33
6	須恵器	坏	［15.4］	5.1	9.2	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	体部下端から底部回転ヘラ削り	Ｐ２中層	70%新治窯 PL33
7	須恵器	蓋	16.4	(2.6)	－	長石・石英・雲母・細礫	褐灰	良好	天井部回転ヘラ削り	２区床面	40%新治窯 PL33
8	須恵器	蓋	［18.4］	(2.4)	－	長石・石英	灰黄褐	良好	外面自然釉	１・２区床面	30%東海系 PL33
9	土師器	甕	22.6	(13.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	１区床面	40% PL33
10	土師器	甕	［19.4］	(7.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	１区床面	５%

第 16 号竪穴建物跡（第 114 図）

位置　調査Ⅱ区東部のＯ４f2 区，標高 22.5 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 198 ～ 202 号土坑を掘り込み，第 138・139 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　上部及び東部が削平されているため，西壁と北壁・南壁の一部しか確認できなかった。竈の火床面とピット１か所，および覆土の広がりから規模と形状を推測すると，南北軸は 3.88 ｍ，東西軸は約 3.3 ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－ 12゜－Ｅである。西壁は高さ 10cm 程度である。

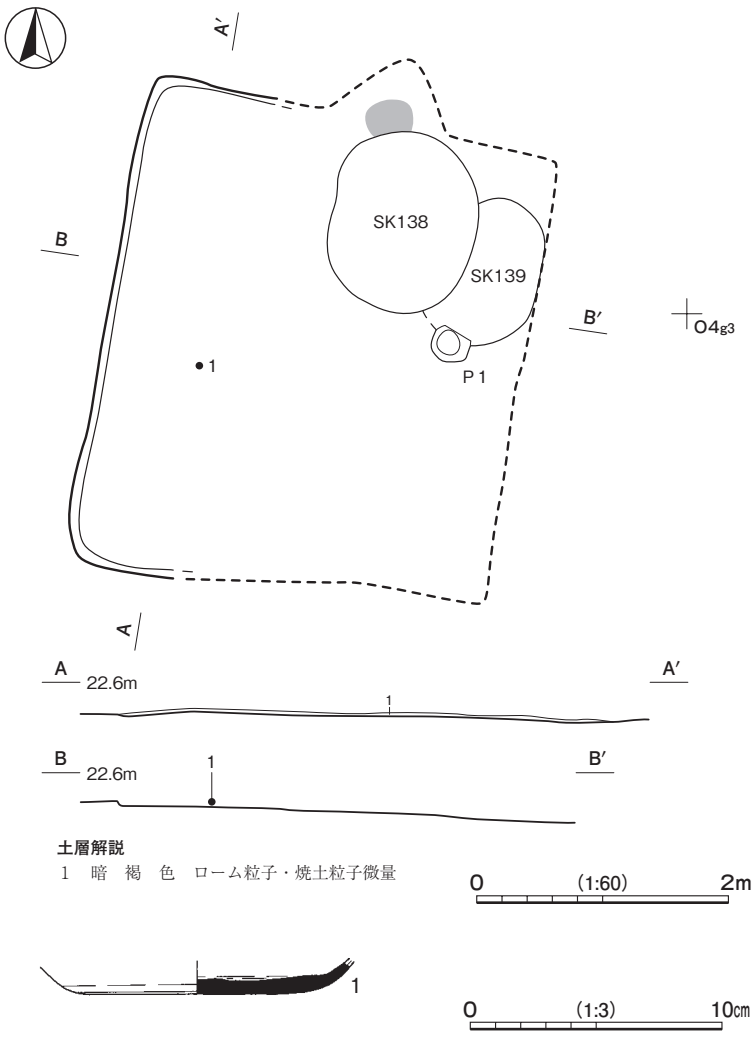
床　ほぼ平坦で，壁溝は確認できなかった。

竈　北壁付近に火床面と考えられる焼土が確認できたことから，北壁中央付近に付設されたものと考えられるが，煙道部の掘り込みや部材等は確認できなかった。

ピット　Ｐ１は深さ 19cm で，位置からも主柱穴とは言い難く，性格は不明である。

覆土　削平のため，床面直上の１層のみが確認できた。堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片 39 点（坏 10，高坏２，壺１，甕・甑類 26），須恵器片２点（坏・蓋）が出土している。覆土がほとんど捉えられなか



第 114 図　第 16 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ったことから，本跡に帰属する遺物はわずかである。1は南西部（3区）の床面から出土している。

所見　覆土がほとんど捉えられなかったため，本跡に帰属する遺物はわずかで，時期決定可能なものも少ない。重複している第138号土坑は土器焼成遺構と考えられるもので，11世紀前葉の土師器坏や小皿が多量に出土している。隣接する第13～15号竪穴建物跡は主軸方向をほぼ同じくするもので，時期は7世紀後葉から8世紀後葉段階である。以上のことから，時期は8世紀前葉から11世紀前葉までの間で，概ね8世紀代と考えられる。

表73　第16号竪穴建物跡出土遺物観察表（第114図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	－	(1.3)	[9.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り	3区床面	20%新治窯

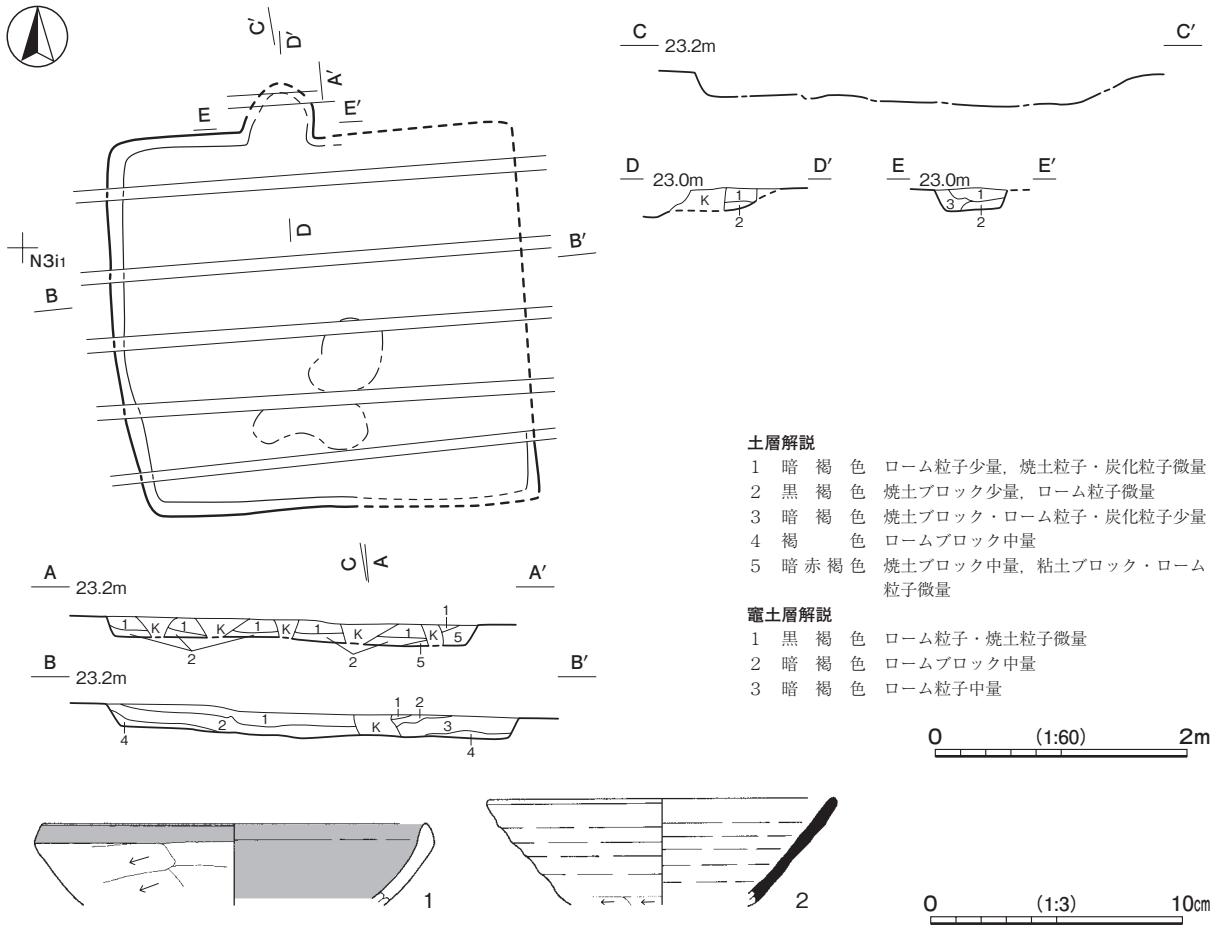
第17号竪穴建物跡（第115図　PL4・5）

位置　調査Ⅱ区北西部のN 3h1区，標高23 mの台地上に位置している。

重複関係　第35号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　東部が削平されているため，東壁は南側の一部が確認できたのみである。長軸3.19 m，短軸3.05 mの方形で，主軸方向はN－1°－Eである。壁は高さ19cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，中央南側の一部に硬化している部分がある。壁溝は確認できなかった。



第115図　第17号竪穴建物跡・出土遺物実測図

竈　北壁中央部付近に，煙道部の掘方の一部が確認できたのみである。袖部・火床面とも確認できず，構築材もほとんど残存していなかった。

覆土　５層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 181 点（坏 20，坩１，高坏３，壺１，甕・甑類 156），須恵器片 126 点（坏 16，高台付坏１，鉢・甕・甑類 109），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 5.60 ｇ，鉄滓 8.40 ｇ）のほか，縄文土器片２点，陶器片３点（皿，鉢，瓶類）が出土している。写真では竈の燃焼部から土師器の甕体部片が出土している様子が捉えられるが，いずれも接合せず，時期判断が可能な程度に復元することはできなかった。詳細な時期決定が困難であるが，１の土師器坏は，２の須恵器坏に比べると，やや時期が遡るように観察される。これらはあるいは第 35 号竪穴建物跡に帰属する可能性が高い。

所見　遺物からは時期判断が可能なものが少なく，また出土している土器は時期幅がある。重複関係や周囲の主軸方向を同じくする竪穴建物跡の時期，遺構の形状なども参考にすると，９世紀代に比定できる。

表 74　第 17 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 115 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［15.0］	（3.2）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り　内面横位のナデ　黒色処理	１区１ｘ	５％
2	須恵器	坏	［13.6］	（4.2）	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	１区１ｘ	10％新治窯

第 18 号竪穴建物跡（第 116・117 図　PL５）

位置　調査Ⅱ区中央部のＯ３g7 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 4.78 m，短軸 4.67 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｅである。壁は高さ 16 ～ 32cm で，直立している。

床　ほぼ平坦で，全体が踏み固められている。壁溝が全周している。竈前面に，長径 26cm，短径 10cm の焼土の分布が確認できる。

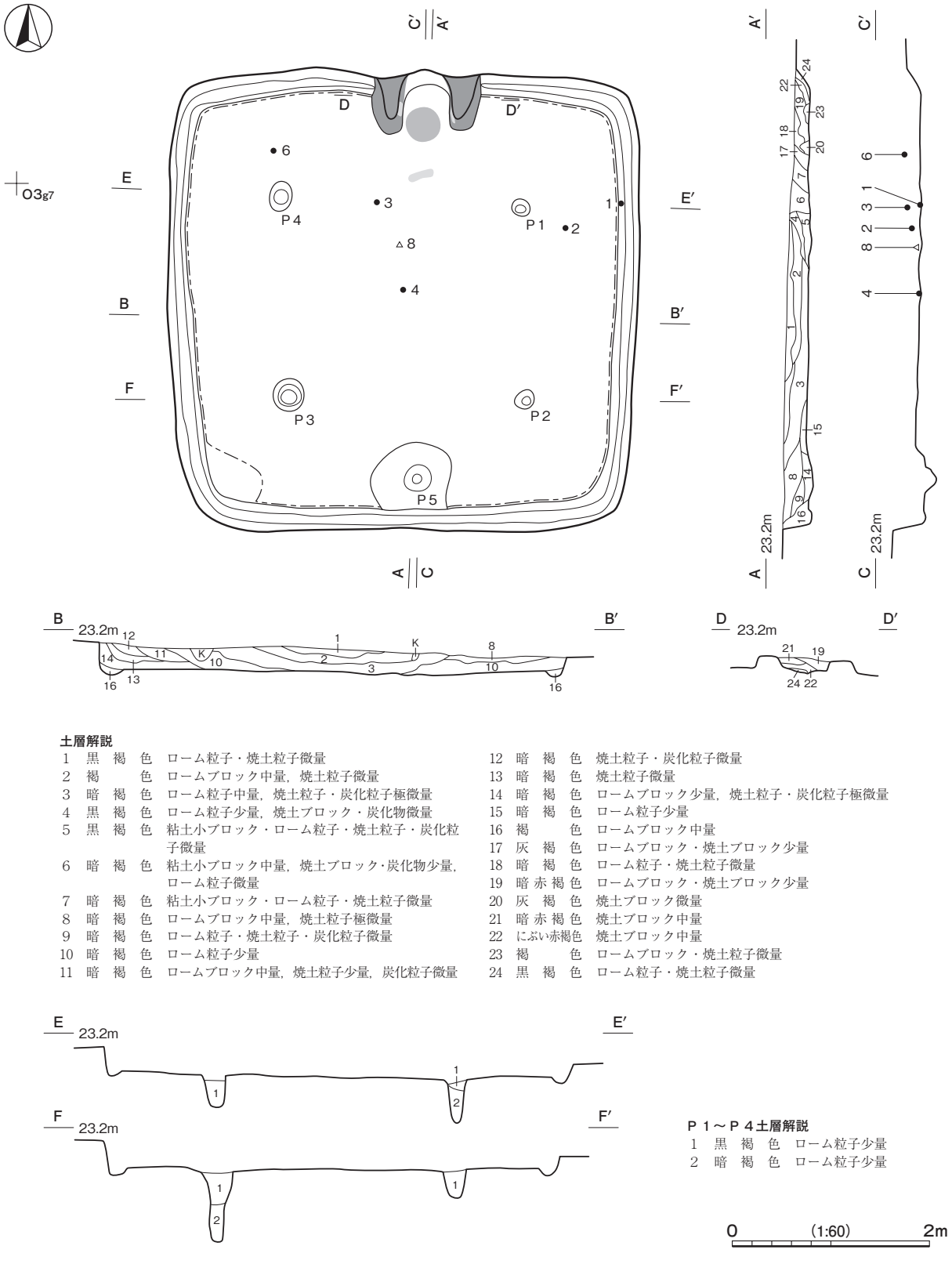
竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 60cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部は壁外に 10cm ほど短く掘り込まれ，外傾している。袖部や煙道部の残存状況から，上部が大きく削平されている。第 17 ～ 24 層が竈に関連する堆積土で，袖部は粘土主体の層を積み上げて構築されている。第 22 層の赤褐色土は燃焼部の堆積土で，第 24 層の黒褐色土は竈廃絶後に煙道部に流入した堆積土の可能性がある。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 29 ～ 72cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は浅い皿状の掘方の中央部がピット状に下がっており，深さは 20cm である。配置から，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　16 層に分層できる。基本的にはレンズ状の自然堆積であるが，第１～３層と第４・５・８～ 15 層，第６層の間が不整合であり，時間的な不連続が推測される。

遺物出土状況　土師器片 313 点（坏 42, 高坏４, 甕･甑類 267), 須恵器片 31 点（坏 29, 蓋２), 石器１点（砥石), 金属製品２点（刀子，釘ヵ），鍛冶関連遺物（羽口１，鉄滓 15.09 ｇ），焼成粘土塊 14.49 ｇのほか，縄文土器３点が出土している。遺物は北西部（４区）の覆土上層から多く出土している。１・３は覆土上層から出土している。これらの土師器坏の口縁部内面直下には，繊細な沈線が一条巡っている。４は北東部（１区）の床面からほぼ完形で出土している。５は南東部（２区）の下層から出土している。

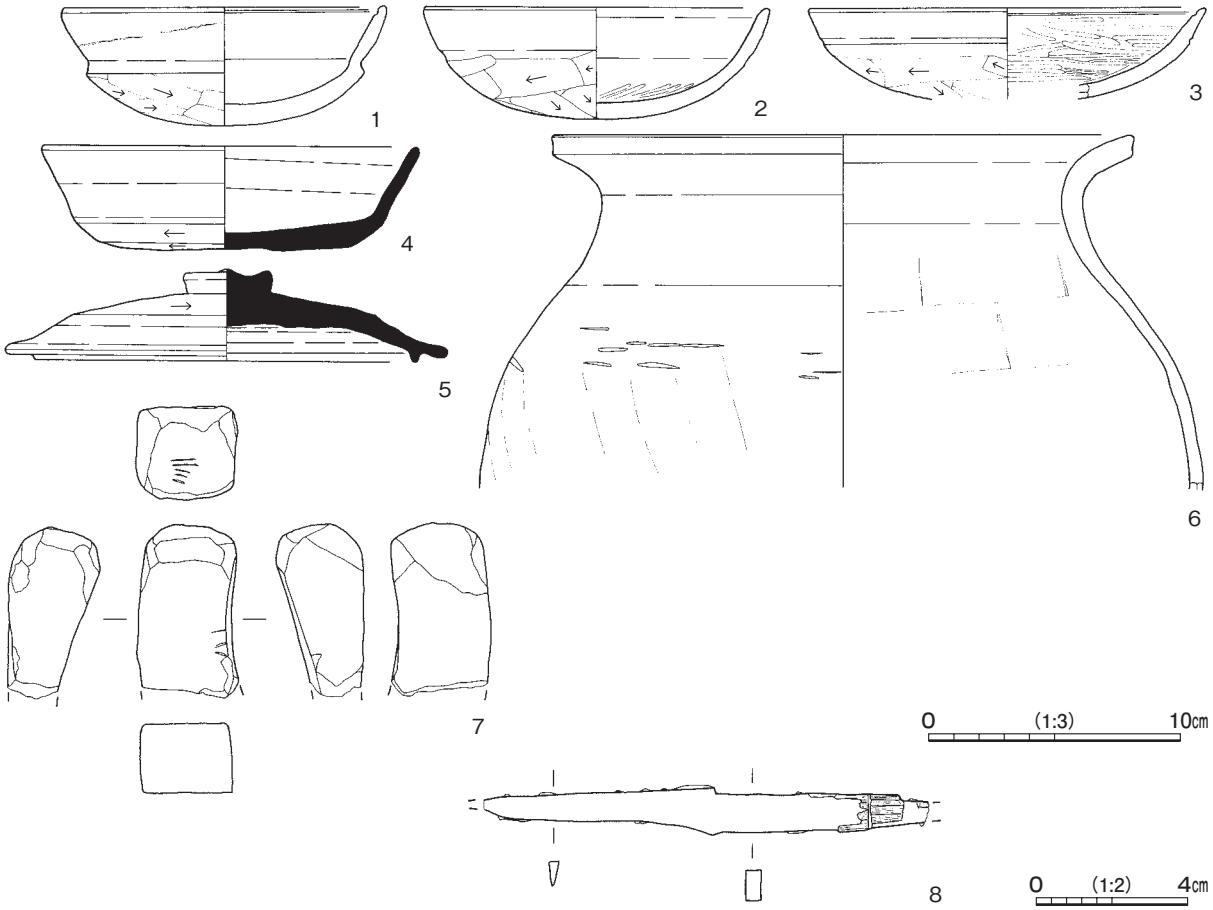
所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。



第 116 図　第 18 号竪穴建物跡実測図

表 75　第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表（1）（第 117 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
8	刀子	［11.7］	1.2	0.4	11.24	鉄	刀身部先端部欠損　茎部分に木質残る	4区下層	PL53
9	釘ヵ	［3.7］	0.5	0.5	1.98	鉄	上下欠損　断面方形	2区1ｘ	観察表のみ



第 117 図　第 18 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 76　第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 117 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	12.6	4.6	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　内面に沈線　体部外面ヘラ削り　内面剥離	３区上層	90% PL33
2	土師器	坏	［13.6］	4.4	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内底面ヘラ磨き	１区下層	40%
3	土師器	坏	［15.6］	（3.6）	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラ磨き　口縁部に沈線	４区上層	10%
4	須恵器	坏	14.8	4.1	10.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端～底部回転ヘラ削り　内底面に重ね焼き痕	１区床面	100%新治窯 PL33
5	須恵器	蓋	16.8	3.6	－	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	天井部回転ヘラ削り　酸化焔焼成	２区２ｘ	50%新治窯 PL33
6	土師器	甕	［22.8］	（14.0）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	４区上層	20% PL33

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
7	砥石	（6.5）	3.5	1.6 ～ 3.1	125.22	凝灰岩	砥面４面　頭部剥離　表面被熱により煤付着	３区２ｘ	PL48

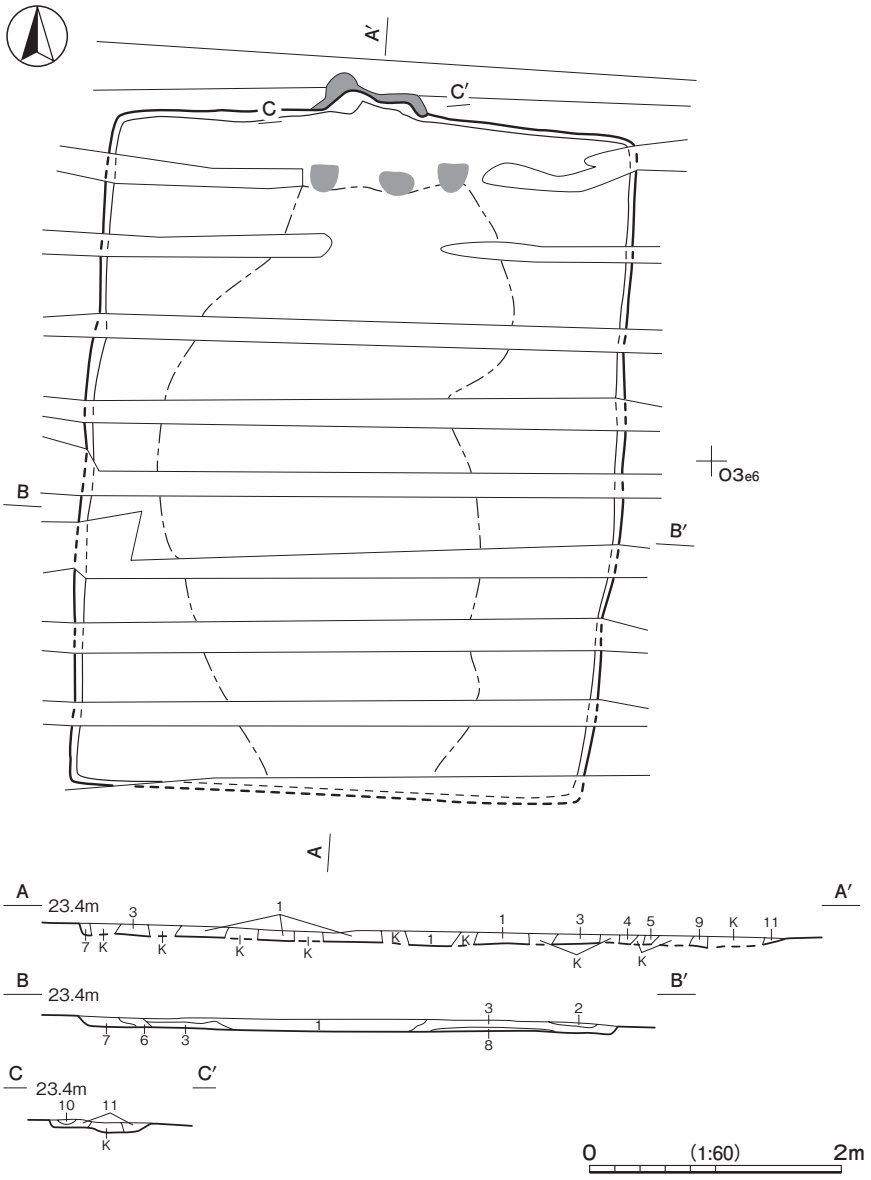
番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
10	羽口	－	－	（1.4）	8.39	長石・石英	黒褐	先端に近い部分か　表面の一部がガラス化	１区１ｘ	観察表のみ

第 19 号竪穴建物跡（第 118 図　PL５）

位置　調査Ⅱ区南西部の O 3d5 区，標高 23.5 ｍの台地上に位置している。

規模と形状　長軸 5.35 ｍ，短軸 4.27 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁は高さ８cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦で，東西壁際を除き，竈前面から出入口部付近まで踏み固められている。



土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量
2 黒 褐 色 ローム粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量
4 黒 褐 色 粘土小ブロック少量，炭化粒子微量
5 暗 褐 色 粘土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 褐 色 ロームブロック中量
7 褐 色 ロームブロック中量
8 暗 褐 色 ロームブロック中量
9 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土ブロック微量
10 褐 灰 色 粘土ブロック中量，焼土粒子少量
11 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量

第 118 図　第 19 号竪穴建物跡実測図

竈　北壁中央部付近に，壁外への掘り込みと構築材の一部が確認できたが，崩落が著しく，袖部・火床面とも残存していない。また写真で確認する限り，撹乱と掘り込み不足のため，煙道部の全長や立ち上がりの形状は不明である。竈に関連する土層は第９～ 11 層で，竈の前面にも，粘土の分布が確認できる。

覆土　８層に分層できる。撹乱と覆土の残存状況が不良なことから堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片 79 点（坏６，高坏２，甕・甑類 71），須恵器片 15 点（坏４，蓋３，瓶類１，鉢・甕・甑類７），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 10.56 ｇ，鉄滓 9.72 ｇ）のほか，陶器片 13 点（碗９，瓶類２，甕２），磁器片７点（碗２，皿４，瓶類１）が出土している。覆土がほとんど捉えられなかったことから，出土遺物は少量で細片が多く，時期判断が可能で，図示できる個体もほとんど確認できなかった。

所見　本跡は南北に長い長方形を呈する点が特徴的で，同様の形状は当遺跡では古墳時代中期にさかのぼるが，竈が存在していることから，それには当たらない。あるいは工房跡の可能性もあるが，付帯施設は確認されていない。時期は，出土土器からの判断は困難であるが，周囲の主軸を同じくする竪穴建物跡の時期を参考に，８世紀代と捉えておきたい。

第 21 号竪穴建物跡（第 119・120 図　PL５・６）

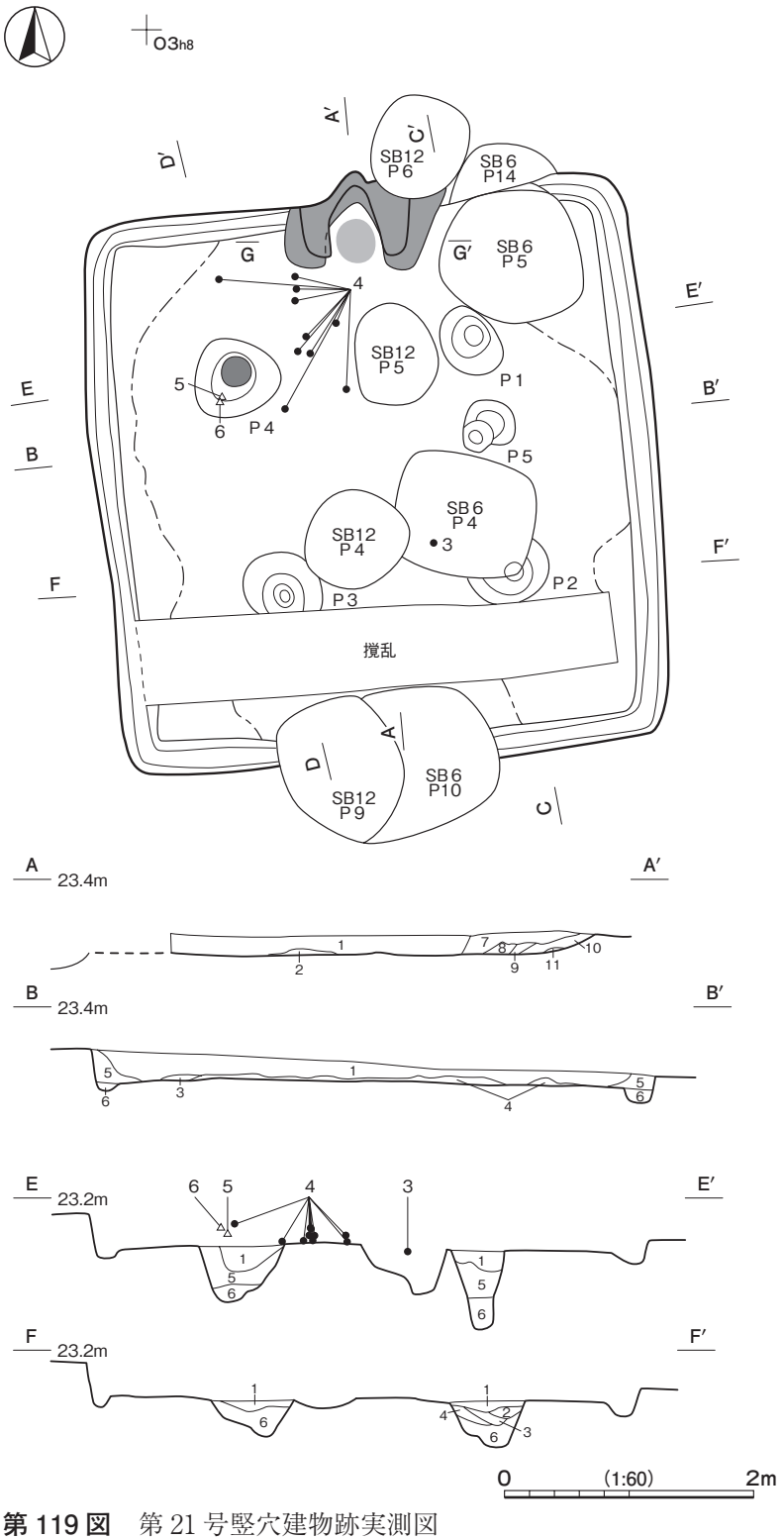
位置　調査Ⅱ区南部の O ３h8 区，標高 23.5 ｍの台地上に位置している。

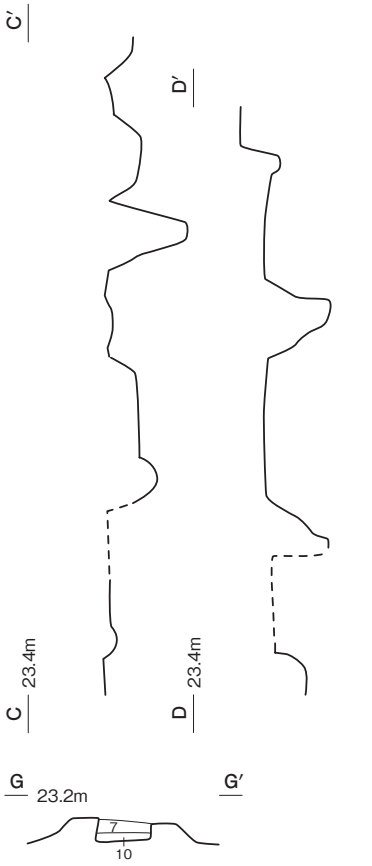
重複関係　第６・12 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.58 m, 短軸 4.48 mの隅丸方形で, 主軸方向はN − 3° − W である。壁は高さ 12 ～ 31cm で, 直立している。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 75cm で，燃焼部幅は 45cm である。煙道部は壁外に 24cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。竈に関連する堆積土は第７～ 11 層で，袖部は砂





土層解説

1	暗	褐	色　ロームブロック中量
2	黒	褐	色　ロームブロック微量
3	黒	褐	色　ロームブロック中量
4	暗	褐	色　ロームブロック少量
5	暗	褐	色　ローム粒子少量
6	暗	褐	色　ローム粒子微量
7	にぶい黄褐色		砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
8	暗	褐	色　焼土粒子微量
9	暗	褐	色　砂質粘土ブロック・焼土粒子・砂粒微量
10	暗赤褐		色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
11	暗	褐	色　焼土粒子少量，砂質粘土ブロック・ローム粒子微量

ピット土層解説

1	黒	褐	色　ローム粒子・焼土粒子微量
2	褐		色　ロームブロック中量
3	黒	褐	色　ロームブロック中量
4	暗	褐	色　ロームブロック中量
5	褐		色　ロームブロック中量
6	褐		色　ロームブロック中量（５より明）

第 119 図　第 21 号竪穴建物跡実測図

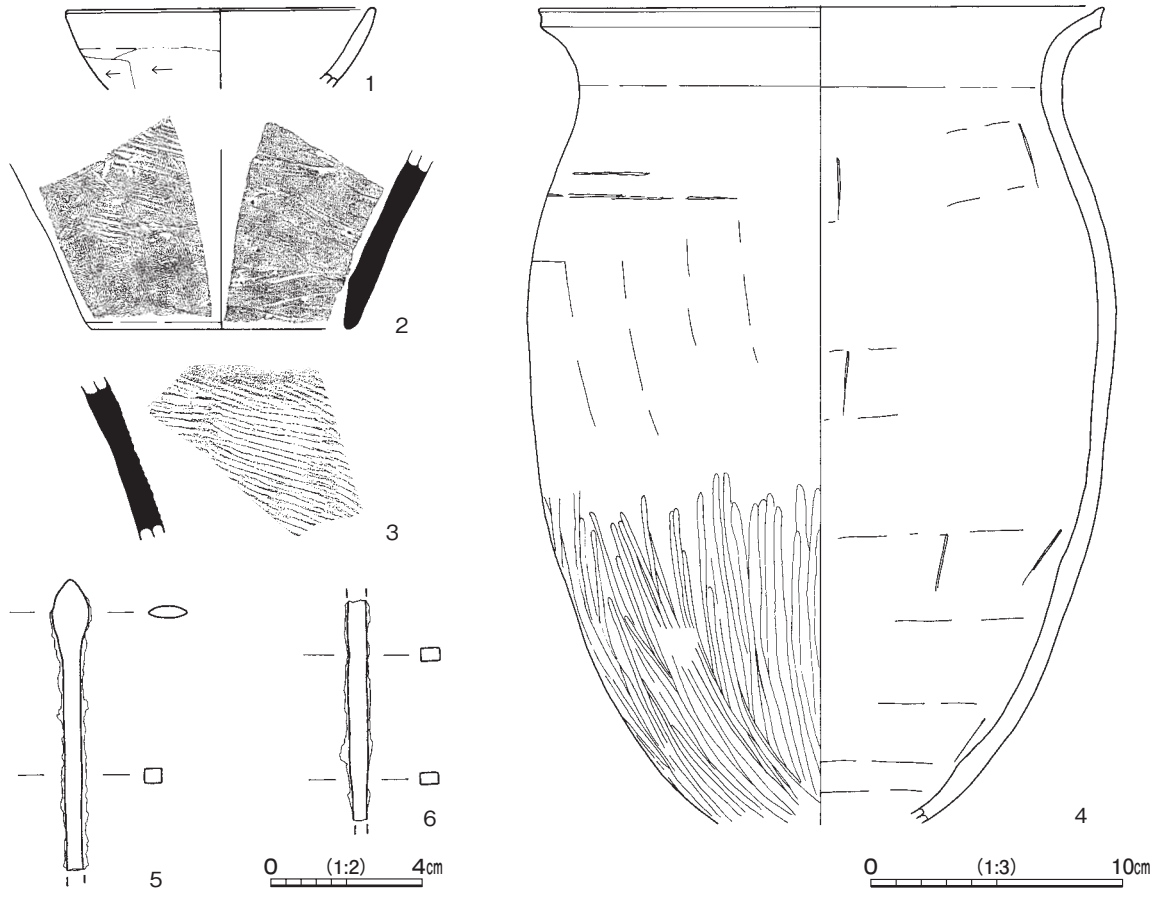
質粘土ブロックが主体の灰褐色土を積み上げて構築されている。火床面は床面と同じ高さで赤変している。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 38 ～ 62cm で，規模や配置から主柱穴である。Ｐ４の底面に柱の当たりを確認した。Ｐ５は深さ 10cm 程度で，補助的な柱穴と考えられる。

覆土　６層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 141 点（坏 7，高坏５，鉢１，甕類 128），須恵器片 12 点（坏５，蓋１，鉢･甕･甑類６），金属製品２点（鉄鏃，釘ヵ），鍛冶関連遺物（鉄滓 36.04 ｇ）が出土している。遺物は総量としては少なく，復元可能な個体は北西部から出土している。４は竈正面から西側にかけて散在していたものが接合している。３は床面からの出土であるが，本跡を掘り込む第６号掘立柱建物のピット上に位置しており，原位置を留めていない。５・６は覆土中層から出土した。別個体と考えたが，出土地点が近いことなどから，６は鉄鏃の茎部分の可能性もある。

所見　時期は，出土土器から７世紀後葉から８世紀前葉に比定できる。



第 120 図　第 21 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 77　第 21 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 120 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	［12.0］	(3.1)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　口縁部外・内面に黒色処理ヵ	３区１ｘ	10%
2	須恵器	甑	－	(7.0)	［10.2］	長石・石英・雲母	黄灰	良好	外面平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ　下端部ヘラ削り	２区１ｘ	５％新治窯
3	須恵器	甕	－	(6.5)	－	長石・雲母	黄灰	良好	外面横位の平行叩き　内面ヘラナデ	２区床面	５％新治窯
4	土師器	甕	［22.2］	(32.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ	４区床面	30% PL48

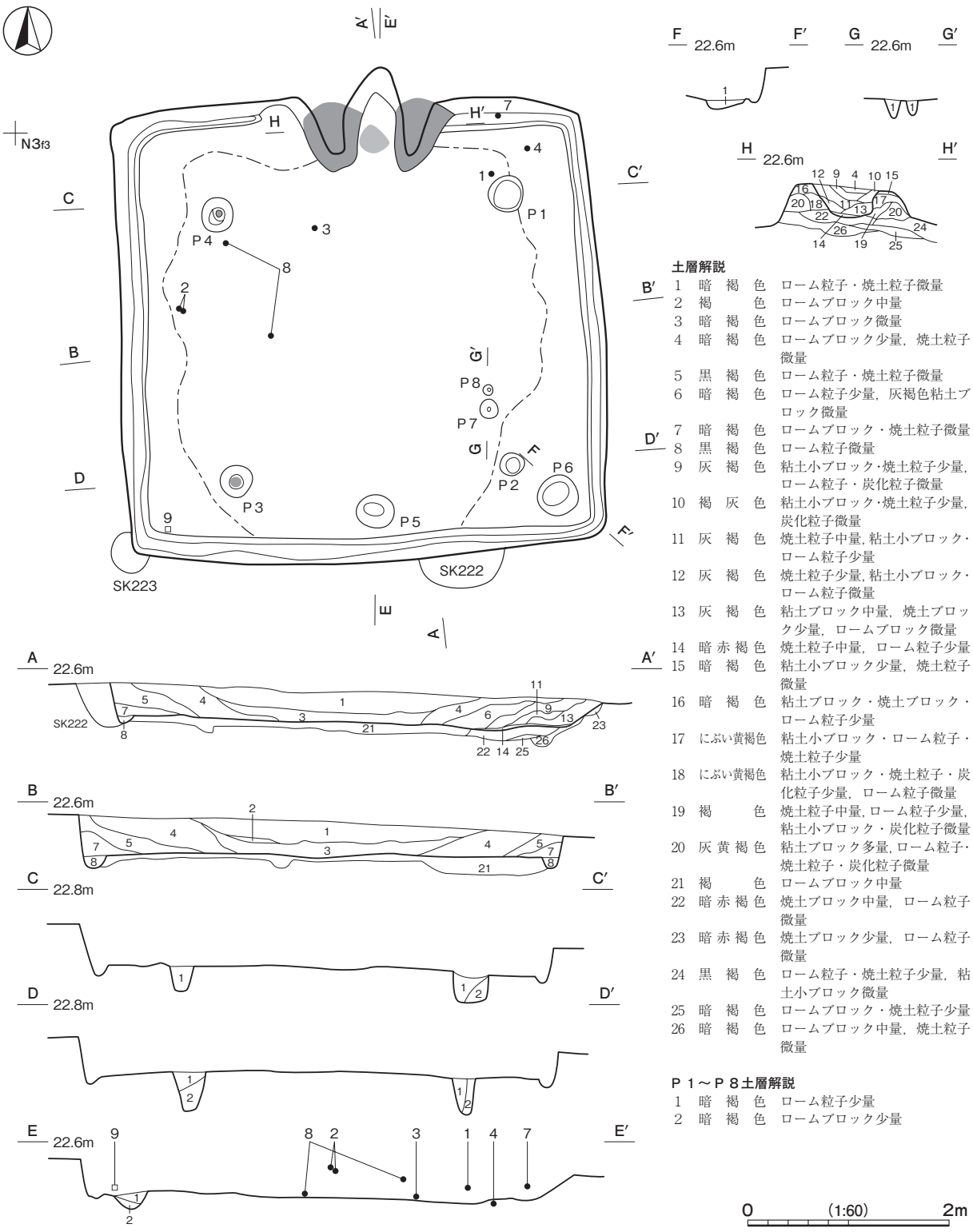
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	鉄鏃	(7.7)	1.0	0.3 ～ 0.4	5.36	鉄	先端部断面レンズ状　茎部分断面方形	４区中層	PL53
6	釘ヵ	(5.8)	0.3 ～ 0.5	0.3	7.77	鉄	断面長方形　両端欠損　５と同一ヵ	４区中層	PL53

第 22 号竪穴建物跡（第 121・122 図　PL 6）

位置　調査Ⅱ区北西部のＮ 3f3 区，標高 22.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 222 号土坑を掘り込んでいる。第 223 号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長軸 4.80 m，短軸 4.62 ｍの方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｅである。壁は高さ 29 ～ 43cm で，直立している。



土層解説

1	暗	褐	色　ローム粒子・焼土粒子微量
2	褐		色　ロームブロック中量
3	暗	褐	色　ロームブロック微量
4	暗	褐	色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5	黒	褐	色　ローム粒子・焼土粒子微量
6	暗	褐	色　ローム粒子少量，灰褐色粘土ブロック微量
7	暗	褐	色　ロームブロック・焼土粒子微量
8	黒	褐	色　ローム粒子微量
9	灰	褐	色　粘土小ブロック･焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
10	褐	灰	色　粘土小ブロック･焼土粒子少量，炭化粒子微量
11	灰	褐	色　焼土粒子中量，粘土小ブロック・ローム粒子少量
12	灰	褐	色　焼土粒子少量，粘土小ブロック・ローム粒子微量
13	灰	褐	色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量
14	暗赤	褐	色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
15	暗	褐	色　粘土小ブロック少量，焼土粒子微量
16	暗	褐	色　粘土ブロック・焼土ブロック・ローム粒子少量
17	にぶい黄褐		色　粘土小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
18	にぶい黄褐		色　粘土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
19	褐		色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，粘土小ブロック・炭化粒子微量
20	灰黄褐		色　粘土ブロック多量，ローム粒子･焼土粒子・炭化粒子微量
21	褐		色　ロームブロック中量
22	暗赤	褐	色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
23	暗赤	褐	色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
24	黒	褐	色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘土小ブロック微量
25	暗	褐	色　ロームブロック・焼土粒子少量
26	暗	褐	色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

Ｐ１～Ｐ８土層解説

1	暗	褐	色　ローム粒子少量
2	暗	褐	色　ロームブロック少量

第 121 図　第 22 号竪穴建物跡実測図

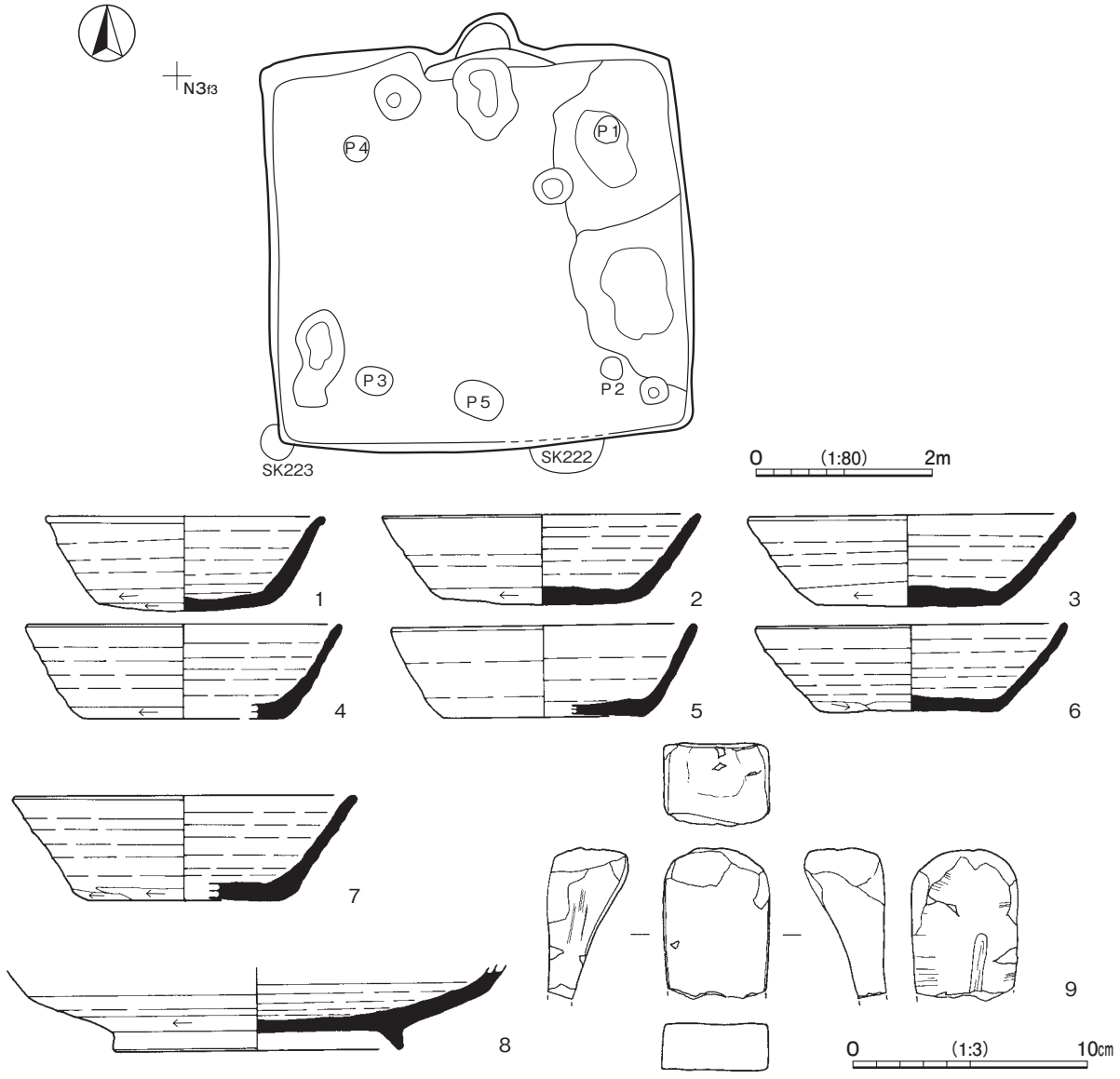
床　ほぼ平坦な貼床で，掘方は東壁側が土坑状に 12 ～ 16cm ほど掘りくぼめられている。床面は，壁際を除き竈前面から出入口施設まで踏み固められている。竈部分を除き，壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。付設する部分を楕円形状に掘り込み，ロームブロックを含む暗褐色土を主体とした第 22 ～ 26 層で埋土して構築している。規模は焚口部から煙道部まで 100cm で，燃焼部幅は 35cm である。煙道部は壁外に 35cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第 9 ～ 20 層が竈に関連する堆積土である。袖部は粘土主体の第 20 層に，粘土ブロックを含む第 15 ～ 19 層を積み上げて構築している。第 14 層は火床部の堆積土で，火床面は床面とほぼ同じ高さで赤変している。

ピット　8 か所。Ｐ 1 ～Ｐ 4 は深さ 24 ～ 38cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ 5 は深さは 16cm で，配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ 6 は南東コーナー部に位置し，深さ 10cm と浅く，掘方の一部をピットと捉えた可能性もある。Ｐ 7・Ｐ 8 は径 20cm・10cm と小さく，また深さも 18cm・15cm と浅く，性格は不明である。

覆土　8 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 143 点（坏 19，高台付坏 1，甕類 123），須恵器片 76 点（坏 40，高台付坏 2，蓋 8，



第 122 図　第 22 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

盤２，瓶類４，鉢・甕・甑類 20），金属製品１点（鎌ヵ），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 184.85 ｇ，鉄滓 15.88 ｇ）のほか，剥片２点が出土している。１・４は北東部の床面から，３・８は北西部の床面から出土している。本跡からは鉄塊系遺物の出土が多く，特に南西部の覆土下層と北西部の覆土上層から多く出土している。本跡の北西には第３号鍛冶工房跡が位置していることから，本跡の廃絶後の周辺に鍛冶関連の不要物を廃棄したものが流れ込んだ可能性がある。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。

表 78　第 22 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 122 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	11.6	4.0	7.2	長石・石英・雲母・細礫	褐灰	普通	体部下端から底部回転ヘラ削り	１区中層	80％新治窯 PL33
2	須恵器	坏	［13.2］	3.7	8.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	４区上層	40％新治窯
3	須恵器	坏	13.2	3.9	7.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端から底部回転ヘラ削り　外・内面に火襷	４区床面	70％ PL33
4	須恵器	坏	［13.2］	4.0	［8.4］	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端から底部回転ヘラ削り	１区床面	40％新治窯
5	須恵器	坏	［12.8］	3.9	［8.4］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部一方向のヘラ削り　酸化焔焼成	３区１ｘ	20％新治窯
6	須恵器	坏	［13.1］	3.6	7.5	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	４区２ｘ	60％新治窯
7	須恵器	坏	［14.5］	4.4	［8.2］	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	１区中層	40％
8	須恵器	盤	－	（3.5）	11.8	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後高台貼付	４区床面	40％新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
9	砥石	（6.3）	4.5	3.3	114.29	凝灰岩	先端部欠損　砥面４面	３区下層	PL48

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
10	鎌ヵ	4.1	2.0 ～ 3.0	0.4 ～ 0.5	22.1	鉄	形状は二等辺三角形状だが，刃部の作り出しが弱い　断面長方形	４区１ｘ	観察表のみ

第 23 号竪穴建物跡（第 123 ～ 126 図　PL６）

位置　調査Ⅱ区北西部のＮ３g1 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南壁が撹乱で掘り込まれているため，推定される長軸は 4.85 m，短軸は 4.62 ｍの方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｗである。壁は高さ 46 ～ 52cm で，直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，掘方は竈前面と四隅が土坑状に 10 ～ 15cm ほど掘りくぼめられている。床面は，中央部が踏み固められている。東壁北側を除き，壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。付設する部分を楕円形状に掘り込み，ロームブロックを含む暗褐色土を主体とした第 19 ～ 21 層で埋土して構築している。規模は焚口部から煙道部まで 114cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第８～ 18 層が竈に関連する堆積土である。袖部は暗褐色土の第 18 層を基底部とし，粘土ブロックを含む第 15 ～ 17 層を積み上げて構築されている。第 14 層は燃焼部の堆積土で，火床面は床面をやや掘りくぼめている。図は右袖が張り出しているように記録されているが，写真で確認すると，右袖のすぐ右側に切石状の粘土が壁に接して位置するようであり，構築材の一部が崩落したものか，あるいは竈の作り替えの可能性もある。

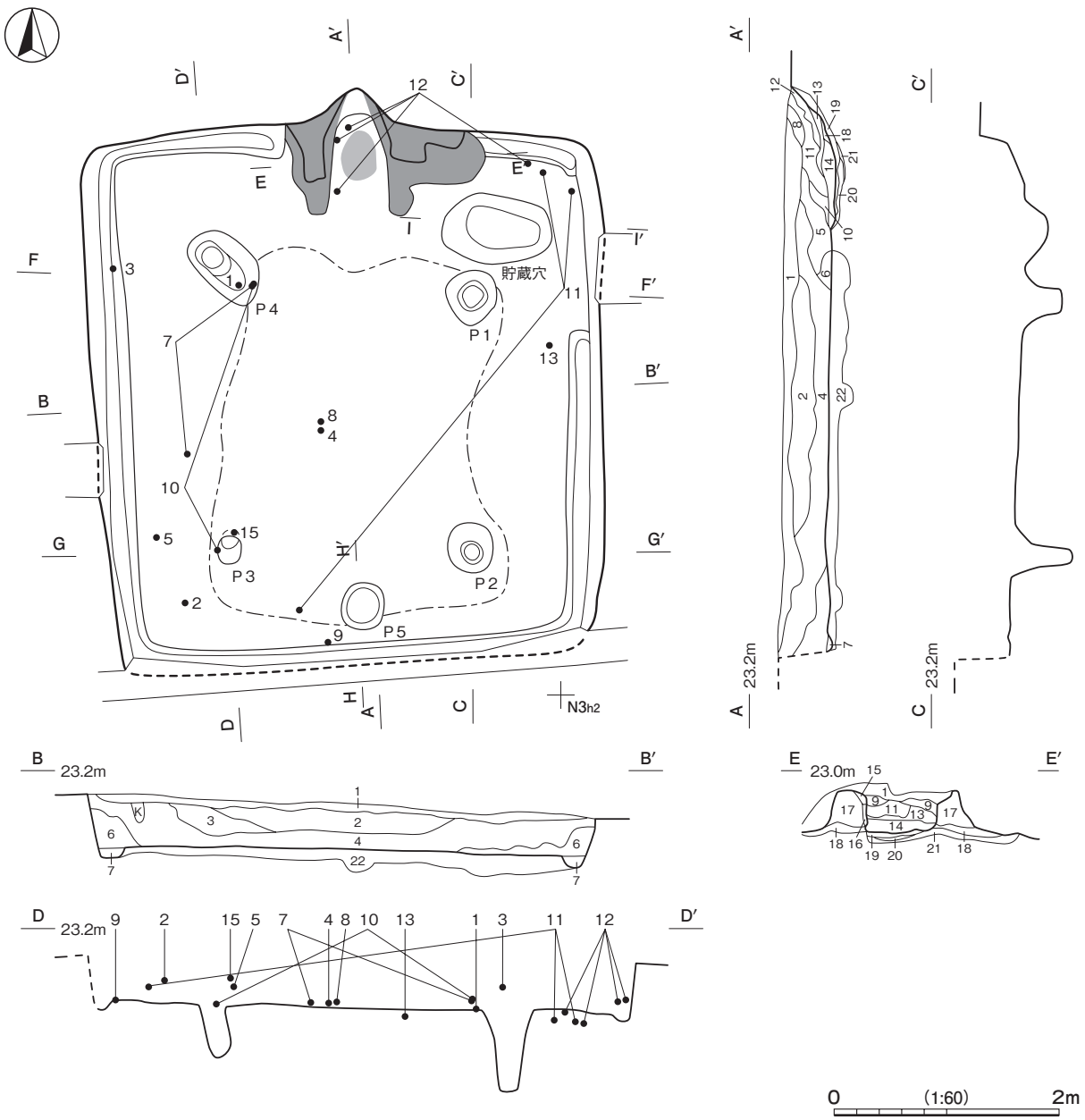
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 30 ～ 74cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さは 15cm で，配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー部に付設されている。長径 97cm，短径 58cm の楕円形で，深さは 19cm である。底面は凹凸があり，壁は緩やかに外傾している。

覆土　７層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 366 点（坏 29，高坏５，甕類 332），須恵器片 109 点（坏 76，高台付坏５，蓋２，高盤１，

瓶類１，鉢・甕・甑類 24），金属製品２点（鉄鏃$_{カ}$，釘$_{カ}$），石器１点（砥石），鍛冶関連遺物（椀状滓 1088.33 ｇ，鉄塊系遺物 6.55 ｇ），焼成粘土塊 7.94 ｇのほか，縄文土器片１点，陶器片１点（甕），磁器片４点（碗２，皿２）が出土している。７･10 は西部の床面から横位で出土した。破片の一部はＰ４の上位から出土しており，Ｐ４が埋没したあと，廃棄あるいは移動したものと考えられる。12 は竈の燃焼部覆土中から出土したもので，竈の崩落時に埋没したものと考えられる。椀状滓が覆土中層から下層で出土しており，第 22 号竪穴建物跡同様，



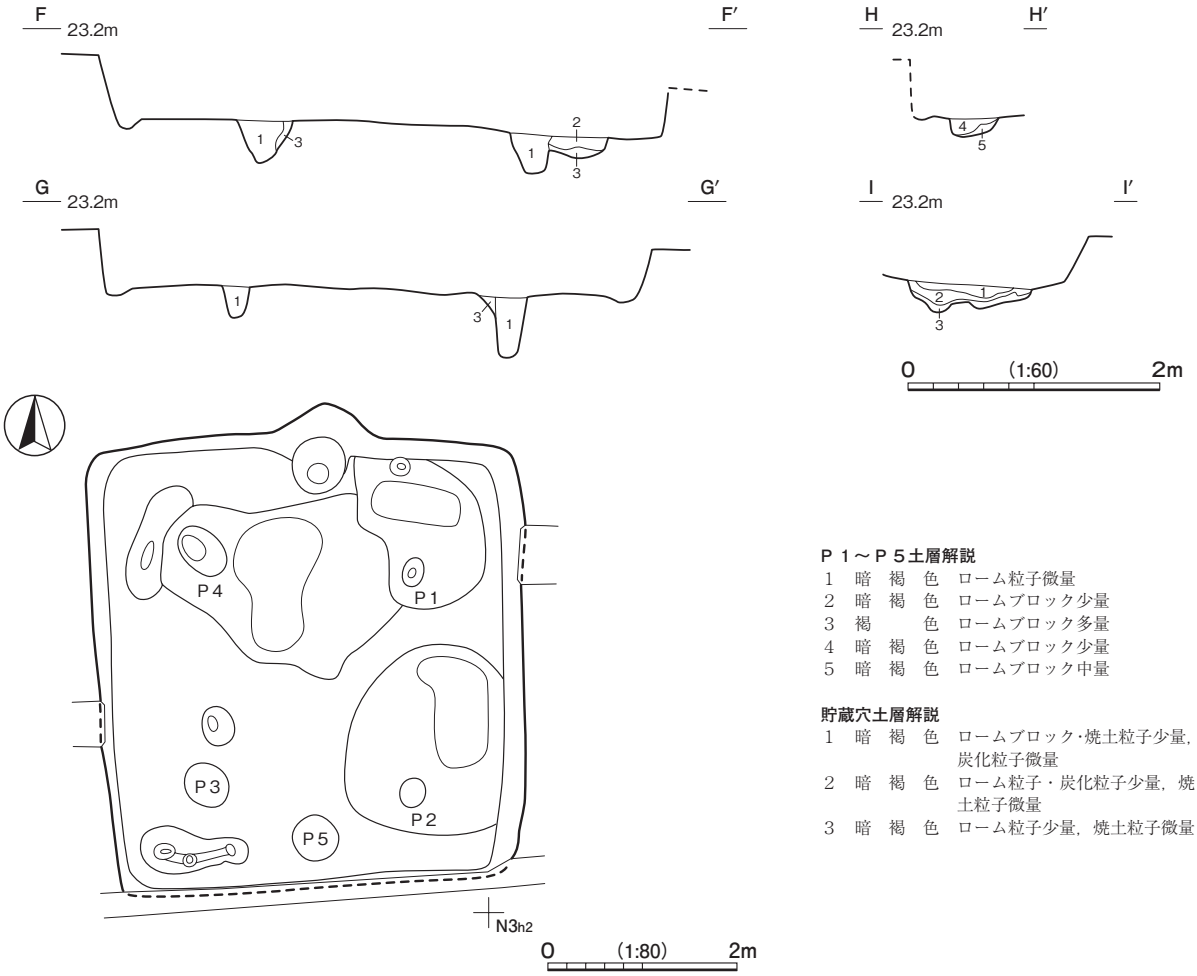
土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子少量
8　暗　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子微量
9　灰　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子少量
10　灰　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘土ブロック微量
12　暗　褐　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
13　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
14　暗赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子微量
15　灰　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
16　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，ローム粒子少量
17　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土ブロック微量
18　暗　褐　色　ロームブロック・粘土小ブロック少量，焼土粒子微量
19　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
20　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
21　褐　　色　ロームブロック中量
22　褐　　色　ロームブロック中量

第 123 図　第 23 号竪穴建物跡実測図（１）

近接する第３号鍛冶工房跡との関連が考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。



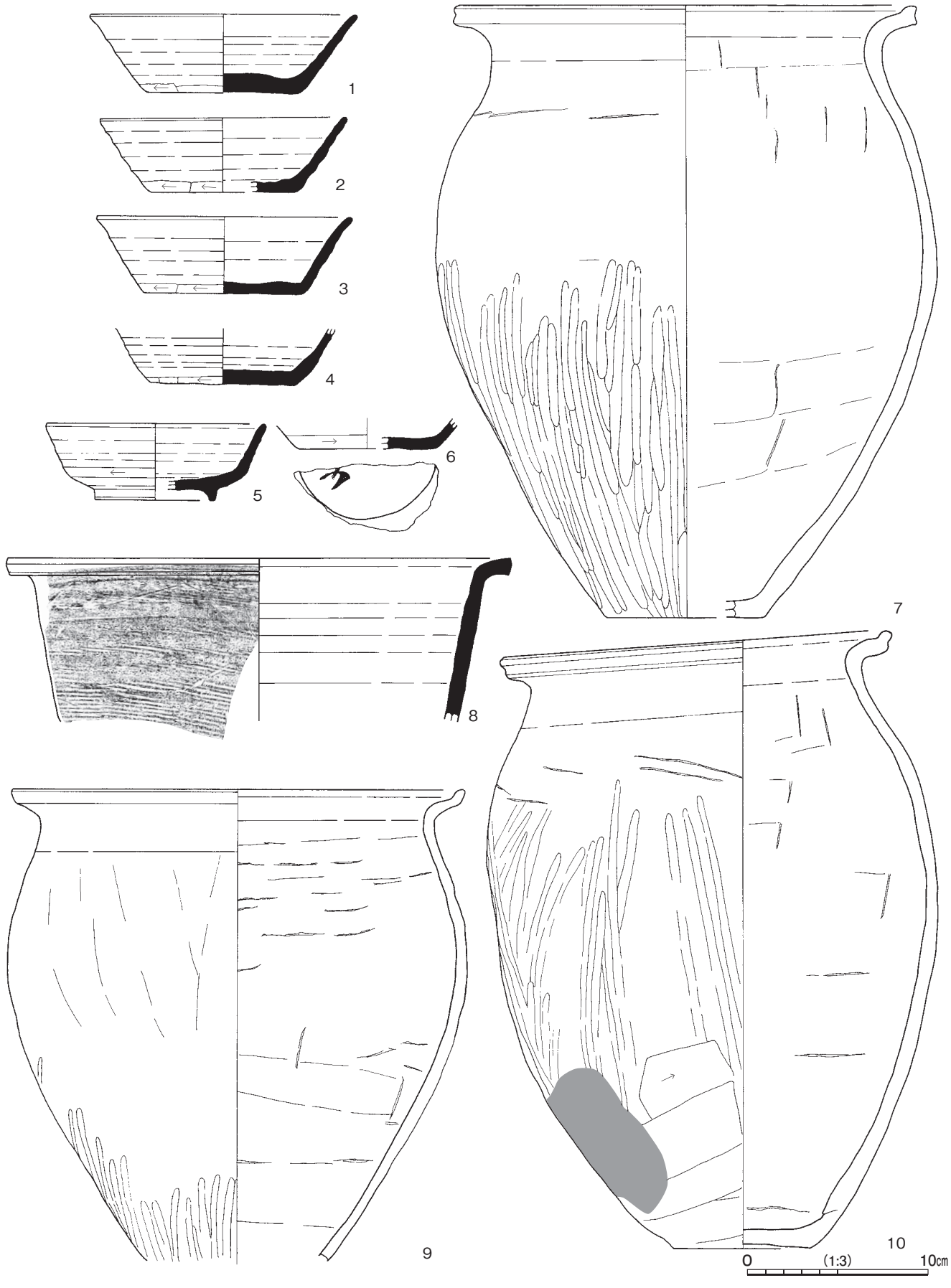
Ｐ１～Ｐ５土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック･焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

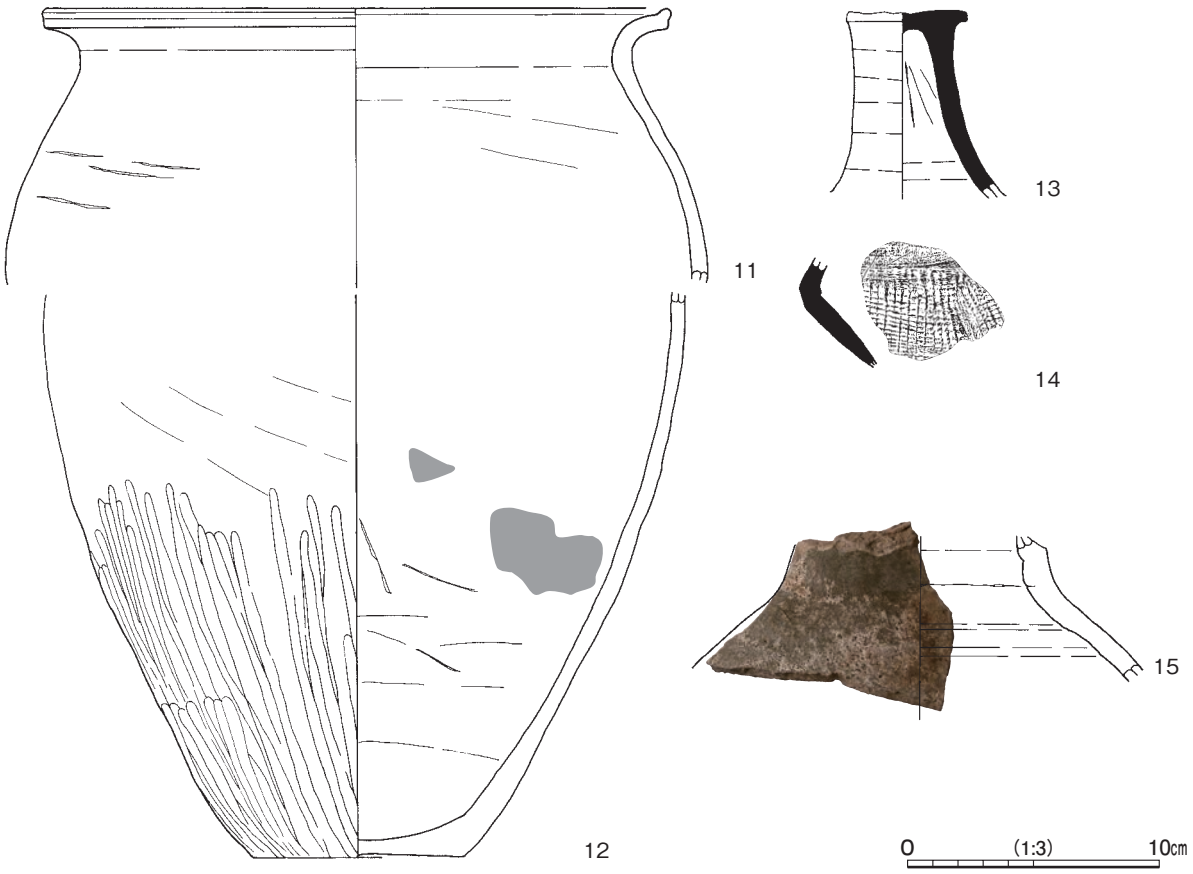
第 124 図　第 23 号竪穴建物跡実測図（２）

表 79　第 23 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 125・126 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	［14.6］	4.3	8.2	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ切り後一方向のヘラ削り	４区床面	40％新治窯
2	須恵器	坏	［13.4］	4.1	［8.2］	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区中層	30％新治窯
3	須恵器	坏	［14.0］	4.2	8.6	長石・石英・雲母・細礫	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	４区中層	40％新治窯 PL34
4	須恵器	坏	－	(3.0)	8.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り	３区床面	40％新治窯
5	須恵器	高台付坏	［12.0］	4.2	［6.6］	長石・石英	褐灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	３区下層	40％新治窯 PL34
6	須恵器	坏	－	(1.7)	［7.8］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部ヘラ切り　墨書「□」	１区１ｘ	５％新治窯 PL48
7	土師器	甕	24.8	33.7	［8.8］	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　中位以下ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部ヘラ削り	３・４区床面	70％ PL34
8	須恵器	鉢	［27.6］	(8.9)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面横位の平行叩き　内面ロクロナデ	３区床面	５％新治窯
9	土師器	甕	［24.8］	(26.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半部ヘラ磨き　帯状の剥離痕あり　内面ヘラナデ	３区下層	20％
10	土師器	甕	20.9	34.0	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　中位以下ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部木葉痕　粘土付着	３・４区下層	90％ PL34
11	土師器	甕	［24.4］	(10.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　剥離著しい　体部外・内面ヘラナデ	１区掘方	10％ PL34
12	土師器	甕	－	(22.3)	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面ヘラナデ　下半部ヘラ磨き　内面ヘラナデ　粘土付着部分有　底部木葉痕	竈燃焼部１区掘方	40％
13	須恵器	高盤	－	(7.3)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	脚部　ロクロ成形	１区床面	10％新治窯
14	須恵器	甕	－	(4.3)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面格子目叩き　内面当て具痕	２区１ｘ	５％
15	陶器	甕	－	(5.6)	－	長石　緻密	にぶい黄橙	良好	外面施釉	３区中層	10％常滑ヵ



第 125 図　第 23 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 126 図　第 23 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

表 80　第 23 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
16	鉄鏃カ	(8.3)	0.5 ～ 0.8	0.2 ～ 0.4	2.9	鉄	鏃身部～篦被部　２つに分割し接合しない　先端部はやや幅広で関はナデ形カ　頸部断面方形	２区２ｘ	観察表のみ
17	釘カ	(5.6)	0.5	0.4	3.9	鉄	先端部　断面方形　鉄鏃篦被あるいは紡錘車の軸部の可能性あり	２区１ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
18	砥石	(3.5)	(2.5)	0.9 ～ 1.4	13.6	凝灰岩	端部欠損　砥面表面の１面のみ	３区１ｘ	観察表のみ

第 24 号竪穴建物跡（第 127 ～ 130 図　PL６・７）

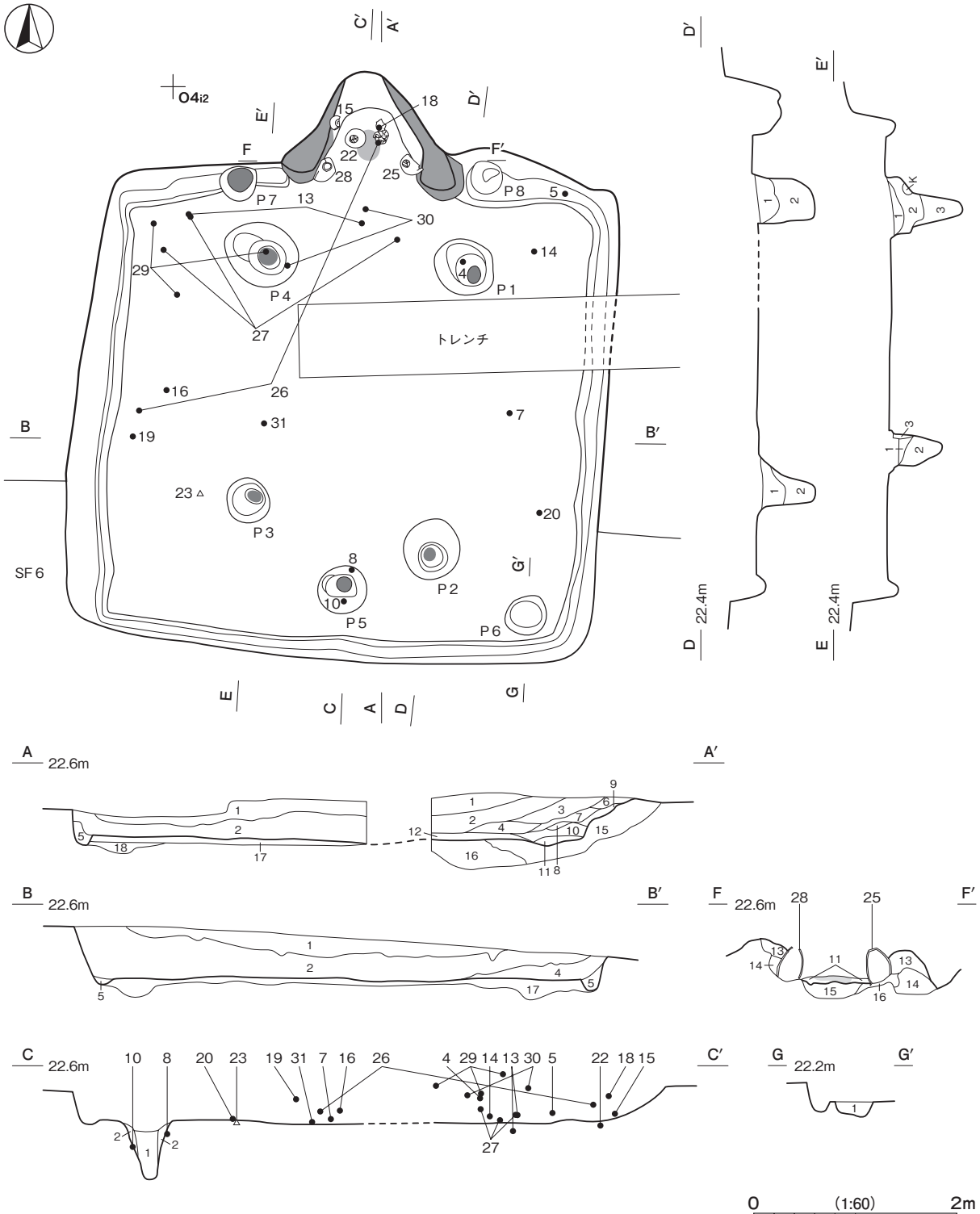
位置　調査Ⅱ区南部の O 4i2 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 74 号竪穴建物跡，第 354 号土坑を掘り込み，第６号道路に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.22 ｍ，短軸 5.00 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。掘方調査の結果，竈の位置や主軸方向を変えずに拡張された建物であることが分かった。拡張前の壁溝間の規模は，長軸 4.58 ｍ，短軸 4.06 ｍである。壁は高さ 21 ～ 55cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦な貼床で，掘方は壁際が若干下がっている。壁溝が全周している。

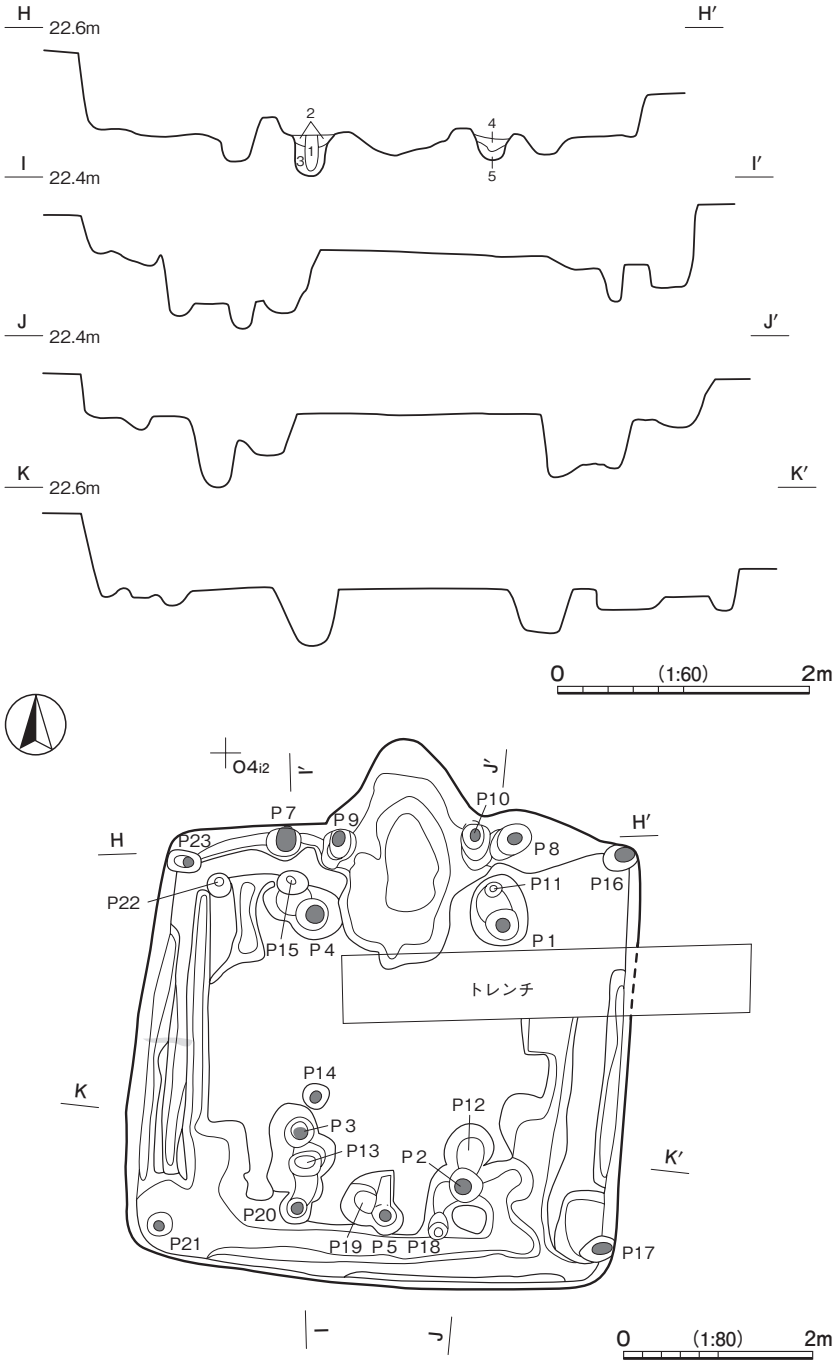
竈　北壁中央部に付設されている。付設する部分を楕円形状に掘り込み，ロームブロックが多く含まれる第 15・16 層で埋土して構築している。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で，燃焼部幅は 95cm である。煙道部は壁外に 75cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第６～ 11・13・14 層が竈に関連する堆積土である。袖部は逆位の土師器の甕を芯材とし，灰白色粘土や黄褐色砂粒を含む第 13 層，ロームブロックが主体の



土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量
3 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
4 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 明褐色 ロームブロック多量
6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
7 灰褐色 粘土ブロック中量，ローム粒子少量
8 灰褐色 焼土ブロック中量，粘土ブロック少量
9 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
10 灰褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子微量
11 明赤褐色 焼土ブロック多量，灰中量，炭化粒子微量
12 暗褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック中量
13 灰白色 灰白色粘土ブロック多量，黄褐砂粒中量
14 褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
15 暗褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック少量，炭化物微量
16 黄褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
17 暗褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック中量
18 褐色 ロームブロック多量，粘土ブロック中量，焼土ブロック微量

第 127 図　第 24 号竪穴建物跡実測図（1）



第 128 図　第 24 号竪穴建物跡実測図（２）

Ｐ１土層解説
1　灰　白　色　ロームブロック・粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物少量
2　褐　　色　ロームブロック多量

Ｐ２土層解説
1　明　褐　色　ロームブロック多量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量

Ｐ３土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック多量
3　明　褐　色　ロームブロック多量（２よりしまり強）

Ｐ４土層解説
1　灰　白　色　粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土ブロック少量
2　明　褐　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量

Ｐ５土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量

Ｐ６土層解説
1　明　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ９・10 土層解説
1　褐　　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量
4　褐　　色　粘土ブロック中量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量

第 14 層を積み上げて構築している。第 11 層は燃焼部の堆積土で，火床面は床面をやや掘りくぼめている。

ピット　23 か所。拡張後の建物跡に帰属するピットは，Ｐ１～Ｐ８，P16・P17・P21・P23 である。Ｐ１～Ｐ４は深さ 52 ～ 75cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さは 60cm で，北側に向かって斜めに掘り込まれており，配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ７・Ｐ８は深さ 35cm，15cm で，竈の両脇に配置されており，竈に関連する施設に伴うピットの可能性がある。P16・P17・P21・P23 は掘方調査時にコーナー部で確認できたもので，深さはそれぞれ 27cm，27cm，20cm，29cm である。上屋を保持する補助的な柱穴の可能性がある。いずれの底面にも，柱のあたりを確認した。拡張前の建物跡に帰属するピットはＰ９～ P20・P22 である。P11 ～ P15 は，深さがそれぞれ 45cm・33cm・62cm・31cm・35cm で，規模と配置から主柱穴である。P18 ～ P20・P22 は壁溝際に並ぶピットで，深さはそれぞれ 43cm・37cm・52cm・22cm である。P19 が配置から出入口施設，P18・P20・P22 は補助的な柱穴の可能性がある。Ｐ９・P10 は深さ 30cm・20cm と浅いが柱の当たりが確認できた。竈袖部の下に位置することから，拡張前の

建物跡に伴うと考えられるが，機能については不明である。旧竈の芯材を据えたピットの可能性もある。

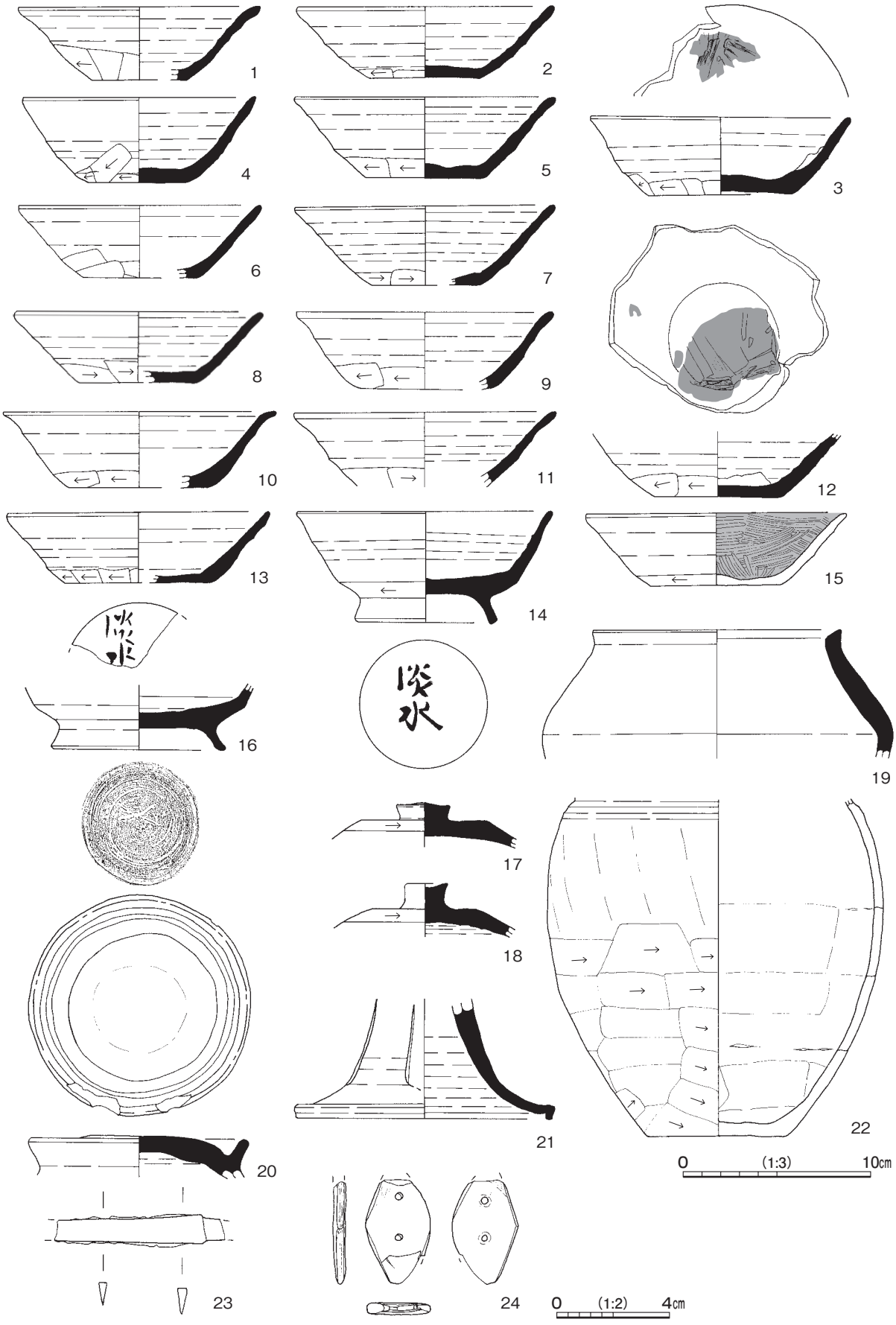
覆土　５層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 570 点（坏 70, 高台付坏 1 , 坩 1 , 高坏 14, 甕･甑類 483, 不明 1), 須恵器片 440 点（坏 189，高台付坏 11，蓋 13，盤 1 ，短頸壺 1 ，円面硯 1 ，鉢・甕・甑類 224)，金属製品 4 点（刀子 2 ，釘$_{カ}$ 2)，石製品 1 点（石製模造品)，鍛冶関連遺物（椀状滓 752.00 ｇ，鉄塊系遺物 104.75 ｇ，鉄滓 185.31 ｇ)，焼成粘土塊 112.67 ｇのほか, 剥片 1 点（瑪瑙）が出土している。３･12 は内面にスサ入りの粘土が付着している。７･13･20･31 が床面から，１･21 は掘方から出土したものであるが，両者に大きな時間差は確認できない。２･３･６･９･11･12･15 は竈の崩落土中から出土した。22 の甕は火床面から逆位で出土しており，支脚に転用されたものと考えられる。25･28 は竈袖の芯材に再利用されたもので，いずれの甕も体部中位に粘土の圧着痕が確認できる。24 は時期的に遡るものであり，混入と考えられる

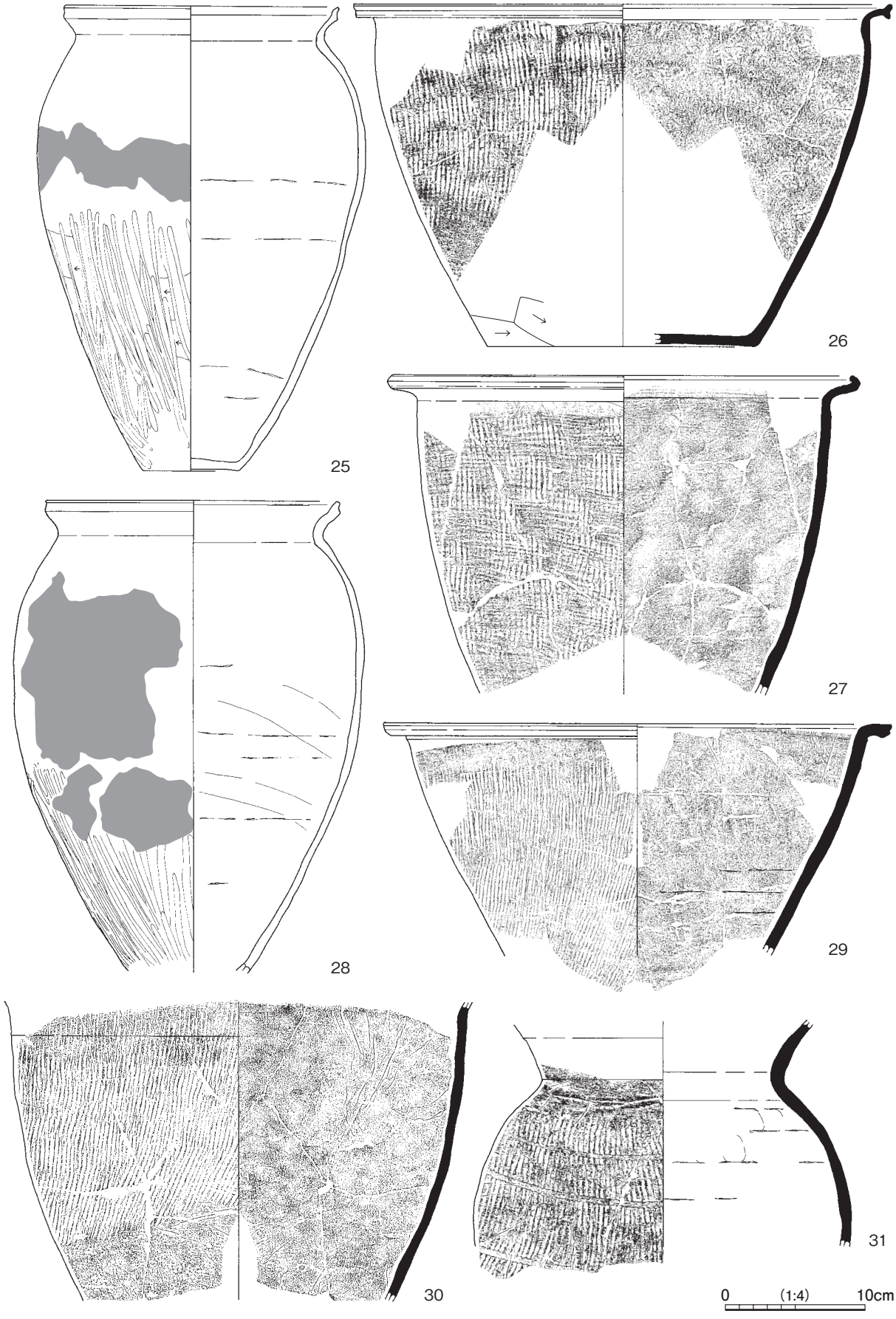
所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。出土土器から，大きな時間差なく建て替えられたものと考えられる。

表 81　第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 129・130 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	［12.8］	3.8	［5.0］	石英・雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	４区掘方	10%新治窯
2	須恵器	坏	［13.4］	3.7	5.8	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	竈・２区 1x	50%新治窯
3	須恵器	坏	13.4	4.1	7.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ削り　内面に粘土塊付着	竈覆土中	80%新治窯 PL34
4	須恵器	坏	［12.4］	4.5	5.4	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	１区上層	50%新治窯
5	須恵器	坏	［13.8］	4.2	6.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	１区下層	50%新治窯
6	須恵器	坏	［12.8］	3.8	［6.2］	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	竈覆土中	20%新治窯
7	須恵器	坏	13.7	4.2	5.8	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	１区床面	80%新治窯 PL34
8	須恵器	坏	［12.8］	3.8	［6.2］	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　酸化焔焼成	Ｐ５上層	25%新治窯
9	須恵器	坏	［13.6］	3.1	［7.2］	長石・石英	黒褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　酸化焔焼成	竈覆土中	20%新治窯
10	須恵器	坏	［14.4］	4.0	［7.4］	長石・石英・細礫・黒色湧出物	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	Ｐ５中層	20%堀之内窯$_{カ}$
11	須恵器	坏	［13.8］	(3.9)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　酸化焔焼成	竈覆土中	10%新治窯
12	須恵器	坏	－	(3.4)	6.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　内面に粘土塊付着	竈覆土中	40%新治窯 PL34
13	須恵器	坏	［13.8］	3.7	［7.7］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　墨書「淡水」	４区床面	40%新治窯
14	須恵器	高台付坏	13.4	5.8	7.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部に墨書「淡水」朱墨$_{カ}$	１区下層	80%新治窯 PL34
15	土師器	坏	［13.8］	3.8	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理　底部回転ヘラ削り	竈燃焼部	50% PL34
16	須恵器	高台付坏	－	(3.5)	9.1	長石・石英・雲母・細礫	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付　底部にヘラ記号「×」	４区下層	50%新治窯
17	須恵器	蓋	－	(2.3)	－	長石・石英・雲母・黒色湧出物	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	２区１ｘ	30%堀之内窯$_{カ}$
18	須恵器	蓋	－	(2.2)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り　酸化焔焼成	竈上層	40%新治窯 PL34
19	須恵器	短頸壺	［13.0］	(6.3)	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロクロ成形　外面剥離	３区上層	20%新治窯$_{カ}$ PL49
20	須恵器	円面硯	径 11.7	(2.1)	－	長石・石英・黒色湧出物	褐灰	良好	ロクロ成形　脚部欠損	２区床面	30%堀之内窯$_{カ}$ PL34
21	須恵器	高盤	－	(6.3)	［13.6］	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部　透かし孔２孔確認　酸化焔焼成	１区掘方	30%新治窯
22	土師器	甕	－	(17.9)	7.2	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ　下半ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部木葉痕　焼成によるひずみ有	竈火床部	70% PL34
25	土師器	甕	19.5	33.2	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面上半ヘラナデ　粘土貼付　下半ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部木葉痕	竈右袖部	95% PL35
26	須恵器	鉢	［38.4］	24.5	［19.4］	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外面平行叩き　下端部ヘラ削り　内面当て具痕　底部ナデ　酸化焔焼成	竈・４区下層	40%新治窯 PL35
27	須恵器	鉢	［23.9］	(23.3)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面平行叩き　内面当て具痕	４区下層	30%新治窯 PL35
28	土師器	甕	20.8	(33.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面上半ヘラナデ　粘土付着　下半ヘラ削り後ヘラ磨き　内面ヘラナデ	竈左袖部	90% PL35
29	須恵器	鉢	［36.4］	(16.5)	－	長石・石英	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き　内面当て具痕	４区上層	20%新治窯 PL49
30	須恵器	鉢	－	(21.4)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き　下半部ヘラ削り　内面当て具痕　ヘラナデ	４区床面	30%新治窯
31	須恵器	甕	－	(16.2)	－	長石・石英・雲母	灰	良好	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き内面ナデ　体部下位が焼ひずみ	４区床面	30%新治窯$_{カ}$ PL49



第 129 図　第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 130 図　第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）

表 82　第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 129 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
23	刀子	(6.0)	1.1	0.3	4.66	鉄	刀身～茎部分　両端欠損	３区床面	PL53
32	刀子カ	(4.2)	1.1	0.6	8.4	鉄	刀身カ　錆化で不明瞭	４区１ｘ	観察表のみ
33	釘カ	(4.4)	0.8	0.5	5.4	鉄	断面長方形カ　錆化で不明瞭	２区床面	観察表のみ
34	釘カ	(3.2)	0.6	0.4	2.2	鉄	断面長方形　鉄鏃茎部あるいは紡錘車の軸部の可能性有	２区床面	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
24	石製模造品	(3.7)	2.3	0.4	6.13	雲母片岩	剣形　有孔円板の再利用か　周縁研磨　片面穿孔	３区３ｘ	PL52

第 25 号竪穴建物跡（第 131 ～ 133 図　PL７）

位置　調査Ⅱ区北西部のＮ２g9 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 4.72 ｍ，短軸 4.34 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁は高さ 48cm で，直立している。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。竈部分を除き，壁溝が全周している。

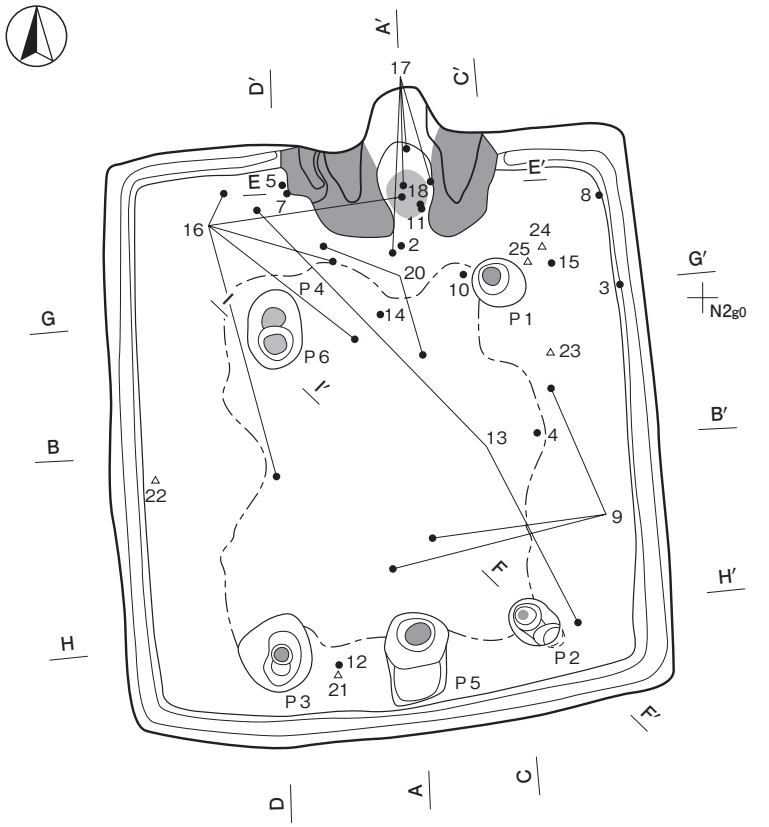
竈　北壁中央部に付設されている。付設する部分を楕円形状に掘り込み，ロームブロックを含む褐色土の第 24 層で埋土して構築している。規模は焚口部から煙道部まで 117cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第６～８・10 ～ 23 層が竈に関連する堆積土である。袖部は砂質粘土が主体の第 20 ～ 23 層を積み上げて構築されている。作図時の観察では，左袖の西側に，色調や含有物が異なる粘土が袖状に堆積している様子が観察できたようであるが，写真で確認する限り，粘土に明瞭な差異は見られない。写真では右袖の東側にも同様の粘土ブロックが存在する。ピットの状況から建て替えの可能性があるため，竈の作り替えも想定できることから旧竈の一部とも考えられるが，断面からは読み取ることができない。最終的に袖部の断ち割り調査をしていないので，詳細は不明である。第 19 層は火床部の堆積土で，火床面は床面を５～ 10cm ほど掘りくぼめている。

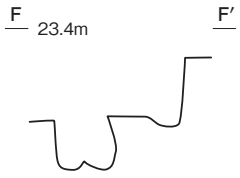
ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 35 ～ 43cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ２・Ｐ３は底面が有段で一方に柱の当たりが確認でき，建て替えの痕跡と考えられる。Ｐ６は深さは 50cm でＰ４と重複している。２つのピットの重複関係は捉えられていないが，それぞれに柱の当たりが確認でき，柱の建て替えの可能性がある。Ｐ５は深さ 30cm で，底面に柱の当たりを確認した。配置や堆積状況から推測される柱痕の状況から出入口施設に伴うピットと考えられる。

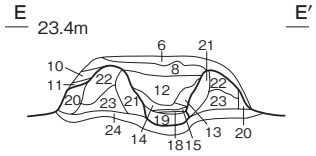
覆土　９層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

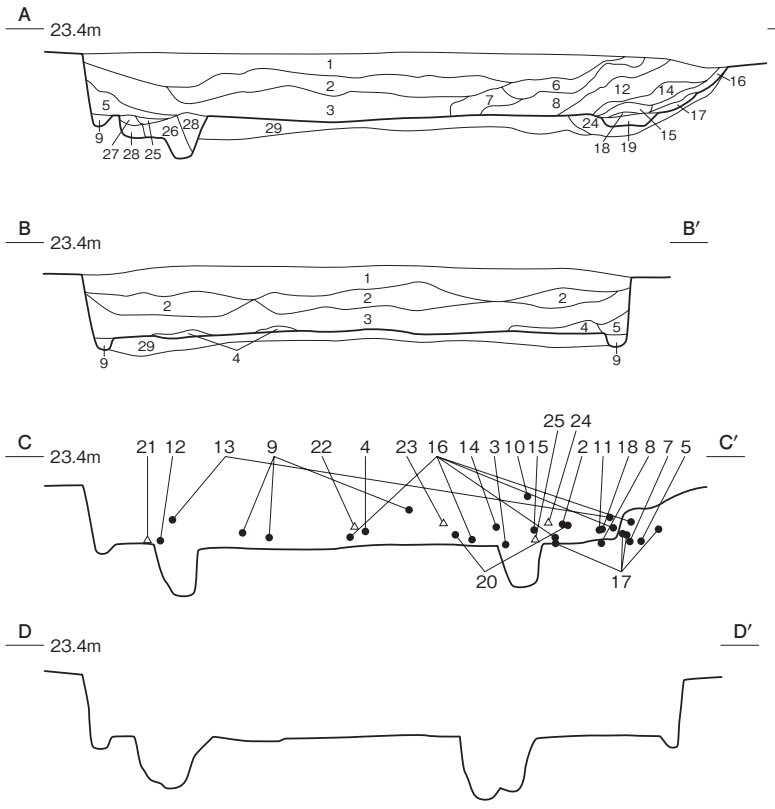
遺物出土状況　土師器片 506 点（坏 13，高坏１，甕類 492），須恵器片 268 点（坏 137，高台付坏２，蓋９，盤 14，瓶類６，鉢・甕・甑類 100），金属製品５点（刀子４，鉄鏃１），鍛冶関連遺物（鉄滓 54.48 ｇ，鉄塊系遺物 166.35 ｇ），焼成粘土塊 22.83 ｇのほか，縄文土器片１点，磁器片１点（皿）が出土している。大形の破片は，覆土上層から中層に多く出土している。３・５・７・８・12 は床面から，11 は竈の崩落土中，17 は竈の底面からそれぞれ出土している。24・25 はややレベル差があるが，ほぼ同じ位置から出土している。25 はほぼ完形で，刃渡り 18cm の大型のものである。６の底部にある墨書「淡水」は，第 24 号竪穴建物跡出土土器にも確認できた。３・11 の底部にも墨書があるが，はっきりしない。３は「淡水」，11 は「嶋名」と読むことも可能である。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。



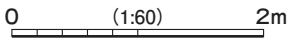




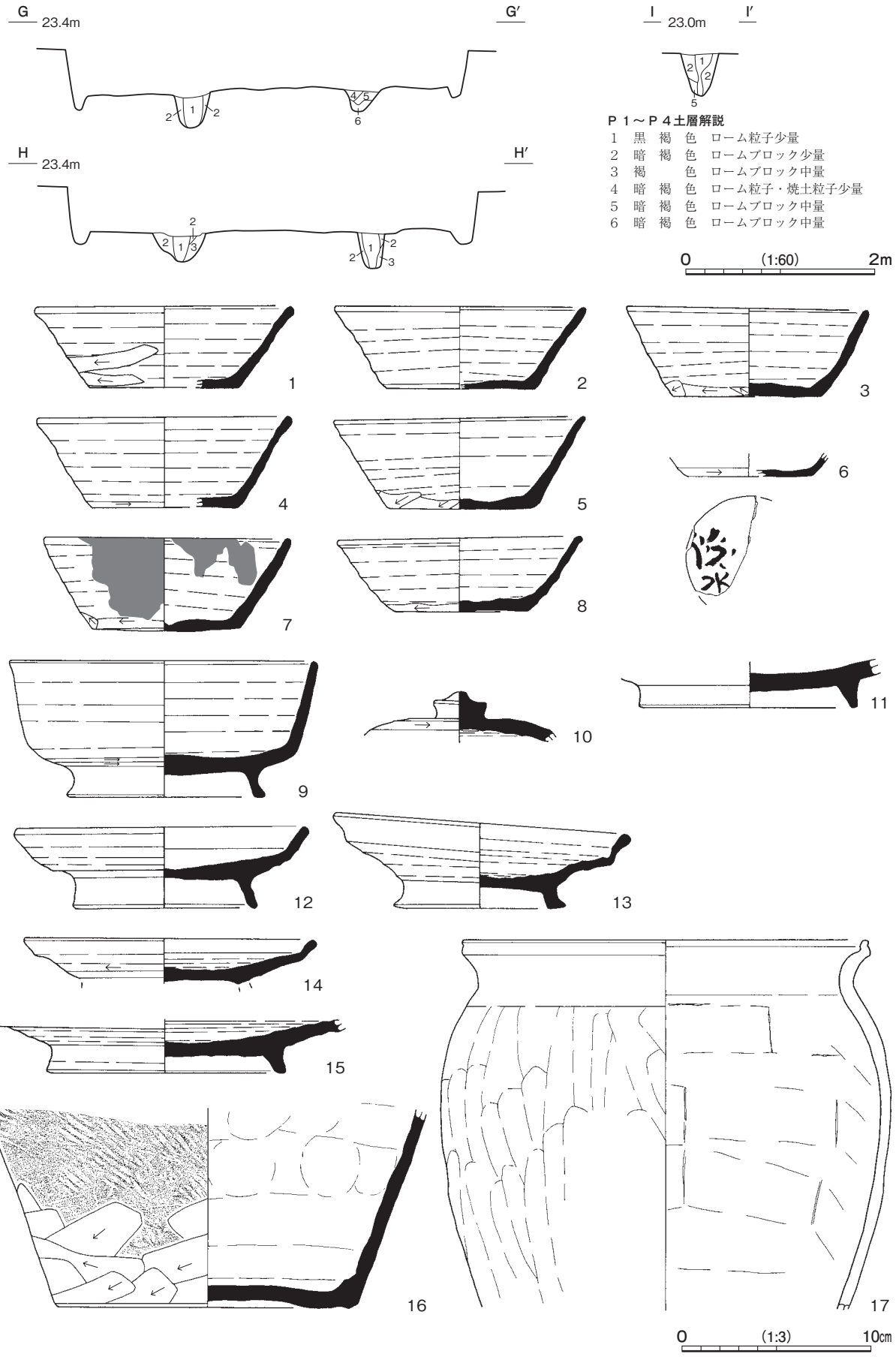


土層解説

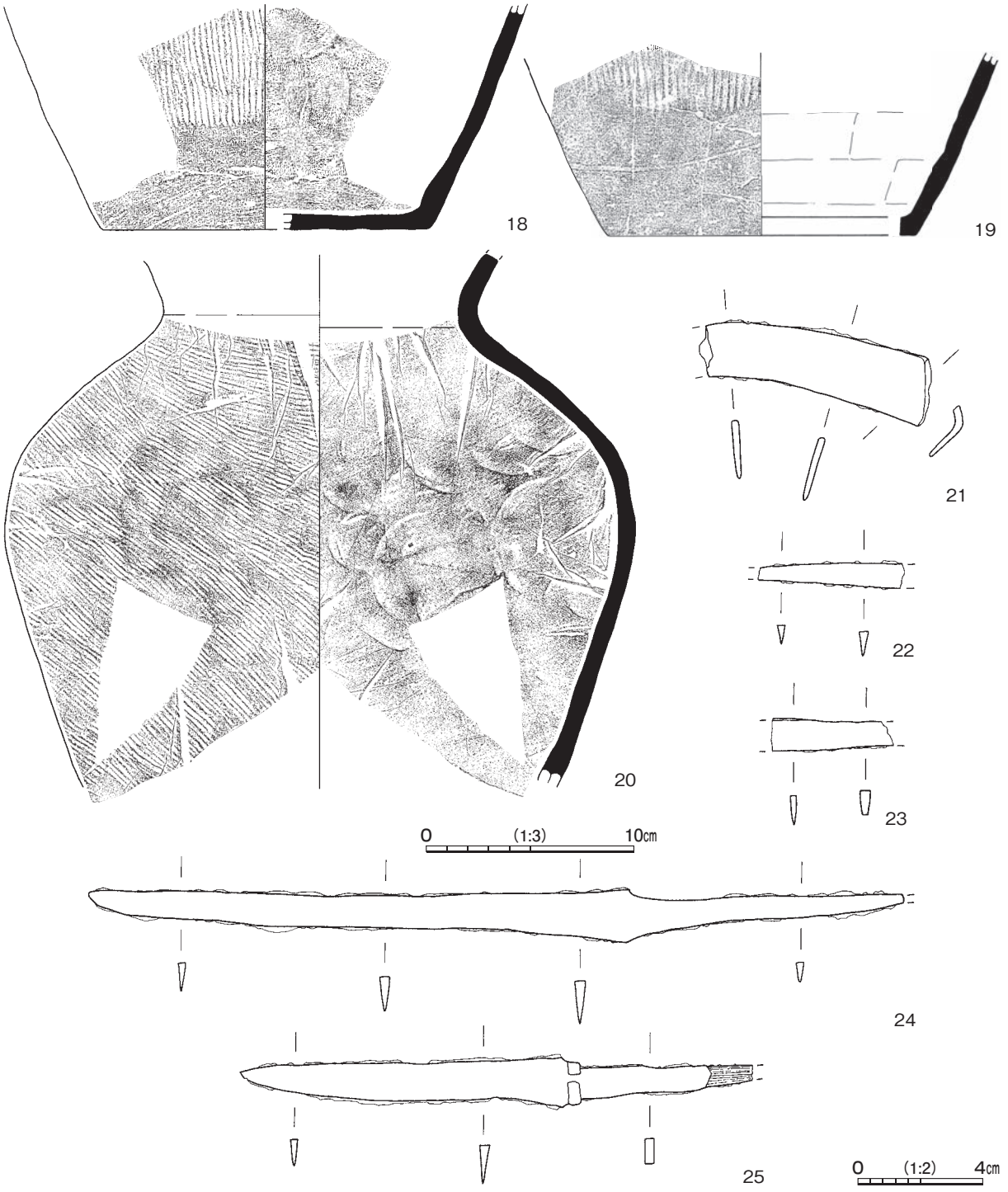
1	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
5	暗	褐	色	ローム粒子微量
6	黒	褐	色	粘土小ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7	暗	褐	色	粘土小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗	褐	色	ロームブロック少量
9	黒	褐	色	粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子少量
10	にぶい赤褐色			焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
11	暗	褐	色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
12	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13	暗赤褐色			焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
14	暗赤褐色			焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量
15	にぶい黄褐色			砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
16	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子微量
17	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
18	にぶい赤褐色			焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
19	赤	褐	色	焼土ブロック多量，灰少量，ローム粒子微量
20	にぶい黄褐色			粘土ブロック少量，ローム粒子・砂粒微量
21	にぶい黄褐色			焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量
22	にぶい黄褐色			砂質粘土ブロック中量，砂粒微量
23	にぶい黄褐色			粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
24	褐		色	ロームブロック少量
25	黒	褐	色	ローム粒子微量
26	黒	褐	色	ローム粒子少量
27	暗	褐	色	ロームブロック少量
28	暗	褐	色	ロームブロック中量
29	褐		色	ロームブロック少量



第 131 図　第 25 号竪穴建物跡実測図



第 132 図　第 25 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 133 図　第 25 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 83　第 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 132 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	［13.4］	4.2	［7.9］	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	４区１ｘ	30% 新治窯
2	須恵器	坏	［13.1］	4.3	［7.8］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	不良	体部下端回転ヘラ削り　底部回転糸切り後ナデ　酸化焔焼成	１区中層	40% 新治窯
3	須恵器	坏	12.5	4.8	7.8	石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　底部に墨書「淡水」カ	１区床面	90%新治窯 PL35
4	須恵器	坏	［13.0］	4.7	［7.6］	長石・石英・雲母・細礫	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り	２区下層	30%新治窯
5	須恵器	坏	13.1	4.8	7.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	４区床面	100%新治窯 PL35
6	須恵器	坏	－	（1.3）	［6.6］	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　墨書「淡水」	３区１ｘ	５％新治窯

表 84　第 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 132・133 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
7	須恵器	坏	12.8	4.6	7.8	長石・石英・雲母・細礫	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　外・内面に油煙	４区床面	100％新治窯 PL35
8	須恵器	坏	13.0	3.9	7.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り　下半酸化焔焼成	１区床面	80％新治窯 PL35
9	須恵器	高台付坏	16.0	7.1	［10.3］	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後高台貼付	２区下層	70％堀之内窯ヵ PL35
10	須恵器	蓋	－	（2.6）	－	長石・石英・雲母・黒色湧出物	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	１区上層	20％新治窯
11	須恵器	盤	－	（2.5）	11.1	長石・石英・細礫	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付　墨書有「嶋名」ヵ　内底面研磨　硯に転用ヵ	竈燃焼部	60％新治窯
12	須恵器	盤	［15.1］	4.2	9.5	長石・石英・細礫	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付	３区床面	80％新治窯
13	須恵器	盤	15.3	5.0	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	１・４区中層	70％新治窯 PL35
14	須恵器	盤	［15.2］	（2.2）	－	長石・石英・雲母・細礫	暗灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後高台貼付　高台欠損後ナデ調整して再利用ヵ	４区中層	70％新治窯 PL35
15	須恵器	盤	－	（2.8）	12.5	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り後高台貼付	１区下層	70％新治窯
16	須恵器	鉢	－	（10.5）	16.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面横位のヘラナデ	４区下層	30％新治窯
17	土師器	甕	［21.4］	（19.5）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈底面	20％ PL49
18	須恵器	鉢	－	（10.7）	［16.0］	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き　下端ヘラ削り　内面当て具痕　内底面同心円状の当て具痕　底部摩滅	２区下層	30％新治窯
19	須恵器	甑	－	（8.7）	［14.6］	長石・石英・細礫	灰黄	良好	体部外面縦位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ	３区３ｘ	10％新治窯
20	須恵器	甕	［16.0］	（25.6）	－	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面斜位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面当て具痕	１・４区下層	20％新治窯 PL49

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
21	鎌	（7.2）	3.3	0.28	15.34	鉄	刃部先端部分欠損	２区床面	PL53
22	刀子	（4.7）	0.4 ～ 0.8	3.04	3.04	鉄	刀身部　両端欠損	３区中層	PL53
23	刀子	（3.9）	1.0	0.2 ～ 0.3	4.30	鉄	刀身部先端部欠損　刀身部～茎部分　茎部分欠損	１区中層	PL53
24	刀子	［26.2］	0.3 ～ 1.7	0.2 ～ 0.3	31.19	鉄	刀身～茎部分ほぼ完形　刃部先端切り出し状	１区下層	PL53
25	刀子	（16.4）	1.3	0.3	21.27	鉄	茎の先端部を除きほぼ全体が残存　茎先端部に木質残存　刀身と茎の境に止め金具有	１区床面	PL53

第 26 号竪穴建物跡（第 21・22・134 図　PL７）

位置　調査Ⅱ区南部の O ３h5 区，標高 24.0 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 20 号竪穴建物を掘り込んでいる。

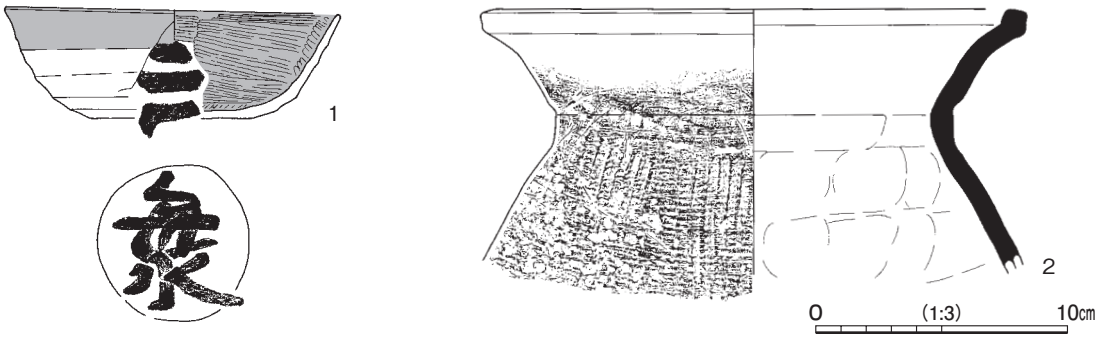
規模と形状　第 20 号竪穴建物跡の床面に，竈の袖の一部が確認できたことから２棟の重複と考えられる。竈より南側のほとんどが調査区域外となること，第 20 号建物跡の床面からは竈以外の施設は確認できなかったことなどから，規模と形状は不明である。断面で確認できた土層からは，一辺５～６ｍ前後の大きさが推定される。

竈　袖部を含む堆積土の一部が確認できたのみである。竈に関連する層は第２～６層で，第５層が袖部と考えられる。

覆土　第１層が本跡の覆土と考えられる。ローム粒子を含む黒褐色土で，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片３点（坏１，甕類２），須恵器片５点（甕）が出土している。本跡は竈の一部が捉えられたのみであることから，本跡に帰属する遺物は非常に少ない。重複する第 20 号竪穴建物跡の，南部の任意層位１ｘ（確認面下 10 ～ 15cm）出土の土器は，堆積土第１層にほぼ相当することから，これらの多くは本来的には本跡に帰属する可能性が高い。１・２は竈西側の床面付近から出土した。１は体部に「川」，底部外面に「毎水」の墨書が見られる。

所見　本跡は第 20 号竪穴建物跡の覆土中で，第１層下面が床面となる建物であることから，付属施設については不明瞭な部分が多い。時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。



第 134 図　第 26 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 85　第 26 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 134 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	13.1	4.3	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　口縁部黒色処理　内面ヘラ磨き　黒色処理　体部外面と底部に墨書「川」「毎水」	4 区床面	70% PL35
2	須恵器	甕	［20.1］	（10.4）	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面格子目叩き　内面ヘラナデ　当て具痕	4 区床面	10%新治窯 PL35

第 27 号竪穴建物跡（第 135・136 図　PL 7 ・ 8）

位置　調査Ⅱ区南西部の O 3h3 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 42 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第 28 号竪穴建物跡との新旧関係は不明である。

規模と形状　南部が調査区域外に延びているため，東西軸は 3.93 ｍで，南北軸は 2.27 ｍしか確認できなかった。隅丸方形あるいは隅丸長方形と推定され，主軸方向はＮ－ 2°－ Ｅである。壁は高さ 32 ～ 42cm で，直立している。

床　平坦で，竈前面から東壁際にかけて踏み固められている。竈東側から東壁際に壁溝が巡っている。

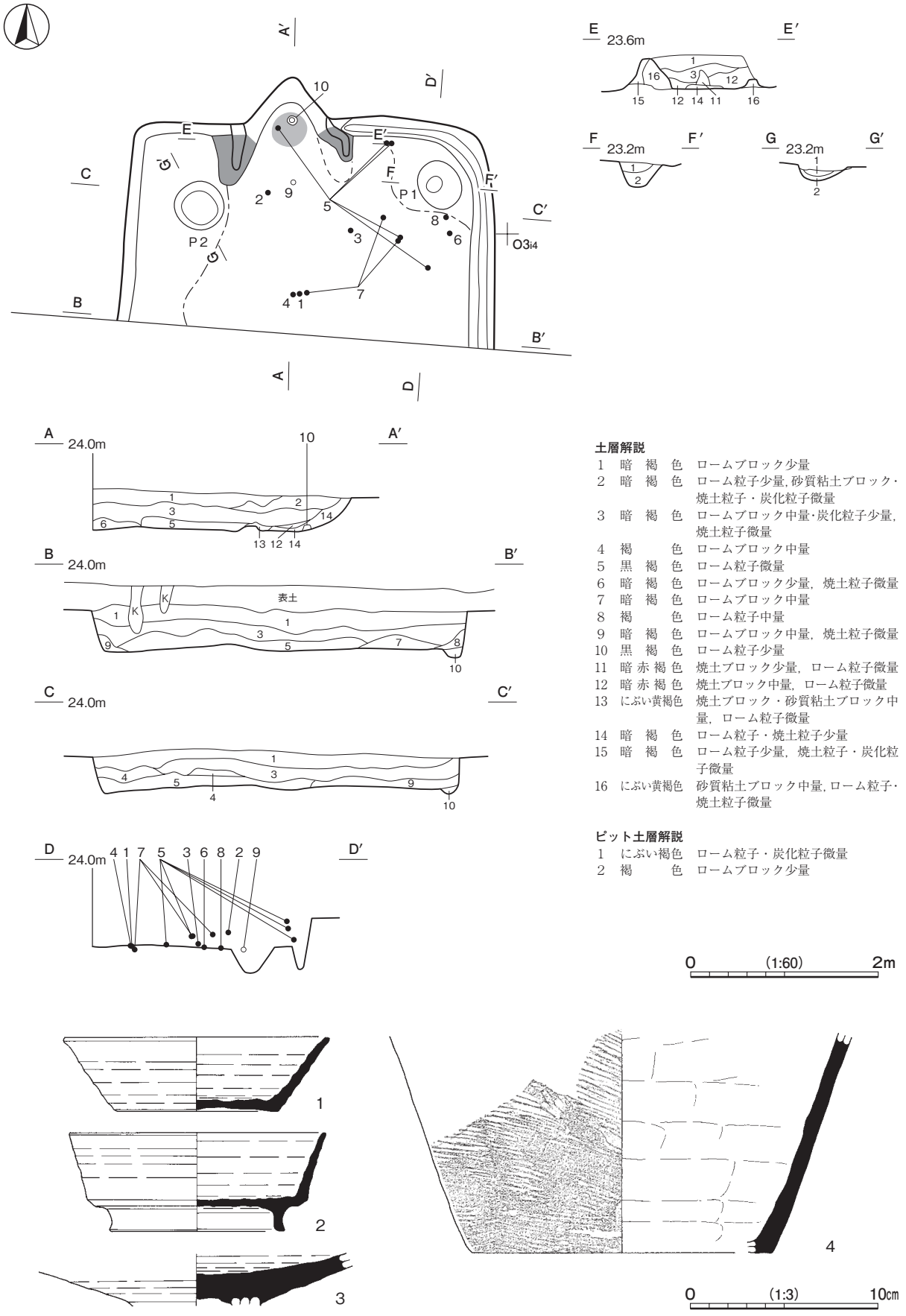
竈　北壁中央のやや西寄りに付設されている。上部が壊され，構築材がある程度撤去された状態で廃絶したものと考えられ，袖部も壁に近い一部が残存するのみである。規模は推定される焚口部から煙道部まで 110cm で，燃焼部幅は 70cm である。煙道部は壁外に 50cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第 11 ～ 16 層が竈に関連する堆積土である。袖部は砂質粘土主体の第 16 層と，粘土ブロックを含む暗褐色土を積み上げて構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，支脚の一部が残存している。

ピット　２か所。Ｐ１は深さ 25cm で，北東コーナー部に位置することから，掘方の一部の可能性がある。Ｐ２は深さ 15cm と浅く，規模と位置から主柱穴の可能性があるが，これと組みあう柱穴は確認できなかった。

覆土　10 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 187 点（坏 13，高坏２，甕類 172），須恵器片 52 点（坏 22，高台付坏４，蓋４，盤１，高盤２，瓶類１，鉢・甕・甑類 18），土製品１点（支脚），金属製品２点（釘ヵ），鍛冶関連遺物（羽口１，椀状滓 76.40 ｇ，鉄滓 64.10 ｇ，流動滓 54.16 ｇ，鉄塊系遺物 173.20 ｇ）のほか，剥片２点（黒曜石，瑪瑙）が出土している。１・３は床面から出土している。６は北東コーナー付近の床面からほぼ正位で出土した。完形で，体部中央に外側からの貫通孔が見られる。５は北東部の床面と，竈，北東部の覆土上層から出土した破片が接合したもので，体部中位と下端部に粘土の圧着が確認できる。７は北東部（１区）の覆土下層と床面出土の破片が接合している。鉄滓等の鍛冶関連遺物は覆土中から多く出土しており，埋没過程で廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。すぐ西側に第 28 号竪穴建物跡の竈が位置しており，残存状況から本跡を掘り込んでいると考えられる。出土土器の新旧関係からも矛盾しない。



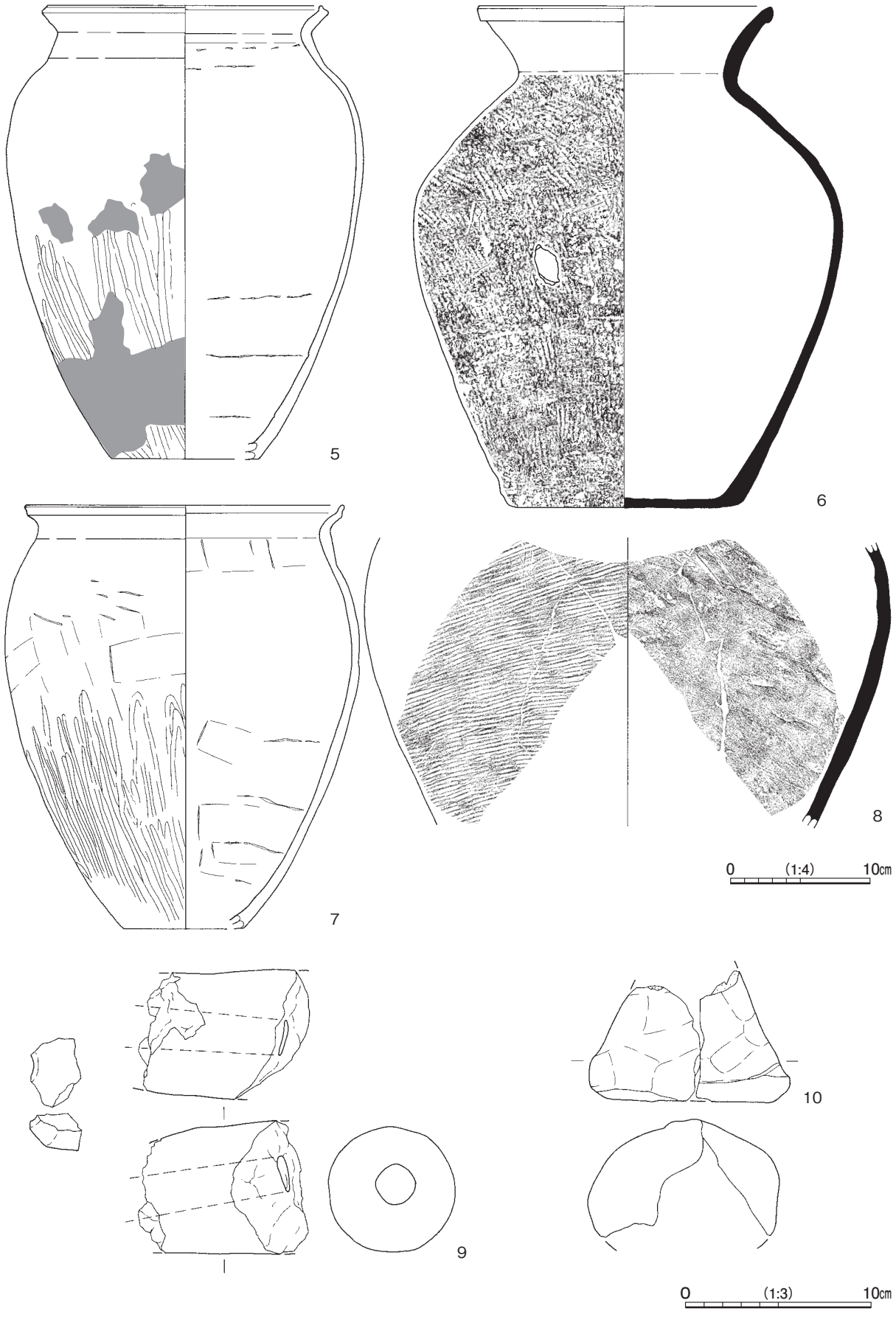
土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量,砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量・炭化粒子少量,焼土粒子微量
4 褐 色 ローム粒子中量
5 黒 褐 色 ローム粒子微量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量,焼土粒子微量
7 暗 褐 色 ローム粒子中量
8 褐 色 ローム粒子中量
9 暗 褐 色 ローム粒子中量,焼土粒子微量
10 黒 褐 色 ローム粒子少量
11 暗 赤 褐 色 焼土ブロック少量,ローム粒子微量
12 暗 赤 褐 色 焼土ブロック中量,ローム粒子微量
13 にぶい黄褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量,ローム粒子微量
14 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
15 暗 褐 色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量
16 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック中量,ローム粒子・焼土粒子微量

ピット土層解説

1 にぶい褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐 色 ローム粒子少量

第 135 図 第 27 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 136 図　第 27 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 86　第 27 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 135・136 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	須恵器	坏	［13.9］	3.9	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	良好	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	3区床面	30%新治窯
2	須恵器	高台付坏	［13.5］	5.2	9.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付	4区上層	60%新治窯 PL35
3	須恵器	高盤	－	（2.7）	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロクロ成形　内面に煤付着	1区床面	40%新治窯
4	須恵器	鉢	－	（11.6）	［16.0］	長石・石英・雲母・細礫	灰黄褐	普通	体部外面斜位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ	3区床面	10%新治窯
5	土師器	甕	［21.2］	32.5	［12.2］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半ヘラ磨き　粘土付着　内面ヘラナデ　底部木葉痕	1区床面・竈	50%
6	須恵器	甕	［20.8］	38.0	16.7	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き　下端部ヘラ削り　中位に外から中への貫通孔　内面ヘラナデ　底部摩滅	1区床面	90%新治窯 PL35
7	土師器	甕	22.8	（30.5）	［8.6］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ	1区下層～床面	80% PL35
8	須恵器	甕	－	（15.3）	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面横位の平行叩き　内面ヘラナデ	1区床面	10%新治窯

番号	器 種	最小径	最大径	長さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
9	羽口	（6.3）	（7.0）	（9.2）	393.05	長石	橙	孔径 2.3cm　接合しないが先端部破片有　一部ガラス化	4区床面	
10	支脚	（6.0）	10.7	（7.0）	396.02	長石・石英・雲母	にぶい橙	被熱による劣化が著しい　外面指頭ナデ	竈火床面	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
11	釘カ	2.0	0.4	0.4	1.3	鉄	断面方形	2区1ｘ	観察表のみ
12	釘カ	2.9	0.4	0.5	2.0	鉄	先端部カ　断面方形	2区1ｘ	観察表のみ

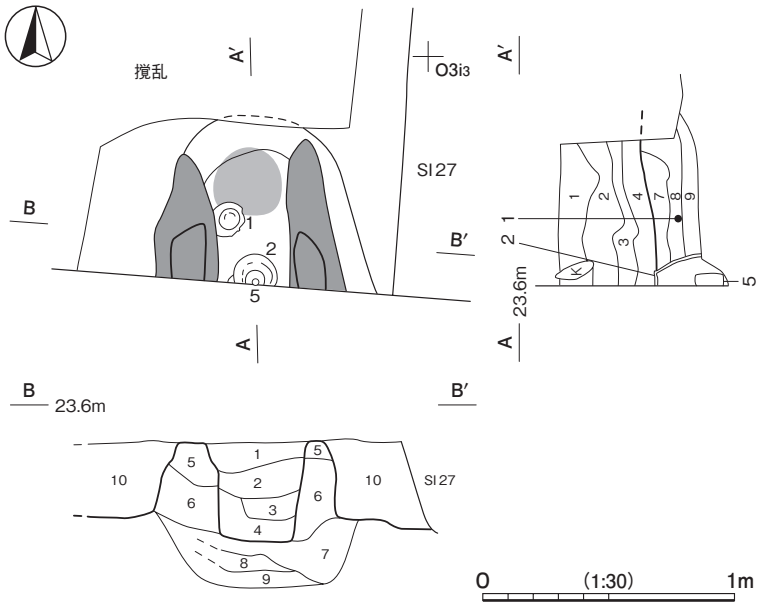
第 28 号竪穴建物跡（第 137・138 図　PL８）

位置　調査Ⅱ区南西部の O 3i2 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 42 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第 27 号竪穴建物跡との新旧関係は不明である。

規模と形状　南部が調査区域外に延びているため，竈の一部分しか確認できなかった。

竈　南部が調査区域外に延び，また北部は撹乱のため，袖の一部と火床面，及び掘方の一部が確認できたのみである。付設する部分を楕円形状に掘り込み，ロームブロックを含む暗褐色土を主体とした第７～９層で埋土して構築している。調査区南壁際の掘方底面にピット状の落ち込みがあり，支脚と，その上に土師器の甕が逆位に据えられている。ここを火床部とすると燃焼部幅は 30cm である。その北側に径 50cm の焼土が確認され



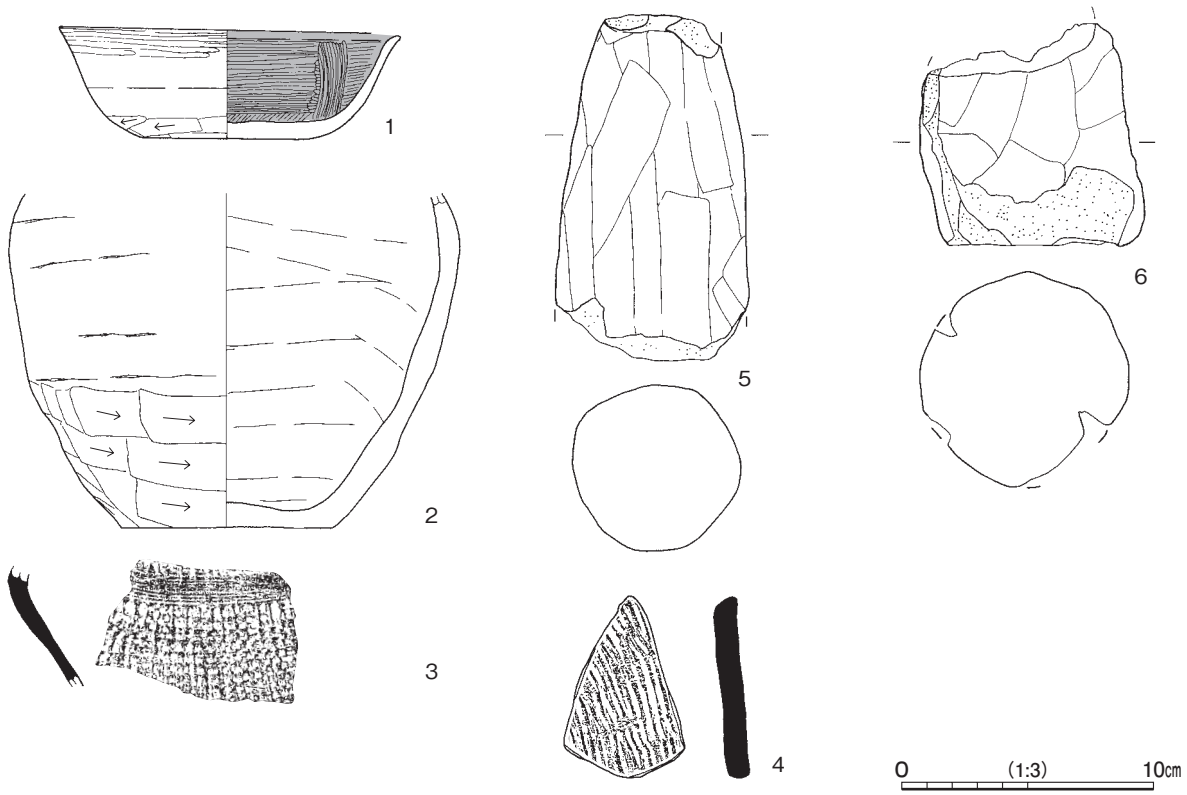
土層解説
1　暗褐色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　黒褐色　粘土ブロック少量
4　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子極微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
6　黒褐色　粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
8　褐　色　ロームブロック中量
9　暗褐色　ロームブロック中量
10　黒褐色

第 137 図　第 28 号竪穴建物跡実測図

ているが，出土層位や層厚は不明である。写真と断面図から，第４層の一部がそれにあたると考えられ，この部分を火床面とすると，縦並び二掛けの竈になる可能性がある。袖部は粘土ブロックを含む第５・６層を積み上げて構築している。

遺物出土状況　土師器片 66 点（坏２, 椀１, 高坏 10, 壺･甕類 53), 須恵器片５点（甕）のほか, 剥片１点（瑪瑙）が出土している。竈のみの調査のため，遺物は非常に少ない。出土土器のうち，椀や高坏，壺類は，重複する第 42 号竪穴建物跡に帰属するものと考えられる。１は火床面から正位で出土している。２は火床部の掘方に逆位で据えられていた甕の体部以下の個体で，支脚の転用と考えられる。この下位には５の支脚が据えられており，火床面を何度か作り直している可能性がある。４の須恵器の甕の破片は周縁部が研磨されており，砥石への転用と考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。



第 138 図　第 28 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 87　第 28 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 138 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	13.2	4.4	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面ヘラ磨き　体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理　底部一方向のヘラ削り	竈火床部	90% PL36
2	土師器	甕	－	(13.1)	8.4	長石・石英・細礫	明赤褐	普通	体部外面ナデ　指頭状の圧痕あり　下半ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ナデ	竈火床部	80% PL36
3	須恵器	甕	－	(4.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	不良	外面格子目叩き　内面剥離	竈覆土中	5% 新治窯
4	須恵器	甕	－	7.1	－	長石・石英	黄灰	普通	外面縦位の平行叩き　内面ヘラナデ　周縁研磨で砥石に転用	竈覆土中	5% 新治窯

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
5	支脚	4.5	7.6	(13.7)	510	長石	にぶい橙	頭部の一部と下端部が欠損　体部削り成形　下端部欠損	竈火床部	
6	支脚	6.5	8.8	(8.8)	472	長石	にぶい黄橙	頭部の一部と下端部残存　体部削り成形	１区１ｘ	

第 29 号竪穴建物跡（第 139・140 図　PL８）

位置　調査Ⅱ区南西部の O 2h0 区，標高 24 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 42 号竪穴建物跡を掘り込み，第 29 号溝に掘り込まれている。

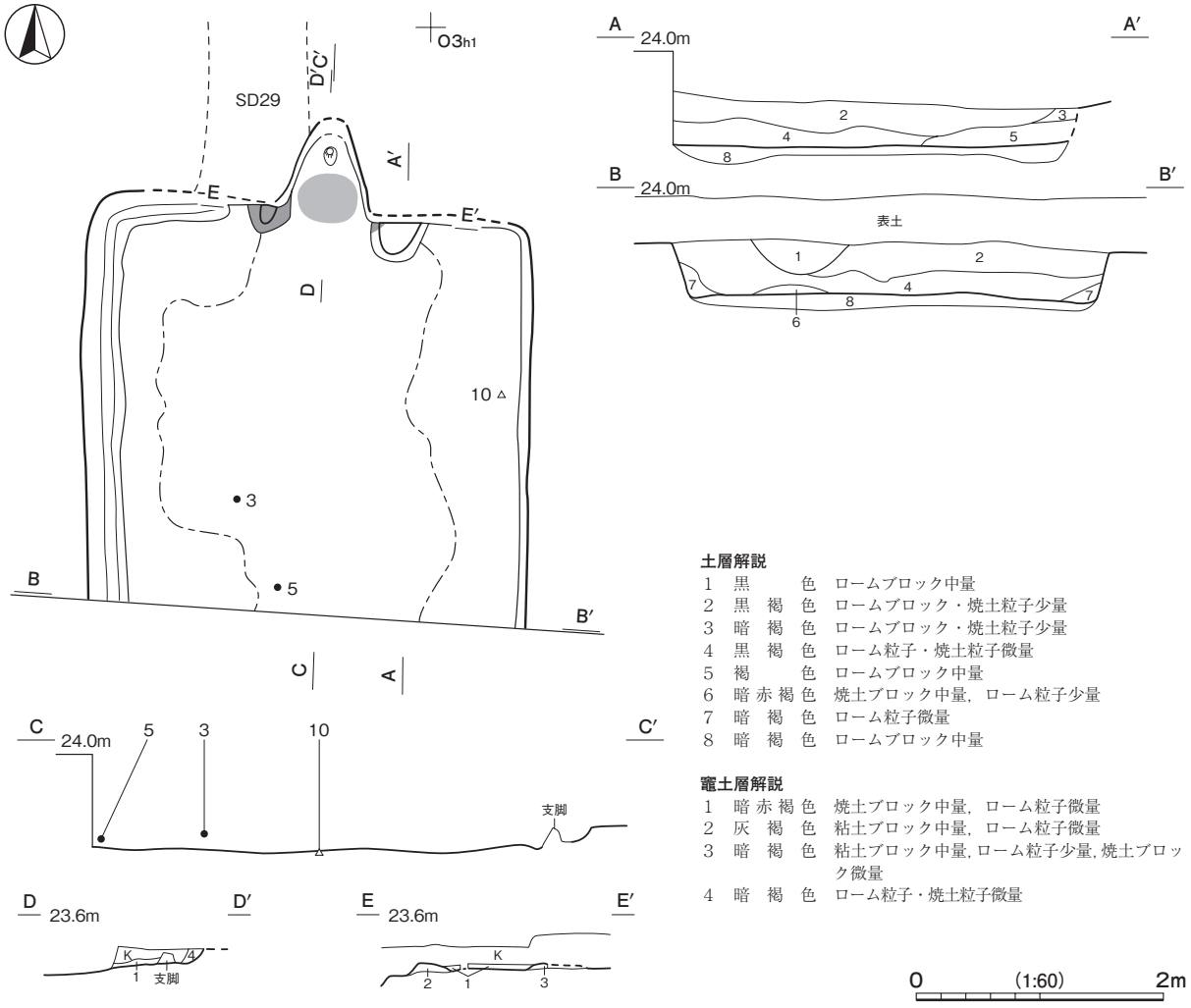
規模と形状　南部が調査区域外に延びているため，東西軸は 3.62 mで，南北軸は 3.30 mしか確認できなかった。隅丸方形あるいは隅丸長方形と推定され，主軸方向はＮ－１°－Ｗである。壁は高さ 28 ～ 44cm で，直立している。

床　平坦な貼床で，壁際を除いた中央部が踏み固められている。竈西側から西壁際に壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。上部が崩落し，袖部も壁に近い一部が残存するのみである。規模は推定される焚口部から煙道部まで 100cm で，燃焼部幅は 60cm である。煙道部は壁外に 80cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。袖部は粘土ブロック主体の基底部分のみが残存している。火床面は床面とほぼ同じ高さで，煙道部先端部近くに支脚の一部が残存している。縦並び二掛け竈の可能性がある。

覆土　６層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第１層は第 29 号溝の覆土，第８層は掘方の埋土である。

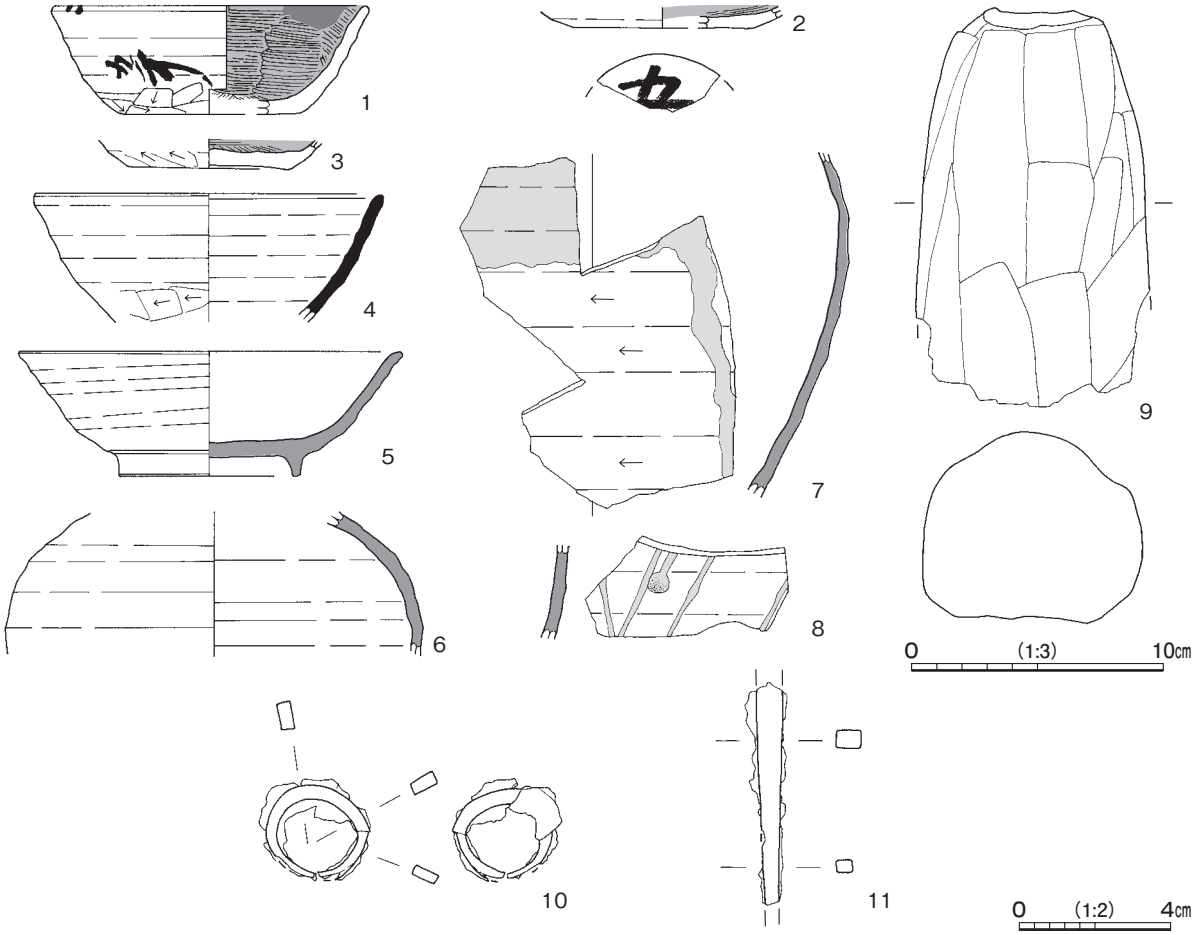
遺物出土状況　土師器片 141 点（坏 12，椀 10，高坏５，甕･甑類 114），須恵器片 37 点（坏３，蓋１，高盤１，鉢・甕・甑類 32），灰釉陶器片４点（椀１，瓶３），土製品１点（支脚），金属製品３点（鉄鏃$_{カ}$１，釘$_{カ}$１，責



第 139 図　第 29 号竪穴建物跡実測図

金具１），鍛冶関連遺物（椀状滓 110.53 ｇ，鉄塊系遺物 48.84 ｇ，鉄滓 50.86 ｇ）のほか，剥片１点（黒曜石）が出土している。総量として遺物は少ない。３・５は，南西部の床面付近から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。



第 140 図　第 29 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 88　第 29 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 140 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［12.3］	4.3	［7.2］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　墨書「多」 内面ヘラ磨き 黒色処理　底部一方向のヘラ削り　口縁部に油煙	２ｘ	20%　PL36 SI42 出土と接合
2	土師器	坏	－	（0.8）	［7.0］	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　黒色処理　底部に墨書「□」	１ｘ	10%
3	土師器	坏	－	（1.1）	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理 底部一方向のヘラ削り	３区下層	20%
4	須恵器	坏	［13.1］	（5.1）	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	10%新治窯
5	灰釉陶器	椀	［15.1］	4.9	7.1	長石	灰白	良好	内面施釉	３区下層	80%　PL36 黒笹 14 号窯式
6	灰釉陶器	瓶類	－	（5.5）	－	長石・石英・黒色粒子	灰オリーブ	良好	外面施釉	１ｘ	10%猿投葉ヵ
7	灰釉陶器	瓶類	－	（13.7）	－	長石・石英	褐灰	良好	外面下半回転ヘラ削り	竈覆土中	10%猿投葉ヵ PL49
8	灰釉陶器	瓶類	－	（3.7）	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	外面施釉　釉垂れ	２ｘ	10%猿投葉ヵ

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
9	支脚	3.2	9.1	（15.6）	703	長石	にぶい赤褐	頭部残存　下端部欠損　体部削り成形	竈煙道部	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
10	責金具	径 2.4 ～ 2.8	0.6 ～ 0.7	0.2 ～ 0.4	10.01	鉄	表面劣化による剥離が著しい　図右が鉄板の継ぎ目ヵ	１区床面	PL53
11	鉄鏃ヵ	（5.8）	0.4 ～ 0.7	0.3 ～ 0.5	7.68	鉄	上下端欠損　断面長方形	覆土中	PL53
12	釘ヵ	2.6	0.6	0.2	1.6	鉄	鋭角に屈曲　断面長方形　両端部欠損	２ｘ	観察表のみ

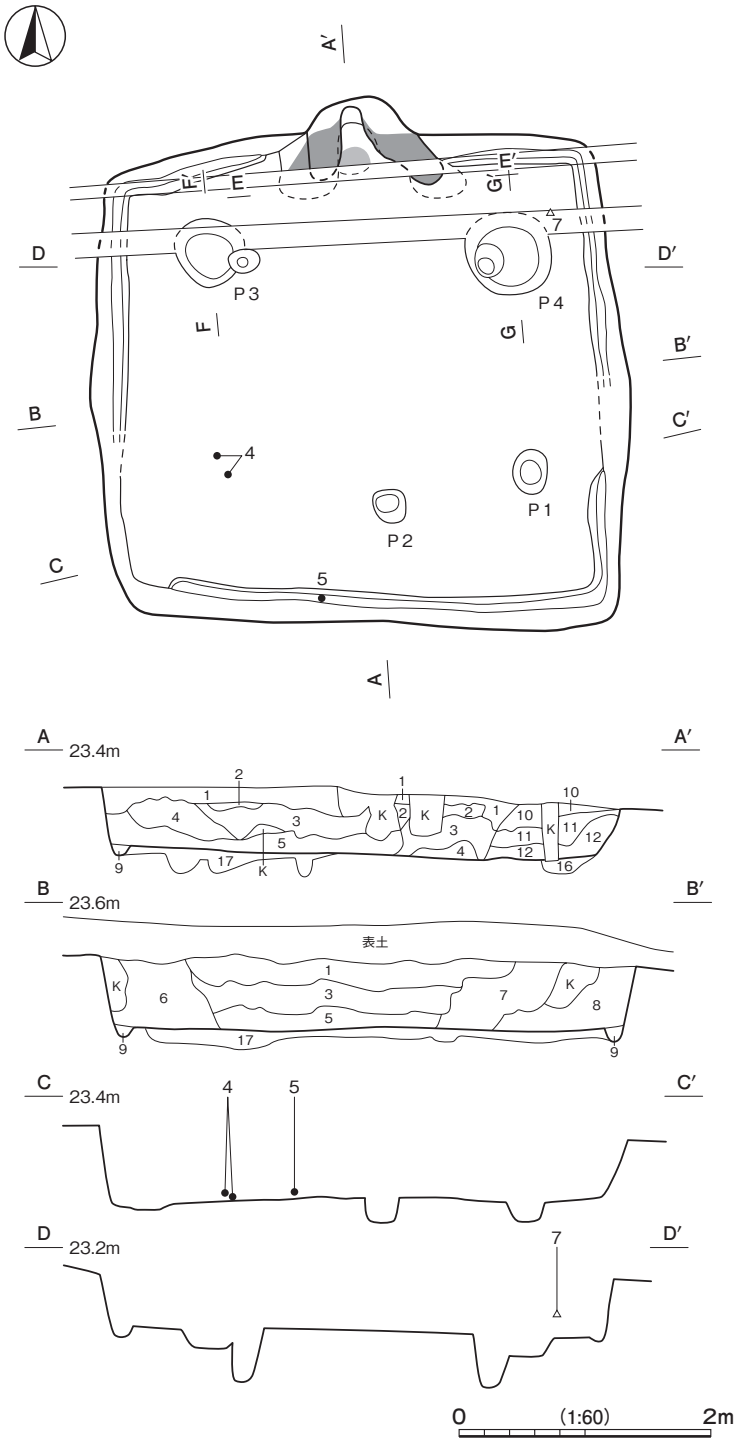
第 30 号竪穴建物跡（第 141・142 図　PL８）

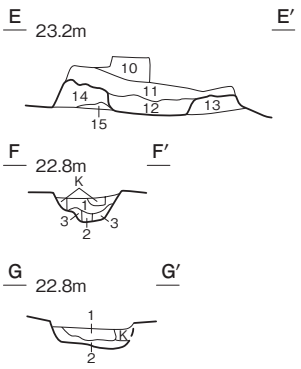
位置　調査Ⅱ区北西部のＮ２e9 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 4.28 ｍ，短軸 3.95 ｍの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁は高さ 37 ～ 65cm で，直立している。

床　平坦な貼床で，東壁の一部と南西コーナー部を除き壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 70cm で，燃焼部幅は 45cm である。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ，外傾している。第 10 ～ 16 層が竈に関連する堆積土で，第 11・12 層は粘土





N2f0

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量
10　暗　褐　色　焼土粒子･炭化粒子少量，ロームブロック・粘土ブロック微量
11　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
12　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子少量
13　灰黄褐色　粘土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
14　暗　褐　色　粘土ブロック多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
15　暗　褐　色　粘土ブロック多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
16　褐　　色　ロームブロック多量，粘土ブロック・焼土粒子微量
17　褐　　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量

ピット土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子多量

第 141 図　第 30 号竪穴建物跡実測図

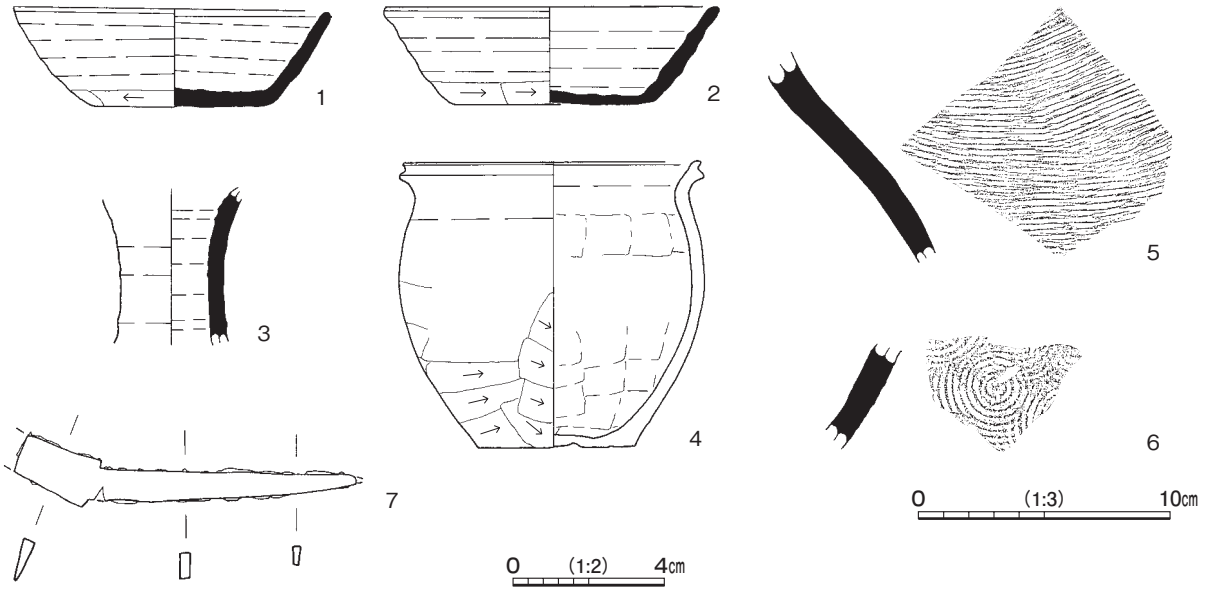
ブロックを多く含む暗褐色土で天井部の崩落土，第 13 ～ 15 層が袖部の構築土，第 16 層が掘方への埋土である。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。

ピット　4 か所。Ｐ 3 は深さ 44cm，Ｐ 4 は深さ 40cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ 1 は深さ 15cm と浅いが，配置から主柱穴の可能性が高い。Ｐ 2 は深さ 23cm で，配置から出入口施設に伴うものと考えられる。

覆土　9 層に分層できる。不整合な堆積状況から，埋め戻されている。第 17 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 175 点（坏 21，椀 3，高坏 2，甕・甑類 149），須恵器片 96 点（坏 81，瓶類 2，鉢・甕・甑類 13），金属製品 1 点（刀子），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 7.3 ｇ）が出土している。全体からまんべんなく出土しているが，総量は少ない。4 ・ 5 は南西部（3 区）床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 142 図　第 30 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 89　第 30 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 142 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	12.3	3.9	6.9	長石・石英・雲母・細礫	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	3 区 2 ｘ	70%新治窯 PL36
2	須恵器	坏	［13.1］	3.8	8.0	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	1 区 2 ｘ	30%新治窯
3	須恵器	長頸瓶	－	(6.1)	－	長石・石英	黒	普通	ロクロ成形	2 区 2 ｘ	20%堀之内窯ヵ
4	土師器	小型甕	［11.6］	11.3	6.0	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ナデ　下半部ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部木葉痕	3 区床面	60%
5	須恵器	甕	－	(8.3)	－	長石・石英・雲母・細礫	灰	普通	外面横位の平行叩き　内面ヘラナデ	3 区床面	20%新治窯
6	須恵器	甕	－	(4.1)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面同心円文叩き　内面ヘラナデ	3 区 4 ｘ	10%新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
7	刀子	(9.0)	0.2 ～ 1.2	0.2 ～ 0.3	7.72	鉄	刀身部から茎部分　刀身部屈曲	1 区中層	PL53

第 31 号竪穴建物跡（第 143 図　PL 9）

位置　調査Ⅱ区西部のＯ 2 b0 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 45 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.03 ｍ，短軸 2.92 ｍの方形で，主軸方向はＮ － 8 ° － Ｗである。壁は高さ 30 ～ 43cm で，直立している。

床　平坦な貼床で，壁際を除く中央部が踏み固められている。南壁の一部を除き壁溝が巡っている。

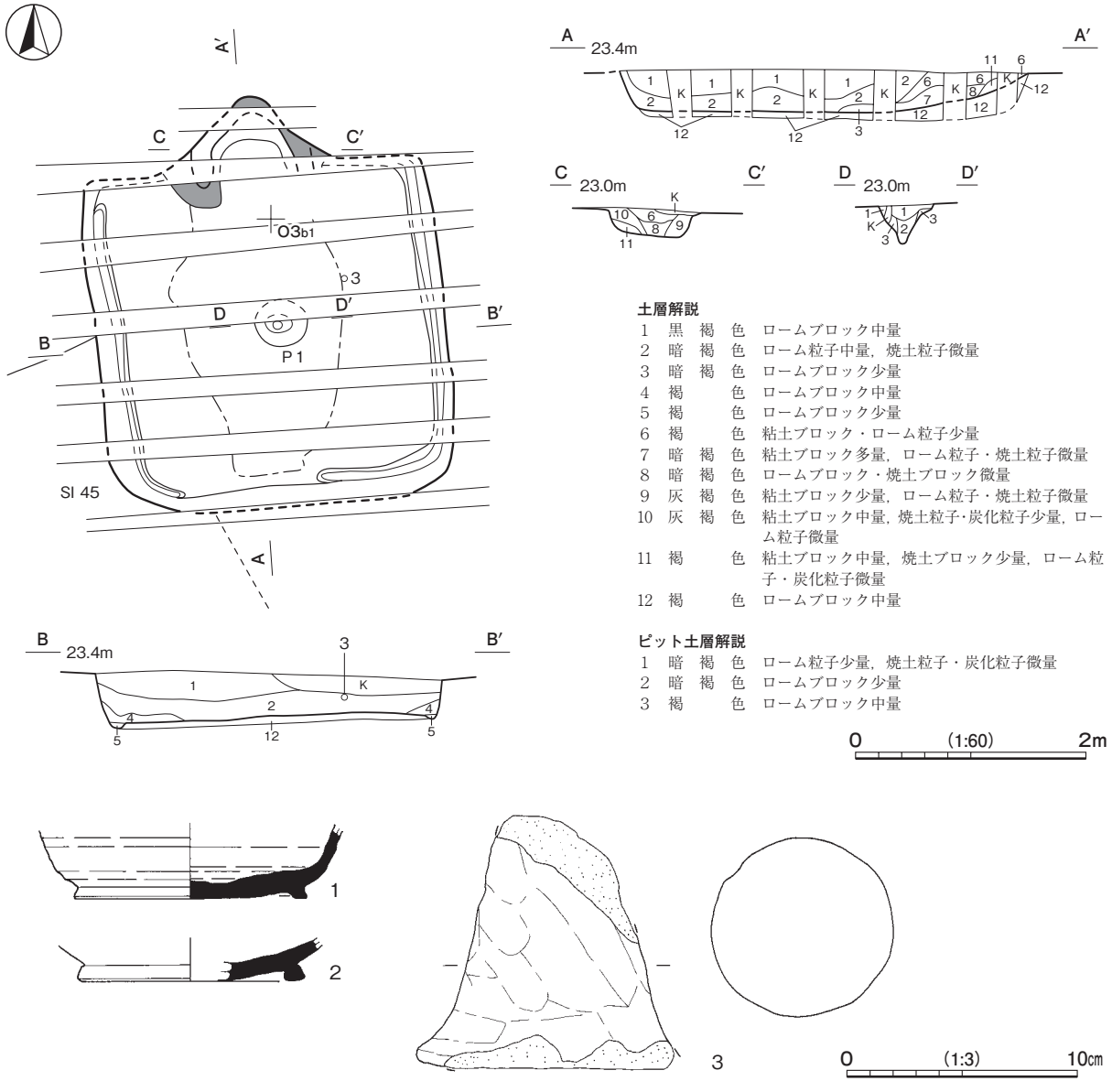
竈　北壁中央部に付設されている。天井部・袖部ともほとんど残存しておらず，袖部は粘土が痕跡的に残存する程度である。火床面の赤変硬化もほとんど確認できなかったことから，規模は不明である。煙道部は壁外に30cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第６～11 層が竈に関連する堆積土で，第９・11 層は粘土ブロックを多く含む灰褐色土で袖部の一部，第７・10 層は天井部の崩落土である。

ピット　Ｐ１は深さ 24cm で，中央部に位置している。

覆土　５層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第 12 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 128 点（坏 13，高台付坏１，高坏 10，壺２，甕・甑類 102），須恵器片 16 点（坏４，高台付坏１，蓋６，瓶類２，鉢・甕・甑類３），土製品１点（支脚），石器１点（砥石），鍛冶関連遺物（椀状滓 139.2 ｇ，鉄塊系遺物 29.9 ｇ，鉄滓 36.1 ｇ）のほか，陶器片２点（皿，甕）が出土している。遺物は下層ほど少なく，床面からは時期の判断可能な個体は出土しなかった。３は覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第 143 図　第 31 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 90　第 31 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 143 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	高台付坏	−	(3.2)	10.0	長石	黄灰	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼付　内底面多方向のナデ	3区1ｘ 4区2ｘ	30%新治窯
2	須恵器	瓶類	−	(1.8)	[9.4]	長石・石英・黒色粒子・細礫	灰黄褐	良好	内底面・高台部に自然釉付着	1区1ｘ	5％東海系

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
3	支脚	(6.1)	(10.1)	7.7	645.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	頭部欠損　外面指頭ナデによる成形	1区中層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
4	砥石	(4.1)	(3.4)	(1.4)	22.7	チャート	砥面3面確認	3区2ｘ	観察表のみ

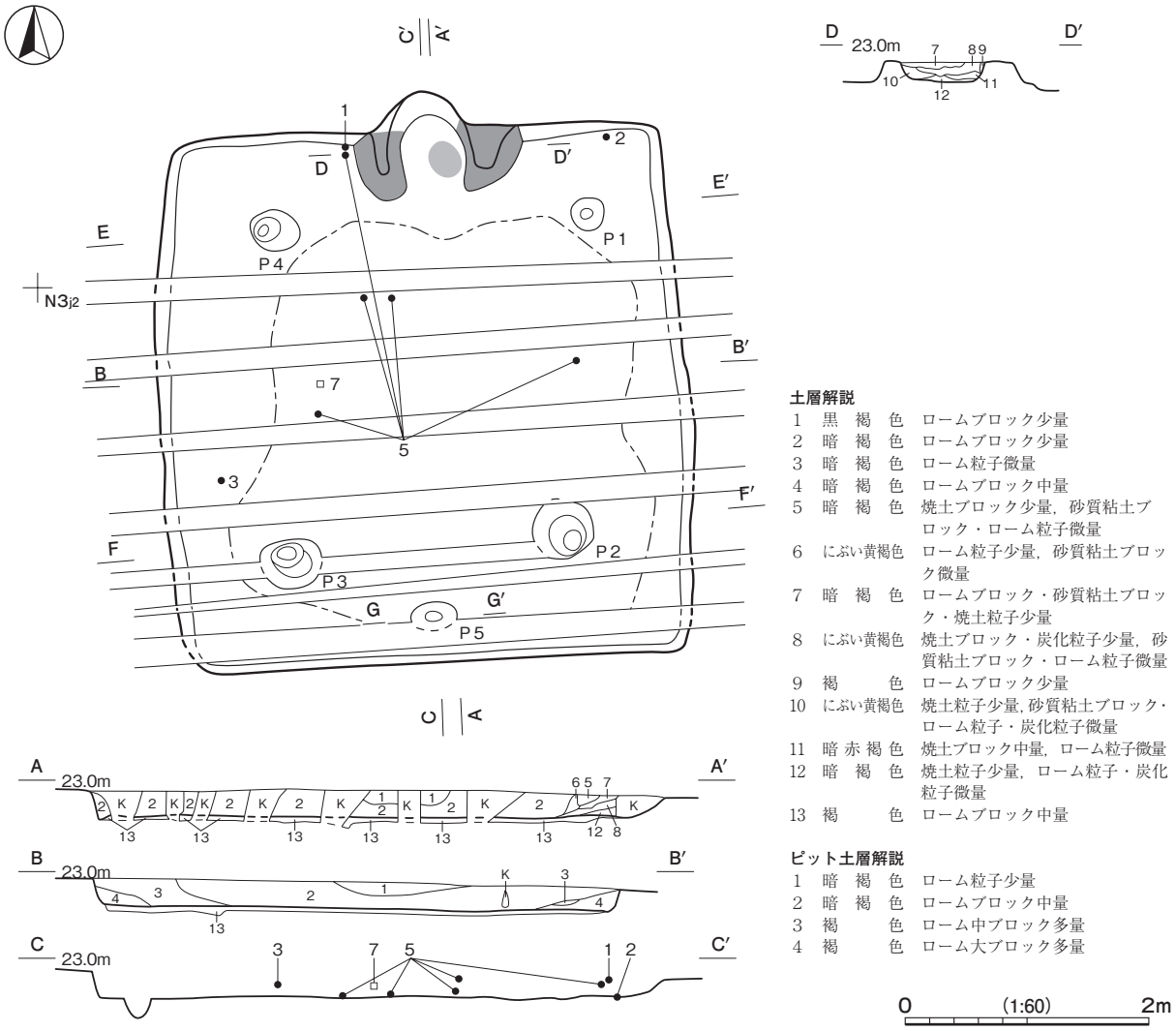
第 32 号竪穴建物跡（第 144・145 図　PL 9）

位置　調査Ⅱ区北西部のＮ３j2 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 4.38 ｍ，短軸 4.35 ｍの方形で，主軸方向はＮ − 2° − Ｗである。壁は高さ 15 ～ 22cm で，外傾している。

床　平坦な貼床で，壁際を除く中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 85cm で，燃焼部幅は 55cm である。煙道部



土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
6　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
8　にぶい黄褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック少量
10　にぶい黄褐色　焼土粒子少量，砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
11　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
12　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
13　褐　　色　ロームブロック中量

ピット土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ローム中ブロック多量
4　褐　　色　ローム大ブロック多量

第 144 図　第 32 号竪穴建物跡実測図

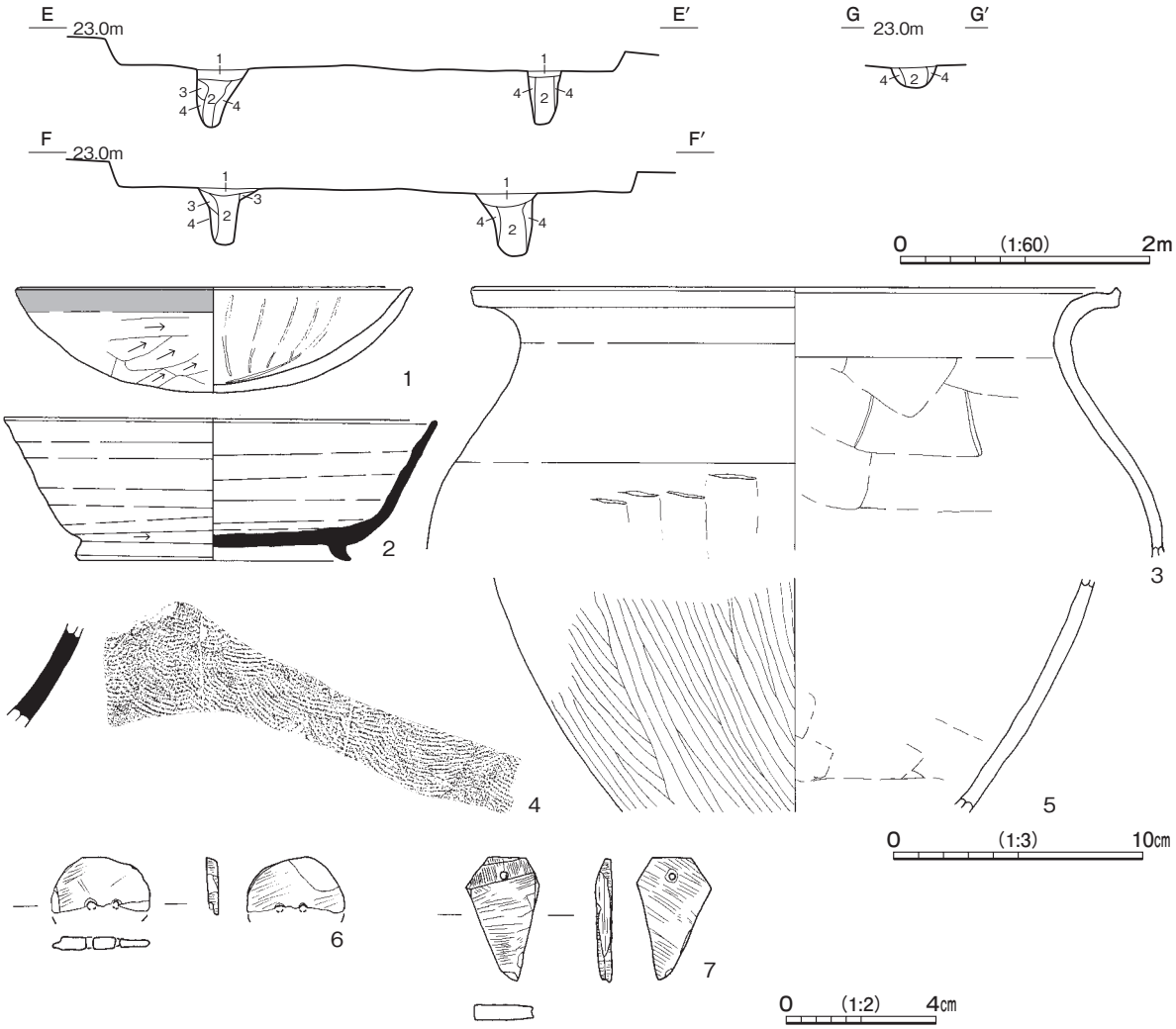
は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第５～ 12 層が竈に関連する堆積土で，第８・11 層は天井部の崩落土である。袖部は砂質粘土主体のにぶい黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 42 ～ 52cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 18cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。

覆土　４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 91 点（坏８，甕･甑類 83），須恵器片 20 点（坏９，高台付坏１，蓋２，鉢･甕･甑類８），石製品２点（石製模造品），焼成粘土塊 24.6 ｇのほか，陶器片１点（碗）が出土している。遺物は総じて少なく，床面から出土した遺物も少ない。１は竈西部の覆土上層から，２は北東コーナー部の覆土中層から下層にかけて出土している。６・７の石製模造品は，本跡で出土している土器群よりも古い時期に盛行するものであることから，周囲の古墳時代の遺構からの混入と考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。



第 145 図　第 32 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 91　第 32 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 145 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
6	石製模造品	径 2.7	－	0.3	2.08	雲母片岩	有孔円板　孔径 0.2 ～ 0.3cm	２区１ｘ	PL52
7	石製模造品	3.3	2.0	0.4	3.93	緑色片岩	剣形　孔径 0.2cm　表裏研磨　表面上部に鏑表現の段形成	４区下層	PL52

表 92　第 32 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 145 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［15.6］	4.2	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位ナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面放射状のヘラ磨き	４区上層	20%
2	須恵器	高台付坏	17.1	5.6	10.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後高台貼付	１区下層	90%新治窯 PL36
3	土師器	甕	［25.5］	（10.7）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	３区下層	30%
4	須恵器	甕	－	（4.0）	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面同心円文叩き　内面当て具痕	１・２・３ 区 １ x	20%新治窯
5	土師器	甕	－	（9.4）	－	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	１・３区床面	40%

第 37 号竪穴建物跡（第 146・147 図　PL10）

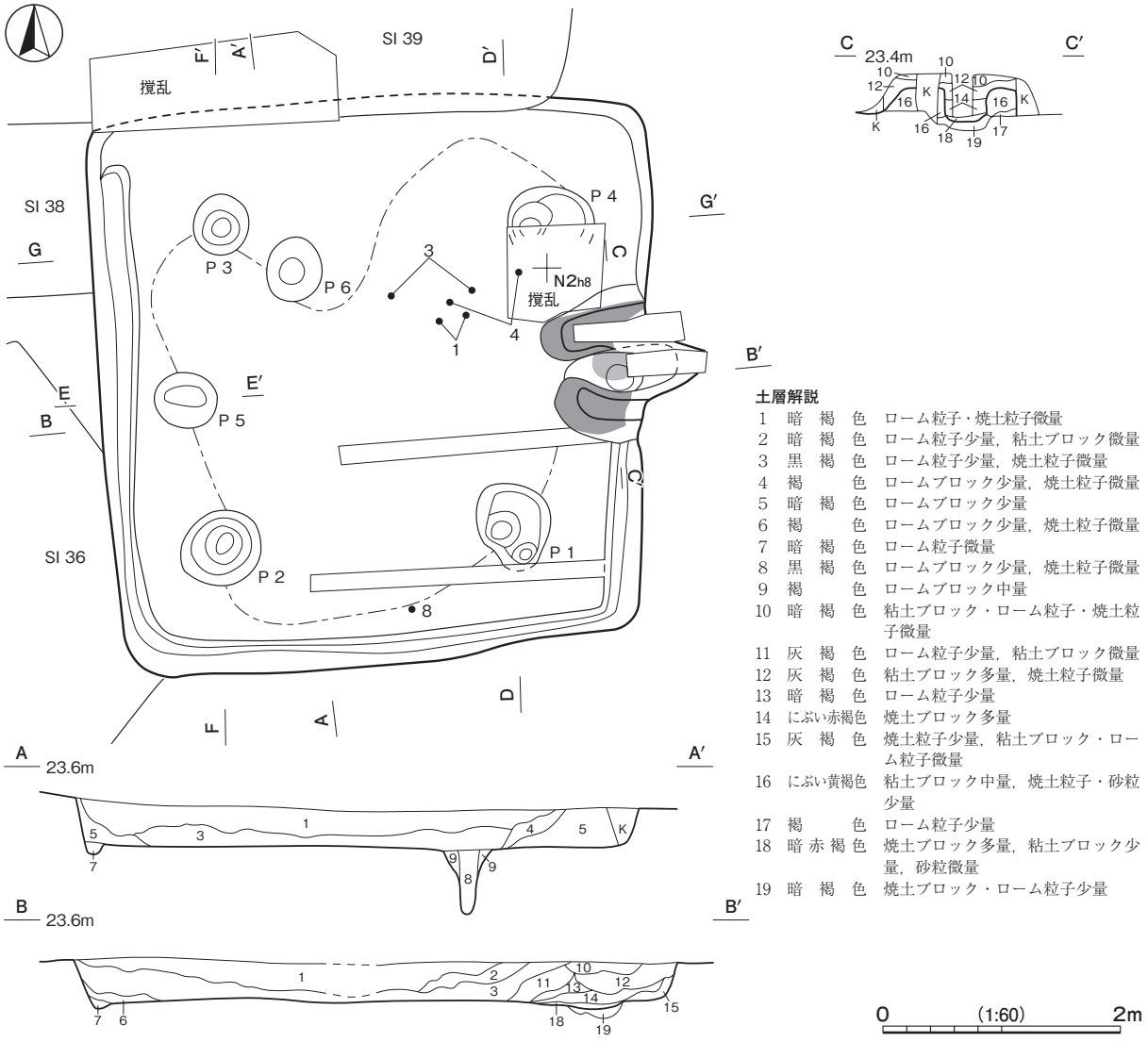
位置　調査Ⅱ区北西部のＮ２h7 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 36・38 号竪穴建物跡を掘り込み，第 39 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北壁が第 39 号竪穴建物に掘り込まれているため一部しか確認できなかったが，長軸 4.57 ｍ，短軸 4.50 ｍの隅丸方形と推定され，主軸方向はＮ－ 86 ° － Ｅである。壁は高さ 30 ～ 46cm で，外傾している。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。東壁の竈南側から西壁にかけて壁溝が巡っている。

竈　東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130cm で，燃焼部幅は 35cm である。煙道



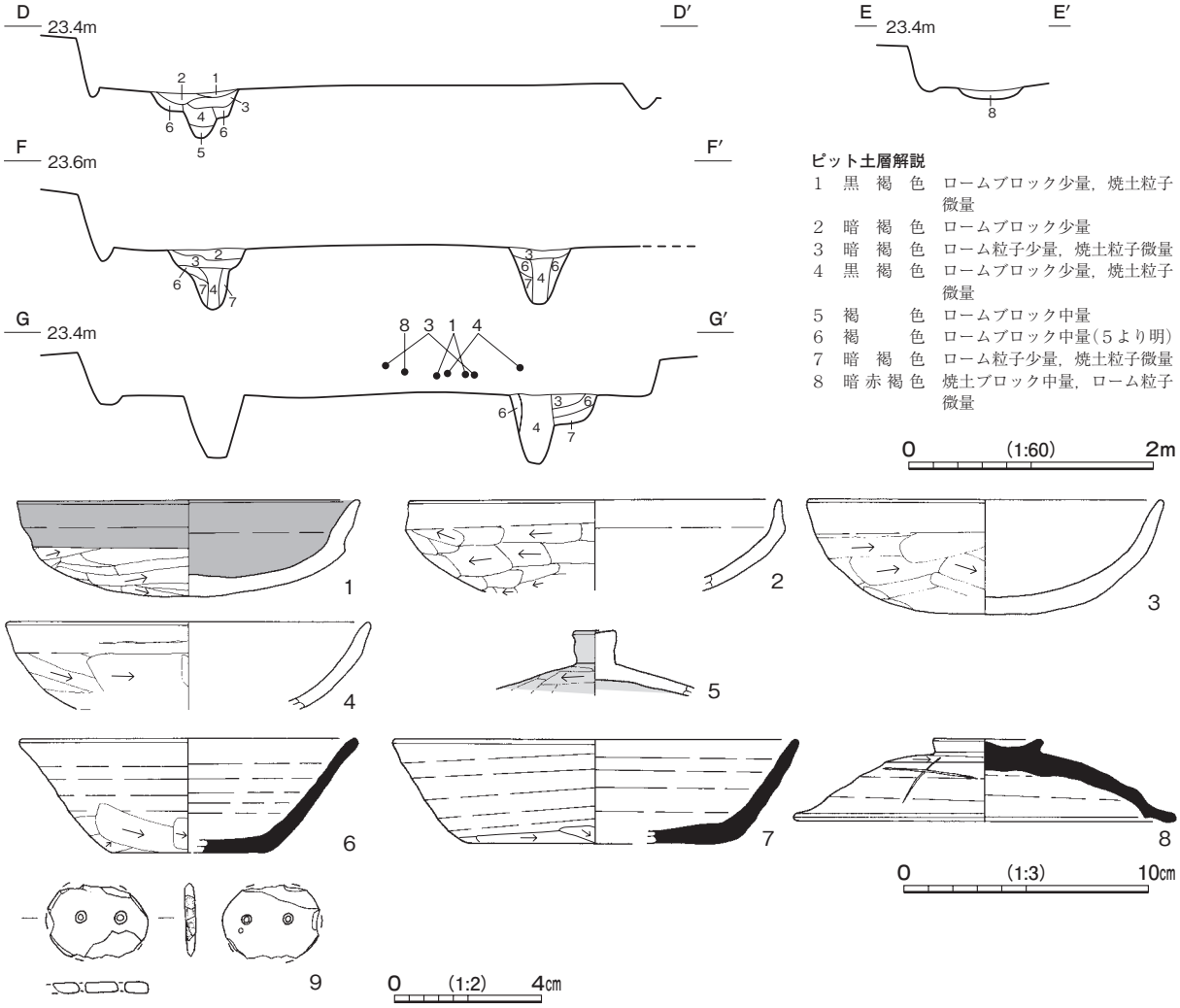
第 146 図　第 37 号竪穴建物跡実測図

部は壁外に 60cm ほど掘り込まれ，ほぼ直立している。第 10 ～ 19 層が竈に関連する堆積土で，第 10 ～ 14 層は天井部の崩落土，第 16・17 層は袖部の構築土である。袖部は粘土主体の灰褐色土で構築されている。火床面は床面を５cm ほど掘りくぼめ，赤変している。

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 42 ～ 60cm で，規模と配置から主柱穴である。いずれも柱痕が明瞭に観察できた。Ｐ６は深さ 55cm で，不規則な位置にあるものの，柱痕が明瞭に確認できる柱穴である。Ｐ５は深さ 10cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。

覆土　７層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 290 点（坏 32，椀８，蓋１，坩３，高坏 11，壺・甕類 235），須恵器片 21 点（坏９，蓋 10，甕類２），灰釉陶器片３点（皿１，瓶類２），金属製品１点（刀子），石製品１点（石製模造品）のほか，陶器片２点（皿，蓋），磁器片１点（碗），瓦片１点が出土している。全体的に遺物は少量で，床面から出土している時期判断可能な遺物も少ない。刀子片が北西部の床面から出土しているが，小片のため，図示できなかった。土器は５世紀後半にさかのぼるものから９世紀代に入るものまで，多時期にわたるものが含まれているが，これは本跡が第 36・38・39 号竪穴建物跡と重複していることによる混入で，５の赤彩のある土師器の蓋は本跡に掘り込まれている第 36・38 号竪穴建物跡のいずれかに，６の須恵器坏は本跡を掘り込んでいる第 39 号竪穴建物跡に帰属する可能性がある。１・３・４はほぼ同一地点で同じ高さから出土している。８の須恵器



第 147 図　第 37 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

の蓋も１・３・４と同じ高さから出土しており，埋没過程で廃棄されたものと考えられる。９は第 38 号竪穴建物跡に帰属する可能性がある。図示していないが，灰釉陶器片が３点出土しており，いずれも猿投窯産と推定される。これらは第 39 号竪穴建物跡に帰属するものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。

表 93　第 37 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 147 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	13.8	3.9	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　黒色処理	１区下層	70%
2	土師器	坏	［14.9］	(3.6)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	覆土中	30%
3	土師器	坏	［14.2］	4.7	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	１区下層	40%
4	土師器	坏	［14.6］	(3.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	１区下層	40% PL36
5	土師器	蓋	－	(2.6)	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	天井部外面ヘラナデ後ヘラ削り　赤彩　内面ナデ　一部磨き状　赤彩	２区３ｘ	40%
6	須恵器	坏	［13.6］	4.6	［6.2］	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土中	40%新治窯
7	須恵器	坏	［16.6］	4.2	［10.2］	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	２区３ｘ	50%新治窯 PL36
8	須恵器	蓋	［15.4］	3.4	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り　ヘラ記号「×」	２区下層	90%新治窯 PL36

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
9	石製模造品	径 2.2	－	0.3	2.75	緑色片岩	有孔円板　表裏・側面研磨　孔径 0.3cm	覆土中	PL52

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
10	刀子	(3.3)	0.7	0.35	1.70	鉄	刃部先端部　断面二等辺三角形	４区床面	観察表のみ

第 39 号竪穴建物跡（第 148 ～ 150 図　PL10）

位置　調査Ⅱ区北西部のＮ２f7 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 37・38 号竪穴建物跡を掘り込み，第 40 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北壁の一部が第 40 号竪穴建物に掘り込まれているため一部しか確認できなかった。長軸 5.38 ｍ，短軸 5.25 ｍの隅丸方形と推定され，主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁は高さ８～ 45cm で，外傾している。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。確認できた範囲では，南壁の一部を除き，壁溝が巡っている。

竈　北壁やや東寄りに付設されている。第 40 号竪穴建物に掘り込まれているため，煙道部は確認できなかった。燃焼部幅は 40cm である。第１～４層が袖部の構築土で，第４層の黒褐色土を基部とし，粘土ブロックを多く含む褐色土を積み上げて構築されている。第５～７層は掘方への埋土である。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。

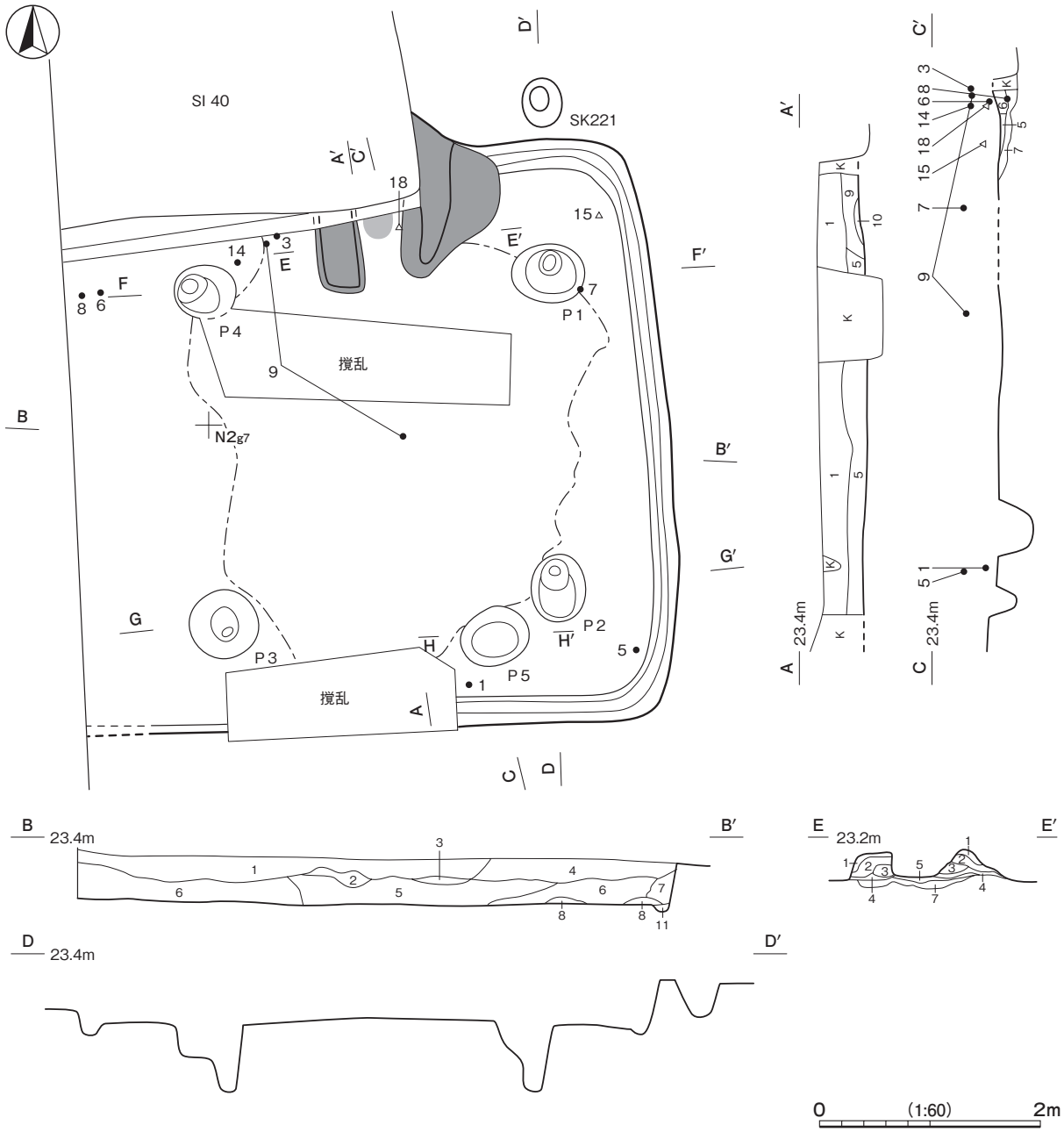
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 43 ～ 68cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 25cm で，やや東に寄っているが，出入口施設に伴うピットの可能性がある。

覆土　11 層に分層できる。第１層に焼土ブロック，第３・７層には粘土ブロックが含まれており，不整合な堆積状況から，埋め戻されている。第９・10 層は竈に関連する堆積土である。

遺物出土状況　土師器片 456 点（坏 76，高台付坏１，椀５，坩１，高坏 10，壺・甕・甑類 363），須恵器片 151 点（坏 63，高台付坏３，蓋 12，瓶類４，円面硯１，鉢・甕・甑類 68），灰釉陶器片１点（瓶類），石製品１点（石製模造品），金属製品４点（刀子２，鉄鏃１，腰帯具１），焼成粘土塊 1.3 ｇのほか，縄文土器片２点，陶器片１点（皿）が出土している。遺物は比較的多いが，５世紀代から９世紀代の幅広い時期の土器を含み，西部の覆土の上層から出土しているものが多い。時期判断可能な土器は８世紀前葉と９世紀前葉のものが見られるが，前者は重複する第 37 号竪穴建物跡に帰属する可能性が高い。19 の石製模造品も重複する第 38 号竪穴建物跡

に帰属すると考えられる。6は北西部の床面から，18が竈の火床面からそれぞれ出土している。8の円面硯脚部と考えられる破片は掘方から出土している。灰釉陶器片は小片のため図化し得なかったが，猿投窯産と推定される。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉に比定できる。



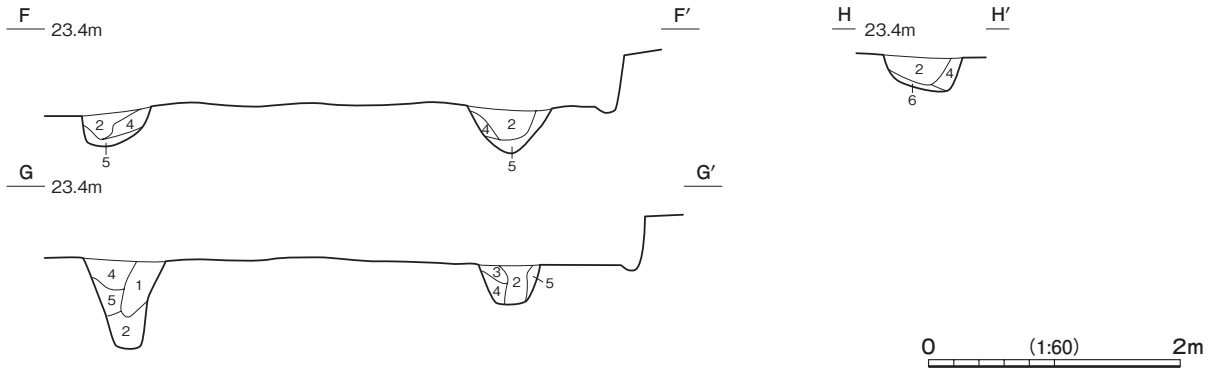
土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　灰　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　にぶい暗赤褐色　焼土ブロック多量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量

竈土層解説

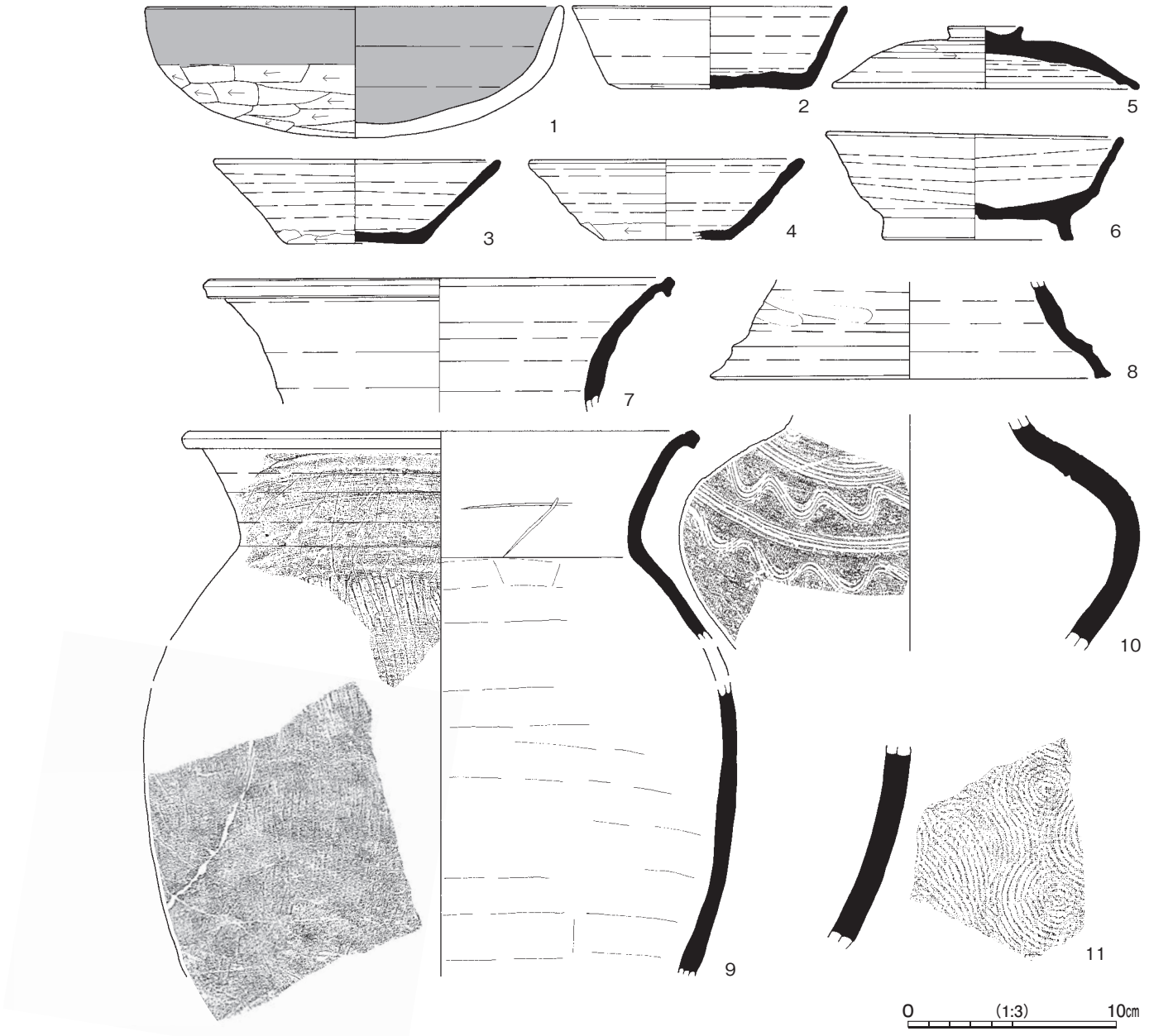
1　暗　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量
2　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，砂粒微量
3　にぶい黄褐色　粘土ブロック・焼土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土ブロック・砂粒微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘土ブロック微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，灰少量，ローム粒子微量
7　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量

第148図　第39号竪穴建物跡・第221号土坑実測図

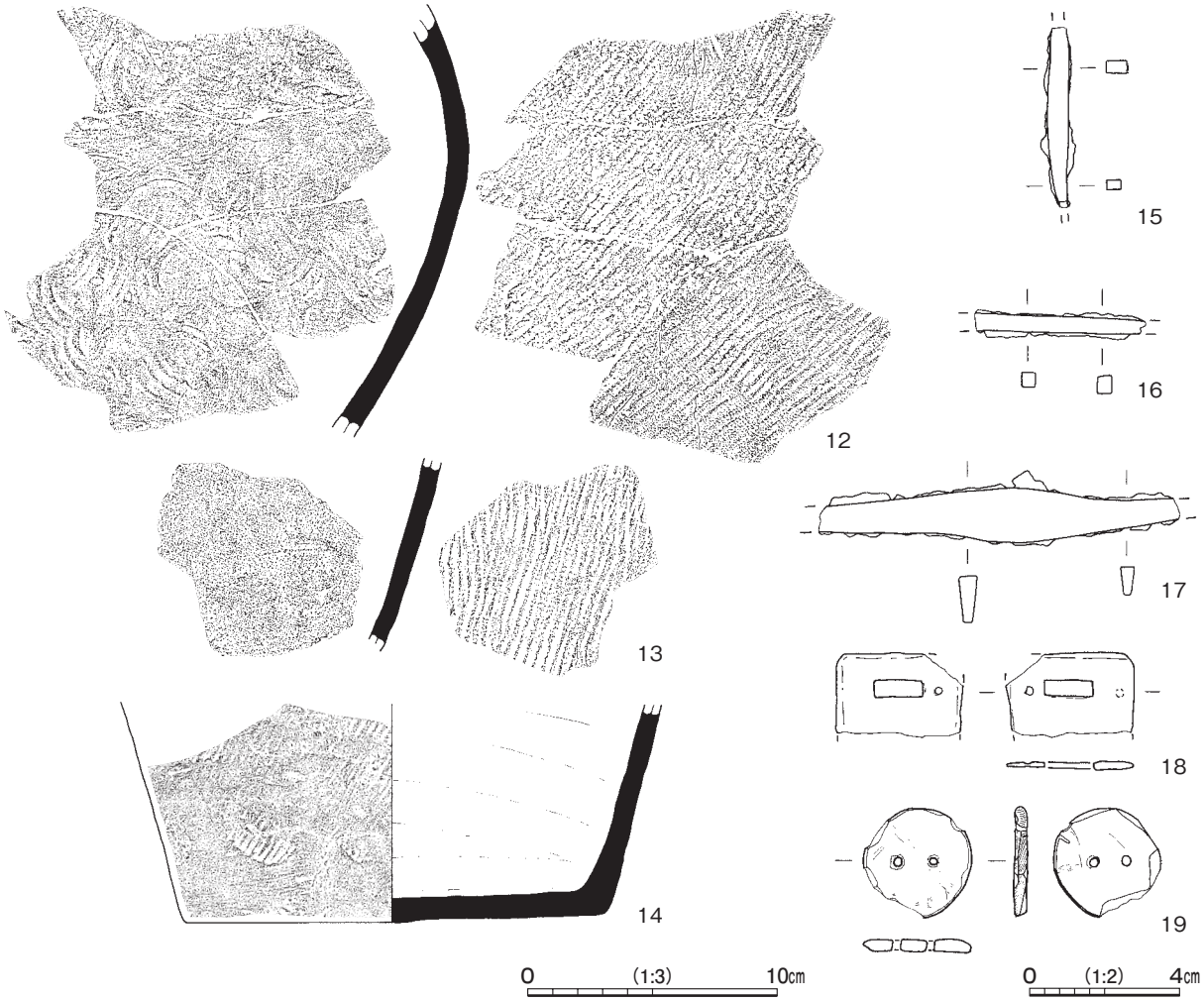


ピット土層解説

1　にぶい黄褐色　粘土ブロック少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　粘土ブロック少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック中量



第 149 図　第 39 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 150 図　第 39 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 94　第 39 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 149・150 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［19.6］	6.2	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横位ナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	２区下層	50%
2	須恵器	坏	［12.9］	3.9	［8.9］	長石・石英・雲母・細礫	褐灰	普通	体部下端～底部回転ヘラ削り	４区３ｘ	30%新治窯
3	須恵器	坏	13.4	3.9	6.5	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部多方向のヘラ削り　酸化焔焼成	４区上層	70%新治窯 PL37
4	須恵器	坏	［12.8］	3.8	［6.0］	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土中	30%新治窯
5	須恵器	蓋	［14.4］	3.5	－	長石・石英・雲母・細礫	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	２区上層	40%新治窯 PL36
6	須恵器	高台付坏	［13.9］	5.0	（8.9）	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付	４区床面	70%新治窯 PL37
7	須恵器	甕	［21.9］	（6.4）	－	長石・石英	暗褐	良好	ロクロ成形	１区上層	20%新治窯
8	須恵器	円面硯	－	（4.6）	［19.0］	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形　酸化焔焼成	４区掘方	30% PL37
9	須恵器	甕	［24.7］	（26.6）	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部ロクロナデ　内面にヘラ記号「×」　体部外面縦位の平行叩き　下端ヘラ削り　内面ヘラナデ	４区上層	40%新治窯 PL49
10	須恵器	壺	－	（4.7）	－	長石・石英・雲母・細礫	黄灰	普通	外面多段の波状文　内面ヘラナデ	４区１ｘ	30%新治窯
11	須恵器	甕	－	（9.7）	－	長石・石英・雲母	オリーブ黒	普通	外面同心円文叩き　内面ヘラナデ	２区１ｘ	20%新治窯 PL49
12	須恵器	甕	－	（17.2）	－	長石・石英	灰黄褐	良好	外面縦位の平行叩き　内面同心円文の当具痕	１・４区３ｘ	30%新治窯
13	須恵器	甕又は鉢	－	7.5	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面縦位の平行叩き　内面ヘラナデ　酸化焔焼成	１区１ｘ	20%新治窯 PL49
14	須恵器	鉢	－	（8.7）	16.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	外面斜位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ナデ	４区上層	70%新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
19	石製模造品	径（2.9）	－	0.4	5.21	緑色片岩	有孔円板　表裏・側面研磨　片側穿孔　孔径 0.2cm	覆土中	

表 95　第 39 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 150 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
15	鉄鏃$_{カ}$	(4.8)	0.2 ～ 0.5	0.2 ～ 0.3	4.50	鉄	茎部分$_{カ}$　先端部彎曲	１区下層	PL53
16	刀子	(4.6)	0.4 ～ 0.5	0.3 ～ 0.4	3.62	鉄	茎部分$_{カ}$　17 と同一地点で出土していることから同一の可能顕有　断面方形	覆土中	PL53
17	刀子	(9.6)	0.6 ～ 1.4	0.4 ～ 0.5	16.92	鉄	刀身部～茎部分$_{カ}$	覆土中	PL53
18	腰帯具	2.2	3.4	0.1 ～ 0.2	5.17	銅	鋲の痕跡は左側の一方のみ	竈火床部	PL57

第 40 号竪穴建物跡（第 151・152 図　PL10）

位置　調査Ⅱ区北西部のＮ２e6 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 39・93 号竪穴建物跡，第 499 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　西部が調査区域外に延びていることから，南北軸は 4.32 ｍで，東西軸は 3.34 ｍしか確認できなかった。長方形あるいは方形と推定され，主軸方向はＮ－ 12°－ Ｗである。壁は高さ 42 ～ 52cm で，直立している。

床　平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120cm で，燃焼部幅は 30cm である。煙道部は壁外に 50cm ほど掘り込まれている。第１～ 12 層が天井部の崩落土で，火床面上には第 11 層の灰が堆積している。完掘後に竈の袖部を断ち割ったところ，袖材と捉えていた部分は天井部の崩落土の一部と考えたほうが適当であると判断した。図のＥ－Ｅ’ラインは完掘後に作図したものを示しているが，上記の点は右袖部の下位に灰が主体の第 18・19 層が入り込んでいる点からも推察される。火床面は床面を楕円形に掘り込み，土師器の甕を逆位に据えて第 25・26 層で埋土し，支脚としている。

ピット　４か所。Ｐ１・Ｐ３は深さ 20cm・60cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ２は深さ 20cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ４は深さ 20cm で，床面の中央部に位置し，ローム粒子をやや多く含む暗褐色土が堆積している。性格は不明である。

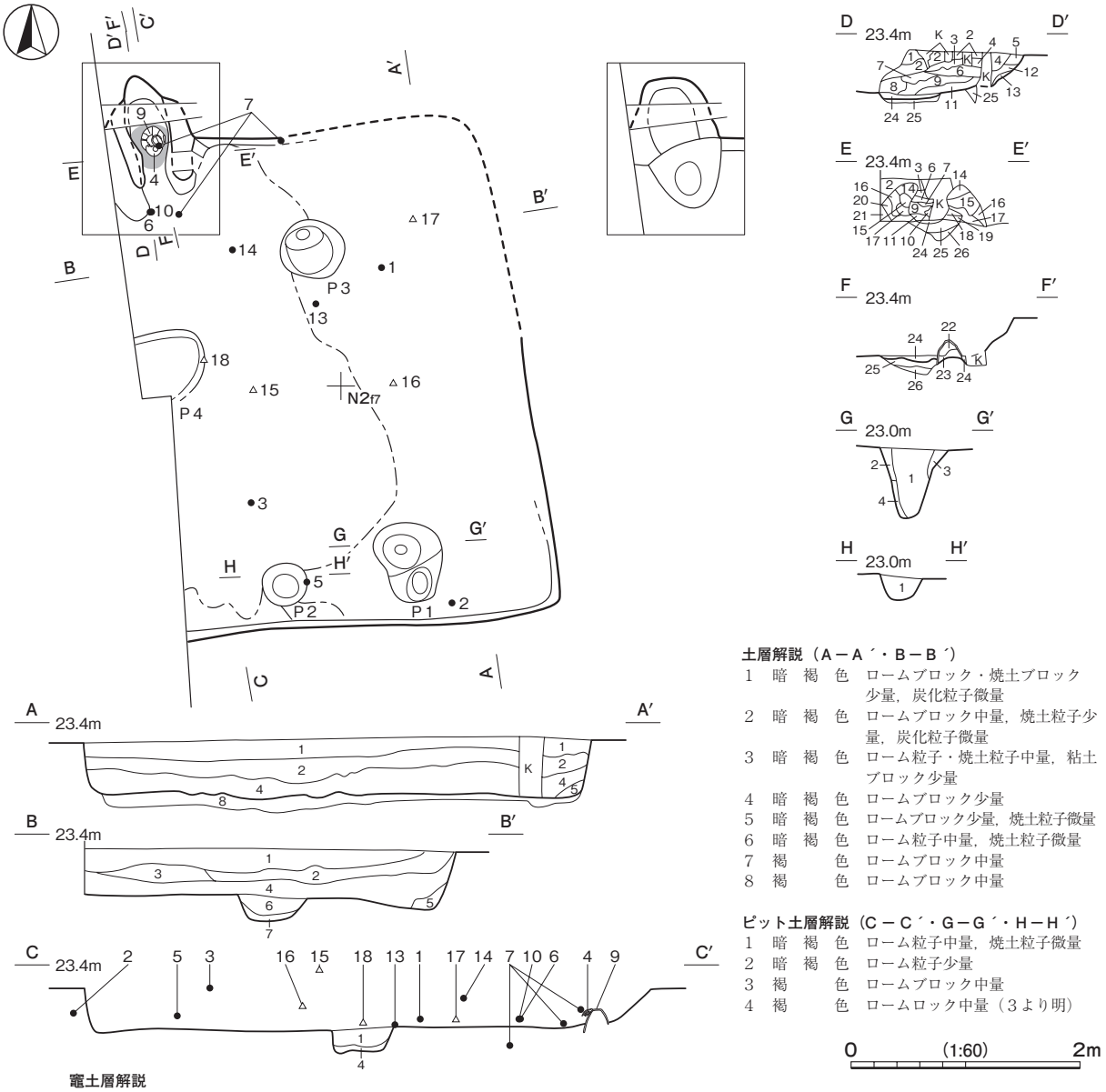
覆土　５層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 400 点（坏 11，椀１，坩１，高坏９，壺・甕・甑類 378），須恵器片 136 点（坏 84，高台付坏１，蓋９，瓶類２，鉢・甕・甑類 40），灰釉陶器片３点（瓶類），金属製品４点（刀子，鉄鏃$_{カ}$，釘，閂$_{カ}$），鍛冶関連遺物（鉄滓 12.8 ｇ），焼成粘土塊 111.0 ｇのほか，石核１点（チャート），陶器片１点（擂鉢），磁器片１点（碗），瓦片１点が出土している。遺物は比較的多く，５世紀代から９世紀代の遺物が混在している。床面上で出土した時期判断可能な遺物は少ないが，13・17・18 は北東部の床面から出土している。６・10 は竈焚口部付近から出土している。９の土師器甕は竈火床面に逆位で埋め込まれ，その上位に４の須恵器坏が逆位で置かれていた。合わせて支脚に転用されたものと考えらえる。７の土師器甕は４の上位から破片で出土している。12 の灰釉陶器瓶類は猿投窯産で，他に図示しえなかった２点も同様である。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。

表 96　第 40 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 152 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	［12.8］	3.9	5.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ切り後一方向のヘラ削り	１区下層	30％新治窯 PL37
2	須恵器	坏	［13.5］	4.0	6.2	長石・石英・雲母・細礫	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	２区下層	60％新治窯
3	須恵器	坏	［13.1］	4.5	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り　酸化焔焼成	２区上層	70％新治窯 PL37



土層解説（A－A′・B－B′）

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，粘土ブロック少量
4 暗褐色 ロームブロック少量
5 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
6 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
7 褐色 ロームブロック中量
8 褐色 ロームブロック中量

ピット土層解説（C－C′・G－G′・H－H′）

1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量
3 褐色 ロームブロック中量
4 褐色 ロームロック中量（3より明）

0 (1:60) 2m

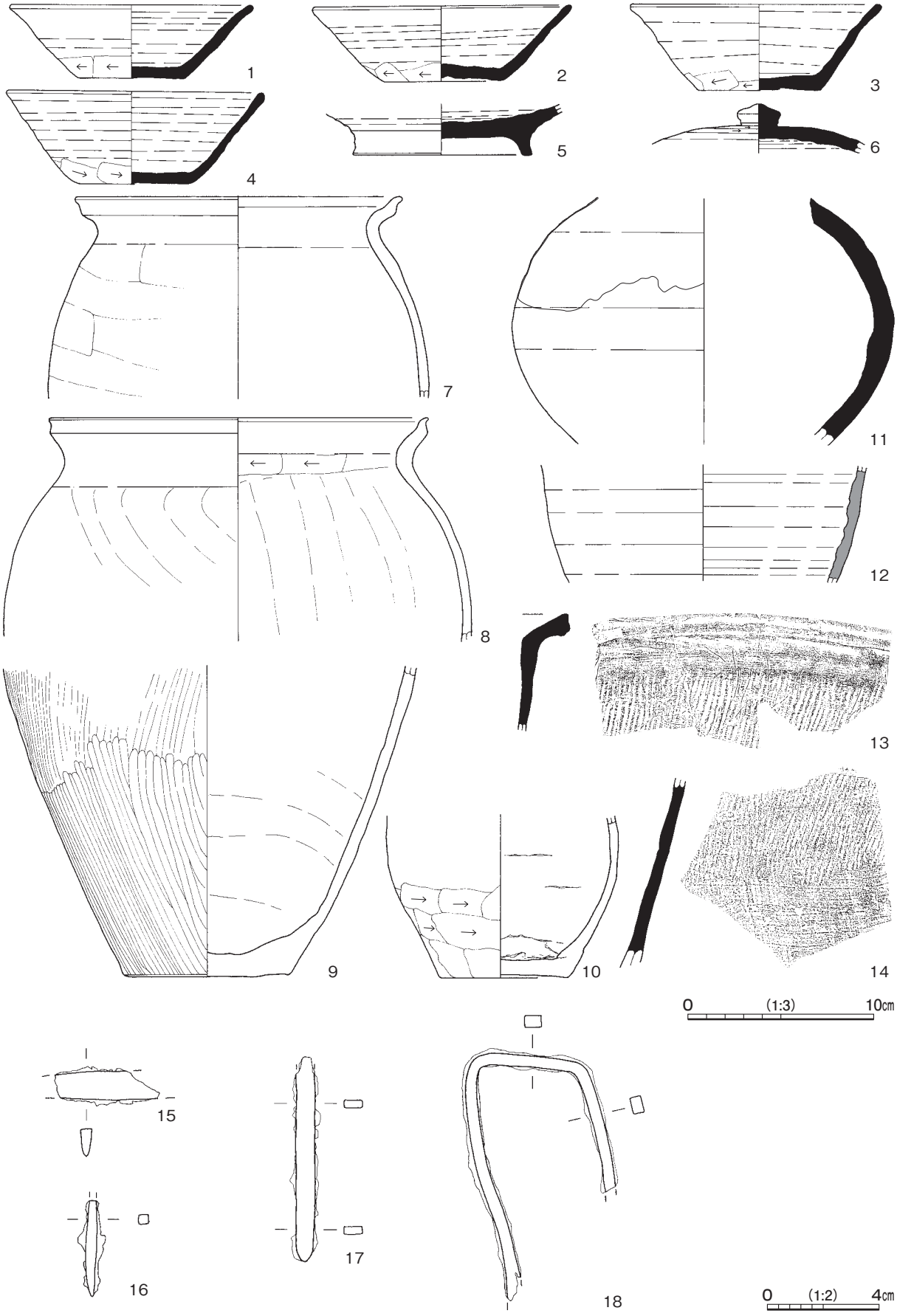
竈土層解説

1 暗褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量
2 暗褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子中量，粘土ブロック・焼土粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5 暗褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6 暗褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量
7 暗赤褐色 焼土ブロック多量，ローム粒子中量
8 褐灰色 焼土ブロック・粘土ブロック中量
9 黒褐色 ローム粒子中量，粘土ブロック少量
10 黒褐色 ローム粒子微量
11 明褐灰色 灰多量
12 暗赤褐色 焼土ブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
13 褐色 ローム粒子多量
14 灰褐色 粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
15 極暗赤褐色 焼土粒子多量，粘土ブロック中量，炭化粒子少量
16 極暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
17 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
18 にぶい黄褐色 灰主体 焼土粒子少量，炭化粒子微量
19 灰黄褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
20 暗褐色 ローム粒子中量，粘土ブロック微量
21 褐色 ローム粒子中量
22 暗褐色 焼土ブロック中量
23 暗褐色 ロームブロック少量
24 灰褐色 灰多量，焼土ブロック中量
25 灰褐色 ローム粒子中量，粘土ブロック・焼土粒子少量
26 褐灰色 ロームブロック少量

第 151 図　第 40 号竪穴建物跡実測図

表 97　第 40 号竪穴建物跡出土遺物観察表（2）（第 152 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	須恵器	坏	13.6	5.0	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　酸化焔焼成	竈支脚上	90%新治窯
5	須恵器	高台付坏	－	(2.7)	9.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	2区下層	40%新治窯
6	須恵器	蓋	－	(2.6)	－	長石	にぶい橙	良好	天井部回転ヘラ削り	竈焚口部	30%新治窯



第 152 図　第 40 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 98　第 40 号竪穴建物跡出土遺物観察表（３）（第 152 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
7	土師器	甕	17.3	(10.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈燃焼部	30% PL37
8	土師器	甕	[20.2]	(12.0)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	覆土上層	10%
9	土師器	甕	－	(16.6)	8.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部木葉痕	竈火床面	40%
10	土師器	小形甕	[12.2]	8.7	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下端ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部木葉痕	竈焚口部	30%
11	須恵器	瓶類	－	(13.2)	－	長石・石英・細礫・黒色湧出物	灰	普通	外面自然釉　内面火ぶくれ	覆土下層	20%堀之内窯ヵ
12	灰釉陶器	瓶類	－	(6.3)	－	緻密　黒色湧出物	浅黄	良好	ロクロナデ	覆土上層	５％猿投窯産
13	須恵器	鉢	－	(6.2)	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面縦位の平行叩き　内面当て具痕	１区床面	10%新治窯
14	須恵器	鉢	－	(10.3)	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	外面縦位の平行叩き　下端ヘラ削り　内面ヘラナデ	１区上層	10%新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
15	刀子	(3.8)	0.8 ～ 1.0	0.4	4.78	鉄	刀身部　両端欠損	１区上層	PL54
16	釘	(3.4)	0.5	0.35	2.59	鉄	先端部　断面方形	２区上層	PL54
17	鉄鏃ヵ	(7.3)	0.35 ～ 0.8	0.2 ～ 0.3	7.55	鉄	茎部分ヵ　断面長方形	１区床面	PL54
18	門ヵ	(8.9)	5.4	0.4	28.10	鉄	両端部欠損　断面長方形	１区床面	PL54

第 41 号竪穴建物跡（第 153 ～ 155 図　PL10・11）

位置　調査Ⅱ区南西部のＯ３g2 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 42・47・49 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 5.95 ｍ，短軸 5.82 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 15 °－Ｅである。壁は高さ 49 ～ 60cm で，直立している。

床　平坦で，壁際を除く竈前面から出入口付近まで踏み固められている。北壁の一部を除き壁溝が巡っている。

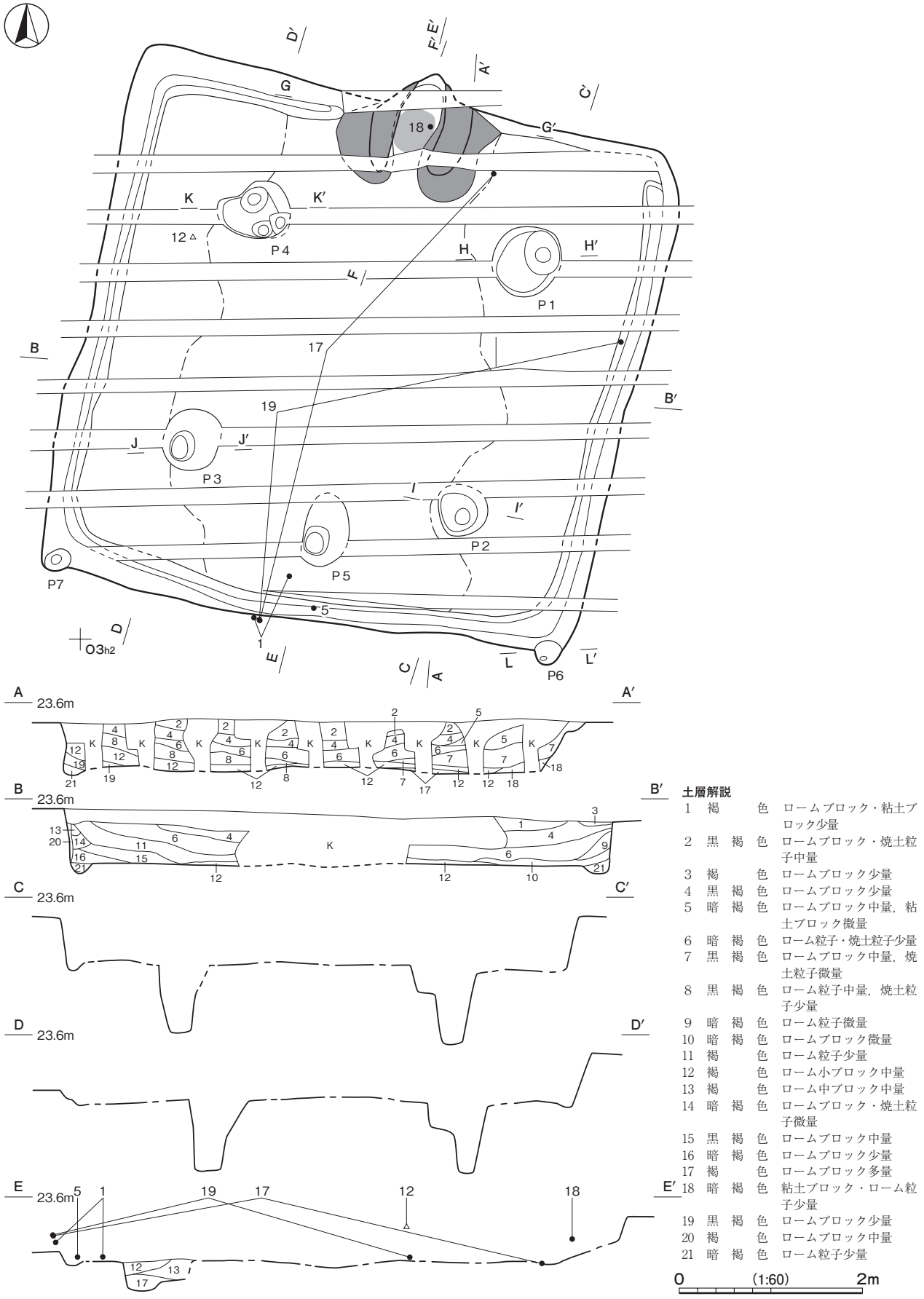
竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第１～３・５層が天井部の崩落土，第６・８層が燃焼部の堆積土で，火床面は床面から 10cm ほど掘りくぼめられている。第９～ 11 層が袖部の構築土で，粘土ブロックを含む暗褐色土の第 11 層に粘土主体の第９・10 層を積み上げて構築されている。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 70 ～ 78cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ１・Ｐ３は柱痕が明瞭に観察できた。Ｐ５は深さ 33cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ６・Ｐ７は南東・南西コーナー部に位置するピットで，Ｐ６は深さが 62cm，Ｐ７は重複する第 42 号竪穴建物跡の床面からの深さが 33cm であるが，本来的には 80cm ほどの深さを有するものと推測される。上屋を保持する補助的な柱穴と考えられる。

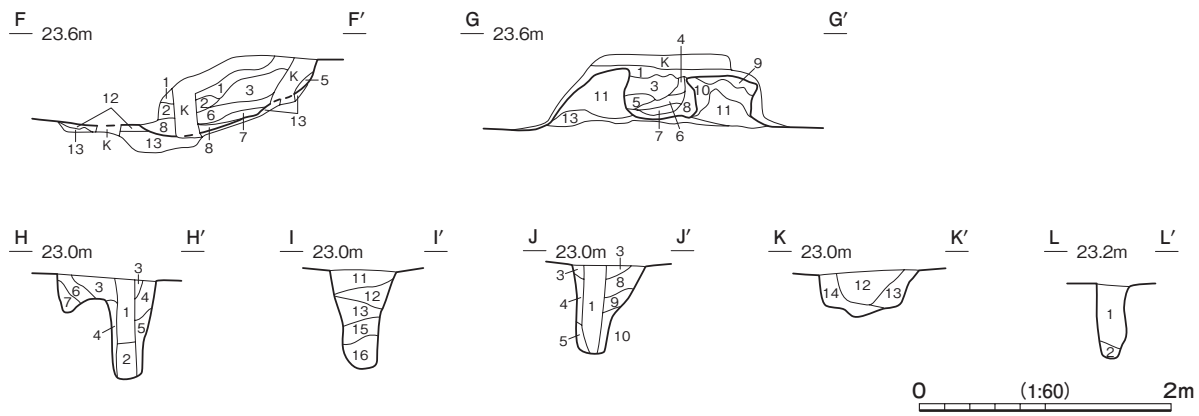
覆土　21 層に分層できる。各層にロームブロックを含むものの，レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 392 点（坏 41，椀１，高坏２，壺・甕・甑類 348），須恵器片 190 点（坏 99，高台付坏５，蓋７，盤３，瓶類３，鉢・甕・甑類 73），金属製品３点（刀子，手鎌，釘ヵ），鍛冶関連遺物（羽口２，椀状滓 284.7 ｇ，鉄塊系遺物 59.6 ｇ，鉄滓 989.8 ｇ），焼成粘土塊 36.6 ｇのほか，剥片２点（黒曜石，瑪瑙），陶器片１点（皿），石製品１点（硯）が出土している。遺物は特に南西部の３区から多く出土している。１・５が南壁際の床面から，18 は竈の燃焼部から，17 の一部と 19 が北東部の床面から，それぞれ出土している。７の底部には「前」の一文字が朱墨で描かれている。12 は手鎌で，左側に貫通孔が穿たれているようであるが，錆化が著しく不明瞭である。７～９はやや時期が下がるもので，混入の可能性が高い。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第 153 図　第 41 号竪穴建物跡実測図

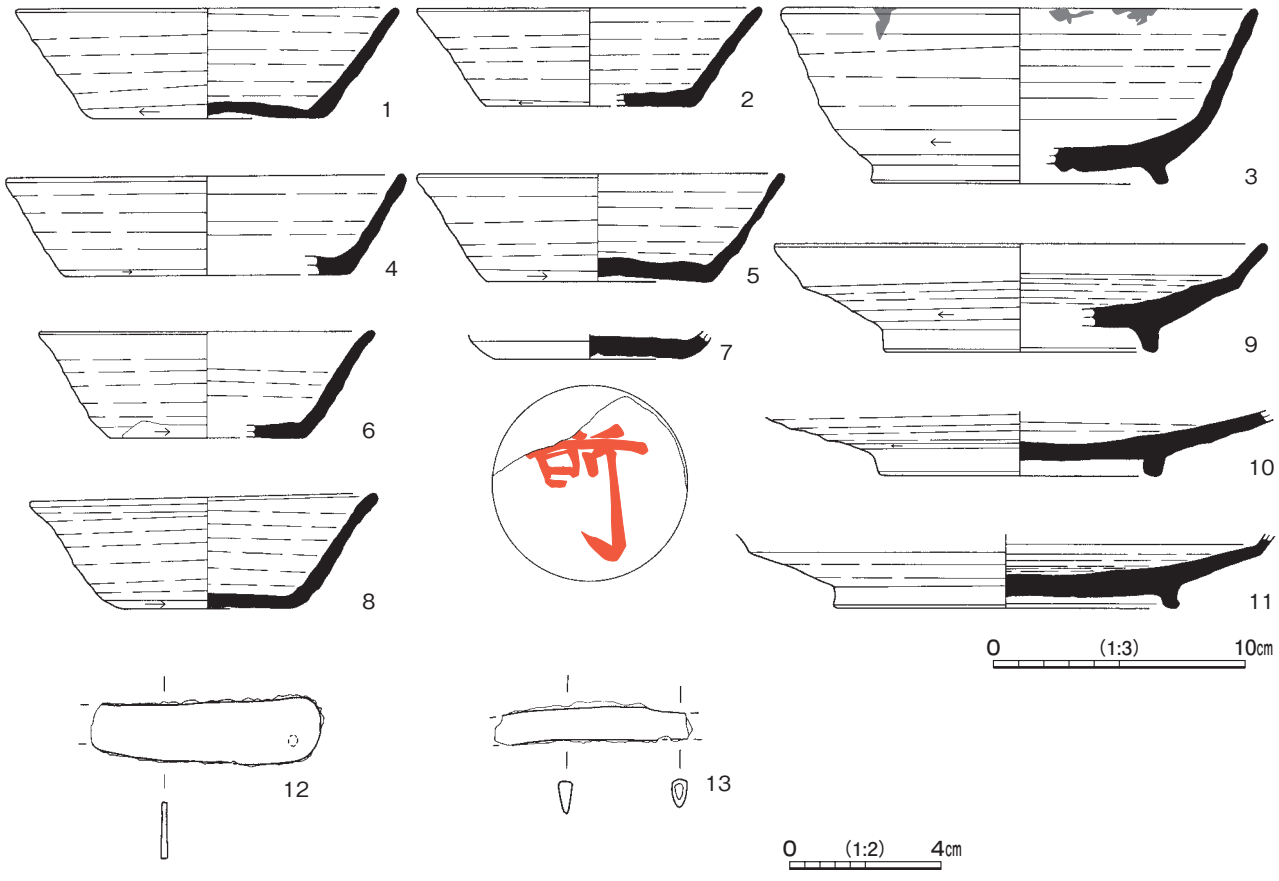


竈土層解説

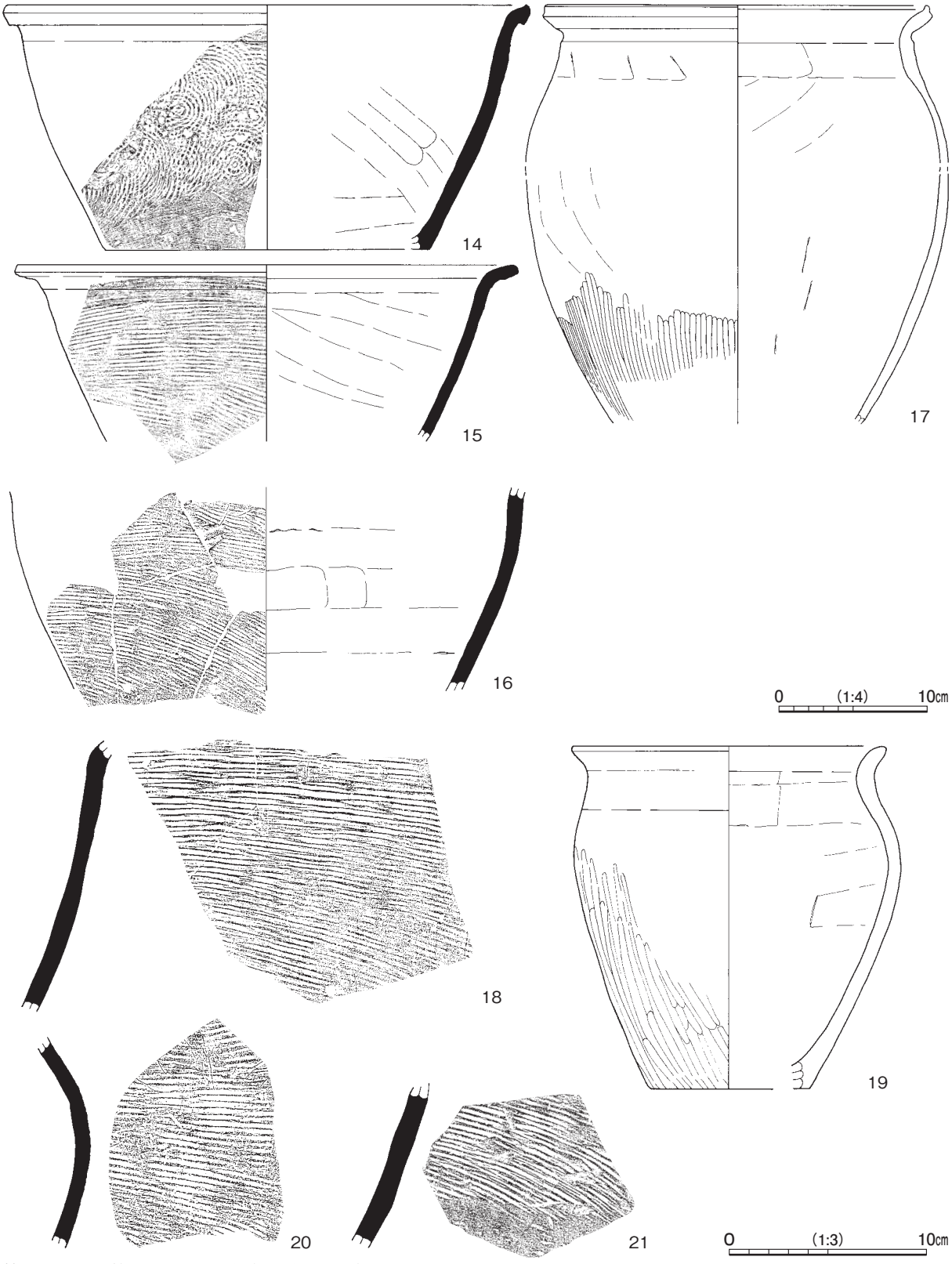
1	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
2	暗赤褐	色	焼土ブロック中量，ローム粒子微量
3	黒 褐	色	ロームブロック中量，粘土ブロック・焼土粒子少量
4	暗 褐	色	焼土粒子少量，ロームブロック微量
5	暗 褐	色	ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子微量
6	暗赤褐	色	焼土ブロック中量
7	黒 褐	色	焼土粒子中量
8	にぶい赤褐	色	焼土ブロック中量，粘土ブロック・ローム粒子微量
9	にぶい赤褐	色	粘土ブロック・砂粒少量，ローム粒子微量
10	にぶい黄褐	色	粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
11	暗 褐	色	ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量
12	にぶい赤褐	色	焼土ブロック中量，ローム粒子･灰少量，粘土ブロック・砂粒微量
13	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子微量

ピット土層解説

1	暗 褐	色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗 褐	色	ロームブロック少量
3	褐	色	ロームブロック中量
4	褐	色	ロームブロック少量
5	黒 褐	色	ロームブロック少量
6	暗 褐	色	ロームブロック中量，焼土粒子少量
7	黒 褐	色	ローム粒子・焼土粒子微量
8	暗 褐	色	ローム粒子微量
9	黒 褐	色	ロームブロック少量
10	褐	色	ロームブロック少量
11	暗 褐	色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
12	黒 褐	色	ローム粒子中量
13	暗 褐	色	ロームブロック微量
14	暗 褐	色	ローム粒子中量
15	黒 褐	色	ローム粒子微量
16	褐	色	ロームブロック少量
17	黒 褐	色	ロームブロック中量



第 154 図　第 41 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 155 図　第 41 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 99　第 41 号竪穴建物跡出土遺物観察表（1）（第 154 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	［14.8］	4.3	9.0	長石・石英・雲母・細礫	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り	3区床面	40%新治窯
2	須恵器	坏	［13.6］	3.9	［8.2］	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り後ヘラ削り　酸化焔焼成	2区1ｘ	40%新治窯

表 100　第 41 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 154・155 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
3	須恵器	高台付坏	［18.6］	6.8	［11.7］	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り　口縁部外・内面に煤付着	４区３ｘ	50%新治窯 PL37
4	須恵器	坏	［15.5］	3.9	［11.2］	長石・石英・細礫	黄灰	良好	底部多方向のヘラ削り	４区２ｘ	40%新治窯
5	須恵器	坏	［14.2］	4.2	8.8	長石・石英	灰黄褐	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	２区床面	50%新治窯
6	須恵器	坏	［13.2］	4.2	［7.6］	長石・石英・雲母・細礫	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区１ｘ	30%新治窯 PL37
7	須恵器	坏	－	（1.1）	7.5	長石・石英・雲母・黒色湧出物	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り　朱墨「前」	４区２ｘ	10%新治窯 PL49
8	須恵器	坏	13.4	4.6	7.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区１ｘ	90%新治窯 PL37
9	須恵器	盤	［19.4］	4.2	［10.8］	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後高台貼付	２区１ｘ ３区１ｘ	40%新治窯 PL37
10	須恵器	盤	－	（2.6）	［11.0］	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後高台貼付	２区３ｘ ３区２ｘ	30%新治窯
11	須恵器	盤	－	（2.9）	13.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付　底部に煤付着　酸化焔焼成	４区２ｘ	70%新治窯
14	須恵器	鉢	［35.4］	16.4	［21.8］	長石・石英・細礫	灰黄	良好	外面同心円文叩き　下端ヘラ削り　内面ヘラナデ	３区１ｘ ４区１ｘ	10%新治窯
15	須恵器	鉢	［33.6］	（11.9）	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面平行叩き　内面ヘラナデ	４区１ｘ	20%新治窯
16	須恵器	鉢	－	（13.6）	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面横位の平行叩き　内面ヘラナデ	３区２ｘ ４区１ｘ	20%新治窯
17	土師器	甕	［30.0］	（28.2）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	１区床面	30%
18	須恵器	鉢	－	（13.7）	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き　内面ナデ	竈燃焼部	10%新治窯
19	土師器	小形甕	［15.8］	17.8	［8.0］	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部木葉痕	１区床面	30% PL37
20	須恵器	甕	－	（10.5）	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	外面平行叩き　内面当て具痕	４区２ｘ	10%新治窯
21	須恵器	甕又は鉢	－	（8.2）	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面平行叩き　下端ヘラ削り　内面当て具痕	４区１ｘ	10%新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
12	手鎌	（6.1）	1.7	0.2	6.26	鉄	断面長方形	４区上層	PL54
13	刀子	（5.2）	（0.9）	0.3 ～ 0.4	5.16	鉄	刃部～茎にかかる部分　刃部先端欠損　断面二等辺三角形	２区３ｘ	PL54
22	釘カ	（3.1）	0.6	0.4	2.42	鉄	先端部カ　断面長方形	４区２ｘ	観察表のみ

番号	器　種	最小径	最大径	長さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
23	羽口	－	－	（7.5）	140.03	長石・石英	橙	３点に分離　被熱で還元	１区２ｘ	観察表のみ
24	羽口	－	－	（4.2）	44.88	長石	橙	推定径 8.8cm　表面還元	２区１ｘ	観察表のみ
25	羽口	－	－	（4.1 ／ 2.2）	23.20	長石	橙	２点に分割　中央孔確認	３区１ｘ	観察表のみ
26	羽口	－	－	（4.0）	16.26	長石　雲母	にぶい赤褐	中央孔確認　還元	２区３ｘ	観察表のみ

第 43 号竪穴建物跡（第 156・157 図　PL11）

位置　調査Ⅱ区南西部のＯ２f0 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 47 号竪穴建物跡を掘り込み，第 28・29 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.82 ｍ，短軸 4.72 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 16 °－Ｅである。壁は高さ 29 ～ 47cm で，外傾している。

床　平坦で，壁際を除く中央部が踏み固められている。北東コーナー部を除き壁溝が巡っている。

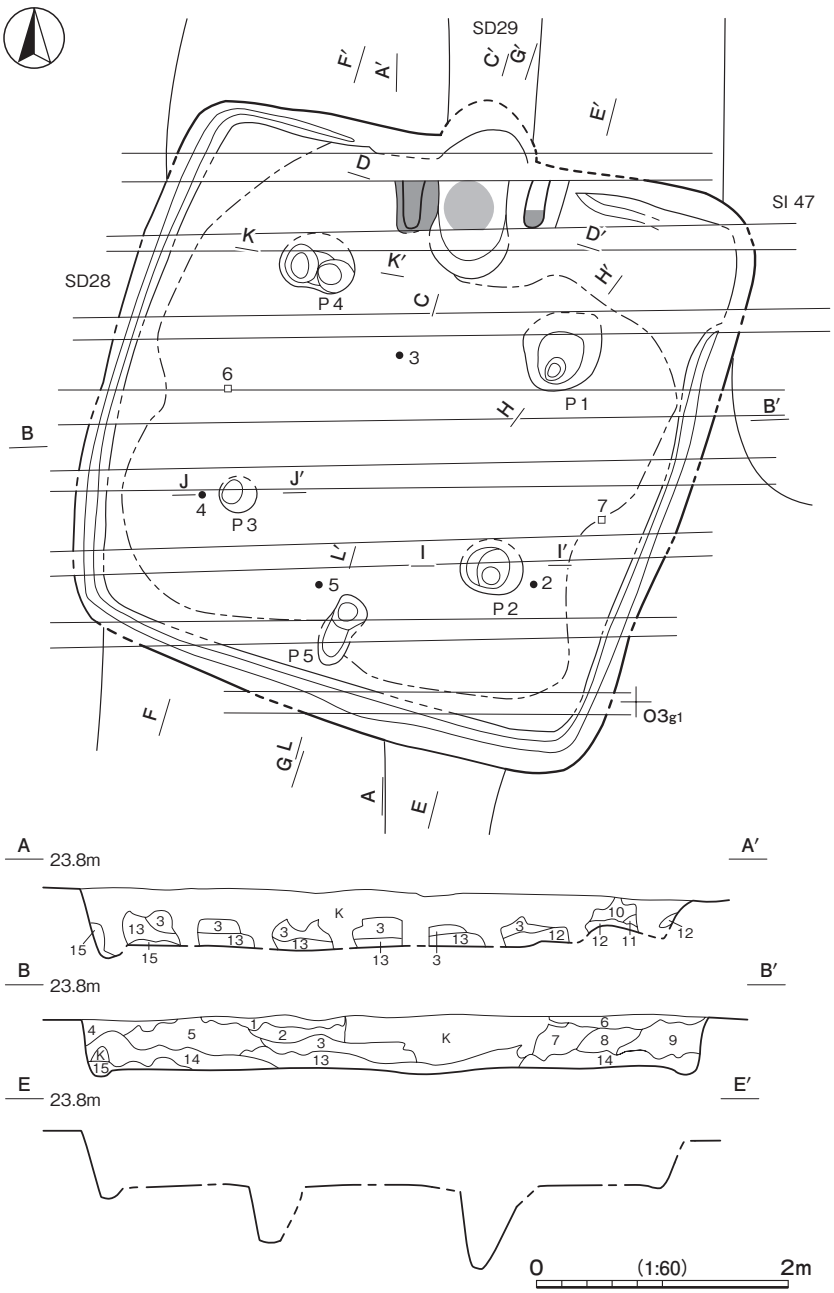
竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 150cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。袖部は基底部に近い部分が残存しているのみで，白色粘土主体の灰褐色土を積み上げて構築されている。火床面は床面から 10cm ほど，楕円形に掘りくぼめられている。

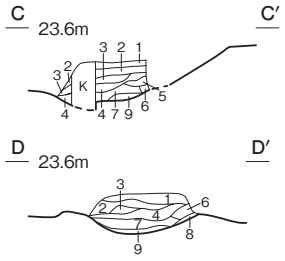
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 36 ～ 62cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 55cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。

覆土　15 層に分層できる。ロームブロックを含む土が不整合に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 66 点（坏４，高台付坏１，高坏１，壺･甕類 60），須恵器片 59 点（坏 23，高台付坏３，蓋４，盤１，瓶類１，鉢･甕･甑類 27），灰釉陶器片１点（瓶類），石製品２点（石製模造品），金属製品１点（器種不明），鍛冶関連遺物（椀状滓 239.0 ｇ，鉄塊系遺物 39.0 ｇ，鉄滓 9.0 ｇ），焼成粘土塊 20.8 ｇのほか，陶器片３点（碗１，瓶類２）が出土している。建物跡の規模や覆土の残存状況に反して，出土遺物は少ない。５は出入口ピットの近くで床面に刺さるように出土している。４はＰ３近くの覆土下層から出土したもので，盤の高台裏面にヘラ描きが見られる。３の瓶類は，北西部の覆土下層から出土したもので，平行叩きによる器面成形後カキ目調整がなされる。下部に粘土が融着している。６・７はやや時期が遡るもので，混入の可能性が高い。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。





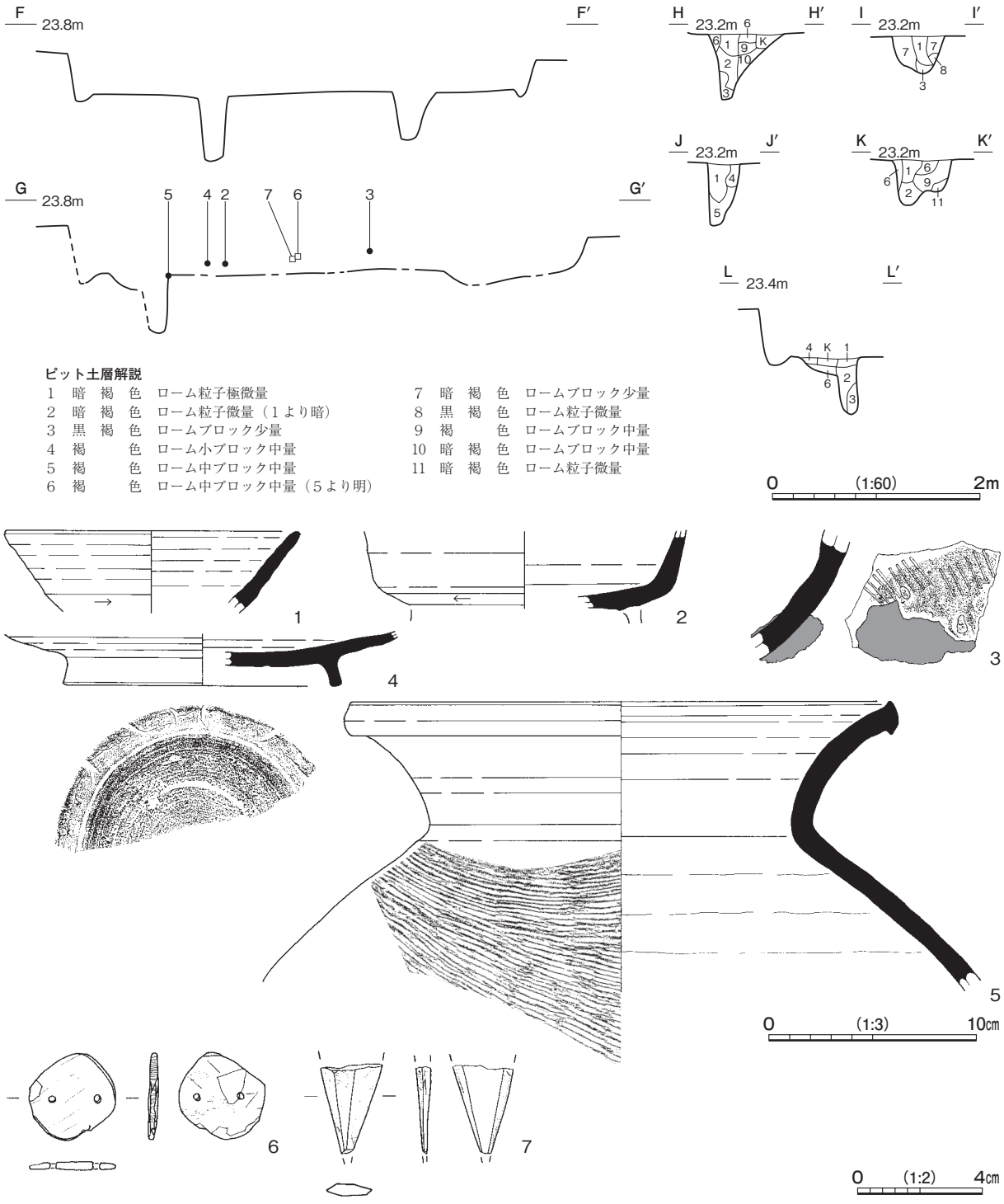
土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック微量
2	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
4	暗	褐	色	ローム粒子中量
5	暗	褐	色	ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子微量
6	褐		色	ロームブロック微量
7	褐		色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
8	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
9	黒	褐	色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
10	黒	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
11	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量
12	暗	褐	色	粘土ブロック･ローム粒子･炭化粒子少量
13	褐		色	ロームブロック中量
14	暗	褐	色	ローム粒子少量
15	褐		色	ロームブロック中量

竈土層解説

1	褐		色	粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	暗	褐	色	粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3	暗	褐	色	焼土ブロック・粘土ブロック微量
4	灰	褐	色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
5	褐		色	粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
6	黒	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
7	暗	褐	色	ローム粒子中量
8	褐		色	ロームブロック中量，焼土粒子少量
9	暗	赤 褐	色	焼土ブロック中量，ローム粒子微量

第 156 図　第 43 号竪穴建物跡実測図



第 157 図　第 43 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 101　第 43 号竪穴建物跡出土遺物観察表（1）（第 157 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	須恵器	坏	［14.0］	（3.8）	－	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	1区3ｘ	20%新治窯
2	須恵器	高台付坏	－	（3.7）	－	長石・石英・雲母・細礫	褐灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後高台貼付	2区下層	20%新治窯
3	須恵器	瓶類	－	（6.5）	－	長石・石英	にぶい黄	普通	外面平行叩き後カキ目ヵ　粘土の融着有　内面指押さえ　自然釉	4区下層	10%在地ヵ
4	須恵器	盤	－	（2.6）	［13.2］	長石・細礫	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付　ヘラ記号有	3区下層	40%新治窯
5	須恵器	甕	［26.0］	（14.0）	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部ロクロナデ　体部外面横～斜位の平行叩き　内面ヘラナデ	3区床面	30%新治窯 PL37

表 102　第 43 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 157 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
6	石製模造品	径 2.2 ～ 2.7	－	0.3	3.54	緑色片岩	有孔円板　一方向からの穿孔　孔径 0.2cm	４区下層	PL52
7	石製模造品	(3.9)	2.0	0.4	2.65	緑色片岩	剣形　頭部欠損	２区下層	PL52

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
8	不明	(5.4)	(2.2)	0.1	24.24	鉄	表面剥離　鎌カ	４区２ｘ	観察表のみ

第 44 号竪穴建物跡（第 158 ～ 161 図　PL11）

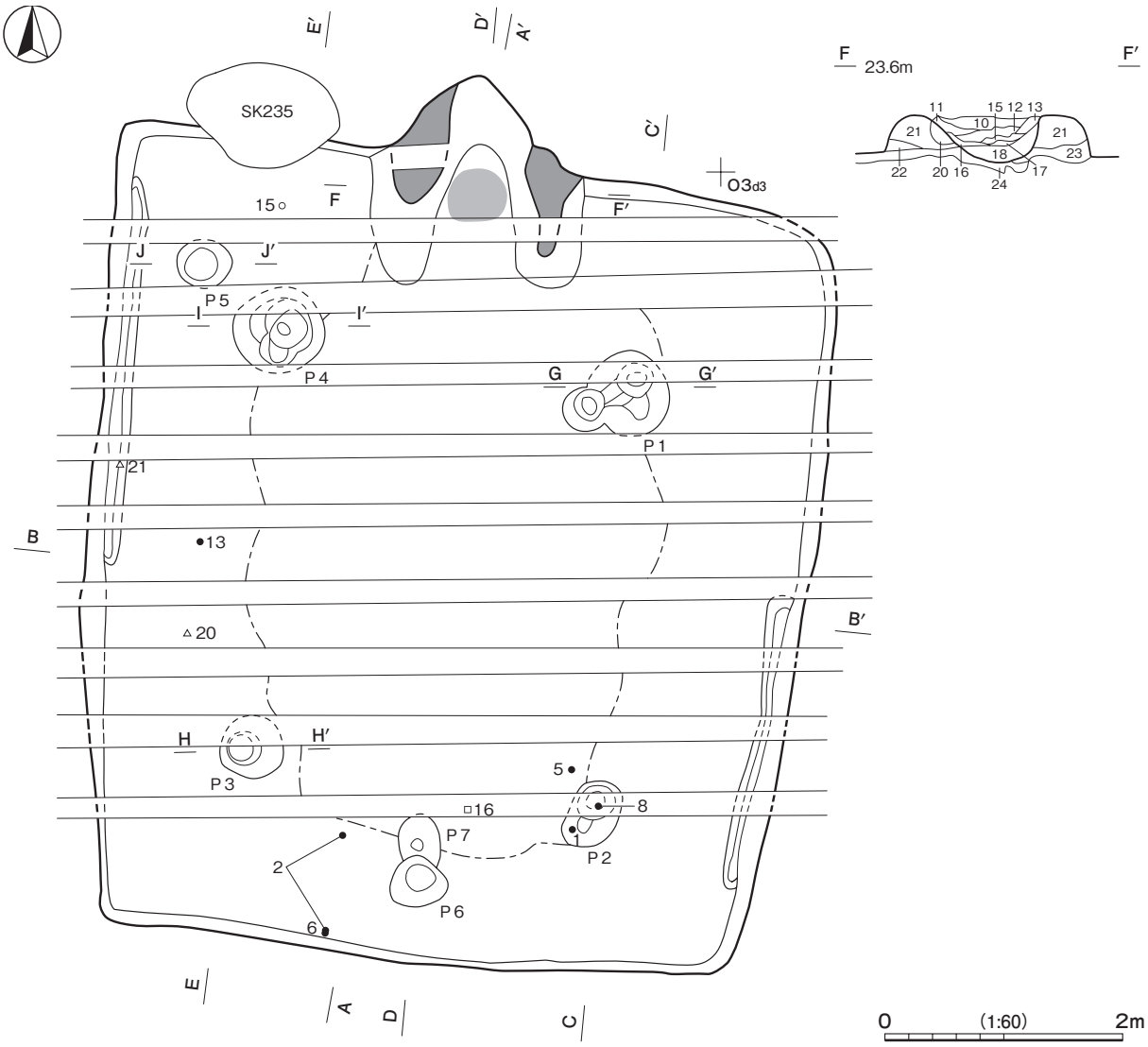
位置　調査Ⅱ区南西部のＯ３d2 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 45・47 号竪穴建物跡を掘り込み，第 235 号土坑に掘り込まれている。

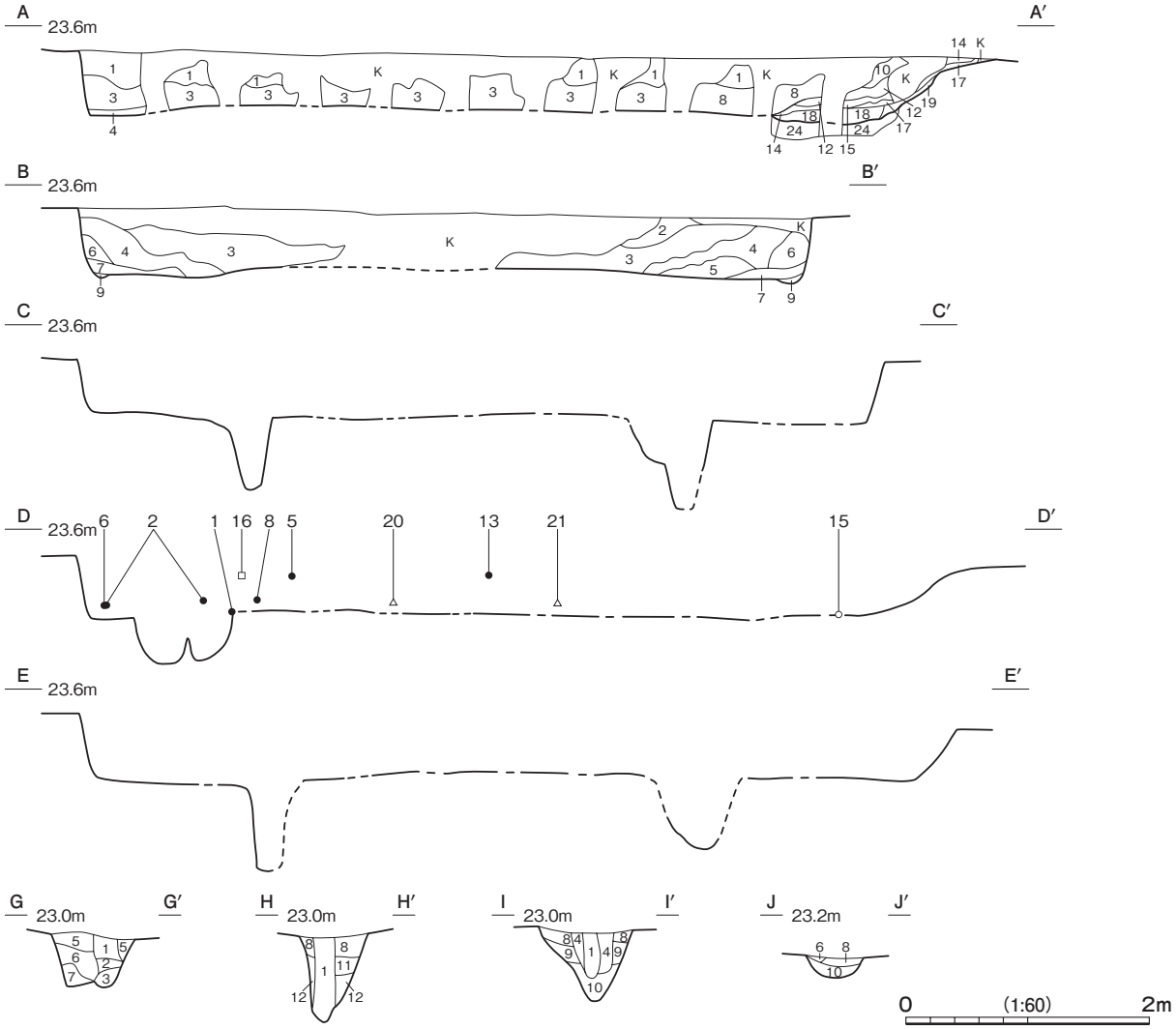
規模と形状　長軸 6.70 ｍ，短軸 6.12 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁は高さ 46 ～ 55cm で，直立している。

床　平坦で，壁際を除く中央部が踏み固められている。東壁と西壁の一部に壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 160cm で，燃焼部幅は 60cm である。煙道



第 158 図　第 44 号竪穴建物跡実測図（１）



土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	暗	褐	色	焼土粒子少量，炭化粒子微量
3	黒	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗	褐	色	焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐		色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
6	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
7	褐		色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
8	暗	褐	色	焼土粒子中量，粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
9	褐		色	ロームブロック中量
10	にぶい黄褐色			焼土ブロック少量，ロームブロック微量
11	暗赤褐色			焼土粒子中量，粘土ブロック・ローム粒子微量
12	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13	にぶい黄褐色			粘土ブロック多量，砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子微量
14	暗	褐	色	焼土ブロック少量，粘土ブロック・ローム粒子微量
15	にぶい黄褐色			粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
16	褐		色	ローム粒子少量，粘土ブロック微量
17	暗赤褐色			焼土粒子中量，ローム粒子微量
18	赤	褐	色	焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子微量
19	にぶい赤褐色			ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土ブロック微量
20	にぶい赤褐色			粘土ブロック・焼土粒子少量，ロームブロック・砂粒微量
21	にぶい黄褐色			粘土ブロック中量，焼土ブロック・砂粒少量
22	暗	褐	色	粘土ブロック・焼土粒子微量
23	褐		色	ローム粒子中量，焼土ブロック微量
24	褐		色	ロームブロック少量，焼土粒子微量

ピット土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック微量
3	暗	褐	色	ローム粒子微量
4	褐		色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
5	褐		色	ロームブロック・焼土粒子中量
6	暗	褐	色	ロームブロック中量
7	褐		色	ロームブロック中量
8	暗	褐	色	ローム粒子中量
9	褐		色	ロームブロック中量
10	暗	褐	色	ローム粒子微量
11	黒	褐	色	ロームブロック微量
12	暗	褐	色	ロームブロック中量

第 159 図　第 44 号竪穴建物跡実測図（2）

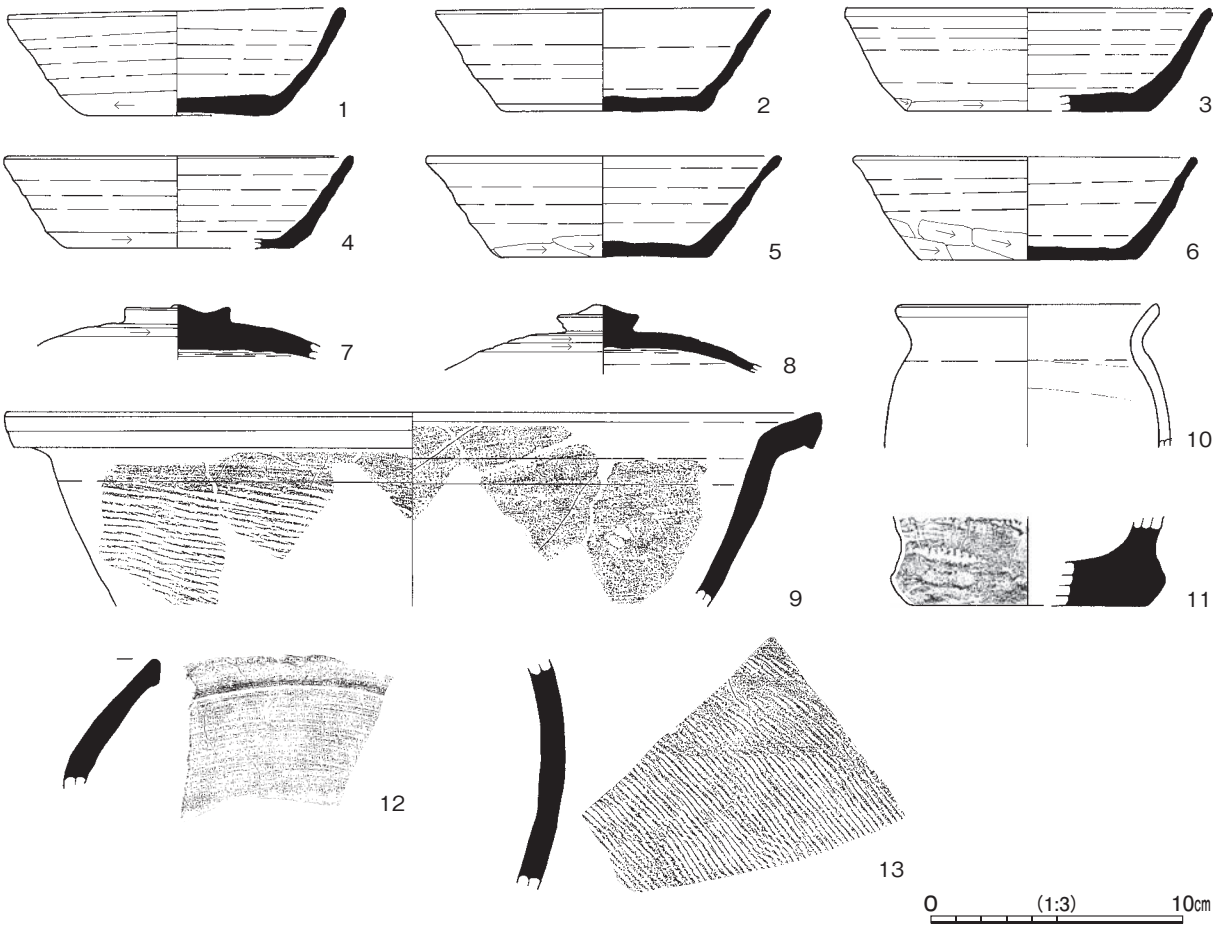
部は壁外に 70cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第 8・10 ～ 24 層が竈に関連する堆積土で，第 8・10 ～ 16 層が天井部の崩落土，第 17 ～ 19 層は燃焼部の堆積土である。火床部は床面を 10cm ほど掘りくぼめている。第 20 ～ 23 層が袖部の構築土で，粘土ブロックを含む褐色土や灰黄褐色土を積み上げて構築されている。第 24 層は掘方への埋土である。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 62 ～ 70cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４とも柱痕が確認できた。Ｐ６・Ｐ７は深さ 40cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ５は深さ 16cm で，上屋を保持する補助的な柱穴の可能性がある。

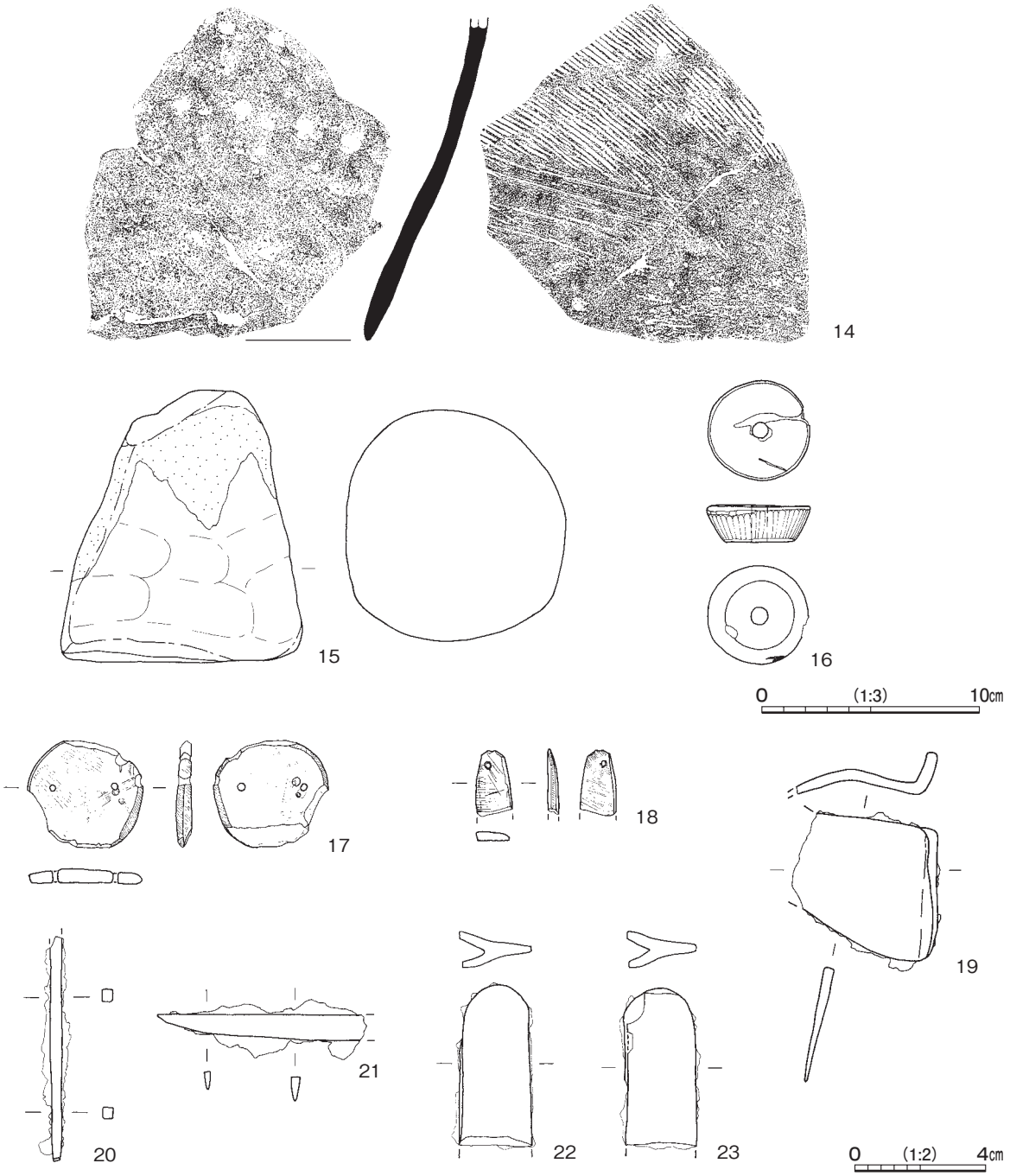
覆土　８層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 474 点（坏 39，高台付坏１，椀 20，高坏９，壺・甕類 405），須恵器片 281 点（坏 152，高台付坏５，蓋 13，瓶類４，捏ね鉢１，鉢・甕・甑類 106），灰釉陶器片１点（不明），土製品２点（支脚，不明），石器・石製品３点（紡錘車１，石製模造品２），金属製品８点（刀子１，鎌１，鋤先$_{カ}$２，紡錘車３，釘$_{カ}$１），鍛冶関連遺物（椀状滓 586.3 ｇ，鉄塊系遺物 32.1 ｇ，鉄滓 103.2 ｇ，炉壁材 22.0 ｇ），焼成粘土塊 57.1 ｇのほか，陶器片１点（皿），磁器片３点（碗２，皿１），瓦片１点が出土している。遺物は各区各層の覆土中からまんべんなく出土しているが，床面から出土したものは少ない。１・８はＰ２の上面から，２・６は出入口ピット付近の下層からそれぞれ出土している。17・18 は時期が遡るものであり，重複する遺構或いは周辺遺構からの混入の可能性が高い。鉄製品では，紡錘車の軸と推定されるものが図化できなかった小片も含め３点出土しているが，接合関係は確認できない。22・23 の鋤先状の鉄製品は，北東部の覆土中層から下層で出土した。また覆土中から鍛冶関連遺物が比較的多く出土しており，鉄塊系遺物の中には，鎌を鉄素材として再利用したものも含まれている。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。重複する第 47 号竪穴建物跡との新旧関係とも矛盾しない。



第 160 図　第 44 号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）



第 161 図　第 44 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

表 103　第 44 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 160 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	13.1	4.2	7.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	Ｐ２上面	70%新治窯 PL37
2	須恵器	坏	［13.0］	4.0	7.9	長石・石英・雲母・針状鉱物	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区下層	60%新治窯 PL37
3	須恵器	坏	［14.4］	4.0	［9.6］	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区１ｘ	20%新治窯
4	須恵器	坏	［13.5］	3.7	［9.0］	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	１区３ｘ	20%新治窯
5	須恵器	坏	［13.8］	4.0	8.4	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り　下半酸化焔焼成	２区上層	40%新治窯
6	須恵器	坏	13.4	4.1	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区下層	70%新治窯 PL37
7	須恵器	蓋	－	（2.1）	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	３区３ｘ	30%新治窯

表 104　第 44 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 160・161 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
8	須恵器	蓋	－	(2.9)	－	長石・石英・雲母	灰黄	良好	天井部回転ヘラ削り	Ｐ２上面	30%新治窯
9	須恵器	鉢	[32.0]	(7.1)	－	長石・石英・細礫	灰	良好	体部平行叩き　内面ロクロナデ	２区３ｘ ４区３ｘ	５%新治窯
10	土師器	甕	[10.4]	(5.6)	－	長石・石英	暗褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ナデ　内面ヘラナデ	３区３ｘ	10%
11	須恵器	捏ね鉢	－	(3.5)	[9.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部縦位の平行叩き　内面ナデ　底部ヘラ削り	３区２ｘ	５%新治窯
12	須恵器	甕	－	(5.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	ロクロナデ	Ｐ１覆土中	10%新治窯
13	須恵器	甕	－	(9.1)	－	長石・石英・黒色湧出物	黄灰	良好	外面斜位の平行叩き　内面ナデ	４区上層	10%堀之内窯ヵ PL49
14	須恵器	甑	－	(14.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	外面斜位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面縦位のナデ　下端部ヘラ削り	２区２ｘ ３区２ｘ	10%新治窯

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
15	支脚	(6.0)	11.0	12.4	10.63	長石	橙	頭部残存　指頭によるナデ成形	４区床面	PL47
24	不明	0.4	1.5	(1.4)	1.36	長石	橙	円錐状　上面に絞り状の文様あり　先端部欠損	１区上層	近世ヵ　観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
16	紡錘車	径 4.6 ～ 4.7	－	1.2	49.38	粘板岩	側面に研磨痕明瞭に残る	２区上層	PL53
17	石製模造品	3.0 ～ 3.2	－	0.5	8.61	緑色片岩	有孔円板　一方向からの穿孔　孔径 0.2cm　表裏面に未穿孔の孔有	覆土中	PL52
18	石製模造品	2.0	1.2	0.35	1.20	緑色片岩	剣形　一方向からの穿孔　孔径 0.2cm	４区３ｘ	PL52
19	鎌	(4.4)	4.4	0.3	22.86	鉄	刃部先端欠損　やや褶曲している	３区覆土中	PL54
20	紡錘車	(6.9)	0.4	0.4	6.33	鉄	軸部の先端部　断面方形	３区下層	PL54
21	刀子	(6.4)	1.8	0.2 ～ 0.3	6.40	鉄	刃部　断面二等辺三角形	３区下層	PL54
22	鋤先	(4.9)	2.2	0.2 ～ 1.1	25.18	鉄	断面Ｙ字状　端部が弧状を呈するヵ　刃部の形成は不明瞭　23 と形状・規模とも似る	１区２ｘ	
23	鋤先	(4.7)	2.1	0.2 ～ 1.1	26.45	鉄	断面Ｙ字状　端部が弧状を呈するヵ　刃部の形成は不明瞭　22 と形状・規模とも似る	１区３ｘ	PL54
25	刀子ヵ	(2.7)	0.6	0.3 ～ 0.4	2.96	鉄	刃部～茎の部分ヵ　先端部欠損　断面長方形～方形	２区３ｘ	観察表のみ
26	紡錘車ヵ	(3.1)	0.5	0.5	2.72	鉄	軸部ヵ　断面方形	４区１ｘ	観察表のみ
27	紡錘車ヵ	－	0.5	0.5	6.41	鉄	複数に分離　長さ 4.3cm 以上　先端部あり　断面方形	３区床面	観察表のみ
28	釘ヵ	(2.7)	0.6 ～ 1.2	0.7	4.40	鉄	頭部残存ヵ　先端部欠損　断面長方形	３区上層	観察表のみ

第 47 号竪穴建物跡（第 162・163 図　PL12）

位置　調査Ⅱ区南西部のＯ３e1 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 240・241 号土坑を掘り込み，第 41・43・44 号竪穴建物に掘り込まれている。

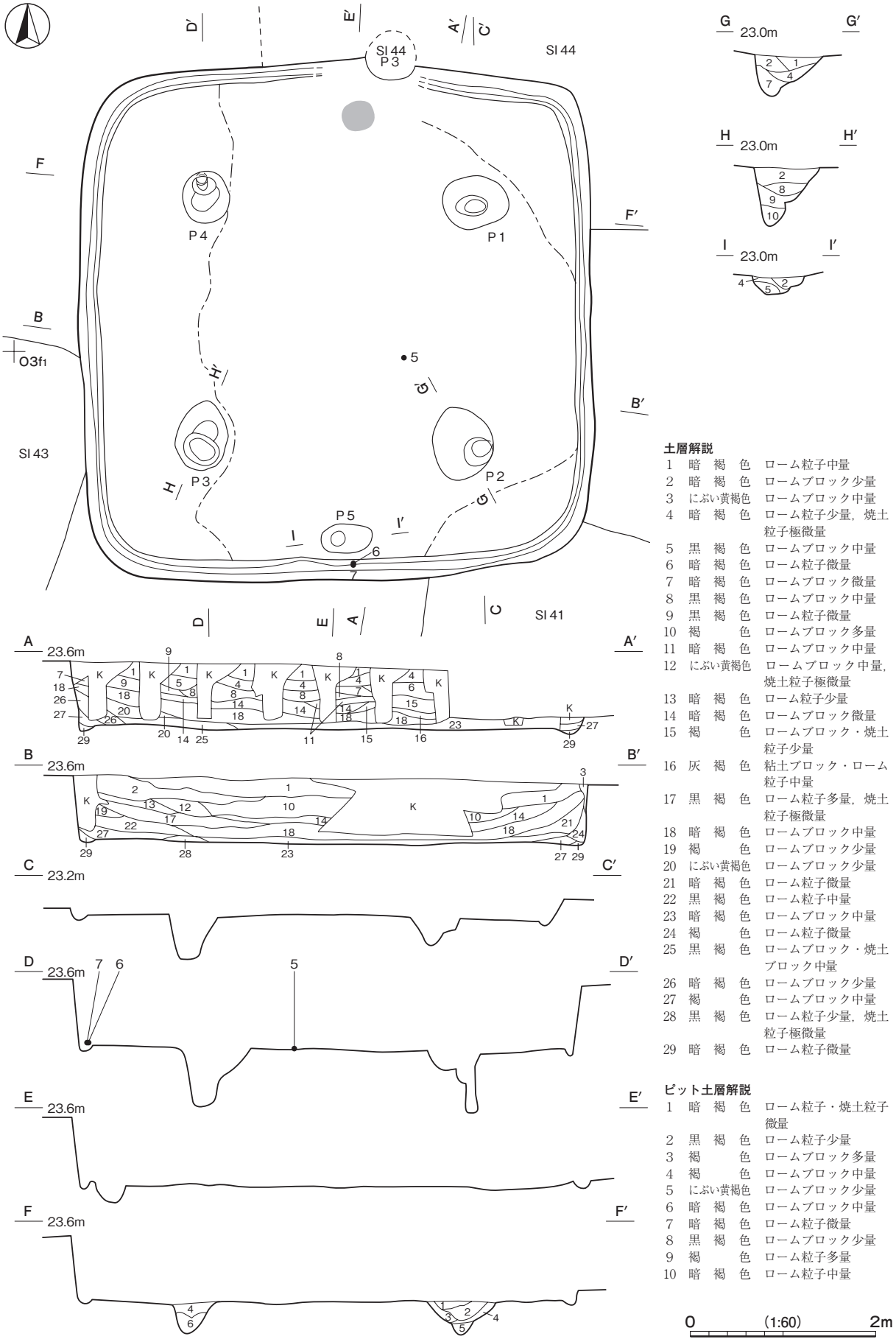
規模と形状　長軸 5.62 ｍ，短軸 5.53 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁は高さ 72cm で，直立している。

床　平坦で，西壁際，及び北東・南東コーナー部を除く中央部が踏み固められている。北壁の一部を除き壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部付近に火床面と考えられる焼土が確認されたことから，竈が付設されていたと推測されるが，上部を削平されているため，袖部等の構築材は残存していない。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 32 ～ 55cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 18cm で，配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　29 層に分層できる。ロームブロックを含む黒褐色土や黄褐色土が不整合に堆積することから，人為堆積である。



土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子中量
2	暗	褐	色	ロームブロック少量
3	にぶい黄褐	色	ロームブロック中量
4	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子極微量
5	黒	褐	色	ロームブロック中量
6	暗	褐	色	ローム粒子微量
7	暗	褐	色	ロームブロック微量
8	黒	褐	色	ロームブロック中量
9	黒	褐	色	ローム粒子微量
10	褐		色	ロームブロック多量
11	暗	褐	色	ロームブロック中量
12	にぶい黄褐	色	ロームブロック中量，焼土粒子極微量
13	暗	褐	色	ローム粒子少量
14	暗	褐	色	ロームブロック微量
15	褐		色	ロームブロック・焼土粒子少量
16	灰	褐	色	粘土ブロック・ローム粒子中量
17	黒	褐	色	ローム粒子多量，焼土粒子極微量
18	暗	褐	色	ロームブロック中量
19	褐		色	ロームブロック少量
20	にぶい黄褐	色	ロームブロック少量
21	暗	褐	色	ローム粒子微量
22	黒	褐	色	ローム粒子中量
23	暗	褐	色	ロームブロック中量
24	褐		色	ローム粒子微量
25	黒	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック中量
26	暗	褐	色	ロームブロック少量
27	褐		色	ロームブロック中量
28	黒	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子極微量
29	暗	褐	色	ローム粒子微量

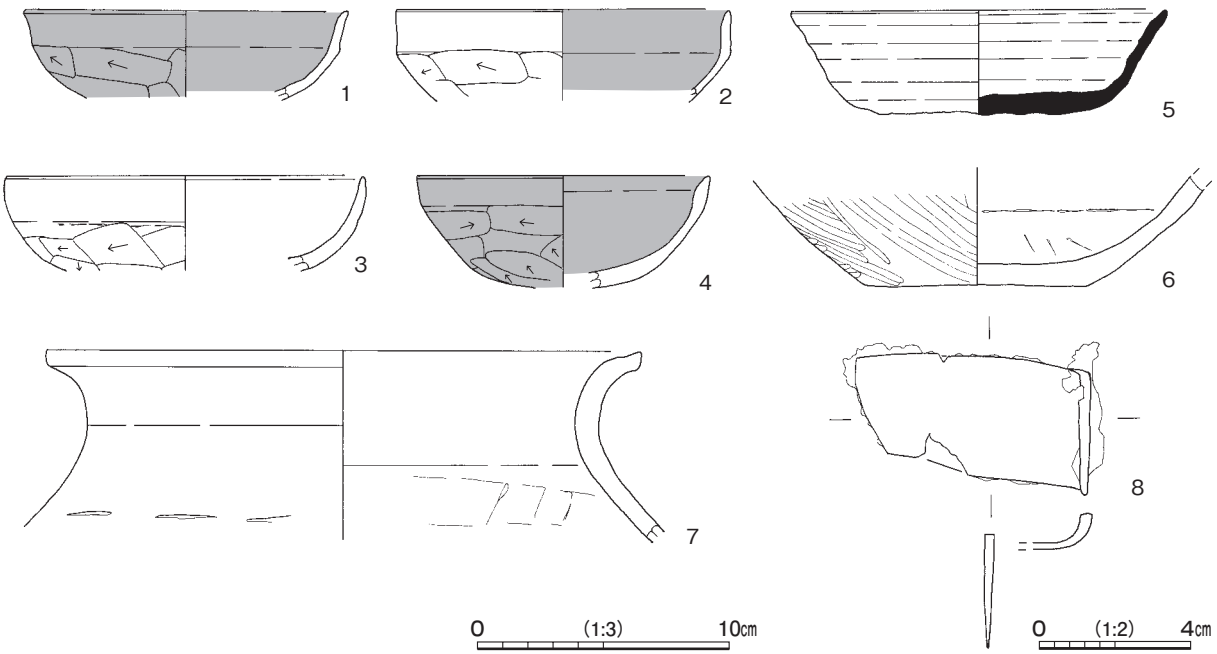
ピット土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒	褐	色	ローム粒子少量
3	褐		色	ロームブロック多量
4	褐		色	ロームブロック中量
5	にぶい黄褐	色	ロームブロック少量
6	暗	褐	色	ロームブロック中量
7	暗	褐	色	ローム粒子微量
8	黒	褐	色	ロームブロック少量
9	褐		色	ローム粒子多量
10	暗	褐	色	ローム粒子中量

第 162 図　第 47 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 175 点（坏 43，椀 2，高坏 5，壺･甕･甑類 125），須恵器片 25 点（坏 14，高台付坏 1，蓋 1，鉢･甕･甑類 9），金属製品 3 点（鉄鏃，鎌，紡錘車ヵ），鍛冶関連遺物（椀状滓 124.2 g，鉄塊系遺物 48.7 g，鉄滓 65.7 g），焼成粘土塊 8.5 g のほか，縄文土器片 1 点，陶器片 2 点（碗，甕），磁器片 1 点（皿）が出土している。覆土が比較的厚く残存していたにもかかわらず遺物は少ない。1 ～ 4 はやや古い様相を示す土師器坏で，小破片であることから混入の可能性が高い。5 ～ 7 は南東部及び南壁際の床面からそれぞれ出土している。小破片のため図示しなかったが，鉄鏃と紡錘車の軸と考えられる金属製品が，南西部と北西部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，床面から出土土器した土器から，8 世紀前葉に比定できる。重複する第 41・43・44 号竪穴建物跡の時期とも矛盾しない。



第 163 図　第 47 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 105　第 47 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 163 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	［12.6］	(3.5)	－	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理	3区4ｘ	10% PL49
2	土師器	坏	［13.0］	(3.6)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　黒色処理	3区4ｘ	10%
3	土師器	坏	［14.0］	(3.7)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	4区1ｘ	10%
4	土師器	坏	［11.4］	(4.4)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理	4区3ｘ	20%
5	須恵器	坏	［14.6］	4.1	7.8	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	2区床面	65%新治窯 PL38
6	土師器	甕	－	(4.3)	8.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　煤付着　内面ヘラナデ　底部木葉痕	2区床面	10%
7	土師器	甕	［23.4］	(7.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	2区床面	20% PL49

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	鎌	(6.2)	3.3	0.2	29.15	鉄	刃部　先端欠損	3区4ｘ	
9	鉄鏃ヵ	(5.1)	0.4 ～ 1.2	0.5	5.22	鉄	鏃身部～茎部分　鏃身部先端は欠損　茎に木質が残存　断面長方形	3区床面	観察表のみ
10	紡錘車	(5.4)	0.5	0.4 ～ 0.5	2.64	鉄	軸部ヵ　先端部　断面方形	4区床面	観察表のみ

第 48 号竪穴建物跡（第 164・165 図）

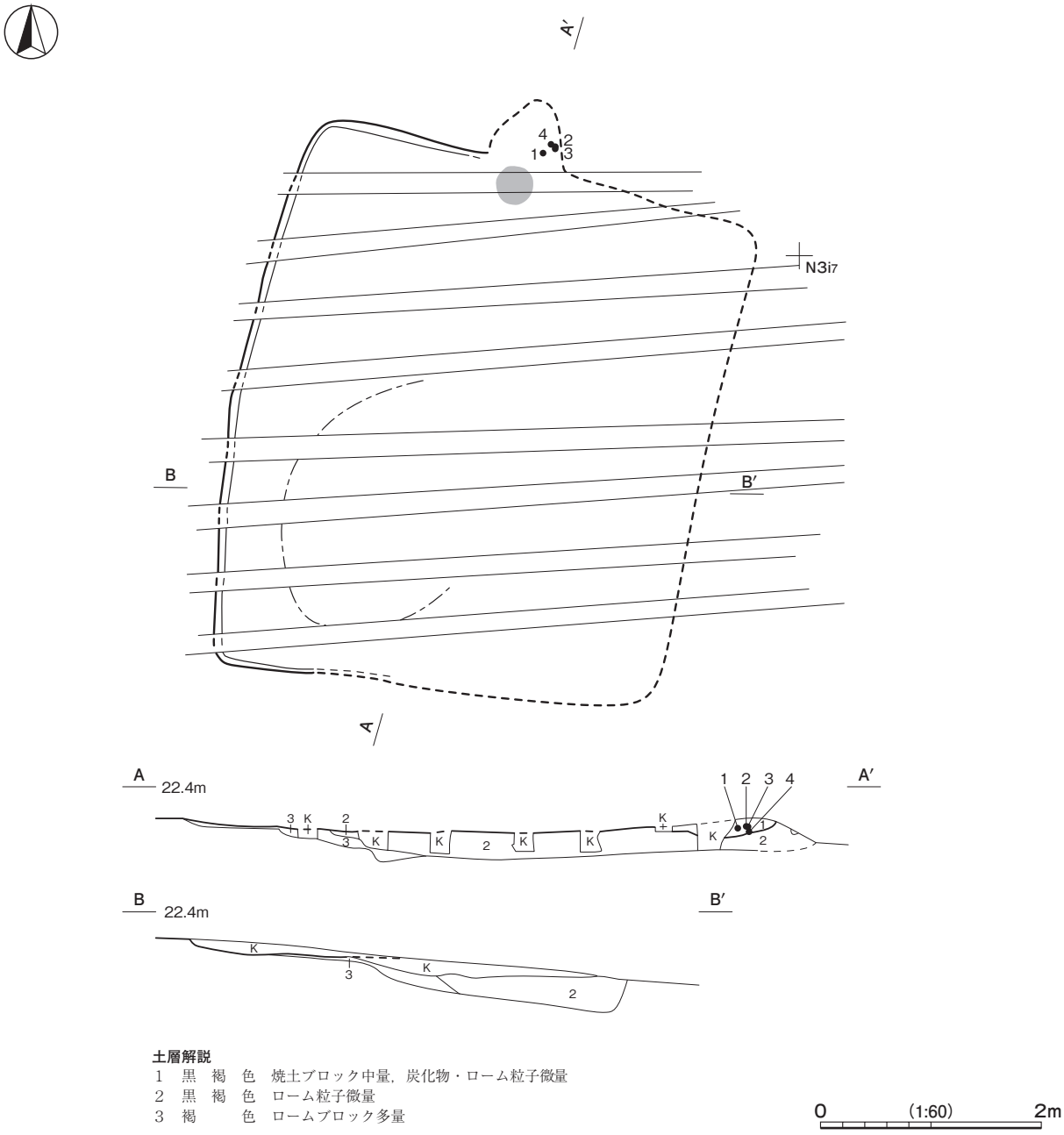
位置　調査Ⅱ区中央部のＮ３i5 区，標高 22.5 ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　確認面が調査区域内に入り込む谷津の黒色土のため，東部の床や壁の立ち上がりをとらえることができなかった。掘方への埋土と考えられる第２層の広がりから，長軸 4.95 ｍ，短軸 4.22 ｍの長方形と推定でき，主軸方向はＮ－ 13 °－Ｅである。西壁は高さ８cm で，外傾している。

床　西部はほぼ平坦で，南西部が踏み固められている。

竈　北壁中央部付近に火床面と考えられる焼土跡，及び煙道部の底面が確認されたことから，北壁中央部に付設されたと推測されるが，上部を削平されているため，袖部等の構築材は残存していない。

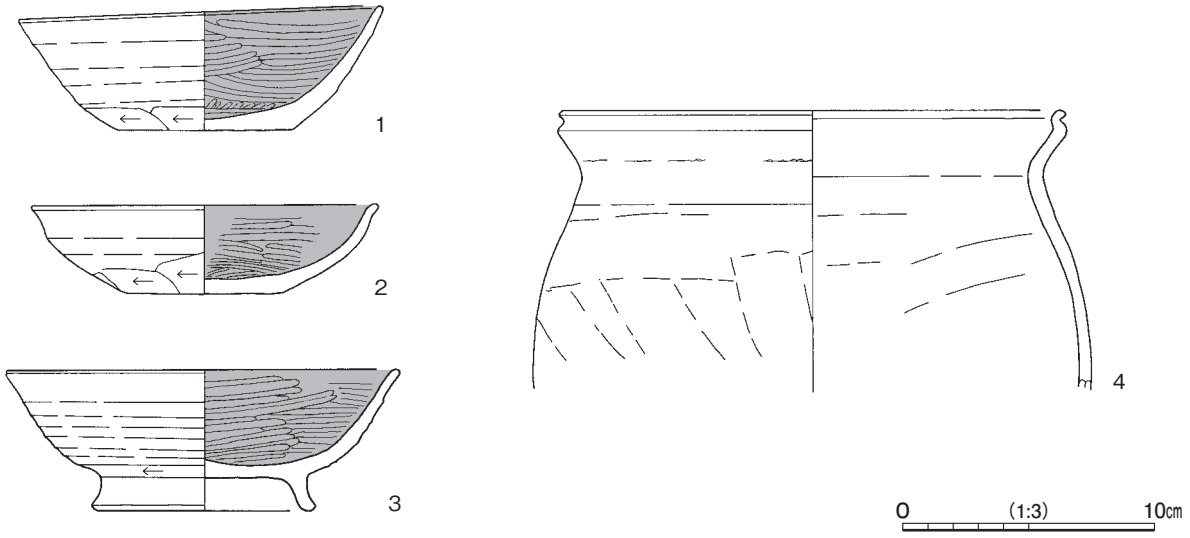
覆土　覆土は捉えられず，掘方への埋土のみ確認できた。第１層は竈の燃焼部の堆積土である。



第 164 図　第 48 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 20 点（坏６，高台付坏１，高坏１，壺･甕類 12），須恵器片３点（坏，蓋，鉢･甕･甑類），灰釉陶器片１点（瓶類，猿投窯ヵ）のほか，縄文土器片１点が出土している。覆土が掘方への埋土のみのため，遺物は非常に少ない。１～４は何れも竈の火床面付近から出土しており，１と３はほぼ完形で出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。



第 165 図　第 48 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 106　第 48 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 165 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	14.3	4.9	6.7	長石・石英	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理	竈燃焼部	80% PL38
2	土師器	坏	［13.6］	3.5	6.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理	竈燃焼部	30%
3	土師器	高台付坏	15.3	5.6	8.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転削り　内面ヘラ磨き　黒色処理	竈燃焼部	90% PL38
4	土師器	甕	［19.6］	（11.0）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈燃焼部	20%

第 51 号竪穴建物跡（第 166 図　PL12）

位置　調査Ⅱ区南西部のＯ２e9 区，標高 24 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.68 ｍ，短軸 3.28 ｍの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 12°－Ｗである。壁は高さ 50cm で，外傾している。

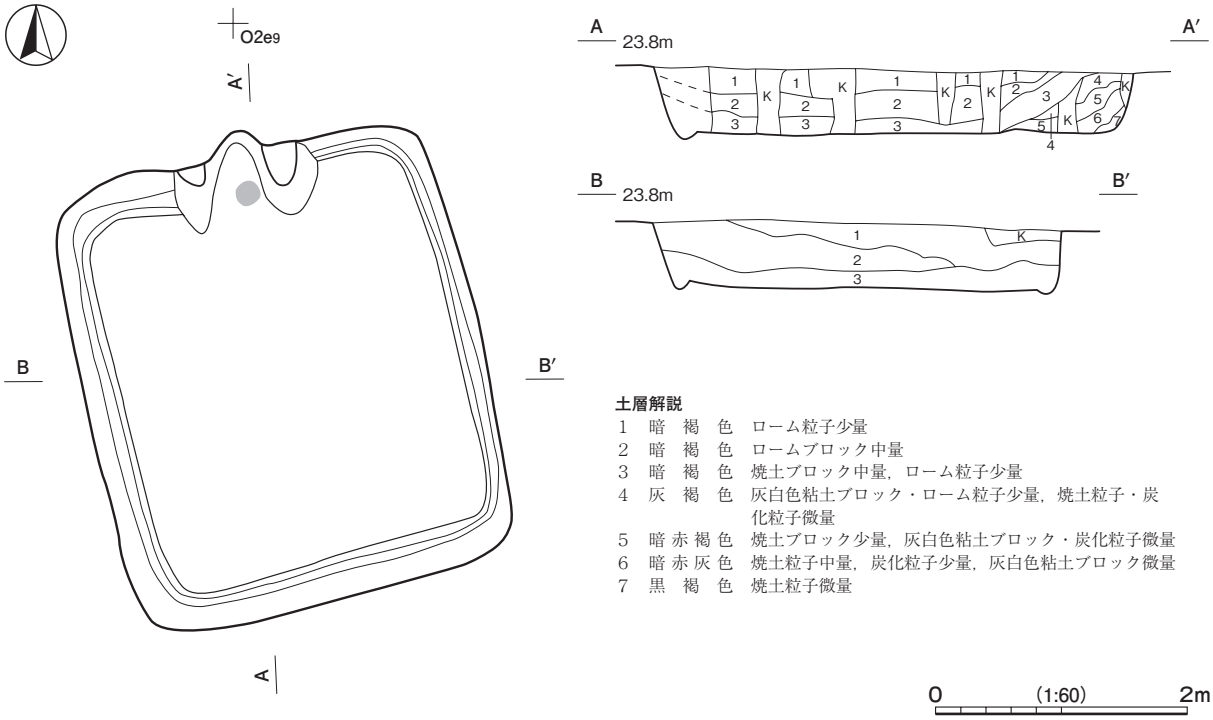
床　平坦で，壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 75cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外に 20cm ほど掘り込まれ，ほぼ直立している。第４～７層が竈に関連する堆積土で，第４層は天井部の崩落土，第５・６層は燃焼部の堆積土である。袖部は灰白色粘土主体の土を積み上げて構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 28 点（坏１，椀１，坩２，高坏３，壺･甕類 21），須恵器片８点（坏１，瓶類１，鉢･甕・甑類６）が出土している。掘り込みと覆土の残存状況に反して，出土遺物が非常に少ない。５世紀後半から 10 世紀までの遺物を含んでいるが，何れも小片で，図化することはできなかった。

所見　時期は，出土土器からは判断することができない。規模や主軸方向などは，本跡の北東約 10 mに位置する第 31 号竪穴建物跡に類似することから，本跡の時期も第 31 号竪穴建物跡同様，８世紀中葉前後と捉えておきたい。



第 166 図　第 51 号竪穴建物跡実測図

第 52 号竪穴建物跡（第 167・168 図　PL12）

位置　調査Ｉ区南部のＱ４a2 区，標高 22.5 mの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 3.22 m，短軸 3.10 mの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 11 °－Ｅである。壁は高さ 10 ～ 16cm で，外傾している。

床　平坦で，南東部に向かって若干傾斜している。中央部が踏み固められている。

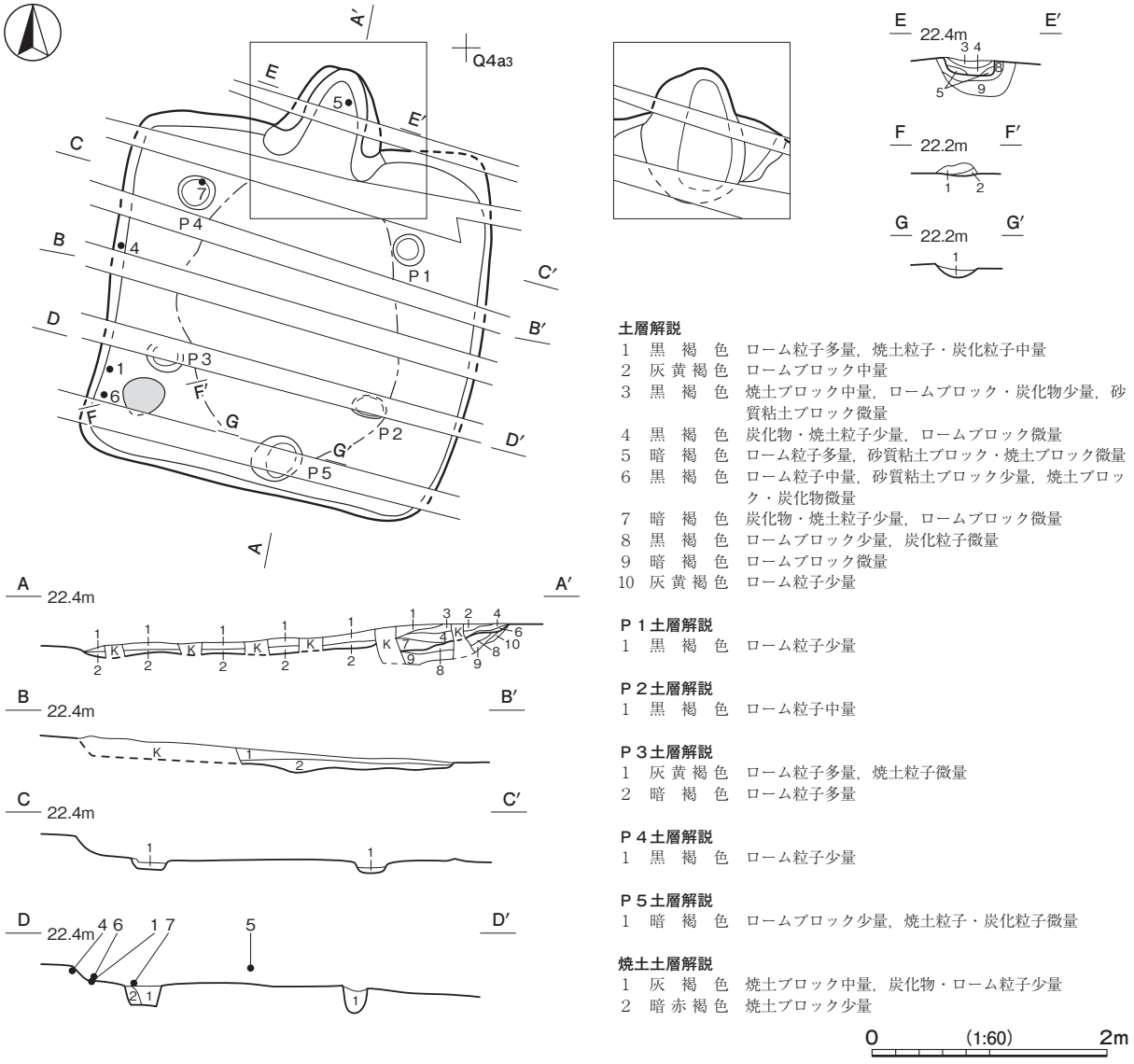
竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に 15 ～ 20cm ほど掘りくぼめ，第８～ 10 層を埋土して構築されている。建物内に袖部はほとんど確認できず，火床面も捉えられなかった。煙道部は壁外に 70cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第３～７層が竈に関連する堆積土であるが，いずれの層からも砂質粘土の出土は少なく，建物の埋没時には竈は壊されていたものと推定される。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は，規模と配置から主柱穴，Ｐ５は出入口施設に伴うピットである。

覆土　２層に分層できる。いずれの層からも，ローム粒子やロームブロックが多く含まれ，南西コーナー部からは焼土ブロックも出土していることから，人為堆積である。

遺物出土状況　土師器片 74 点（坏 18，壺・甕類 56），須恵器片 34 点（坏９，高台付坏１，瓶類２，鉢・甕・甑類 22），金属製品１点（釘），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 39.2 ｇ，鉄滓 4.6 ｇ）が出土している。遺物は全体的に少量で，時期判断可能な土器も限られている。１・６は南西コーナー部の床面から出土している。４は胎土から東海系で搬入品と考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。



土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
2　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量，砂質粘土ブロック微量
4　黒　褐　色　炭化物・焼土粒子少量，ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，砂質粘土ブロック・焼土ブロック微量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
7　暗　褐　色　炭化物・焼土粒子少量，ロームブロック微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック微量
10　灰 黄 褐 色　ローム粒子少量

Ｐ１土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

Ｐ２土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量

Ｐ３土層解説
1　灰 黄 褐 色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量

Ｐ４土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

Ｐ５土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

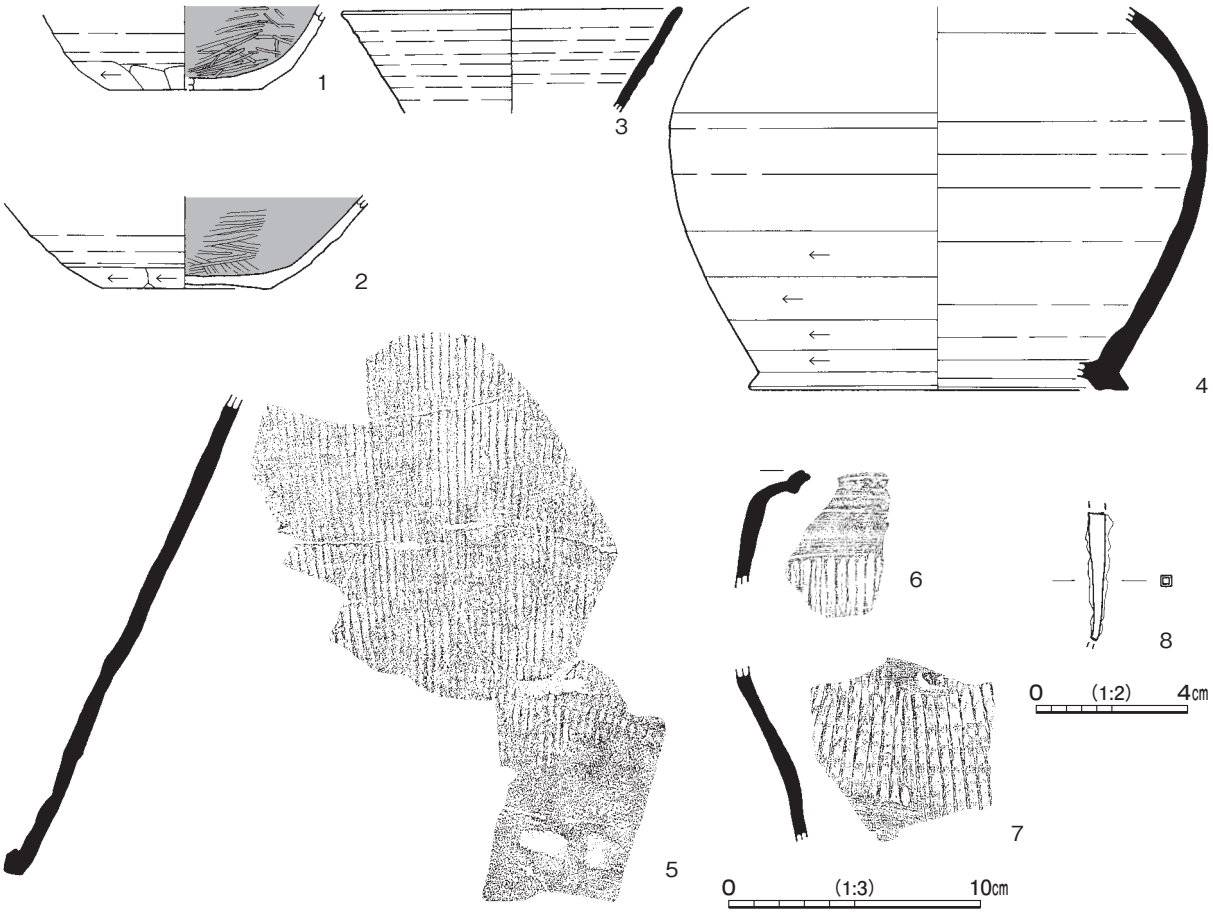
焼土土層解説
1　灰　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量

第 167 図　第 52 号竪穴建物跡実測図

表 107　第 52 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 168 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	－	(3.3)	[6.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理	３区床面	20%
2	土師器	坏	－	(3.6)	6.6	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理	３区覆土中 掘方３区	20%
3	須恵器	坏	[13.4]	(4.1)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	ロクロナデ　内面あばた状に剥離　酸化焔焼成	掘方１区	10%新治窯
4	須恵器	長頸瓶	－	(15.0)	[15.0]	長石　緻密	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形　体部上半に自然釉	４区上層	10%東海系 PL49
5	須恵器	甑	－	18.9	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面縦位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈煙道部	10%新治窯
6	須恵器	鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面縦位の平行叩き　内面ナデ　酸化焔焼成	３区床面	５％新治窯
7	須恵器	甕	－	(6.8)	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	外面格子目文叩き　内面ナデ	Ｐ４上面	５％新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
8	釘	(3.4)	0.2 ～ 0.4	0.3	0.88	鉄	先端部　断面方形　端部が屈曲	４区１ｘ	PL54



第 168 図　第 52 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 56 号竪穴建物跡（第 169 図　PL13）

位置　調査Ⅰ区南部のＰ 4i7 区，標高 21.5 ｍの斜面部に位置している。

重複関係　第 265・273 号土坑，第８号柱穴列に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.06 ｍ，短軸 3.05 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 17゜－Ｅである。壁は高さ 14 ～ 18cm で，外傾している。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。壁溝が全周している。

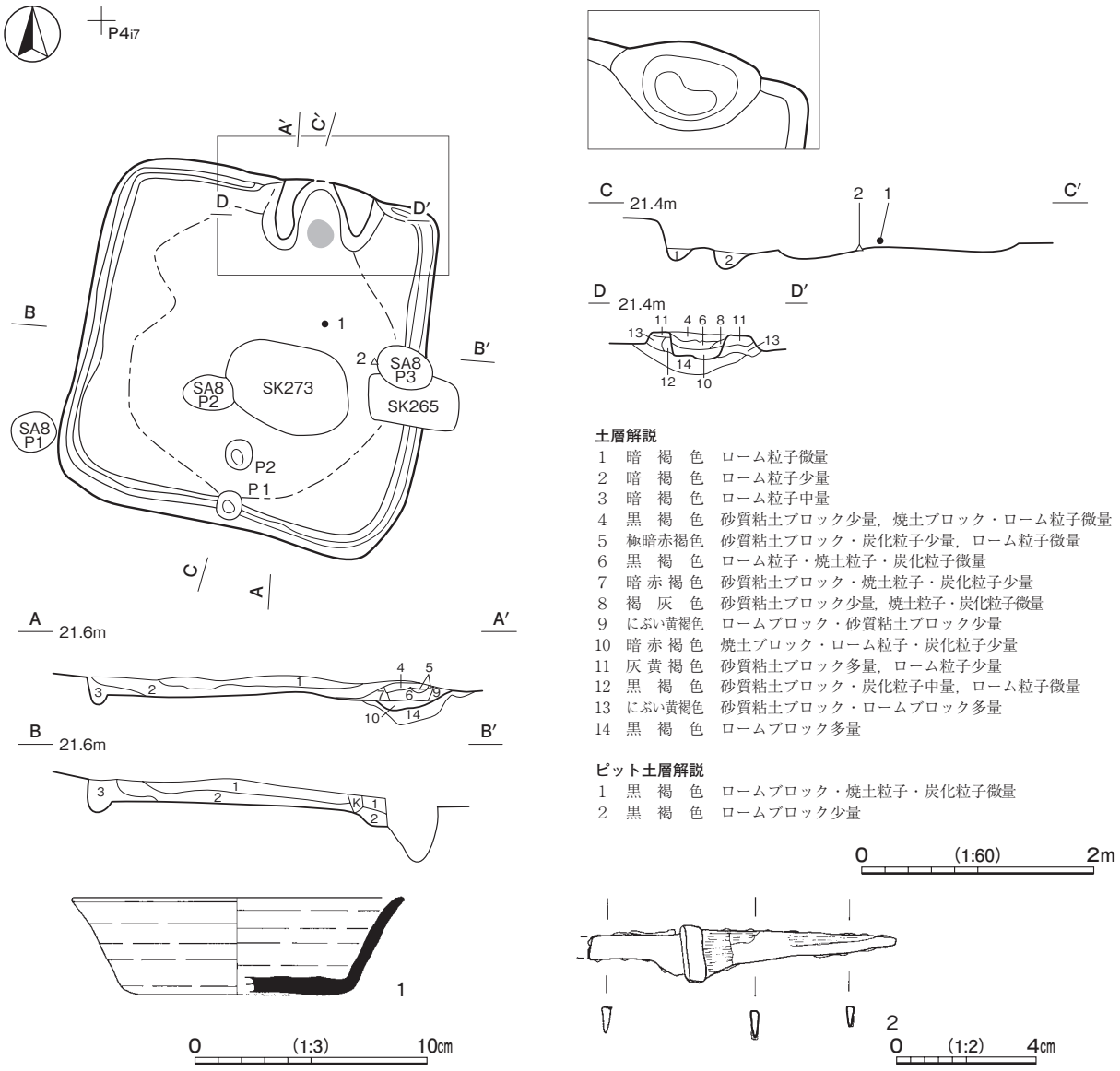
竈　北壁中央部からやや東寄りに付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，ロームブロックを多量に含む第 14 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 65cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外にほとんど掘り込まれていない。第４～ 13 層が竈に関連する堆積土で，袖部は砂質粘土を多く含む第 11 ～ 13 層を積み上げて構築されている。第 10 層は燃焼部の堆積土で，火床面は床面から 10 ～ 15cm ほど掘りくぼめられている。

ピット　２か所。Ｐ１は深さ 18㎝で，規模と配置から出入口施設に伴うピットである。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 34 点（坏９，壺・甕類 23，不明２），須恵器片１点（坏），金属製品１点（刀子）が出土している。覆土が薄いこともあり，遺物は非常に少ない。１・２は北東部（１区）の床面から，それぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第 169 図　第 56 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 108　第 56 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 169 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	須恵器	坏	［14.0］	4.1	［8.6］	長石・石英・雲母	浅黄	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ	1 区床面	新治窯 PL38

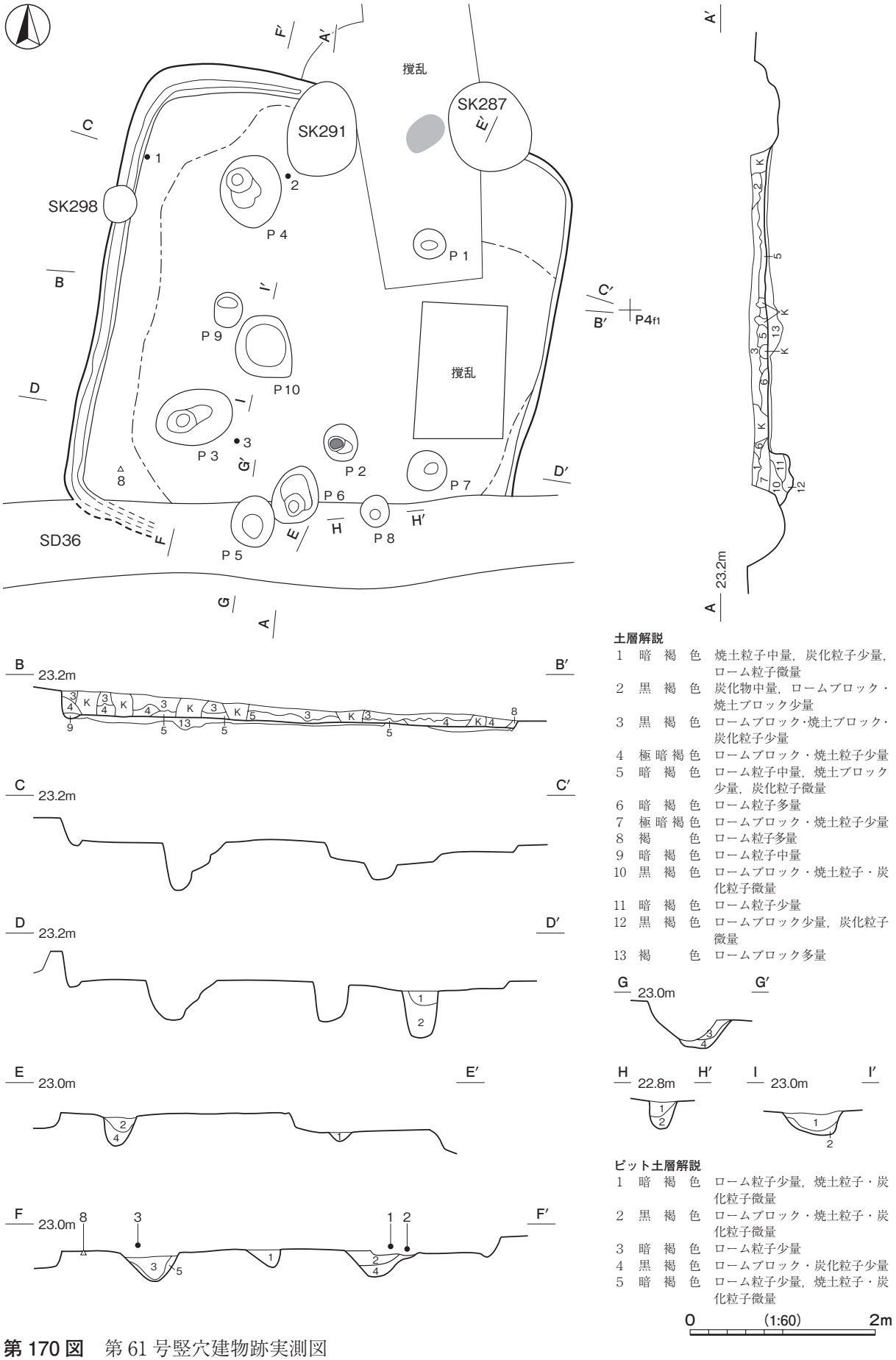
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
2	刀子	（8.8）	0.3 ～ 1.5	0.2 ～ 0.3	9.37	鉄	刃部～茎部分　留金具残存　茎部分に木質付着	1 区床面	PL54

第 61 号竪穴建物跡（第 170・171 図　PL14）

位置　調査Ⅰ区西部のＰ 3e0 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 287・291・298 号土坑，第 36 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北部が撹乱で，南部が第 36 号溝に掘り込まれているため，東西軸 4.84 ｍで，南北軸は 4.86 ｍしか確認できなかった。隅丸長方形と推定され，南北軸方向はＮ－ 10 °－Ｅである。壁は高さ 7 ～ 32cm で，外傾している。



土層解説

1	暗	褐	色	焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
2	黒	褐	色	炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
3	黒	褐	色	ロームブロック･焼土ブロック・炭化粒子少量
4	極暗褐		色	ロームブロック・焼土粒子少量
5	暗	褐	色	ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
6	暗	褐	色	ローム粒子多量
7	極暗褐		色	ロームブロック・焼土粒子少量
8	褐		色	ローム粒子多量
9	暗	褐	色	ローム粒子中量
10	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11	暗	褐	色	ローム粒子少量
12	黒	褐	色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
13	褐		色	ロームブロック多量

ピット土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗	褐	色	ローム粒子少量
4	黒	褐	色	ロームブロック・炭化粒子少量
5	暗	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 170 図　第 61 号竪穴建物跡実測図

床　平坦な貼床で，壁際を除き踏み固められている。北壁西部から西壁にかけて，壁溝が巡っている。

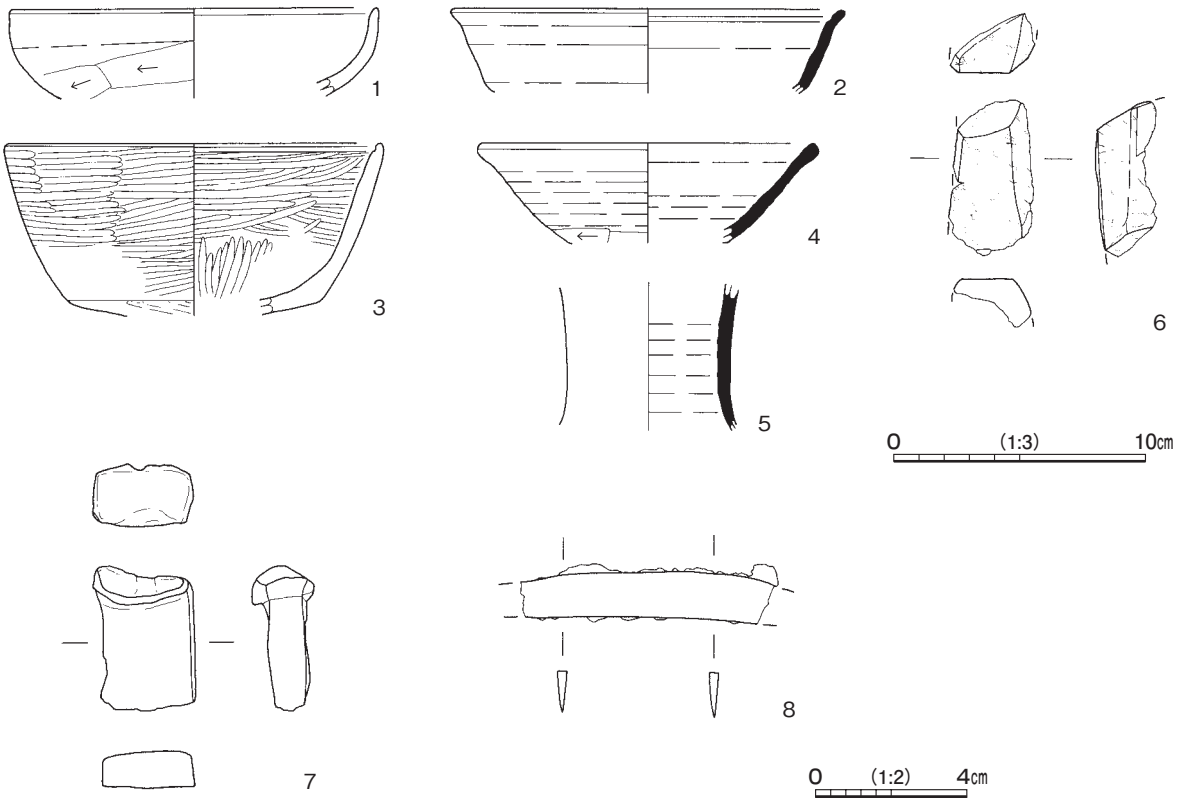
竈　北壁中央部やや東寄りの撹乱坑の底面に焼土跡が確認できたことから，竈の火床面の可能性がある。

ピット　10か所。Ｐ３・Ｐ４・Ｐ７は深さ35～52cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ１は撹乱坑の底面からの深さが12cmであるが，床面の高さから推測すると33cmとなり，規模と配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６は深さ32cm・25cmで，配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２・Ｐ８～Ｐ10は深さ16～35cmで，不規則な位置にある。Ｐ２の底面には柱の当たりが確認できた。

覆土　９層に分層できる。下層ほどロームブロックの混入が多くなり，不規則な堆積状況から埋め戻されている。第10～12層はＰ６の覆土，第13層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片258点（坏56，椀３，坩２，高坏９，壺･甕･甑類188），須恵器片42点（坏23，蓋９，瓶類５，鉢・甕・甑類５），灰釉陶器片１点（皿），石器２点（砥石），金属製品４点（刀子１，鎌２，釘１），鍛冶関連遺物（羽口１，鍛１，椀状滓319.9ｇ，流動滓98.8ｇ，鉄塊系遺物856.6ｇ，鉄滓277ｇ，鍛造剝片134ｇ），のほか，縄文土器片１点，石器１点（スクレイパー）が出土している。遺物はやや少なめで，小片が多く，覆土上層からの出土が多い。土器は５世紀後半から９世紀代の，幅広い時期の遺物を含んでいる。覆土中から鍛冶関連遺物が多く出土しており，特に北東コーナー部付近の覆土下層からまとまって出土した。一部水洗選別を実施したところ，椀状滓や鉄滓のほか，流動滓や鍛造剝片も含まれていた。７の鍛は掘方調査時のＰ２覆土中から出土している。いずれも埋没時に廃棄されたものと考えられる。

所見　出土した土器は，大きく７世紀後葉から８世紀前葉のものと９世紀中葉のものが確認できるが，出土状況や遺物の残存状況からは，本跡がいずれの時期とも判断しがたい。規模や形状，主軸方向などから，９世紀中葉と捉えておきたい。本跡の東部斜面には，同時期の第６・８号鍛冶工房跡などが存在することから，本跡廃絶後の窪地を廃棄場として利用したものと考えられる。



第171図　第61号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 109　第 61 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 171 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［14.4］	(3.4)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	４区下層	10%
2	須恵器	坏	［15.4］	(3.3)	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロクロナデ　口縁部内面に沈線	４区下層	10%新治窯
3	土師器	椀	［14.8］	(6.7)	－	長石・雲母	橙	普通	外・内面・底面ヘラ磨き　黒色処理ヵ	３区下層	20%
4	須恵器	坏	［13.0］	(3.9)	－	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り	２区２ｘ	10%新治窯 PL49
5	須恵器	長頸瓶	－	(6.7)	－	長石・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面自然釉	覆土中	５%東海系

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
6	砥石	(6.1)	(3.4)	(2.4)	35.27	凝灰岩	砥面３面	１区１ｘ	
9	砥石	(4.8)	(3.6)	1.6 ～ 2.3	53.10	凝灰岩	砥面１面のみ確認	３区１ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
7	鏨	3.2	2.7	0.9	33.21	鉄	完形　断面長方形　先端部ほぼ平坦	掘方Ｐ２	PL54
8	刀子	(6.7)	(1.3)	0.25	7.52	鉄	刀身部　先端部欠損	３区床面	PL54
10	鎌	(4.1)	1.9	0.3	10.02	鉄	刃部の先端部	Ｐ１	観察表のみ
11	鎌	(4.0)	2.6	0.4	6.56	鉄	刃部　両端欠損	Ｐ１	観察表のみ
12	釘	(5.1 9	1.1	0.4	11.46	鉄	先端部ヵ　断面長方形	Ｐ１	観察表のみ

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
13	羽口	－	－	(4.8)	43.94	長石	橙	中央孔確認	４区１ｘ	観察表のみ

第 62 号竪穴建物跡（第 172・173 図　PL14）

位置　調査Ⅰ区中央部のＰ４e4 区，標高 22.5 ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 4.40 ｍ，短軸 4.38 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｗである。壁は高さ 23 ～ 63cm で，直立している。

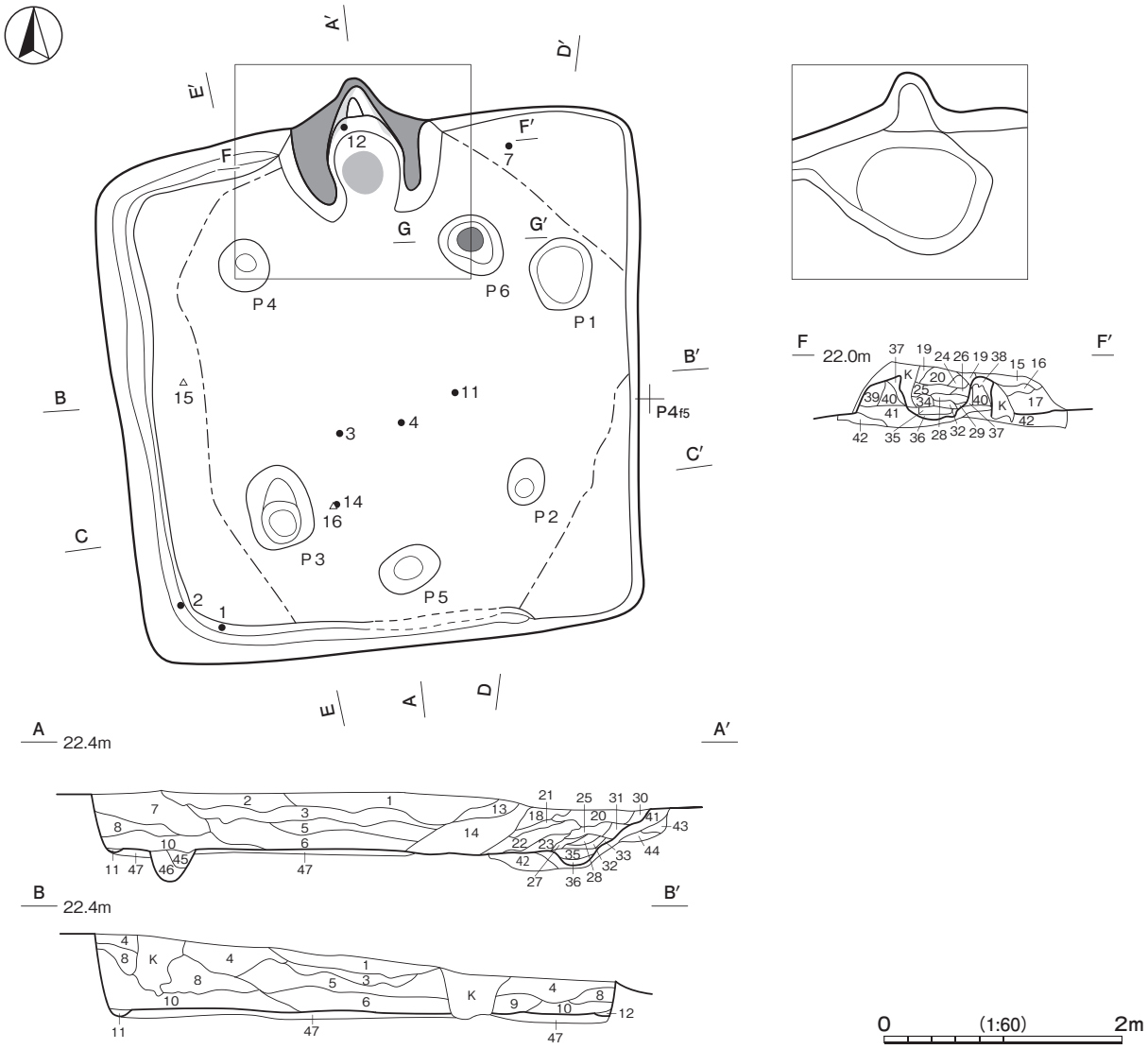
床　平坦な貼床で，東西壁際を除き踏み固められている。北壁西部から西壁及び南壁にかけて，壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。付設する部分を楕円形に掘り込み，第 41 ～ 44 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 100cm で，燃焼部幅は 60cm である。煙道部は壁外に 35cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第 14 ～ 40 層が竈に関連する堆積土で，第 23・27・28・32・34 ～ 36 層が燃焼部及び火床部の堆積土である。火床面は床面から 15cm ほど掘りくぼめている。第 37 ～ 40 層が袖部で，砂質粘土主体の土を積み上げて構築されている。

ピット　６か所。Ｐ２～Ｐ４・Ｐ６は深さ 30 ～ 51cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ６の底面には，柱の当たりを確認した。Ｐ１は深さは 20cm で，補助的な柱穴の可能性がある。Ｐ５は深さ 25cm で，配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　13 層に分層できる。第３層に焼土ブロックと炭化物が，第７層に焼土ブロックと砂がやや多く含まれている。また，床面直上の第６層にはロームブロックがやや多く含まれていることから，埋め戻されている。第 45・46 層はＰ５の覆土，第 47 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 632 点（坏 110，坩４，高坏６，壺・甕・甑類 511，器種不明１），須恵器片 67 点（坏 39，高台付坏１，蓋 18，瓶類４，鉢・甕・甑類５），灰釉陶器片１点（瓶類），金属製品３点（刀子２，楔ヵ１），鍛冶関連遺物（羽口１，椀状滓 314 ｇ，鉄塊系遺物 225.4 ｇ，鉄滓 205.9 ｇ）のほか，縄文土器片２点，剥片



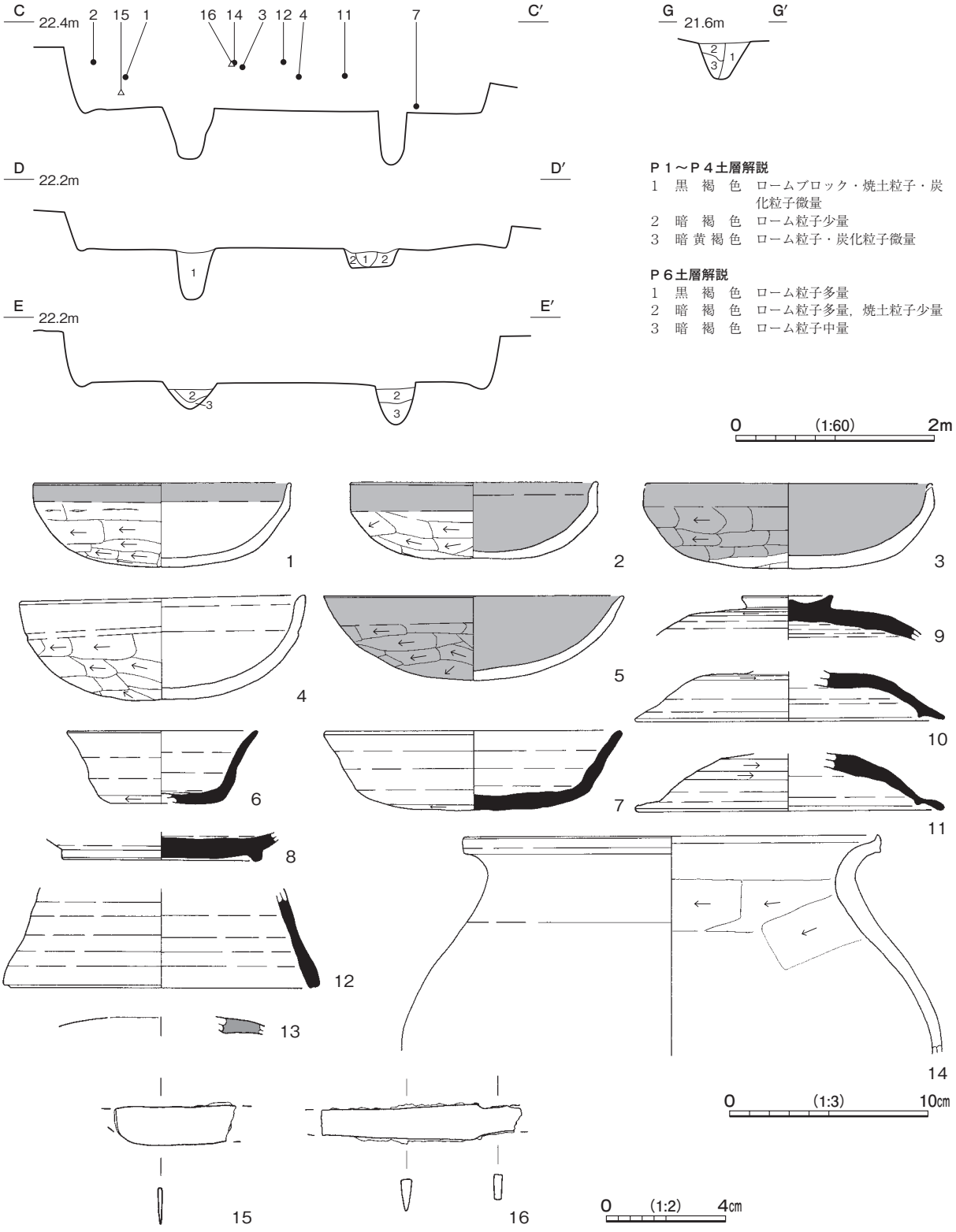
土層解説

1 灰 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
4 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
5 灰 褐 色 灰色粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
7 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子中量，炭化物少量，砂粒微量
8 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
9 灰 褐 色 ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子少量
10 褐 灰 色 ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
11 暗 褐 色 ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
12 にぶい褐色 ローム粒子多量
13 灰 褐 色 ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
14 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・灰色粘土ブロッ ク・炭化物少量
15 灰 褐 色 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
16 にぶい褐色 砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
17 黒 褐 色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
18 灰 褐 色 ローム粒子少量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
19 灰 褐 色 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量
20 黒 褐 色 砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
21 灰 褐 色 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
22 にぶい褐色 砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
23 極暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
24 褐 灰 色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量
25 褐 灰 色 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
26 暗 赤 褐 色 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
27 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
28 暗 赤 褐 色 焼土粒子多量，砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
29 暗 褐 色 砂質粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
30 暗 赤 褐 色 砂質粘土ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量，ローム粒子微量
31 黒 褐 色 砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
32 褐 灰 色 焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
33 黒 褐 色 焼土粒子多量，砂質粘土ブロック微量
34 にぶい赤褐色 砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
35 明 赤 褐 色 焼土ブロック多量
36 暗 赤 灰 色 焼土粒子・炭化粒子微量
37 にぶい赤褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量
38 灰 褐 色 砂質粘土ブロック多量，焼土粒子少量
39 にぶい褐色 砂質粘土ブロック多量，焼土粒子微量
40 にぶい橙色 砂質粘土ブロック多量
41 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
42 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
43 灰 褐 色 ローム粒子少量，砂質粘土ブロック微量
44 暗 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
45 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
46 暗 褐 色 ローム粒子少量
47 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 172 図　第 62 号竪穴建物跡実測図

1点（黒曜石）が出土している。遺物は覆土上層から出土するものが多い。7は北東コーナー付近の床面近くから，4は中央部の覆土中層から，9は南東部の覆土上層から，それぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第173図　第62号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 110　第 62 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 173 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［12.8］	4.2	－	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り 内面ナデ　口縁部黒色処理	３区中層	25％
2	土師器	坏	［12.4］	3.8	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り 内面ナデ　黒色処理	３区上層	25％
3	土師器	坏	［14.3］	4.0	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ 外・内面黒色処理	３区上層	25％
4	土師器	坏	14.2	5.3	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ 外・内面黒色処理カ	２区中層 ３区１ｘ	70％ PL38
5	土師器	坏	［15.0］	4.4	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ 外・内面黒色処理	１区２ｘ ４区３ｘ	40％ PL38
6	須恵器	坏	［9.4］	3.7	［5.3］	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	２区１ｘ	５％非在地カ
7	須恵器	坏	［14.7］	4.0	8.9	長石・石英・雲母・ 細礫	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	１区下層	50％新治窯 PL38
8	須恵器	高台付 坏	－	（1.4）	［10.0］	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付	竈燃焼部	20％新治窯
9	須恵器	蓋	－	（2.2）	－	長石・石英・雲母・ 細礫	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	２区１ｘ	60％新治窯
10	須恵器	蓋	［15.4］	（2.5）	－	長石・細礫・黒色 湧出物	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	２区１ｘ	40％堀之内 窯カ
11	須恵器	蓋	［15.4］	（2.9）	－	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	２区上層	20％新治窯
12	須恵器	円面硯	－	（5.0）	［15.8］	長石・石英・雲母	黄灰	良好	脚部　ロクロナデ　SI67−2 と同一カ	４区１ｘ	５％新治窯
13	灰釉陶器	瓶類	－	（0.9）	－	長石	灰黄褐	良好	長頸瓶の肩部分カ	１区２ｘ ４区３ｘ	５％
14	土師器	甕	［20.6］	（11.0）	－	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　頸部内面ヘラ削り　体部 外・内面ナデ	３区上層	10％ PL49

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
15	手鎌カ	（4.0）	10.4	0.1	2.78	鉄	刀身部カ　非常に薄く，刃部の形成が不明瞭	４区下層	PL54
16	刀子	（6.8）	（1.2）	0.3 ～ 0.4	9.61	鉄	刀身部～茎部分　先端部欠損	３区上層	PL54
17	鏃カ	（2.7）	（2.9）	0.4 ～ 0.5	（14.21）	鉄	断面長方形　下にいくほど厚さ減	４区下層	観察表のみ

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
18	羽口	－	－	（4.3）	（20.62）	長石	橙	中央孔確認	３区４ｘ	観察表のみ

第 65 号竪穴建物跡（第 174 図）

位置　調査Ⅰ区中央部のＰ 4 g6 区，標高 21.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 66 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.63 m，短軸 3.61 ｍの不整方形で，南北軸方向はＮ − 11 ° − Ｅである。壁は高さ 12 ～ 26cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦であるが，傾斜に沿って東部に向かってやや下がっている。北壁，西壁，南壁の一部に壁溝が巡っている。

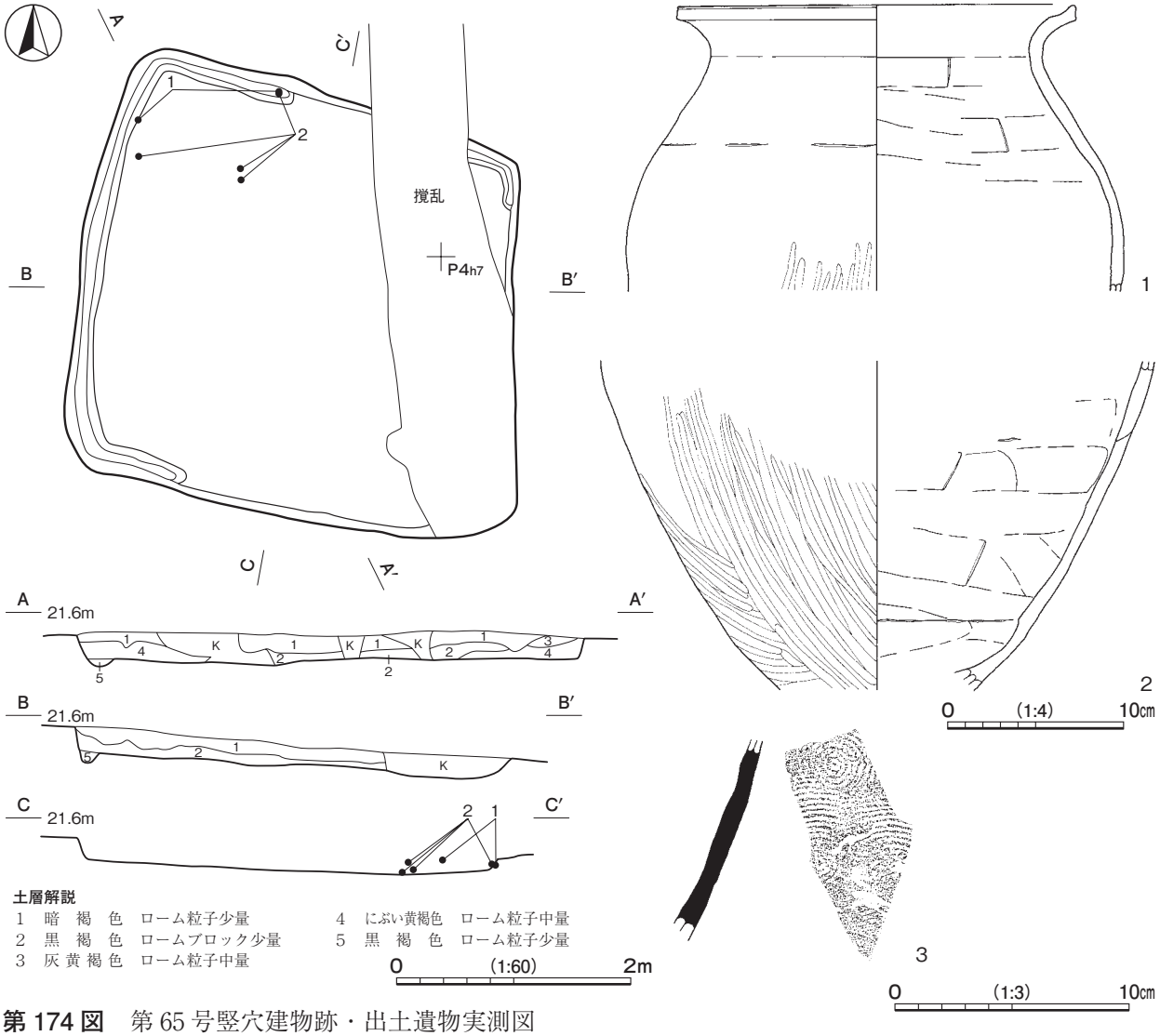
覆土　５層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 129 点（坏 10，高坏２，壺･甕類 117），須恵器片４点（坏２，瓶類１，鉢･甕･甑類１），鍛冶関連遺物（椀状滓 544 ｇ，鉄塊系遺物 56.9 ｇ，鉄滓 169.0 ｇ），焼成粘土塊 31.3 ｇのほか，縄文土器片２点が出土している。遺物は少量で，かつ小片のものが多く，時期判断が可能な破片は限られている。１・２は北西コーナー部の床面からそれぞれ出土している。覆土上層から鍛冶関連遺物が出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。竈やそれ以外の施設が確認できなかったが，撹乱で壊滅したか，あるいは一般的な建物跡とは異なる，工房的な施設の可能性もある。

表 111　第 65 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 174 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	甕	［22.4］	（16.2）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ナデ　下半ヘラ 磨き　内面ナデ	４区床面	20％
2	土師器	甕	－	（18.7）	－	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	４区床面	30％



第 174 図　第 65 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 112　第 65 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 174 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
3	須恵器	甕	－	(8.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	外面同心円文叩き　内面当て具痕	１区１ｘ	５％新治窯

第 71 号竪穴建物跡（第 175 ～ 178 図）

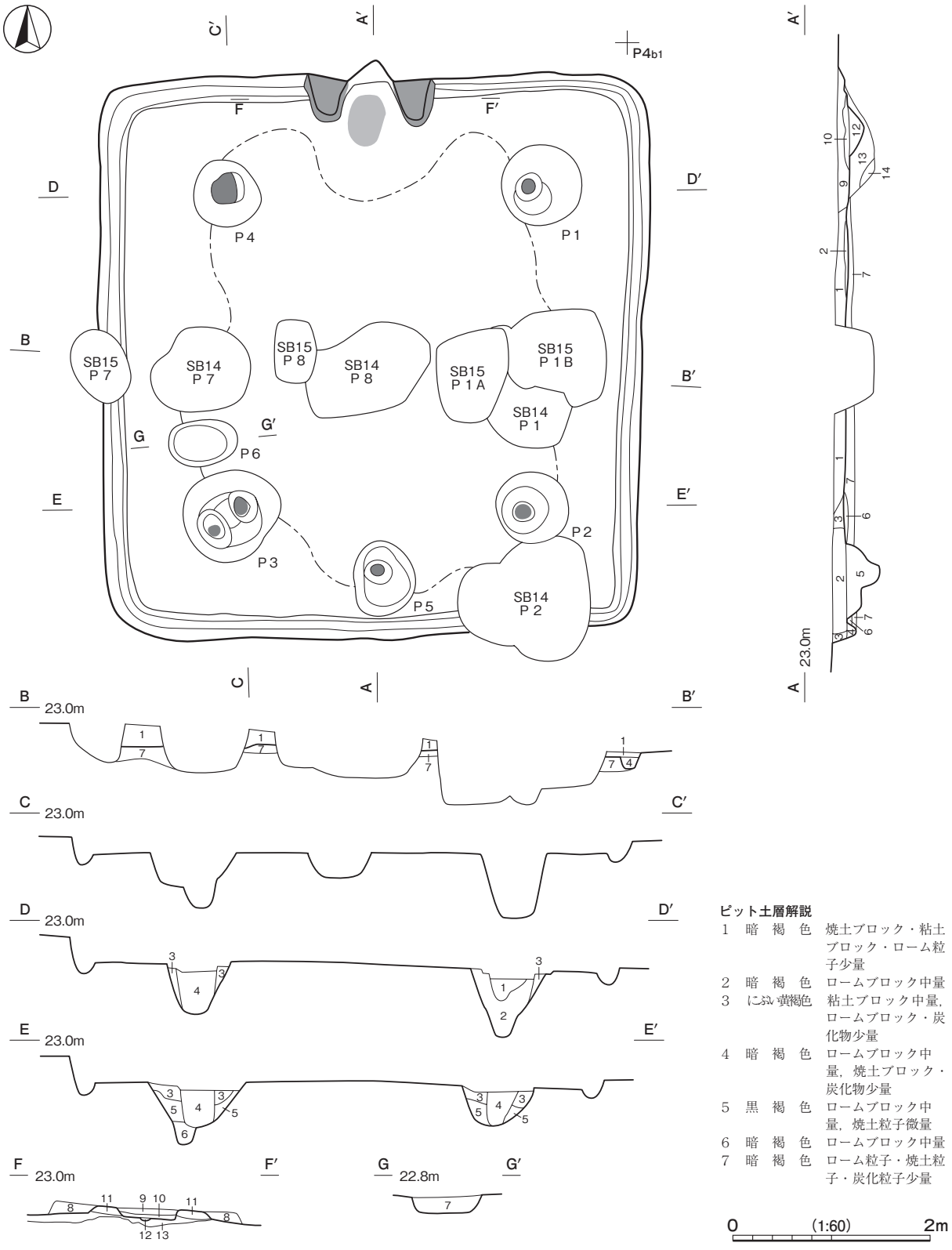
位置　調査Ｉ区北西部のＰ３b0 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 14・15 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.63 ｍ，短軸 5.48 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁は高さ８～ 15cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦な貼床で，ローム粒子を含む第６・７層を埋土して構築されている。掘方は中央部を残し周囲が掘り込まれ，コーナー部はさらに土坑状に深く掘り込まれている。壁際を除く中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。付設する部分を楕円形に掘り込み，粘土ブロックを含む第 13・14 層を埋土して構築されている。上面が削平されており，袖部も壁際の一部が残存するのみである。火床面の位置か



ピット土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
4 暗褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
5 黒褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量
6 暗褐色 ロームブロック中量
7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

0 (1:60) 2m

土層解説

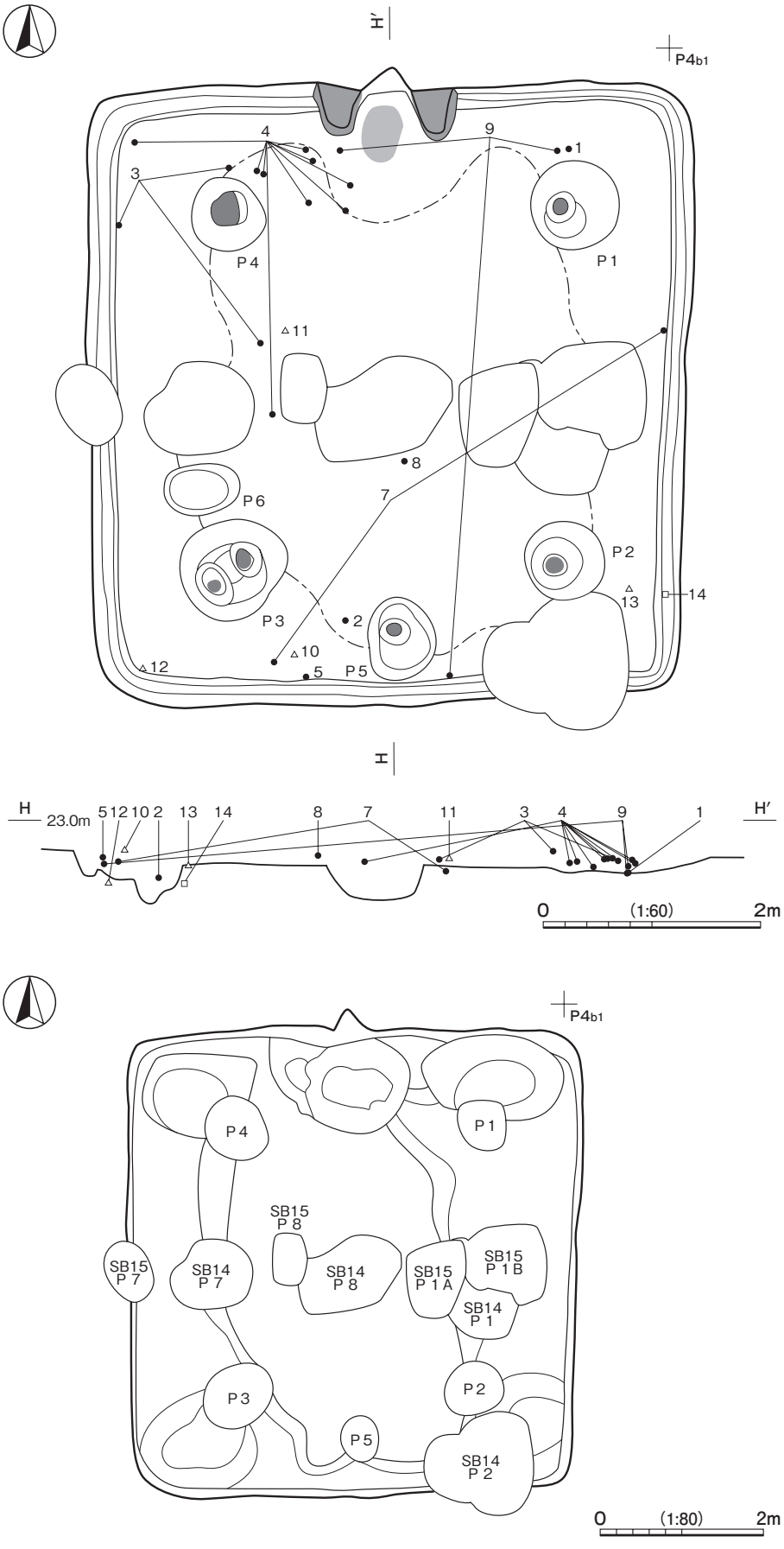
1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
3 灰黄褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 褐色 ローム粒子中量
5 黒褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック少量
6 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量
8 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
9 灰白色 灰白色粘土主体 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒多量，炭化粒子微量
10 明赤色 焼土主体 ロームブロック・炭化粒子微量
11 灰褐色 粘土主体 ローム粒子・焼土粒子微量
12 暗赤褐色 焼土粒子多量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
13 褐色 砂質粘土ブロック多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量
14 暗褐色 砂質粘土ブロック多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量

第 175 図 第 71 号竪穴建物跡実測図（1）

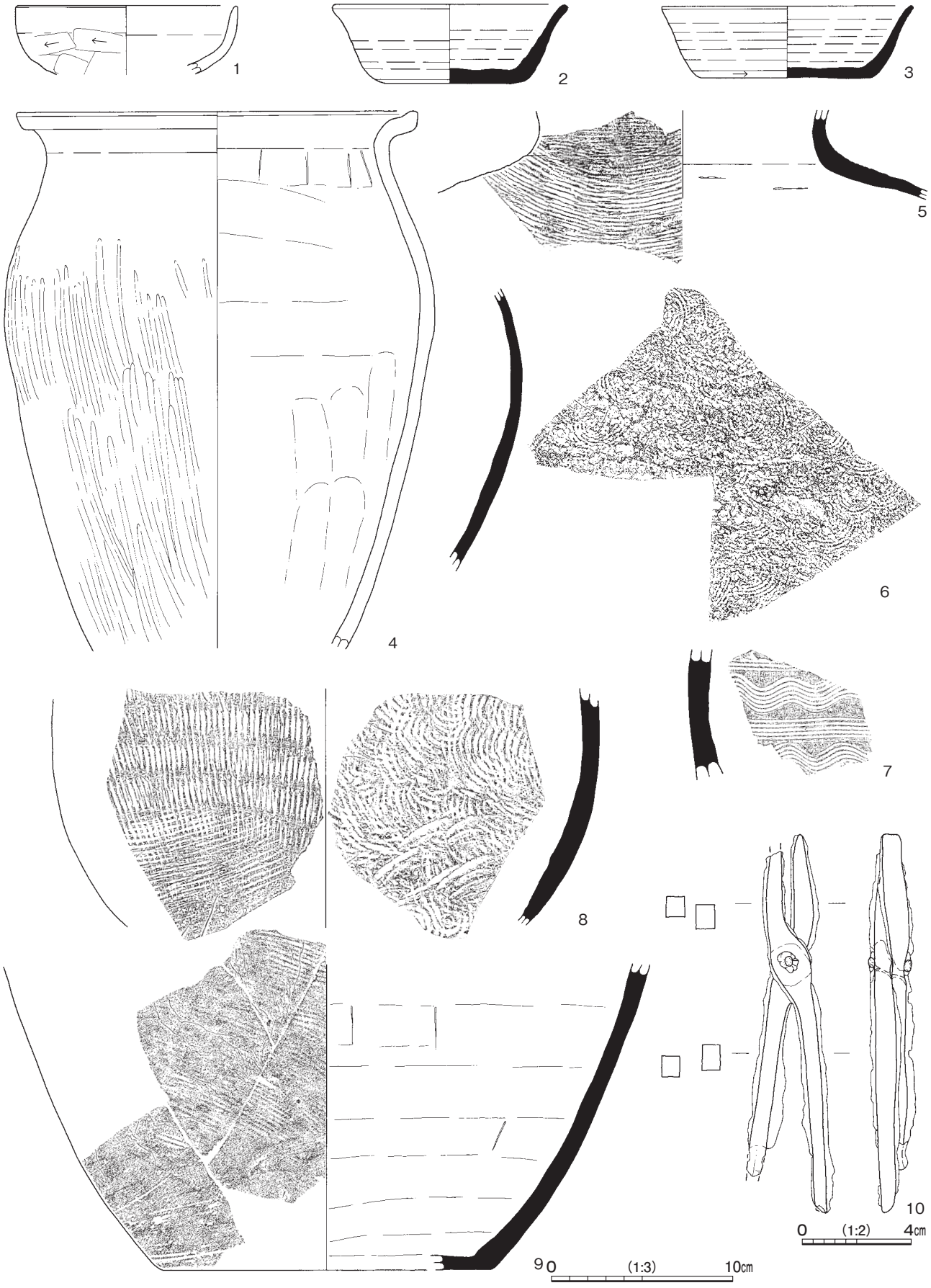
ら推定される規模は，焚口部から煙道部まで約100cmで，燃焼部幅は60cmほどである。煙道部は壁外に25cmほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第９～12層が竈に関連する堆積土で，第10・12層が燃焼部および火床部の堆積土である。火床面は床面を５cmほど掘りくぼめられている。第11層が袖部で，灰褐色粘土を積み上げて構築されている。

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ43～69cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ２～Ｐ４は柱痕が明瞭に残っている。Ｐ５は深さ34cmで，配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１～Ｐ５の底面には，柱の当たりが確認できた。Ｐ６は深さ15cmで，不規則な位置にあり，補助的な柱穴と考えられる。

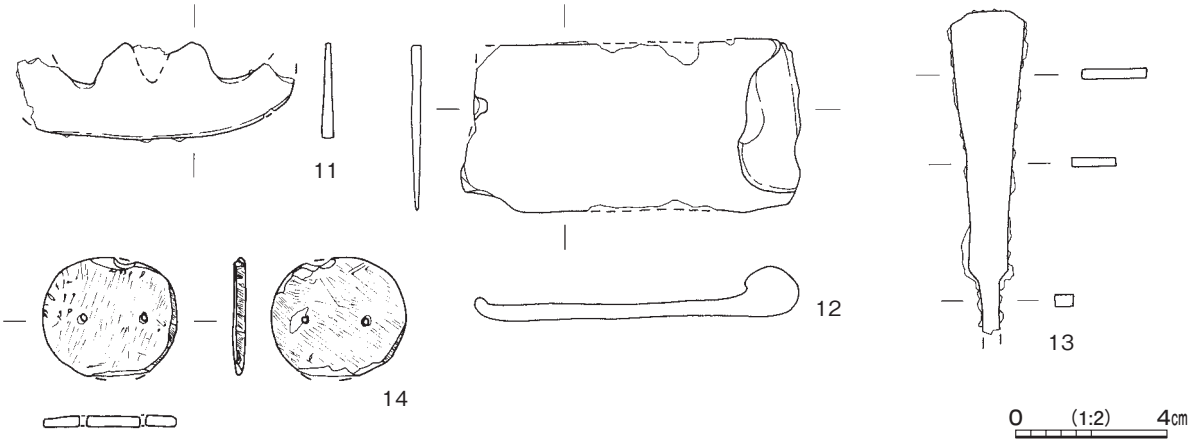
覆土　４層に分層できる。残存が不良なため不明瞭であるが，含有物の少ない第１・２層が水平に堆積していることから，自然堆積である。第５層はＰ５の覆土，第６・７層は掘方への埋土である。



第176図　第71号竪穴建物跡実測図（２）



第 177 図　第 71 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 178 図　第 71 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

遺物出土状況　土師器片 365 点（坏 23, 壺･甕･甑類 342），須恵器片 100 点（坏 53, 高台付坏１，蓋５，瓶類２，鉢・甕・甑類 39），土製品１点（羽口），石製品１点（石製模造品），金属製品４点（鉄鏃，鋤先，紡錘車，火打金），鍛冶関連遺物（羽口１，鉄鉗１，椀状滓 328.7 ｇ，鉄塊系遺物 84.5，鉄滓 230.8 ｇ）のほか，縄文土器片３点, 剥片３点が出土している。また小片で図示出来なかったが, 墨書のある須恵器坏片１点が出土している。北東部を除く床面及び覆土下層からの出土が多いが，破片が多く，復元できるものは限られている。３・４・７・９は，いくつかに分割した破片が広く床面に散らばった状態で出土した。１は床面から出土しているが，やや古い様相を呈している。覆土中から鉄滓や鉄塊系遺物などの鍛冶関連遺物が多く出土しており，金属製品の中にも小鍛冶で使用される金鉗が出土している。これらは建物の廃絶後の埋没過程で，窪地に廃棄されたものと推定される。12 は鉄板の片端を折るもので, 鋤先と推定した。14 は時期が遡るもので, 流れ込みと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉に比定できる。

表 113　第 71 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 177・178 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［12.0］	（3.8）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	１区床面	20%
2	須恵器	坏	［12.8］	4.3	［7.0］	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削りヵ　摩滅で不明瞭　底部多方向のヘラ削り　酸化焔焼成	３区掘方	40%新治窯
3	須恵器	坏	13.8	4.0	9.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	４区下層	80%新治窯 PL39
4	土師器	甕	22.2	（17.7）	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	４区床面・下層	40%新治窯 PL39
5	須恵器	甕	－	（5.0）	－	長石・石英・細礫	灰	良好	口縁部ロクロナデ　体部外面横位の平行叩き　内面ヘラナデ	３区下層	10%新治窯ヵ
6	須恵器	甕	－	（15.5）	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面同心円文叩き　内面当て具痕　剥離著しい	1・3 区床面	10%新治窯
7	須恵器	甕	－	（7.1）	－	長石	灰	良好	外面波状文　内面ナデ	４区 x	５％新治窯ヵ
8	須恵器	甕	－	（13.0）	－	長石・石英	灰	良好	外面縦位の平行叩き　内面同心円文の当て具痕	２区下層	10%新治窯ヵ
9	須恵器	鉢	－	（16.9）	［18.0］	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面斜位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ナデ	１・２床面	20%新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
10	鉄鉗	13.9	2.7	1.6	77.40	鉄	先端部欠損　断面方形	３区上層	PL54
11	火打金	（7.3）	（2.7）	0.15 ～ 0.35	20.76	鉄	両端部欠損　断面二等辺三角形状	４区下層	PL54
12	鋤先	（9.0）	（4.6）	0.2	76.80	鉄	両端部を折って身に着装　左端部欠損	３区掘方	PL54
13	鉄鏃	（8.6）	0.5 ～ 2.0	0.2 ～ 0.4	12.27	鉄	鏃身部～茎部分　方頭形	２区床面	PL54
15	紡錘車	（8.0）	0.6	0.5	11.13	鉄	軸部ヵ　断面方形　４点に分離	４区床面	観察表のみ

表 114　第 71 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 178 図）

番号	器　種	最小径	最大径	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
16	羽口	－	－	(4.7)	45.33	長石・赤色粒子	にぶい橙	中央孔確認	１区掘方	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
14	石製模造品	径 3.2 ～ 3.6	－	0.3	6.68	緑色片岩	有孔円板　片面穿孔　孔径 0.2cm	２区壁溝	PL52

第 73 号竪穴建物跡（第 179・180 図　PL16）

位置　調査Ｉ区北部のＰ 4 a2 区，標高 22.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 72 号竪穴建物跡，第 357 号土坑を掘り込み，第 39 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.88 m，短軸 4.47 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁は高さ 22cm で，直立している。

床　ほぼ平坦な貼床で，ロームブロックを多量に含む第 11 層で第 72 号竪穴建物跡を埋め戻して構築されている。東西壁際を除く中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘りくぼめ，第５層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで約 100cm で，燃焼部幅は 60cm である。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第４～９層が竈に関連する堆積土で，竈は基底部付近を残し，上部が削平されている。第４層が燃焼部の堆積土で，火床面は床面とほぼ同じ高さで赤変している。袖部は，ロームブロックや焼土ブロックを含む第７～９層に灰白色粘土主体の第６層を積み上げて構築されている。第 10 層はＰ７の覆土である。

ピット　９か所。Ｐ１～Ｐ４は深さが 54 ～ 87cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ２～Ｐ４には柱痕が明瞭である。Ｐ５は深さ 30cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ６は深さ 23cm で，不規則な位置にある。いずれのピットの底面にも柱の当たりが確認できた。Ｐ７～Ｐ９は掘方の調査時に確認できたピットである。Ｐ７・Ｐ８は深さ 22cm・29cm で，位置から竈袖部の芯材の据え付けのためのピットの可能性がある。Ｐ９は深さ 48cm で，壁際に位置している。

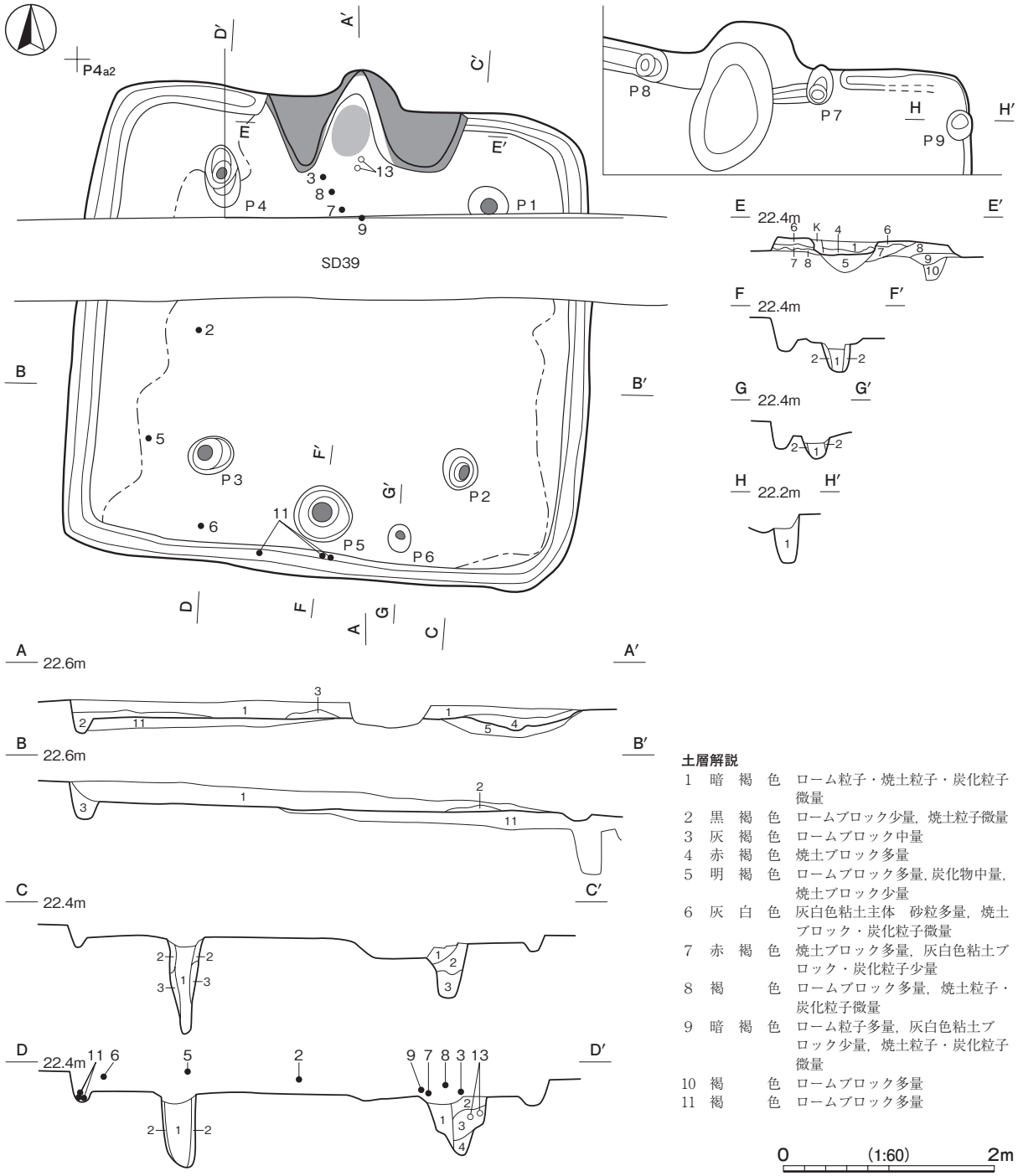
覆土　３層に分層できる。第２・３層にロームブロックが多量に含まれているものの，レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第 11 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 204 点（坏８，高台付坏１，高坏１，壺・甕・甑類 194），須恵器片 162 点（坏 73，高台付坏８，蓋９，盤・高盤２，鉢・甕・甑類 70），灰釉陶器片１点（瓶類），鍛冶関連遺物（羽口１，鉄滓 33.8 ｇ）が出土している。遺物は竈前面から北西コーナー部付近の覆土中にかけて，特に多く出土している。２は残存率の高いもので西部の覆土上層から，３・７は竈前面の床面から，それぞれ出土している。４・５の底面には墨書が認められる。12 の灰釉陶器片は，猿投窯産である。13 は竈の掘方から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。

表 115　第 73 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 180 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	［13.0］	4.9	［7.0］	長石・石英・細礫	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区ｘ	40％新治窯 PL39
2	須恵器	坏	12.9	4.6	6.3	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　酸化焔焼成	４区上層	80％新治窯 PL39



土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
3 灰 褐 色 ロームブロック中量
4 赤 褐 色 焼土ブロック多量
5 明 褐 色 ロームブロック多量，炭化物中量，焼土ブロック少量
6 灰 白 色 灰白色粘土主体　砂粒多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
7 赤 褐 色 焼土ブロック多量，灰白色粘土ブロック・炭化粒子少量
8 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗 褐 色 ローム粒子多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10 褐 色 ロームブロック多量
11 褐 色 ロームブロック多量

P１土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 明 褐 色 ロームブロック多量
3 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

P２土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 明 褐 色 ロームブロック多量

P３土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 明 褐 色 ロームブロック多量

P４土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 明 褐 色 ロームブロック多量
3 褐 色 ロームブロック多量
4 暗 褐 色 ロームブロック多量

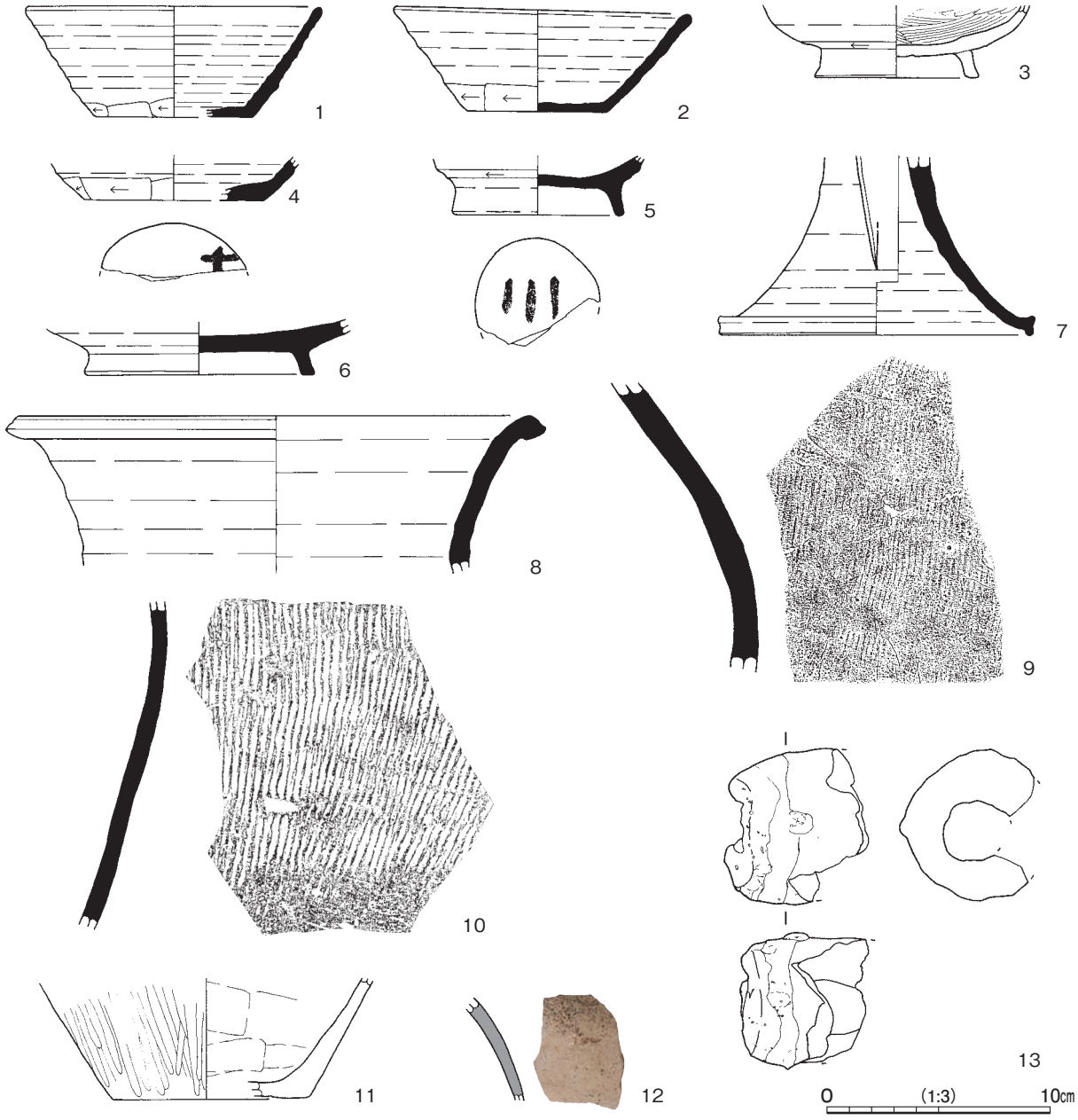
P５・P６土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 明 褐 色 ロームブロック多量

P９土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 179 図　第 73 号竪穴建物跡実測図



第 180 図　第 73 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 116　第 73 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 180 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
3	土師器	高台付坏	－	(3.2)	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理ヵ　底部回転ヘラ切り後ナデ　高台貼付	４区床面	50%
4	須恵器	坏	－	(2.0)	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　墨書「□」	４区 x	20%新治窯
5	須恵器	高台付坏	－	(2.6)	7.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部下端回転ヘラ削り後高台貼付　墨書「川」	３区上層	40%新治窯 PL50
6	須恵器	盤	－	(2.4)	[10.2]	長石・石英・細礫	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付	３区上層	20%新治窯ヵ
7	須恵器	高盤	－	(7.9)	14.0	長石・石英・雲母	褐灰	良好	ロクロナデ　透かし孔３方	４区床面	40%新治窯 PL39
8	須恵器	甕	[22.6]	(7.0)	－	長石・石英・雲母	暗灰	良好	ロクロナデ	４区下層	10%堀之内窯ヵ PL50
9	須恵器	甕	－	(12.9)	－	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	灰	良好	外面縦位の平行叩き　内面当て具痕　ナデ	１区下層	10%堀之内窯ヵ
10	須恵器	甕	－	(14.6)	－	長石・石英・雲母・細礫	褐灰	普通	外面縦位の平行叩き　下端ヘラ削り　内面当て具痕　ナデ	２区 x	10%新治窯
11	土師器	甕	－	(5.4)	8.7	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	３区壁溝	20%
12	灰釉陶器	瓶類	－	(4.6)	－	長石・黒色粒子　緻密	灰黄	良好	外面灰釉　内面ナデ	１区 x	10%猿投産 PL50

表 117　第 73 号竪穴建物跡出土遺物観察表（３）（第 180 図）

番号	器　種	長さ	幅	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
13	羽口	(6.3)	(7.1)	(5.9)	142.09	長石	灰褐	先端部ガラス化	竈前掘方	
14	羽口	－	－	(4.2)	23.48	長石	橙	中央孔確認	掘方４区	観察表のみ

第 74 号竪穴建物跡（第 181 ～ 184 図　PL16）

位置　調査Ｉ区北部のＯ３j0 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 380・381 号土坑を掘り込み，第 24 号竪穴建物，第 39 号溝，第６号道路に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 6.32 ｍ，短軸 6.08 ｍの方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁は高さ 18 ～ 32cm で，直立している。

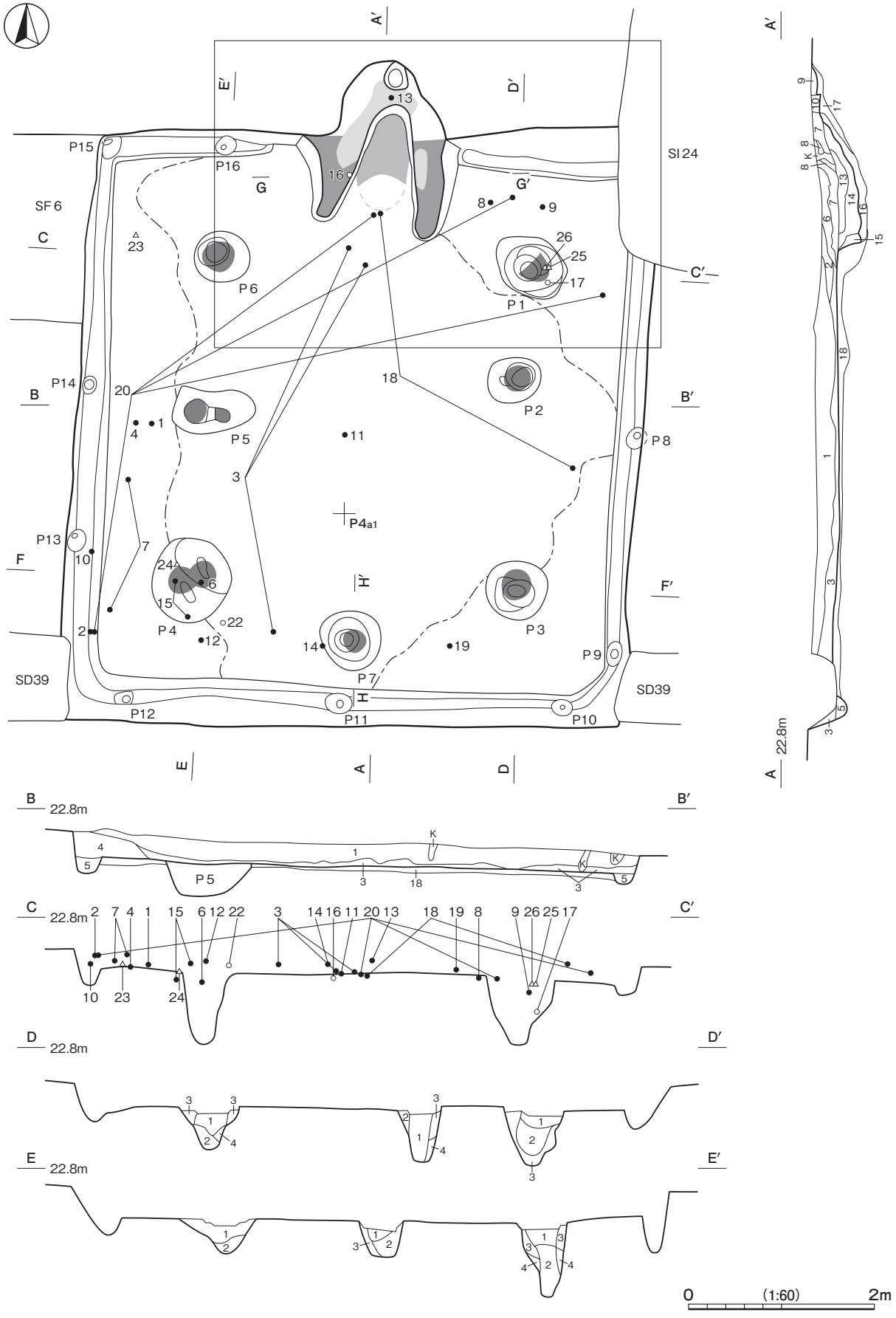
床　ほぼ平坦な貼床で，掘方はコーナー部が土坑状に掘りくぼめられている。東西壁際を除く中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘りくぼめ，ロームブロックや焼土ブロック，灰白色粘土ブロックなどを含む第 16・17 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 180cm で，燃焼部幅は 60cm である。煙道部は壁外に 90cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第６～ 15 層が竈に関連する堆積土で，袖部はロームブロックや黄褐色砂粒，灰白色粘土ブロックを含む第 12 層を積み上げて構築されている。第 13・14 層が燃焼部の堆積土で，火床面は床面を 20 ～ 25cm ほど掘りくぼめている。写真で見ると，煙道部先端付近のピット状の落ち込み部分で，第 10 層の白色粘土層下の掘方部分から，13 の土師器の甕の口縁部破片と体部破片が重なった状態で出土している。土師器甕内部には焼土ブロックを多量に含む暗赤褐色土が堆積し，甕片は被熱で赤変している。以上の状態から，13 は煙道部の補強のために埋設された可能性がある。

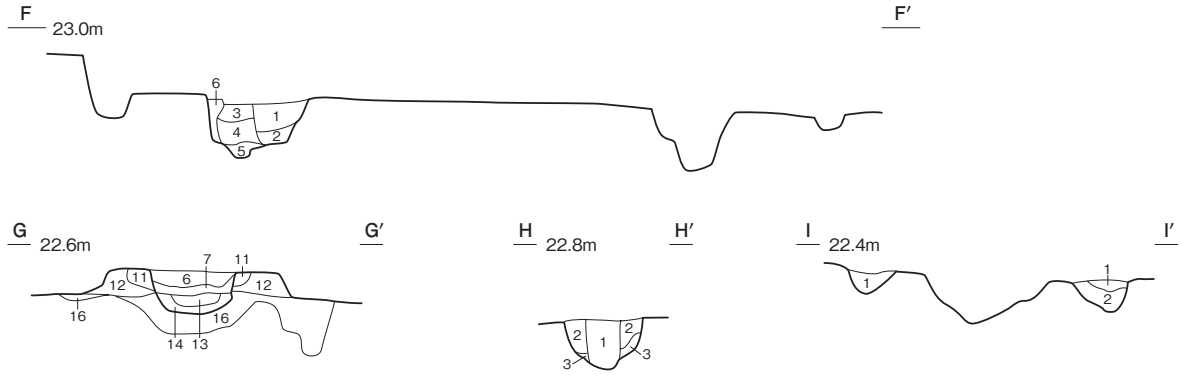
ピット　19 か所。Ｐ１～Ｐ６は深さが 37 ～ 76cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ２～Ｐ４には柱痕が明瞭である。Ｐ７は深さ 44cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。いずれも底面に柱の当たりが確認できた。Ｐ４・Ｐ５には，柱の当たりが２か所確認でき，柱の建て替えの可能性がある。Ｐ８～Ｐ 16 は，壁溝の底面で確認した径が 20cm 前後の小ピットで，深さはＰ８が 26cm，Ｐ９が 22cm，Ｐ 10 が 20cm，Ｐ 11 が 17cm，Ｐ 12 が 22cm，Ｐ 13 が６cm，Ｐ 14 が 18cm，Ｐ 15 が 25cm，Ｐ 16 が 19cm である。ほぼ等間隔で，壁体を保持するための補助的なピットと考えられる。Ｐ 17 ～Ｐ 19 は掘方の調査時に確認したピットで，Ｐ 17・Ｐ 18 は竈の掘方の左右に位置する。深さがそれぞれ 40cm・44cm で，竈袖部の芯材を据え付けるためのピット，或いは上屋を支える補助的なピットの可能性がある。Ｐ 19 は深さ 27cm で，Ｐ８～Ｐ 16 と同様の機能を有するものと考えられる。

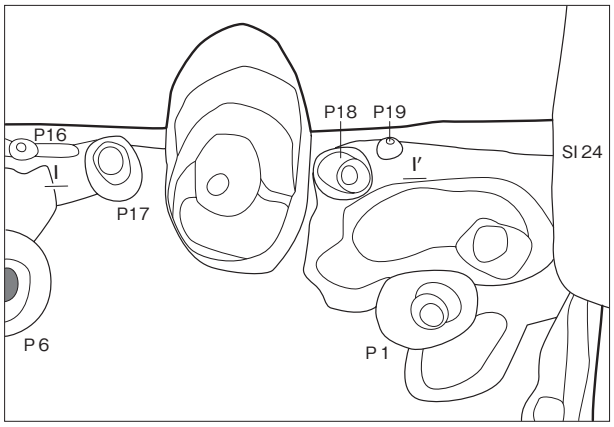
覆土　５層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれる第１層で埋め戻されている。第５層は壁溝の堆積土，第 18 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 520 点（坏２，高台付坏１，高坏３，甕･甑類 514），須恵器片 306 点（坏 143，高台付坏６，蓋 49，瓶類１，盤 14，鉢･甕･甑類 93），土製品６点（土玉１，紡錘車１，支脚４），金属製品 10 点（刀子４，鎌１，釘４，紡錘車１），鍛冶関連遺物（羽口３，椀状滓 467.9 ｇ，鉄塊系遺物 13.9 ｇ，鉄滓 125.8 ｇ），焼成粘土塊 353.4 ｇのほか，土師質土器片１点（小皿），陶器片１点（碗），剥片３点（黒曜石２，瑪瑙１）が出土している。遺物は多く，３・18・20 など床面の広い範囲に散在している。１・３・４・10・15 は南西部の床面付近から，８・18 は北東部の床面から，19 は南東部の床面から，それぞれ出土している。16 は竈の燃焼部



第 181 図　第 74 号竪穴建物跡実測図（1）





P 7 土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 明 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子微量

P 17 土層解説
1 褐 色 ローム粒子多量，灰白色粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量

P 18 土層解説
1 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 明 褐 色 ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

0 (1:60) 2m

土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2 灰 白 色 灰白色粘土ブロック・砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 黄 褐 色 黄褐色粘土ブロック・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒 褐 色 炭化物・焼土粒子少量
8 赤 褐 色 焼土ブロック多量
9 灰 白 色 灰白色粘土主体 砂粒多量
10 灰 白 色 灰白色粘土主体
11 明赤褐色 焼土ブロック多量
12 黄 褐 色 ロームブロック・黄褐色山砂多量，灰白色粘土ブロック中量，細礫少量
13 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物多量，灰少量
14 明赤褐色 焼土ブロック多量，ロームブロック微量
15 明 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・灰多量，炭化物微量
16 明 褐 色 ロームブロック多量，焼土ブロック少量，炭化物微量
17 褐 色 ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
18 明 褐 色 ロームブロック中量，焼土ブロック・灰白色粘土ブロック・炭化物・砂粒少量

P 1 土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 明 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

P 2 土層解説
1 極暗褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黄 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子微量
3 褐 色 ロームブロック多量
4 明 褐 色 ロームブロック多量

P 3 土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子微量
3 明 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 黄 褐 色 ロームブロック多量

P 4 土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐 色 ロームブロック多量
3 暗 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4 褐 色 ロームブロック中量
5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
6 にぶい黄褐色 ローム粒子多量

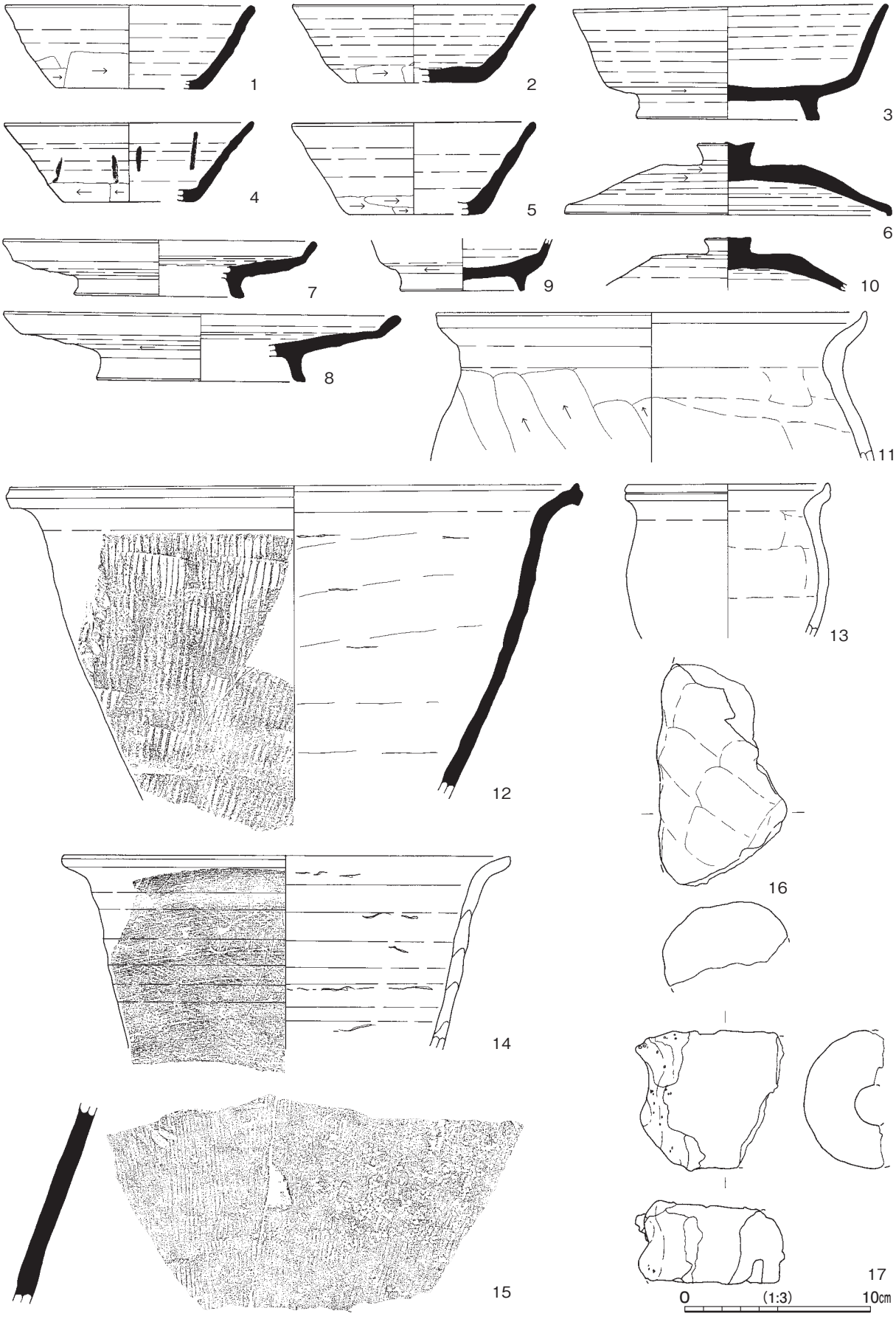
P 5 土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黄 褐 色 ロームブロック多量
3 明 褐 色 ロームブロック多量

P 6 土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐 色 ロームブロック多量
3 明 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 明 褐 色 ロームブロック多量

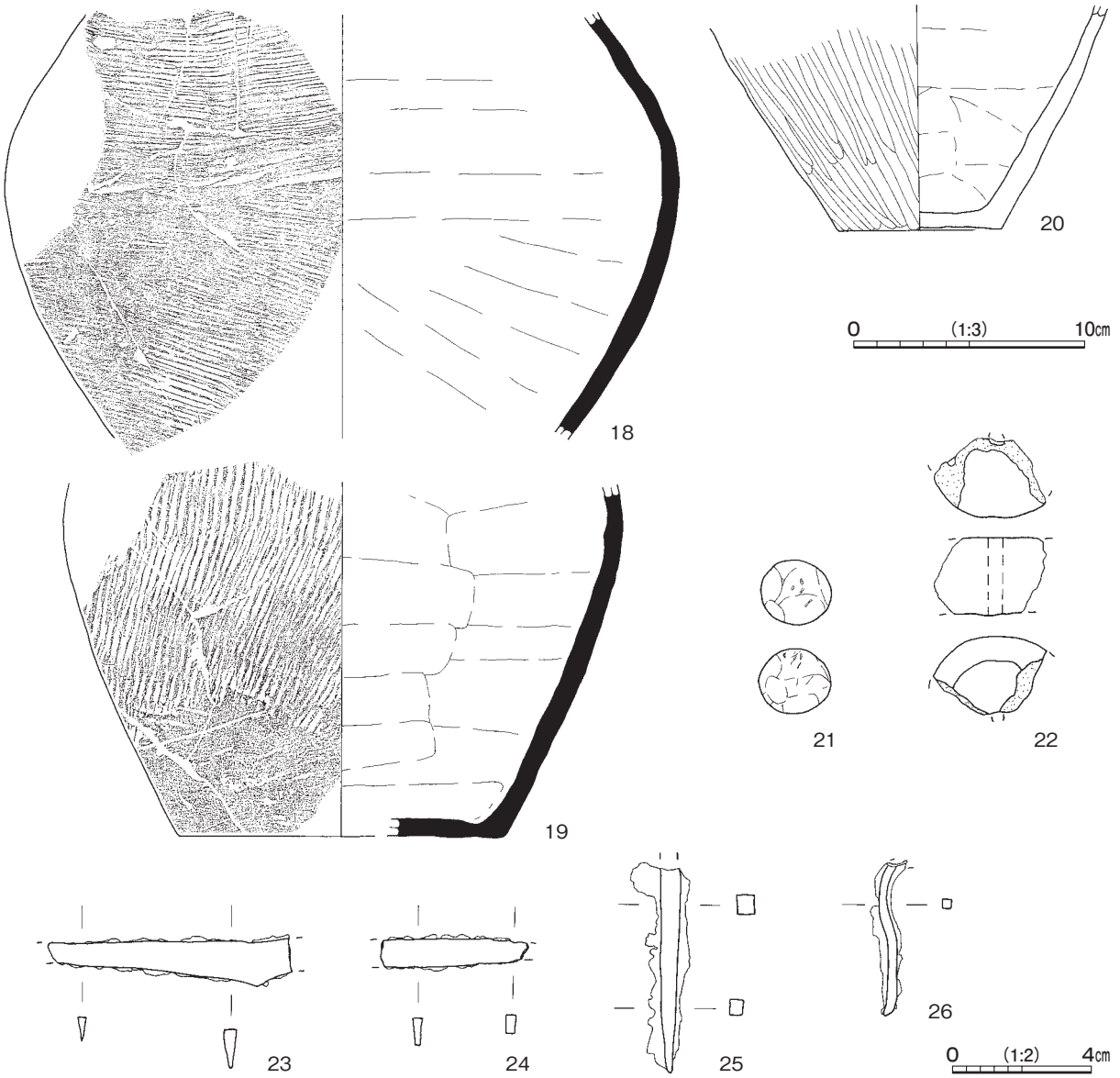
第 182 図 第 74 号竪穴建物跡実測図（2）

から，13 の小型甕は竈煙道部から出土しており，煙道部の補強に転用されたものと考えられる。図化していないが，竈の掘方からも支脚が出土している。21 は球状に成形されているが，貫通孔がない。床面近くの覆土中から，鉄滓等の鍛冶関連遺物が出土しているが，これらは埋没時に混入したものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 183 図　第 74 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 184 図　第 74 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

表 118　第 74 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 183 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	須恵器	坏	［13.2］	4.4	［8.0］	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区床面	10%新治窯
2	須恵器	坏	［12.8］	4.1	［7.0］	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区上層	20%新治窯
3	須恵器	高台付坏	16.8	6.2	9.9	長石・石英・細礫	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後高台貼付	３区下層 ４区床面	70%堀之内窯ヵ PL39
4	須恵器	坏	［13.2］	4.2	［7.2］	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り 外・内面に火襷	３区床面	30%新治窯 PL39
5	須恵器	坏	［13.0］	4.9	［7.0］	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	１区２ｘ ２区１ｘ	30%新治窯
6	須恵器	蓋	17.6	3.9	－	長石・石英・細礫	褐灰	良好	天井部回転ヘラ削り	Ｐ４上層	70%新治窯 PL39
7	須恵器	盤	［16.4］	3.0	［9.0］	長石・石英	黄灰	良好	ロクロナデ	３区下層	40%新治窯
8	須恵器	盤	［21.0］	3.6	［11.0］	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	１区床面	40%新治窯
9	須恵器	高台付坏	－	（2.7）	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り後高台貼付	１区床面	30%新治窯
10	須恵器	蓋	－	（2.9）	－	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り　酸化焔焼成	３区床面	40%新治窯
11	土師器	甕	［22.8］	7.9	－	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	３区床面	20%新治窯
12	須恵器	鉢	［30.2］	16.7	－	長石・石英・雲母・細礫	灰白	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き内面ヘラナデ	３区下層	20%新治窯 PL50
13	土師器	小形甕	［10.6］	8.4	－	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ナデ	竈煙道部	20%新治窯

表 119　第 74 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 183・184 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
14	土師器	鉢	［23.8］	10.3	－	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄	普通	外面カキ目後ロクロナデ	３区下層	10％新治窯 PL50
15	須恵器	鉢	－	（10.8）	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面縦位の平行叩き　内面ヘラナデ	３区床面	20％新治窯
18	須恵器	甕	－	（18.2）	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	外面横位の平行叩き　内面ナデ	１区床面	30％新治窯 PL50
19	須恵器	甕	－	（15.2）	［14.0］	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面縦位の平行叩き　下端ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ナデ	２区床面	30％新治窯 PL39
20	土師器	甕	－	（9.7）	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部木葉痕	１・３・４区下層	30％新治窯

番号	器　種	長さ	幅	高さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
16	支脚	最小径（4.0）	最大径（6.9）	（11.9）	295.69	長石・石英	にぶい橙	表面の一部のみ残存　指頭によるナデ成形	竈燃焼部	
17	羽口	（8.0）	7.6	（4.5）	197.84	長石	灰褐	鉄分付着　先端部の一部ガラス化	Ｐ１中層	
21	土玉	径 1.8 ～ 2.0	－	－	6.05	長石・石英	明赤褐	指頭による成形　穿孔はなし	１区２ｘ	
22	紡錘車	径（2.3 ～ 3.2）	－	厚さ 2.3	14.76	長石・石英	黒	磨き成形	３区床面	
27	支脚	（5.4）	（5.0）	（7.2）	157.04	長石	赤褐	２つに分割	竈掘方	観察表のみ
28	羽口	（8.0）	（5.9）	（2.6）	104.36	長石	橙	中央孔確認	２区床面	観察表のみ
29	羽口	（6.1）	（5.3）	（2.6）	83.94	長石	にぶい橙	中央孔確認	Ｐ１覆土中	観察表のみ
30	支脚	（4.5）	（5.3）	（3.0）	58.08	長石	赤褐	表面の一部のみ残存　ナデ成形	１区１ｘ	観察表のみ
31	支脚カ	（4.2）	（4.1）	（2.2）	24.94	長石	黄褐	表面の一部のみ残存	１区１ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
23	刀子	（6.9）	0.6 ～ 1.3	0.2 ～ 0.3	8.42	鉄	刃部　先端部欠損	４区床面	PL54
24	刀子	（4.2）	0.8	0.3	4.94	鉄	刃部～茎部分	Ｐ４上面	PL54
25	釘	（5.9）	0.2 ～ 0.6	0.4 ～ 0.6	9.37	鉄	先端部　頭部欠損　断面方形	Ｐ１上面	PL54
26	釘	（4.4）	0.3	0.3	2.84	鉄	両端部屈曲　断面方形	Ｐ１上面	PL54
32	刀子	（3.5）	1.0	0.4	3.90	鉄	刃部先端	４区下層	観察表のみ
33	刀子カ	（2.4）	0.8	0.2	2.53	鉄	刃部カ　別に破片１点あり（接合せず）	Ｐ７覆土中	観察表のみ
34	釘カ	（2.6）	0.5	0.4	1.11	鉄	先端部　断面方形	４区下層	観察表のみ
35	釘カ	（5.9）	1.0	0.8	9.88	鉄	先端部カ　断面方形　緩やかに蛇行	３区下層	観察表のみ
36	紡錘車カ	（2.9）	0.3	0.3	2.15	鉄	軸部の先端部カ　断面方形	２区床面	観察表のみ
37	鎌カ	（3.1）	2.2	0.5	8.88	鉄	刃部先端部カ	Ｐ４覆土中	観察表のみ

第 75 号竪穴建物跡（第 185・186 図　PL16）

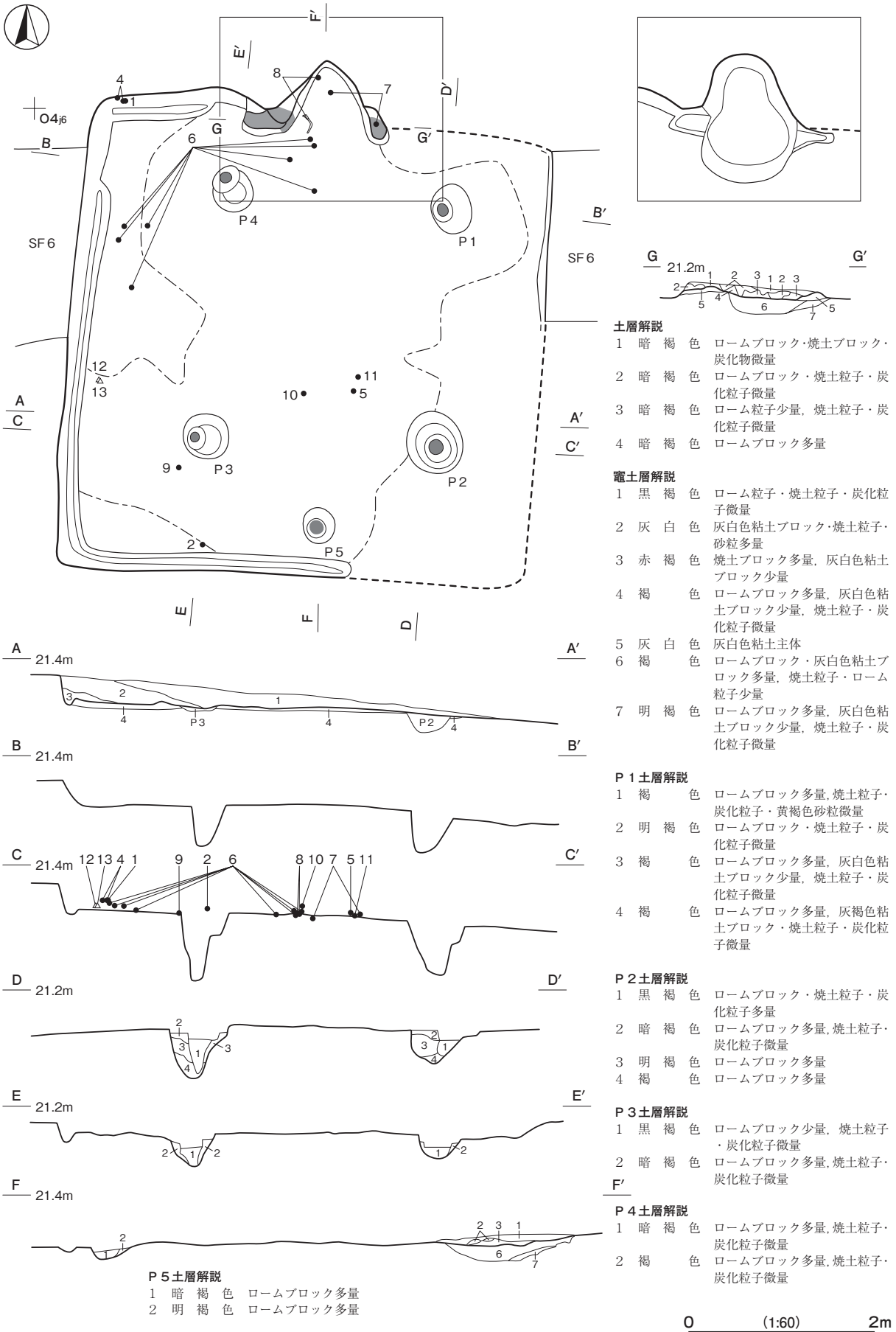
位置　調査Ｉ区北部のＯ４j6 区，標高 21.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第６号道路に掘り込まれている。

規模と形状　東部が削平のため，東壁は一部の確認ではあるが，長軸 5.18 ｍ，短軸 5.08 ｍの方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｅである。壁は高さ 27cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦な貼床で，東西壁際を除く中央部が踏み固められている。北壁西側，西壁から南壁にかけて壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘りくぼめ，ロームブロックや灰白色粘土ブロックを多量に含む第６・７層を埋土して構築されている。上部の削平が著しく，袖部は壁際の一部を残すのみで，火床面も捉えられなかったことから，焚口部から煙道部までの規模や燃焼部幅については不明である。煙道部は壁外に 50cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。袖部は灰白色粘土主体の第５層を積み上げて構築されており，左袖の内側に沿うように逆位で出土している土師器甕片は，袖部の補強材の可能性がある。火床面となる部分は床面とほぼ同じ高さで，著しい赤変硬化は見られなかった。



土層解説

1 暗 褐 色 ローム ブロック･焼土ブロック･炭化物微量
2 暗 褐 色 ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム ブロック多量

竈土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 灰 白 色 灰白色粘土ブロック･焼土粒子･砂粒多量
3 赤 褐 色 焼土ブロック多量，灰白色粘土ブロック少量
4 褐 色 ローム ブロック多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 灰 白 色 灰白色粘土主体
6 褐 色 ローム ブロック・灰白色粘土ブロック多量，焼土粒子・ローム粒子少量
7 明 褐 色 ローム ブロック多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

P１土層解説

1 褐 色 ローム ブロック多量,焼土粒子・炭化粒子・黄褐色砂粒微量
2 明 褐 色 ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色 ローム ブロック多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐 色 ローム ブロック多量，灰褐色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

P２土層解説

1 黒 褐 色 ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量
2 暗 褐 色 ローム ブロック多量,焼土粒子・炭化粒子微量
3 明 褐 色 ローム ブロック多量
4 褐 色 ローム ブロック多量

P３土層解説

1 黒 褐 色 ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム ブロック多量,焼土粒子・炭化粒子微量

P４土層解説

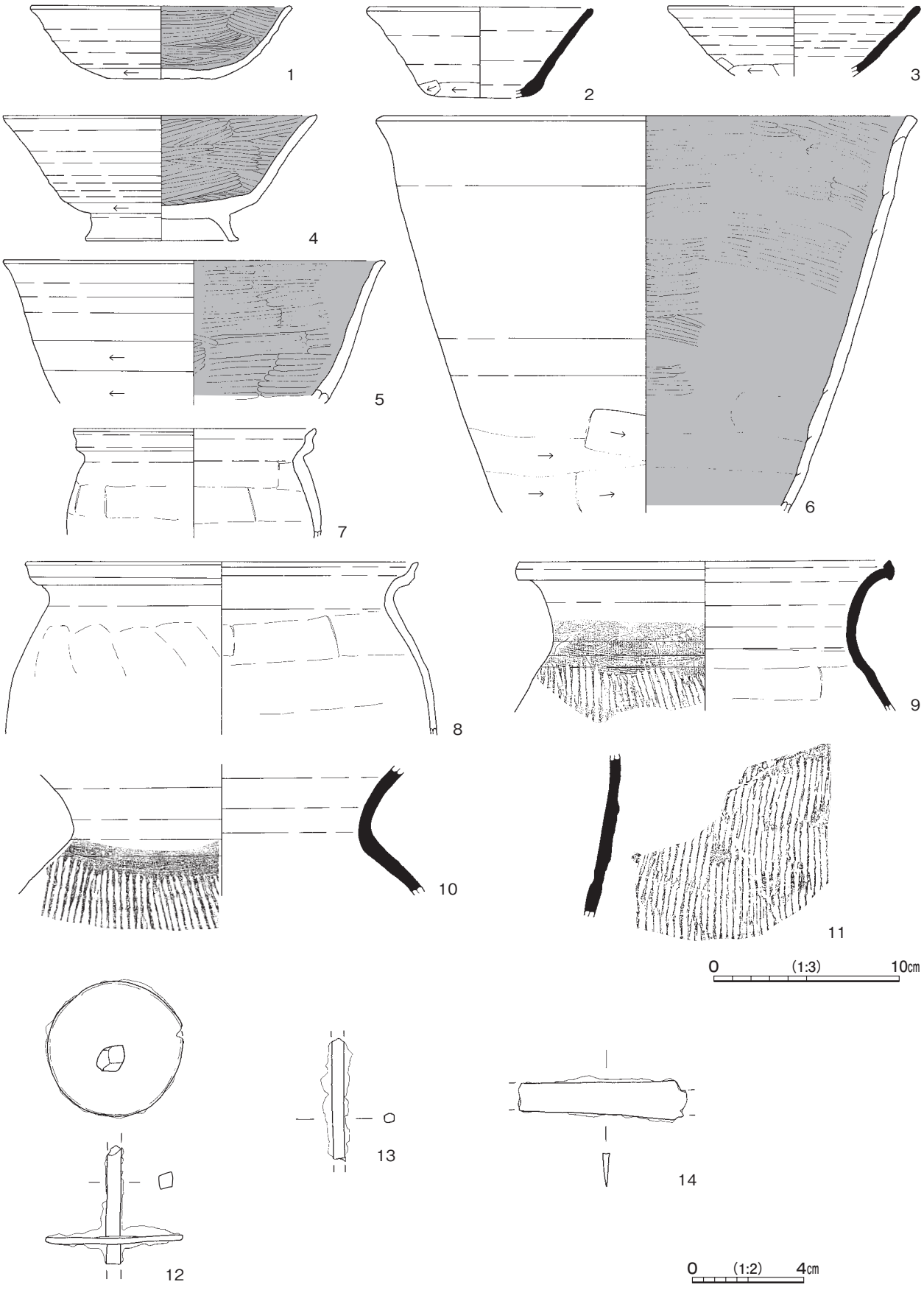
1 暗 褐 色 ローム ブロック多量,焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐 色 ローム ブロック多量,焼土粒子・炭化粒子微量

P５土層解説

1 暗 褐 色 ローム ブロック多量
2 明 褐 色 ローム ブロック多量

0 (1:60) 2m

第 185 図　第 75 号竪穴建物跡実測図



第 186 図　第 75 号竪穴建物跡出土遺物実測図

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さが 44 ～ 73cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 18cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。いずれも底面に柱の当たりが確認できた。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第４層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 227 点（坏 23，高台付坏２，椀１，高坏１，鉢２，壺･甕類 198），須恵器片 129 点（坏 64，蓋６，鉢・甕・甑類 59），金属製品５点（刀子２，釘$_{カ}$１，紡錘車２），鍛冶関連遺物（椀状滓 29.6 ｇ，鉄塊系遺物 65.3 ｇ，鉄滓 39.9 ｇ），焼成粘土塊 20.5 ｇのほか，縄文土器片１点，陶器片１点（鉢$_{カ}$）が出土している。遺物は特に西部の３・４区から多く出土している。５・11 が南東部の床面から，２・９が南西部の床面から，６が北西部の床面に散在するように，それぞれ出土している。８は一部が竈の左袖部付近から立位で出土しており，袖部の補強材の可能性がある。12・13 は西壁際の床面から出土した鉄製の紡錘車で，13 の軸部は接合しないものの，出土位置も近いことから 12 と同一の可能性が高い。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉に比定できる。

表 120　第 75 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 186 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［13.8］	3.9	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理　底部回転ヘラ削り	４区下層	40% PL39
2	須恵器	坏	［12.2］	4.8	［5.6］	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り	３区床面	20%新治窯
3	須恵器	坏	［13.2］	（3.7）	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	４区 x	30%新治窯 PL50
4	土師器	高台付坏	［16.7］	6.7	8.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理　底部回転ヘラ削り後高台貼付	４区下層	60% PL39
5	土師器	椀	［20.4］	（7.7）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理	２区床面	20%新治窯
6	土師器	鉢	［28.0］	（24.0）	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	ロクロナデ　外面体部下端ヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理　体部下端ヘラナデ	４区床面	20% PL50
7	土師器	甕	［12.8］	（5.8）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈燃焼部 Ｐ５	10%
8	土師器	甕	［21.0］	（9.3）	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈袖部 燃焼部	10%
9	須恵器	甕	［19.8］	（8.0）	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁部ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き　内面ヘラナデ	３区床面	10%新治窯 PL39
10	須恵器	甕	－	（6.9）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き　内面ヘラナデ	２区下層	10%新治窯 PL50
11	須恵器	甕	－	（8.3）	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面平行叩き　内面当て具痕	２区床面	10%新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
12	紡錘車	残存高 4.2	径 4.9	0.5	23.22	鉄	弾み車と軸部　両端欠損	３区床面	PL54
13	紡錘車	（4.4）	0.45	0.4	3.12	鉄	軸部$_{カ}$　断面丸に近い方形　釘の可能性もあり	３区床面	PL54
14	刀子	（6.1）	1.4	0.25	8.24	鉄	刀身部～茎部分　先端部欠損	４区 x	PL54
15	刀子	（2.2）	1.3	0.4	3.57	鉄	刀身部$_{カ}$	３区下層	観察表のみ
16	釘$_{カ}$	－	－	－	－	鉄	幅 0.5cm の棒状　８点あり　或いは紡錘車の軸$_{カ}$	４区 x	観察表のみ

第 76 号竪穴建物跡（第 187 図）

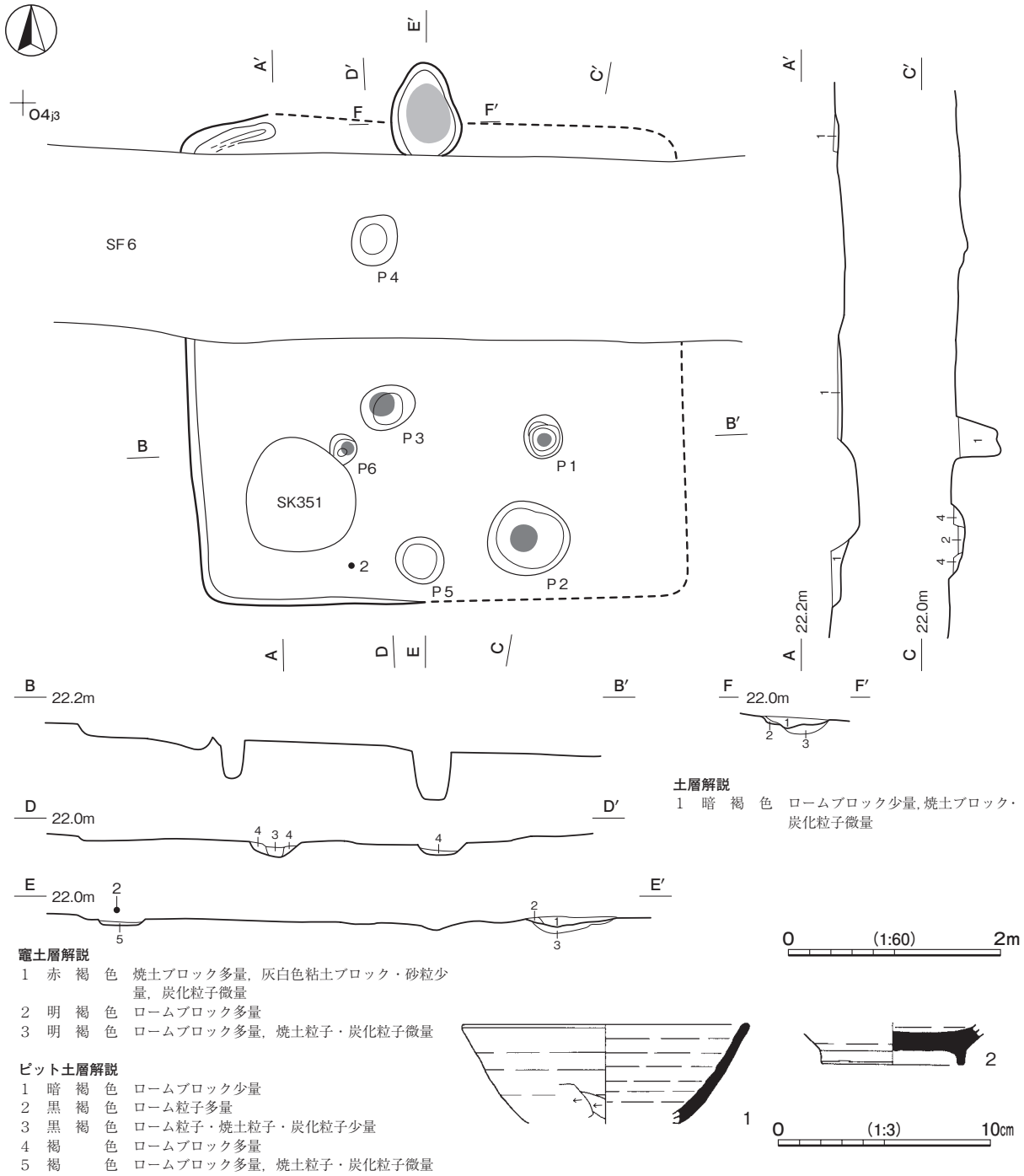
位置　調査Ｉ区北部のＯ４j3 区，標高 22 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 351 号土坑，第６号道路に掘り込まれている。

規模と形状　東部が削平のため，東壁は確認できなかった。規模は南北軸 4.80 ｍ，ピットや竈から推定される東西軸は約 4.5 ｍの方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁は高さ５～８cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦であるが，傾斜に沿って東側にやや下がっている。北西コーナー部に壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部付近に楕円形の掘方と火床面と考えられる焼土が確認できたことから，竈と判断した。確認できた掘方の長径は 88cm，短径 64cm で，壁外に 60cm ほど掘り込まれていると推定される。第１・２層は燃焼部の堆積土で，火床面は床面とほぼ同じ高さで赤変している。第３層は掘方への埋土である。



第 187 図　第 76 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット　6 か所。Ｐ１・Ｐ６は深さが 44cm・35cm で，規模と配置から主柱穴である。両ピットの底面で柱の当たりが確認できた。Ｐ５は深さ 10cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ２～Ｐ４は深さが 12 ～ 15cm と浅く，位置も不規則であるが，Ｐ２・Ｐ３の底面には柱の当たりが確認できた。

覆土　削平のため１層しか確認できなかったことから，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片 20 点（坏４，甕類 16），須恵器片９点（坏５，高台付坏１，鉢・甕・甑類３），金属製品１点（鑿ヵ）が出土している。覆土が薄いため，出土遺物は少量で，小片のものが多い。１・２はいずれも覆土中から出土している。図化できなかったが，鑿と考えられる金属製品がＰ１覆土中から出土している。

所見　時期は，少ないながらも覆土中から出土している土器から９世紀中葉に比定できる。

表 121　第 76 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 187 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	［13.2］	4.6	－	長石・石英・細礫	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	２区 x	20%新治窯
2	須恵器	高台付坏	－	（1.8）	［6.6］	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付	３区上層	30%新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
3	鑿ヵ	（4.0）	（1.3）	（0.7）	23.49	鉄	表面剥離　形状不明	Ｐ１覆土中	観察表のみ

第 83 Ａ・Ｂ号竪穴建物跡（第 188 ～ 191 図　PL18）

位置　調査Ｉ区北東部のＰ 4 f0 区，標高 20.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 80・82 号竪穴建物跡を掘り込み，第 471・473・474・478 号土坑，第 39 号溝に掘り込まれている。第 472・475 ～ 477・479・480 号土坑とも重複するが，新旧関係は不明である。

規模と形状　本跡は南西方向の拡張を伴う建て替えが確認できた建物跡で，拡張後の建物跡を第 83 Ａ号竪穴建物跡，拡張前の建物跡を第 83 Ｂ号竪穴建物跡とする。第 83 Ａ号竪穴建物跡は，東壁が重複のため不明瞭であるが，壁溝から推定される規模は，長軸 6.01 m，短軸 5.94 の隅丸方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。壁は高さ 42cm で，外傾している。第 83 Ｂ号竪穴建物跡は，壁溝間で計測した規模は長軸 4.82 m，短軸 4.57 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。西壁側では壁溝が２条確認できる部分があり，第 83 Ｂ号竪穴建物の使用時に，西壁側のみさらに拡張している可能性もある。

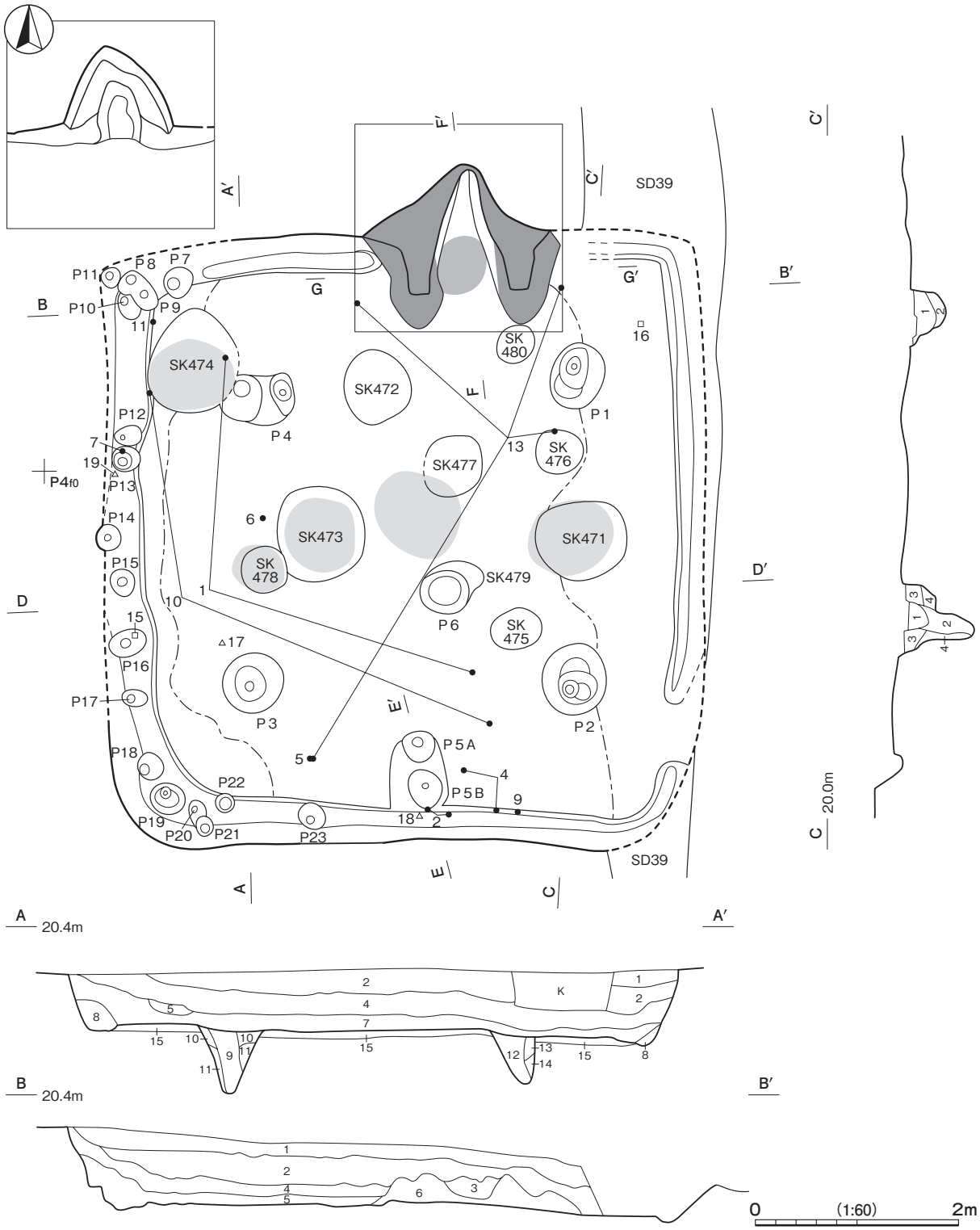
床　いずれもほぼ平坦で，第 83 Ａ号竪穴建物跡は灰白色粘土ブロックを多量に含む第 15 層を埋土して床とし，壁際を除き踏み固められている。壁溝が第 83 Ａ号竪穴建物跡の東壁の一部，及び第 83 Ｂ号竪穴建物跡の北壁の一部を除き巡っている。

竈　掘方を含め，作り替えの痕跡は認められない。第 83 Ｂ号竪穴建物跡の北壁中央部に付設されており，第 83 Ａ号竪穴建物跡からすると，北壁やや東寄りとなる。規模は焚口部から煙道部まで 160cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部は壁外に 70cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第２・３層は天井部の崩落土，第５層は燃焼部の堆積土で，灰が 10cm の厚さで堆積している。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。第６層が袖部で，灰白色粘土が主体の褐灰土を積み上げて構築されている。第８～ 11 層は掘方への埋土で，粘土ブロックや焼土ブロックがやや多く含まれている。

ピット　第 83 Ａ号竪穴建物跡のピットは 23 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さが 35 ～ 72cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５Ａは深さ 30cm，Ｐ５Ｂは深さ 24cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５は底面の２か所に窪みがあり，同一地点での柱の立て替えも想定される。Ｐ７～Ｐ 23 は，西壁～南壁際の壁溝内に配置された径 20 ～ 30cm の小ピットで，深さは８～ 30cm である。壁あるいは壁を保護する施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ 28cm で，竈と出入口部を結ぶ軸線上にある。第 83 Ｂ号竪穴建物跡のピットは７か所で，Ｐ１～Ｐ４は深さ 40 ～ 54cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 20cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ６・Ｐ７は径 20cm 前後の小ピットで，Ｐ６の深さは 16cm である。竈西側の壁溝中に位置し，壁あるいは壁を保護する施設に伴うピットと考えられる。

覆土　第 83 Ａ号竪穴建物跡の覆土は８層に分層できる。第１・２層に砂粒が，第５層にロームブロックが多量に含まれており，埋め戻されている。第３・６層は竈に関連する堆積土である。第 15 層は掘方への埋土で，第 83 Ｂ号竪穴建物跡を埋め戻している。

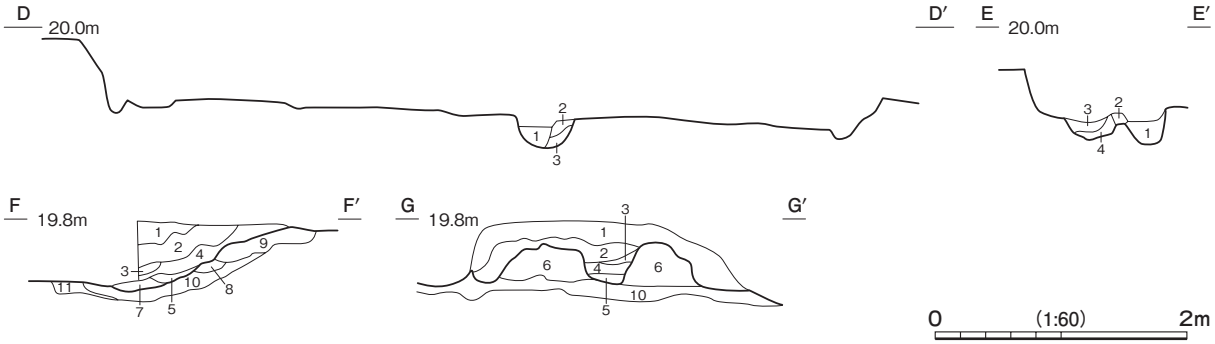
遺物出土状況　土師器片 726 点（坏 197，椀１，高坏４，壺・甕類 523，手捏ねヵ１），須恵器片 122 点（坏



土層解説

1 黒 褐 色 砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 砂粒多量，焼土粒子・黄褐色砂粒少量，炭化粒子微量
3 黄 褐 色 黄褐色砂粒多量，灰白色粘土ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4 暗 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5 黄 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
6 黄 褐 色 黄褐色砂粒多量，灰白色粘土ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
7 褐 色 焼土ブロック・灰白色粘土ブロック・黄褐色砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
8 褐 色 灰白色粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
9 褐 色 ロームブロック多量，炭化物・灰白色粘土ブロック・焼土粒子少量
10 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
11 明 褐 色 ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12 黒 褐 色 灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13 明 褐 色 灰白色粘土ブロック多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
14 暗 褐 色 ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量
15 黒 褐 色 灰白色粘土ブロック多量

第 188 図　第 83 A号竪穴建物跡実測図（1）



竈土層解説

1 黒 褐 色 灰白色粘土ブロック少量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2 灰 白 色 灰白色粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3 赤 褐 色 焼土ブロック多量，灰白色粘土ブロック少量
4 黒 褐 色 焼土ブロック多量，炭化物微量
5 灰 白 色 灰層
6 褐 灰 色 灰白色粘土ブロック多量
7 暗 赤 褐 色 焼土ブロック多量
8 暗 褐 色 灰白色粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
9 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子中量
10 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量，灰白色粘土ブロック少量
11 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，灰白色粘土ブロック微量

Ｐ１土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子多量，焼土ブロック・灰白色粘土ブロック少量，炭化粒子微量
2 褐 色 ローム粒子多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

Ｐ２土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子多量，灰白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐 色 ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4 明 褐 色 ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ５土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 明 褐 色 ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック中量
3 黒 褐 色 灰白色粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐 色 ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ６土層解説

1 褐 色 灰白色粘土ブロック多量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐 色 灰白色粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 明 褐 色 ロームブロック・灰白色粘土ブロック多量

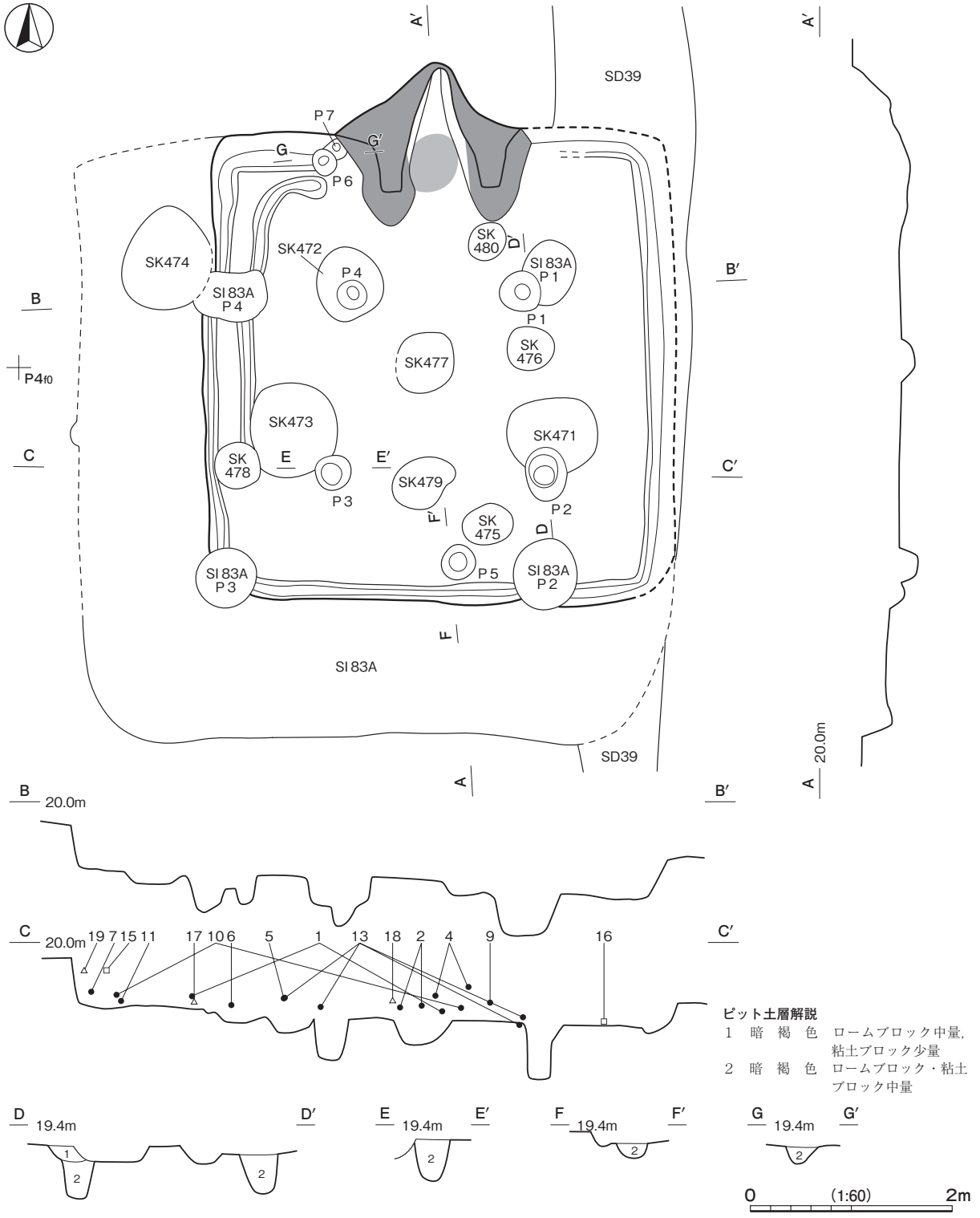
第 189 図　第 83 Ａ号竪穴建物跡実測図（２）

80，高台付坏１，蓋 20，瓶類９，鉢・甕・甑類 12），灰釉陶器片１点（瓶類），石器・石製品３点（砥石２，勾玉１），金属製品４点（刀子１，鉄鏃２，鉈尾１），鍛冶関連遺物（椀状滓 187.2 ｇ，鉄塊系遺物 32.7 ｇ，鉄滓 204.2 ｇ），焼成粘土塊 67.7 ｇが出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて多く出土している。土器は５世紀代のものから９世紀代のものまで含まれているが，７世紀後半から８世紀前半のものが多い。１・２はやや古手の様相を示しているが，南東部や北西部，南壁際の覆土下層からそれぞれ出土しており，５・６・11 などの土器と大きなレベル差は伺えない。12 もやや古手で，掘方の埋土中から出土している。16 や 17 も掘方の床面近くから出土している。18 は南壁際の覆土下層から出土しているもので，金銅製の馬具である。下端部が折り曲げられており，毛彫り状の細かな沈線文が描かれている。鉈尾としたが，杏葉の可能性もある。

所見　時期は，本跡は拡張を伴う建て替えが確認されているが，やや古手の遺物を伴うものの，出土状況などからは明らかに時間差のある２時期を捉えることはできない。よって７世紀後葉から８世紀前葉の間と大きく捉えておきたい。本跡の床面からは，火床面を有し，鉄滓や羽口を伴う第 471・473・474・478 号土坑が確認されている。建物廃絶後に掘り込まれたものとしたが，堆積状況からの確認はできていない。よって，これらも第 83 Ａ号竪穴建物に伴うもので，本跡は鍛冶関連工房となる可能性もある。

表 122　第 83 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 191 図）

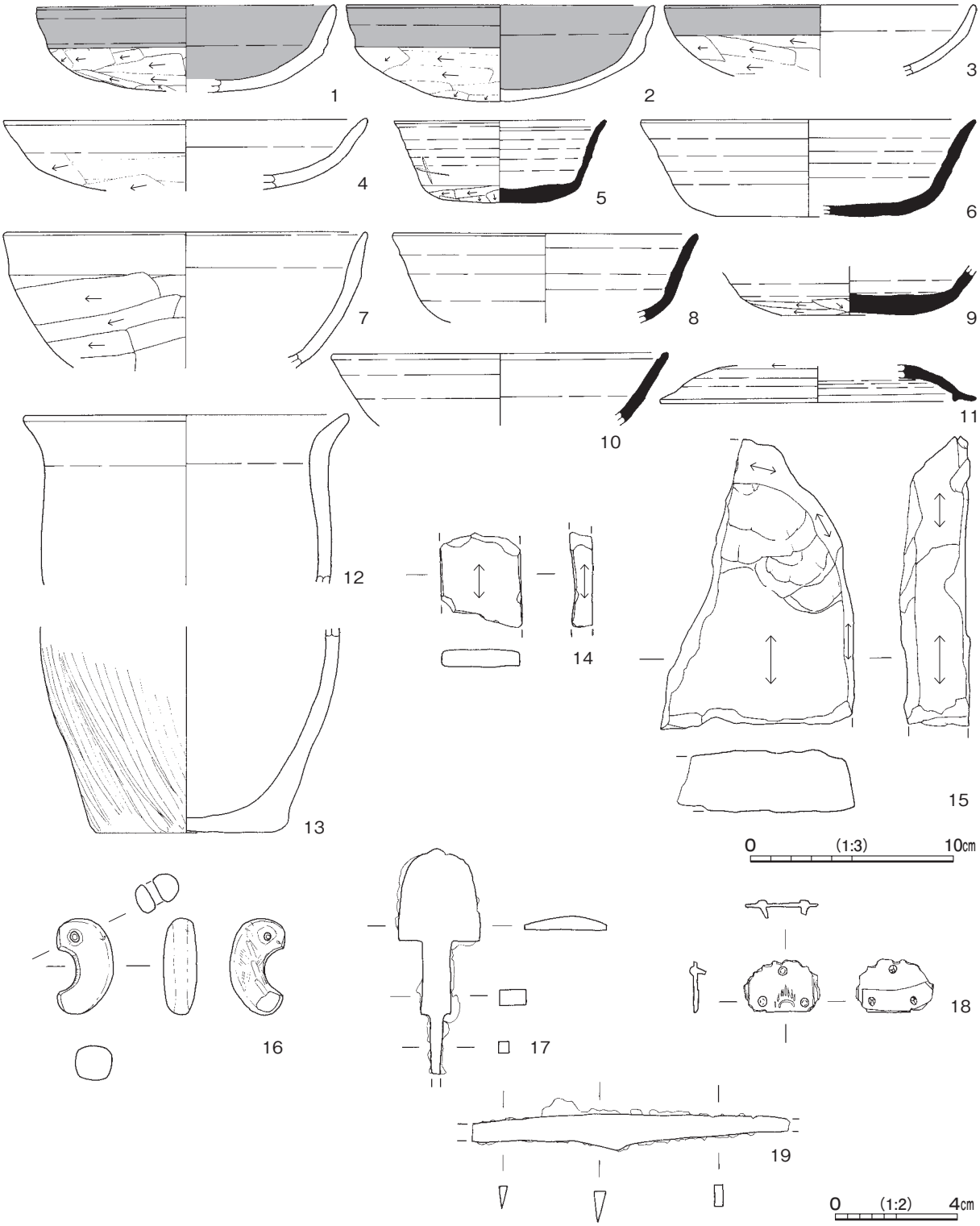
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坏	14.5	(4.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り 内面ナデ　黒色処理	２区下層 ４区下層	60% PL40
2	土師器	坏	15.0	4.7	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り 内面ナデ　黒色処理	２区下層	70%
3	土師器	坏	［15.2］	(3.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り 内面ナデ	１区２ｘ ４区２ｘ	20%



第 190 図　第 83 B 号竪穴建物跡実測図

表 123　第 83 号竪穴建物跡出土遺物観察表（2）（第 191 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
4	土師器	坏	［17.7］	(3.4)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	2区中層	40%
5	須恵器	坏	［10.2］	4.0	－	長石・雲母	灰白	普通	体部手持ちヘラ削り　口縁部内面に沈線　体部外面にヘラ記号「×」	3区下層	新治窯 PL40
6	須恵器	坏	［16.2］	4.7	［9.0］	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り	4区下層	40%新治窯 PL41
7	土師器	椀	［17.6］	(6.6)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	4区下層 2区3 x 3区4 x	20%



第 191 図　第 83 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 124　第 83 号竪穴建物跡出土遺物観察表（3）（第 191 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	須恵器	坏	[15.0]	(4.3)	−	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ　酸化焔焼成	4区1ｘ	10%新治窯
9	須恵器	坏	−	(2.4)	6.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部・底部下端手持ちヘラ削り　内底面研磨　硯に転用カ	2区中層	50%新治窯
10	須恵器	坏	[16.4]	(3.5)	−	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ　口縁部内面に沈線	2区下層 4区下層	10%新治窯
11	須恵器	蓋	[15.4]	(1.8)	−	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	4区下層 1区4ｘ	20%新治窯

表 125　第 83 号竪穴建物跡出土遺物観察表（４）（第 192 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
12	土師器	甕	［15.6］	(8.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ナデ	掘方覆土	５％
13	土師器	甕	－	(10.1)	8.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ナデ　底部木葉痕	１区掘方 ３区下層 １区４ｘ	20%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
14	砥石	(4.6)	3.9	1.1	26.70	凝灰岩	表裏・側面に砥面	４区３ｘ	
15	砥石	(14.3)	(9.4)	3.1	512.0	雲母片岩	表・側面に砥面　裏面は剥離	３区上層	PL48
16	勾玉	3.2	1.9	1.0	9.49	蛇紋岩	表面研磨精緻　裏・側面に削りと研磨痕　孔径 0.3cm	１区掘方	PL53

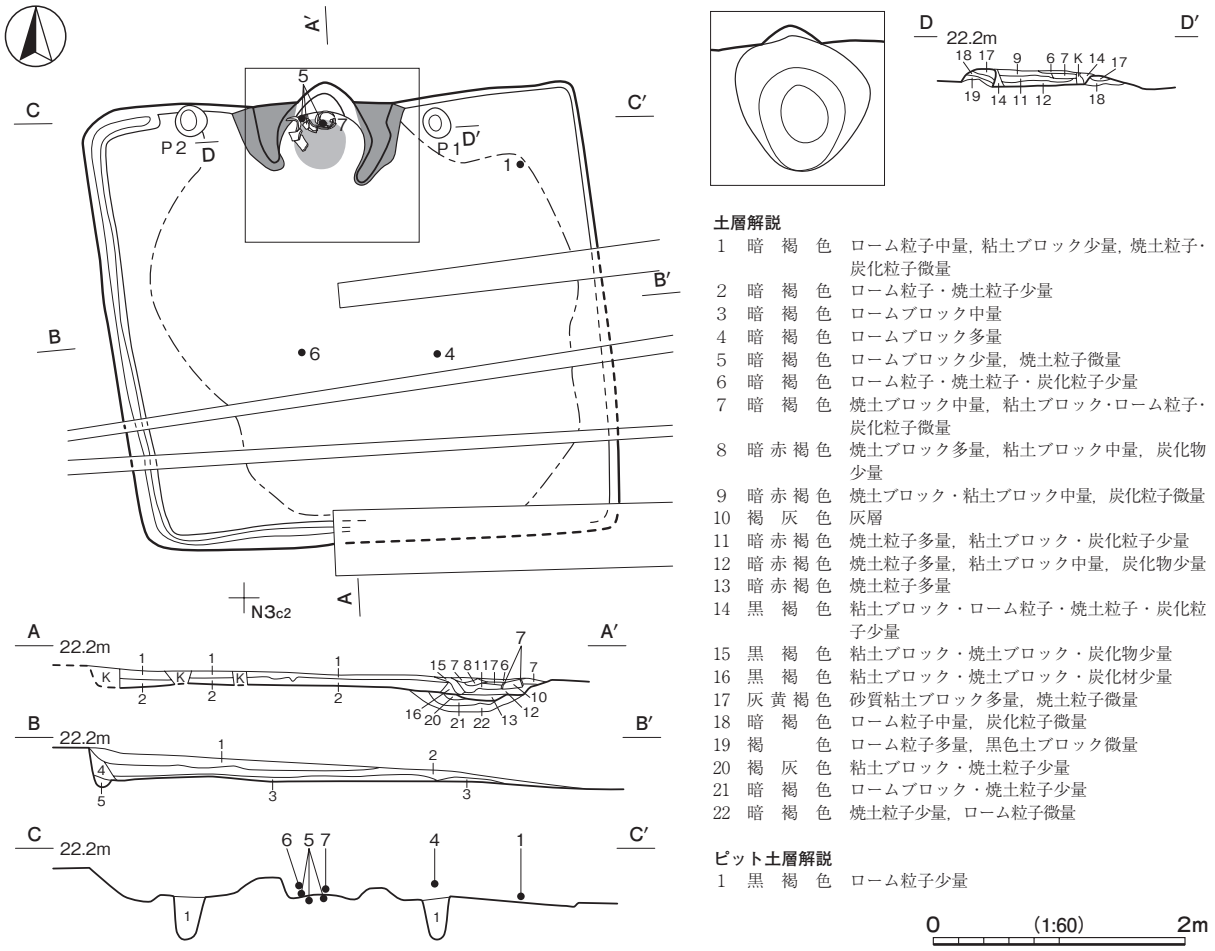
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
17	鉄鏃	(7.4)	2.8	0.4 ～ 0.6	17.90	鉄	鏃身部～茎部分　鏃身部三角形　断面片丸造　角関	３区掘方	PL55
18	鉈尾	1.7	2.4	0.1 ～ 0.7	1.59	金銅	馬具の鉈尾　下端部折り返し　表面に毛彫線による文様	２区下層	PL57
19	刀子	(10.4)	0.4 ～ 1.2	0.3 ～ 0.4	14.48	鉄	刀身部から茎部分　先端部欠損	４区上層	PL55
20	鉄鏃$_カ$	(3.7)	0.5	0.5	3.39	鉄	鉄鏃茎部分あるいは紡錘車の軸部　断面方形	覆土中層	観察表のみ

第 87 号竪穴建物跡（第 192・193 図　PL19）

位置　調査Ⅲ区西部の N 3b2 区，標高 22 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.93 m，短軸 3.58 の方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁は高さ 18cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き踏み固められている。西壁と南壁に壁溝が巡っている。



第 192 図　第 87 号竪穴建物跡実測図

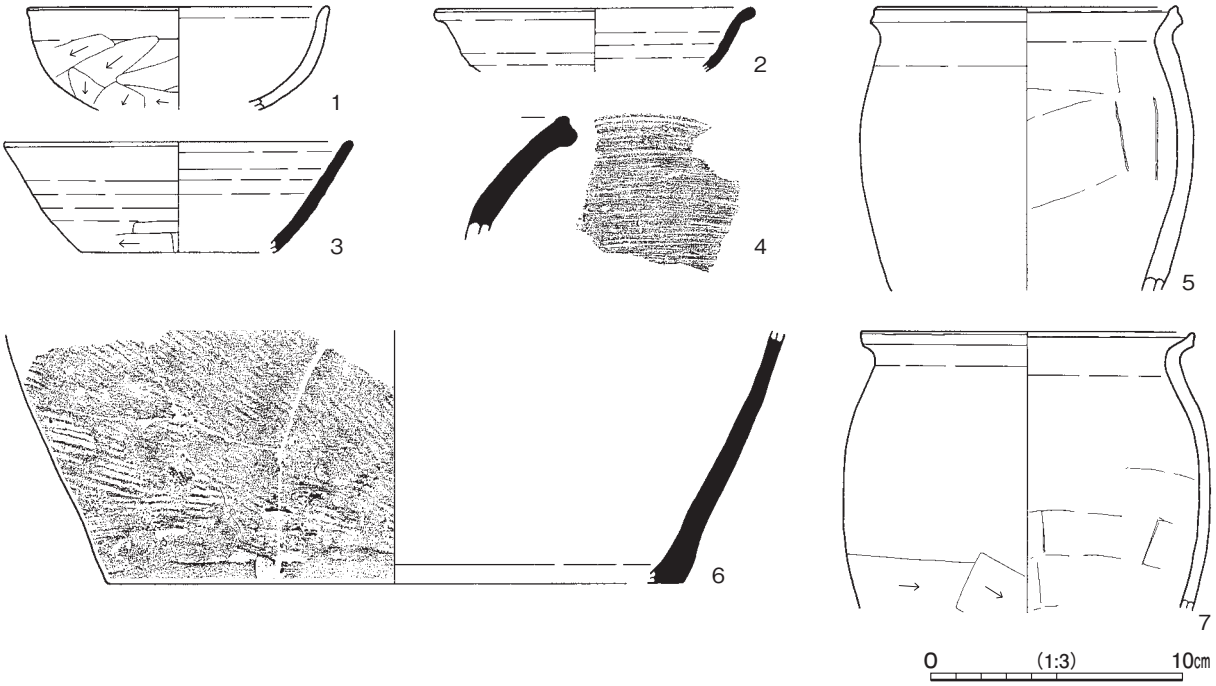
竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，粘土ブロックを含む第 20 ～ 22 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 70cm で，燃焼部幅は 65cm である。煙道部は壁外に 20cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第６～ 22 層が竈に関連する堆積土である。第 11 ～ 13 層は燃焼部の堆積土で，火床面は床面を５cm ほど掘りくぼめている。火床面上から土師器の甕片が２個体分，また火床面から土師器の甕が逆位で出土しており，甕体部内には灰が堆積していた。第 17 ～ 19 層は袖部で，ローム粒子や粘土ブロックを含む褐色土の第 18・19 層を基底部とし，砂質粘土ブロックを多量に含む第 17 層を積み上げて構築されている。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さが 34cm で，北壁際の竈の両脇に位置している。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックが含まれる土が，水平に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 141 点（坏 12，甕･甑類 118，不明 11），須恵器片 42 点（坏 25，蓋５，瓶類１，鉢･甕･甑類９，不明２），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 5.8 ｇ，鉄滓 13.6 ｇ）のほか，磁器片１点（碗）が出土している。遺物は南部の覆土下層から床面にかけてと，竈の火床面付近からまとまって出土している。１は北東コーナー部の床面から出土している。５と７は，竈の火床面に逆位で置かれており，支脚に転用された可能性がある。また竈の左袖には，図示しなかったが土師器の甕体部破片が，補強材として利用されている。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉から中葉に比定できる。



第 193 図　第 87 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 126　第 87 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 193 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［11.6］	(4.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	１区床面	20%
2	須恵器	坏	［12.6］	(2.6)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ	３区１ｘ	10%新治窯
3	須恵器	坏	［13.6］	4.3	［7.6］	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	３区１ｘ	10%新治窯
4	須恵器	甕	－	(4.9)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	ロクロナデ	２区下層	５%新治窯
5	土師器	小型甕	［11.7］	(11.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ　体部外面に粘土付着	竈火床面	30% PL41
6	須恵器	鉢	－	(9.9)	［22.8］	長石・石英・雲母	灰黄	普通	外面斜位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ナデ　摩滅著しい	３区下層	10%新治窯
7	土師器	小型甕	［13.0］	(11.0)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈火床面	30%

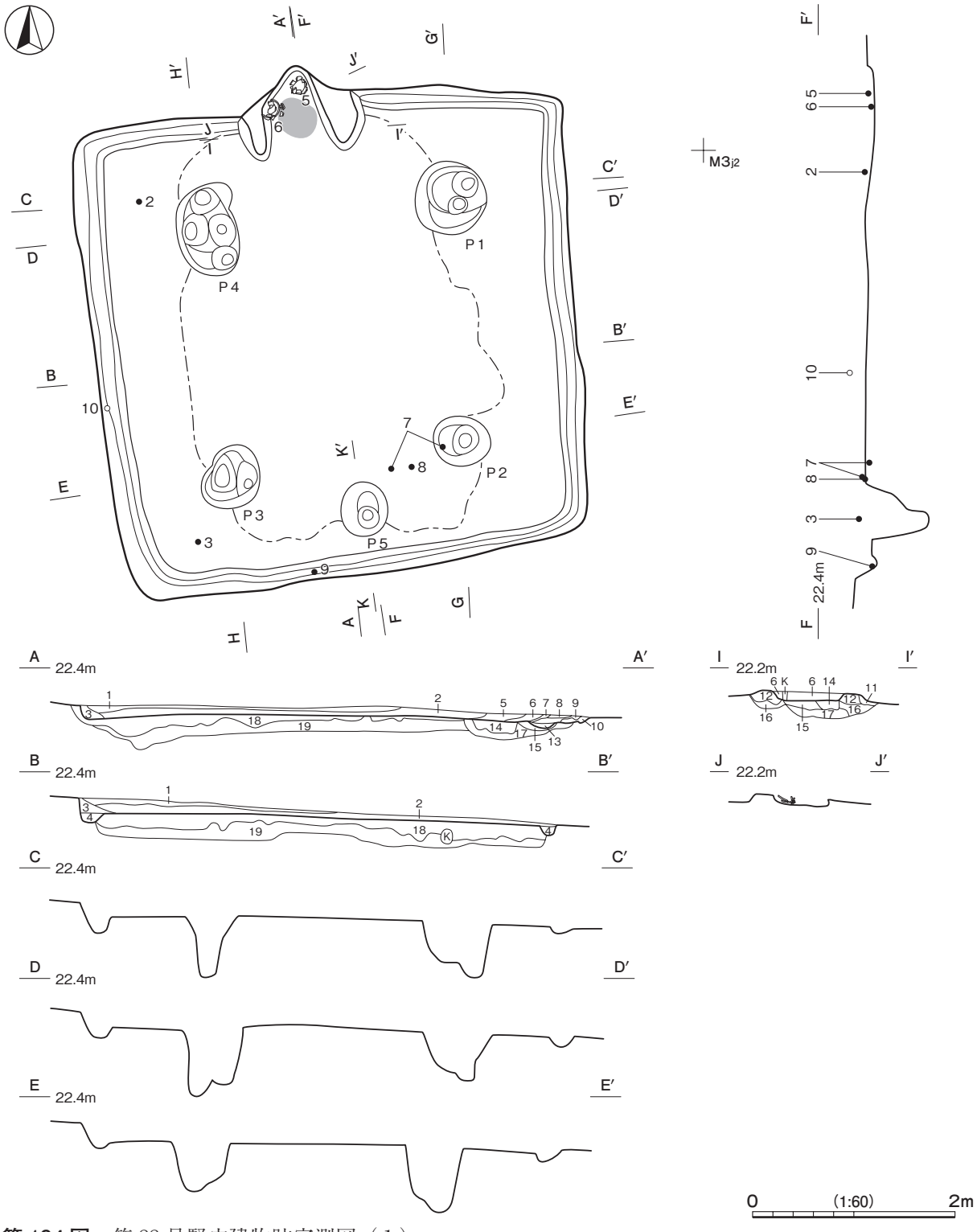
第 88 号竪穴建物跡（第 194 ～ 196 図　PL19）

位置　調査Ⅲ区西部のＭ３j1 区，標高 22.5 ｍの台地平坦部に位置している。

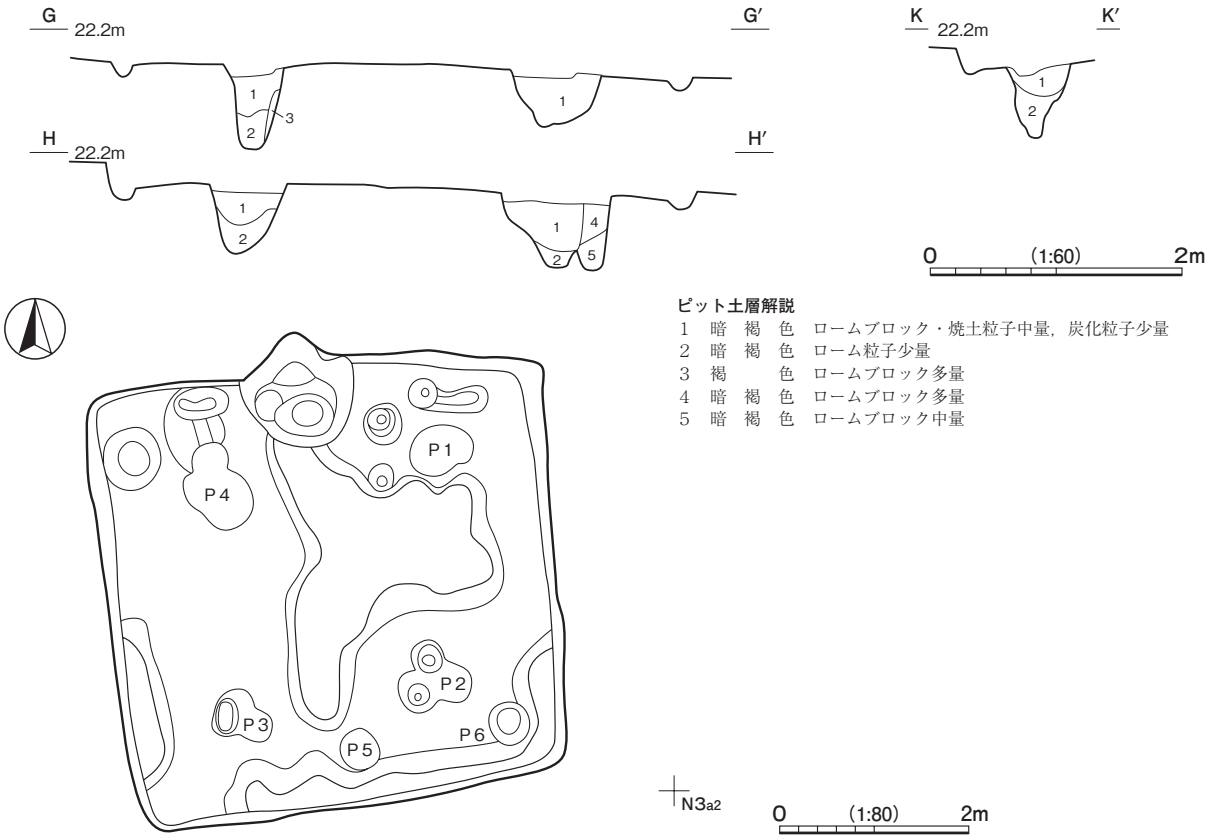
重複関係　第 104 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 4.76 m，短軸 4.71 ｍの方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｗである。壁は高さ６～ 16cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦な貼床で，掘方は中央部を島状に残し，周囲を一段掘り下げている。壁際を除き踏み固められて



第 194 図　第 88 号竪穴建物跡実測図（１）



ピット土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 褐 色 ロームブロック多量
4 暗 褐 色 ロームブロック多量
5 暗 褐 色 ロームブロック中量

土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 焼土粒子少量，白色粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐 色 白色粘土ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4 極暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗 褐 色 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
7 暗 褐 色 焼土粒子中量，粘土ブロック・炭化粒子微量
8 暗赤褐色 焼土粒子多量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
9 褐 色 灰多量，ローム粒子中量，焼土粒子微量
10 暗 褐 色 ロームブロック多量
11 暗 褐 色 粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
12 暗 褐 色 焼土粒子多量，粘土ブロック中量，炭化物少量
13 暗赤褐色 焼土ブロック多量，粘土ブロック微量
14 暗赤褐色 焼土ブロック少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
15 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量
16 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
17 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量
18 暗 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子微量
19 褐 色 ロームブロック多量

第 195 図 第 88 号竪穴建物跡実測図（２）

いる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，粘土ブロックや焼土ブロックを含む第 14 ～ 17 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 85cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第５～ 13 層が竈に関連する堆積土である。第 13 層は燃焼部の堆積土で，火床面は床面を５cm ほど掘りくぼめている。燃焼部奥と煙道部に，土師器の甕が逆位で据えられている。第 11・12 層は袖部の構築土である。

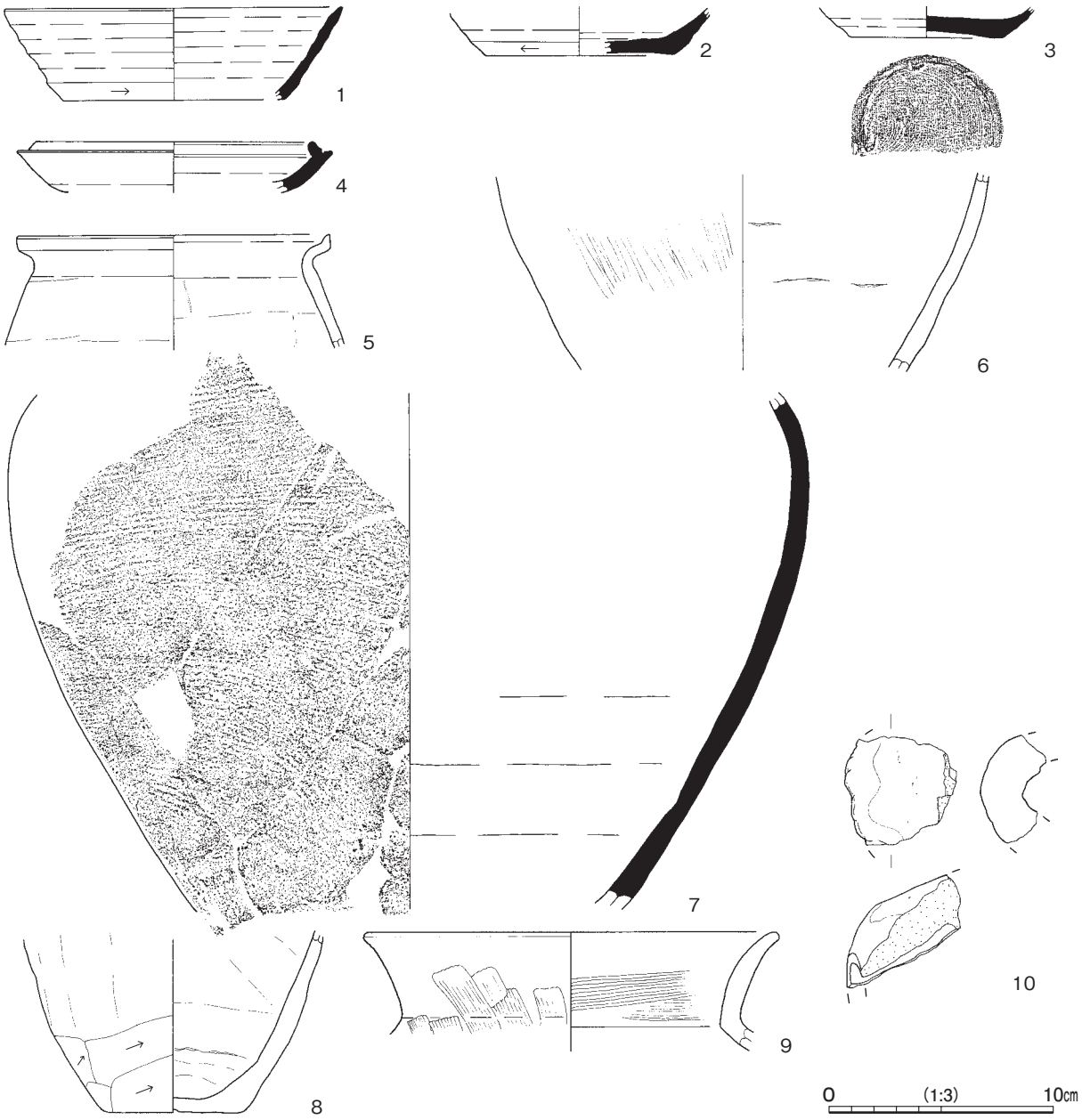
ピット ６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さが 54 ～ 66cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４の掘方底面にはピット状の窪みが２～４か所確認でき，柱の立て替えが推定できる。Ｐ５は深さ 63cm で，規模と配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ６は掘方調査時に確認できたピットで，深さは 35cm である。ロームブロックが多量に含まれている暗褐色土で埋め戻されている。

覆土 ４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第 18・19 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況 土師器片 165 点（坏８，坩２，高坏１，壺・甕類 154），須恵器片 45 点（坏 27，蓋５，鉢・甕・甑類 13），鍛冶関連遺物（羽口２，椀状滓 92.6 ｇ，流動滓 72.2 ｇ，鉄塊系遺物 28.5 ｇ，鉄滓 3.4 ｇ），焼成粘

土塊 6.6 ｇが出土している。遺物は南部から西部の覆土下層から床面にかけて，ややまとまって出土している。２・３は西部の床面から，７・８は南東部の床面から，それぞれ出土している。５は竈の燃焼部から逆位で出土しており，支脚に転用されたものと考えられる。６の土師器甕の体部破片が，竈の左袖部に接して位置しており，袖の補強材と考えられる。４・９のようにやや時期が遡るものも出土しているが，これらは重複する第 104 号竪穴建物跡などに帰属するものと推定される。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第 196 図　第 88 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 127　第 88 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 196 図）

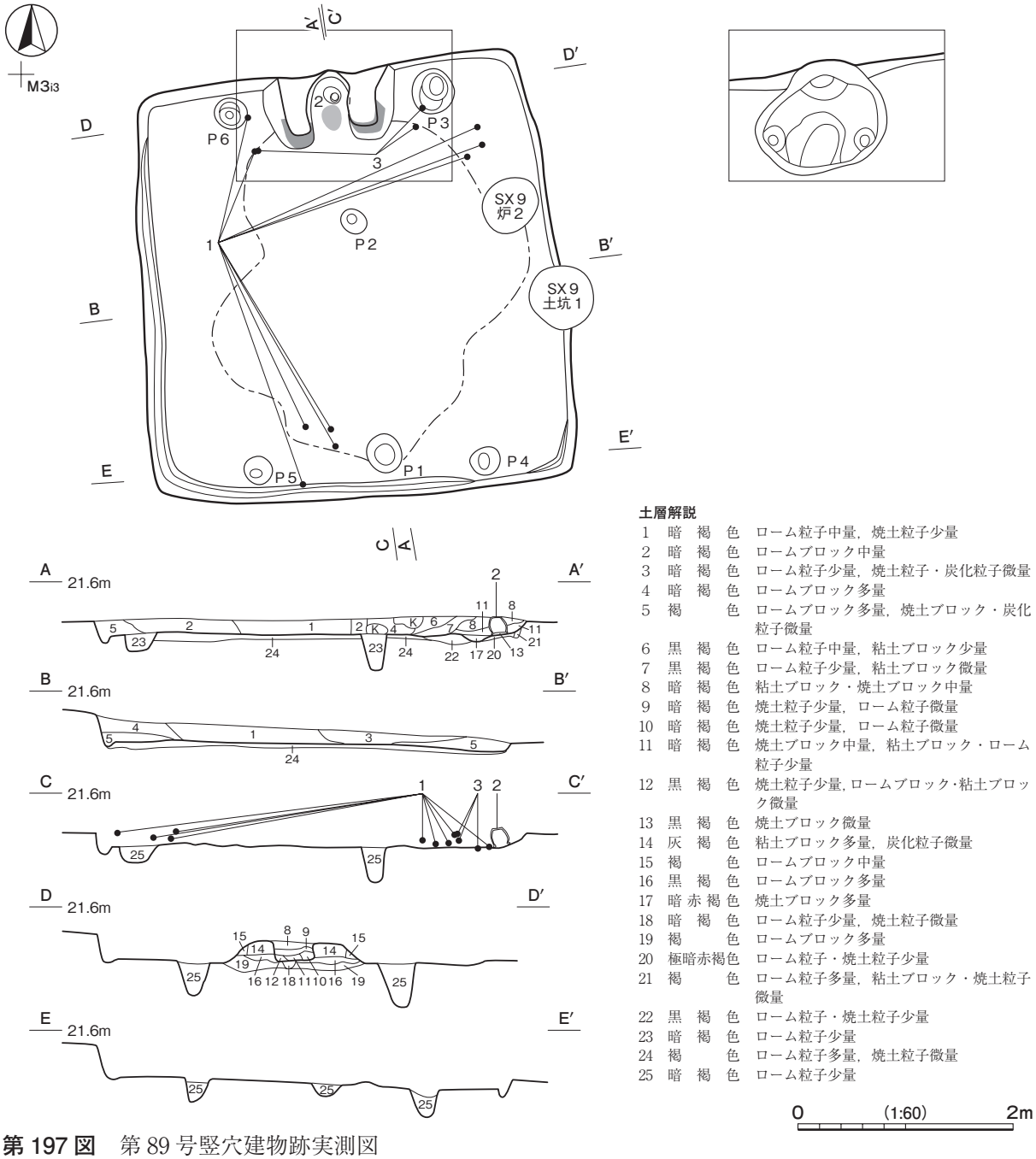
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	［14.8］	4.1	［9.7］	長石・石英・雲母・黒色湧出物	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り	２区１ｘ	５％新治窯
2	須恵器	坏	－	（2.1）	［8.4］	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	４区床面	10％新治窯
3	須恵器	坏	－	（1.4）	6.7	長石・石英・雲母・黒色湧出物	灰褐	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	３区床面	10％産地不明
4	須恵器	坏	［12.2］	（2.2）	－	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ	掘方２区ｘ	10％在地

表 128　第 88 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 196 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
5	土師器	甕	13.8	(5.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈燃焼部	20% PL41
6	土師器	甕	－	(8.7)	－	長石･石英･雲母･･細礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ナデ　摩滅著しい	竈左袖部	10%
7	須恵器	甕	－	(23.0)	－	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	不良	体部外面斜位の平行叩き　下端部ヘラ削り　摩滅著しい　内面ナデ	２区床面	20%
8	土師器	甕	－	(8.0)	6.0	長石・石英・雲母・細礫	褐	普通	体部外面ヘラナデ　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ 底部木葉痕	２区床面	10%
9	土師器	甕	［18.0］	(5.3)	－	長石・石英	褐	普通	外・内面ハケ目調整	３区壁溝内	５%

番号	器　種	最小径	最大径	長　さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
10	羽口	－	－	(5.1)	56.69	長石	にぶい橙	先端部ガラス化　表面還元　発泡	３区下層	
11	羽口	－	－	－	13.39	長石・石英	灰褐	先端部	２区掘方 x	観察表のみ

第 89 号竪穴建物跡（第 197・198 図　PL19）



土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量
5　褐　　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘土ブロック微量
8　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土ブロック中量
9　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
10　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
11　暗　褐　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック・ローム粒子少量
12　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック･粘土ブロック微量
13　黒　褐　色　焼土ブロック微量
14　灰　褐　色　粘土ブロック多量，炭化粒子微量
15　褐　　色　ロームブロック中量
16　黒　褐　色　ロームブロック多量
17　暗赤褐色　焼土ブロック多量
18　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
19　褐　　色　ロームブロック多量
20　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
21　褐　　色　ローム粒子多量，粘土ブロック・焼土粒子微量
22　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
23　暗　褐　色　ローム粒子少量
24　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
25　暗　褐　色　ローム粒子少量

0　(1:60)　2m

第 197 図　第 89 号竪穴建物跡実測図

位置　調査Ⅲ区北部のＭ３i3 区，標高 21.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第７号鍛冶工房に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.96 ｍ，短軸 3.93 ｍの方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｗである。壁は高さ 13 ～ 23cm で，外傾している。

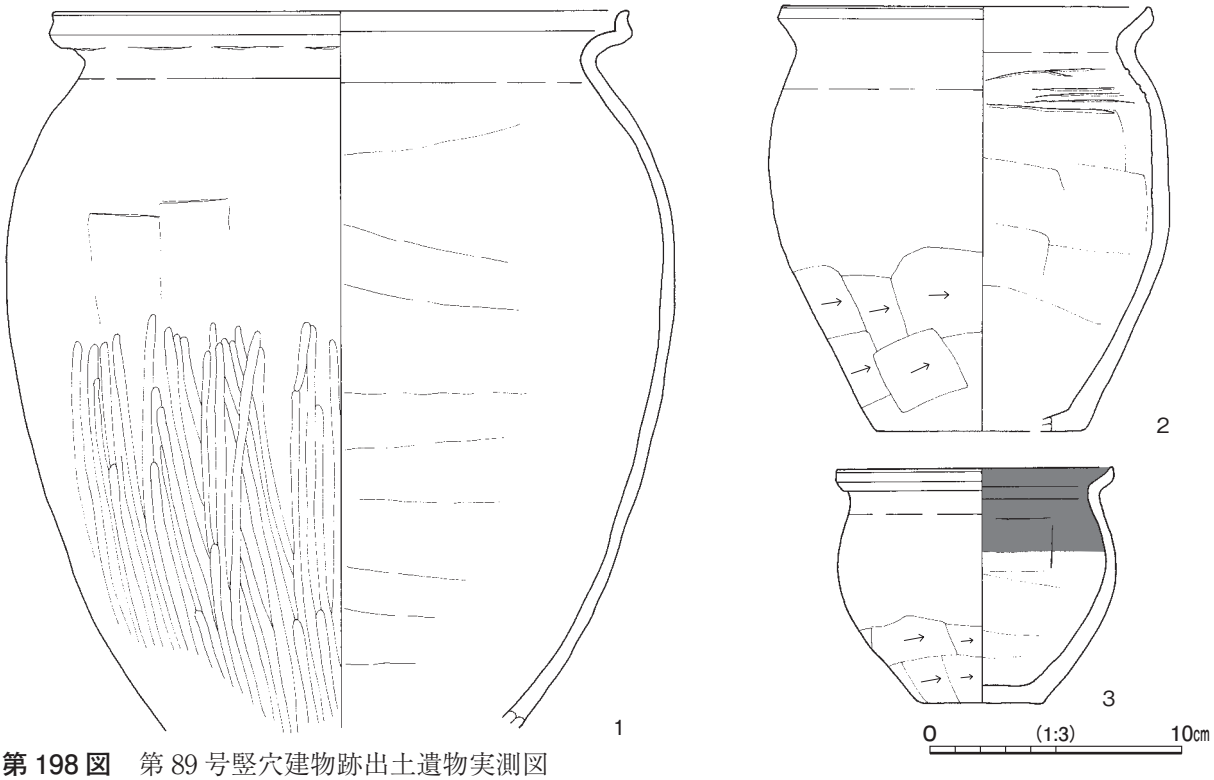
床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除く中央部が踏み固められている。西壁から南壁にかけて，壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，第 19 ～ 22 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 65cm で，燃焼部幅は 35cm である。煙道部は壁外にほとんど掘り込まれておらず，壁付近で緩やかに外傾している。第８～ 18 層が竈に関連する堆積土で，第 14 ～ 16 層は袖部の構築土である。ロームブロックを多量に含む第 16 層を基底部とし，粘土ブロックが主体の第 14 層，ロームブロックを多く含む第 15 層を積み上げて構築されている。第 17 層は燃焼部の堆積土で，火床面は床面を５cm ほど掘りくぼめている。燃焼部に土師器の甕が逆位で据えられており，支脚に転用されている。

ピット　６か所。Ｐ３～Ｐ６は深さが 27 ～ 48cm で，規模と配置から主柱穴である。いずれも壁に寄っている点が特徴的である。Ｐ１は深さ 18cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ２は床面中央部に位置する径の小さなピットで，深さは 33cm である。

覆土　７層に分層できる。各層にロームブロックを多く含むことから，埋め戻されている。第 23・25 層はピットの覆土，第 24 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 46 点（坏３，甕類 43），須恵器片３点（瓶類１，鉢･甕･甑類２），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 176.6 ｇ，鉄滓 59.0 ｇ），焼成粘土塊 14.3 ｇのほか，陶器片１点（瓶類），磁器片１点（皿）が出土している。遺物は全体的に少ないが，竈周辺を中心に土師器の甕が出土している。３は竈前部の床面から，１は竈周辺と南壁際の床面から出土した破片が接合したものである。２は竈の燃焼部に逆位で据えらえた土師器の小型甕で，支脚に転用されたものと考えられる。覆土中から出土した鍛冶関連遺物は，重複する第７号鍛冶工房に帰属するものと考えられる。



第 198 図　第 89 号竪穴建物跡出土遺物実測図

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。周辺に位置する規模や主軸方向を同じくする第87・88号竪穴建物跡は，遺物から８世紀中葉から９世紀前葉と推定され，本跡の時期と大きな矛盾がない。またこの２棟は，竈の支脚として土師器の小型甕を逆位で据えることでも共通している。

表129　第89号竪穴建物跡出土遺物観察表（第198図）

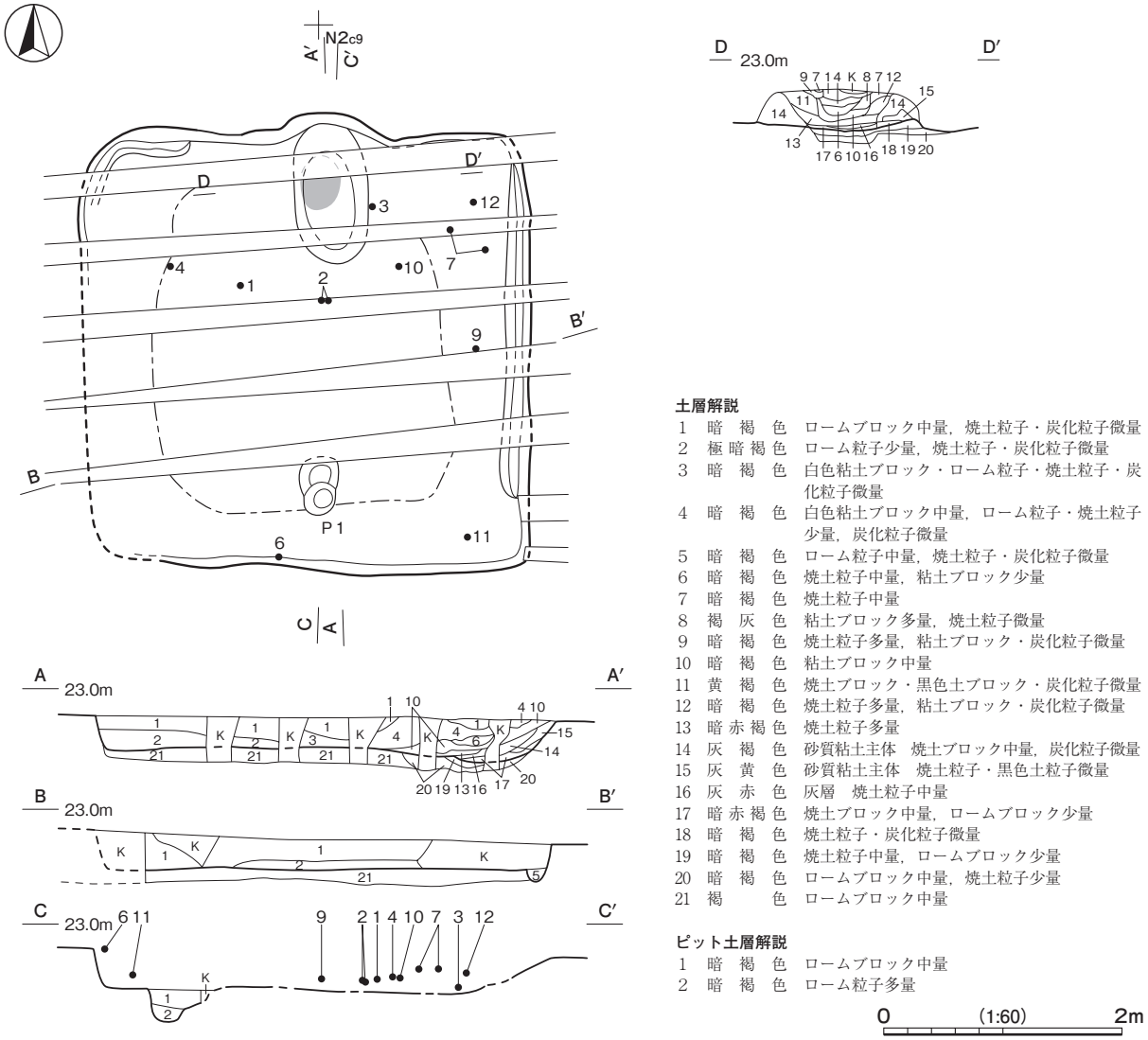
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	甕	［22.5］	（28.4）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面上半部ヘラナデ　下半部ヘラ磨き　内面ヘラナデ	1.3.4区床面　１区１ｘ	20% PL50
2	土師器	甕	14.4	16.8	［8.2］	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下端部ヘラ削り　体部内面ヘラナデ　底部木葉痕	竈燃焼部	40% PL41
3	土師器	小型甕	［10.6］	9.3	4.9	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下端部ヘラ削り　体部内面ヘラナデ　上半に煤付着　底部剥離	竈前床面	40% PL41

第90号竪穴建物跡（第199・200図　PL20）

位置　調査Ⅲ区西部のＮ２c8区，標高23ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第95号竪穴建物跡，第420号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　西壁の一部が削平のため不明であるが，規模は長軸3.75ｍ，短軸3.65ｍの方形で，主軸方向は

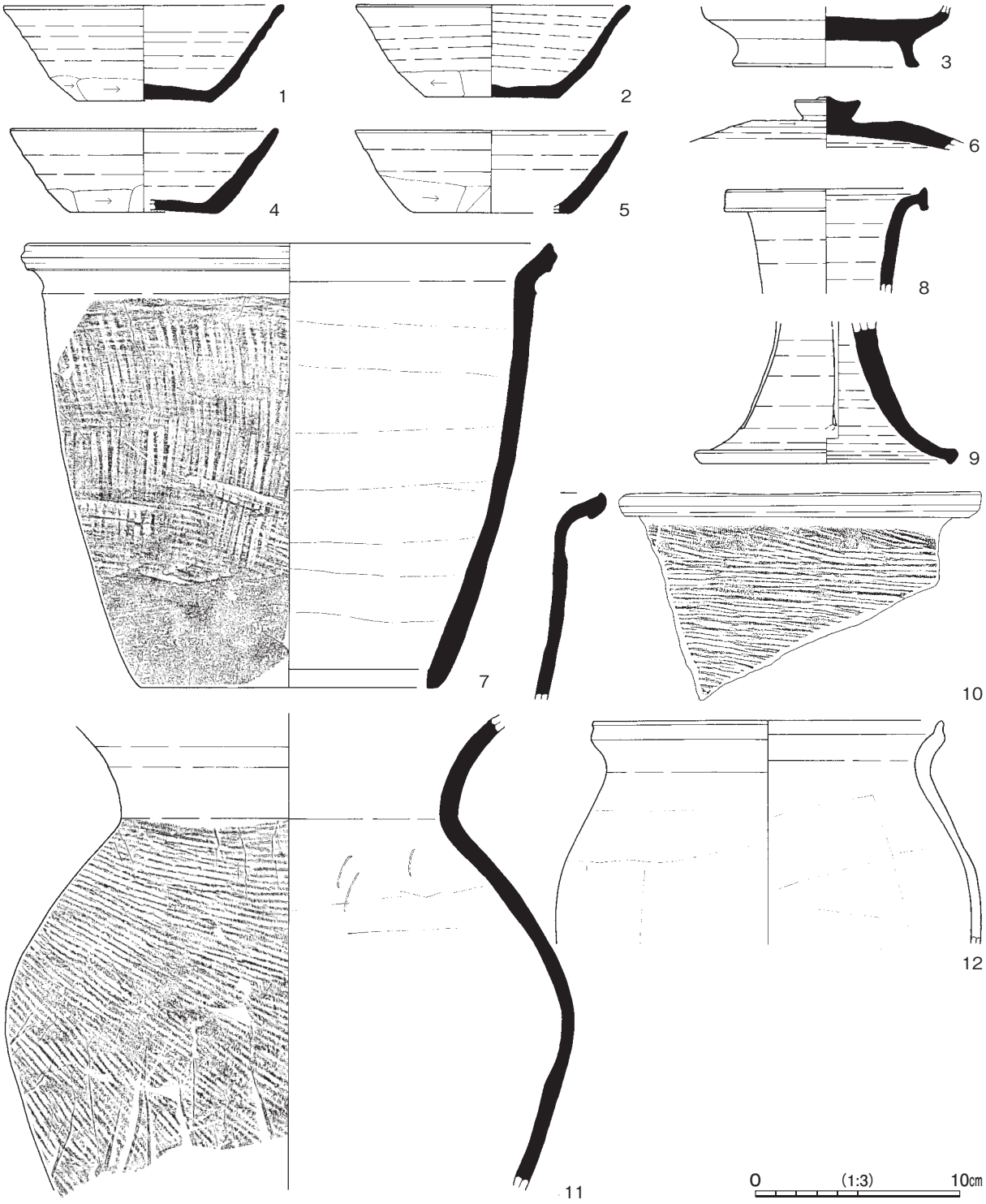


第199図　第90号竪穴建物跡実測図

N－1°－Wである。壁は高さ25～30cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除く中央部が踏み固められている。北西コーナー部，及び東壁に壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。崩落及び撹乱が著しく，形状を留めていない。掘方の規模は，長径120cm，短径60cmの楕円形で，ロームブロックや焼土粒子を含む第19・20層を埋土して構築されている。煙道部は壁外に20cmほど短く掘り込まれ，緩やかに外傾している。第6～18層が竈に関連する堆積土で，



第200図　第90号竪穴建物跡出土遺物実測図

第６～12層は天井部の崩落土である。第６・９・12層は焼土粒子が多量に含まれる暗褐色土である。第14・15層が袖部の構築土と考えられるが，部分的で形状をとらえることはできなかった。第13・16・17層は燃焼部の堆積土で，第16層の灰層が５cmほど堆積している。火床面は床面を５cmほど掘りくぼめている。

ピット　１か所。Ｐ１は深さが24cmで，規模と配置から出入口施設に伴うピットである。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックや白色粘土ブロックが多く含まれる第１・４層が広く堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片311点（坏42，椀１，坩１，高坏２，壺・甕類224，不明41），須恵器片168点（坏100，高台付坏７，蓋16，高盤２，瓶類２，鉢･甕･甑類41），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物18.3ｇ，鉄滓42.5ｇ），焼成粘土塊7.7ｇのほか，磁器片１点（皿），瓦片１点が出土している。遺物は多く，特に北部にまとまっている。５世紀代のものも含まれているが，周辺遺構からの流れ込みである。５はやや古手の様相を呈する。１・４は北西部の覆土下層から，２は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。３は竈掘方の脇から出土している。７と11の大形破片は北東コーナー部と南東コーナー部の覆土下層から，それぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。

表130　第90号竪穴建物跡出土遺物観察表（第200図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	［13.6］	4.6	6.6	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　酸化焔焼成	４区下層 ４区２ｘ	80%新治窯
2	須恵器	坏	13.2	4.5	6.5	長石・石英・雲母・細礫	灰褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　酸化焔焼成	１区下層 ４区２ｘ	70%新治窯 PL41
3	須恵器	高台付坏	－	（2.9）	［8.7］	長石・石英・雲母	黄灰	良好	ロクロナデ　底部回転ヘラ削り後高台貼付	竈掘方脇	50%新治窯
4	須恵器	坏	［13.0］	4.1	［7.2］	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	４区下層	50%新治窯
5	須恵器	坏	［13.2］	4.0	［7.6］	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	４区２ｘ	20%新治窯
6	須恵器	蓋	－	（2.5）	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	３区上層 ３区２ｘ	80%新治窯 PL41
7	須恵器	甑	［25.4］	21.7	［14.4］	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ　酸化焔焼成	１区下層	20%新治窯 PL51
8	須恵器	長頸瓶	［9.6］	（5.1）	－	長石	褐灰	普通	ロクロナデ　外・内面に自然釉	１区２ｘ	10%東海系 PL51
9	須恵器	高盤	－	（6.9）	［12.0］	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ　透かし孔２孔確認	１区下層 １区２ｘ	30%新治窯
10	須恵器	鉢	－	（10.2）	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面横位の平行叩き　内面ナデ	１区下層	10%新治窯
11	須恵器	甕	－	（23.2）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部ロクロナデ　体部外面斜位の平行叩き　内面ヘラナデ　酸化焔焼成	２区下層	30%新治窯 PL50
12	土師器	甕	［16.8］	（10.9）	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	１区中層 １区１ｘ	10%

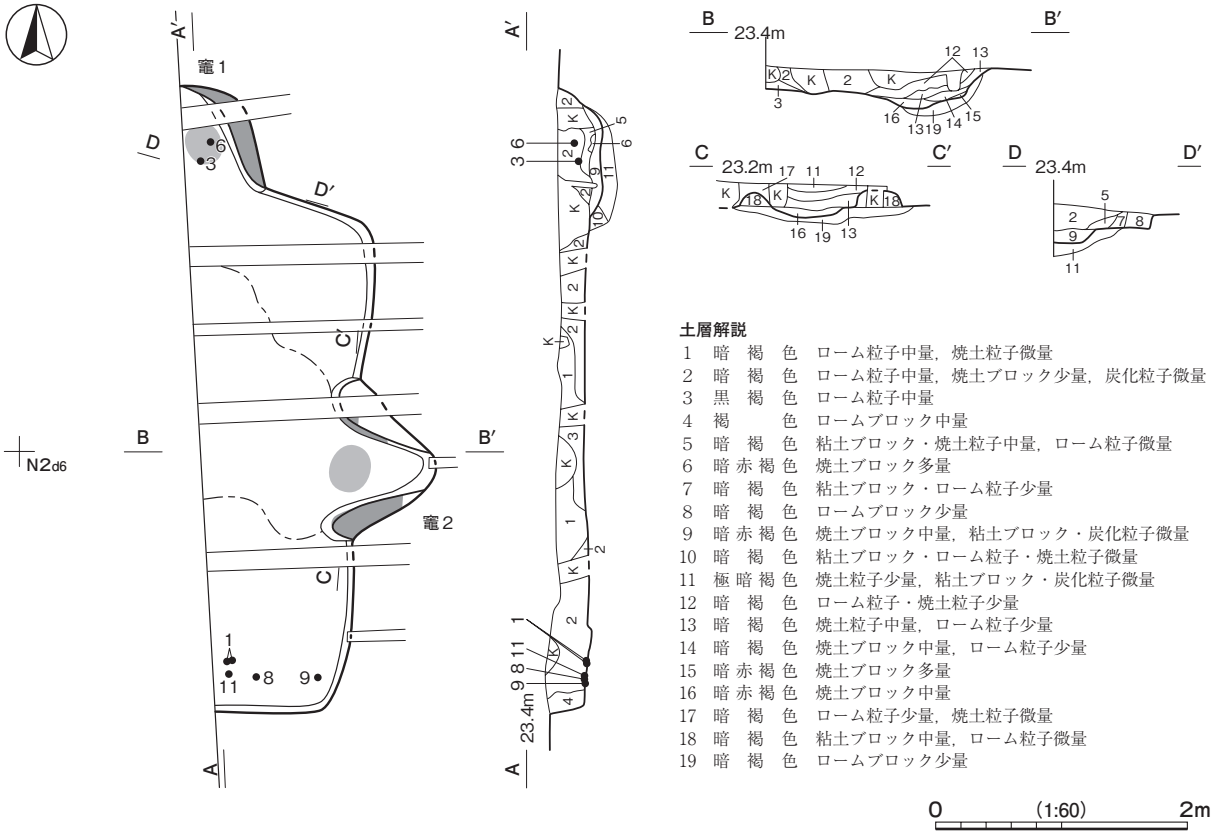
第91号竪穴建物跡（第201・202図　PL20）

位置　調査Ⅲ区西部のＮ２c6区，標高23.5ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　西部が調査区域外に延びているため，規模は南北軸が4.03ｍで，東西軸は1.43ｍしか確認できなかった。隅丸方形あるいは長方形と推定され，南北軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁は高さ24cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，竈２の前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　２か所。竈１は北壁中央部に付設されていると推定されるが，西部が調査区域外となるため，規模は不明である。煙道部は壁外に80cmほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第５～11層が竈１に関連する堆積土で，第６・９層は燃焼部の堆積土である。火床面は床面を５cmほど掘りくぼめている。袖部は確認できなかった。第10･11層が掘方への埋土である。竈２は東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmで，燃焼部幅は65cmである。煙道部は壁外に70cmほど掘り込み，緩やかに外傾している。第12～19層が竈２に関連する堆積土で，第14～16層が燃焼部の堆積土，第18層が袖部の構築土である。火床面は床面を５cm



第 201 図　第 91 号竪穴建物跡実測図

ほど掘りくぼめている。部分的で不明瞭であるが，残存状況から竈１から竈２への作り替えが想定される。

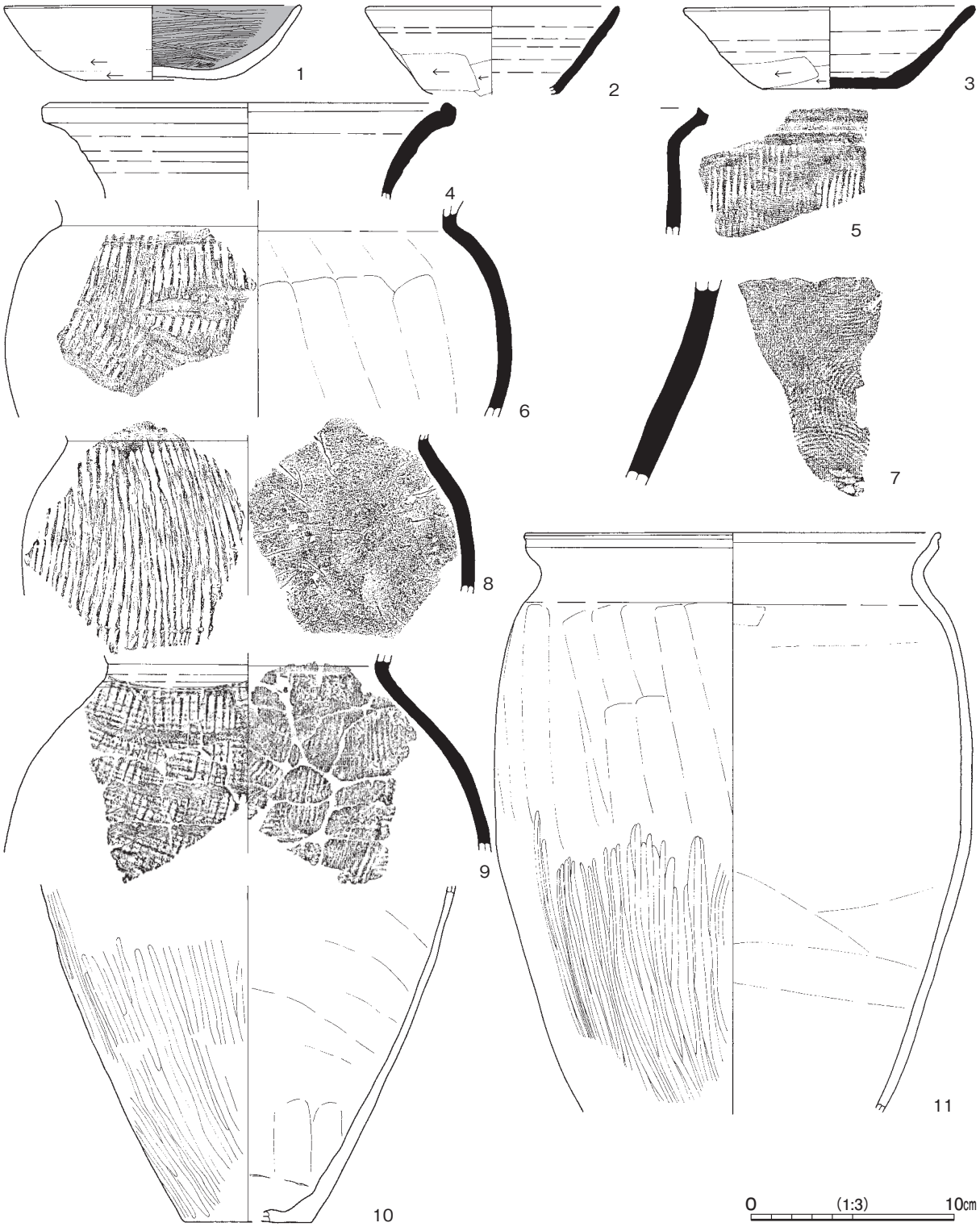
覆土　４層に分層できる。ロームブロックが多く含まれる第１・２層が広く堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 64 点（坏９，甕類 55），須恵器片 39 点（坏 15，鉢･甕･甑類 24）のほか，磁器片１点（皿）が出土している。西部が調査区域外のため，遺物は少ない。１・８・９・11 は南東コーナー部の床面から，３・６は竈１の燃焼部からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。

表 131　第 91 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 202 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坏	［14.4］	3.6	6.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理　底部ロクロナデ	２区床面 ２区 x	50% PL41
2	須恵器	坏	［12.4］	(4.3)	－	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り	１区 x ２区 x	20%新治窯
3	須恵器	坏	14.0	4.0	6.4	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ削り　酸化焔焼成	竈燃焼部 ２区 x	60%新治窯 PL41
4	須恵器	甕	［19.4］	(4.7)	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ	２区 x	５%新治窯
5	須恵器	鉢	－	(6.2)	－	長石・石英・雲母	オリーブ黒	不良	外面平行叩き　内面ナデ	２区 x	５%新治窯 PL51
6	須恵器	甕	－	(10.5)	－	長石・石英・雲母	褐	普通	外面平行叩き　内面ナデ	竈燃焼部	10%新治窯
7	須恵器	甕	－	(10.0)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面同心円文叩き　内面当て具痕	竈覆土中	５%新治窯
8	須恵器	甕	－	(7.8)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面平行叩き　内面ナデ	２区床面	５%新治窯 PL51
9	須恵器	甕	－	(9.7)	－	長石・石英	黒褐	不良	外面格子目文叩き　内面ナデ　当て具痕	２区床面	10%新治窯
10	土師器	甕	－	(16.5)	［6.3］	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部木葉痕	２区 x	10%
11	土師器	甕	［20.2］	(28.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面上半部ヘラナデ下半部ヘラ磨き　内面ヘラナデ	２区床面 ２区 x	40% PL51



第 202 図　第 91 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 92 号竪穴建物跡（第 203・204 図　PL20）

位置　調査Ⅲ区西部のＮ２a8 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

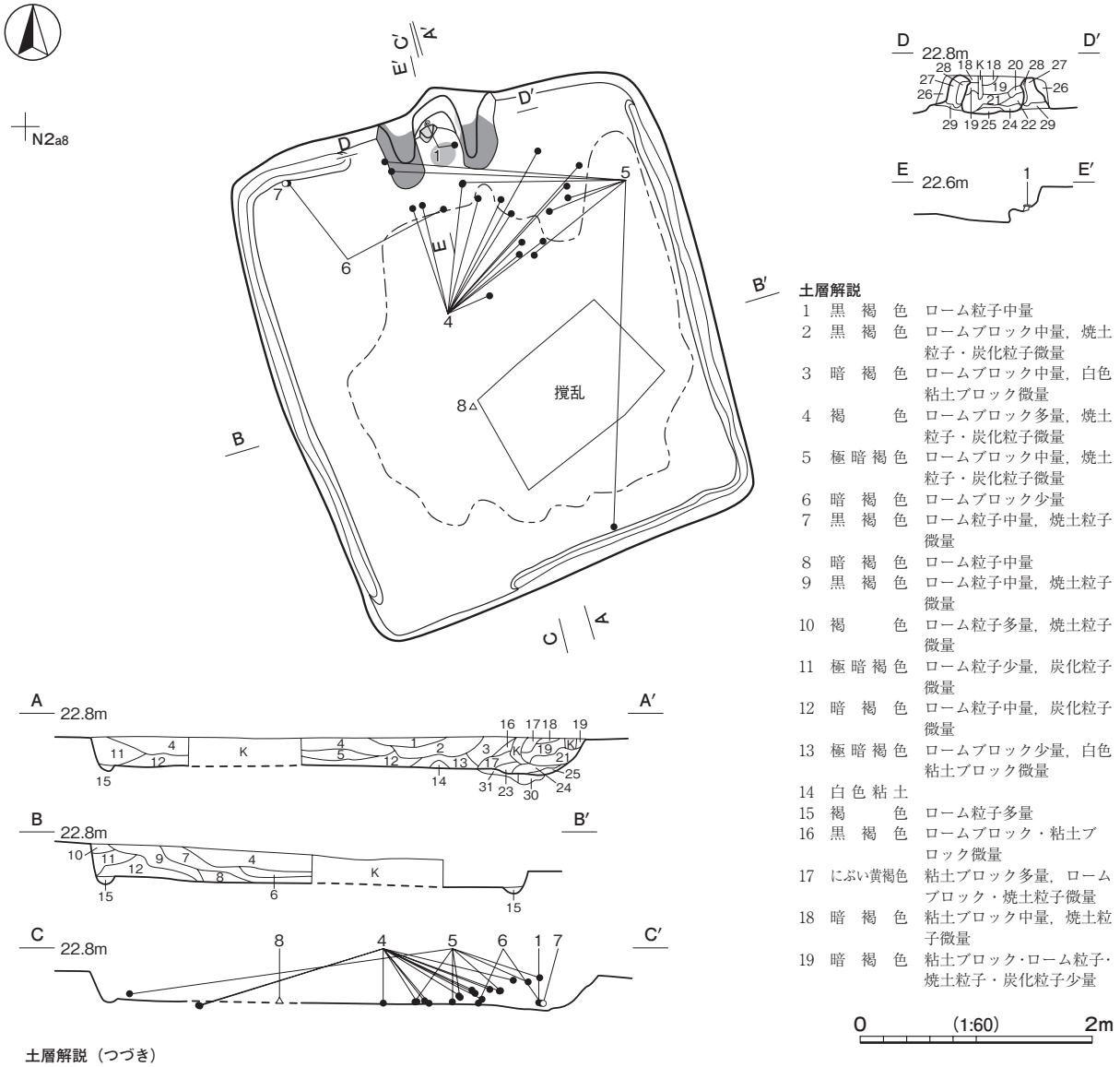
規模と形状　長軸 4.18 ｍ，短軸 3.75 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 17 °－Ｗである。壁は高さ 23 ～ 35cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北東コーナー部，南西コーナー部を除き，壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 80cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外に 20cm ほど掘り込まれ，外傾している。第 16 ～ 31 層が竈に関連する堆積土で，第 24・25 層は燃焼部の堆積土である。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。燃焼部奥壁近くが一部掘り残されており，支脚と同様の機能を有していた可能性がある。第 27 ～ 29 層が袖部の構築土で，粘土ブロックを含む第 29 層を基底とし，灰黄褐色粘土の第 27 層を積み上げて構築されている。第 30・31 層は掘方への埋土である。

覆土　15 層に分層できる。全体的に粘性のあるシルト質の土で，ロームブロックや粘土ブロックを含む土が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

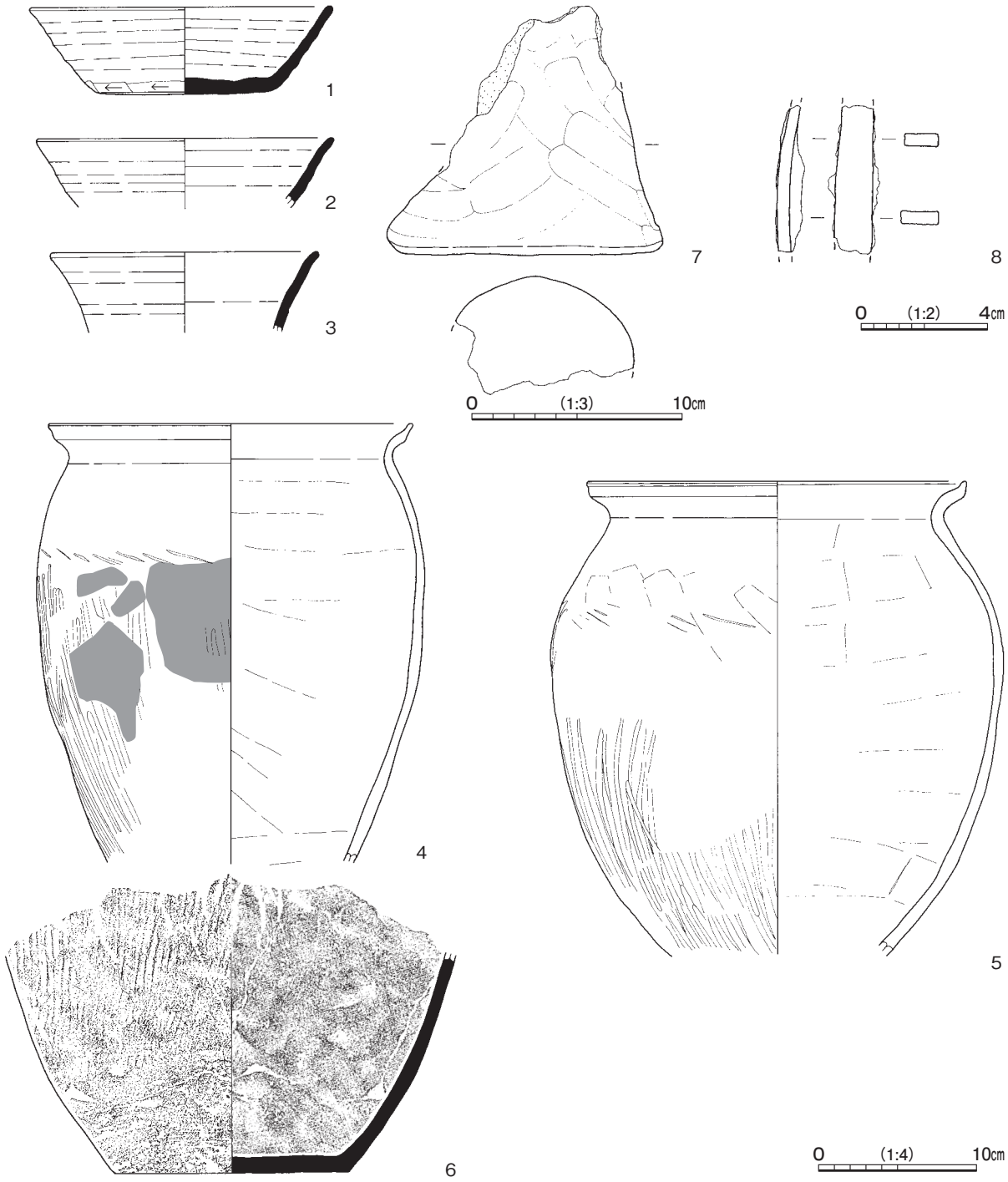
遺物出土状況　土師器片 98 点（坏 8，坩 1，高坏 4，壺･甕類 84，不明 1），須恵器片 37 点（坏 11，瓶類 1，鉢・甕・甑類 25），灰釉陶器片 1 点（皿），土製品 2 点（支脚），金属製品 1 点（器種不明），鍛冶関連遺物（鉄滓 4.1 g）のほか，瓦質土器片 1 点（器種不明），陶器片 1 点（皿），磁器片 1 点（皿）が出土している。遺物



第 203 図　第 92 号竪穴建物跡実測図

は北部からの出土が多く，特に竈前面から北東部にかけて，まとまって出土している。１は竈の燃焼部から逆位で出土しており，支脚に転用された可能性もある。４・５の土師器甕は，竈前面の床面を中心に破片が散在しており，４は竈の覆土中から出土した破片とも接合している。６・７は北西コーナー部の床面から，それぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉に比定できる。



第 204 図　第 92 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 132　第 92 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 204 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	13.9 ～ 14.2	4.1	8.4	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	竈火床面 1区１ｘ	90%新治窯 PL41

表 133　第 92 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 204 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
2	須恵器	坏	［13.6］	(3.3)	－	長石・石英・雲母	黄灰	良好	ロクロナデ	３区１ｘ	10%新治窯
3	須恵器	坏	［12.5］	(3.8)	－	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ　内面に自然釉	２区１ｘ	５％在地
4	土師器	甕	［23.4］	(27.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面上半部ヘラナデ　下半部ヘラ磨き　粘土付着　内面ヘラナデ	竈前床面　４区２ｘ　竈ｘ	60%　PL41
5	土師器	甕	［23.8］	(30.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面上半部ヘラナデ　下半部ヘラ磨き　内面ヘラナデ	竈左袖部　２区床面	30%
6	須恵器	甕	－	(14.0)	15.0	長石・石英・雲母・細礫	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面当て具痕　底部ナデ	４区床面	20%新治窯

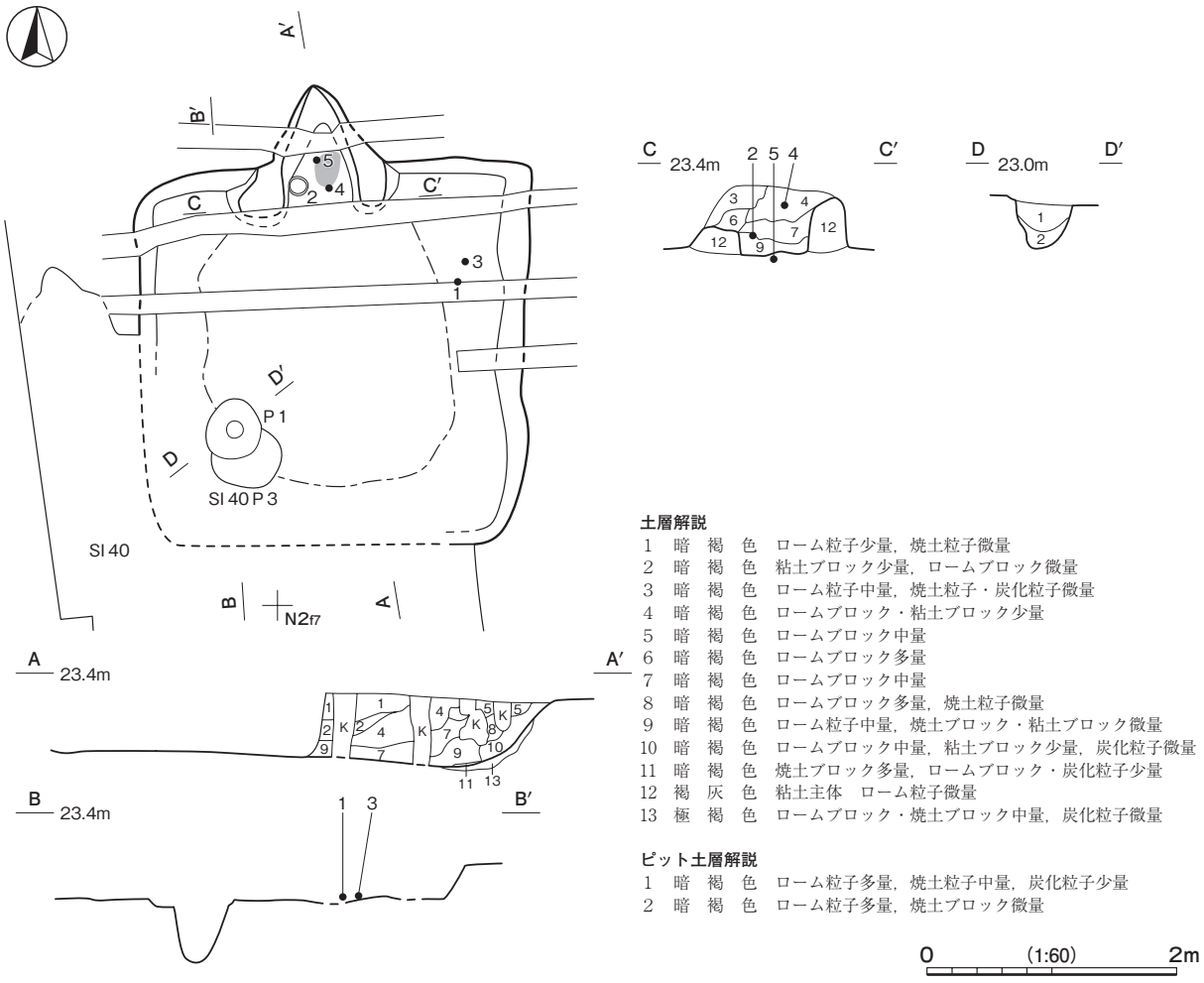
番号	器　種	最小径	最大径	長さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
7	支脚	－	(13.0)	(11.7)	539.0	長石・石英	にぶい橙	ナデ成形	４区床面	
9	支脚	－	－	(2.5)	18.06	長石・雲母	赤褐	表面の一部のみ残存	１区１ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
8	不明	(4.7)	1.0	0.4	9.30	鉄	上部がやや反る　断面長方形	３区床面	PL55

第 93 号竪穴建物跡（第 205・206 図　PL20・21）

位置　調査Ⅲ区西部のＮ３e7 区，標高 23.5 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 40 号竪穴建物に掘り込まれている。



第 205 図　第 93 号竪穴建物跡実測図

規模と形状　重複のため，東西軸 3.06 ｍで，南北軸は 3.12 ｍしか確認できなかった。隅丸方形と推定され，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁は高さ 26 ～ 42cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

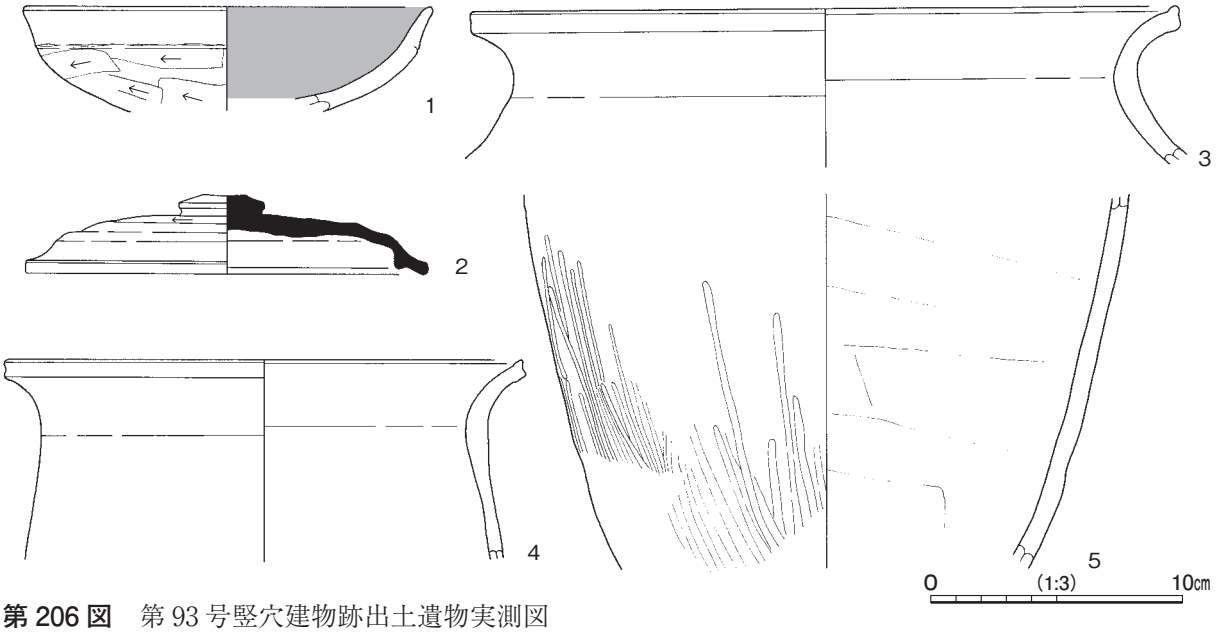
竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 100cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部は壁外に 60cm ほど掘り込まれ，外傾している。第 11 層が燃焼部の堆積土で，火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。第 12 層が袖部の構築土で，灰色粘土主体の褐灰色土を積み上げて構築されている。第 13 層は掘方への埋土である。

ピット　Ｐ１は深さ 36cm である。

覆土　重複のため，竈前面部分の一部しか確認できなかった。堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片 29 点（坏２，甕類 27），須恵器片９点（坏４，高台付坏１，蓋１，鉢・甕・甑類３）のほか，瓦質土器片１点（内耳鍋）が出土している。重複により覆土の多くが掘り込まれているため，遺物は少ない。１・３は北東コーナー部の床面から，それぞれ出土している。２は完形の須恵器の蓋で，竈の覆土下層から逆位で出土した。５は火床面から正位で出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。重複する第 40 号竪穴建物の時期比定とも矛盾しない。



第 206 図　第 93 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 134　第 93 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 206 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［16.0］	（4.1）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　黒色処理　外面も黒色処理。	１区床面	20%
2	須恵器	蓋	15.9	3.0	－	長石・石英・雲母	浅黄	普通	天井部回転ヘラ削り	竈燃焼部	100%新治窯 PL41
3	土師器	甕	［27.4］	（6.2）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	１区床面	10%
4	土師器	甕	［20.2］	（8.0）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈燃焼部 竈 x	10%
5	土師器	甕	－	（14.9）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面縦位のナデ後ヘラ磨き　内面ヘラナデ	竈火床面 竈掘方	20%

第 94 号竪穴建物跡（第 207・208 図　PL21）

位置　調査Ⅲ区中央部のＮ３d5 区，標高 21.5 ｍの台地斜面部に位置している。

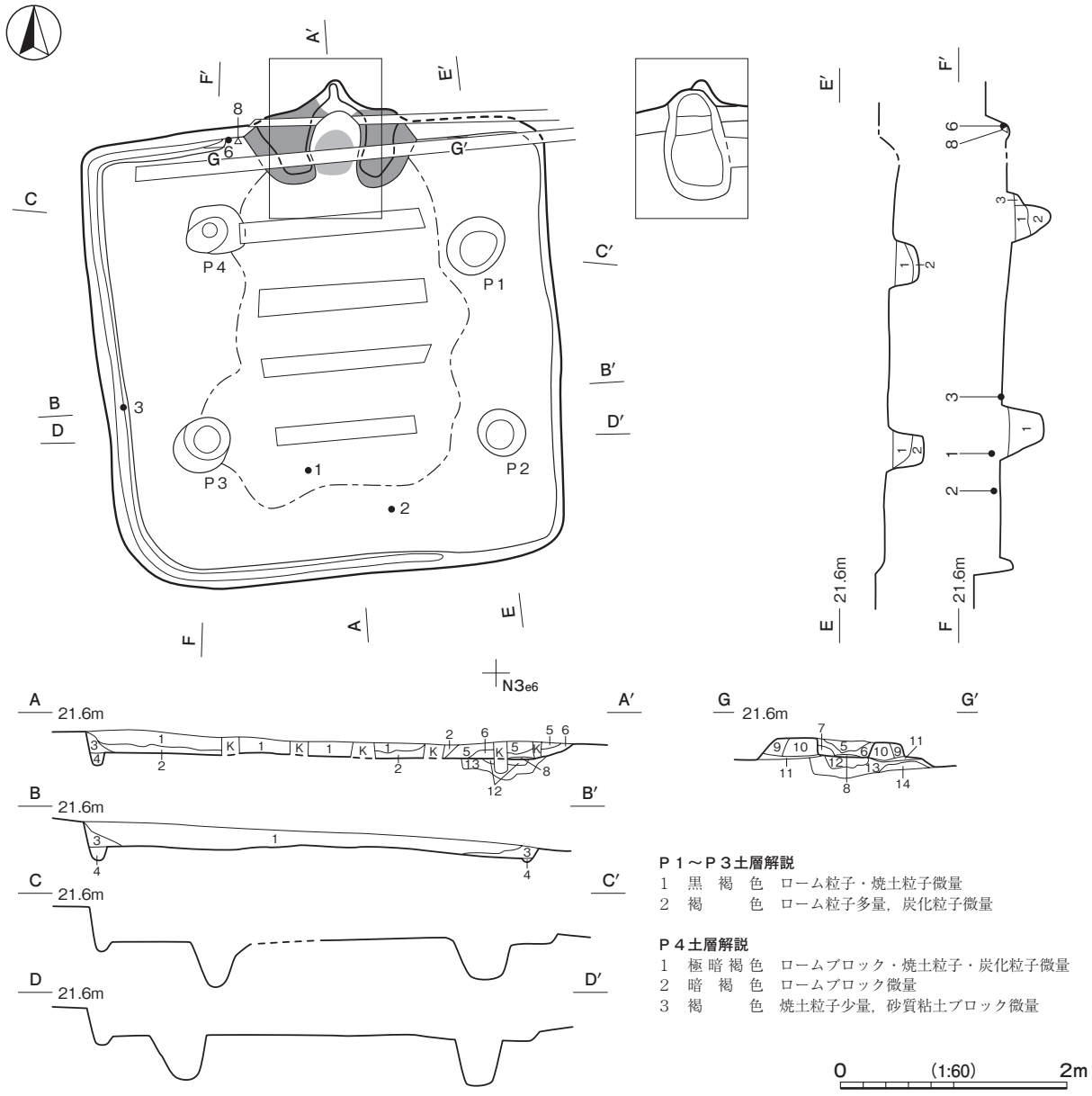
規模と形状　長軸 4.06 ｍ，短軸 3.97 ｍの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁は高さ 20 ～ 30cm で，

外傾している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北壁西部，西壁，南壁に壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，ロームブロックや焼土ブロックを含む第12～14層で埋土して構築している。規模は焚口部から煙道部まで90cmで，燃焼部幅は40cmである。煙道部は壁外に40cmほど掘り込み，緩やかに外傾している。第５～11層が竈に関連する堆積土で，第６～８層が燃焼部の堆積土である。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。第９～11層が袖部の構築土で，暗褐色土の第11層を基底部とし，砂質粘土が主体の第９・10層を積み上げて構築している。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ28～40cmで，規模と配置から主柱穴である。



Ｐ１～Ｐ３土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

Ｐ４土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　焼土粒子少量，砂質粘土ブロック微量

0　(1:60)　2m

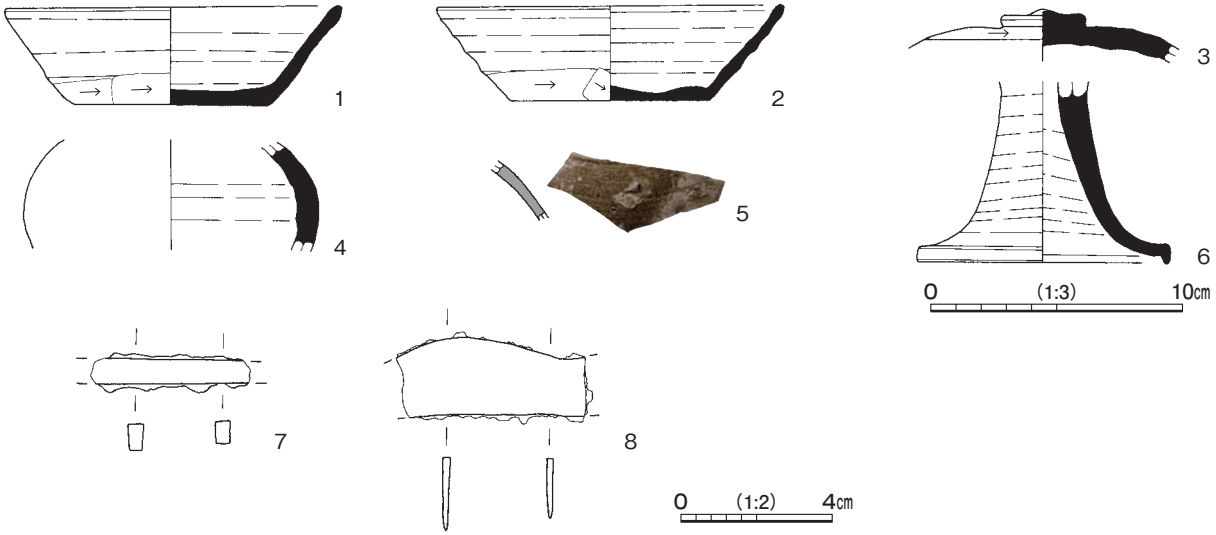
土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子多量，砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土粒子多量，砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
9　暗灰黄色　砂質粘土ブロック中量，黒色粒子少量，焼土粒子微量
10　灰　黄　色　砂質粘土主体　焼土粒子中量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
12　暗　褐　色　焼土ブロック中量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量
14　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

第207図　第94号竪穴建物跡実測図

覆土　４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 189 点（坏 33，甕類 156），須恵器片 70 点（坏 47，高台付坏１，蓋 12，高盤１，鉢・甕・甑類９），灰釉陶器片１点（瓶類），金属製品２点（刀子，鎌），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 73.6 ｇ）が出土している。遺物は全体からまんべんなく出土しており，集中するような場所は見られない。１・２は南部の覆土下層から床面にかけて，それぞれ出土している。６は竈西側の北壁に食い込むように出土した。３・８は西壁と北壁際の壁溝中から，それぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。



第 208 図　第 94 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 135　第 94 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 208 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	13.2	3.9	7.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ切り後一方向のヘラ削り	３区床面	95％新治窯 PL41
2	須恵器	坏	［13.6］	3.7	7.8	長石・石英・雲母・黒色湧出物	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ切り後一方向のヘラ削り	２区下層 ２区１ｘ ３区１ｘ	35％ 堀之内窯〃
3	須恵器	蓋	－	(1.8)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	３区床面	30％新治窯
4	須恵器	瓶類	－	(4.5)	－	長石	黄灰	普通	ロクロナデ　外面に自然釉	３区１ｘ	10％在地〃
5	灰釉陶器	瓶類	－	(2.3)	－	長石	灰黄褐	普通	外面に灰釉	２区１ｘ ３区１ｘ	10％猿投窯〃
6	須恵器	高盤	－	(7.1)	9.85	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	ロクロナデ	４区壁溝内	30％新治窯 PL41

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
7	刀子	(4.2)	0.7	0.4	7.26	鉄	茎部分　両端部欠損　断面長方形	４区１ｘ	PL55
8	鎌	(4.9)	1.6 ～ 2.1	0.2	8.15	鉄	刃部　先端部・基部とも欠損	４区床面	PL55

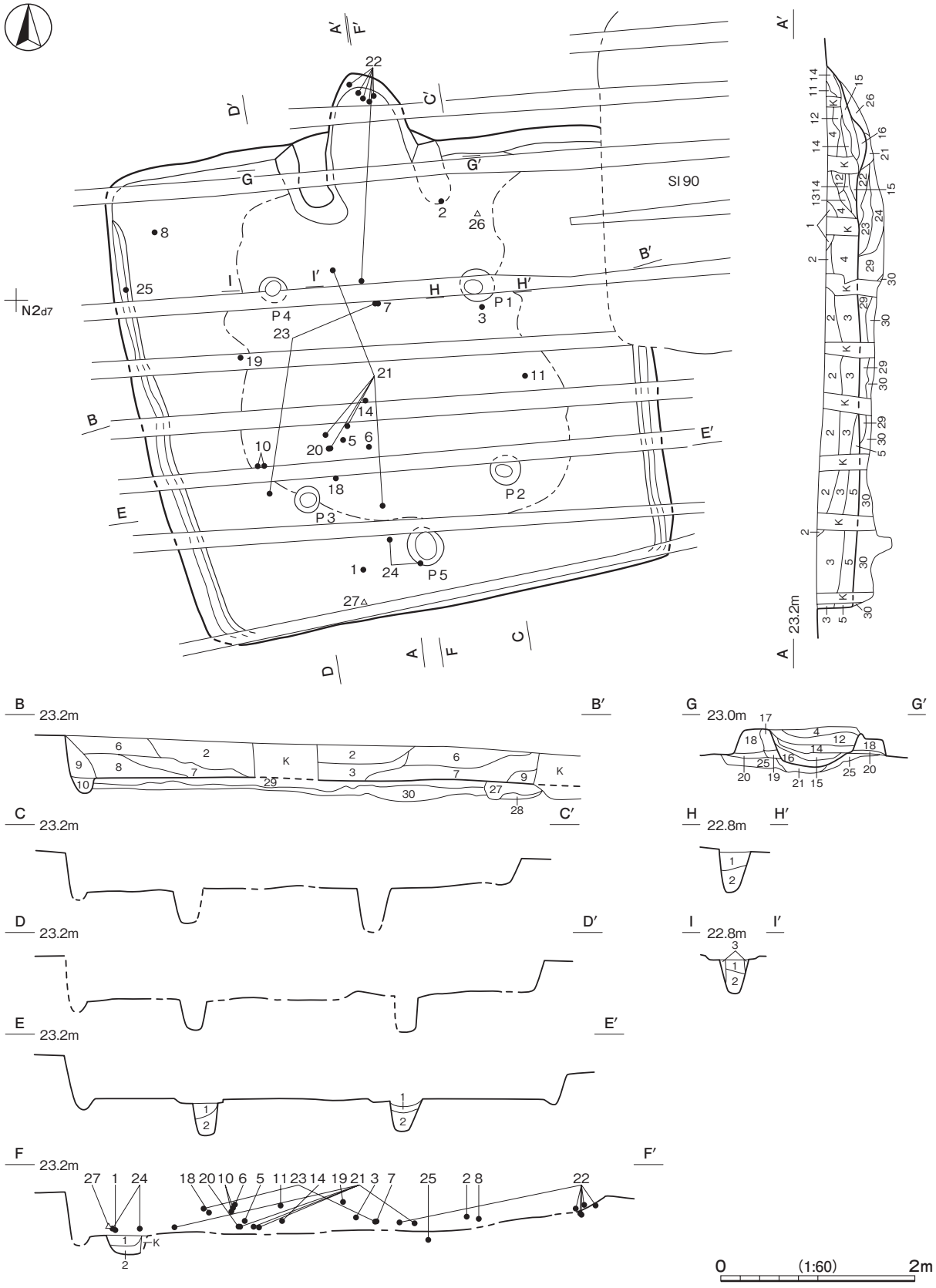
第 95 号竪穴建物跡（第 209 ～ 211 図　PL21）

位置　調査Ⅲ区西部のＮ２d7 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 90 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.93 ｍ，短軸 4.84 ｍの方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｗである。壁は高さ 25 ～ 47cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。北壁を除き壁溝が巡っている。南壁の壁溝は撹乱のため確認できなかった。



P１・P４・P５土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

P２・P３土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量

第 209 図　第 95 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子少量
2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ロームブロック･焼土ブロック･炭化物中量，粘土ブロック少量
5 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
6 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
7 黒 褐 色 ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
8 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量
9 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
10 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11 褐 色 粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子微量
12 暗 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
13 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
14 暗 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，粘土ブロック微量
15 暗 褐 色 ローム粒子中量
16 極暗赤褐色 ロームブロック多量
17 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
18 にぶい黄褐色 粘土ブロック主体 焼土粒子・炭化粒子微量
19 暗 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
20 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
21 褐 色 ロームブロック中量
22 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック中量
23 暗 褐 色 ロームブロック中量，粘土ブロック少量
24 褐 色 ロームブロック中量，粘土ブロック微量
25 褐 灰 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子中量
26 暗 褐 色 ロームブロック少量
27 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子微量
28 褐 色 ロームブロック中量
29 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック多量
30 褐 色 ロームブロック多量

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで150cmで，燃焼部幅は80cmである。煙道部は壁外に60cmほど掘り込み，緩やかに外傾している。第11～26層が竈に関連する堆積土である。第16層が燃焼部の堆積土で，火床面は床面を10cmほど掘りくぼめている。第17～20層が袖部の構築土で，褐色土の第19・20層を基底部とし，粘土が主体の第18層を積み上げて構築している。第21～26層は掘方への埋土である。

ピット ５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ34～46cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ18cmで，配置から出入口施設に伴うピットである。

覆土 10層に分層できる。下層にロームブロックや焼土ブロックを多く含む層が不整合に堆積することから，埋め戻されている。第27～30層は掘方への埋土である。

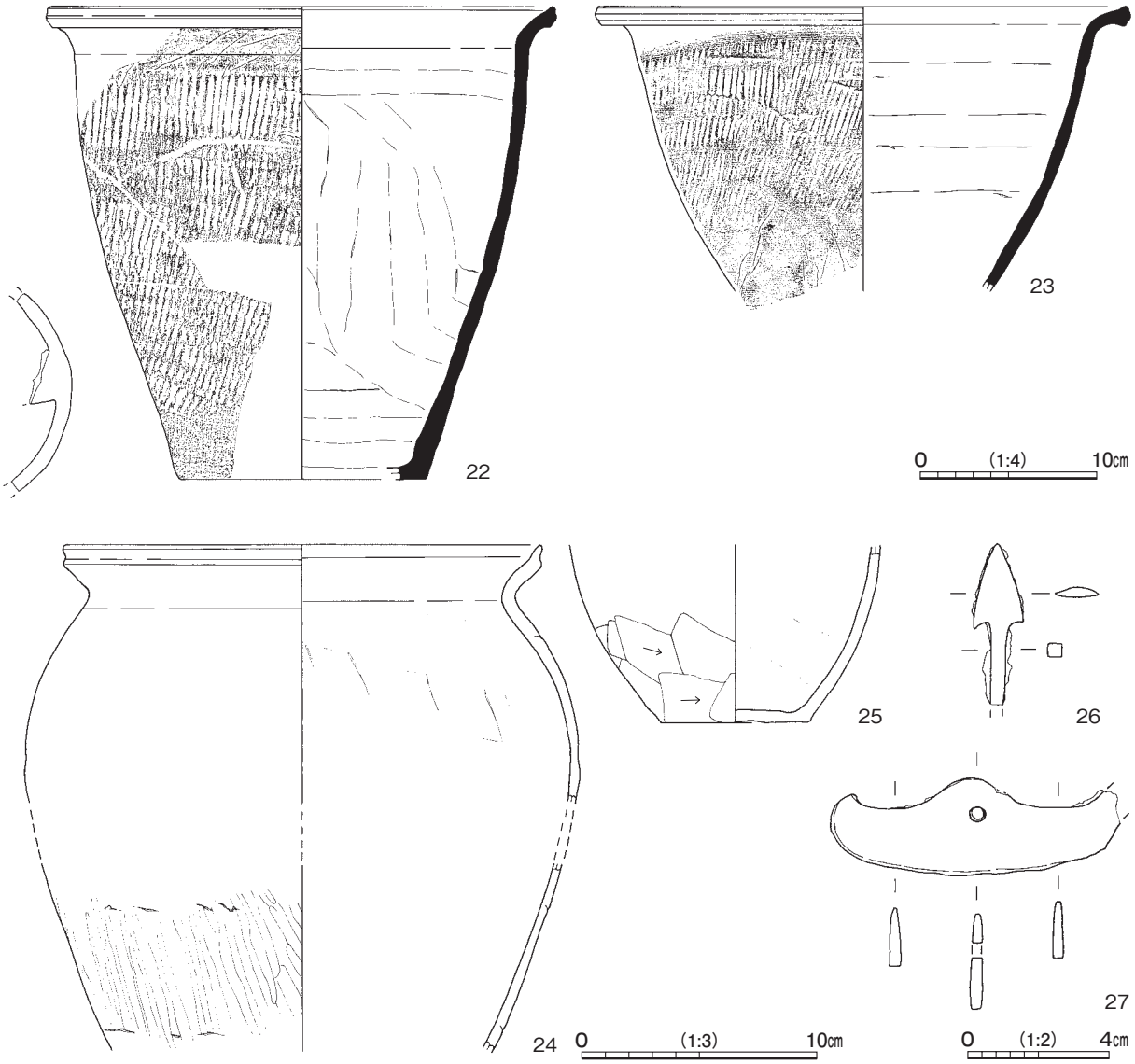
遺物出土状況 土師器片512点（坏19，椀１，坩４，高坏３，壺・甕類485），須恵器片342点（坏152，高台付坏６，双耳坏１，蓋15，高坏１，盤３，瓶類４，鉢・甕・甑類159，不明１），灰釉陶器片４点（瓶類），金属製品２点（鉄鏃，火打金），焼成粘土塊12.3ｇのほか，陶器片２点（鉢，擂鉢）が出土している。遺物は全体からまんべんなく出土しているが，特に南西部の覆土下層に多い。比較的残りの良い２・３は北東部の覆土下層から，５は南西部の覆土下層から，11は南東部の覆土中層から，それぞれ出土している。５は内底面が研磨され，朱痕が確認でき，硯に転用されたものと考えられる。７は小片であるが，双耳坏の耳部分で，北西部の覆土下層から出土している。22は竈の煙道部から，大きく５片に分割して出土した。13・14は灰釉陶器で，猿投産の黒笹14号窯式から黒笹90号窯式にかけてのものである。

所見 時期は，出土土器から９世紀前葉に比定できる。重複する第90号竪穴建物跡とは，出土土器からは大きな時間差が捉えられず，比較的短期間に建て替えがなされたものと考えられる。

表136 第95号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第210図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	須恵器	坏	[13.0]	4.4	[7.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	３区下層	30%新治窯
2	須恵器	坏	[13.8]	4.0	[6.8]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	１区下層 １区 1.2 ｘ	40%新治窯 PL41
3	須恵器	坏	12.4	4.2	6.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	１区下層 ２区 1.2 ｘ	60%新治窯 PL41
4	須恵器	坏	[13.5]	4.1	3.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	１区３ｘ ２区２ｘ	30%新治窯
5	須恵器	坏	[11.8]	3.7	5.6	長石・石英・細礫	灰	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内底面研磨 硯に転用 朱墨付着	３区下層	40%非在地
6	須恵器	高台付坏	[13.8]	5.7	[9.2]	長石	にぶい黄橙	良好	ロクロナデ	３区中層	10%新治窯
7	須恵器	双耳坏	－	(3.6)	－	長石・石英	褐灰	良好	耳部分	４区下層	５%三和窯ヵ PL51
8	須恵器	坏	[13.2]	3.7	[6.2]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 内底面に墨書	４区下層	30%新治窯 PL51
9	須恵器	坏	－	(2.5)	6.4	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り 墨書「禾」	２区 2.3 ｘ	30%新治窯 PL51

第 210 図　第 95 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 211 図　第 95 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

表 137　第 95 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 210・211 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	須恵器	鉢	[22.8]	(7.2)	−	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	ロクロナデ　酸化焔焼成	３区中層	５％新治窯
11	須恵器	蓋	−	(1.8)	−	長石・石英・雲母	浅黄	普通	天井部回転ヘラ削り	２区中層	50％新治窯
12	須恵器	盤	[15.0]	(1.7)	−	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ	竈ｘ	５％新治窯
13	灰釉陶器	瓶類	−	(5.0)	−	長石・黒色粒子	灰白	良好	ロクロナデ　外面施釉	１区２ｘ	５％猿投窯
14	灰釉陶器	長頸瓶	[8.2]	(4.5)	−	長石・石英	にぶい黄褐	普通	ロクロナデ	３区下層	10％猿投葉 PL51
15	須恵器	短頸壺	[8.2]	(3.1)	−	長石・黒色粒子	灰黄	良好	ロクロナデ	１区２ｘ	５％東海系
16	須恵器	瓶類	−	(5.6)	−	長石・石英・黒色湧出物	灰白	普通	ロクロナデ　外面に自然釉	１区１ｘ ２区１ｘ	５％非在地ヵ
17	須恵器	長頸瓶	−	(5.7)	−	長石・石英・黒色湧出物	灰	普通	ロクロナデ　外面に自然釉	２区１ｘ	10％堀之内窯ヵ
18	須恵器	甕	[20.8]	(5.6)	−	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き　内面ナデ	３区中層	５％新治窯
19	須恵器	甕	[24.0]	(8.3)	−	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	口縁部ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き　内面ナデ	４区上層	５％新治窯
20	須恵器	甕	−	(6.9)	−	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面縦位の平行叩き　内面当て具痕　酸化焔焼成	３区下層	５％新治窯
21	須恵器	甕	−	(13.2)	−	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面縦位の平行叩き　内面当て具痕	３区下層 ４区下層	40％新治窯 PL42
22	須恵器	甑	[28.6]	26.8	[14.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈煙道部 ２区３ｘ ３区２ｘ	20％新治窯 PL42
23	須恵器	鉢	[30.0]	(16.2)	−	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ	３区中層 ４区下層	20％新治窯

表 138　第 95 号竪穴建物跡出土遺物観察表（３）（第 211 図）

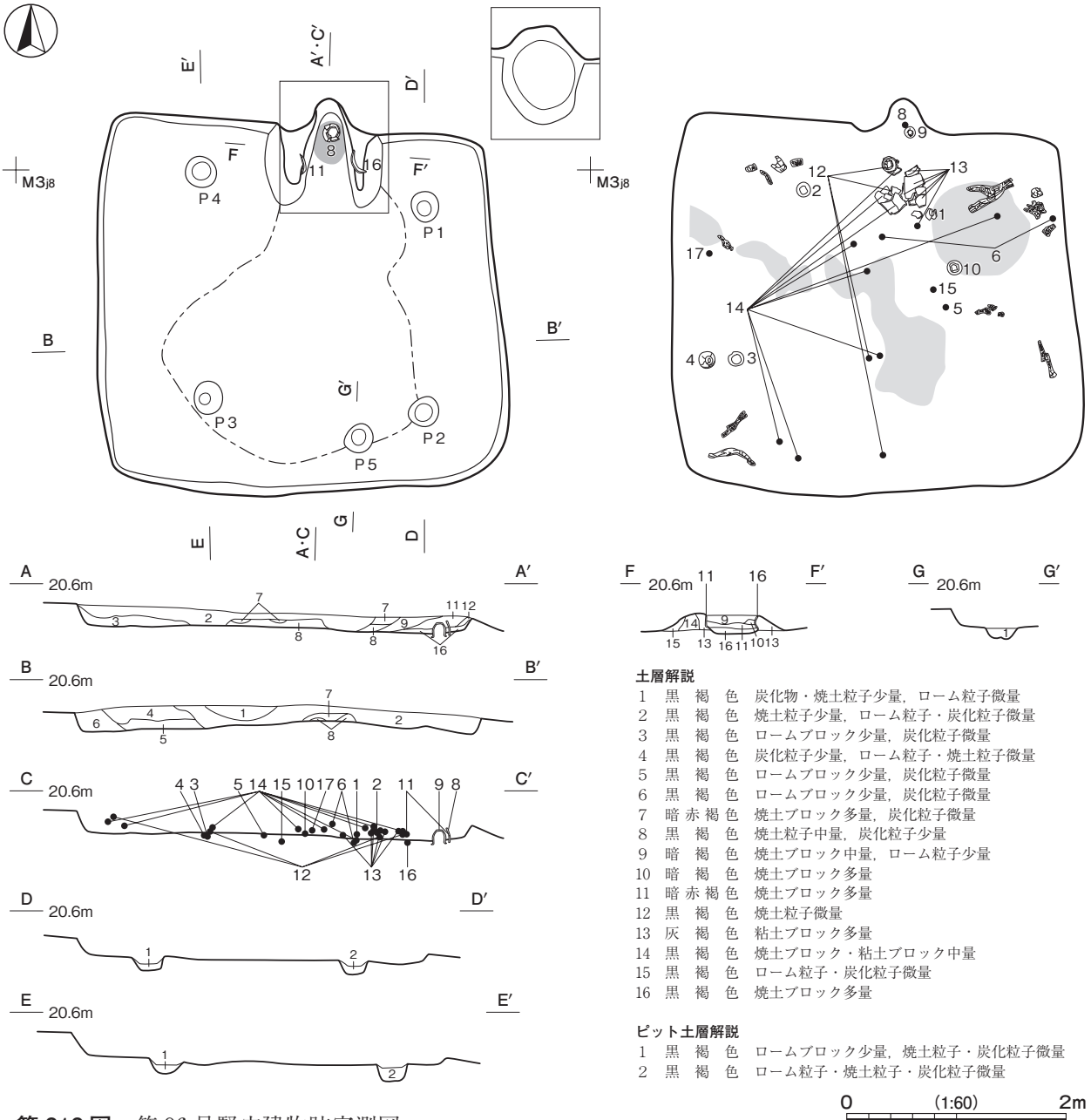
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
24	土師器	甕	［20.0］	［21.5］	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半ヘラ磨き　内面ヘラナデ	３区下層	10%
25	土師器	甕	－	（7.5）	6.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面ヘラナデ　下端ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部木葉痕　内面煤付着	４区壁溝	30% PL42

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
26	鉄鏃	（4.6）	（1.4）	0.3 ～ 0.4	4.41	鉄	鏃身部～頸部分　頭部長三角形　断面片丸造〃	１区	PL55
27	火打金	（8.2）	2.8	0.1 ～ 0.3	20.03	鉄	ほぼ完形	３区下層	PL55

第 96 号竪穴建物跡（第 212 ～ 214 図　PL21・22）

位置　調査Ⅲ区中央部のＭ３j8 区，標高 20.5 ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 3.64 ｍ，短軸 3.35 ｍの方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｗである。壁は高さ５～ 17cm で，外



土層解説
1　黒　褐　色　炭化物・焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
9　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
10　暗　褐　色　焼土ブロック多量
11　暗赤褐色　焼土ブロック多量
12　黒　褐　色　焼土粒子微量
13　灰　褐　色　粘土ブロック多量
14　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック中量
15　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
16　黒　褐　色　焼土ブロック多量

ピット土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

0　(1:60)　2m

第 212 図　第 96 号竪穴建物跡実測図

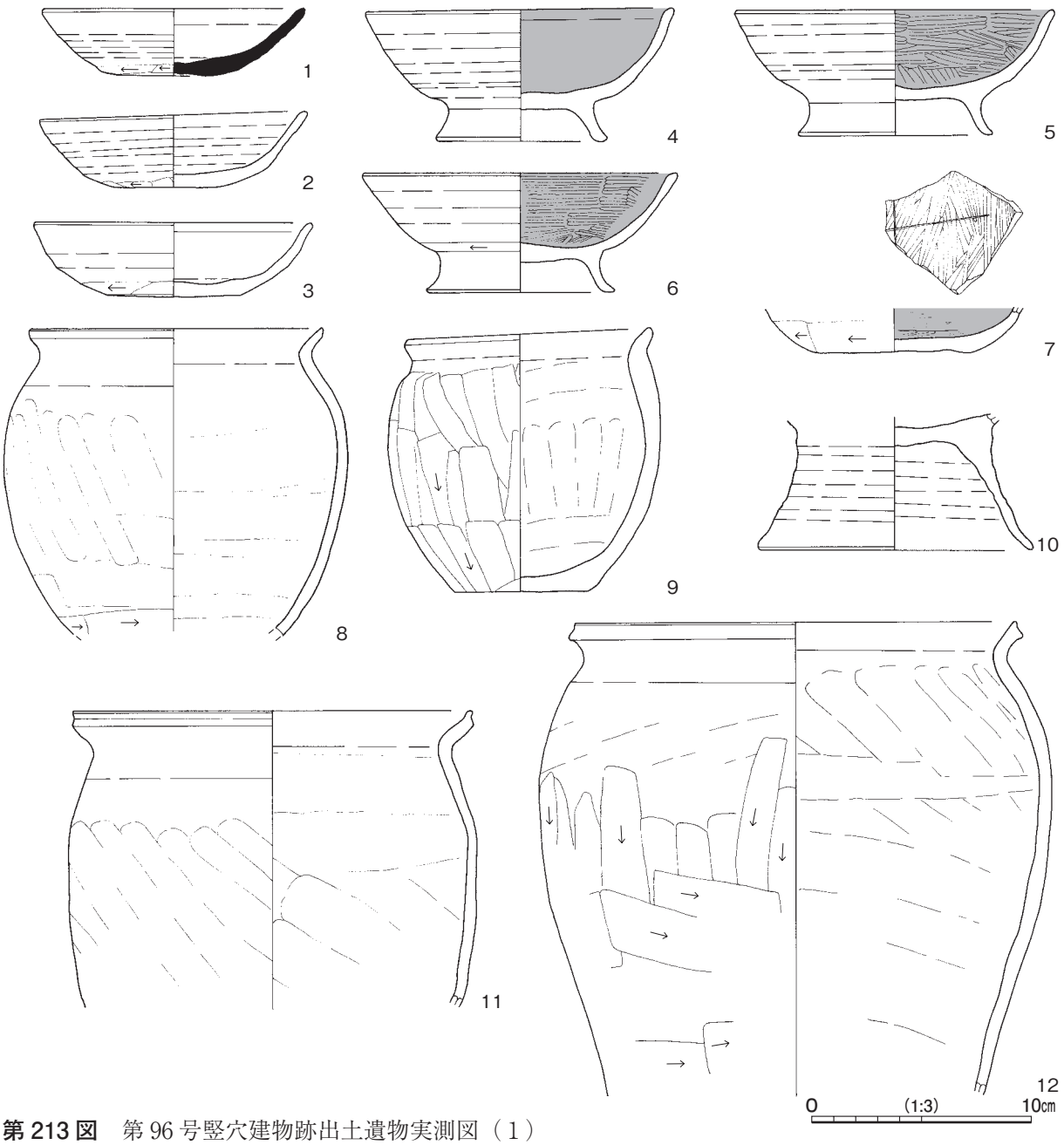
傾している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部からやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 100cm で，燃焼部幅は 40cm である。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ，外傾している。第９～ 16 層が竈に関連する堆積土である。第 10・11・16 層が燃焼部の堆積土で，火床面は床面を５cm ほど掘りくぼめている。煙道部に近い火床面に，土師器の甕８・９が逆位で置かれており，支脚として転用されている。第 13 ～ 15 層が袖部の構築土で，11・16 の土師器甕片を補強材とし，粘土ブロックが含まれる第 13・14 層を積み上げて構築されている。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 14 ～ 16cm で，深さはないものの配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 10cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。

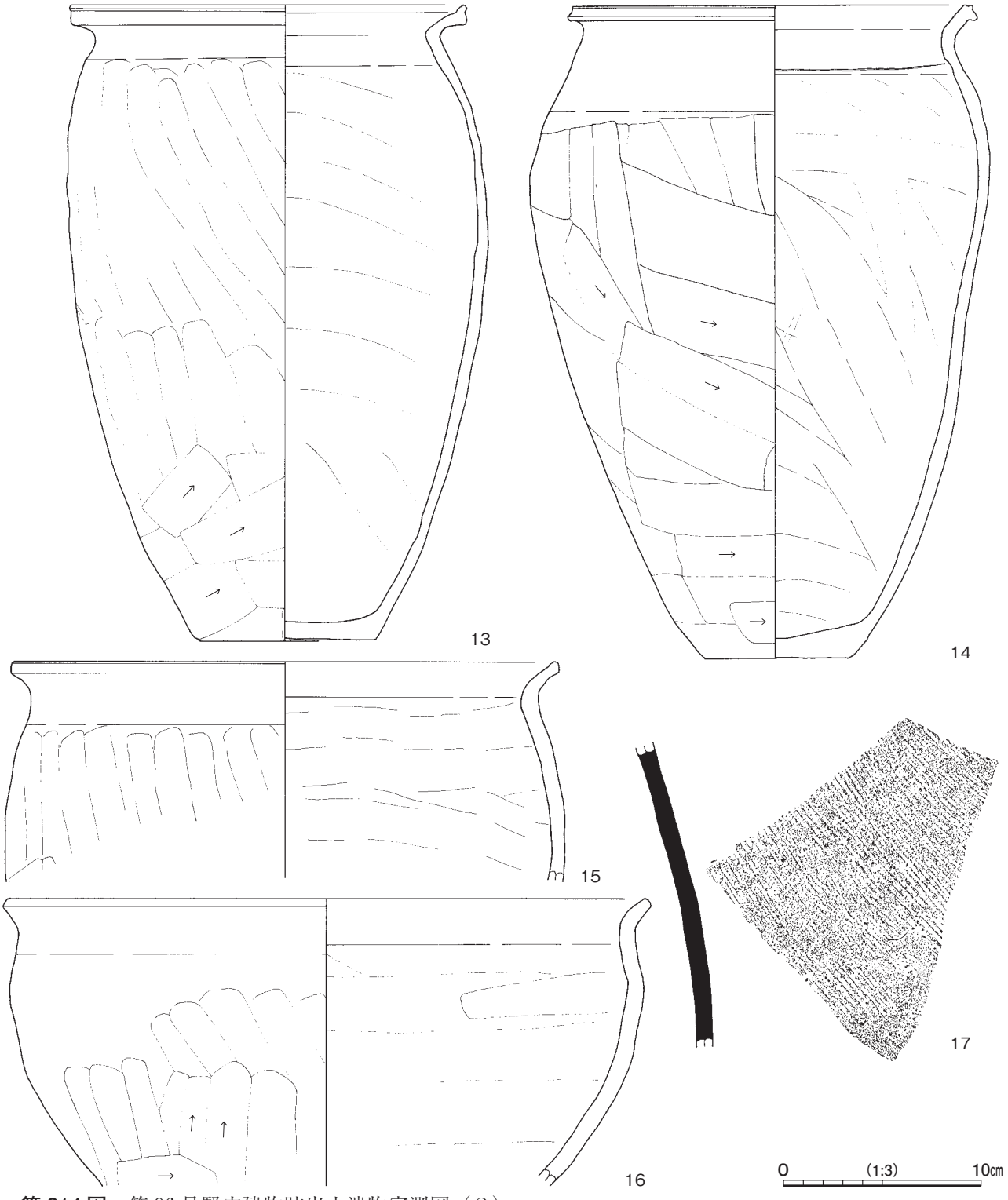
覆土　９層に分層できる。第７～９層は焼土や炭化物が含まれる層で，焼失時に形成されたものと考えられる。



第 213 図　第 96 号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）

これより上位の堆積土中には焼土や炭化物の含有は少ないが，やや不規則な堆積状況，及び焼土や遺物の残存状況などから埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 153 点（坏 22，高台付坏 5，甕･甑類 126），須恵器片 6 点（坏 1，高台付坏 1，鉢･甕･甑類 4），鍛冶関連遺物（椀状滓 14.5 g，流動滓 310.8 g，鉄塊系遺物 158.5 g，鉄滓 152.3 g）が出土している。遺物は北部からが多く，特に 12 ～ 14 の土師器甕が竈焚口部付近からまとまって出土している。3 ・ 4 は南西部の床面近くから，10 は北東部の床面から，それぞれ出土している。11 の土師器甕片は，竈の左袖部の補強



第 214 図　第 96 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）

材として，16の土師器甕片は竈右袖部の補強材として再利用されている。８と９の土師器甕は，逆位にした９に８を重ねて火床面に置かれており，支脚に転用されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉に比定できる。床面から焼土や炭化材が出土していることから，本跡は焼失住居と考えられる。

表139　第96号竪穴建物跡出土遺物観察表（第213・214図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	［12.0］	3.0	5.9	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り　酸化焔焼成	竈焚口部	50％新治窯
2	土師器	坏	12.0	3.4	4.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	４区床面	100％ PL42
3	土師器	坏	12.3	3.4	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区下層	95％ PL42
4	土師器	高台付坏	［13.8］	6.0	7.4	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	ロクロナデ　内面黒色処理	３区下層	90％ PL42
5	土師器	高台付坏	［14.4］	5.7	［8.6］	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ　内面ヘラ磨き　黒色処理	１区床面	70％ PL42
6	土師器	高台付坏	［14.0］	5.4	8.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理	１区床面	30％
7	土師器	坏	－	（2.0）	［7.0］	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　刻書有　黒色処理	竈ｘ	10％
8	土師器	甕	［13.2］	（13.9）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈火床面	40％ PL42
9	土師器	小型甕	11.0	12.0	3.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈火床面	100％
10	土師器	高台付椀	－	（6.4）	12.2	長石・石英	黒褐	普通	脚部　ロクロナデ	１区床面	40％ PL42
11	土師器	甕	［18.0］	（13.4）	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	竈左袖部	10％
12	土師器	甕	［19.8］	（21.5）	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈焚口部 ２区床面	15％
13	土師器	甕	19.7	31.2	［9.1］	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面上半部ヘラナデ下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ	１区床面	70％ PL42
14	土師器	甕	［19.6］	32.8	7.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ　底部ヘラ削り	竈焚口部 ３区床面 １～３区ｘ 竈ｘ	60％ PL42
15	土師器	甕	［27.6］	（11.1）	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	１区床面	10％
16	土師器	甕	［32.0］	（14.5）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラナデ　下半ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈右袖部 竈ｘ	30％
17	須恵器	甕	－	（15.5）	－	長石・石英	黒褐	良好	外面斜位の平行叩き　内面当て具痕	４区床面	５％堀之内窯ヵ

第97号竪穴建物跡（第215図　PL22）

位置　調査Ⅲ区東部のＭ３i9区，標高20.5ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸3.48ｍ，短軸3.25ｍの方形で，主軸方向はＮ－11°－Ｗである。壁は高さ12～22cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央からやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cmで，燃焼部幅は35cmである。煙道部は壁外に15cmほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第５～12層が竈に関連する堆積土で，第11・12層は袖部の構築土である。粘土ブロックを多く含む灰褐色土を積み上げて構築されている。火床面は床面を５cmほど掘りくぼめている。

貯蔵穴　北東コーナー部に付設されている。長径69cm，短径65cmの円形で，深さは25cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。覆土の第１層に焼土ブロックや粘土ブロックがやや多く含まれており，埋め戻されている。

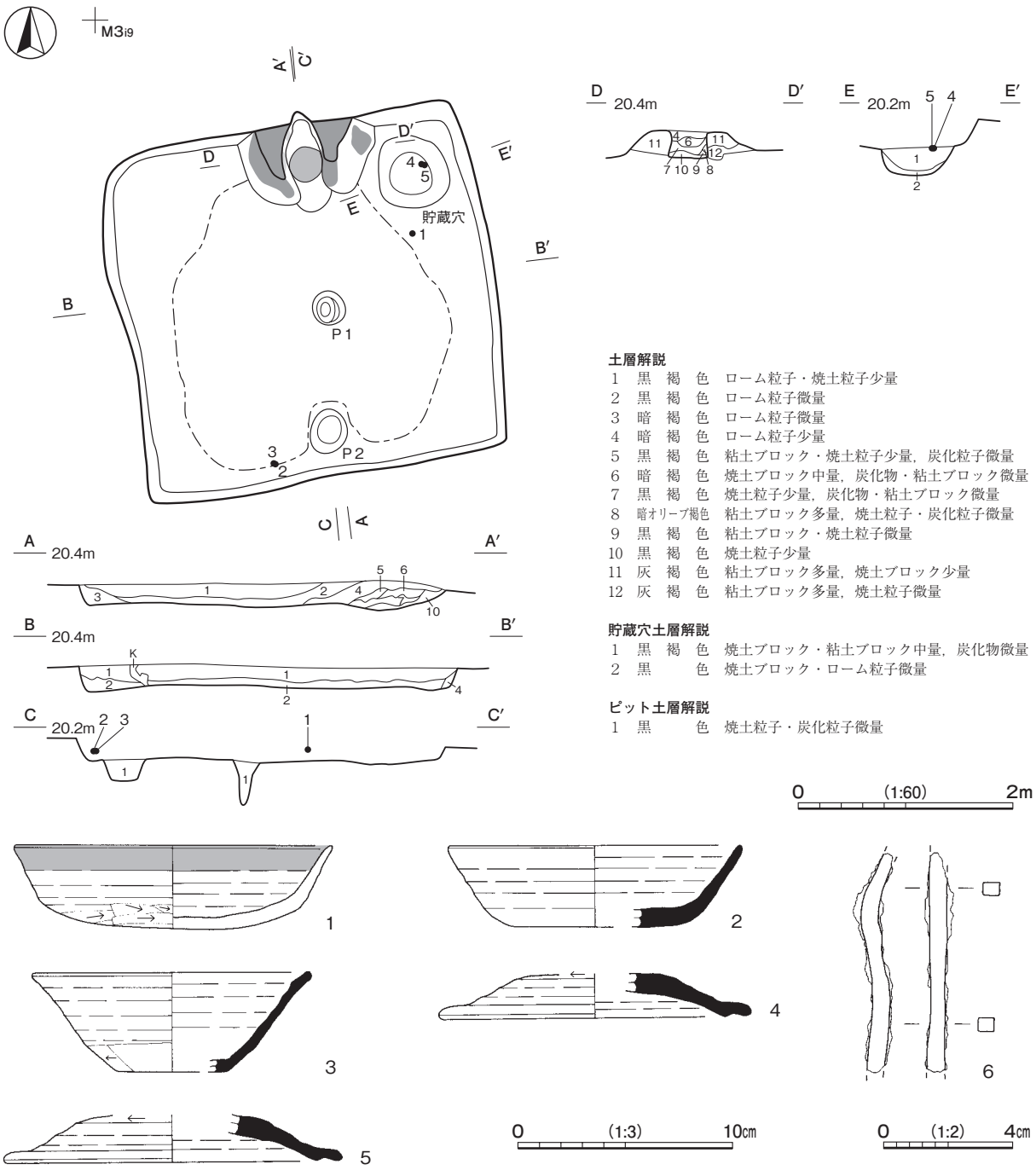
ピット　２か所。Ｐ１は深さ43cmで，中央部に位置するが，規模から上屋を保持するピットと考えられる。Ｐ２は深さ22cmで，配置から出入口施設に伴うピットである。

覆土　４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片33点（坏７，坩１，高坏２，甕類23），須恵器片５点（坏３，蓋２），金属製品１点（鉄

鏃），鍛冶関連遺物（椀状滓 10.8 g，流動滓 124.9 g，鉄塊系遺物 42.4 g，鉄滓 35.4 g）のほか，縄文土器片４点が出土している。全体的に遺物は少ない。２・３は南壁際の覆土下層から，１は北東部の覆土下層から，それぞれ出土している。４・５は貯蔵穴上面の床面付近で出土している。

所見　出土している遺物は，１・２・４・５が８世紀前葉，３が９世紀中葉の２時期がある。遺物は前者が多く，遺物の残存状況や遺構の規模や形状から，８世紀前葉と考えたい。



第 215 図　第 97 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 140　第 97 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 215 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
6	鉄鏃	(6.8)	0.5	0.4	6.63	鉄	全体的に彎曲　断面方形	1 区 x	PL55

表 141　第 97 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 215 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［14.6］	3.8	－	長石・石英	赤褐	普通	ロクロナデ　底部手持ちヘラ削り　口縁部外面・内面黒色処理	１区下層 ２区 x	60% PL42
2	須恵器	坏	［13.4］	3.8	［8.2］	長石・石英・雲母	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り	３区下層	30%新治窯 PL42
3	須恵器	坏	［12.8］	4.6	［5.2］	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	３区下層	20%新治窯
4	須恵器	蓋	［14.2］	（2.0）	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	天井回転ヘラ削り	貯蔵穴上面	20%新治窯
5	須恵器	蓋	［15.4］	（2.2）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り	貯蔵穴上面	15%新治窯

第 98 号竪穴建物跡（第 216 ～ 218 図　PL22）

位置　調査Ⅲ区西部のＮ２a0 区，標高 22.5 ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 6.15 ｍ，短軸 6.09 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 17 °－Ｗである。壁は高さ５～ 36cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。掘方はコーナー部が土坑状に掘り込まれている。壁溝が全周している。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，ロームブロックや焼土粒子を含む第 15 ～ 18 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 110cm で，燃焼部幅は 60cm である。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第６～８層が燃焼部の堆積土で，火床部は床面を５cm ほど掘りくぼめている。第 12 ～ 14・19 層が袖部の構築土で，ロームブロックを多量に含む第 19 層を基底部とし，粘土ブロックを多く含む第 12 ～ 14 層を積み上げて構築されている。竈右袖前面に焼土が径１ｍの範囲で，厚さ約 20cm で散布している。

ピット　16 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 44 ～ 82cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ 10 は深さ 27cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ１はＰ９と重複し，Ｐ２～Ｐ４にも内側に隣接してＰ５～Ｐ８があり，柱の建て替えが想定できる。Ｐ 11 ～Ｐ 16 は掘方の調査時に確認したピットである。

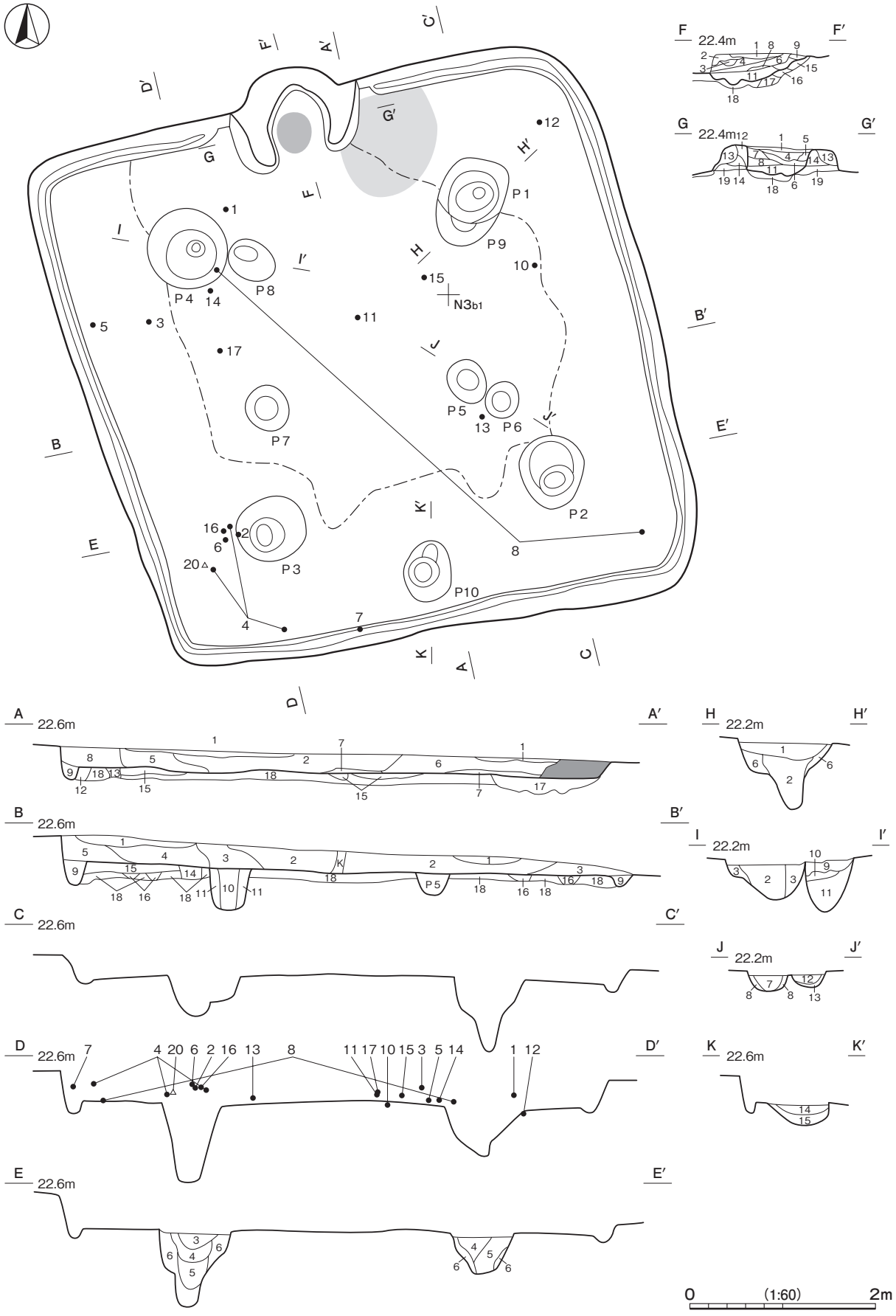
覆土　９層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。第 10・11 層はＰ７の覆土，第 12 ～ 18 層が掘方への埋土である。

遺物出土状況　土師器片 1,153 点（坏 226，椀４，坩２，高坏 10，甕･甑類 735，不明 176），須恵器片 219 点（坏 108，蓋 76，瓶類３，鉢・甕・甑類 32），土製品３点（支脚２，転用砥石１），鉄製品２点（刀子，不明），鍛冶関連遺物（流動滓 44.0 ｇ，鉄塊系遺物 48.9 ｇ），焼成粘土塊 26.6 ｇのほか，剥片１点（黒曜石），陶器片１点（瓶類），磁器片１点（碗）が出土している。遺物は多量で，特に覆土上層から中層にかけて多く出土している。残りの良い７は南壁際の覆土中層から，８は南東コーナー部とＰ４上面の床面から，13 はＰ５とＰ６の間の床面から，それぞれ出土している。18 は土師器の甕体部破片の周縁が研磨されており，砥石に再利用されたものと考えられる。19 はＰ 13 の覆土中層から出土している。

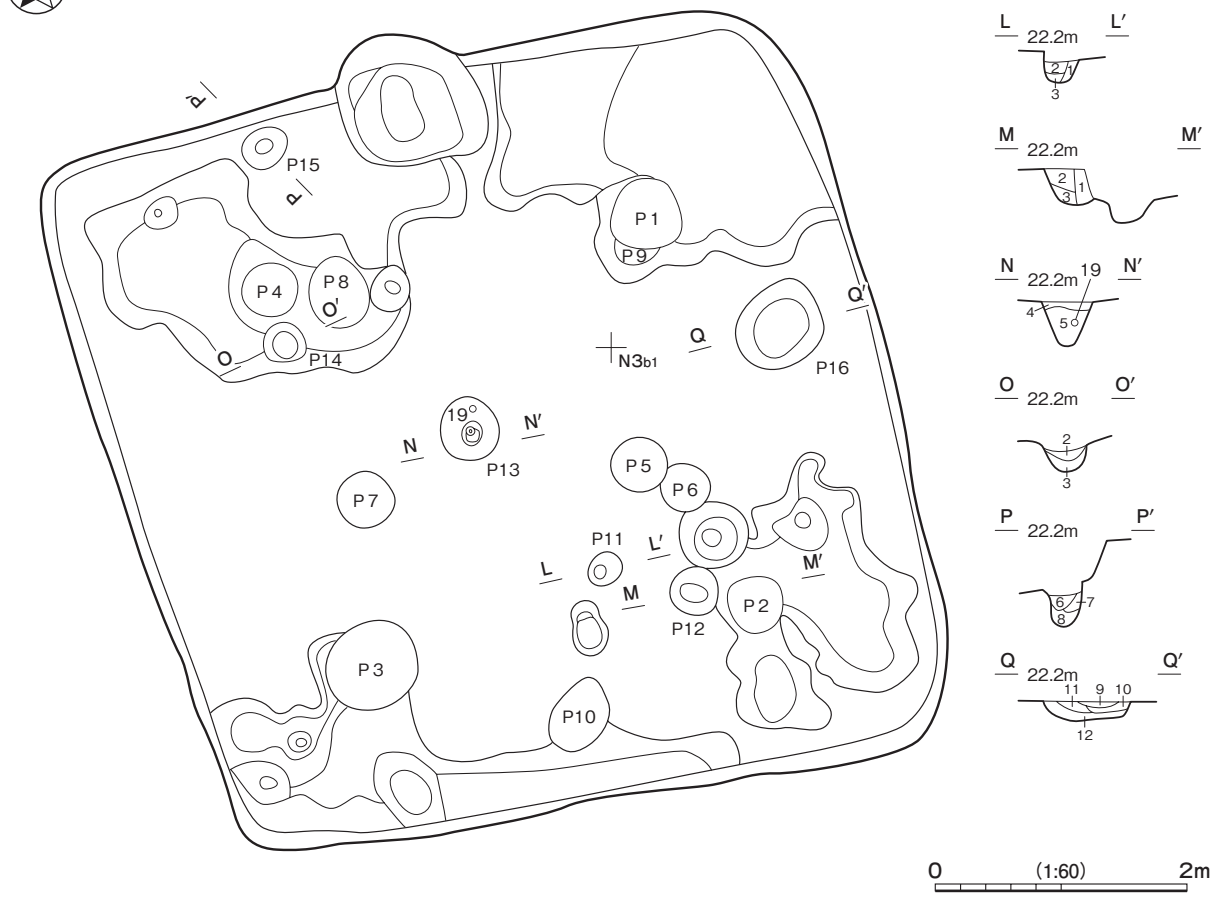
所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。

表 142　第 98 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 218 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［13.6］	3.5	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	４区下層	25%
2	土師器	坏	［14.6］	（4.7）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ黒色処理	３区中層 ３区 1.2 x	30% PL42
3	土師器	坏	［14.6］	（3.6）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	４区中層	25%
4	土師器	坏	［15.2］	（5.2）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面ナデ　黒色処理	４区中層	30%



第 216 図　第 98 号竪穴建物跡実測図（1）



土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒 褐 色 炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
7 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒 褐 色 焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
9 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物少量
10 黒 褐 色 ロームブロック微量
11 褐 色 ロームブロック中量
12 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
13 黒 褐 色 ローム粒子微量
14 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化物少量
15 暗 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
16 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
17 黒 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
18 褐 色 ローム粒子中量，砂質粘土ブロック少量

竈土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3 暗 褐 色 焼土ブロック中量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子少量
5 黒 褐 色 粘土ブロック中量，焼土粒子少量
6 暗赤褐色 焼土ブロック多量，粘土ブロック少量
7 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック中量
8 灰 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子微量
9 黒 褐 色 焼土粒子中量，ローム粒子少量
10 暗 褐 色 焼土粒子中量，粘土ブロック少量
11 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量
12 暗 褐 色 粘土ブロック少量，焼土粒子微量
13 灰 褐 色 粘土ブロック多量，焼土粒子少量
14 灰 褐 色 粘土ブロック中量，焼土粒子少量
15 暗 褐 色 焼土粒子中量，ロームブロック・粘土ブロック微量
16 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子微量
17 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子少量
18 褐 色 ロームブロック多量
19 褐 色 ロームブロック多量

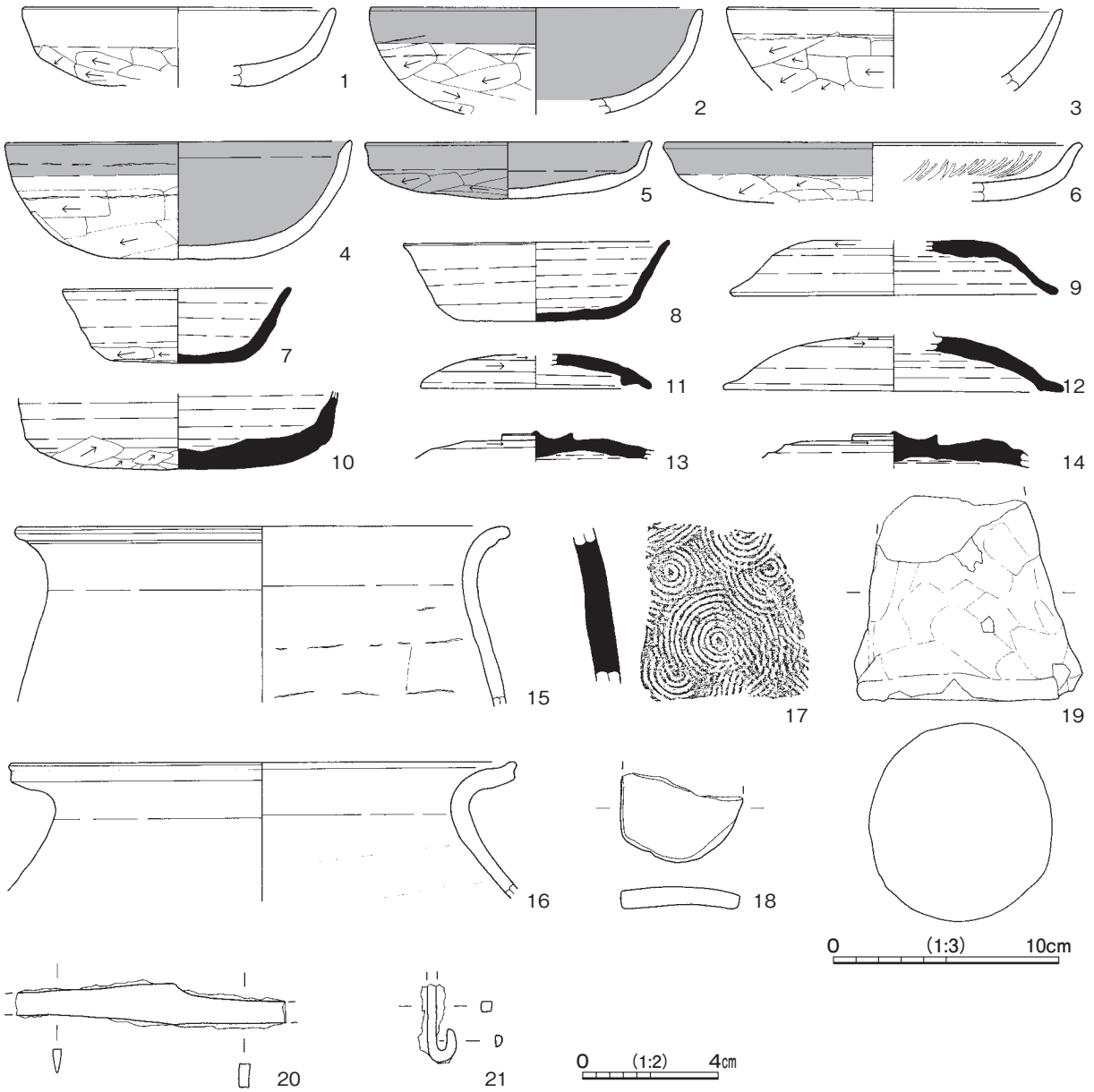
P 1～P 10 土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗 褐 色 粘土ブロック多量，焼土粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
5 暗 褐 色 ロームブロック多量
6 暗 褐 色 ロームブロック中量
7 黒 褐 色 ロームブロック微量
8 褐 色 ロームブロック中量
9 暗 褐 色 ロームブロック中量，粘土ブロック微量
10 暗 褐 色 ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
11 暗 褐 色 ローム中ブロック中量，焼土粒子微量
12 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
13 暗 褐 色 ロームブロック少量
14 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
15 暗 褐 色 ロームブロック中量

P 11～P 16 土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量
2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色 ロームブロック少量
4 褐 色 ロームブロック中量
5 暗 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒 褐 色 ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量
7 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子少量
8 暗 褐 色 ロームブロック少量
9 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量
10 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子少量
11 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
12 褐 色 ロームブロック中量

第 217 図 第 98 号竪穴建物跡実測図（2）



第 218 図　第 98 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 143　第 98 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 218 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
5	土師器	坏	［12.4］	2.5	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ外・内面黒色処理	４区床面 ４区２ｘ	20%
6	土師器	坏	［18.2］	2.6	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面放射状の磨き	３区中層	20%
7	須恵器	坏	9.9	3.3	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ切り後一方向のヘラ削り　酸化焔焼成	３区中層	90%新治窯 PL42
8	須恵器	坏	11.6	3.5	7.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り　酸化焔焼成	２区下層 ４区床面	80%新治窯 PL42
9	須恵器	蓋	［14.2］	(2.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り　酸化焔焼成	掘方４区ｘ	20%新治窯
10	須恵器	坏	－	(3.3)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部多方向の手持ちヘラ削り	１区床面	30%新治窯
11	須恵器	蓋	［10.2］	(1.4)	－	長石・石英	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り	１区下層	20%在地産
12	須恵器	蓋	［15.0］	(2.5)	－	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	天井部回転ヘラ削り　酸化焔焼成	１区床面	20%新治窯
13	須恵器	蓋	－	(1.3)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	２区床面	60%新治窯 PL42
14	須恵器	蓋	－	(1.6)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	４区床面	30%新治窯
15	土師器	甕	［21.6］	(7.9)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	１区下層	５％
16	土師器	甕	［21.8］	(6.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外・内面ヘラナデ	３区中層 ４区２ｘ	５％
17	須恵器	甕	－	(7.0)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	外面同心円文叩き　内面当て具痕	４区下層	10%

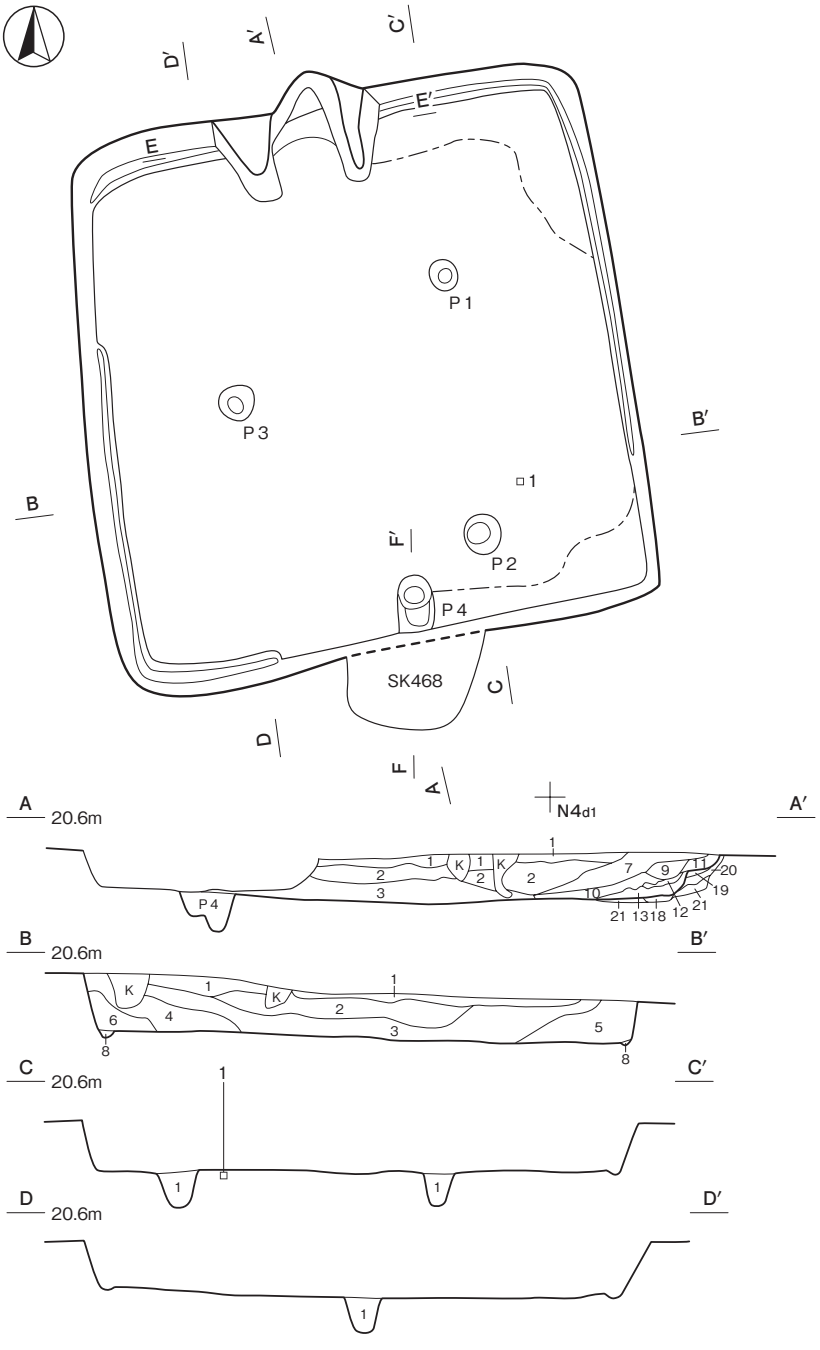
表 144　第 98 号竪穴建物跡出土遺物観察表（３）（第 218 図）

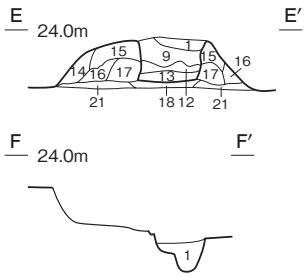
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
18	転用砥石	－	－	5.4	19.04	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	土師器甕体部破片を利用　上縁を除き周縁研磨	４区１ｘ	

番号	器　種	最小径	最大径	長さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
19	支脚	(6.4)	9.9	(9.0)	511.0	長石・白色粒子	にぶい赤褐	ナデ成形	１区掘方	
22	支脚	－	－	(4.9)	21.03	長石・雲母	橙	表面の一部のみ残存	３区掘方	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
20	刀子	(7.9)	(1.3)	0.2 ～ 0.3	11.30	鉄	刀身部～茎部分	３区下層	PL55
21	不明	(2.3)	0.85	0.3	1.47	鉄	鉤状	４区１ｘ	PL55

第 99 号竪穴建物跡（第 219・220 図　PL22）





土層解説

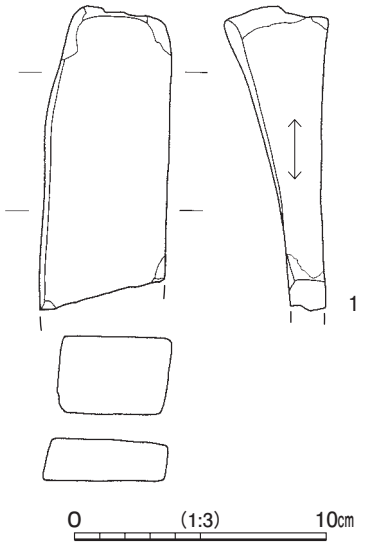
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量（２より明）
4　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック多量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
10　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
11　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック中量
12　暗　褐　色　粘土ブロック多量，焼土ブロック中量
13　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
14　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
15　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子多量
16　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
17　褐　　色　ロームブロック多量，焼土ブロック中量
18　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
19　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量
20　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量
21　黒　褐　色　ロームブロック多量

ピット土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量

0　(1:60)　2m

第 219 図　第 99 号竪穴建物跡実測図



第 220 図　第 99 号竪穴建物跡出土遺物実測図

位置　調査Ⅲ区東部のＮ３c0 区, 標高 20.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 110 号竪穴建物跡を掘り込み，第 468 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.34 ｍ，短軸 4.32 ｍの方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｗである。壁は高さ 28 ～ 38cm で，外傾している。

床　ほぼ平坦で，北東コーナー部及び南東コーナー部を除き踏み固められている。西壁の一部と南東コーナー部から南壁にかけての部分を除いて，壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 95cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ，段を有して立ち上がっている。第９～ 21 層が竈に関連する堆積土で，第９～ 12 層は天井部の崩落土，第 13 層が燃焼部の堆積土である。火床部は床面とほぼ同じ高さであるが，赤変硬化は明瞭ではない。第 14 ～ 17 層が袖部の構築土で，第 17 層はロームブロック，第 16 層は粘土ブロックを多く含む層であるが，第 14・15 層は粘土ブロックをほとんど含まず，全体的に暗褐色土主体の土を積み上げて構築されている。第 18 ～ 21 層は掘方への埋土である。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 22 ～ 29cm で，Ｐ３はやや不整な位置にあるものの，規模から主柱穴と考えられる。Ｐ４は深さ 30cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。

覆土　８層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 46 点（坏 11，甕類 35），須恵器片２点（坏，高台付坏），石器１点（砥石），鍛冶関連遺物（羽口１，椀状滓 10.1 ｇ，流動滓 36.5 ｇ，鉄滓 7.5 ｇ），焼成粘土塊 26.6 ｇが出土している。遺物は少量で小片が多く, 時期判断可能な土器類を図示することができなかった。１は南東部の床面から出土している。

所見　遺物からの時期判断は困難である。10 世紀前葉と推定される第 110 号竪穴建物を掘り込んでいることから，10 世紀前葉以降と考えられるが，部分的な重複で堆積状況では確認されていないこと，また規模や形状などから，新旧が逆転する可能性もある。

表 145　第 99 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 220 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
1	砥石	12.0	5.1	1.4 ～ 4.1	231.92	凝灰岩	砥面表裏・側面の４面　裏面に刃物痕	２区床面	PL48

番号	器　種	最小径	最大径	長さ	重量	胎　土	色　調	特　徴	出土位置	備　考
2	支脚ヵ	－	－	(2.7)	6.43	長石・細礫	赤褐	表面・頭部の一部のみ残存	２区２ｘ	観察表のみ

第 100 号竪穴建物跡（第 221・222 図）

位置　調査Ⅲ区中央部のＮ３a5 区，標高 21 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 101 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

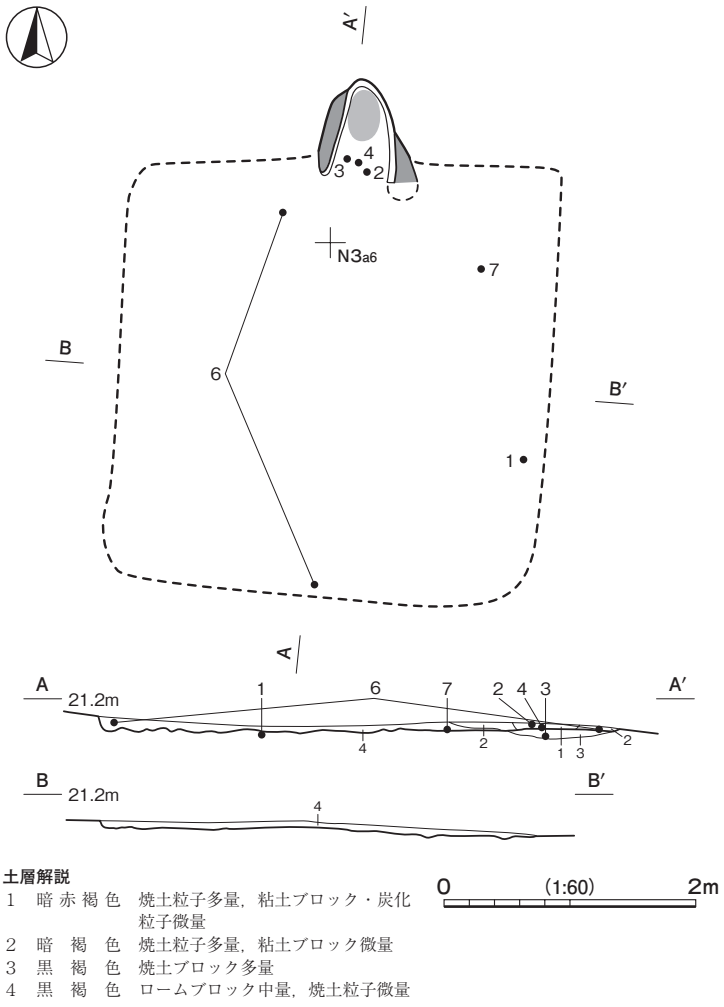
規模と形状　重複のため，壁や床面を確認することができなかったが，覆土の広がりから約 3.5 ｍの方形と推定される。竈の主軸方向はＮ－８°－Ｅである。

竈　北壁中央部に付設されていると推定される。削平が著しく，基部に近い部分しか確認できなかった。規模は推定される焚口部から煙道部まで 90cm で，燃焼部幅は 40cm である。第１～３層が竈に関連する堆積土で，火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。第３層は掘方への埋土である。

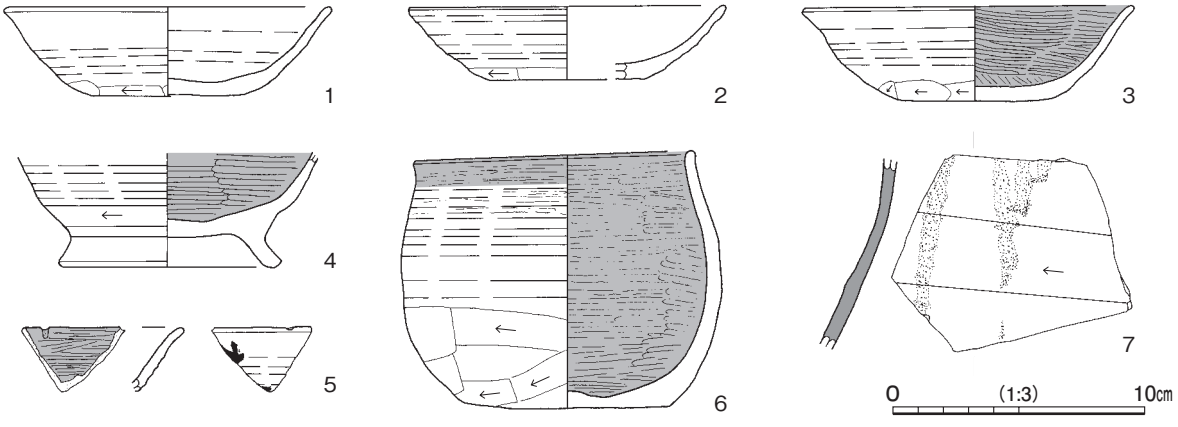
覆土　単一層で，層厚もほとんどないことから，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片 71 点（坏 18，高台付坏２，鉢･甕類 51），須恵器片１点（蓋），灰釉陶器片１点（瓶類），鍛冶関連遺物（羽口１，椀状滓 111.7 ｇ，鉄塊系遺物 71.0 ｇ，鉄滓 57.0 ｇ）が出土している。覆土がほとんど確認できなかったことから，本跡に帰属する遺物は少ない。１は南東部の床面から，７は北東部の床面から，それぞれ出土している。２～４は竈の燃焼部から出土している。

所見　時期は，出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。重複する第 101 号竪穴建物跡の時期とも矛盾しない。



第 221 図　第 100 号竪穴建物跡実測図



第 222 図　第 100 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 146　第 100 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 222 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	12.6	3.5	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ削り後ナデ　外・内面に煤付着	２区床面	80% PL42
2	土師器	坏	[12.4]	2.9	(6.0)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	竈燃焼部	20%
3	土師器	坏	12.8	3.8	6.1	長石・石英	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理 底部一方向のヘラ削り	竈掘方	70% PL42

表 147　第 100 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 222 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
4	土師器	高台付坏	－	(4.5)	8.4	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理	竈燃焼部２区 x	70%
5	土師器	坏	－	(2.5)	－	長石・石英	橙	普通	内面ヘラ磨き　黒色処理　外面に墨書	２区 x	５％ PL51
6	土師器	鉢	10.7	10.2	8.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ　口縁部外面一部ヘラ磨き　黒色処理　体部外面下半部手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理　底部一方向のヘラ削り	３区下層竈煙道部 x	50% PL43
7	灰釉陶器	瓶類	－	(7.5)	－	長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	体部回転ヘラ削り	１区床面	５％猿投葉 PL51

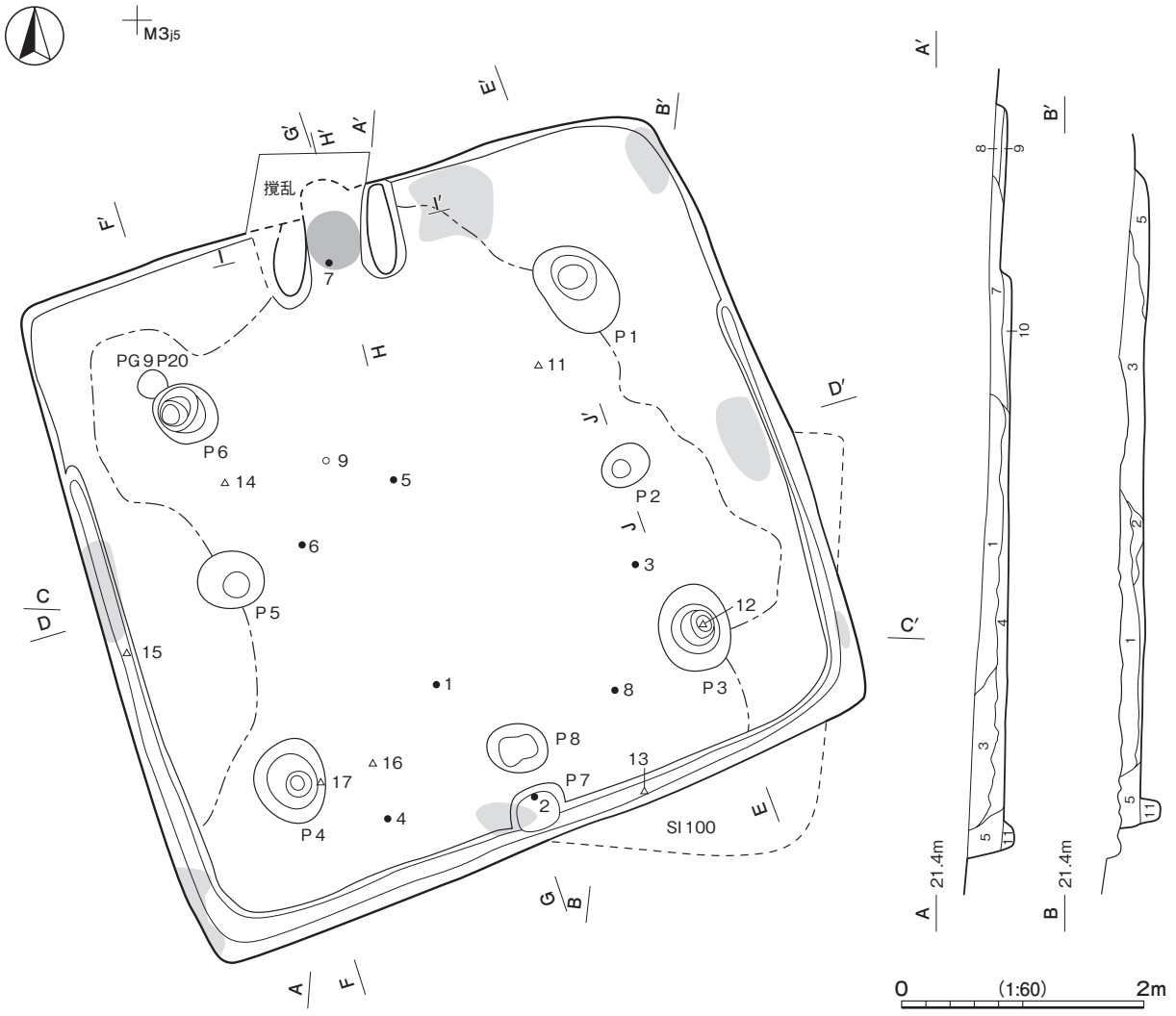
番号	器　種	最小径	最大径	長さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
8	羽口	－	－	(2.6)	3.32	長石	橙	中央孔と表面の一部のみ確認	２区 x	観察表のみ

第 101 号竪穴建物跡（第 223 ～ 226 図　PL22）

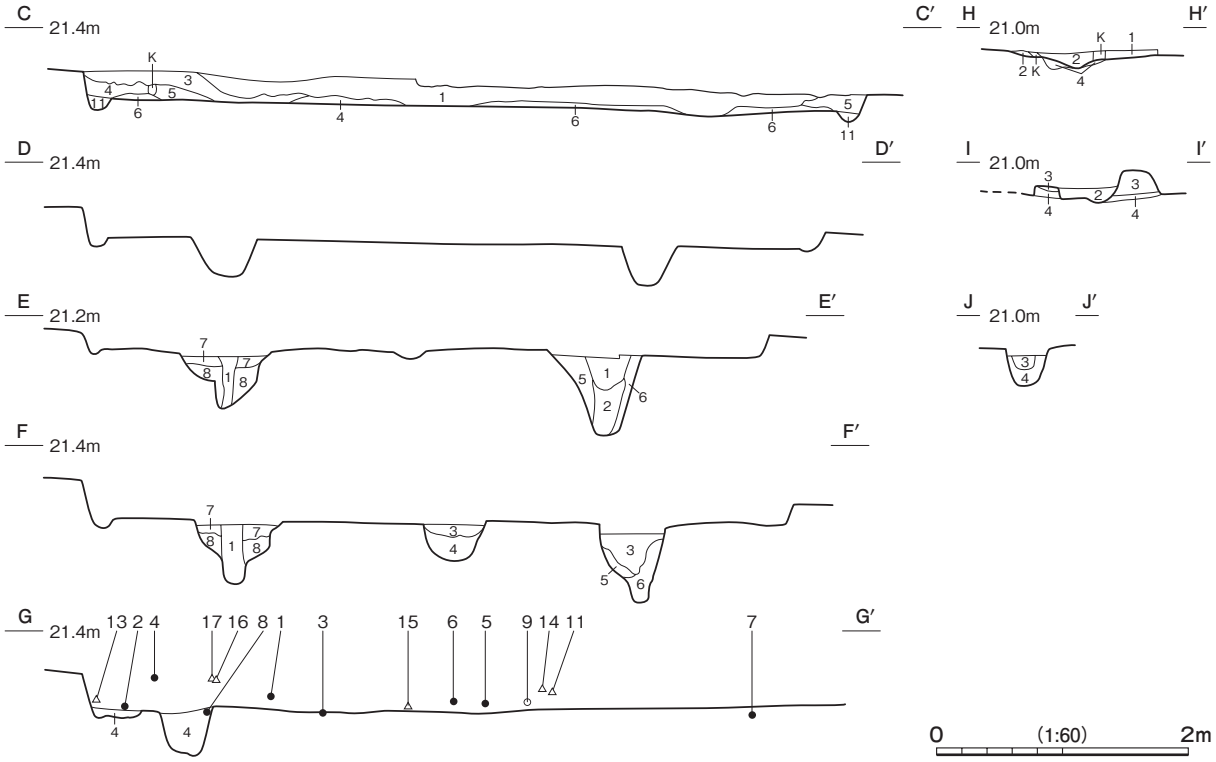
位置　調査Ⅲ区中央部のＮ３a5 区，標高 21.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 100 号竪穴建物に掘り込まれている。第９号ピット群のＰ 20 とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長軸 5.84 ｍ，短軸 5.56 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 19゜－Ｗである。壁は高さ 15 ～ 30cm で，外傾している。



第 223 図　第 101 号竪穴建物跡実測図（１）



土層解説

1 黒 褐 色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
6 暗 褐 色 ロームブロック中量
7 灰 褐 色 粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗 褐 色 ローム粒子少量
9 灰 褐 色 粘土ブロック多量
10 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
11 黒 褐 色 ローム粒子中量

竈土層解説

1 黒 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 焼土ブロック多量，ローム粒子中量
3 灰 褐 色 粘土ブロック多量，焼土粒子微量
4 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット土層解説

1 黒 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
3 黒 褐 色 ローム粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量
5 黒 褐 色 ロームブロック中量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量
7 暗 褐 色 ロームブロック多量
8 暗 褐 色 ロームブロック多量

第 224 図　第 101 号竪穴建物跡実測図（２）

床　ほぼ平坦で，壁際を除く中央部が踏み固められている。北壁と北東コーナー部・北西コーナー部を除き，壁溝が巡っている。壁際を中心に層厚 15cm ほどの焼土ブロックが出土している。

竈　北壁中央部に付設されている。竈の西半分が撹乱のため，基部付近しか捉えることができず，煙道部の立ち上がりも確認できなかった。火床面等から推測される規模は，焚口部から煙道部まで約１ｍで，燃焼部幅は 40cm である。第２層が燃焼部の堆積土，第３層は袖部の構築土で，粘土ブロックを多く含む灰褐色土を積み上げて構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。第４層は掘方への埋土である。

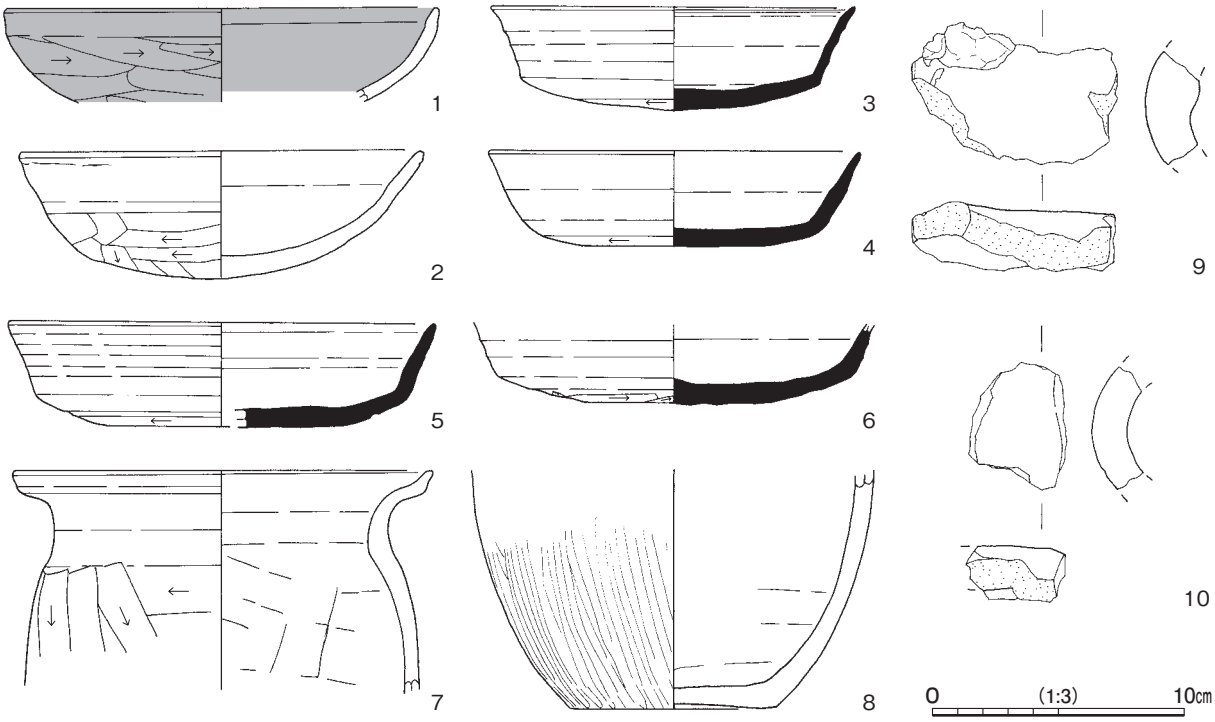
ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ６は深さ 31 ～ 75cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ７・Ｐ８は深さ５cm・40cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。

覆土　11 層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子を含む層が堆積することから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 238 点（坏 25，高台付坏１，高坏２，甕・甑類 209，不明１），須恵器片 28 点（坏 19，高台付坏１，鉢･甕･甑類７．不明１），灰釉陶器片５点（瓶類），土製品２点（支脚２），金属製品８点（刀子$_{カ}$１，鉄鏃$_{カ}$１，鎌１，引手１，小札４，），鍛冶関連遺物（羽口８，椀状滓 213.83 ｇ，流動滓 39.9 ｇ，鉄塊系遺物 425.5 ｇ，鉄滓 429.8 ｇ），焼成粘土塊 5.4 ｇのほか，縄文土器片６点，土師質土器１点（内耳鍋），陶器片１点（皿）が出土している。遺物は全体からまんべんなく出土しているが，集中するようなところは見ら

れない。残りの良い２は南壁際の床面から，３は南東部の床面から，４は南西コーナー部の上層から，それぞれ出土している。７は竈の火床面から正位で出土している。11 の引手は北東部の覆土下層から出土している。小札が４点出土しており，13 は南壁際の床面近くから，14 は北西部の覆土上層から，15 は西壁際の床面から，16 は南西部の覆土上層から，それぞれ出土している。本跡は覆土上層を中心に鍛冶関連遺物が多量に出土しており，小片で図示出来なかったが，羽口片も８点出土している。

所見　床面の壁際を中心に層厚 15cm ほどの焼土ブロックが出土していることから，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から７世紀後葉から８世紀前葉に比定できる。鍛冶関連遺物は，３ｍほど北に第７号鍛冶工房跡が位置することから，本跡の廃絶後に第７号鍛冶工房の排滓等が流れ込んだものと考えられる。

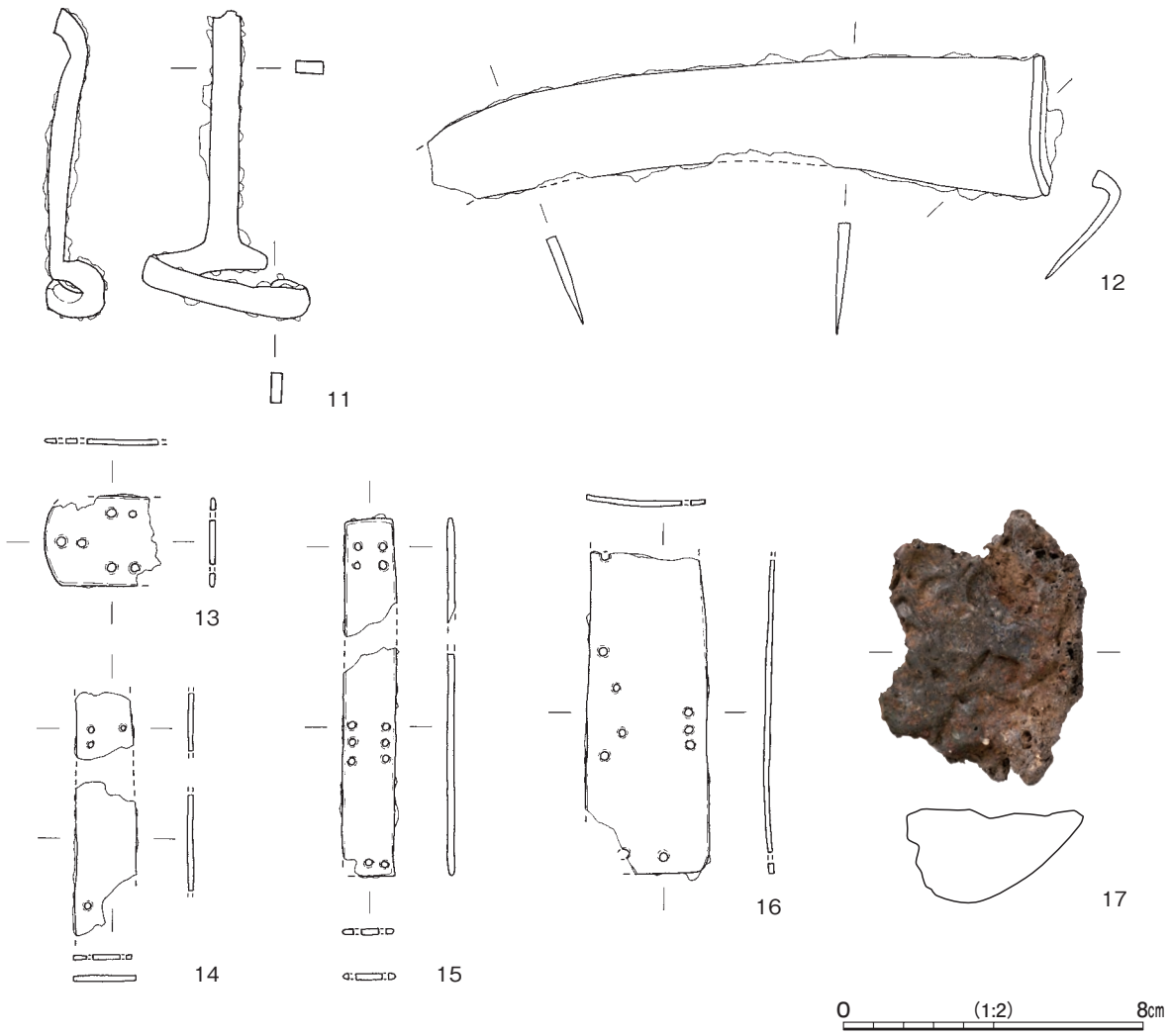


第 225 図　第 101 号竪穴建物跡出土遺物実測図（１）

表 148　第 101 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 225 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［17.2］	(3.7)	－	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理	３区下層	20%
2	土師器	坏	［15.7］	5.0	－	長石・石英	灰褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	３区床面	70% PL43
3	須恵器	坏	14.4	4.1	11.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ削り　朱墨ヵ　口縁部内面に沈線	２区床面 １区２ｘ	80%新治窯 PL43
4	須恵器	坏	［14.6］	3.7	［7.2］	長石・石英・細礫	灰黄褐	良好	体部下端～底部回転ヘラ削り	３区上層	50%新治窯
5	須恵器	坏	［17.0］	4.1	［9.0］	長石・石英・細礫	灰黄褐	良好	体部下端～底部回転ヘラ削り　底部に沈線	４区下層	20%新治窯
6	須恵器	坏	－	(3.1)	7.4	長石・石英・細礫	褐灰	良好	底部多方向のヘラ削り	４区下層	40%新治窯
7	土師器	甕	［16.5］	(8.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈火床面	40%新治窯 PL43
8	土師器	甕	－	(9.4)	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ　底部ヘラ磨き	２区床面 ２区２ｘ	40%新治窯

番号	器　種	最小径	最大径	長さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
9	羽口	－	－	(8.1)	83.49	長石	灰褐	先端部　表面還元　発泡した粘土塊付着	４区床面	
10	羽口	－	－	(5.1)	31.66	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	基部　表面還元	５区１ｘ	



第 226 図　第 101 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

表 149　第 101 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 226 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
11	引手	8.4	0.8 ～ 4.9	0.4	23.69	鉄	上部湾曲する　断面長方形	１区下層	PL55
12	鎌	(16.7)	3.8	0.2 ～ 0.3	67.92	鉄	先端部わずかに欠損	２区覆土中	PL55
13	小札	(3.1)	2.4	0.15	3.78	鉄	第１・２威孔と第１・２綴孔を確認	２区下層	
14	小札	(1.3) [6.6]	1.6	0.2	4.14	鉄	２片あるが接合せず　綴孔２か所確認	４区上層	PL55
15	小札	(3.2) [9.7]	1.45	0.18	9.49	鉄	２片あるが接合せず　綴孔２か所　下搦孔確認	４区床面	PL55
16	小札	(8.6)	3.4	0.15	24.45	鉄	綴孔不規則な配置　下搦孔２孔	３区上面	
17	椀状滓	(7.3)	(5.4)	2.5	59.23	鉄	中央に光沢をもつ含鉄部	３区上面	PL55
18	鉄鏃$_カ$	(4.2)	0.8	0.8	4.73	鉄	鉄鏃茎部分あるいは紡錘車の軸$_カ$　断面方形	Ｐ１	観察表のみ
19	刀子$_カ$	(4.1)	0.8	0.4	4.86	鉄	刀身部～茎部分　先端部欠損	４区２ｘ	観察表のみ

番号	器　種	最小径	最大径	長さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
20	羽口	－	－	(3.4)	55.01	長石	橙	鉄分付着　他５点あるが接合せず	６区１ｘ	観察表のみ
21	羽口	－	[8.4]	(5.1)	52.08	長石・細礫	褐灰	中央孔と先端部確認　他１点接合せず　表面発泡	１区２ｘ	観察表のみ
22	支脚	－	－	(4.9)	19.51	長石	橙	表面の一部のみ確認　削り調整	１区２ｘ	観察表のみ
23	羽口	－	－	(2.3)	9.60	長石	橙	表面の一部のみ確認　２点あるが接合せず	２区２ｘ	観察表のみ

表 150　第 101 号竪穴建物跡出土遺物観察表（３）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考	
24	羽口	－	－	(3.5)	15.87	長石・細礫	橙	表面の一部のみ確認	３区１ｘ	観察表のみ
25	羽口	－	－	(2.2)	6.87	長石	橙	表面の一部のみ確認	５区１ｘ	観察表のみ
26	羽口	－	－	(4.1)	77.69	長石	橙	先端部の一部と胴部の一部を確認　接合せず	６区２ｘ	観察表のみ
27	支脚	－	－	(3.7)	47.70	長石	橙	表面の一部のみ確認	６区２ｘ	観察表のみ

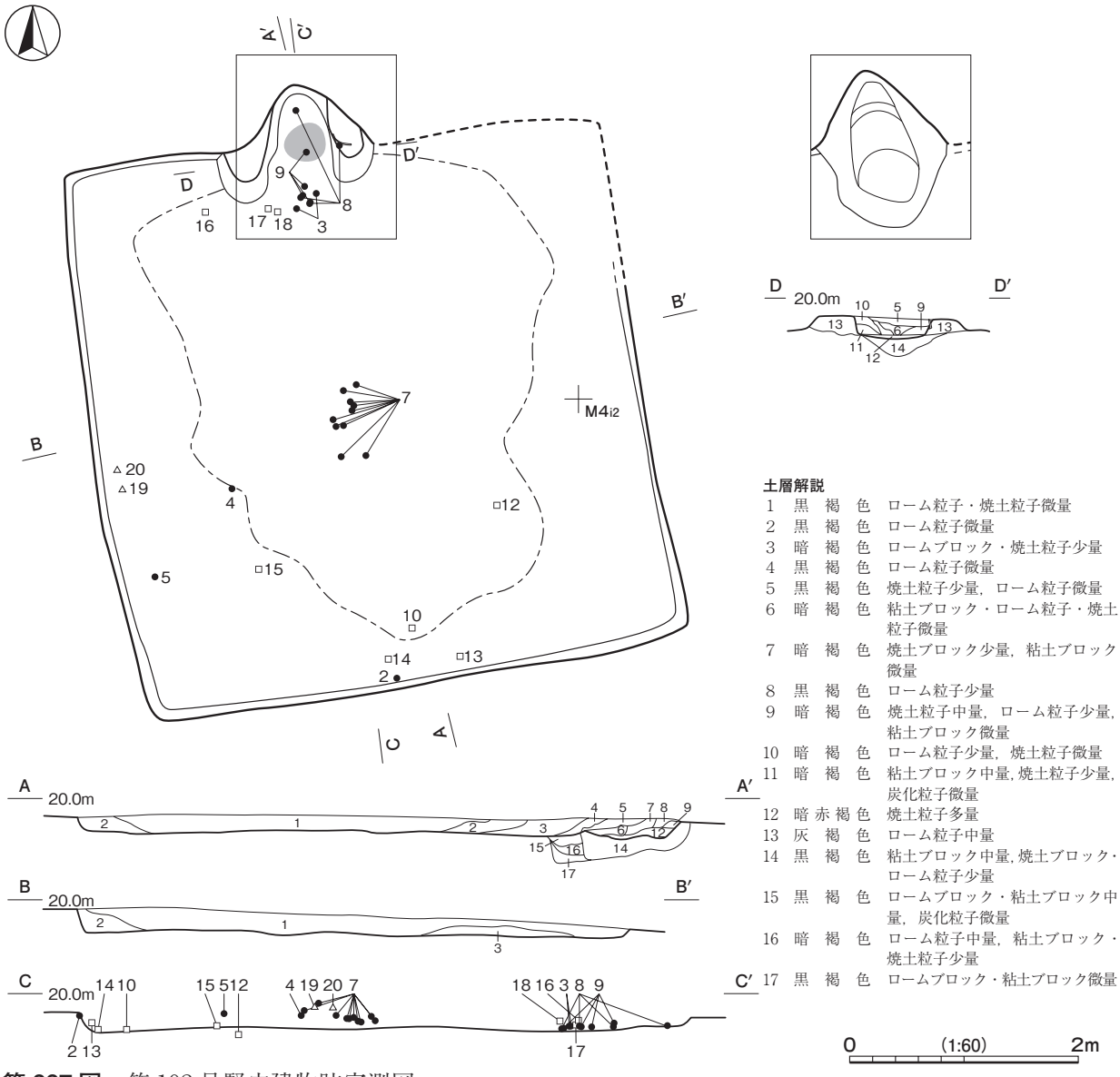
第 102 号竪穴建物跡（第 227 ～ 229 図　PL23）

位置　調査Ⅲ区東部のＭ４h1 区，標高 20 ｍの台地斜面部に位置している。

規模と形状　長軸 4.92 ｍ，短軸 4.83 ｍの方形で，主軸方向はＮ－ 10 °－Ｗである。壁は高さ 23cm で，外傾している。

床面　ほぼ平坦で，壁際を除く中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，第 14 ～ 17 層を埋土して構築されている。

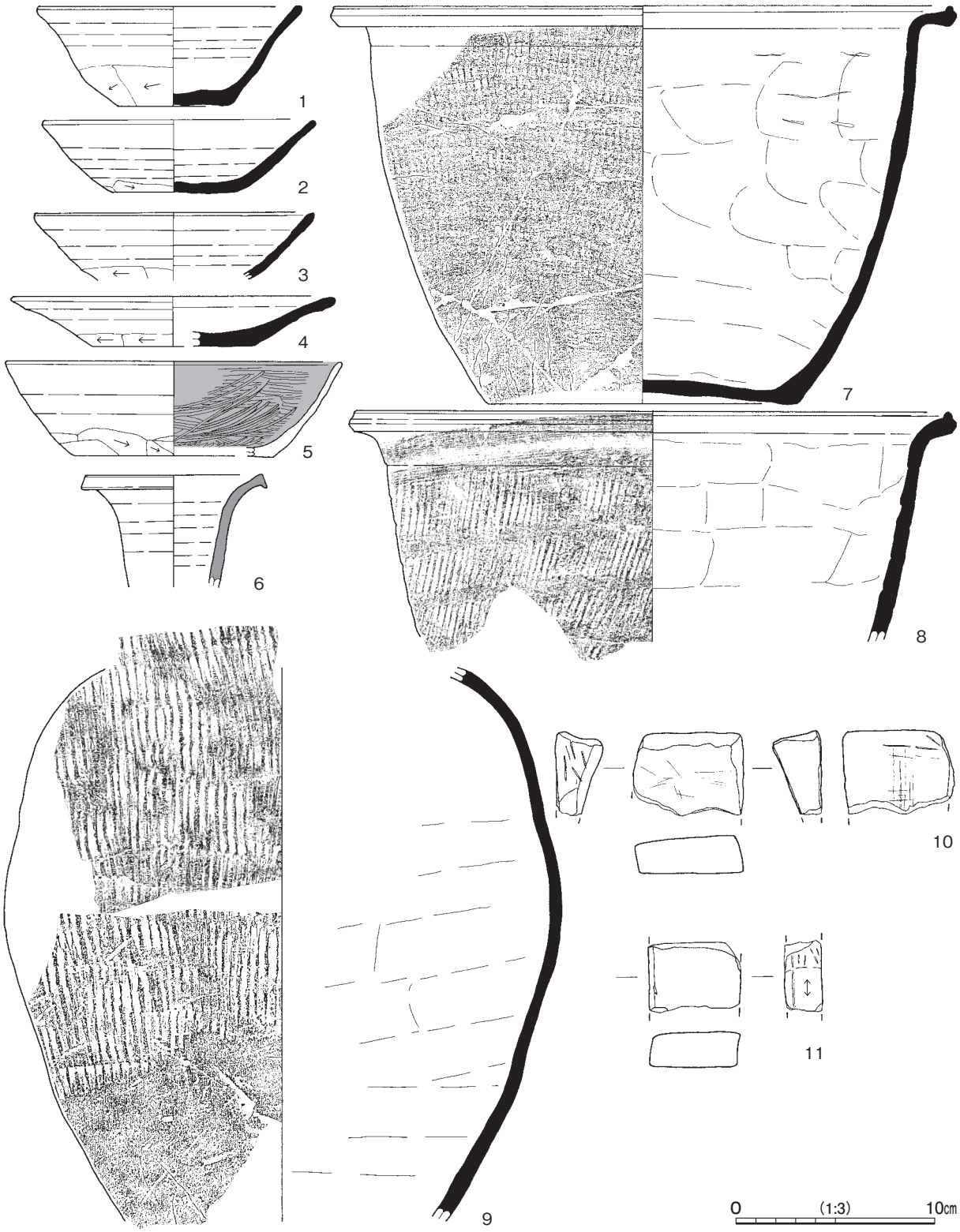


第 227 図　第 102 号竪穴建物跡実測図

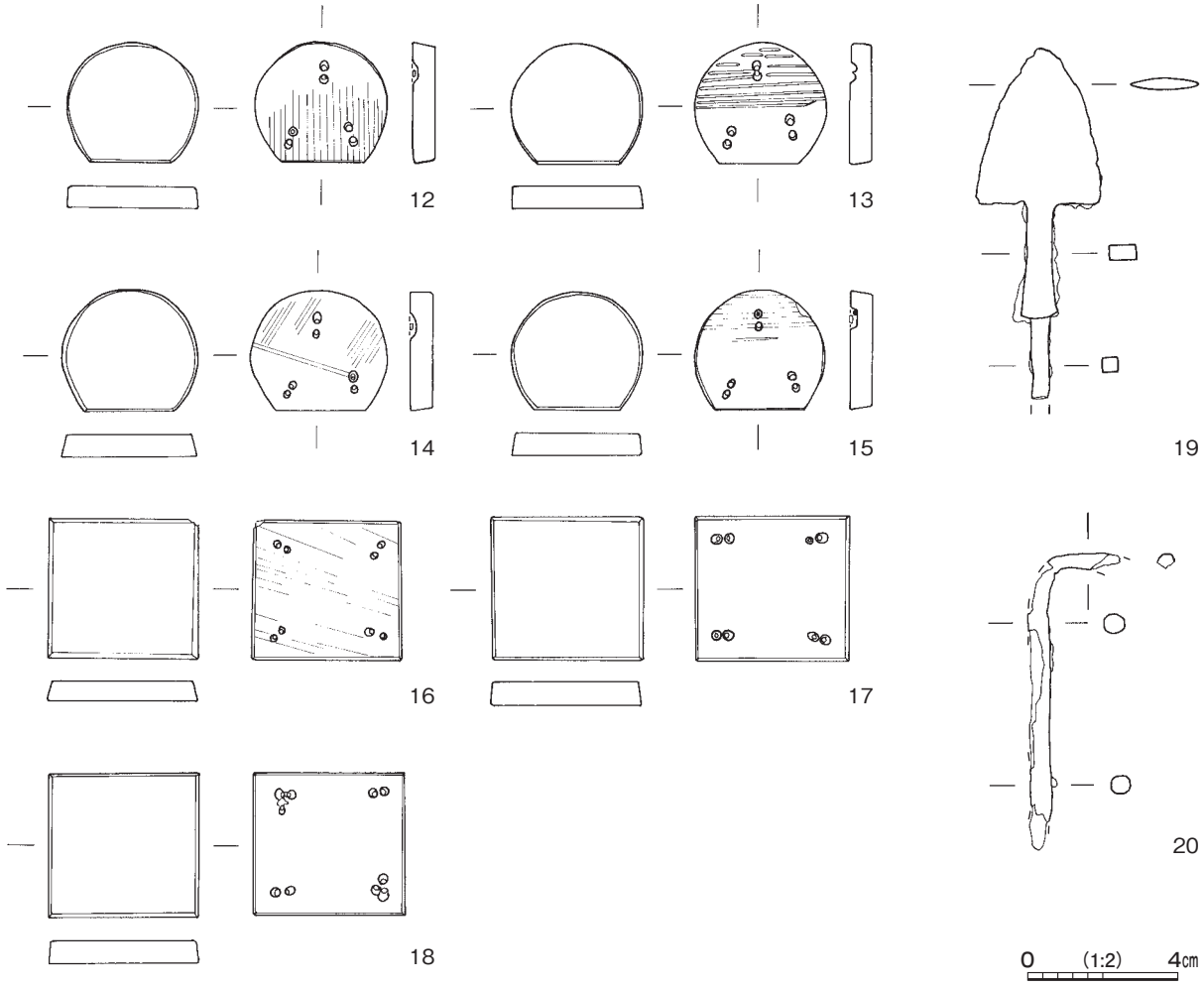
規模は焚口部から煙道部まで 90cm で，燃焼部幅は 55cm である。第 4 ～ 13 層が竈に関連する堆積土で，第 12 層が燃焼部の堆積土である。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。第 13 層が袖部の構築土で，右袖部には補強材として，須恵器鉢片が逆位で据えられている。

覆土　3 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 145 点（坏 15，坩 1，甕・甑類 129），須恵器片 123 点（坏 44，蓋 5，鉢・甕・甑



第 228 図　第 102 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 229 図　第 102 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

類 74），灰釉陶器片２点（瓶類），石器・石製品 10 点（砥石３，腰帯具７），金属製品３点（鉄鏃，釘$_{カ}$，閂$_{カ}$），鍛冶関連遺物（鉄塊系遺物 36.8 ｇ，鉄滓 140.3 ｇ）が出土している。遺物は南部から西部にかけて多く出土している。残りのよい２は南壁際の覆土上層から，７は中央部の覆土下層から，それぞれ出土している。竈の火床面上からは，８や９の須恵器の鉢や甕が，破片で出土している。また８の須恵器鉢の一部が竈の右袖部から逆位で出土しており，補強材として再利用されたものと考えられる。蛇紋岩製の腰帯具が７点出土しており，丸鞆は南壁際の床面から，巡方は竈前面の床面から，それぞれまとまって出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉に比定できる。

表 151　第 102 号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）（第 228 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	［12.8］	5.0	5.4	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り　酸化焔焼成	覆土中	60％新治窯 PL43
2	須恵器	坏	［13.6］	3.2	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	良好	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り　酸化焔焼成	２区上層	70％新治窯 PL43
3	須恵器	坏	［13.8］	（3.4）	－	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	竈前床面	40％新治窯 PL43
4	須恵器	坏	［16.2］	2.6	［8.2］	長石・石英・雲母	暗灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	３区上層 竈掘方	20％新治窯
5	土師器	坏	［16.6］	4.8	［10.0］	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き　黒色処理　底部一方向のヘラ削り	３区上層 ３区１ｘ	20％
6	灰釉陶器	長頸瓶	［8.8］	（5.6）	－	緻密	灰	良好	ロクロナデ	４区１ｘ	猿投窯
7	須恵器	鉢	［30.8］	20.0	15.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部ロクロナデ　体部外面格子目文叩き　内面ヘラナデ　底部ヘラ削り　酸化焔焼成	中央部下層 ３区１ｘ	50％新治窯 PL43

表 152　第 102 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 228・229 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
8	須恵器	鉢	29.4	(11.5)	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部ロクロナデ　体部外面縦位の平行叩き　内面ヘラナデ	竈右袖部・煙道部	30％新治窯 PL43
9	須恵器	甕	－	(27.2)	－	長石・石英・雲母・細礫	灰	良好	外面縦位の平行叩き　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈火床面 竈前床面	20％新治窯

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
10	砥石	(4.2)	5.6	2.4	62.5	凝灰岩	砥面表裏・側面の４面　刃物痕あり	２区床面	
11	砥石	(3.5)	4.6	1.8	65.50	凝灰岩	砥面表裏・側面の４面　側面に刃物痕あり	３区１ｘ	
12	丸鞆	3.2	3.5	0.6	12.75	蛇紋岩	表・側面光沢ある研磨　裏面に潜孔３か所	２区床面	PL52
13	丸鞆	3.2	3.5	0.6	13.35	蛇紋岩	表・側面光沢ある研磨　裏面に潜孔３か所	２区床面	PL52
14	丸鞆	3.3	3.6	0.6	14.40	蛇紋岩	表・側面光沢ある研磨　裏面に潜孔３か所	２区床面	PL52
15	丸鞆	3.2	3.5	0.6	13.11	蛇紋岩	表・側面光沢ある研磨　裏面に潜孔３か所で，１か所に銅線残存	３区床面	PL52
16	巡方	3.8	4.0	0.5	21.23	蛇紋岩	表・側面光沢ある研磨　裏面に潜孔４か所	４区床面	PL52
17	巡方	3.8	4.0	0.6	23.88	蛇紋岩	表・側面光沢ある研磨　裏面に潜孔４か所	４区床面	PL52
18	巡方	3.8	4.0	0.6	21.00	蛇紋岩	表・側面光沢ある研磨　裏面に潜孔４か所	４区床面	PL52
21	砥石	(3.9)	(2.1)	(1.3)	9.55	凝灰岩	砥面一面のみ　他は剥離	２区１ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
19	鉄鏃	(9.4)	(3.3)	0.3 ～ 0.4	23.01	鉄	鏃身部外形三角形　断面両丸　関部角関　頸部棒状角関　茎断面方形	３区上層	PL55
20	門$_カ$	(8.0)	(2.5)	0.4 ～ 0.5	8.28	鉄	L 字状に屈曲　断面隅丸方形	３区上層	PL55
22	釘$_カ$	5.5	0.5 ～ 0.8	0.4 ～ 0.8	7.86	鉄	先端部が細くなる　錆化が著しく詳細不明	竈	観察表のみ

第 103 号竪穴建物跡（第 230 ～ 233 図　PL23・24）

位置　調査Ⅲ区東部のＮ４b2 区，標高 20.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 110 号竪穴建物跡と重複しているが，新旧関係は確認できなかった。

規模と形状　長軸 6.24 ｍ，短軸 6.13 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 26 °－Ｗである。壁は高さ 37 ～ 56cm で，外傾している。

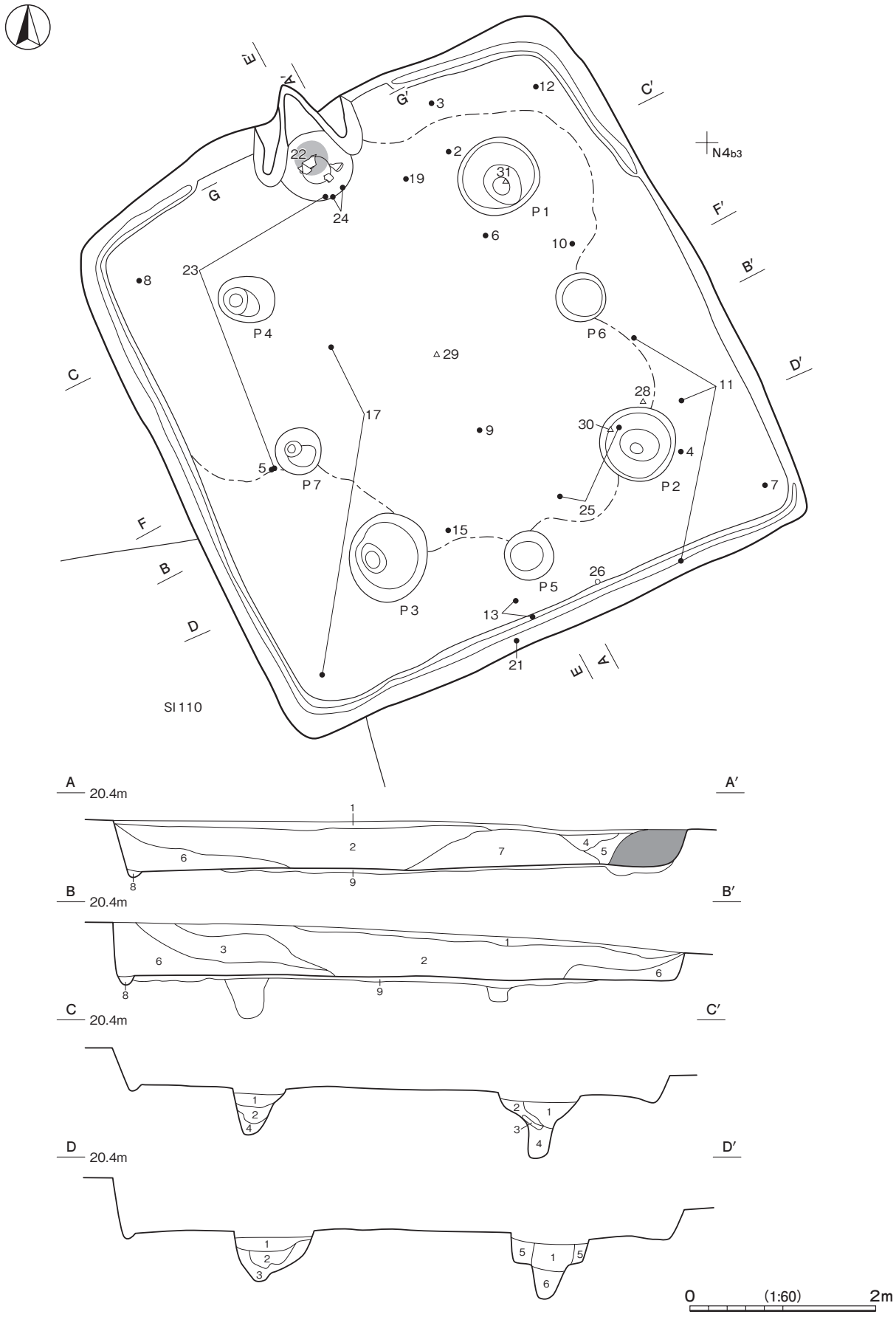
床面　ほぼ平坦な貼床で，壁際を除く中央部が踏み固められている。東壁の一部を除き，壁溝が巡っている。

竈　北壁中央部に付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，第 15・16 層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 100cm で，燃焼部幅は 55cm である。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第 12・13 層が燃焼部の堆積土で，火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。第 14 層が袖部の構築土で，粘土ブロックを多く含む暗褐色土を積み上げて構築されている。

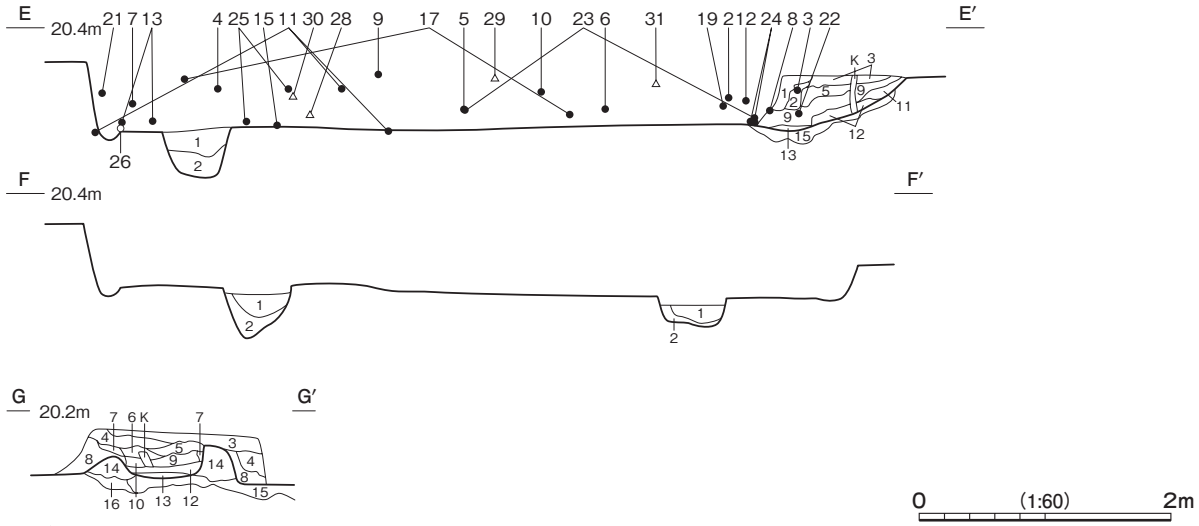
ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４・Ｐ６・Ｐ７は深さ 24 ～ 71cm で，規模と配置から主柱穴である。Ｐ１・Ｐ４は掘方調査で底面のピット状のくぼみが２か所確認でき，柱の立て替えの可能性がある。Ｐ５は深さ 40cm で，配置から出入口施設に伴うピットである。また掘方調査時に，Ｐ３とＰ７の間とＰ２の北西に深さが 55cm・43cm のピットが確認されている。

覆土　８層に分層できる。粘土ブロックを含み，不整合な堆積状況から，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 1,163 点（坏 232，高台付坏３，甕・甑類 928），須恵器片 38 点（坏 19，高台付坏１，高台付埦１，蓋６，盤３，瓶類６，鉢・甕・甑類１，把手付中空円面硯１），灰釉陶器片１点（瓶類），土製品３点（支脚３），金属製品４点（刀子２，鉄鏃２），鍛冶関連遺物（羽口５，鉄塊系遺物 42.1 ｇ，鉄滓 248.6 ｇ），焼成粘土塊 42.7 ｇのほか，縄文土器片４点が出土している。本跡は大型の建物跡であるため，覆土を６分割して北から時計周りに１～６区として取り上げている。遺物は多量で，特に覆土上層からの出土が多い。残り



第 230 図　第 103 号竪穴建物跡実測図（1）



土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐 色 焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
4 黒 褐 色 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5 黒 褐 色 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量
6 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
7 黒 褐 色 粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗 褐 色 粘土ブロック多量，ロームブロック中量
7 暗 褐 色 粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8 灰 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量
9 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
10 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
11 黒 褐 色 焼土粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
12 暗 褐 色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量
13 暗赤褐色 焼土ブロック多量，ローム粒子中量
14 暗 褐 色 粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子微量
15 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック中量，粘土ブロック少量
16 褐 色 ロームブロック中量，焼土ブロック少量，粘土ブロック微量

竈土層解説

1 暗 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2 黒 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子微量
3 黒 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子少量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐 灰 色 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗 褐 色 粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘土ブロック・焼土粒子少量

ピット土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子少量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
5 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
6 暗 褐 色 ロームブロック少量

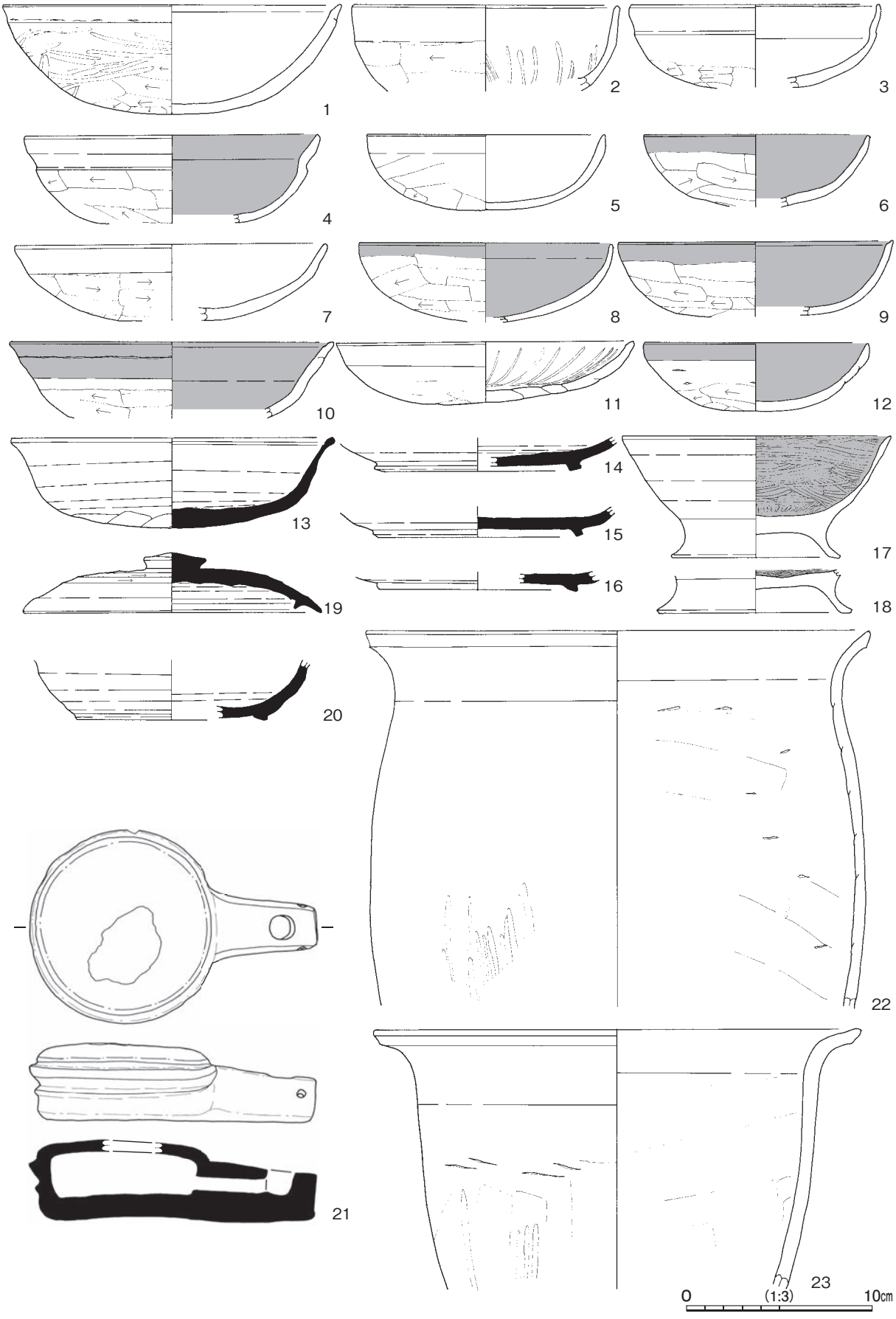
第 231 図　第 103 号竪穴建物跡実測図（2）

の良い 12 は北東コーナー部の下層から，13 は南壁際の床面から，19 は北東部の覆土下層から，それぞれ出土している。21 はほぼ完形の把手付中空円面硯で，南壁際の中層から，斜位で出土している。22・24 は竈の燃焼部の覆土中から出土している。17 は残りがよい土師器の高台付坏で，西部の覆土上層から，18 は北東部の覆土上層からそれぞれ出土しているが，明らかに後出するものである。重複する第 110 号竪穴建物跡に帰属する可能性がある。

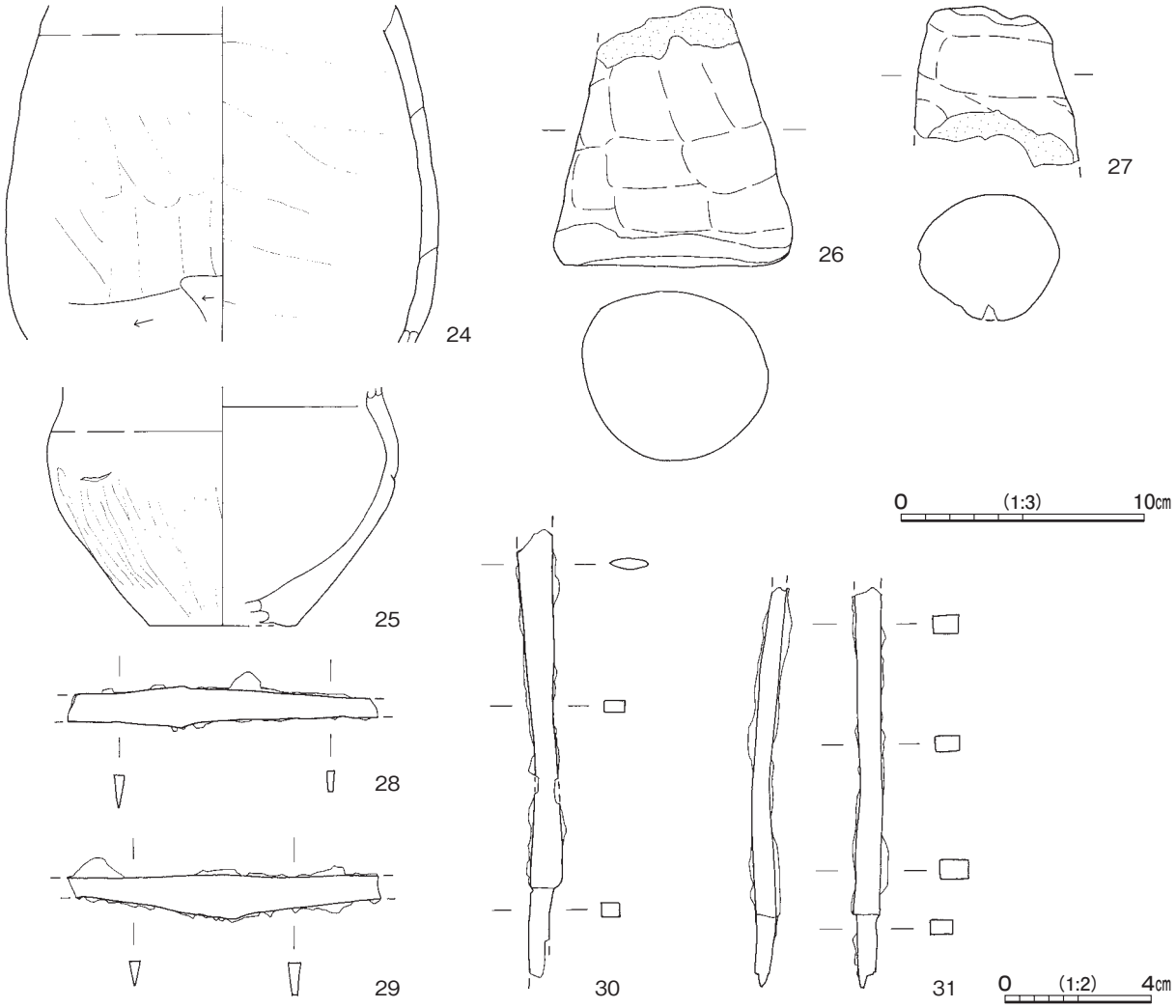
所見　時期は，出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。調査では第 110 号竪穴建物跡を掘り込んでいると捉えたが，出土する遺物では第 110 号竪穴建物跡が 10 世紀前葉であり，逆転する。第 110 号竪穴建物跡の確認面は本跡より上位であったこと，また重複している部分が狭く浅かったために，貼床等を捉えることができなかった可能性がある。本跡と第 110 号竪穴建物跡は，堆積状況での新旧関係は捉えられていないことも踏まえ，出土土器からの新旧関係の判断を優先したい。

表 153　第 103 号竪穴建物跡出土遺物観察表（1）（第 232 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[18.0]	5.8	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面粗いヘラ磨き　下半～底部ヘラ削り　内面ナデ	6区1ｘ	30% PL43
2	土師器	坏	[14.0]	(4.6)	−	長石・石英・赤色粒子・細礫	灰褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面放射状のヘラ磨き　内面に黒色処理。	1区上層	10%
3	土師器	坏	[13.2]	(4.4)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	1区上層	10%
4	土師器	坏	[15.6]	(4.7)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ　黒色処理	3区上層 3区1ｘ	20%



第 232 図　第 103 号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 233 図　第 103 号竪穴建物跡出土遺物実測図（２）

表 154　第 103 号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）（第 232・233 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
5	土師器	坏	［12.6］	4.0	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	５区下層竈 x	20%
6	土師器	坏	［12.0］	(3.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面ナデ　黒色処理	２区下層	30%
7	土師器	坏	［16.6］	(4.0)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　内面ナデ	３区床面	20%
8	土師器	坏	［13.4］	(4.2)	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面ナデ　黒色処理	６区下層	10%
9	土師器	坏	［14.6］	(3.9)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面ナデ　黒色処理	３区上層	20%
10	土師器	坏	［17.2］	(4.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面ナデ　黒色処理	２区上層	10%
11	土師器	坏	［15.8］	3.3	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　体部外面ヘラ削り　摩滅著しい　内面放射状の磨き	３区上層・床面	40%
12	土師器	坏	［11.9］	3.7	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ　黒色処理　体部外面ヘラ削り内面ナデ　黒色処理	１区下層	40%
13	須恵器	坏	［17.2］	4.8	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	底部多方向のヘラ削り　口縁部内面に沈線	４区床面 4区４ x	60%新治窯 PL43
14	須恵器	盤	－	(1.8)	［9.8］	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ	４区１ x	５%新治窯
15	須恵器	盤	－	(1.6)	［11.6］	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ	４区床面	５%新治窯
16	須恵器	盤	－	(0.8)	［10.6］	長石	黄灰	普通	ロクロナデ	６区２ x	５%非在地ヵ
17	土師器	高台付坏	14.4	6.5	8.9	長石・石英	橙	普通	内面ヘラ磨き　黒色処理　底部回転糸切り後高台貼付	４区上層 5区下層	60%新治窯 PL43
18	土師器	高台付坏	－	(2.4)	［10.2］	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　黒色処理	１区１ x	40%
19	須恵器	蓋	［15.8］	3.2	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り	１区下層 1区 2.3 x	70%新治窯 PL43
20	須恵器	高台付椀	－	(3.2)	［10.2］	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ	５区３ x	５%非在地ヵ
21	須恵器	円面硯	15.3	10.4	2.5 ～ 4.2	長石・石英	褐灰	普通	把手付中空円面硯　把手部の懸垂孔 0.5cm　水差し部孔 1.4cm　上面に自然釉	４区中層	95%新治窯ヵ PL43

表155　第103号竪穴建物跡出土遺物観察表（３）（第232･233図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
22	土師器	甕	［26.8］	（20.3）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	竈燃焼部	10%新治窯ヵ
23	土師器	甑ヵ	［25.7］	（13.9）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	竈前床面５区下層竈掘方	20%
24	土師器	甕	－	（13.2）	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面ヘラナデ　下端部ヘラ削り　内面ヘラナデ	竈前床面	20%
25	土師器	小型甕	－	（9.8）	［6.0］	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　外面ヘラ磨き　内面ヘラナデ	３区床面・上層	30%

番号	器　種	最小径	最大径	長さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
26	支脚	（5.9）	（9.8）	（10.6）	615.0	長石・石英・雲母	明赤褐	ナデ成形　頭部欠損	３区床面	
27	支脚	5.1	（6.6）	（6.6）	143.03	長石・細礫	にぶい赤褐	ナデ成形	掘方１区１ｘ	
32	支脚	－	－	（5.9）	68.03	長石	赤褐	２点あるが接合せず　いずれも表面の一部のみ確認　ナデ整形	３区１ｘ	観察表のみ
33	羽口	－	－	（4.4）	35.98	長石	橙	先端部に近い部分　表面のみ　鉄分付着	４区３ｘ	観察表のみ
34	羽口	－	－	（4.7）	31.76	長石・石英	橙	表面と中央孔を確認	５区２ｘ	観察表のみ
35	羽口	－	－	（3.2）	35.78	長石	褐灰	先端に近い部分　鉄分付着　２点あるが接合せず	６区１ｘ	観察表のみ
36	羽口	－	－	（2.6）	6.06	長石	橙	先端に近い部分　鉄分付着	６区２ｘ	観察表のみ
37	羽口	－	－	（2.9）	8.83	長石	橙	表面の一部のみ確認	６区４ｘ	観察表のみ

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
28	刀子	（8.5）	1.2	0.2 ～ 0.3	8.86	鉄	刀身部～茎部分　先端部欠損	３区下層	PL55
29	刀子	（8.5）	1.2	0.3	9.80	鉄	刀身部～茎部分　先端部欠損	２区上層	PL55
30	鉄鏃	（12.4）	1.1	0.3 ～ 0.4	20.24	鉄	鏃身部片刃形　断面平造　角関　茎部断面長方形	３区上層	PL55
31	鉄鏃	（11.0）	0.7	0.4 ～ 0.6	17.77	鉄	鏃身部断面長方形　先端部欠損　緩やかに彎曲　角関　茎部断面方形	１区上層	PL55

第106号竪穴建物跡（第234・235図　PL24）

位置　調査Ⅲ区中央部のＮ３b4区，標高22ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第108号竪穴建物跡を堀り込み，第501号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.10ｍ，短軸3.22ｍの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－90°－Ｗである。壁は高さ20～44cmで，外傾している。

床面　ほぼ平坦で，壁際を除く中央部が踏み固められている。西壁の一部，及び北東コーナー部，南東コーナー部を除き，壁溝が巡っている。

竈　西壁南寄りに付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，第15～18層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで95cmで，燃焼部幅は35cmである。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ，段を有して立ち上がっている。第３・10層が煙道部の堆積土，第９・12・13層が燃焼部の堆積土である。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。第14層が袖部の構築土で，粘土ブロックを多く含む暗褐色土を積み上げて構築されている。

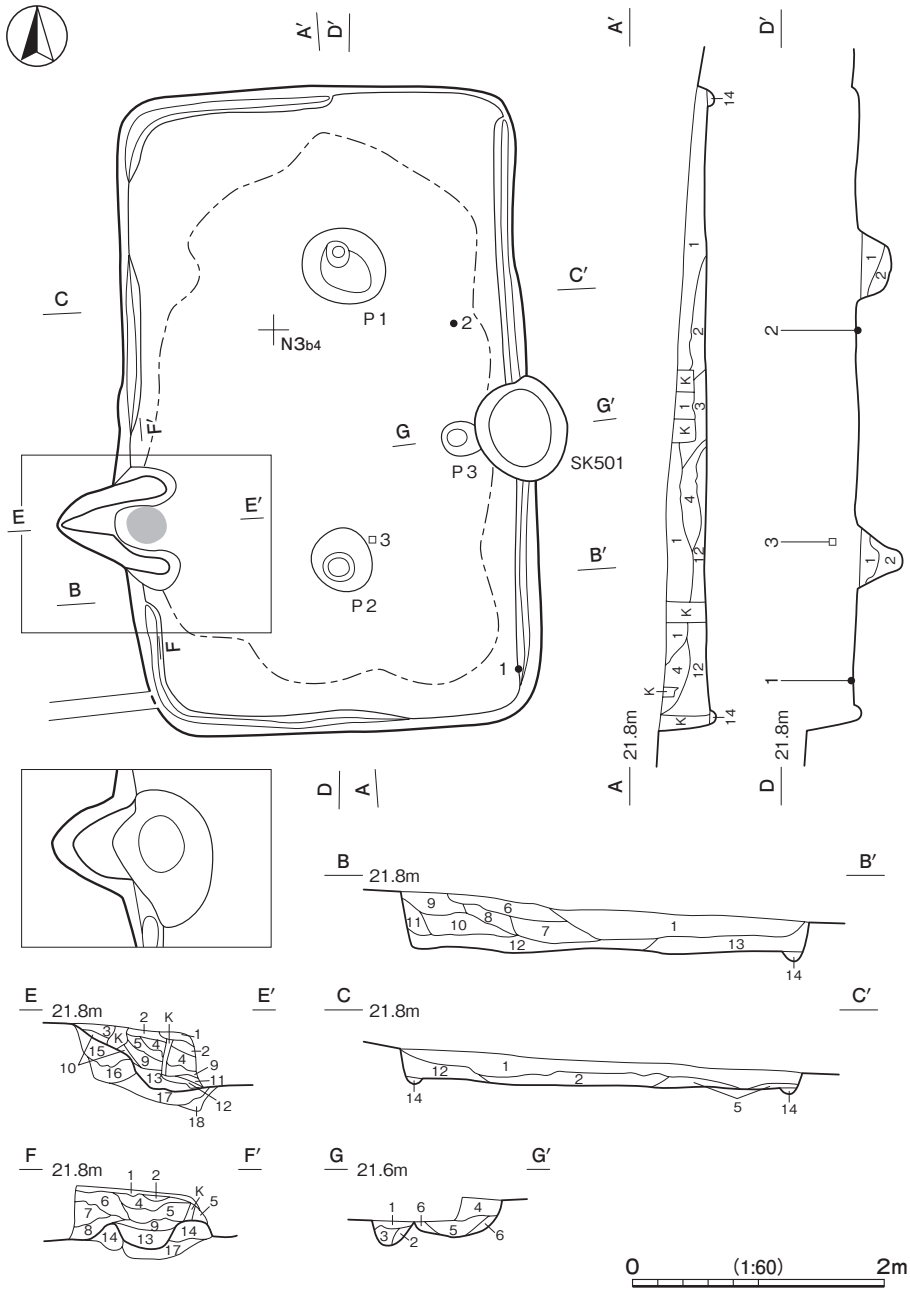
ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は28cm・38cmで，規模と配置から主柱穴である。Ｐ３は深さ20cmで，配置から出入口施設に伴うピットである。

覆土　14層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックを含む層が不整合に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片42点（坏３，甕類39），須恵器片６点（坏４，蓋２），石器１点（砥石），金属製品１点（小札），鍛冶関連遺物（椀状滓157.4ｇ，鉄塊系遺物24.9ｇ，鉄滓14.0ｇ）のほか，縄文土器片２点，土師質土器１点（小皿）が出土している。全体的に遺物は少なく，時期判断可能な土器も限られている。１は南東コーナー部の床面から，２は東壁際の床面から，それぞれ出土している。２は須恵器蓋の縁部を打ち欠いて研磨し

て整形しているもので，天井部は研磨されている。硯に転用されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉に比定できる。



土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック中量
2　暗　褐　色　ローム中ブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量
5　褐　　色　ロームブロック多量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量，粘土ブロック中量，焼土粒子微量
9　褐　　色　粘土ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子少量
10　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量
12　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ローム粒子多量，粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
14　褐　　色　ローム粒子多量

Ｐ１・Ｐ２土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量

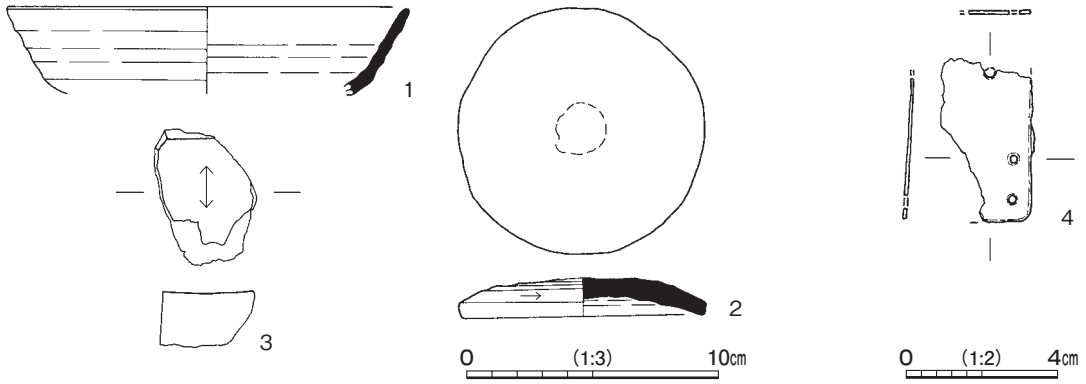
Ｐ３・ＳＫ 501 土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘土ブロック微量
2　褐　　色　粘土ブロック多量，焼土ブロック中量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粗砂微量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘土ブロック微量
9　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子中量
10　暗赤褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子少量
12　黒　褐　色　粘土ブロック・焼土粒子中量
13　暗赤褐色　焼土粒子少量，粘土ブロック微量
14　暗　褐　色　粘土ブロック多量，焼土粒子微量
15　黒　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
16　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量
17　褐　　色　ロームブロック中量
18　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量

第 234 図　第 106 号竪穴建物跡・第 501 号土坑実測図



第 235 図　第 106 号竪穴建物跡出土遺物実測図

表 156　第 106 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 235 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	須恵器	坏	［15.8］	(3.4)	－	長石・石英・雲母	暗灰	普通	ロクロナデ	２区床面	10%新治窯
2	須恵器	蓋	9.5	(1.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り　周縁を研磨し硯に転用　酸化焔焼成	１区床面	40%新治窯 PL43

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
3	砥石	(5.3)	(4.0)	2.2	64.43	凝灰岩	砥面頭部と表面の２面のみ残存	２区下層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
4	小札	(4.6)	(2.2)	0.2	5.10	鉄	３孔確認	２区 x	PL55

第 110 号竪穴建物跡（第 236 図）

位置　調査Ⅲ区東部のＮ４c1 区，標高 20.5 ｍの台地斜面部に位置している。

重複関係　第 99 号竪穴建物に掘り込まれている。第 103 号竪穴建物跡との新旧関係は捉えられなかった。

規模と形状　重複と撹乱のため，長軸 3.97 ｍで，短軸は 3.27 ｍしか確認できなかった。長方形と推定され，主軸方向はＮ－ 108 °－Ｗである。壁は高さ５～ 16cm で，外傾している。

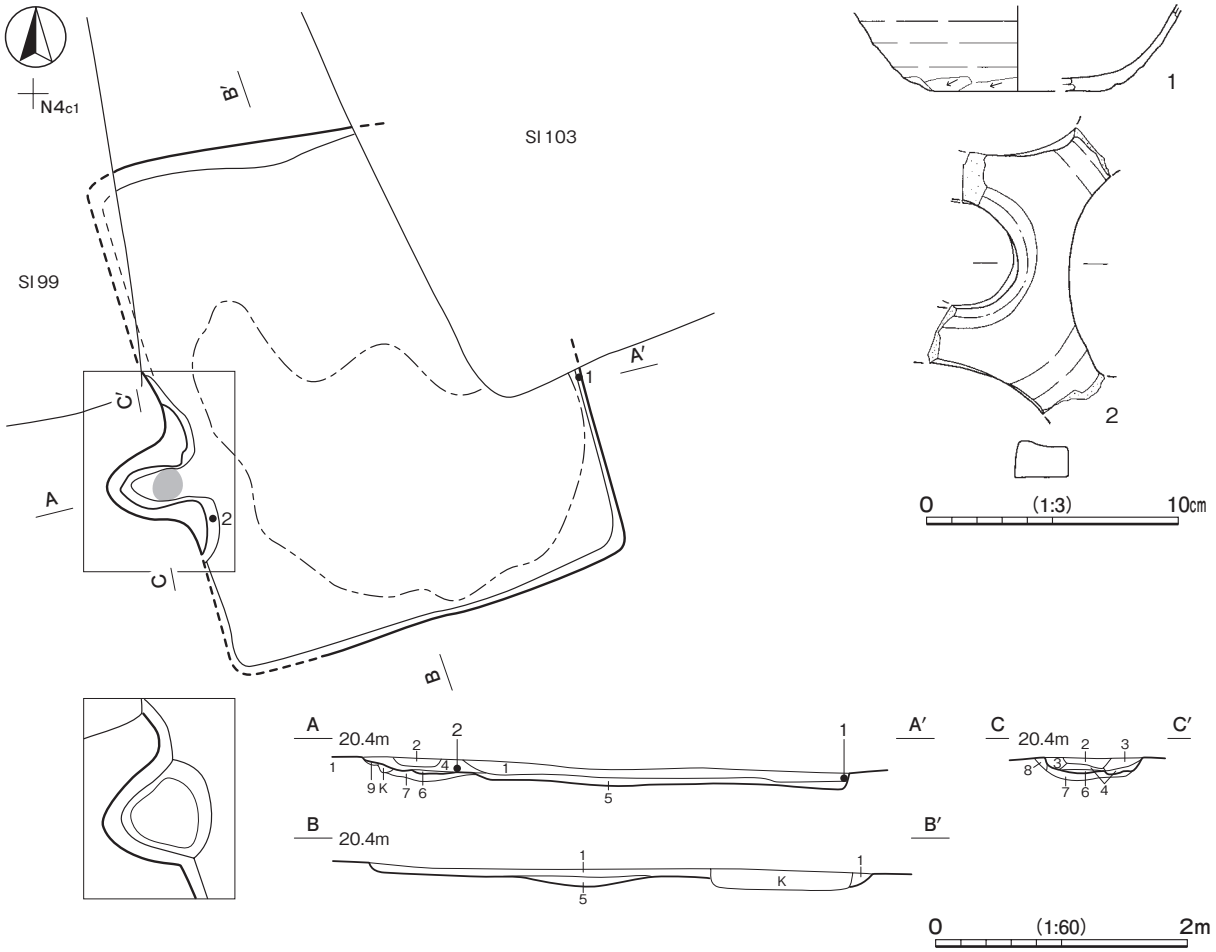
床面　ほぼ平坦で，竈前面から南半部が踏み固められている。

竈　西壁中央からやや南寄りに付設されている。付設部分を楕円形に掘り込み，第７～９層を埋土して構築されている。規模は焚口部から煙道部まで 90cm で，燃焼部幅は 30cm である。煙道部は壁外に 70cm ほど掘り込まれ，緩やかに外傾している。第２～４・６層が竈に関連する堆積土で，第６層が燃焼部の堆積土である。火床面は床面とほぼ同じ高さで，赤変している。第３層が袖部の構築土で，粘土主体の灰黄褐色土を積みあげて構築されている。

覆土　２層に分層できる。ロームブロック等を含まない黒褐色土が，水平に堆積している状況から，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 44 点（坏 12，高台付坏１，甕・甑類 31），須恵器片２点（坏），鍛冶関連遺物（羽口１，鉄滓 6.4 ｇ），焼成粘土塊 9.8 ｇが出土している。遺物は全体的に少なく，時期判断可能な破片も限られている。１は東壁際の覆土上層から，２は竈の左袖部前の床面から出土している。

所見　調査では第 103 号竪穴建物に掘り込まれていると捉えたが，本跡の確認面は第 103 号竪穴建物跡より上位であったこと，また重複している部分が狭く浅かったために，貼床等を捉えることができなかった可能性がある。本跡と第 110 号竪穴建物跡は，堆積状況での新旧関係は捉えられていないことも踏まえ，出土土器から 10 世紀前葉としたい。



土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 焼土ブロック多量，炭化粒子微量
3 灰 黄 褐 色 粘土ブロック多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子微量
5 黒 褐 色 粘土ブロック少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
6 暗 褐 色 焼土粒子多量，炭化粒子中量
7 暗 褐 色 焼土粒子少量
8 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗 褐 色 焼土粒子多量

第 236 図 第 110 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

表 157 第 110 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 236 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坏	－	(3.3)	[6.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	3区x	40%
2	土師器	甑	－	(1.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	5孔式	左袖部前面	5%

表 158 奈良・平安時代の竪穴建物跡一覧表（1）

番号	位 置	主軸方向	平面形	規 模 長軸×短軸 (m)	壁 高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	時 期	備 考 (旧→新)
7	O3d9	N－11°－E	方 形	3.10 × 3.10	－	平坦	－	－	－	1	北壁	－	－	9世紀中～後葉	本跡→SK144·164
8	O4g7	N－1°－E	隅丸長方形	4.02 × 3.12	18～38	平坦	全周	－	1	6	北壁	－	自然	8世紀前葉	
10	N4j7	N－6°－E	長方形	3.72 × 3.23	15～33	平坦	ほぼ全周	－	1	1	北壁	－	自然	8世紀前葉	本跡→SK47·48·55·62
13	O4g3	N－3°－E	方 形	6.75 × 6.37	12～23	平坦	全周	4	2	2	北壁	1	人為	8世紀前葉	SK128·193→本跡
14A	O4d3	N－8°－E	隅丸方形	7.54 × 6.90	17～25	平坦	一部	7	2	16	北壁	－	自然	8世紀後葉	SI15·SK141·142·184·204→本跡 SK226重複
14B	O4d3	N－3°－E	隅丸方形	7.15 × 6.05	－	平坦	一部				北壁	－			
15	O4e4	N－3°－E	隅丸方形	5.13 × 4.93	18～28	平坦	全周	4	1	5	北壁	－	自然	7世紀後葉～8世紀前葉	本跡→SI14 SK226重複

表 159　奈良・平安時代の竪穴建物跡一覧表（２）

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	時期	備考 (旧→新)
16	O４f2	N－12°－E	[方形]	3.88 ×(3.30)	10	平坦	－	－	－	1	北壁	－	－	８世紀代	SK198～202→本跡→SK138･139
17	N３h1	N－ 1°－E	方　形	3.19 × 3.05	19	平坦	－	－	－	－	北壁	－	自然	９世紀代	SI35→本跡
18	O３g7	N－ 1°－E	隅丸方形	4.78 × 4.67	16～32	平坦	全周	4	1	－	北壁	－	人為	８世紀前葉	
19	O３d5	N－ 2°－E	長方形	5.35 × 4.27	8	平坦	－	－	－	－	北壁	－	－	８世紀代	
21	O３h8	N－ 3°－W	隅丸方形	4.58 × 4.48	12～31	平坦	全周	4	－	1	北壁	－	自然	７世紀後葉～８世紀前葉	本跡→SB６･12
22	N３f3	N－ 1°－E	方　形	4.80 × 4.62	29～43	平坦	全周	4	1	3	北壁	－	自然	８世紀中葉	SK222→本跡　SK223重複新旧不明
23	N３g1	N－ 1°－W	[方形]	(4.85)× 4.62	46～52	平坦	全周	4	1	－	北壁	1	自然	８世紀後葉	
24	O４i2	N－ 3°－E	隅丸方形	5.22 × 5.00	21～55	平坦	全周	9	2	12	北壁	－	自然	９世紀中葉	拡張建物　SI74, SK354→本跡→SF6
25	N２g9	N－ 4°－W	長方形	4.72 × 4.34	48	平坦	全周	5	1	－	北壁	－	自然	９世紀前葉	SK232→本跡
26	O３h5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	竈	－	自然	９世紀中葉	SI20→本跡
27	O３h3	N－ 2°－E	[隅丸長方形]	3.93 ×(2.27)	32～42	平坦	一部	1	－	1	北壁	－	自然	８世紀中葉	SI42→本跡→SI28
28	O３i2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	竈	－	－	９世紀中葉	SI42→本跡　SI27→本跡
29	O２h0	N－ 1°－W	[隅丸長方形]	3.62 ×(3.30)	28～44	平坦	一部	－	－	－	北壁	－	自然	９世紀中葉	SI42→本跡→SD29
30	N２e9	N－ 5°－W	方　形	4.28 × 3.95	37～65	平坦	ほぼ全周	3	1	－	北壁	－	人為	８世紀後葉	
31	O２b0	N－ 8°－W	方　形	3.03 × 2.92	30～43	平坦	ほぼ全周	－	－	1	北壁	－	自然	８世紀中葉	SI45→本跡
32	N３j2	N－ 2°－W	方　形	4.38 × 4.35	15～22	平坦	－	4	1	－	北壁	－	自然	８世紀前葉	
37	N２h7	N－86°－E	隅丸方形	4.57 × 4.50	30～46	平坦	半周	4	1	1	東壁	－	自然	８世紀前葉	SI36･38→本跡→SI39
39	N２f7	N－ 4°－W	[隅丸方形]	(5.38)× 5.25	8～45	平坦	一部	4	1	－	北壁	－	人為	８世紀中葉	SI37･38→本跡→SI40
40	N２e6	N－12°－W	[長方形]	4.32 ×(3.34)	42～52	平坦	－	2	1	1	北壁	－	自然	９世紀中葉	SI39･93, SK499→本跡
41	O３g2	N－15°－E	方　形	5.95 × 5.82	49～60	平坦	ほぼ全周	4	1	2	北壁	－	自然	８世紀中葉	SI42･47･49→本跡
43	O２f0	N－16°－E	隅丸方形	4.82 × 4.72	29～47	平坦	全周	4	1	－	北壁	－	人為	８世紀後葉	SI47→本跡→SD28･29
44	O３d2	N－ 5°－E	長方形	6.70 × 6.12	46～55	平坦	一部	4	2	1	北壁	－	自然	８世紀後葉	SI45･47→本跡→SK235
47	O３e1	N－ 3°－E	隅丸方形	5.62 × 5.53	72	平坦	全周	4	1	－	北壁	－	人為	８世紀前葉	SK240･241→本跡→SI41･43･44
48	N３i5	N－13°－E	[長方形]	4.95 ×[4.22]	8	平坦	－	－	－	－	北壁	－	－	９世紀後葉	
51	O２e9	N－12°－W	隅丸長方形	3.68 × 3.28	50	平坦	全周	－	－	－	北壁	－	自然	８世紀中葉ヵ	
52	Q４a2	N－11°－E	隅丸方形	3.22 × 3.10	10～16	平坦	－	4	1	－	北壁	－	人為	９世紀後葉	
56	P４i7	N－17°－E	隅丸方形	3.06 × 3.05	14～18	平坦	全周	－	2	－	北壁	－	自然	８世紀中葉	本跡→SK265･273, SA8
61	P３e0	N－10°－E	[隅丸長方形]	(4.86)× 4.84	7～32	平坦	一部	4	2	4	北壁	－	人為	９世紀中葉	本跡→SK287･291･298, SD36
62	P４e4	N－ 7°－W	隅丸方形	4.40 × 4.38	23～63	平坦	半周	4	1	1	北壁	－	人為	８世紀前葉	
65	P４g6	N－11°－E	不整方形	3.63 × 3.61	12～26	平坦	一部	－	－	－	－	－	自然	８世紀前葉	SI66→本跡
71	P３b0	N－ 2°－E	隅丸方形	5.63 × 5.48	8～15	平坦	全周	4	1	1	北壁	－	自然	８世紀後葉	本跡→SB14･15
73	P４a2	N－ 4°－E	隅丸方形	4.88 × 4.47	22	平坦	全周	4	1	4	北壁	－	自然	９世紀前葉	SI72, SK357→本跡→SD39
74	O３j0	N－ 4°－E	方　形	6.32 × 6.08	18～32	平坦	全周	6	1	12	北壁	－	人為	９世紀前葉	SK380･381→本跡→SI24,SD39, SF6
75	O４j6	N－ 1°－E	方　形	5.18 × 5.08	27	平坦	半周	4	1	－	北壁	－	自然	９世紀後葉	本跡→SF6
76	O４j3	N－ 3°－W	[方形]	4.80 ×[4.50]	5～8	平坦	一部	2	1	3	北壁	－	－	９世紀中葉	本跡→SK351,SF6
83	P４f0	N－ 2°－W	A[隅丸方形]	[6.01 × 5.94]	42	平坦	ほぼ全周	4	1	18	北壁	－	人為	７世紀後葉～８世紀前葉	SI80･82→本跡→SK471･473･474･478, SD39･43　SK472･475～477･479･480重複新旧不明
			B隅丸方形	4.82 × 4.57	38	平坦	ほぼ全周	4	1	2	北壁	－			
87	N３b2	N－ 5°－W	方　形	3.93 × 3.58	18	平坦	半周	－	－	2	北壁	－	人為	９世紀前葉～中葉	
88	M３j1	N－ 8°－W	方　形	4.76 × 4.71	6～16	平坦	全周	4	1	1	北壁	－	自然	８世紀中葉	SI104→本跡
89	M３i3	N－ 8°－W	方　形	3.96 × 3.93	13～23	平坦	半周	4	1	1	北壁	－	人為	９世紀前葉	本跡→SX９
90	N２c8	N－ 1°－W	方　形	3.75 × 3.65	25～30	平坦	一部	－	1	－	北壁	－	人為	９世紀中葉	SI95, SK420→本跡
91	N２c6	N－ 4°－E	[隅丸方形]	4.03 ×(1.43)	24	平坦	－	－	－	－	北･東壁	－	人為	９世紀中葉	
92	N２a8	N－17°－W	長方形	4.18 × 3.75	23～35	平坦	ほぼ全周	－	－	－	北壁	－	人為	８世紀中葉	
93	N３e7	N－ 3°－W	隅丸方形	(3.12)× 3.06	26～42	平坦	－	－	－	1	北壁	－	－	８世紀前葉	本跡→SI40
94	N３d5	N－ 5°－W	方　形	4.06 × 3.97	20～30	平坦	半周	4	－	－	北壁	－	自然	９世紀前葉	
95	N２d7	N－ 9°－W	方　形	4.93 × 4.84	25～47	平坦	半周	4	1	－	北壁	－	人為	９世紀前葉	本跡→SI90
96	M３j8	N－ 2°－W	方　形	3.64 × 3.35	5～17	平坦	－	4	1	－	北壁	－	人為	10世紀前葉	焼失建物
97	M３i9	N－11°－W	方　形	3.48 × 3.25	12～22	平坦	－	－	1	1	北壁	1	自然	８世紀前葉	
98	N２a0	N－17°－W	隅丸方形	6.15 × 6.09	5～36	平坦	全周	4	1	11	北壁	－	自然	８世紀前葉	
99	N３c0	N－ 7°－W	方　形	4.34 × 4.32	28～38	平坦	ほぼ全周	3	1	－	北壁	－	自然	10世紀前葉以降	SI110→本跡→SK468
100	N３a5	N－ 8°－E	[方形]	[3.50 × 3.50]	－	平坦	－	－	－	－	北壁ヵ	－	－	10世紀前葉	SI101→本跡
101	N３a5	N－19°－W	方　形	5.84 × 5.56	15～30	平坦	ほぼ全周	6	2	－	北壁	－	人為	７世紀後葉～８世紀前葉	本跡→SI100　PG9-P20重複新旧不明
102	M４h1	N－10°－W	方　形	4.92 × 4.83	23	平坦	－	－	－	－	北壁	－	自然	９世紀中葉	蛇紋岩製の腰帯具出土
103	N４b2	N－26°－W	隅丸方形	6.24 × 6.13	37～56	平坦	ほぼ全周	6	1	－	北壁	－	人為	８世紀前葉	本跡→SI110　把手付中空円面硯出土
106	N３b4	N－90°－W	隅丸長方形	5.10 × 3.22	20～44	平坦	ほぼ全周	2	1	－	西壁	－	人為	８世紀前葉	SI108→本跡→SK501
110	N４c1	N－108°－W	[長方形]	3.97 ×(3.27)	5～16	平坦	－	－	－	－	西壁	－	自然	10世紀前葉	SI103→本跡→SI99

印　刷　仕　様

編　　集	ＯＳ	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC 2020
	図版作成	Adobe Illustrator CC 2020
	写真調整	Adobe Photoshop CC 2020
	Scanning	EPSON DS－G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L－KL，太ゴB101 Pro Bold
		中ゴシックBBB Pro Medium
写　　真	線数	カラー210線以上
印　　刷	印刷所へは，Adobe InDesign CC 2020でデータ入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第454集

つくば市

島 名 本 田 遺 跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩⅦ
上巻

令和３（2021）年　１月29日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　株式会社あけぼの印刷社
〒310－0804　水戸市白梅１丁目２番11号
TEL　029－227－5505